本書の使い方

本書の使い方

本書では、**Part1** 以降、リボンのタブ別に、各コマンドの説明を行っています。

リボンメニューからのコマンドの起動方法

座標管理－[入出力]－[SIMA/CSV 入力]

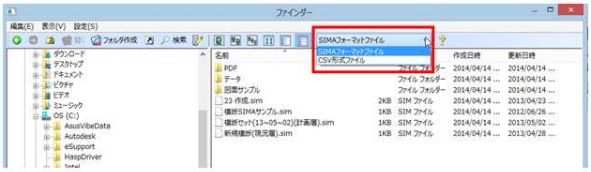
SIMA 形式や CSV 形式のデータを読み込む

アイコン

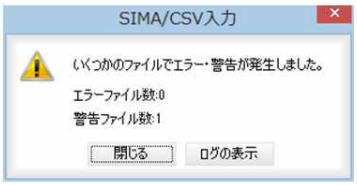
SIMA 形式や CSV 形式の座標データを読み込みます。
SIMA 形式と CSV 形式では操作方法が異なります。

● SIMA 形式ファイルの読み込み

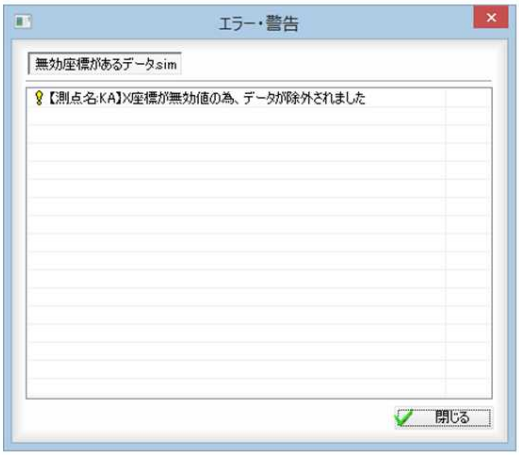
1 座標管理メニューで[入出力]－[SIMA/CSV 入力]をクリックすると、「ファインダー」ダイアログボックスが表示されます。
[表示ファイルタイプ]のドロップダウンリストから[SIMA フォーマットファイル]を選択します。



2 SIMA 形式ファイルを選択し、[開く]をクリックすると、無効な座標値の測点データが存在する場合、以下のメッセージが表示されます。



[ログの表示]をクリックすると、「エラー・警告」ダイアログボックスが表示され、エラーの内容が表示されます。



SiTECH 3D 操作説明書　目次

本書の使い方

SiTECH 3D の基本操作

1. 起動から終了まで

起動方法 ・・・ 11
終了方法 ・・・ 12

2. 「起動」ダイアログボックスの各機能

「起動」ダイアログボックスについて ・・・ 13
新規作成 ・・・ 13
ファイルオープン ・・・ 15
最近使用したドキュメント ・・・ 18
SiTECH 3D を活用いただくための動画コンテンツ ・・・ 19

3. システム画面の構成とメニュー操作

システム画面の構成 ・・・ 20
アプリケーションメニュー ・・・ 21
テーマメニュー ・・・ 21
クイックアクセスツールバー ・・・ 22
全自動抽出 ・・・ 23
タイトルバー ・・・ 23
リボンメニュー ・・・ 23
ツリー表示内のポップアップメニュー ・・・ 24
参照図面、プレビュー内のポップアップメニュー ・・・ 25
スプリッターの操作 ・・・ 28
ウィンドウ操作 ・・・ 29

4. アプリケーションメニュー

アプリケーションメニューの構成 ・・・ 33
新規作成 ・・・ 34
開く ・・・ 34
追加読込み ・・・ 35
上書き保存 ・・・ 39
名前を付けて保存 ・・・ 39
基本 XML ファイル出力 ・・・ 40
LandXML 出力 ・・・ 49
快測ナビデータパッケージ出力 ・・・ 58
快測 AR 出力 ・・・ 69
INNOSiTE ファイル出力 ・・・ 73
TOPCON TP3 出力 ・・・ 78
その他ファイル出力 ・・・ 85
3D ビューファイル出力 ・・・ 91
SiTECH 3D Studio ・・・ 97
ファイルビューア出力 ・・・ 98

5. データウィンドウ

各メニューのデータウィンドウ ・・・ 100

6. 参照図面ウィンドウ

参照図面ウィンドウの構成 ・・・ 102
参照図面を開く ・・・ 103
A 納図の図面を開く ・・・ 112
図面属性設定 ・・・ 116
図面を閉じる ・・・ 120

閲覧ウィンドウ · · · 121
図面ファイルに保存する · · · 123
PDF ファイルに保存する · · · 125
GoogleEarth ファイルに出力する · · · 126
表示を切り替える · · · 128
ベース図連動 · · · 131
レイヤ分割表示 · · · 131
シート処理（＋カレントシート、自動回転） · · · 134
縮尺自動設定 · · · 137
背景色設定 · · · 143
選択モード · · · 143
スナップモード · · · 144
図面編集 · · · 145
ガイド · · · 146
計測 · · · 150
文字検索 · · · 159
レイヤ表示設定 · · · 160
要素表示切替 · · · 161
照査完了記号 · · · 162
要素削除 · · · 165
折線分断 · · · 166
図面クリーナー · · · 168
簡易引出線 · · · 169
参照図面の切り替え · · · 173
図面複製・図面名称 · · · 174
ポップアップメニュー · · · 175

7．プレビューウィンドウ

プレビューウィンドウの構成 · · · 176
平面図プレビュー · · · 177
縦断図プレビュー · · · 181
横断図プレビュー · · · 184
３Dビュー · · · 199

8．図面編集

図面編集 · · · 219

9．ツール

丸め設定 · · · 221
システム設定 · · · 222
測点名形式（座標管理メニューのみ） · · · 224
土木計算 · · · 225
ウィンドウ · · · 232

10．ヘルプメニュー

ヘルプウィンドウの各種ボタン · · · 233
ヘルプ · · · 234
よくあるご質問 · · · 234
リモートサポート · · · 234
バージョン情報 · · · 235
マイページ · · · 235
認証管理 · · · 235
自動アップデート · · · 236

Part1　座標管理メニュー

1．座標入出力

座標一覧キー入力 · · · 240
自動抽出 · · · 242

線形座標（半自動抽出） 243
座標一覧（半自動抽出） 245
手動抽出 247
SIMA/CSV 入力 250
SIMA/CSV 出力 254

2．コマンド

属性自動設定 256
座標確認 257
座標照査 258
寸法照査 260

3．並べ替え

並べ替え 261

4．属性表示

属性表示 263

Part2　平面メニュー

1．路線情報

路線設定 265
平面線形の選択・編集 269

2．線形計算データ入力

キーボードから入力 274
自動（自動抽出） 281
平面線形（半自動抽出） 282
線形パラメータ（半自動抽出） 284
平面プレビュー（手動抽出） 285
文字（手動抽出） 287
座標（手動抽出） 288

3．コマンド

計算実行 289
計算結果表示 290
座標登録 291
要素表示 292
任意点追加 293
ブレーキ設定 294
線形確認 295
幅杭点 296
平面照査 299
寸法照査 301

Part3　縦断メニュー

1．路線情報

縦断線形新規作成 303
平面線形確認 305
縦断線形選択・編集 306

2．縦断データ入力

データウィンドウの構成 309
縦断変化点キー入力 310
自動（自動抽出） 312
縦断線形（半自動抽出） 313
勾配・拡幅（半自動抽出） 314
測点（半自動抽出） 317

文字（手動抽出） ・・・・・ 319

3．縦断計算結果の表示

計算結果（中間点）・計算結果（勾配／幅員） ・・・・・ 320
標高登録 ・・・・・ 322
計算高確認 ・・・・・ 323
勾配・拡幅確認、勾配・拡幅確認設定 ・・・・・ 325
縦断照査 ・・・・・ 327
寸法照査 ・・・・・ 329
現況取込（横断現況取込・測点取込・図面取込） ・・・・・ 330

4．SIMA

SIMA 入力（縦断現況のデータを入力する） ・・・・・ 334
SIMA 出力（縦断現況のデータを出力する） ・・・・・ 335

5．図面

縦断図作成 ・・・・・ 336

Part4 縦断図作成

1．「縦断図作成」の基本操作

起動と終了 ・・・・・ 339
「縦断図作成」ウィンドウの画面構成 ・・・・・ 340
閉じるメニュー ・・・・・ 346

2．縦断図設定ウィンドウ

用紙／縮尺 ・・・・・ 347
装飾（線種、文字種等） ・・・・・ 352
帯 ・・・・・ 358
配置 ・・・・・ 362

3．縦断図情報

縦断図データ選択・新規作成・編集 ・・・・・ 363

4．作図設定

設定インポート ・・・・・ 367
設定エクスポート ・・・・・ 368

5．図面保存

図面保存 ・・・・・ 369
PDF 保存 ・・・・・ 370
保存設定 ・・・・・ 371

6．ツール

表題欄テンプレート ・・・・・ 372

Part5 横断メニュー

1．横断情報

横断データ更新の確認 ・・・・・ 380
横断セット・測点新規作成 ・・・・・ 381
横断セット選択・編集 ・・・・・ 393
測点選択・編集 ・・・・・ 395
測点切り替え ・・・・・ 405

2．構築形状

計画層・現況層新規作成 ・・・・・ 406
計画層選択・編集 ・・・・・ 412
現況層選択・編集 ・・・・・ 426

３．横断データ入出力

データウィンドウの構成 ・・・ 429
キーボードから入力 ・・・ 431
自動（自動抽出） ・・・ 433
計画追尾（半自動抽出） ・・・ 435
現況追尾（半自動抽出） ・・・ 441
文字（手動抽出） ・・・ 446
SIMA 入力 ・・・ 447
SIMA 出力 ・・・ 450

４．コマンド

ベース図の配置・解除 ・・・ 452
形状編集（参照図面、プレビュー） ・・・ 462
形状編集（形状セット移動） ・・・ 467
形状編集（離れ・比高一括設定） ・・・ 468
形状複写 ・・・ 471
折れ点前後断面作成 ・・・ 479
形状作図 ・・・ 482
確認（形状確認、横断構成点確認） ・・・ 485
照査（形状照査、寸法照査、ボリューム照査） ・・・ 487
TS 出来形設定 ・・・ 491
土量計算 ・・・ 495
転圧管理 ・・・ 496

５．計画伸縮

計画伸縮（Surface） ・・・ 498
計画伸縮（現況断面） ・・・ 504

６．図面

横断図作成 ・・・ 508

Part6 横断図作成

１．「横断図作成」の基本操作

起動と終了 ・・・ 511
「横断図作成」ウィンドウの画面構成 ・・・ 512
閉じるメニュー ・・・ 518

２．横断図設定ウィンドウ

用紙／縮尺 ・・・ 519
装飾（線種、文字種等） ・・・ 523
出力要素 ・・・ 529
配置 ・・・ 530

３．横断図情報

横断図データ選択・新規作成・編集 ・・・ 532

４．作図設定

設定インポート ・・・ 535
設定エクスポート ・・・ 536

５．図面保存

図面保存 ・・・ 537
PDF 保存 ・・・ 537
保存設定 ・・・ 537

６．ツール

表題欄テンプレート ・・・ 538

7．寸法

寸法入力 ････････････････････････････････････ 539
寸法編集 ････････････････････････････････････ 541
寸法変更 ････････････････････････････････････ 542
勾配追加 ････････････････････････････････････ 543
引出追加 ････････････････････････････････････ 544
削除・全削除 ････････････････････････････････ 545

8．数量表

配置 ･･ 547
移動 ･･ 550
編集 ･･ 551
削除 ･･ 552

Part7　TS 出来形設定

1．「TS 出来形設定」の基本操作

起動と終了 ･･････････････････････････････････ 554
「TS 出来形設定」ウィンドウの画面構成 ････････ 556
表示メニュー ････････････････････････････････ 561
閉じるメニュー ･･････････････････････････････ 565

2．測点（構成点接続タブ）

管理断面設定 ････････････････････････････････ 566
開始測点、終了測点の選択 ････････････････････ 567

3．工種設定 （構成点接続タブ）

編集 ･･ 568

4．構成点接続（構成点接続タブ）

接続 ･･ 570
解除 ･･ 573
確認 ･･ 574
詳細編集 ････････････････････････････････････ 576
初期化 ･･････････････････････････････････････ 577

5．ツール（構成点接続タブ）

構成点追加（距離指定） ･･････････････････････ 578

6．測点（出来形管理タブ）

管理断面設定 ････････････････････････････････ 580
測点選択 ････････････････････････････････････ 581

7．管理（出来形管理タブ）

初期化 ･･････････････････････････････････････ 583
一括複写 ････････････････････････････････････ 584
交点変更 ････････････････････････････････････ 585

8．種別（出来形管理タブ）

設定 ･･ 586

9．管理箇所（出来形管理タブ）

基準高 ･･････････････････････････････････････ 589
幅 ･･ 590
法長 ･･ 591
深さ（「国土交通省 Ver4.0/4.1」、「農林水産省 Ver 1.0」のみ） ････････ 592
厚さ（「国土交通省 Ver4.0/4.1」、「農林水産省 Ver 1.0」のみ） ････････ 593
延長（「国土交通省 Ver4.0/4.1」、「農林水産省 Ver 1.0」のみ） ････････ 594
解除 ･･ 595

全解除 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 595
寸法長 一定 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 596
記号設定（「国土交通省 Ver4.0/4.1」、「農林水産省 Ver 1.0」のみ） ・・・・・・・・・・・・ 597
チェック ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 598

10. 種別（3D 施工データー管理タブ）

設定 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 599

11. 管理（3D 施工データー管理タブ）

一括複写 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 601

Part8 土量計算

1. 「土量計算」の基本操作

土量データの新規作成 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 603
「土量計算」ウィンドウの画面構成 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 606
閉じるメニュー ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 611

2. 横断測点

土量の選択・編集 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 612
測点切り替え ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 615

3. 構築形状

計画層選択 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 617
現況層選択 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 618

4. 土工区分線

追加 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 620
削除 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 624
表示設定 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 626

5. 土量

追加 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 627
編集 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 630
変更 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 630
削除 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 631
確認 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 631

6. 法長

追加 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 633
編集 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 636
変更 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 636
削除 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 637
確認 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 637

7. 土工数量一覧

土工数量一覧 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 639

8. 作図

形状作図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 641
表配置 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 645

9. 表示

ベース図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 655
表示設定 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 656
ウィンドウの切り替え ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 657

Part9　転圧管理

1．「転圧管理」の基本操作

転圧管理(作成)の起動 ・・・ 660
「転圧管理(作成)」ウィンドウの画面構成 ・・・ 661
転圧管理(編集)の起動 ・・・ 666
「転圧管理(編集)」ウィンドウの画面構成 ・・・ 667
閉じるメニュー ・・・ 671

2．表示[転圧管理(作成)]

ベース図の表示 ・・・ 672

3．横断測点・構築形状[転圧管理(編集)]

測点切り替え ・・・ 674
計画層の選択 ・・・ 675
現況層の選択 ・・・ 675

4．コマンド[転圧管理(編集)]

端部伸縮 ・・・ 676
構成点データクリア ・・・ 677
横断構成点確認 ・・・ 678

5．出力[転圧管理(編集)]

LandXML 出力 ・・・ 679
座標出力 ・・・ 680

6．ツール[転圧管理(編集)]

ベース図 ・・・ 683
表示設定 ・・・ 684
ウィンドウ ・・・ 685

資料編

丸め適用仕様 ・・・ 688
メニュー・インデックス ・・・ 690

SiTECH 3Dの基本操作

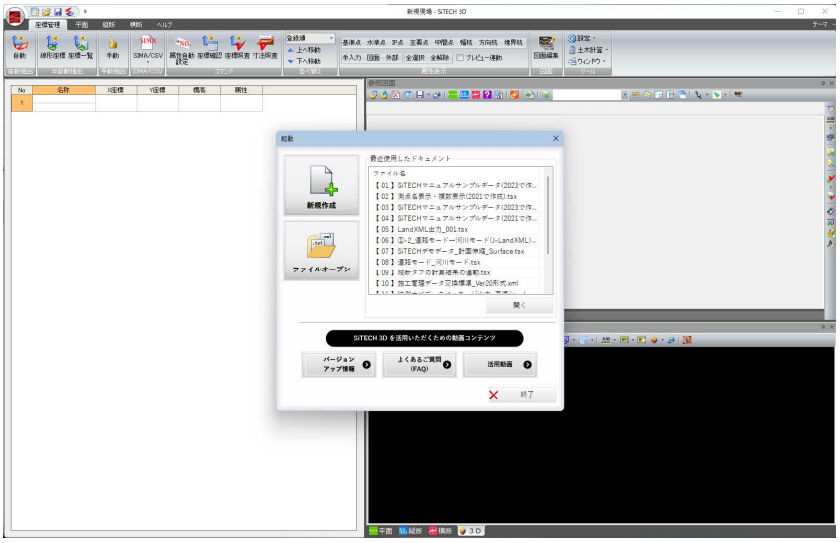
1 起動から終了まで

本システムの起動方法および、起動直後の各種設定、終了方法について説明します。

起動方法

1 [スタート]をクリックし、続いて、[すべてのプログラム]－[INNOSiTE]－[SiTECH 3D 2025]をクリックします。または、デスクトップ上のアイコンをダブルクリックします。

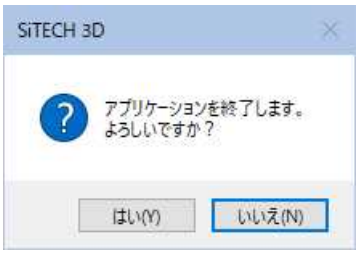
2 システムが起動します。起動直後は、必ず「起動」ダイアログボックスが表示されます。



「新規作成」、「ファイルオープン」のいずれかをクリックします。それぞれの処理に移行します。

「最近使用したドキュメント」一覧内のファイルをダブルクリックまたはファイルを選択して[開く]をクリックすると、選択したファイルが開きます。
最大 16 ファイル表示されます。
アプリケーション起動時、「最近使用したドキュメント」の情報が空の場合、前バージョンから情報を取得し、表示します。

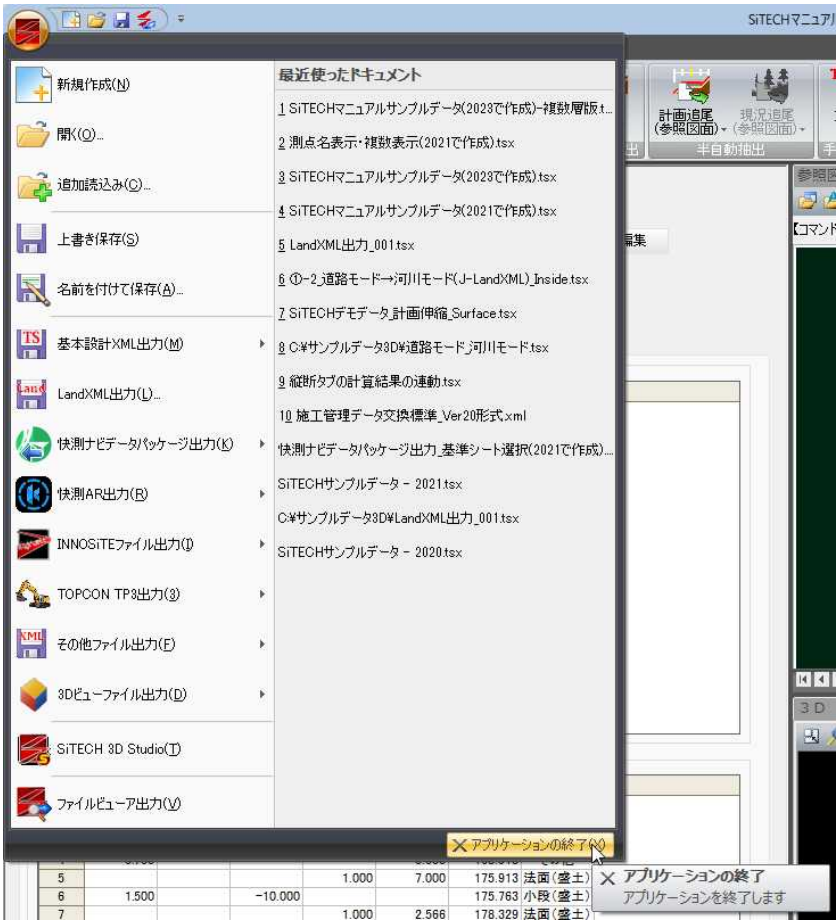
[終了]をクリックすると、以下のメッセージが表示されます。



[はい]をクリックすると、アプリケーションを終了します。
[いいえ]をクリックすると、「起動」ダイアログボックスに戻ります。

終了方法

1 各種の処理を行った後に、本システムを終了する場合は、アプリケーションボタンをクリックし、アプリケーションメニューより[アプリケーションの終了]をクリックします。



2 システムが終了します。

2 「起動」ダイアログボックスの各機能

「起動」ダイアログボックスについて

1 本システムを起動すると、「起動」ダイアログボックスが表示されます。

新規現場を作成するか、ファイルを開くかのいずれかの処理を実行します。
最近使用したドキュメントの一覧には、最大 16 ファイル表示されます。

2 [終了]をクリックすると、アプリケーション終了の確認メッセージが表示されます。

以下、「起動」ダイアログボックス内の各機能について説明します。

新規作成

新規現場を作成します。ウィザード形式で参照図面を開くことができます。

1 「起動」ダイアログボックスで[新規作成]をクリックすると、「新規現場作成」ダイアログボックスが表示されます。

・「図面属性設定」ダイアログボックスの各種操作については、『参照図面ウィンドウ』の操作方法で解説しています。

・「A 納図の図面を開く」ダイアログボックスの各種操作については、『参照図面ウィンドウ』の操作方法で解説しています。
・ A 納図の図面を開くにはデキスパート基本部と A 納図がインストールされている必要があります。

作業開始

参照図面やＡ納図の図面を開かずに新規現場の作成を開始する場合は、[作業開始]ボタンをクリックします。本システムの作業画面(「システム画面」)に移行します。

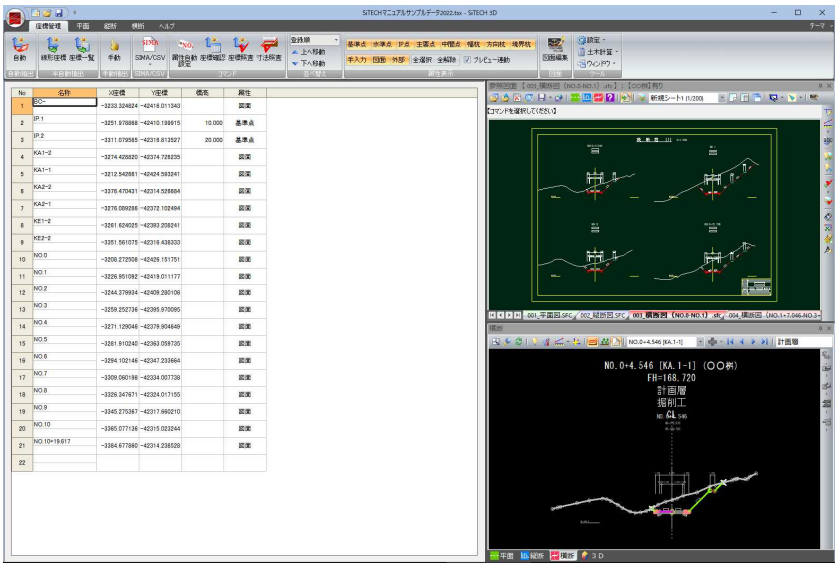
参照図面を開く

[参照図面を開く]ボタンをクリックすると、「ファインダー」ダイアログボックスが表示されますので、いずれかの図面ファイルを開きます。
Shift や Ctrl キー＋クリックで複数のファイルを同時に選択することもできます。
「ファインダー」ダイアログボックスでファイルを選択し、[開く]をクリックすると、次に「図面属性設定」ダイアログボックスが表示されます。
各種の設定を行い、[全自動抽出]または[図面を開く]をクリックすると、システム画面に移行します。

A 納図の図面を開く

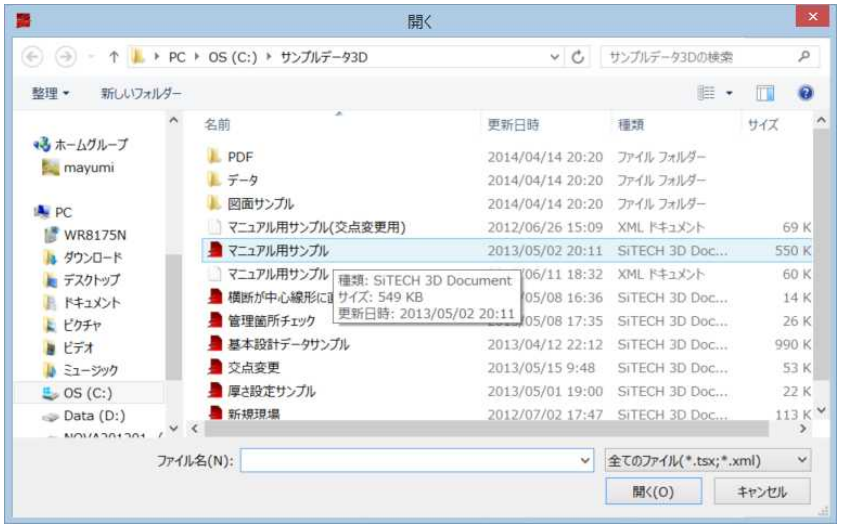
[A 納図の図面を開く]ボタンをクリックすると、「A 納図の図面を開く」ダイアログボックスが表示されますので、いずれかの図面を開きます。
Shift や Ctrl キー＋クリックで複数の図面を同時に選択することもできます。
図面を選択し、[ＯＫ]をクリックすると、次に「図面属性設定」ダイアログボックスが表示されます。
各種の設定を行い、[全自動抽出]または[図面を開く]をクリックすると、システム画面に移行します。

2 参照図面または A 納図の図面を開く、または[作業開始]をクリックすると、新規現場作成モードのシステム画面に移行します。



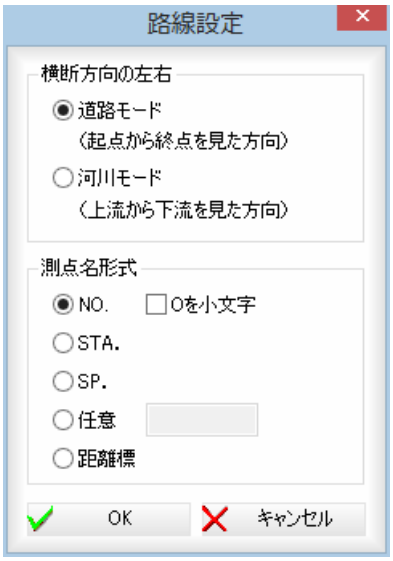
ファイルオープン

1 「起動」ダイアログボックスで[ファイルオープン]をクリックすると、「開く」ダイアログボックスが表示されますので、システムオリジナル形式のデータや施工管理データ交換標準、道路中心線形データの XML ファイル、LandXML ファイルを選択し、[開く]をクリックします。



2 施工管理データ交換標準の Ver2.0 のデータを読込時には「路線設定」ダイアログボックスが表示されます。各種の設定を行います。

・LandXML ファイルは、３次元設計データ交換標準(案) Ver.1.5 に対応しました。



横断方向の左右

「道路モード」、「河川モード」いずれかのラジオボタンをクリックして選択します。
道路モード：起点から終点を見た方向に対しての左右。
河川モード：上流から下流を見た方向に対しての左右。

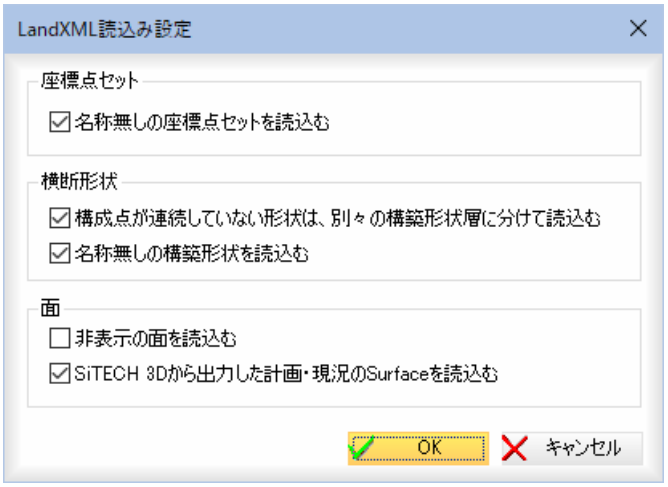
測点名形式

各種の測点名の形式をラジオボタンをクリックして選択します。
「NO.」を選択し、「0 を小文字」チェックマークをオンにすると、「No.」になります。
「任意」を選択した場合は、入力欄内に任意の文字列を入力します。

3 LandXML ファイルを読み込んだ場合は、他のファイルの場合と異なる「路線設定」ダイアログボックスが表示されます。
読込む LandXML ファイルの種類によって、表示されるダイアログボックスが異なります。以下の２種類があります。
■国総研形式(国土交通省国土技術政策研究所)の LandXML ファイル

■国総研形式以外の LandXML ファイル
以下、それぞれについて説明します。

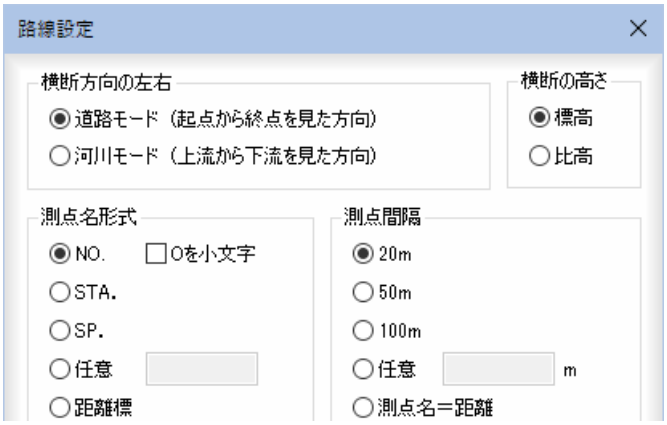
■国総研形式の LandXML ファイルを読み込んだ場合
以下の「LandXML 読込み設定」ダイアログボックスが表示されます。



座標点セット
「名称無しの座標点セットを読込む」チェックマークをオンにすると、名称無しの座標点セットも読み込まれます。
横断形状の各種設定
「構成点が連続していない形状は、別々の構築形状層に分けて読込む」、「名称無しの構築形状を読込む」のチェックマークのオン・オフ、により、それぞれの設定を行います。
「名称無しの構築形状を読込む」のチェックマークをオフにすると、「LandXML1.2 に準じた 3 次元設計データ交換標準（案）Ver.1.5」形式のファイルを取込む際、横断計画の構築形状名（“DesignCrossSectSurf／desc”）が定義されていない形状は取込まれません。

面
「非表示の面を読込む」チェックマークをオンにすると、非表示の面も読み込まれます。初期値はオフです。
「SiTECH 3D から出力した計画・現況の Surface を読込む」チェックマークをオンにすると、SiTECH 3D から出力した Surface データを取り込みます。
オフの場合は、SiTECH 3D から出力した Surface データは取り込みません。
初期値はオンです。

■国総研形式以外の LandXML ファイルを読み込んだ場合
以下の「路線設定」ダイアログボックスが表示されます。



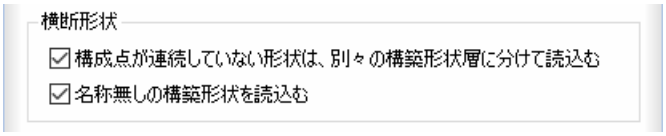
横断方向の左右
「道路モード」、「河川モード」いずれかのラジオボタンをクリックして選択します。
道路モード：起点から終点を見た方向に対しての左右。
河川モード：上流から下流を見た方向に対しての左右。

横断の高さ
「標高」、「比高」いずれかのラジオボタンをクリックして選択します。
初期値は「標高」で、前回値が保持されます。
選択した横断の高さの設定に合わせて読み込まれます。

測点名形式
各種の測点名の形式をラジオボタンをクリックして選択します。
「NO.」を選択し、「O を小文字」チェックマークをオンにすると、「No.」になります。
「任意」を選択した場合は、入力欄内に任意の文字列を入力します。

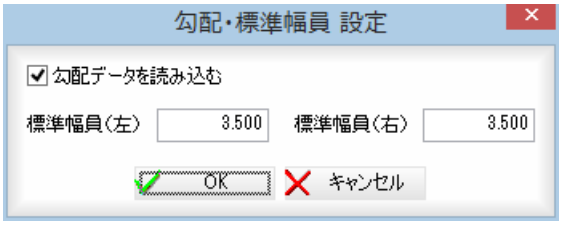
測点間隔
いずれかの測点間隔をラジオボタンをクリックして選択します。
「任意」を選択した場合は、入力欄内に間隔をm単位で入力します。

横断形状の各種設定



「構成点が連続していない形状は、別々の構築形状層に分けて読込む」、「名称無しの構築形状を読込む」のチェックマークのオン・オフ、により、それぞれの設定を行います。
「名称無しの構築形状を読込む」のチェックマークをオフにすると、「LandXML1.2 に準じた 3 次元設計データ交換標準（案）Ver.1.5」形式のファイルを取込む際、横断計画の構築形状名（“DesignCrossSectSurf／desc”）が定義されていない形状は取込まれません。

片勾配が含まれている道路中心線形データを読込んだ場合
片勾配(Superelevation)が含まれている道路中心線形データを読込んだ場合には、路線設定ダイアログの後に、「勾配・標準幅員 設定」ダイアログボックスが表示されます。

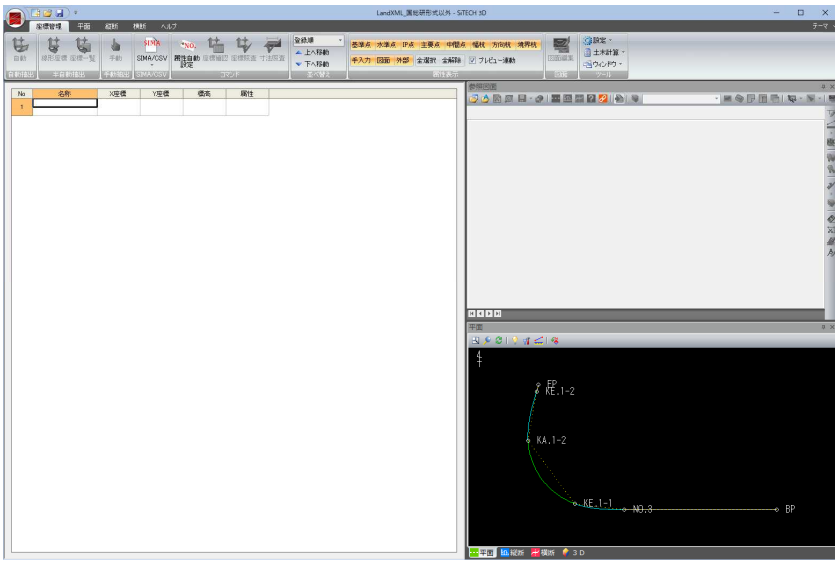


「勾配データを読み込む」チェックマークのオン・オフ、標準幅員（左）、（右）が設定できます。
複数路線の道路中心線形 XML データを読込んだ場合には、それぞれの路線に対して勾配 ON/OFF、標準幅員が設定できます。
勾配データを読み込む OFF の場合には、片勾配（Superelevation）を無視します。
勾配データを読み込む ON の場合には、縦断の勾配・標準幅員が読み込まれます。

面
「非表示の面を読込む」チェックマークをオンにすると、非表示の面も読み込まれます。初期値はオフです。
「SiTECH 3D から出力した計画・現況の Surface を読込む」チェックマークをオンにすると、SiTECH 3D から出力した Surface データを取り込みます。

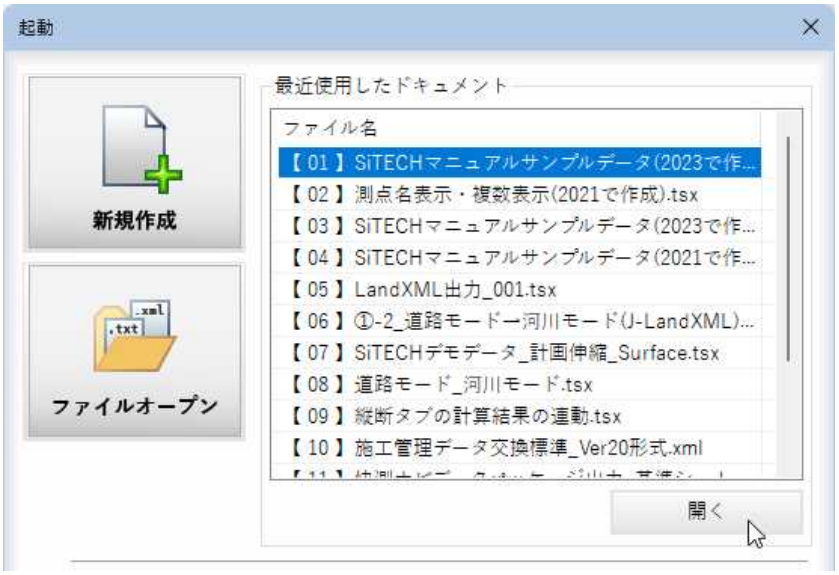
オフの場合は、SiTECH 3D から出力した Surface データは取り込みません。
初期値はオンです。

4 「路線設定」ダイアログボックスで[OK]をクリックするとデータが読み込まれ、現場作成モードのシステム画面に移行します。



最近使用したドキュメント

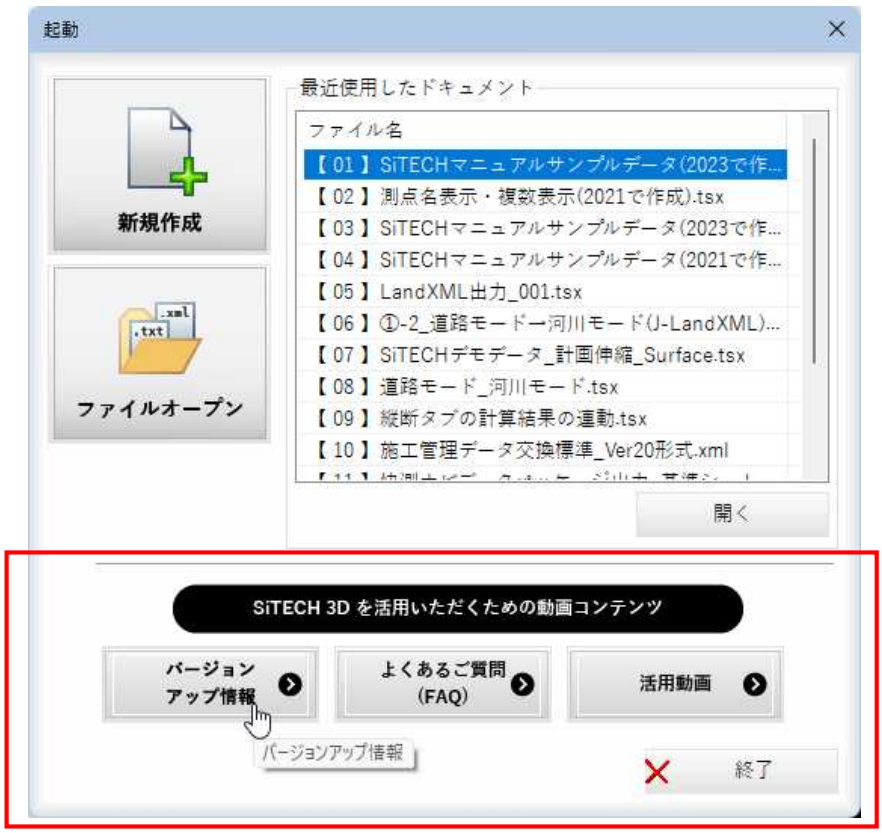
1 「起動」ダイアログボックスで「最近使用したドキュメント」のいずれかのファイルを選択し、[開く]をクリックします。



選択したファイルが開きます。

SiTECH 3D を活用いただくための動画コンテンツ

1 「起動」ダイアログボックスで[バージョンアップ情報]、[よくあるご質問(FAQ)]、[活用動画]をクリックすると、それぞれの関連ページが開きます。



バージョンアップ情報
バージョンアップで搭載した新機能を動画でご覧いただけます。

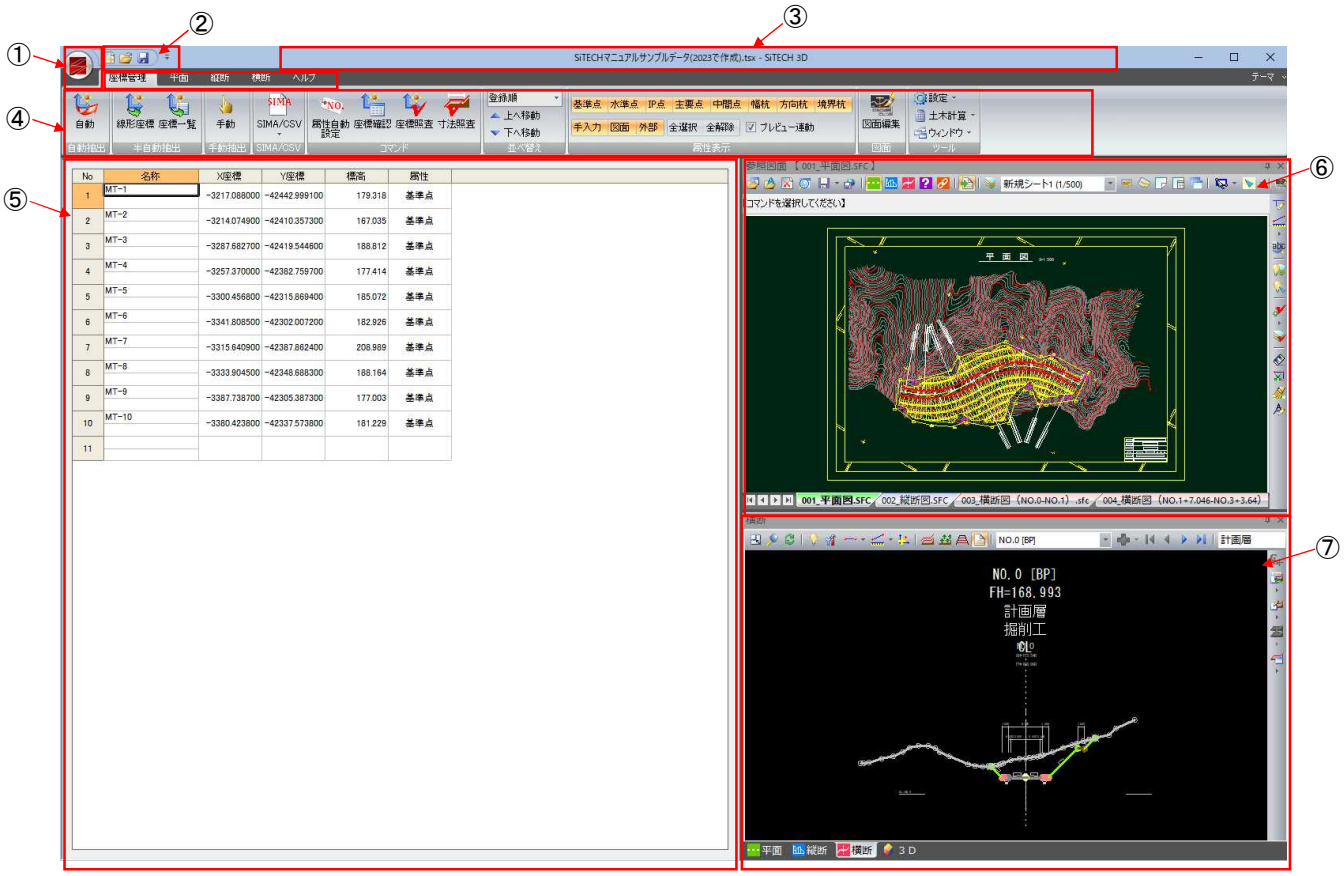
よくあるご質問(FAQ)
よくあるご質問(FAQ)を動画でご覧いただけます。

活用動画
基本操作をサンプルデータを使ってわかりやすく学習できます。

3 システム画面の構成とメニュー操作

システム画面の構成

本システムを起動後に、表示される全体ウィンドウを「システム画面」と呼びます。システム画面の構成は以下の通りです。



① アプリケーションボタン
② クイックアクセスツールバー
③ タイトルバー
④ リボンメニュー
⑤ データウィンドウ
⑥ 参照図面ウィンドウ
⑦ プレビューウィンドウ

次ページ以降で詳しく解説しています。

アプリケーションメニュー

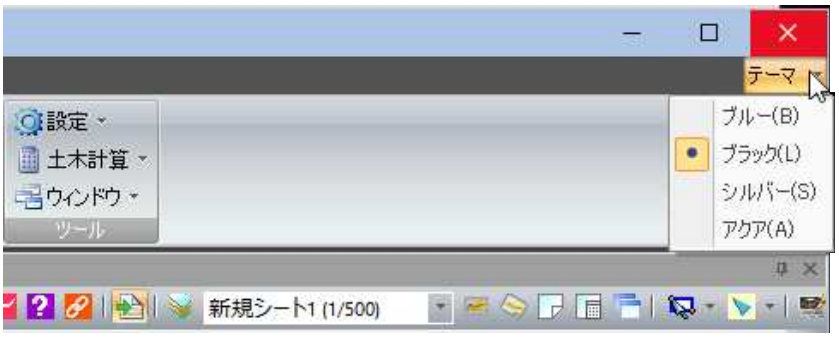
システムアイコンをクリックすると、新規作成、開く、追加読込み、上書き保存、名前を付けて保存、基本設計 XML 出力、LandXML 出力、快測ナビデータパッケージ出力、快測 AR 出力、INNOSiTE ファイル出力、TOPCON TP3 出力、その他のファイル出力、3D ビューファイル出力、SiTECH 3D Studio(の起動)、ファイルビューア出力、最近使ったドキュメント(アプリケーションメニュー)などのコマンドが表示されます。

アプリケーションメニュー内の各種コマンドの詳しい操作方法は、「4.アプリケーションメニュー」で説明しています。⇒参照ページへ

テーマメニュー

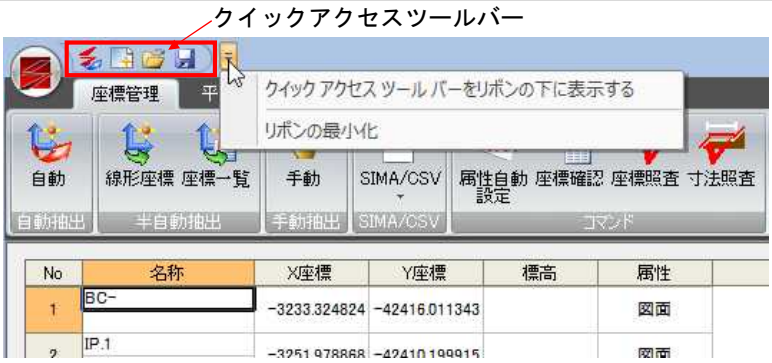
タブのあるバーの右端にテーマメニューがあります。
テーマメニューをクリックすると、カラー種類が表示されますので、いずれかをクリックします。

▼テーマメニュー



クイックアクセスツールバー

使用中のリボンメニューに関係なく、常に表示されているので、よく使うコマンドが配置されています。クイックアクセスツールバーは、初期状態ではシステムウィンドウの最上部に配置されます。



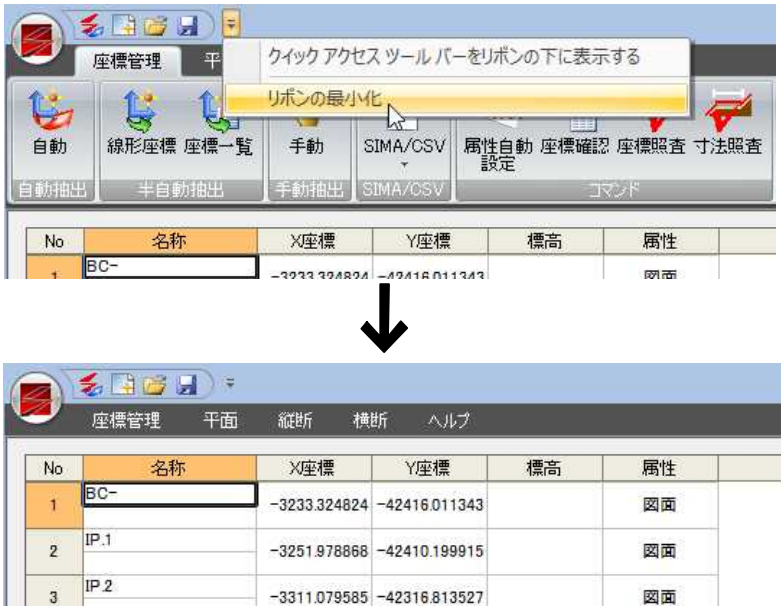
● クイックアクセスツールバーの操作

1 リボンの下に表示

「クイックアクセスツールバーのカスタマイズ」メニュー内の「リボンの下に表示」をクリックすると、クイックアクセスツールバーをリボンの下に表示します。

2 リボンの最小化

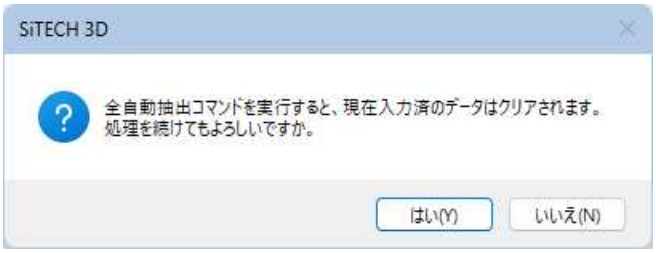
「クイックアクセスツールバーのカスタマイズ」メニュー内の「リボンの最小化」チェックマークをオンにすると、リボンの表示を最小化します。タブをクリックすると、通常のリボン表示に切り替わります。



全自動抽出

クイックアクセスツールバーから[全自動抽出]処理を行います。「全自動抽出」は、開いている参照図面を基に、座標、平面線形、縦断線形、横断構築形状を自動作成します。平面、縦断、横断すべてあることが条件となります。
全自動抽出で平面図に IP 点が存在しない場合、要素法で抽出します。

1 「クイックアクセスツールバーのカスタマイズ」メニュー内の（全自動抽出）をクリックすると、確認メッセージが表示されます。



2 [はい]をクリックすると、データ抽出処理が行われます。

タイトルバー

システムのファイル名とアプリケーション名が表示されます。

リボンメニュー

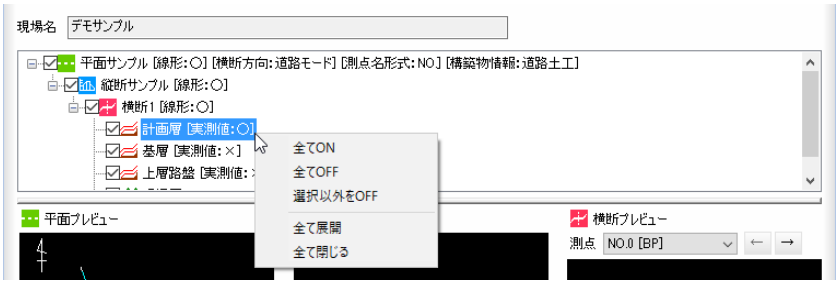
システムの各種コマンドが表示されます。タブをクリックすることにより、表示されるメニューも切り替わります。

(1) タブ
　タスク別に構成されています。
(2) グループ
　各タブ内のグループではタスクはサブタスクに分けられています。
(3) コマンドボタン
　タスク別に構成

ツリー表示内のポップアップメニュー

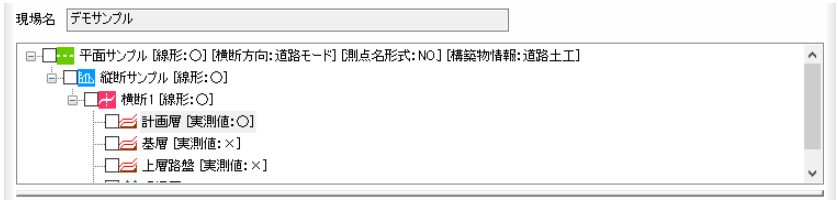
各種の設定を行うダイアログボックスのツリー表示内で右ボタンをクリックすると、ポップアップメニューが表示されます。各種の処理を行うことができます。

ツリー表示内で右ボタンをクリックすると、ポップアップメニューが表示されます。

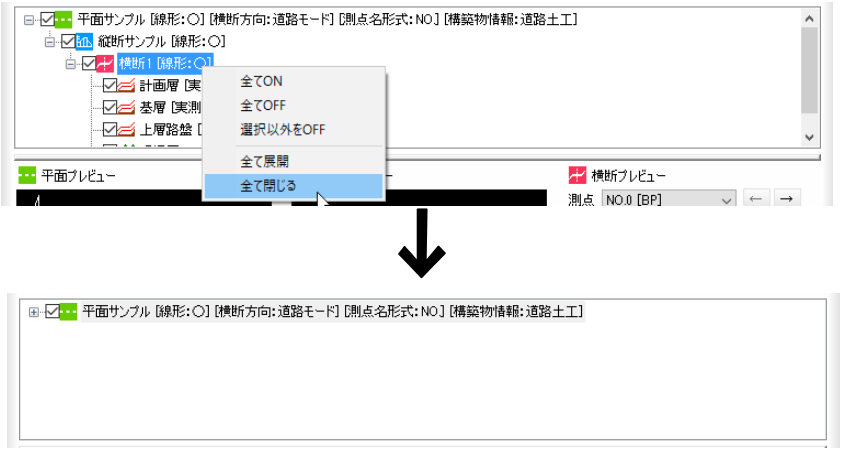


「全て表示 ON」、「全て表示 OFF」、「選択以外を表示 OFF」のいずれかを選択すると、チェックマークの選択が切り替わります。
また、「全て展開」、「全て閉じる」のいずれかを選択すると、ツリー表示が変更されます。

▼「全て表示 OFF」



▼「全て閉じる」



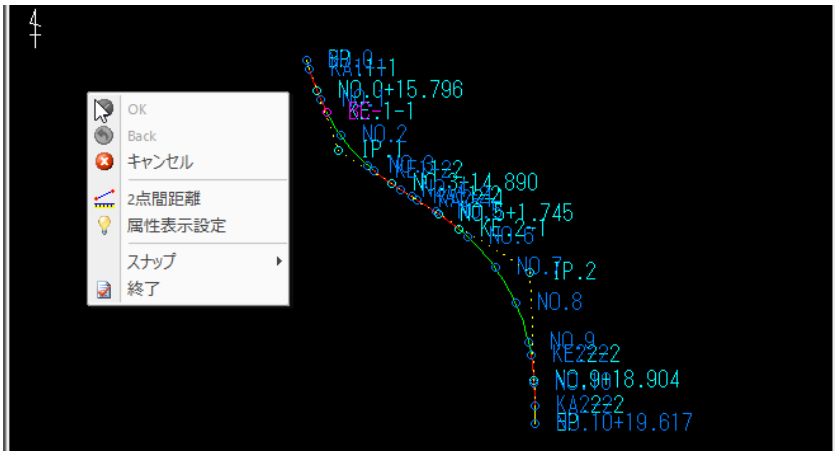
参照図面、プレビュー内のポップアップメニュー

各種の設定を行うダイアログボックスのプレビュー内で右ボタンをクリックまたは右ボタンをダブルクリックすると、各種のポップアップメニューが表示されます。各種の処理を行うことができます。

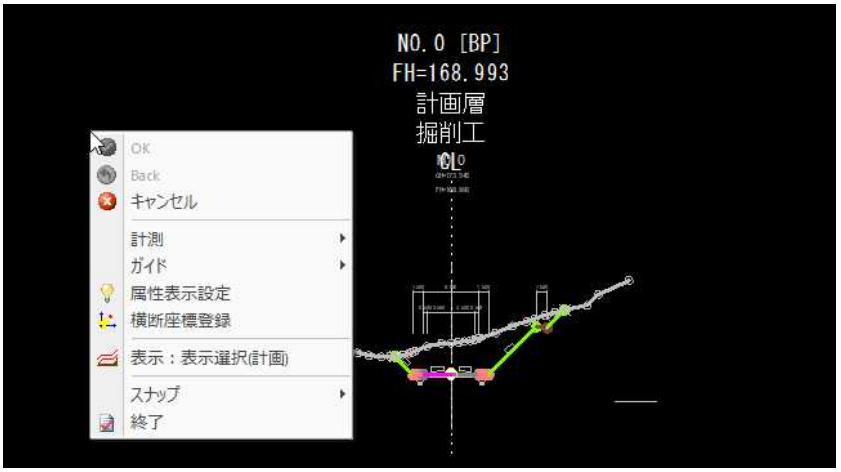
●右ボタンをクリック

▼参照図面内

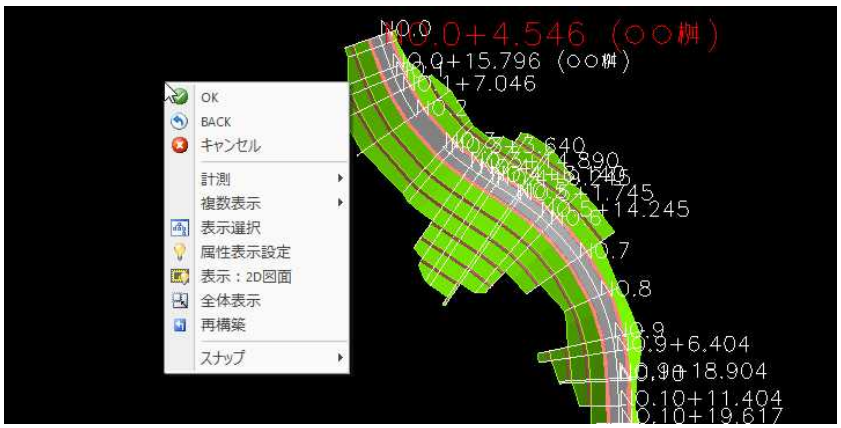
▼プレビュー内（平面・縦断）



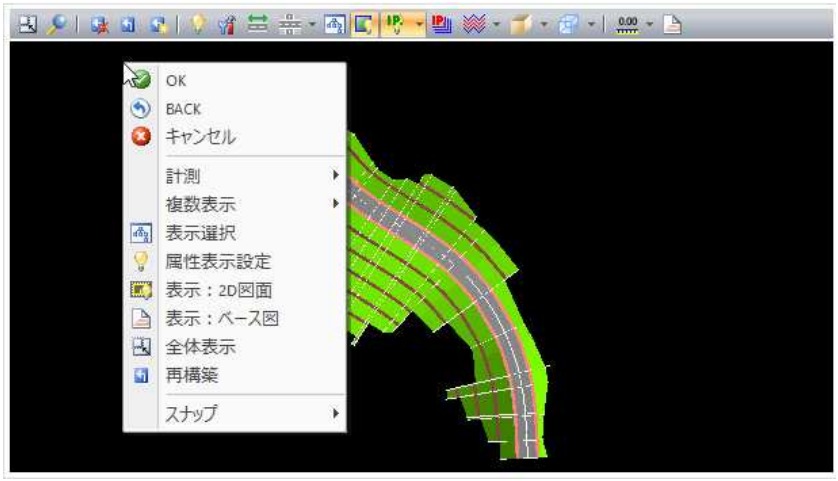
▼プレビュー内（横断）



▼プレビュー内（３D）



▼3D ビューダイアログボックス
TOPCON GNSS 用データ出力（TN3 形式）処理
SiTE-NEXUS データパッケージ出力など

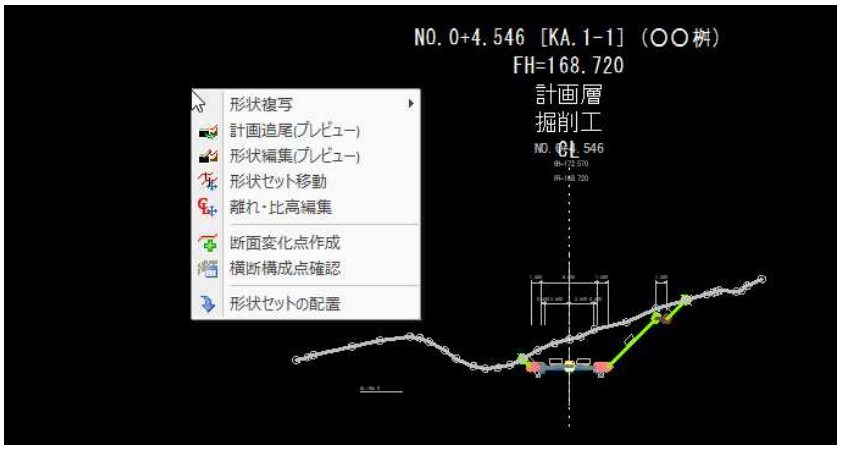


▼「図面確認」ダイアログボックス

●右ボタンをダブルクリック

▼参照図面内

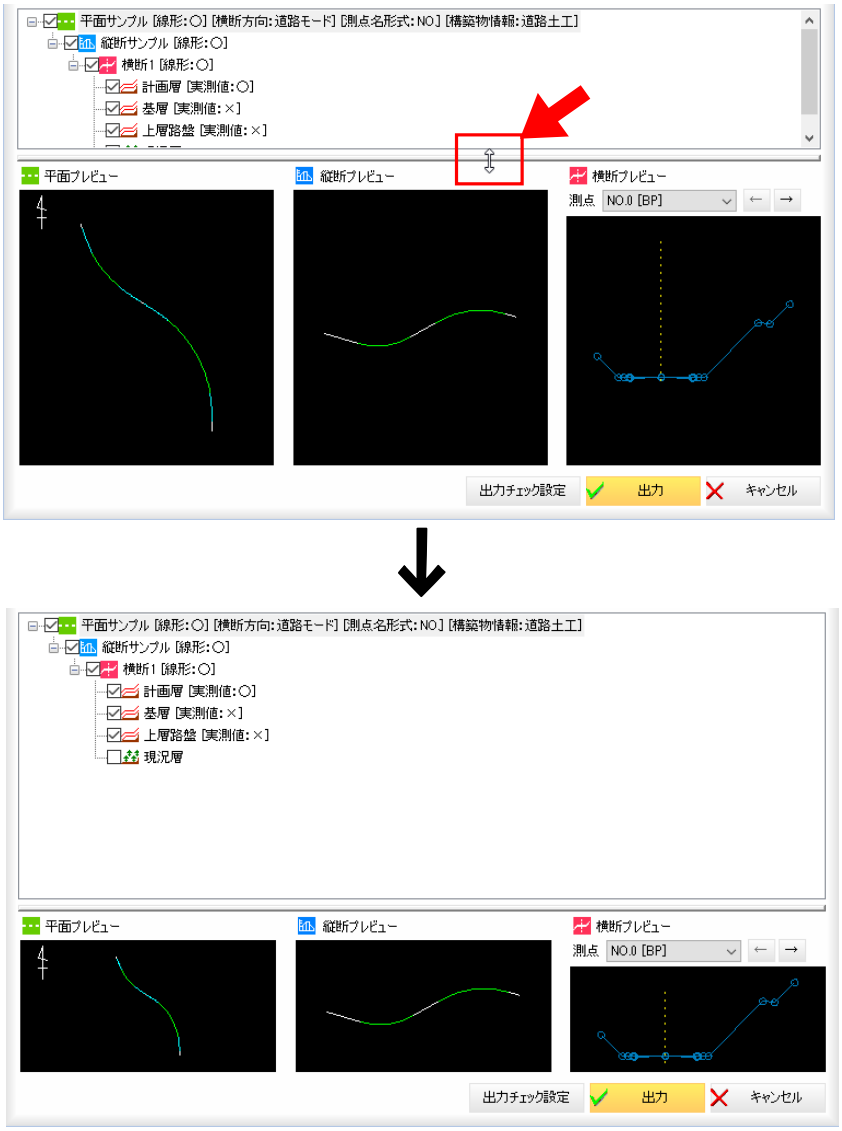
▼横断プレビュー内



スプリッターの操作

各種の設定を行うダイアログボックス内でスプリッターを操作することによって表示サイズを変更することができます。

スプリッター（横棒または縦棒）をマウスにて動かすことによって、ダイアログボックス内の各コントロールのサイズ変更を行うことができます。

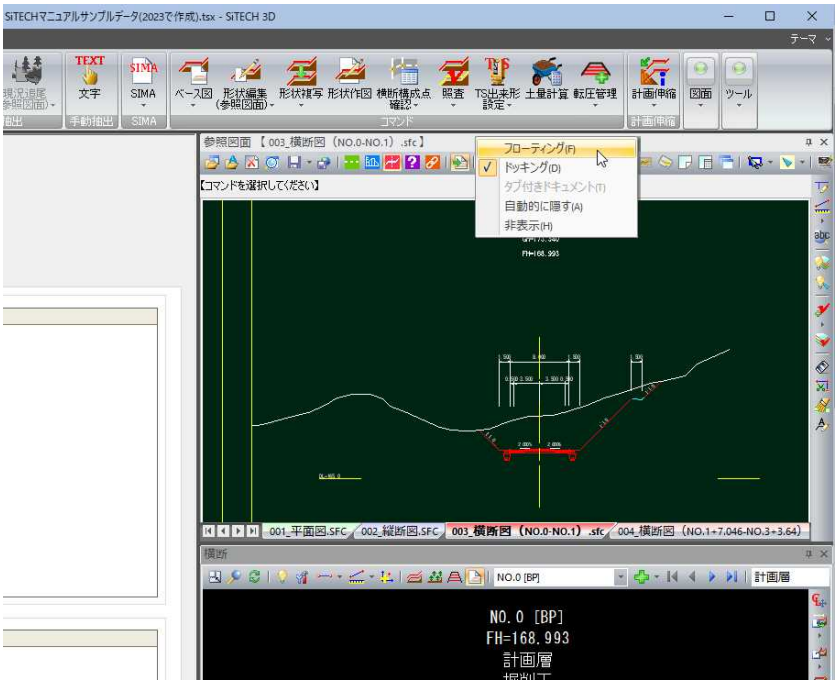


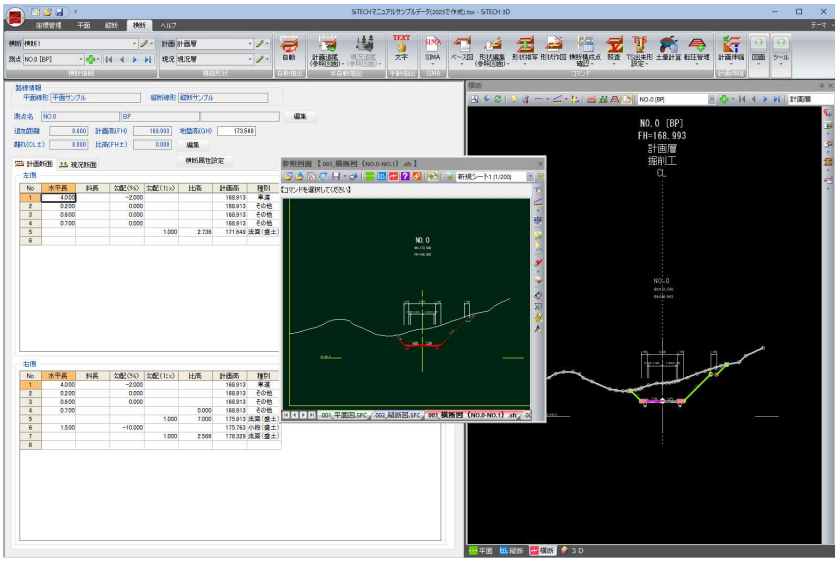
ウィンドウ操作

「参照図面」ウィンドウや「プレビュー」ウィンドウでは、各種のウィンドウ操作を行うことができます。

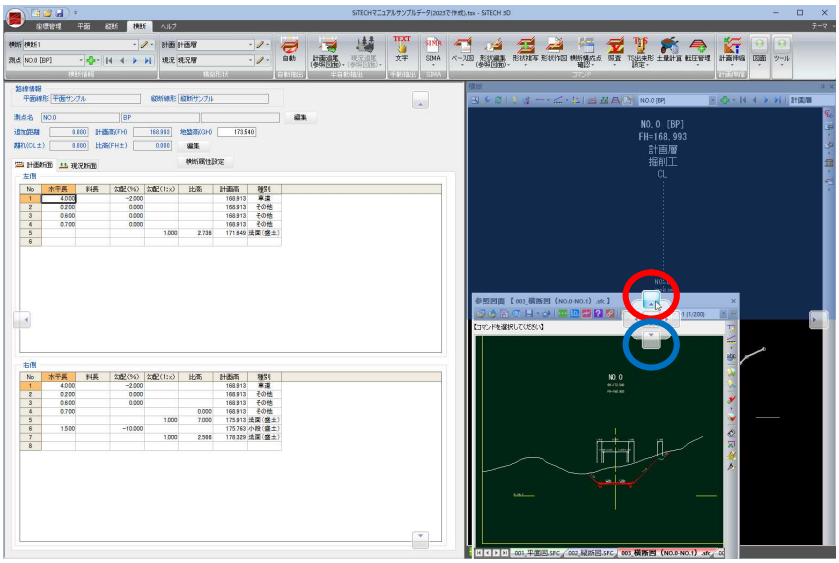
●フローティング／ドッキング

1 参照図面ウィンドウまたはプレビューウィンドウでタイトルバー上でマウスの右ボタンをクリックし、「フローティング」または「ドッキング」をクリックすると、ウィンドウの表示方法が変更されます。



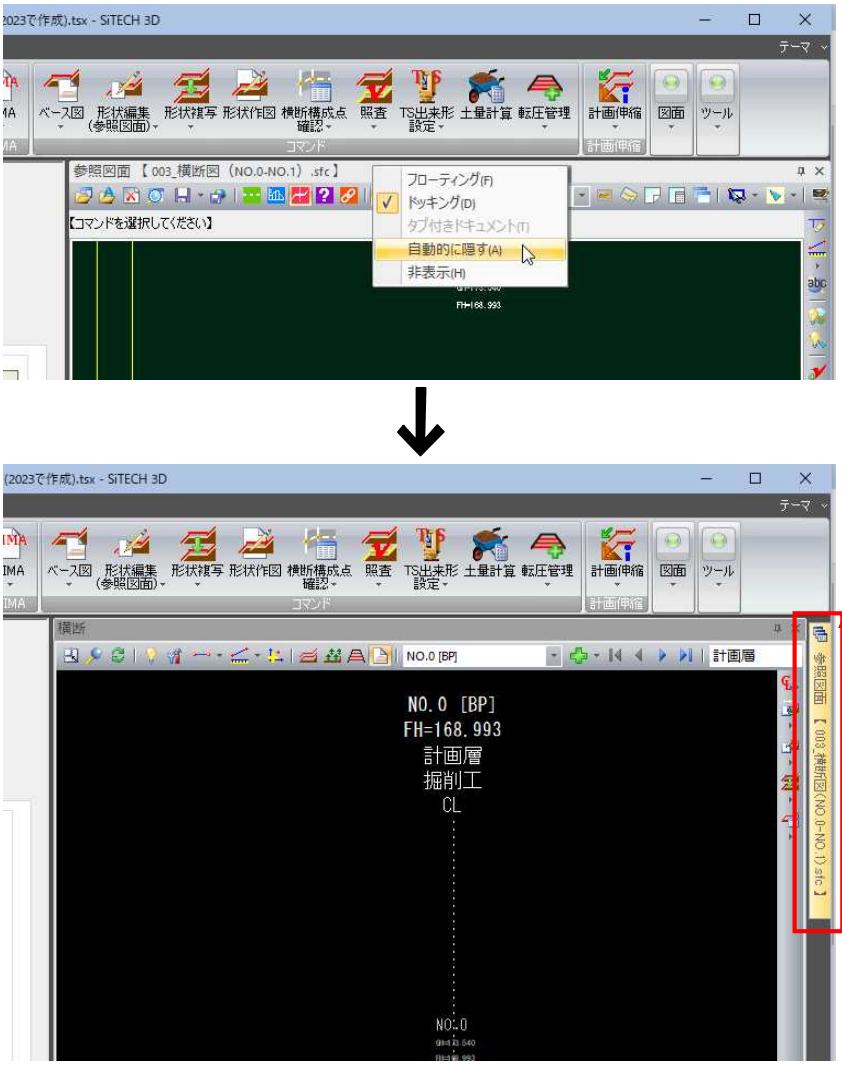


フローティング状態のウィンドウを元のようにする方法は、以下の通りです。
例）参照図面ウィンドウのみフローティング状態の場合
参照図面ウィンドウをドラッグしてプレビューウィンドウ上に持っていき、
添付画像赤丸のところでマウスを離すと、上部にドッキングします。
プレビューウィンドウは、青丸上にドラッグすると下部にドッキングします。



● 自動的に隠す（参照図面ウィンドウ／プレビューウィンドウ共通）

1 ドッキング状態の参照図面ウィンドウまたはプレビューウィンドウでタイトルバー上でマウスの右ボタンをクリックし、「自動的に隠す」をクリック（またはタイトルバーの をクリック）すると、ウィンドウの表示が自動的に隠されます。

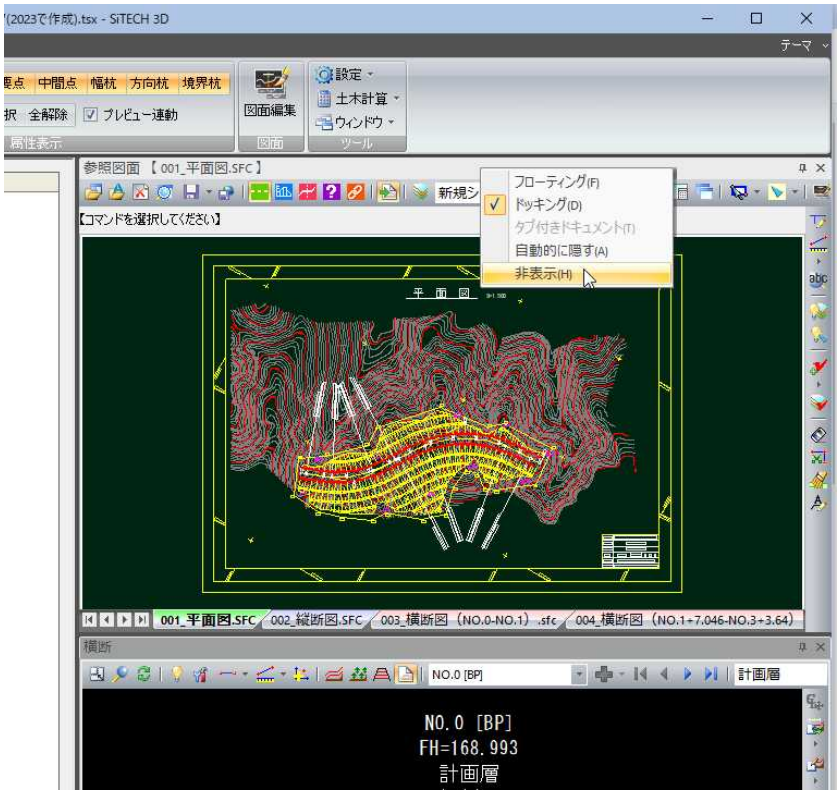


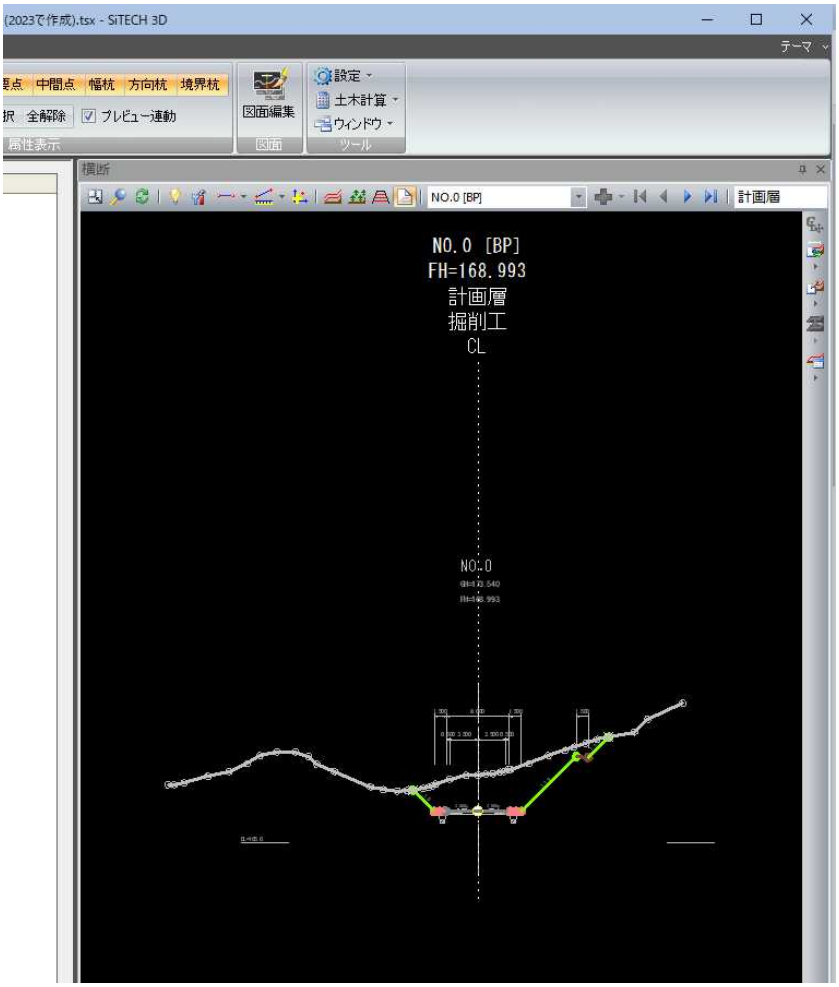
2 ウィンドウの右側に表示される「参照図面」アイコン（または「プレビュー（平面・縦断・横断・３D）」）をクリックすると、隠れたウィンドウが表示されます。
または、リボンメニューの[ツール]－[ウィンドウ]で表示させるウィンドウを選択しても同様の処理を行えます。

3 参照図面ウィンドウ（またはプレビューウィンドウ）を表示させた状態で、タイトルバーを右クリックし、メニューから「自動的に隠す」を選択すると、自動的に隠すモードを終了します。

● ウィンドウを閉じる（参照図面ウィンドウ／プレビューウィンドウ共通）

1 参照図面ウィンドウまたはプレビューウィンドウのタイトルバー上でマウスの右ボタンをクリックし、「非表示」をクリック（またはタイトルバーの ✕ をクリック）すると、ウィンドウが非表示になります。





2 リボンメニューの[ツール]ー[ウィンドウ] で表示させるウィンドウを選択すると、再び表示されます。

データウィンドウ、参照図面ウィンドウ、プレビューウィンドウについては、「５．データウィンドウ」、「参照図面ウィンドウ」、「プレビューウィンドウ」で詳しく説明しています。

4 アプリケーションメニュー

アプリケーションメニューの構成

システムアイコンをマウスでクリックすると、アプリケーションメニューが表示されます。

アプリケーションメニューからは以下の処理を実行することができます。

- 新規作成
- 開く
- 追加読込み
- 上書き保存
- 名前を付けて保存
- 基本設計 XML 出力
- LandXML 出力
- 快測ナビデータパッケージ出力
- 快測 AR 出力
- INNOSiTE ファイル出力
- TOPCON TP 出力
- その他ファイル出力
- 3D ビューファイル出力
- SiTECH 3D Studio(の起動)
- ファイルビューア出力
- 最近使ったドキュメントの表示（最大 16 ファイル表示されます）

新規作成

新規に現場を作成します。

・「新規作成」コマンドの操作は、「起動」ダイアログボックスで[新規作成]をクリックした場合と同様です。

1 アプリケーションメニューで[新規作成]をクリックすると、「新規現場作成」ダイアログボックスが表示されます。

以降の処理は、「起動」ダイアログボックスー[新規作成]をクリックした時と同様です。 **⇒参照ページへ**

開く

・「開く」コマンドの操作は、「起動」ダイアログボックスで、[ファイルオープン]をクリックした場合と同様です。

1 アプリケーションメニューで[開く]をクリックすると、「開く」ダイアログボックスが表示されますので、システムオリジナル形式のデータや施工管理データ交換標準、道路中心線形データの XML ファイル、LandXML ファイルを選択し[開く]をクリックします。

以降の処理は、「起動」ダイアログボックスー[ファイルオープン]をクリックした時と同様です。 **⇒参照ページへ**

追加読込み

1 アプリケーションメニューで[追加読込み]をクリックすると、「開く」ダイアログボックスが表示されますので、施工管理データ交換標準、道路中心線形データの XML ファイル、LandXML ファイル、tsx ファイルを選択し[開く]をクリックします。

以降の処理は、tsx ファイルを選択した場合を除き、「起動」ダイアログボックスー[ファイルオープン]をクリックした時と同様です。 **⇒参照ページへ**

■tsx ファイルを選択した場合

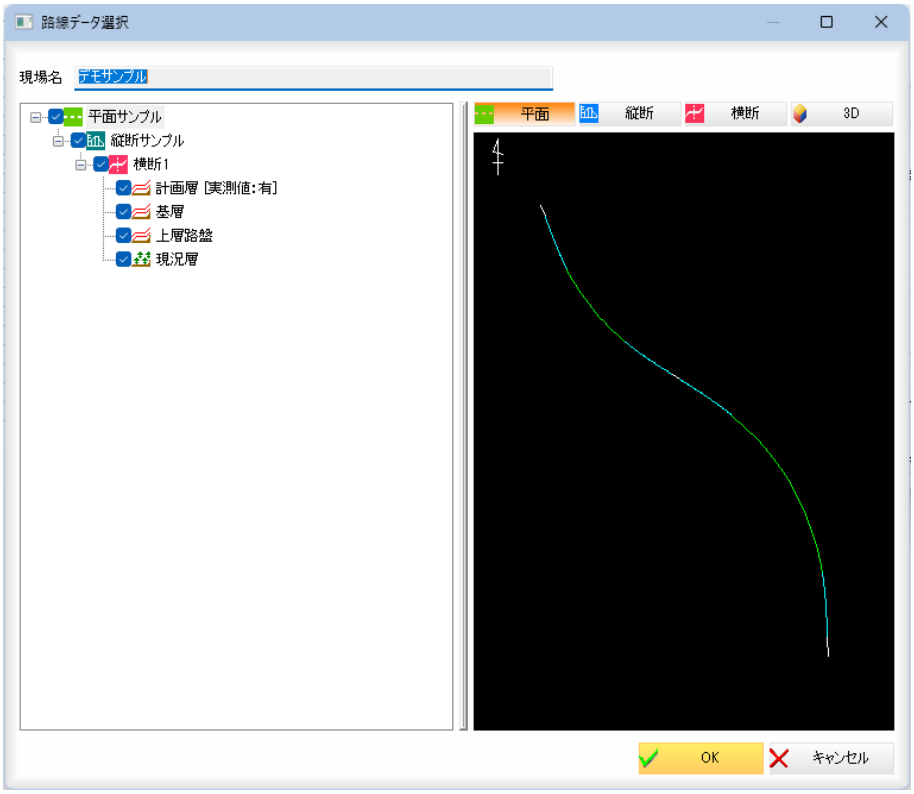
tsx ファイルを選択した場合のみ、「SiTECH 3D データ読込」ダイアログボックスが表示されます。

チェックマークのオン・オフにより、読み込むデータ種類を選択します。
対象を選択し、[読込み]をクリックすると、選択したデータ種類を読み込みます。

以下、各データ種類ごとに説明します。

[路線データ]

「路線データ選択」ダイアログボックスが表示されます。



ツリー表示内チェックマークのオン・オフにより、出力するデータを選択することができます。
プレビュー画面では、平面、縦断、横断、3D のプレビューを切り替えることができます。

平面・縦断・横断構築形状の選択、プレビュー画面の操作方法は、[アプリケーションメニュー]－[基本設計 XML 出力]－[ローカル出力]と同様です。
⇒参照ページへ

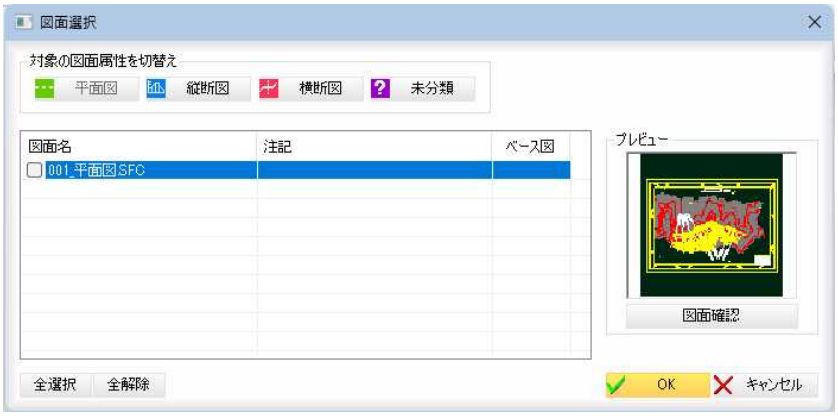
[OK]をクリックすると、「SiTECH 3D データ読込」ダイアログボックスに戻ります。

「SiTECH 3D データ読込」ダイアログボックスで[読込み]をクリックすると、選択したデータ種類を読み込みます。

[参照図面]

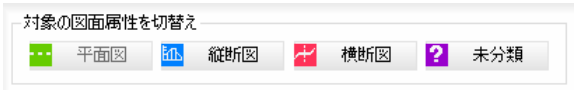
「図面選択」ダイアログボックスが表示されます。

・ベース図配置に使用されている図面はチェックマークが初期値で ON に設定されます。
また、チェックを外すことはできません。



対象の図面の切替え

平面図、縦断図、横断図、未分類をクリックすると、それぞれの図面一覧が表示されます。



「図面の選択」

一覧から対象の図面をチェックマークをオンにして選択します。

図面確認

プレビューの下の[図面確認]をクリックすると「図面確認」ダイアログボックスが表示されます。

注記

「注記」入力欄内に文字列を入力・変更します。

(スポイトボタン)をクリックすると、図面内の文字抽出モードとなりますので、いずれかの文字列をクリックします。入力欄内に文字列が追加されます。
[注記を更新]をクリックすると、確認メッセージが表示されますので、[OK]をクリックすると、注記文字列が更新されます。

参照図面の切り替え

図面名のドロップダウンリストまたは をクリックして図面ファイルの切り替えを行います。

[選択]をクリックすると、「SiTECH 3D データ読込」ダイアログボックスに戻ります。

「SiTECH 3D データ読込」ダイアログボックスで[読込み]をクリックすると、選択したデータ種類を読み込みます。

[座標データ]

「座標データ選択」ダイアログボックスが表示されます。属性選択、測点一覧表示、測点プレビューが表示されます。

属性選択

いずれかの属性名をクリックし、選択します。

[全選択]／[全解除]

属性をすべて選択、またはすべて選択解除することができます。

測点の選択

チェックマークをオンにして測点を選択します。

[全選択]／[全解除]

一覧表示内のすべてのチェックマークをオン、またはオフにします。

測点選択時に対象図形を中心に移動

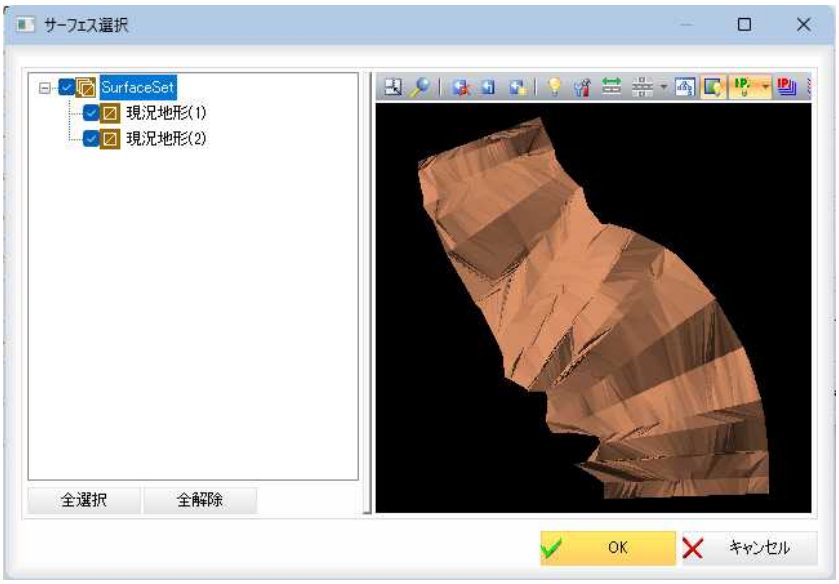
「測点選択時に対象図形を中心に移動」チェックマークをオンにすると、一覧内で選択した測点が座標表示ウィンドウ内で中心になるように表示されます。

「座標データ選択」ダイアログボックスで[OK]をクリックすると、「SiTECH 3D データ読込」ダイアログボックスに戻ります。

「SiTECH 3D データ読込」ダイアログボックスで[読込み]をクリックすると、選択したデータ種類を読み込みます。

[サーフェス]

「サーフェス選択」ダイアログボックスが表示されます。



左側のツリー表示には Surface の情報が表示されますので、チェックマークにより選択します。右側の 3D ビューには出力内容が表示されます。

３Dビュー

操作方法はプレビュー画面の３Ｄビューと同様です。**⇒参照ページへ**

「出力選択」ダイアログボックスで[OK]をクリックすると、「SiTECH 3D データ読込」ダイアログボックスに戻ります。

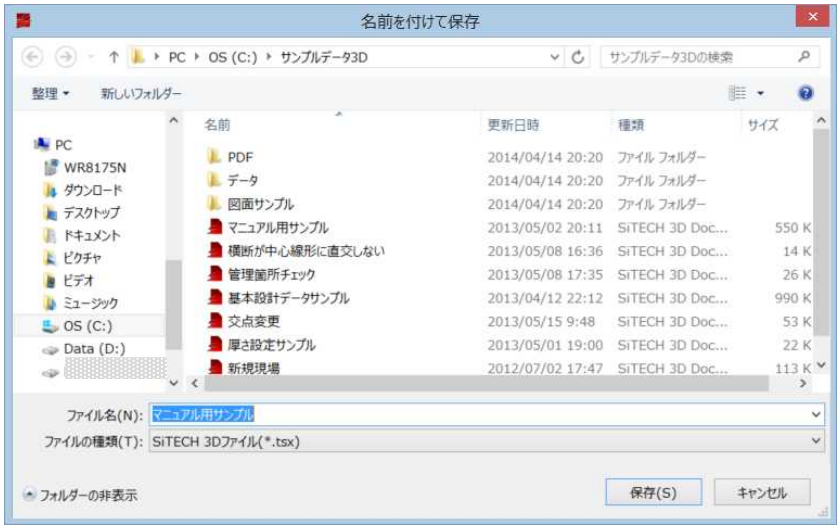
「SiTECH 3D データ読込」ダイアログボックスで[読込み]をクリックすると、選択したデータ種類を読み込みます。

上書き保存

1 アプリケーションメニューで[上書き保存]をクリックすると、現在開いているデータをシステムオリジナル形式(.tsx)で上書き保存します。

名前を付けて保存

1 アプリケーションメニューで[名前を付けて保存]をクリックすると、ファイル保存ダイアログボックスが表示されます。

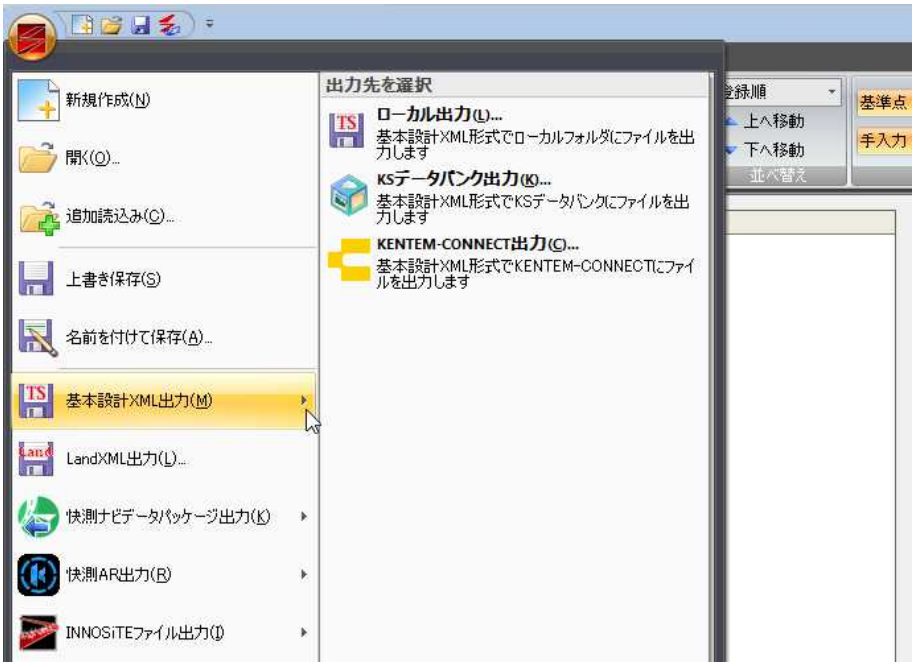


[▼フォルダーの表示]をクリックすると、フォルダー表示に切り替わりますので、保存するフォルダーを選択します。

2 [保存]をクリックすると、現在開いているデータをシステムオリジナル形式(.tsx)で保存します。

基本 XML ファイル出力

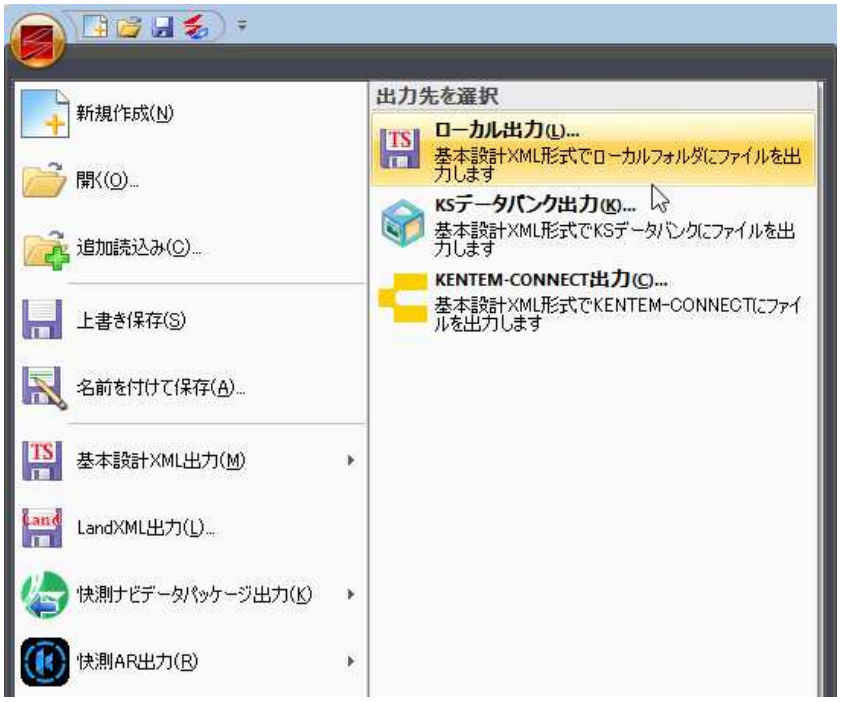
アプリケーションメニュー内の[基本 XML ファイル出力]をクリックし、ローカル出力、KS データバンク出力、KENTEM-CONNECT 出力のいずれかをクリックして処理を行います。



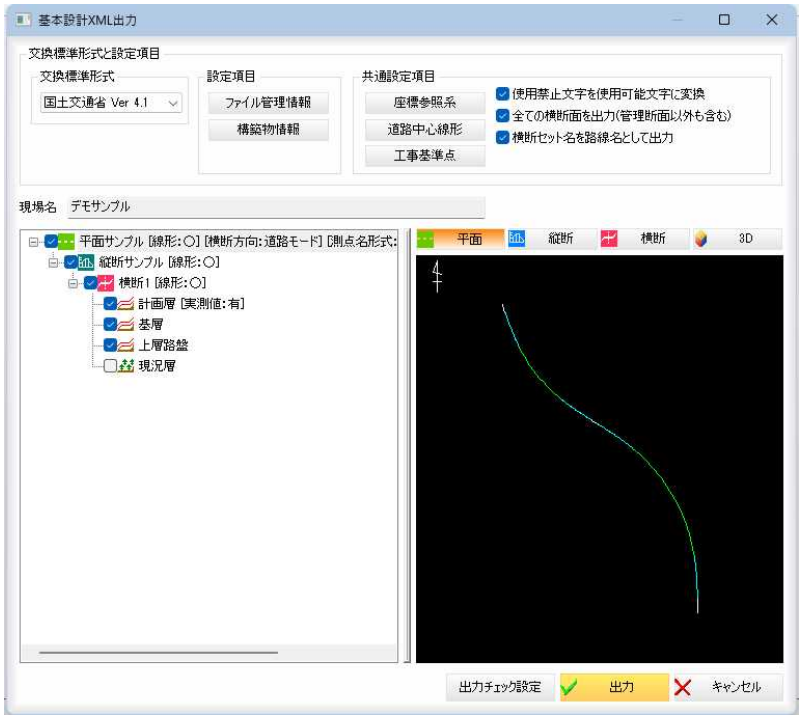
以下、各種「基本設計 XML 出力」の操作方法について説明します。

● 基本設計 XML 出力－ローカル出力

1 アプリケーションメニューで[基本設計 XML 出力]－[ローカル出力]をクリックします。



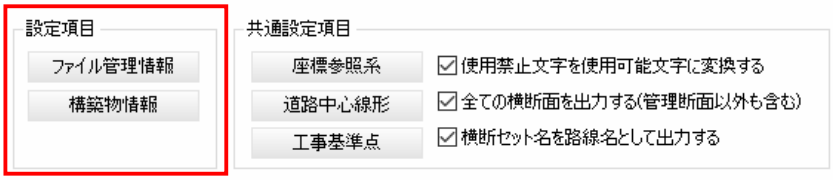
2 「基本設計 XML 出力」ダイアログボックスが表示されます。



3 **交換標準形式の選択**

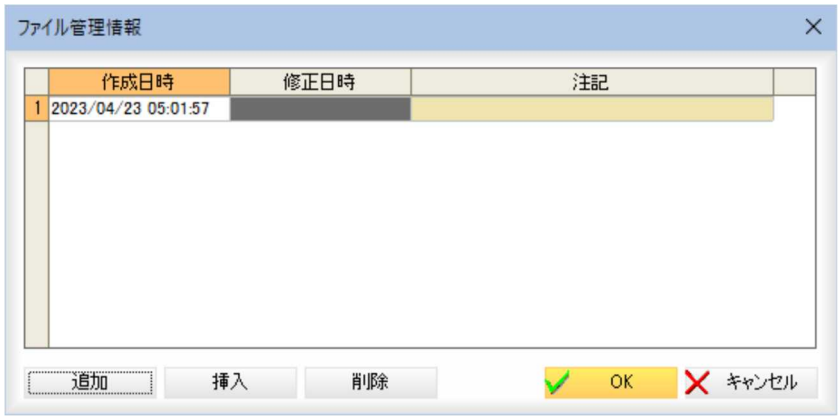
「交換標準形式の選択」のドロップダウンリストより「国土交通省 Ver4.1」、「国土交通省 Ver4.0」のいずれかを選択します。初期状態は、「国土交通省 Ver4.1」です。

4 **設定項目**



ファイル管理情報

「ファイル管理情報」をクリックすると、「ファイル管理情報」ダイアログボックスが表示されます。

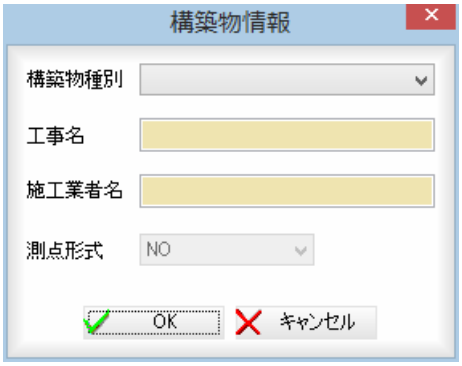


作成日時、修正日時、注記欄に各種データが表示されます。
作成日時・修正日時は自動入力されます。

[追加]　　：末尾に行を追加します。
[挿入]　　：選択位置に行を挿入します。
[削除]　　：選択している行を削除します。
[OK]をクリックすると「基本設計 XML 出力」ダイアログボックスに戻ります。

構築物情報

「構築物情報」をクリックすると、「構築物情報」ダイアログボックスが表示されます。



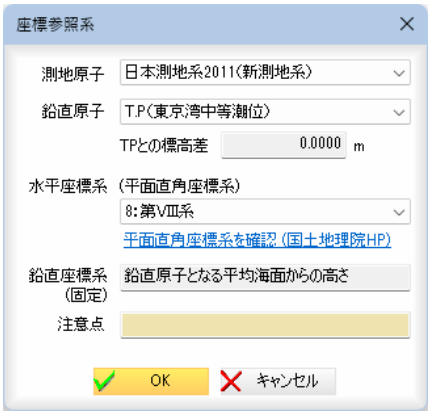
「構築物種別」入力欄内に TS 出来形設定で選択された構築物種別名が表示されます。
「工事名」入力欄内に工事名を入力します。
「施工業者名」入力欄内に施工業者名を入力します。
「測点形式」路線設定で選択された測点名を確認することができます。
[OK]をクリックすると「基本設計 XML 出力」ダイアログボックスに戻ります。

5 共通設定項目

各出力形式共通の設定項目です。

座標参照系

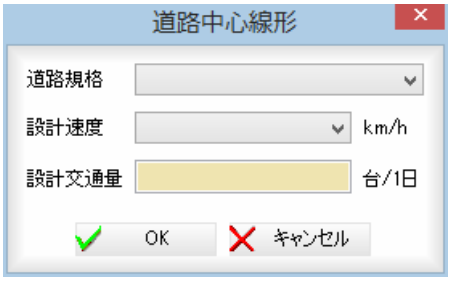
「座標参照系」をクリックすると、「座標参照系」ダイアログボックスが表示されます。



「測地原子」、「鉛直原子」、「水平座標系」は、ドロップダウンリストよりいずれかを選択します。
水平座標系ドロップダウンリスト下のリンクをクリックすると、説明 HP が表示されます。
「TP との標高差」は、鉛直原子を選択すると設定されます。
「注意点」入力欄には任意の文字列を入力します。
[OK]をクリックすると「基本設計 XML 出力」ダイアログボックスに戻ります。

道路中心線形

「道路中心線形」をクリックすると、「道路中心線形」ダイアログボックスが表示されます。



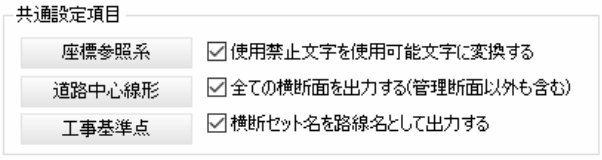
「道路規格」、「設計速度」は、ドロップダウンリストよりいずれかを選択します。
「設計交通量」入力欄内には、1 日当たりの台数を入力します。[OK]をクリックすると、「基本設計 XML 出力」ダイアログボックスに戻ります。

工事基準点

「工事基準点」をクリックすると、「工事基準点の設定」ダイアログボックスが表示されます。基準点、水準点それぞれ「名称」、「X座標」、「Y座標」、「標高」、「注記」入力欄にデータを手入力、または座標一覧から取込みます。「種別」は、ドロップダウンリストよりいずれかの種別を選択します。

[OK]をクリックすると、「基本設計 XML 出力」ダイアログボックスに戻ります。

共通設置項目のその他設定



使用禁止文字を使用可能文字に変換する

チェックマークをオンにすると、全ての使用禁止文字を使用可能文字に変換して出力します。
チェックマークをオフにすると、文字変換せずにそのまま出力します。

全ての横断面を出力する（管理断面以外も含む）

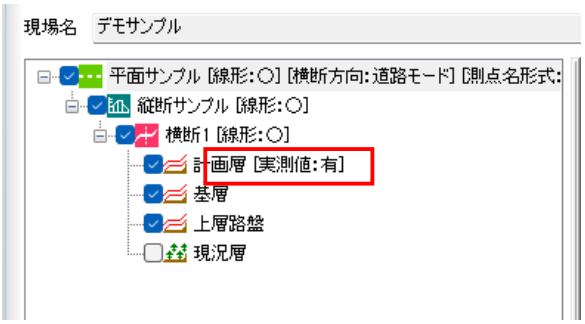
チェックマークをオンにすると、管理断面設定オフの横断面も出力します。
チェックマークをオフにすると、管理断面設定オフの横断面は出力しません。

横断セット名を路線名として出力する

チェックマークをオンにすると、横断セット名を路線名として出力します。

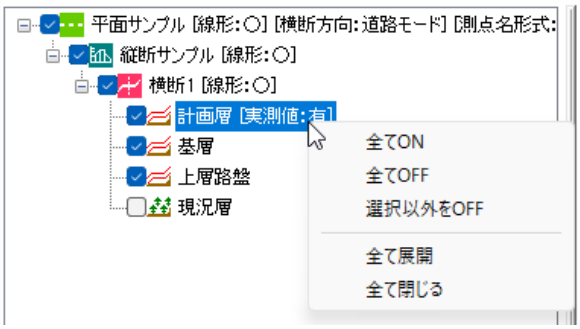
6 平面・縦断・横断構築形状の選択

ツリー表示内チェックマークのオン・オフにより、出力するデータを選択することができます。構築形状名の右側に実数値が有る場合は、[実数値：有]が表示されます。



ツリー表示内のポップアップメニュー

ツリー表示内で右ボタンをクリックすると、ポップアップメニューが表示されます。



・横断方向、測点名形式の異なる路線は同時に出力できません。
平面線形、縦断線形、横断構築形状が作成されていないと出力できません。

表示方法の選択

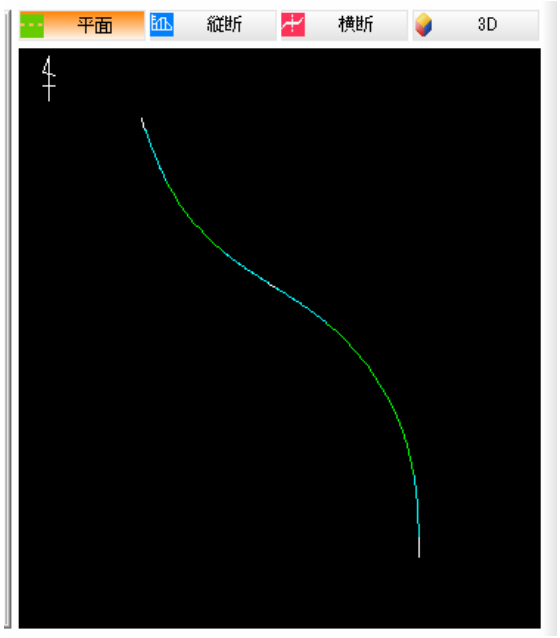
「全て ON」、「全て OFF」、「選択以外を OFF」のいずれかを選択すると、チェックマークの選択が切り替わります。

展開、閉じる

「全て展開」、「全て閉じる」のいずれかを選択すると、ツリー表示が変更されます。

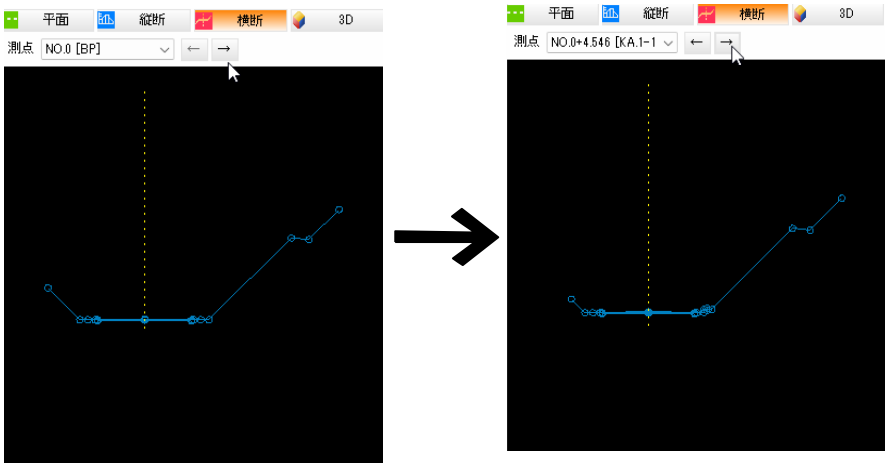
7 平面、縦断、横断、3D のプレビュー画面

ボタンをクリックするとそれぞれのプレビュー画面に切り替わります。



・出力する横断面が無い場合、チェック結果の「実行」選択時に「横断面がないため、出力を中断します。」とメッセージが表示されます。

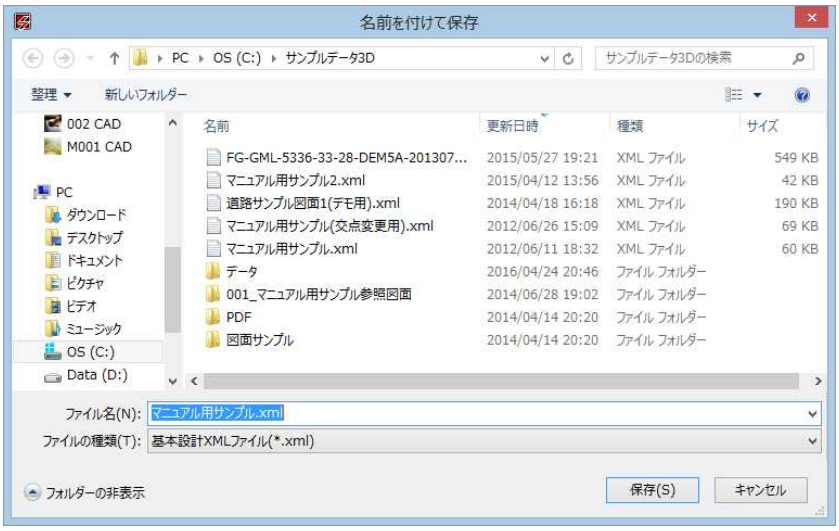
横断プレビューのみ、「測点」のドロップダウンリストから測点を選択、または[←]／[→]をクリックすることにより、プレビューも切り替わります。



8 「基本設計 XML 出力」ダイアログボックスで[出力]をクリックすると、エラーがある場合、「チェック結果」ダイアログボックスが表示されます。

[ログの表示]をクリックすると、エラーの内容が「エラーログ」ダイアログボックス内に表示されます。[OK]をクリックすると、「チェック結果」ダイアログボックスに戻ります。

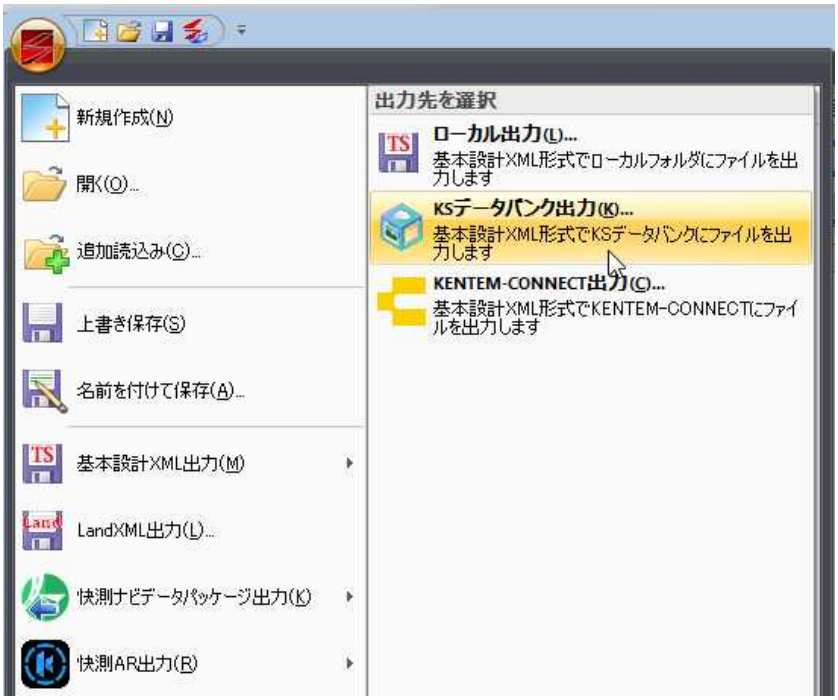
[中断]をクリックすると「基本設計 XML 出力」ダイアログボックスに戻ります。
[続行]をクリックすると「名前を付けて保存」ダイアログボックスが表示されます。



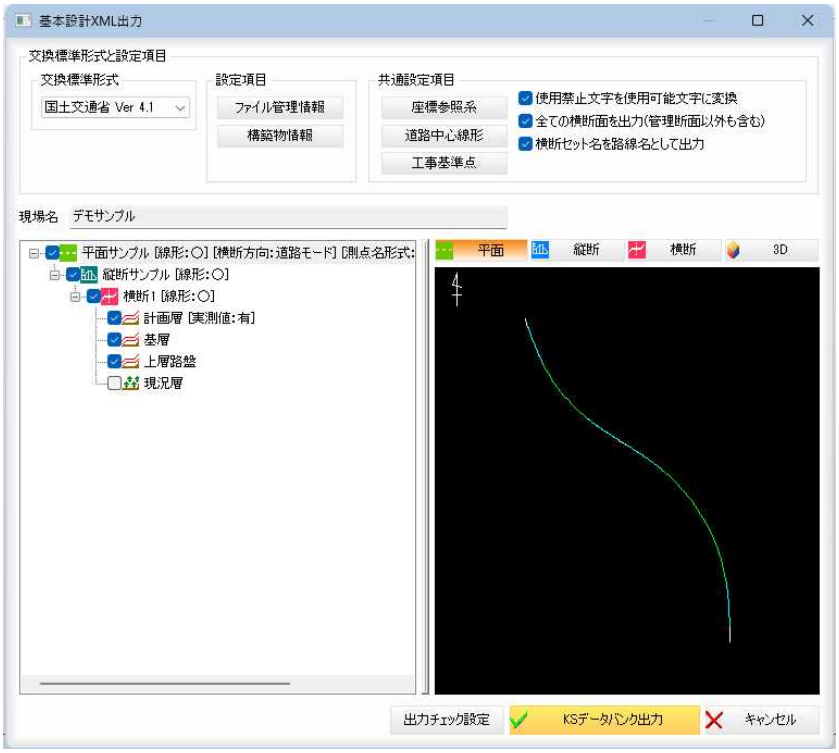
[保存]をクリックすると、各種の設定により基本設計 XML ファイルが出力されます。

● 基本設計 XML 出力－KS データバンク出力

1 アプリケーションメニューで[基本設計 XML 出力]－[KS データバンク出力]をクリックします。



2 「基本設計 XML 出力」ダイアログボックスが表示されます。



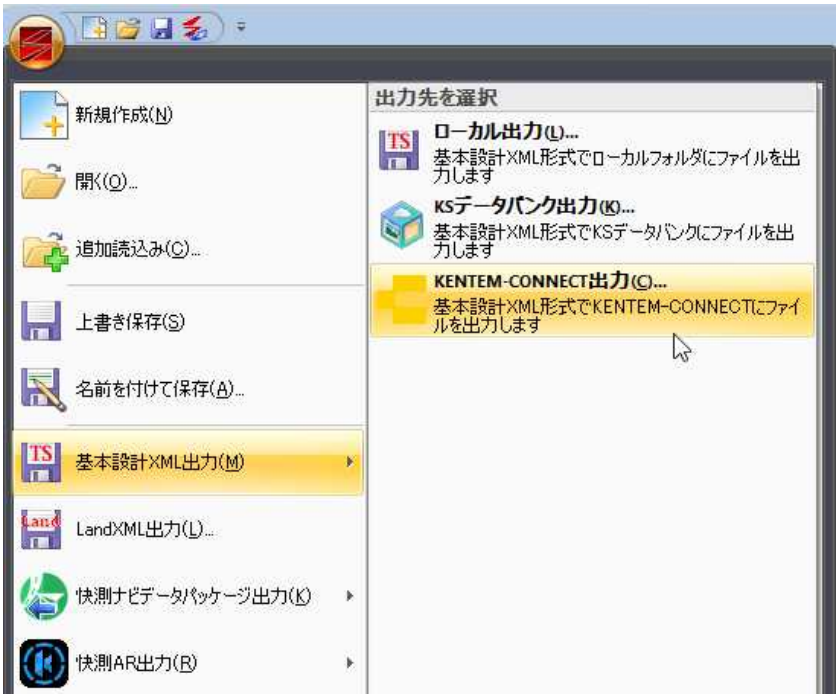
操作方法は、[アプリケーションメニュー]－[基本設計 XML 出力]－[ローカル出力]と同様です。 **⇒参照ページへ**

3 「基本設計 XML 出力」ダイアログボックスで各種の設定を行い、[KS データバンク出力]をクリックすると、「ログイン」ダイアログボックスが表示されます。ID とパスワードを入力し、[ログイン]をクリックすると、KS データバンク出力画面へ移行します。

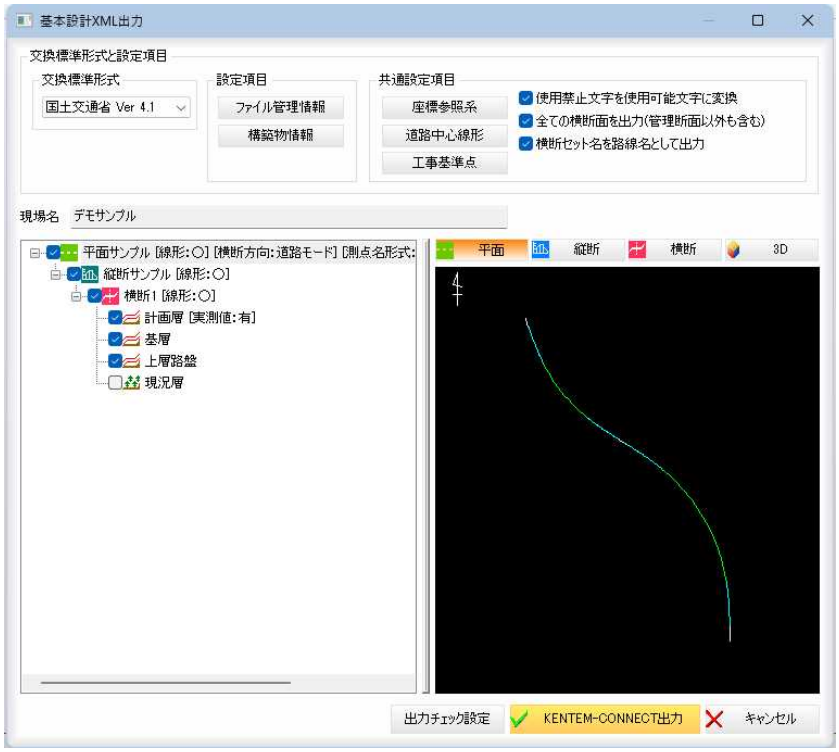
4 各種の出力処理が完了すると「基本設計 XML 出力」ダイアログボックスに戻ります。

● 基本設計 XML 出力－KENTEM-CONNECT 出力

1 アプリケーションメニューで[基本設計 XML 出力]－[KENTEM-CONNECT 出力]をクリックします。



2 「基本設計 XML 出力」ダイアログボックスが表示されます。



操作方法は、[アプリケーションメニュー]－[基本設計 XML 出力]－[ローカル出力]と同様です。**⇒参照ページへ**

3 「基本設計 XML 出力」ダイアログボックスで各種の設定を行い、[KENTEM-CONNECT 出力]をクリックすると、「ログイン」ダイアログボックスが表示されます。ID とパスワードを入力し、[ログイン]をクリックすると、KENTEM-CONNECT 出力画面へ移行します。

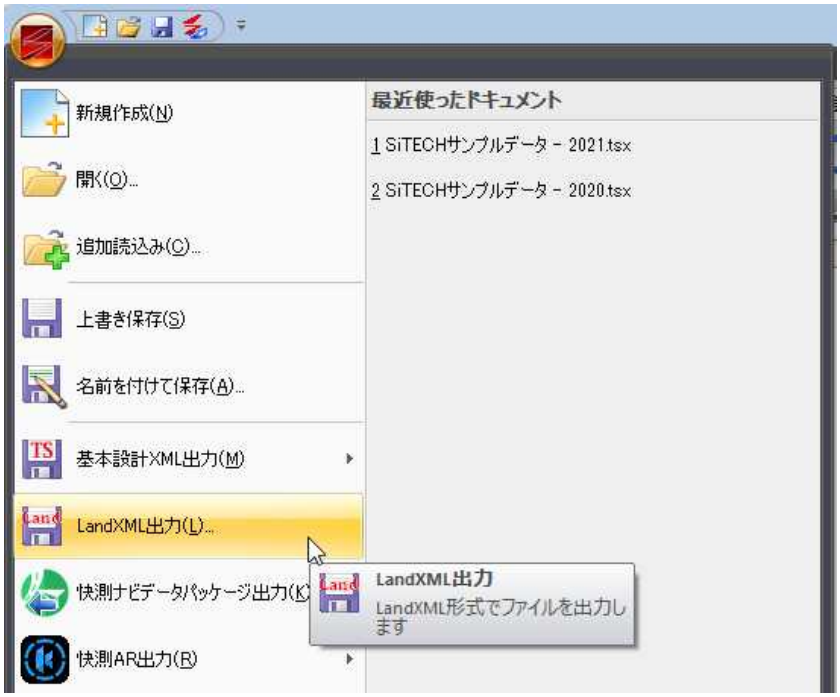
4 各種の出力処理が完了すると「基本設計 XML 出力」ダイアログボックスに戻ります。

LandXML 出力

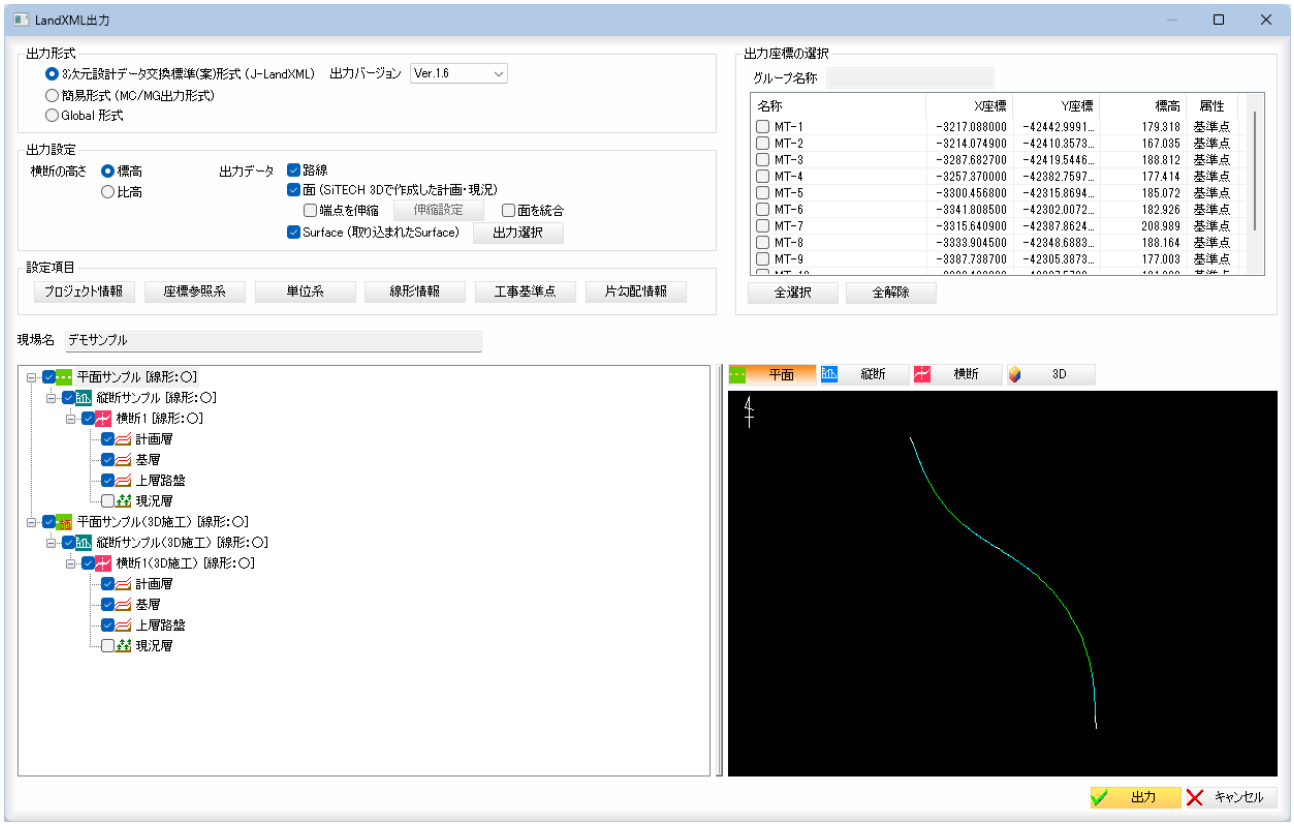
アプリケーションメニュー内の[LandXML 出力]をクリックし、LandXML 形式でファイルを出力します。

● LandXML 出力

1 アプリケーションメニューで[LandXML 出力]をクリックします。



2 「LandXML 出力」ダイアログボックスが表示されます。



3 出力形式・出力設定(横断の高さ・出力データ)の選択

「出力形式」、「横断の高さ」、「出力データ」それぞれいずれかのラジオボタン・チェックボックスをクリックして選択します。

■出力形式

「出力形式」では、「3 次元設計データ交換標準(案)形式(J-LandXML)」、「簡易形式(MC/MG 出力形式)」、「Global 形式」のいずれかを選択します。
「3 次元設計データ交換標準(案)形式(J-LandXML)」を選択した場合は、「出力バージョン」ドロップダウンリストが有効になり、「Ver.1.3」、「Ver.1.4」、「Ver.1.5」、「Ver.1.6」のいずれかが選択可能になります(初期値は Ver.1.6)。
また、「設定項目」の[片勾配情報]ボタンが有効になります。

■出力設定

横断の高さ

「横断の高さ」では、「標高」、「比高」のいずれかを選択します。

出力データ

「出力データ」では、「路線」、「面(SiTECH 3D で作成した計画・現況)」、「Surface(取り込まれた Surface)」のいずれかの出力データのチェックボックスをオンにします。

<出力設定 ― 出力データ ― 面>

面の端点伸縮

出力設定で「面(SiTECH 3D で作成した計画・現況)」が ON の時のみ、面の端点伸縮の設定を行うことができます。
「端点を伸縮」チェックマークをオンにすると、横断データに対して横断属性と距離を指定し、一括で構成点を追加して伸縮します。

伸縮設定

[伸縮設定]をクリックすると「伸縮設定」ダイアログボックスが表示されます。

・「伸縮設定」ダイアログボックス内に表示される「法面」、「小段」、「道路面・その他」は、[横断]タブの横断セット新規作成時の「横断属性設定」ダイアログボックス内の分類です。

外側、内側の距離設定
左側横断、右側横断それぞれに、横断データに対して横断属性と距離を指定します。チェックマークをオンにすると、「法面」、「小段」、「道路面・その他」の各入力欄内に距離を入力することができます。

左右の設定を同期する
「左右の設定を同期する」チェックマークをオンにすると、左側・右側どちらかの設定をもう一方の側の数値にも同期します。初期値はオフです。

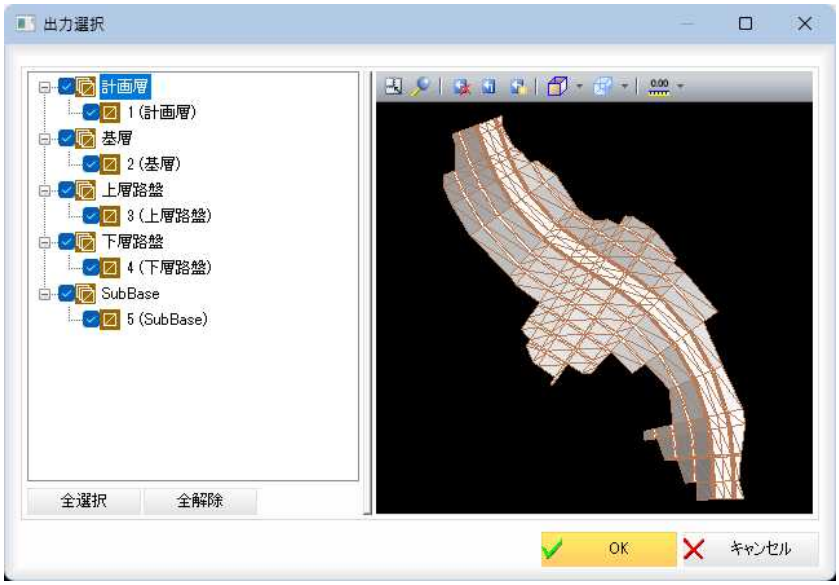
伸縮した構成点を追加する
「伸縮した構成点を追加する」チェックマークをオンにすると、伸縮設定を行った点を追加します。初期値はオンです。オフの場合は、追加せずに構成点を移動します。
「伸縮設定」ダイアログボックスで[OK]をクリックすると、「LandMXL 出力」ダイアログボックスに戻ります。

面を統合
すべての Surface を一つの Surface として統合して出力します。

＜出力設定 ― 出力データ ― Surface(取り込まれた Surface)＞

取り込まれた Surface データがあり、出力形式で「Global 形式」、「3 次元設計データ交換標準(案)形式」を選択した場合のみ、「LandMXL 出力」ダイアログボックスで、「Surface(取り込まれた Surface)」チェックボックスのオン・オフが選択できます。

出力選択
[出力選択]をクリックすると surface をもっているデータのみ、「出力選択」ダイアログボックスが表示されます。



左側のツリー表示には Surface の情報が表示されますので、チェックマークにより選択します。右側の 3D ビューには出力内容が表示されます。

３Dビュー

操作方法はプレビュー画面の３Ｄビューと同様です。**⇒参照ページへ**

「出力選択」ダイアログボックスで[OK]をクリックすると、「LandXML 出力」ダイアログボックスに戻ります。

4 設定項目の選択

各ボタンをクリックし、各種の設定を行います。

[プロジェクト情報]

「LandXML 出力」ダイアログボックスで[プロジェクト情報]をクリックすると、「プロジェクト情報」ダイアログボックスが表示されます。

名称
「名称」欄にはプロジェクト名を入力します。
「事業段階」はドロップダウンリストよりいずれかを選択します。
データ作成者情報
「データ作成者情報」一覧内の「会社名」、「作成者名」それぞれ、入力欄内に文字列を入力します。

入力した LandXML ファイルの情報
LandXML ファイルを読込んだ場合には、読込んだファイルに記述されているアプリケーション情報、適用基準が表示されます。
[OK]をクリックすると、「LandXML 出力」ダイアログボックスに戻ります。

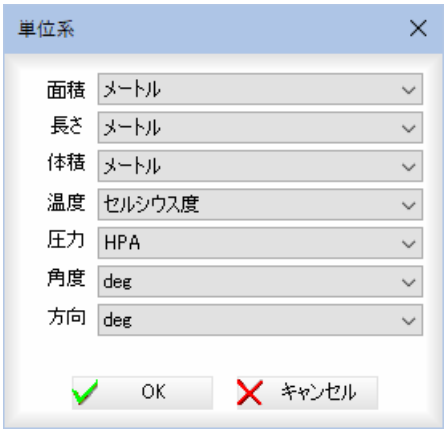
[座標参照系]

「LandXML 出力」ダイアログボックスで[座標参照系]をクリックすると、「座標参照系」ダイアログボックスが表示されます。

「測地原子」、「鉛直原子」はそれぞれドロップダウンリストより選択します。
「TP との標高差」は、鉛直原子を選択すると設定されます。
「水平座標系」はドロップダウンリストより選択します。
水平座標系ドロップダウンリスト下のリンクをクリックすると、説明 HP が表示されます。
[OK]をクリックすると、「LandXML ファイル出力」ダイアログボックスに戻ります。

[単位系]

「LandXML 出力」ダイアログボックスで[単位系]をクリックすると、「単位系」ダイアログボックスが表示されます。



「面積」、「長さ」、「体積」、「温度」、「圧力」、「角度」、「方向」それぞれドロップダウンリストよりいずれかを選択します。

[線形情報]

「LandXML 出力」ダイアログボックスで[線形情報]をクリックすると「線形情報」ダイアログボックスが表示されます。

平面線形名称

「平面線形名称」ドロップダウンリストより選択します。

路線名称・線形情報名称

それぞれ入力欄内に名称を入力します。

線形情報(道路モード)

ツリー表示内で「道路モード」の平面を選択している場合、[線形情報]をクリックすると、線形情報(道路モード)の設定が有効になります。

「道路規格」、「設計速度」はドロップダウンリストからいずれかを選択します。

「設計交通量」には、１日あたりの台数を入力します。

[OK]をクリックすると、「LandXML ファイル出力」ダイアログボックスに戻ります。

・ツリー表示内で「道路モード」の平面を選択している場合には、線形情報(道路モード)の設定が有効になり、線形情報(河川モード)の設定は無効になります。
「河川モード」の平面を選択している場合には、線形情報(河川モード)の設定が有効になり、線形情報(道路モード)の設定は無効になります。

線形情報(河川モード)

ツリー表示内で「河川モード」の平面を選択している場合、[線形情報]をクリックすると、線形情報(河川モード)の設定が有効になります。

「河川規格」は、ドロップダウンリストからいずれかを選択します。

「左右岸区分」は、左岸か右岸のいずれかのラジオボタンをクリックして選択します。

「線形情報」ダイアログボックスで[OK]をクリックすると、「LandXML 出力」ダイアログボックスに戻ります。

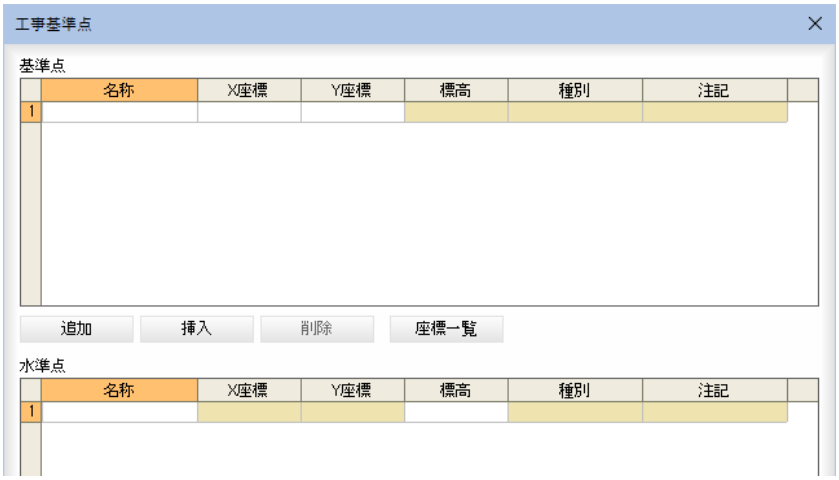
<伸縮の進行方向>

面の端部伸縮において、河川モードの路線を出力する場合に、端点伸縮処理にて上流から下流を進行方向とした伸縮を行います。

〈左右どちらか片方の面のみが存在〉
面の端部伸縮において、左右どちらか片方の面のみが存在していた場合に、CL 点から作成されている面も内側の伸縮を行います。

[工事基準点]

「LandXML 出力」ダイアログボックスで「工事基準点」をクリックすると、「工事基準点の設定」ダイアログボックスが表示されます。
基準点、水準点それぞれ「名称」、「X座標」、「Y座標」、「標高」、「注記」入力欄にデータを手入力、または座標一覧から取込みます。「種別」は、ドロップダウンリストよりいずれかの種別を選択します。

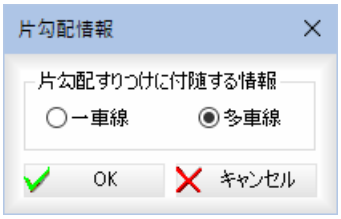


座標一覧からの取り込み方法は、座標入力欄内をクリックし、[座標一覧]ボタンをクリックすると「座標参照」ダイアログボックスが表示されますので、いずれかの座標をクリックして選択します。[OK]をクリックすると、選択中の座標が「工事基準点」ダイアログボックス内の座標に取り込まれます。

「工事基準点」ダイアログボックスで[OK]をクリックすると、「LandXML 出力」ダイアログボックスに戻ります。

[片勾配情報]

「LandXML 出力」ダイアログボックスで「3 次元設計データ交換標準(案)形式」を選択した場合のみ、「設定項目」の[片勾配情報]ボタンが有効になります。
「片勾配情報」をクリックすると、「片勾配情報」ダイアログボックスが表示されます。

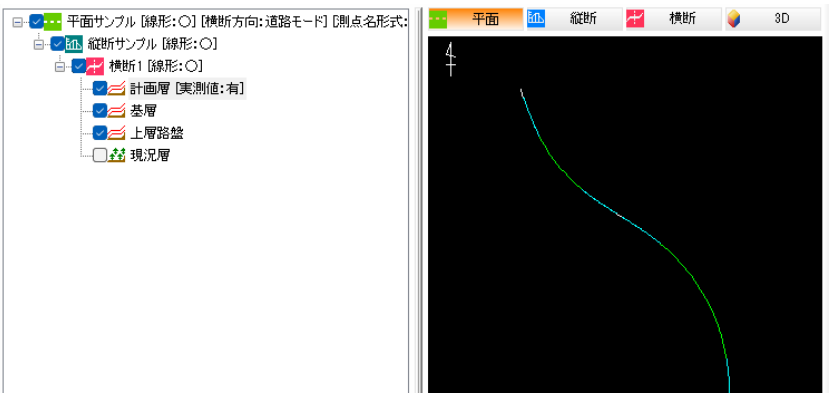


「一車線」、「多車線」いずれかのラジオボタンをクリックして選択します。[OK]をクリックすると、「LandXML 出力」ダイアログボックスに戻ります。

5 出力座標の選択

グループ名称
いずれかの座標を選択すると「グループ名称」入力欄内に文字列を入力することができます。
「座標の選択」
「名称」のチェックマークをクリックして座標を選択します。Shift または Ctrl キーを押しながら複数選択することも可能です。
[全選択]／[全解除]
表示中の項目すべてのチェックマークをオン、またはオフにします。

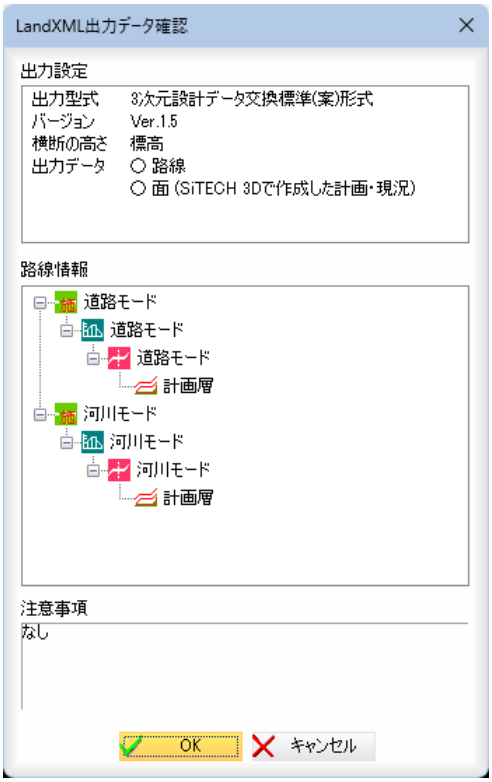
6 平面・縦断・横断構築形状の選択、プレビュー画面



「LandXML 出力」ダイアログボックスで、ツリー表示内チェックマークのオン・オフにより、出力するデータを選択することができます。
プレビュー画面では、平面、縦断、横断、3D のプレビューを切り替えることができます。

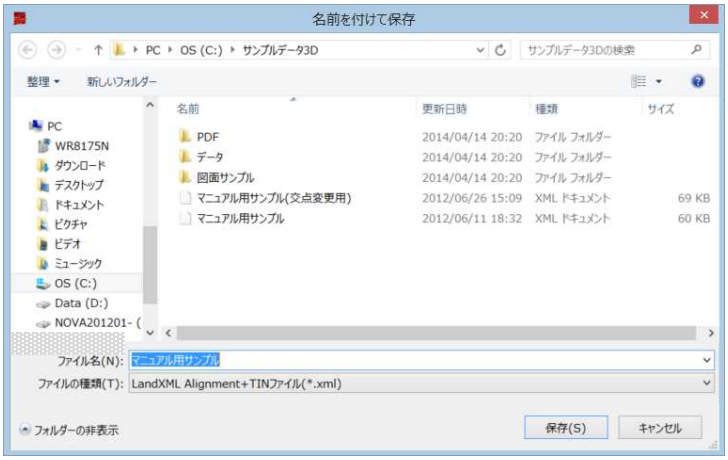
平面・縦断・横断構築形状の選択、プレビュー画面の操作方法は、[アプリケーションメニュー]－[基本設計 XML 出力]－[ローカル出力]と同様です。
⇒参照ページへ

7 「LandXML 出力」ダイアログボックスで[出力]をクリックすると、「LandXML 出力データ確認」ダイアログボックスが表示されます。



注意事項欄には、出力データに対して注意事項が発生した場合に、その旨の内容が表示されます。

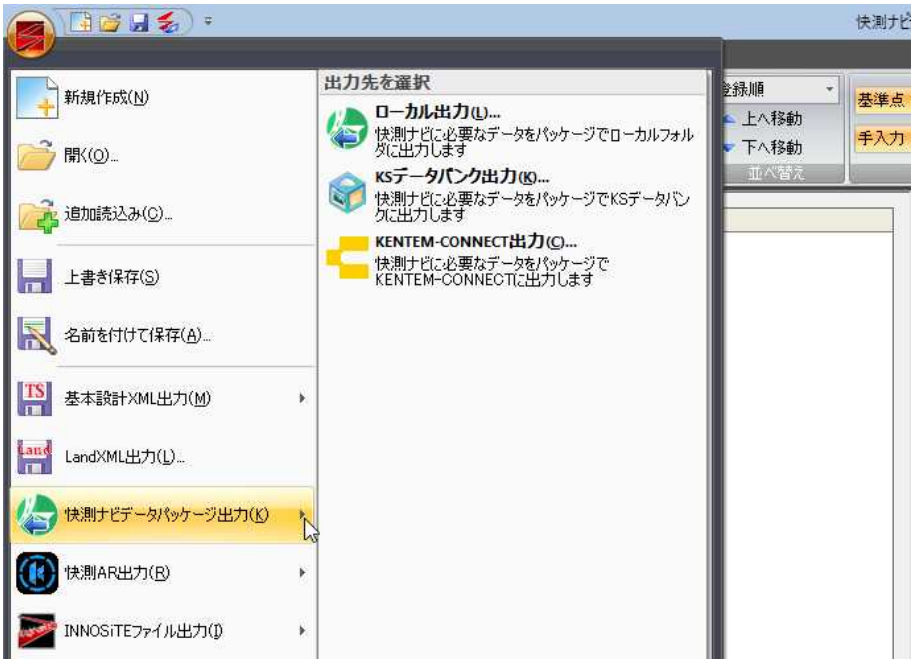
8 「LandXML 出力データ確認」ダイアログボックスで[OK]をクリックすると、ファイル保存ダイアログボックスが表示されます。



[保存]をクリックすると、各種の設定により LandXML ファイルが出力されます。

快測ナビデータパッケージ出力

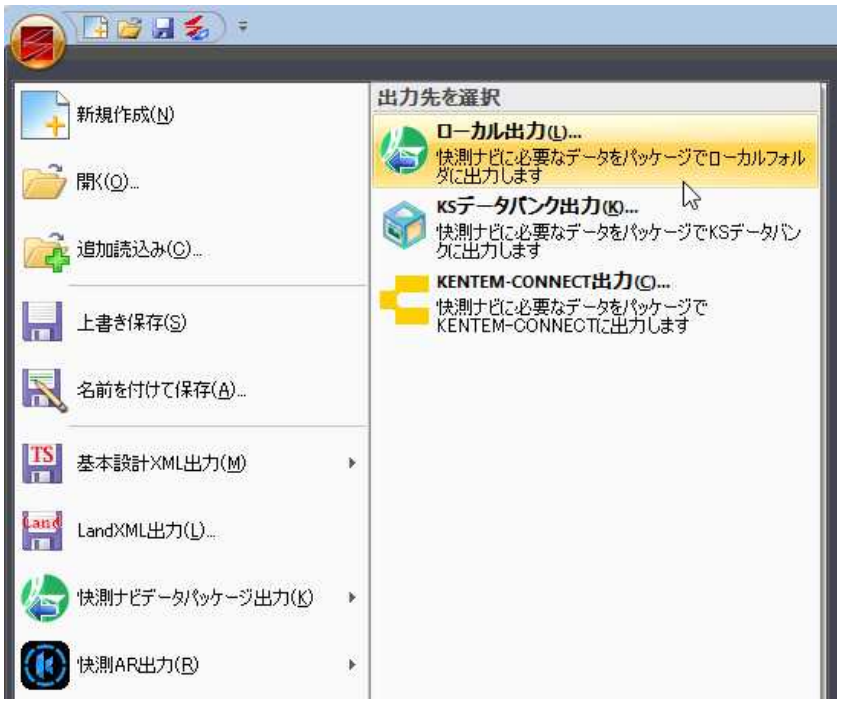
アプリケーションメニュー内の[快測ナビデータパッケージ出力]をクリックし、ローカル出力、KS データバンク出力、KENTEM-CONNECT 出力のいずれかをクリックして処理を行います。



以下、各種「快測ナビデータパッケージ出力」の操作方法について説明します。

● 快測ナビデータパッケージ出力－ローカル出力

1 アプリケーションメニューで[快測ナビデータパッケージ出力]－[ローカル出力]をクリックします。



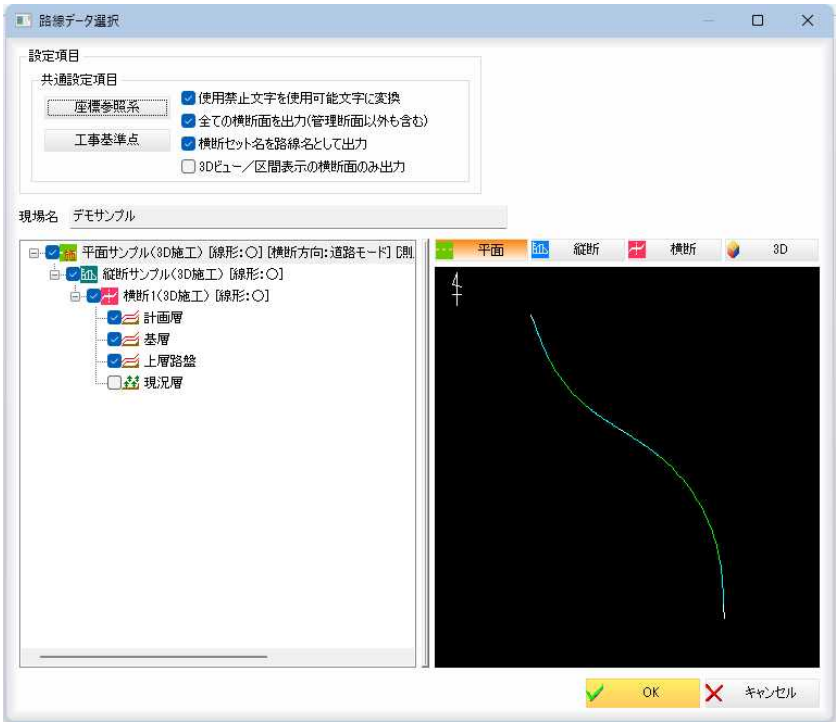
2 「快測ナビデータパッケージ出力」ダイアログボックスが表示されます。

対象のチェックマークのオン・オフにより、データを設定したパッケージで出力することができます。

以下、各セット内容ごとに説明します。

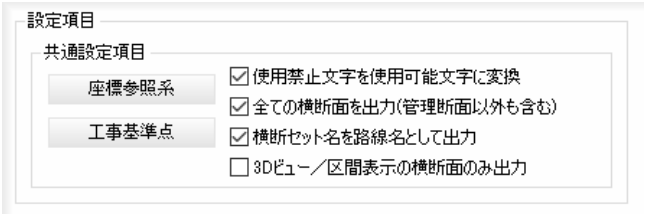
[路線データ]

1 「快測ナビデータパッケージ出力」ダイアログボックスで[路線データ]をクリックすると、「路線データ選択」ダイアログボックスが表示されます。



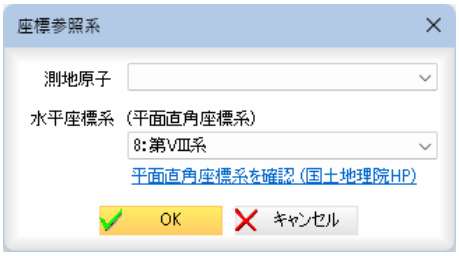
2 共通設定項目

各出力形式共通の設定項目です。



座標参照系

「座標参照系」をクリックすると、「座標参照系」ダイアログボックスが表示されます。



「測地原子」、「水平座標系」をドロップダウンリストよりいずれかを選択します。
水平座標系ドロップダウンリスト下のリンクをクリックすると、説明 HP が表示されます。
[OK]をクリックすると「路線データ選択」ダイアログボックスに戻ります。

工事基準点

「工事基準点」をクリックすると、「工事基準点」ダイアログボックスが表示されます。
操作方法は、「基本設計 XML 出力」ダイアログボックスと同様です。
[OK]をクリックすると「路線データ選択」ダイアログボックスに戻ります。

使用禁止文字を使用可能文字に変換する

チェックマークをオンにすると、全ての使用禁止文字を使用可能文字に変換して出力します。
チェックマークをオフにすると、文字変換せずにそのまま出力します。

全ての横断面を出力する（管理断面以外も含む）

チェックマークをオンにすると、管理断面設定オフの横断面も出力します。
チェックマークをオフにすると、管理断面設定オフの横断面は出力しません。

横断セット名を路線名として出力する

チェックマークをオンにすると、横断セット名を路線名として出力します。

３Dビュー／区間表示の横断面のみ出力

チェックマークをオンにすると、３Dビューの区間表示の横断面のみ出力します。

3 平面・縦断・横断構築形状の選択、プレビュー画面

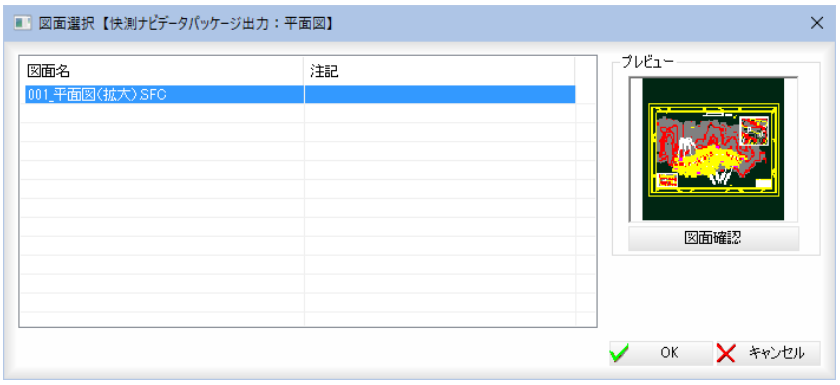
「LandXML 出力」ダイアログボックスで、ツリー表示内チェックマークのオン・オフにより、出力するデータを選択することができます。
プレビュー画面では、平面、縦断、横断、3D のプレビューを切り替えることができます。

平面・縦断・横断構築形状の選択、プレビュー画面の操作方法は、[アプリケーションメニュー]－[基本設計 XML 出力]－[ローカル出力]と同様です。
⇒参照ページへ

4 「路線データ選択」ダイアログボックスで[OK]をクリックすると、「快測ナビデータパッケージ出力」ダイアログボックスに戻ります。

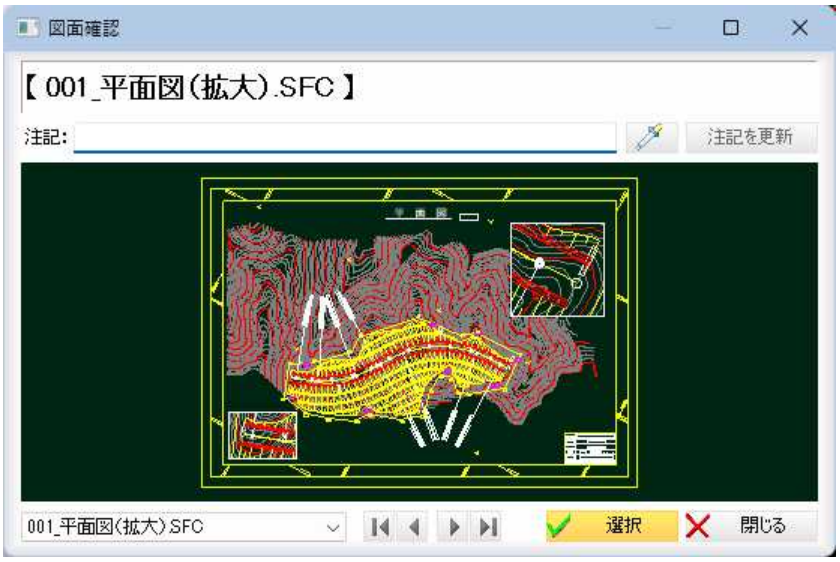
[平面図]

1 「快測ナビデータパッケージ出力」ダイアログボックスで[平面図]をクリックすると、「図面選択【快測ナビデータパッケージ出力:平面図】」ダイアログボックスが表示されます。



「図面の選択」
一覧から対象の図面をクリックして選択します。

図面確認
プレビューの下の[図面確認]をクリックすると「図面確認」ダイアログボックスが表示されます。



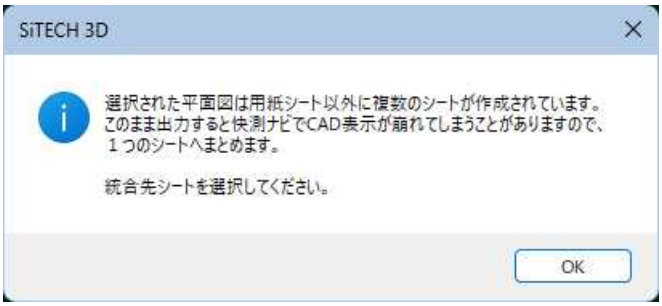
注記
「注記」入力欄内に文字列を入力・変更します。

(スポイトボタン)をクリックすると、図面内の文字抽出モードとなりますので、いずれかの文字列をクリックします。入力欄内に文字列が追加されます。
[注記を更新]をクリックすると、確認メッセージが表示されますので、[OK]をクリックすると、注記文字列が更新されます。

参照図面の切り替え
図面名のドロップダウンリストまたは をクリックして図面ファイルの切り替えを行います。

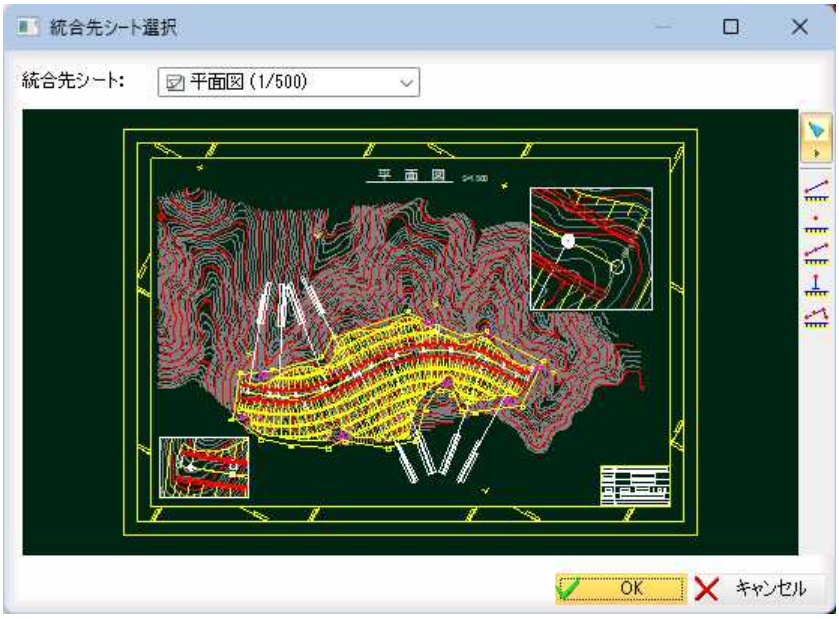
[選択]をクリックすると、「図面選択【快測ナビデータパッケージ出力:平面図】」ダイアログボックスに戻ります。

2 「図面選択【快測ナビデータパッケージ出力:平面図】」ダイアログボックスで[OK]をクリックすると、図面に複数のシートが存在する場合は確認のメッセージが表示されます。



[OK]をクリックすると、「統合先シート選択」ダイアログボックスが表示されます。

・「統合先シート」を選択した場合、他のシート上の要素は「統合先シート」に合わせて変換されます。



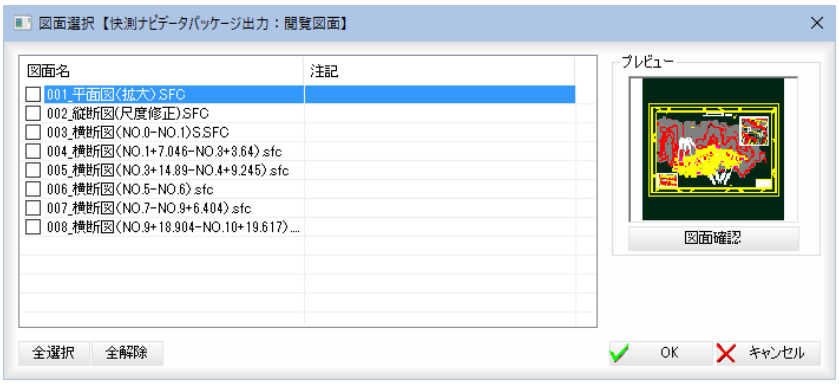
統合先シート
「統合先シート」ドロップダウンリストよりいずれかのシートを選択します。

スナップ／計測（２点間距離・座標・２点間距離(延長)・標高(DL)・道のり)
ダイアログボックス右側のツールバーよりスナップ、各種の計測処理を行います。操作方法は、参照図面内の各コマンドと同様です。

「統合先シート選択」ダイアログボックスで[OK]をクリックすると、「快測ナビデータパッケージ出力」ダイアログボックスに戻ります。

[閲覧図面]

1 「快測ナビデータパッケージ出力」ダイアログボックスで[閲覧図面]をクリックすると、「図面選択【快測ナビデータパッケージ出力:閲覧図面】」ダイアログボックスが表示されます。



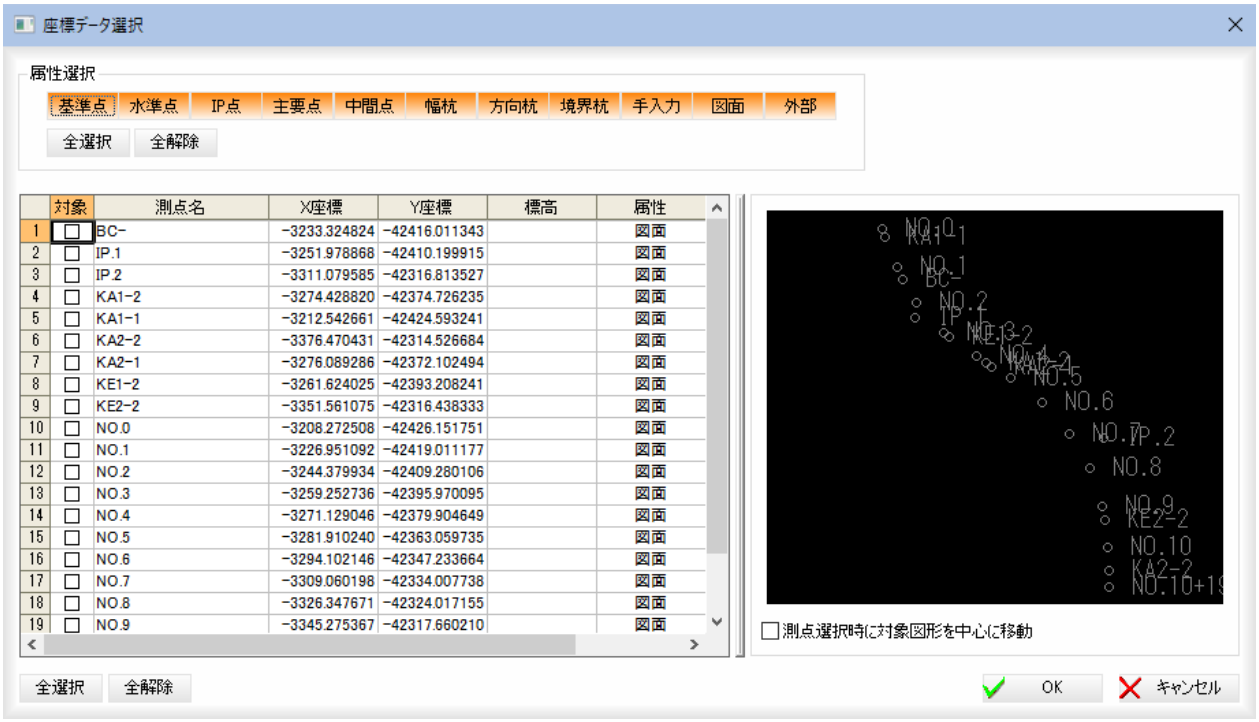
図面の選択
「図面名」のチェックマークをクリックして図面を選択します。
[全選択]／[全解除]
表示中の項目すべてのチェックマークをオン、またはオフにします。

[図面確認]の操作は、「図面選択【快測ナビデータパッケージ出力:平面図】」ダイアログボックスと同様です。

2 「図面選択【快測ナビデータパッケージ出力:閲覧図面】」ダイアログボックスで[OK]をクリックすると、「快測ナビデータパッケージ出力」ダイアログボックスに戻ります。

[座標データ]

1 [座標データ]をクリックすると、「座標データ選択」ダイアログボックスが表示されます。属性選択、測点一覧表示、測点プレビューが表示されます。



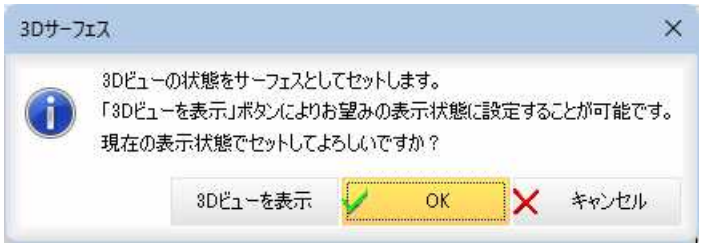
属性選択
いずれかの属性名をクリックし、選択します。

[全選択]／[全解除]
属性をすべて選択、またはすべて選択解除することができます。
測点の選択
チェックマークをオンにして測点を選択します。
[全選択]／[全解除]
一覧表示内のすべてのチェックマークをオン、またはオフにします。
測点選択時に対象図形を中心に移動
「測点選択時に対象図形を中心に移動」チェックマークをオンにすると、一覧内で選択した測点が座標表示ウィンドウ内で中心になるように表示されます。

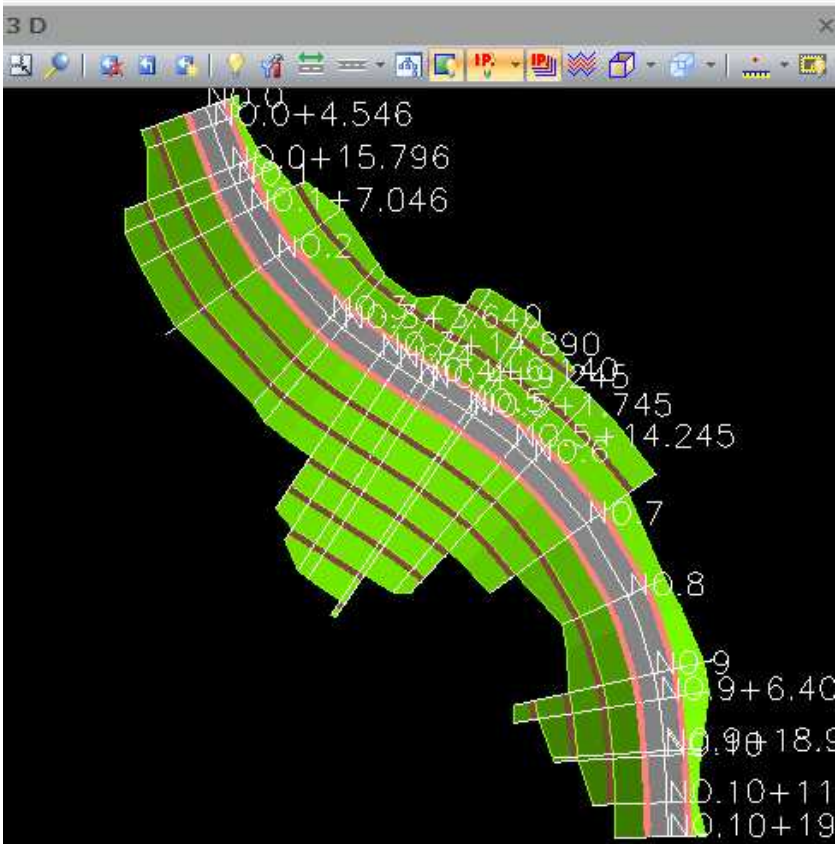
2 「座標データ選択」ダイアログボックスで[OK]をクリックすると、「快測ナビデータパッケージ出力」ダイアログボックスに戻ります。

[3Dサーフェス]

1 [3Dサーフェス]をクリックすると、「3Dサーフェス」ダイアログボックスが表示されます。



3D ビューを表示
[3D ビューを表示]をクリックすると、3D ビューが表示されます。



各種の表示コマンドによってサーフェスに出力する表示状態を設定することができます。

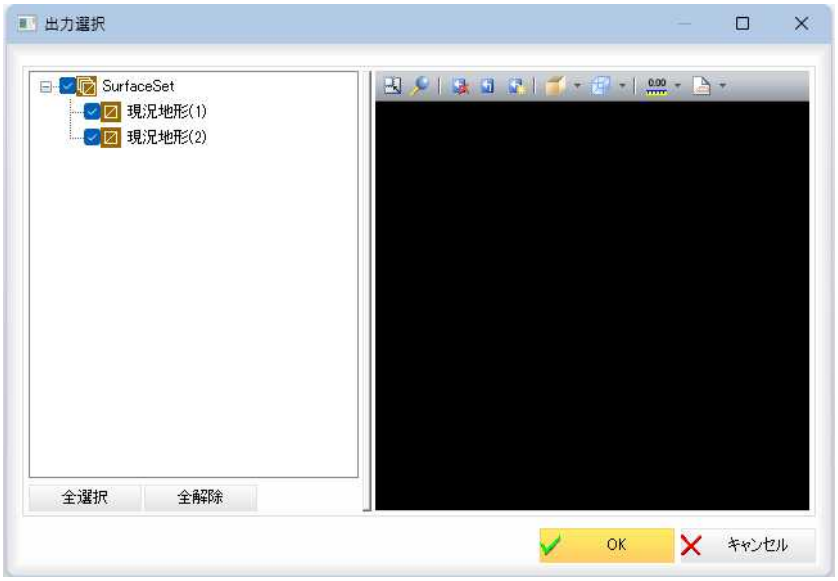
操作方法はプレビュー画面の３Ｄビューと同様です。⇒参照ページへ

をクリックすると、3D ビューの表示を終了し「３Dサーフェス」ダイアログボックスに戻ります。

2 「３Dサーフェス」ダイアログボックスで[OK]をクリックすると、「快測ナビデータパッケージ出力」ダイアログボックスに戻ります。

[現況サーフェス]

1 [現況サーフェス]をクリックすると、「出力選択」ダイアログボックスが表示されます。



左側のツリー表示には Surface の情報が表示されますので、チェックマークにより選択します。右側の 3D ビューには出力内容が表示されます。

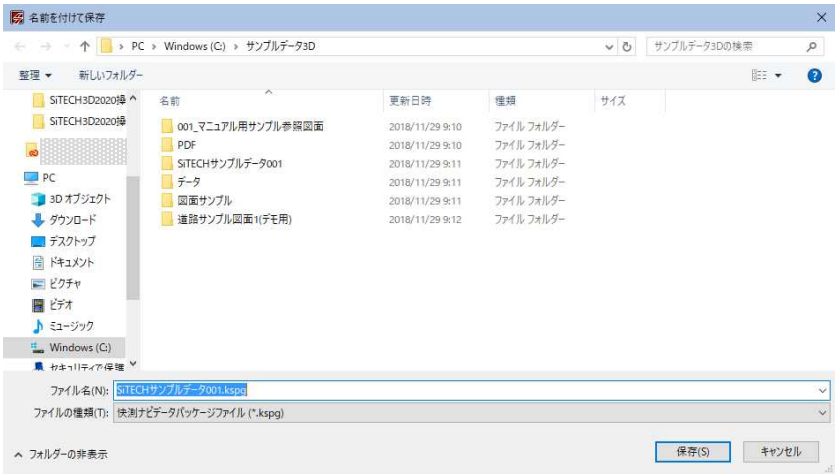
３Dビュー

操作方法はプレビュー画面の３Ｄビューと同様です。⇒参照ページへ

「出力選択」ダイアログボックスで[OK]をクリックすると、「快測ナビデータパッケージ出力」ダイアログボックスに戻ります。

[快測ナビデータパッケージ出力の実行]

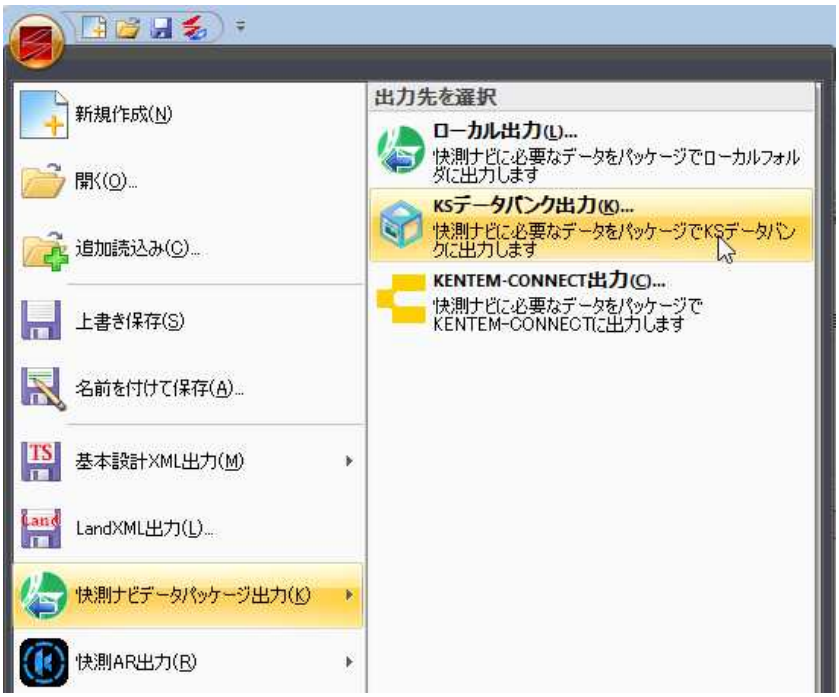
1 「快測ナビデータパッケージ出力」ダイアログボックスで[出力]をクリックすると、「名前を付けて保存」ダイアログボックスが表示されます。



2 [保存]をクリックすると、各種の設定により快測ナビデータパッケージファイルに出力されます。

● 快測ナビデータパッケージ出力－KS データバンク出力

1 アプリケーションメニューで[快測ナビデータパッケージ出力]－[KS データバンク出力]をクリックします。



2 「快測ナビデータパッケージ出力」ダイアログボックスが表示されます。

操作方法は[アプリケーションメニュー]－[快測ナビデータパッケージ出力]－[ローカル出力]と同様です。**⇒参照ページへ**

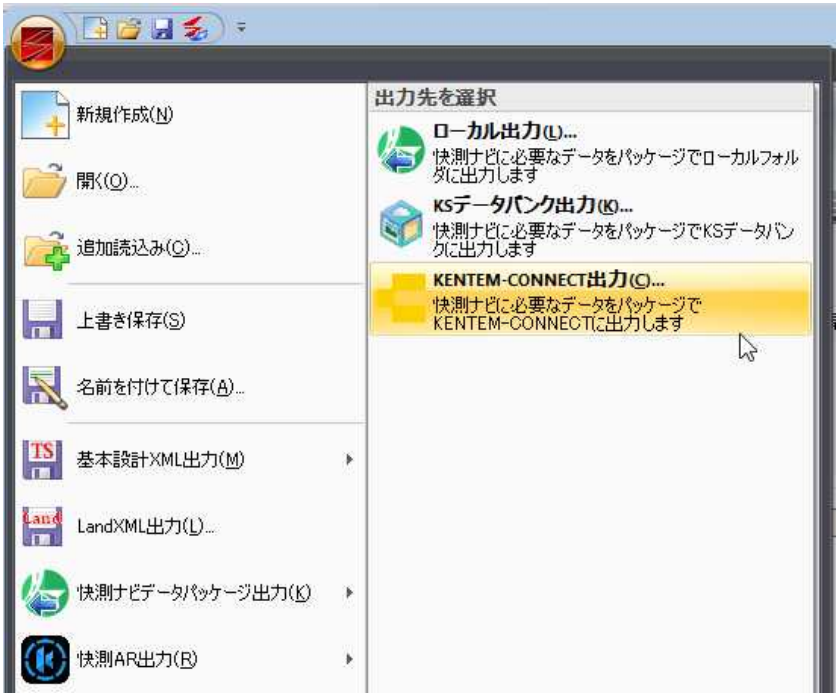
3 「快測ナビデータパッケージ出力」ダイアログボックスで各種の設定を行い、[KS データバンク出力]をクリックすると、「ログイン」ダイアログボックスが表示されます。

ID とパスワードを入力し、[ログイン]をクリックすると、KS データバンク出力画面へ移行します。

4 各種の出力処理が完了すると「快測ナビデータパッケージ出力」ダイアログボックスに戻ります。

● 快測ナビデータパッケージ出力－KENTEM-CONNECT 出力

1 アプリケーションメニューで[快測ナビデータパッケージ出力]－[KENTEM-CONNECT 出力]をクリックします。



2 「快測ナビデータパッケージ出力」ダイアログボックスが表示されます。

操作方法は[アプリケーションメニュー]－[快測ナビデータパッケージ出力]－[ローカル出力]と同様です。**⇒参照ページへ**

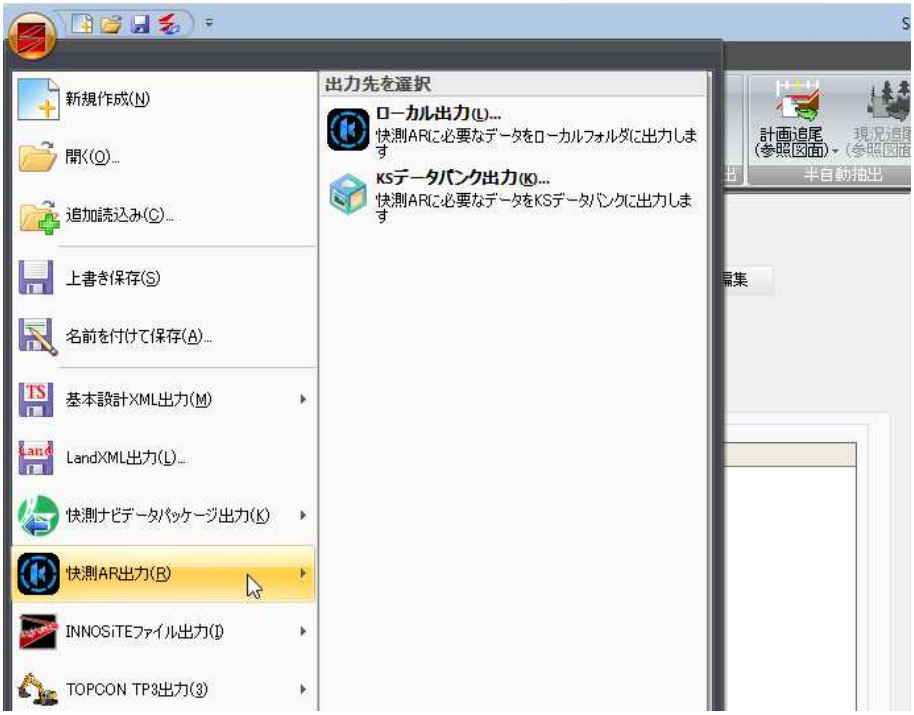
3 「快測ナビデータパッケージ出力」ダイアログボックスで各種の設定を行い、[KENTEM-CONNECT 出力]をクリックすると、「ログイン」ダイアログボックスが表示されます。

ID とパスワードを入力し、[ログイン]をクリックすると、KENTEM-CONNECT 出力画面へ移行します。

4 各種の出力処理が完了すると「快測ナビデータパッケージ出力」ダイアログボックスに戻ります。

快測 AR 出力

アプリケーションメニュー内の[快測 AR 出力]をクリックし、ローカル出力、KS データバンク出力のいずれかをクリックして処理を行います。

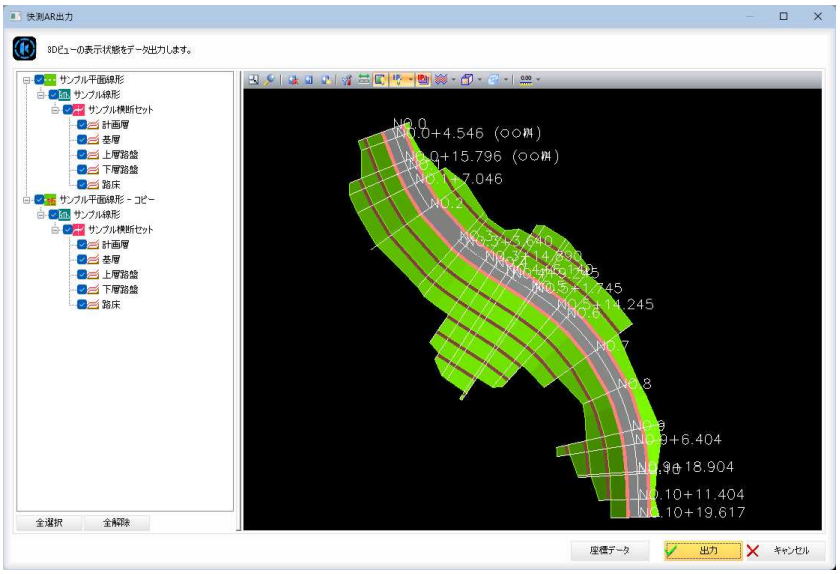


以下、各種「快測 AR 出力」の操作方法について説明します。

● 快測 AR 出力－ローカル出力

1 アプリケーションメニューで[快測 AR 出力]－[ローカル出力]をクリックします。

2 「快測 AR 出力」ダイアログボックスが表示されます。



出力データの選択

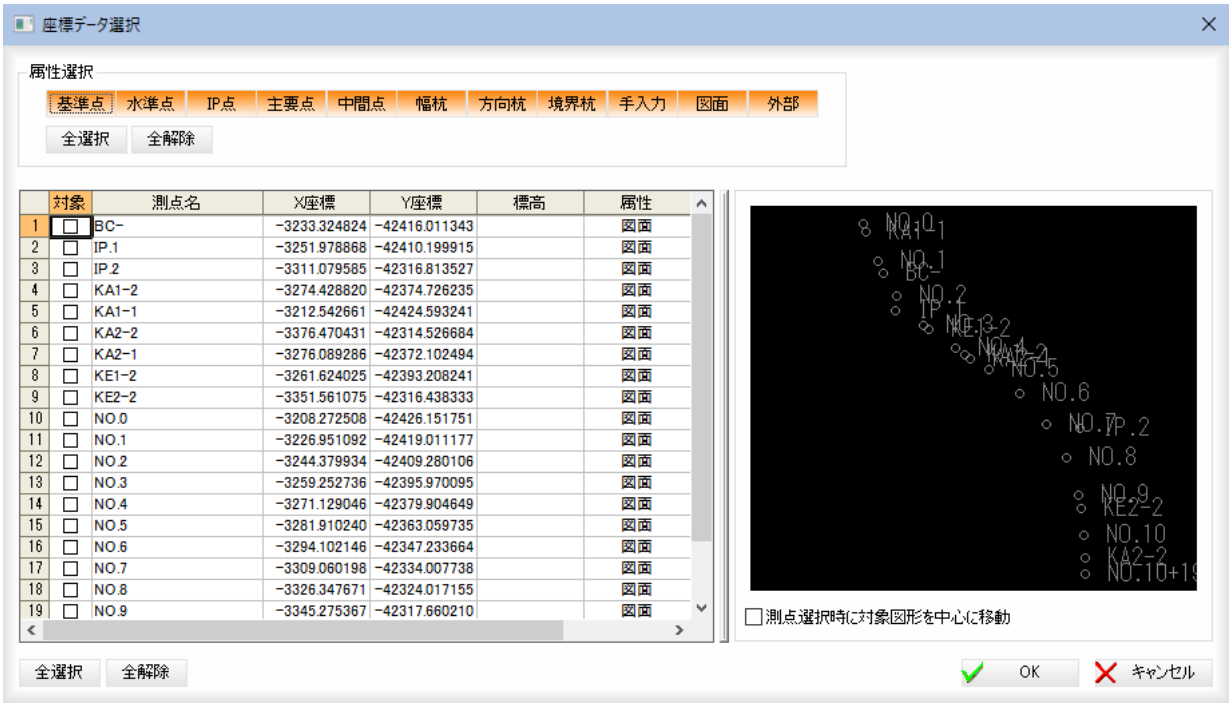
ツリー表示内チェックマークのオン・オフにより、出力するデータを選択することができます。

３Dビュー

操作方法はプレビュー画面の３Ｄビューと同様です。**⇒参照ページへ**

座標データ

[座標データ]をクリックすると、「座標データ選択」ダイアログボックスが表示されます。属性選択、測点一覧表示、測点プレビューが表示されます。



	対象	測点名	X座標	Y座標	標高	属性
1	☐	BC-	-3233.324824	-42416.011343		図面
2	☐	IP.1	-3251.978868	-42410.199915		図面
3	☐	IP.2	-3311.079585	-42316.813527		図面
4	☐	KA1-2	-3274.428820	-42374.726235		図面
5	☐	KA1-1	-3212.542661	-42424.593241		図面
6	☐	KA2-2	-3376.470431	-42314.526684		図面
7	☐	KA2-1	-3276.089286	-42372.102494		図面
8	☐	KE1-2	-3261.624025	-42393.208241		図面
9	☐	KE2-2	-3351.561075	-42316.438333		図面
10	☐	NO.0	-3208.272508	-42426.151751		図面
11	☐	NO.1	-3226.951092	-42419.011177		図面
12	☐	NO.2	-3244.379934	-42409.280106		図面
13	☐	NO.3	-3259.252736	-42395.970095		図面
14	☐	NO.4	-3271.129046	-42379.904649		図面
15	☐	NO.5	-3281.910240	-42363.059735		図面
16	☐	NO.6	-3294.102146	-42347.233664		図面
17	☐	NO.7	-3309.060198	-42334.007738		図面
18	☐	NO.8	-3326.347671	-42324.017155		図面
19	☐	NO.9	-3345.275367	-42317.660210		図面

属性選択

いずれかの属性名をクリックし、選択します。

[全選択]／[全解除]

属性をすべて選択、またはすべて選択解除することができます。

測点の選択

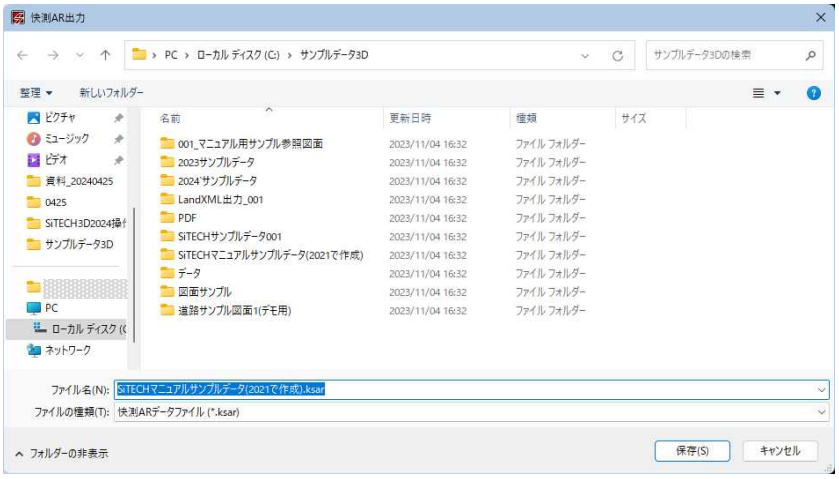
チェックマークをオンにして測点を選択します。

[全選択]／[全解除]
一覧表示内のすべてのチェックマークをオン、またはオフにします。

測点選択時に対象図形を中心に移動
「測点選択時に対象図形を中心に移動」チェックマークをオンにすると、一覧内で選択した測点が座標表示ウィンドウ内で中心になるように表示されます。

3 「座標データ選択」ダイアログボックスで[OK]をクリックすると、「快測 AR 出力」ダイアログボックスに戻ります。

4 「快測 AR 出力」ダイアログボックスで[出力]をクリックすると、「名前を付けて保存」ダイアログボックスが表示されます。

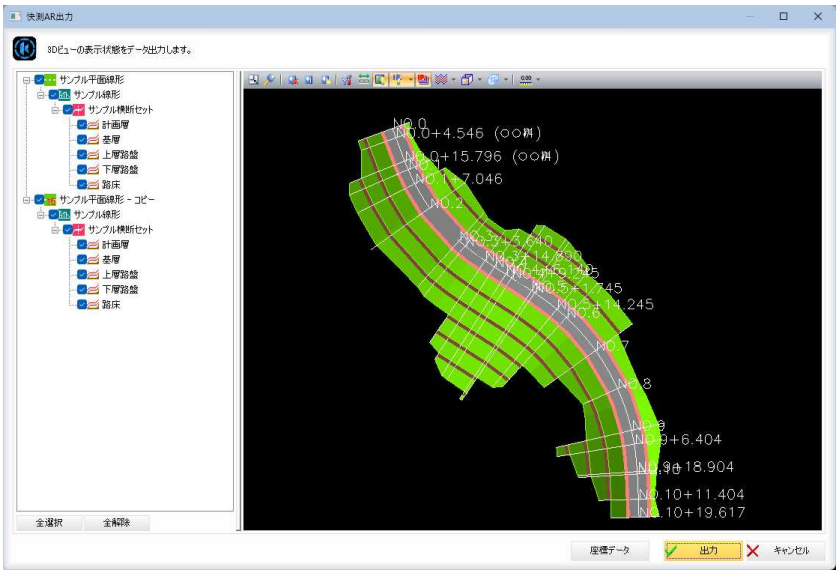


5 [保存]をクリックすると、各種の設定により快測 AR ファイルに出力されます。

● 快測 AR 出力－KS データバンク出力

1 アプリケーションメニューで[快測 AR 出力]－[KS データバンク出力]をクリックします。

2 「快測 AR パッケージ出力」ダイアログボックスが表示されます。



操作方法は、[アプリケーションメニュー]－[快測 AR 出力]－[ローカル出力]と同様です。⇒参照ページへ

3 「快測 AR 出力」ダイアログボックスで各種の設定を行い、[KS データバンク出力]をクリックすると、「ログイン」ダイアログボックスが表示されます。

ID とパスワードを入力し、[ログイン]をクリックすると、KS データバンク出力画面へ移行します。

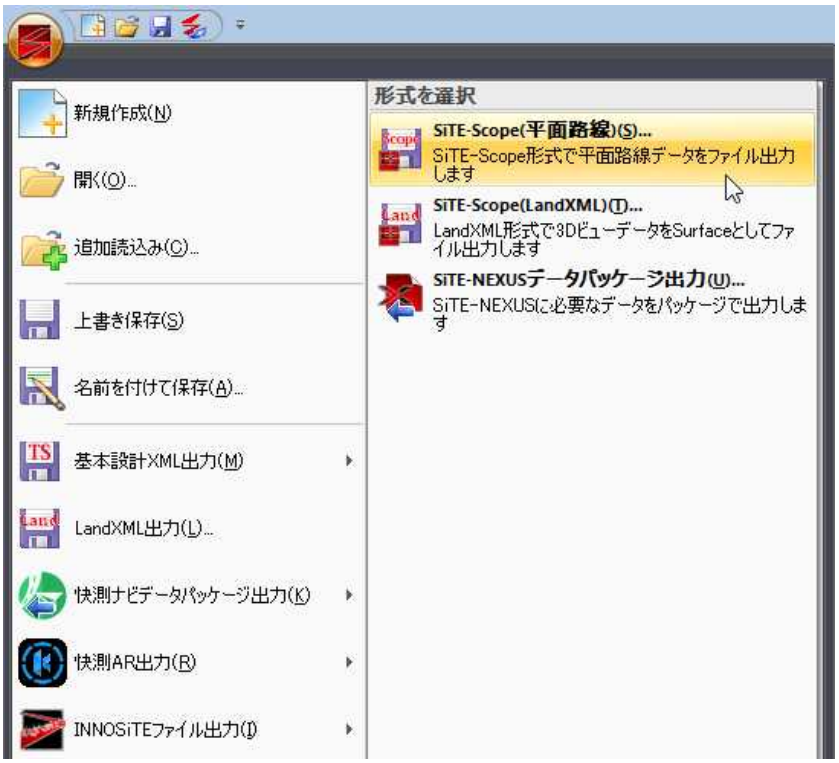
4 各種の出力処理が完了すると「快測 AR 出力」ダイアログボックスに戻ります。

INNOSiTE ファイル出力

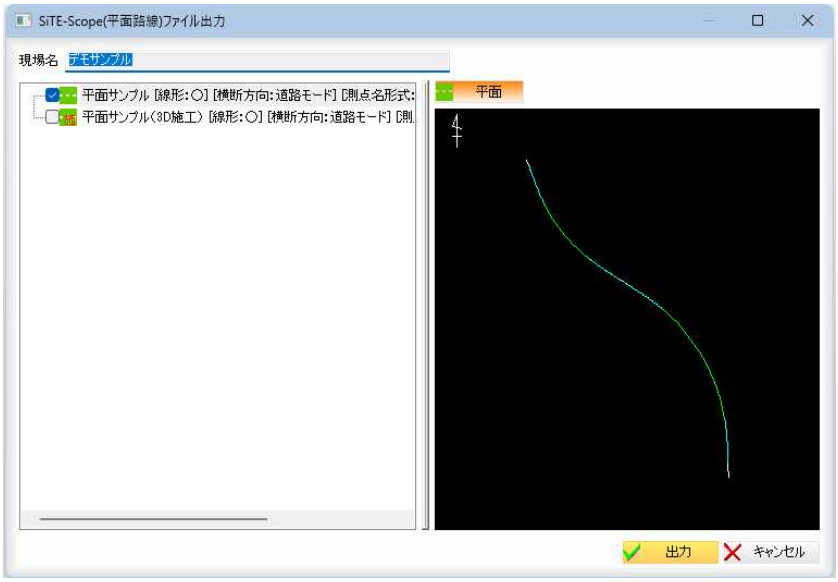
アプリケーションメニュー内の[INNOSiTE ファイル出力]をクリックし、SiTE-Scope(平面路線)、SiTE-Scope(LandXML)、SiTE-NEXSUS データパッケージ出力）のいずれかをクリックして処理を行います。

● INNOSiTE ファイル出力－SiTE-Scope(平面路線)ファイル出力

1 アプリケーションメニューで[INNOSiTE ファイル出力]－[SiTE-Scope(平面路線)]をクリックします。



2 「SiTE-Scope(平面路線)ファイル出力」ダイアログボックスが表示されます。

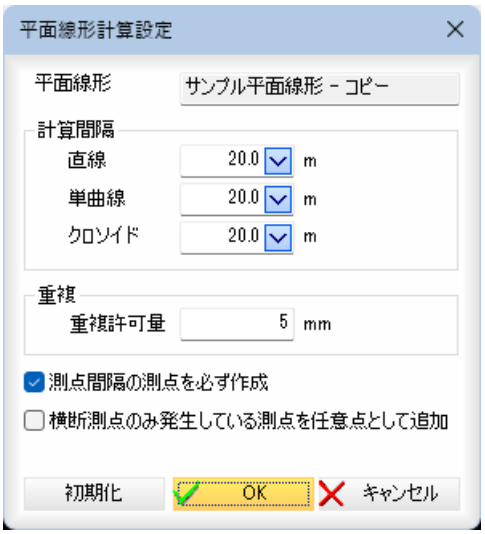


3 **平面の選択**

「SiTE-Scope(平面路線)ファイル出力」ダイアログボックスのツリー表示内チェックマークのオン・オフにより出力するデータを選択することができます。

平面プレビュー
平面プレビューが表示されます。

4 「SiTE-Scope(平面路線)ファイル出力」ダイアログボックスで[出力]をクリックすると、「平面線形計算設定」ダイアログボックスが表示されます。



平面線形名
平面線形名が表示されます。
計算間隔
「直線」、「単曲線」、「クロソイド」それぞれの計算間隔を m 単位で入力、またはドロップダウンリストより選択します。

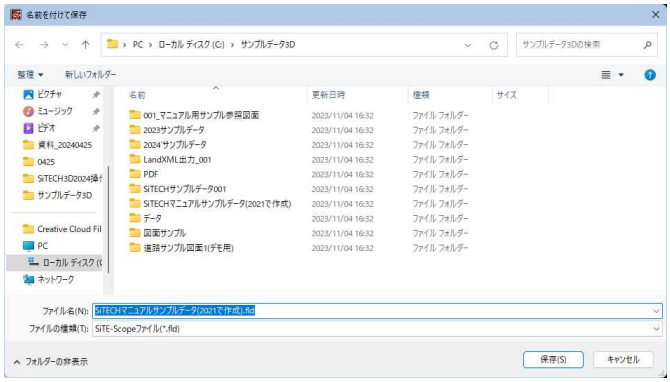
重複
「重複許可量」入力欄内に重複許可量を mm 単位で入力します。
入力データによっては、線形が重複する場合がありますが、その重複許可量を設定します。設定されている重複許可量を超える場合には、警告メッセージが表示されます。

測点間隔の測点を必ず作成
「測点間隔の測点を必ず作成」チェックマークをクリックすると、路線設定の測点間隔で設定されているピッチの測点を作成します。初期状態はオンです。

横断測点のみ発生している測点を任意点として追加
「横断測点のみ発生している測点を任意点として追加」チェックマークをオンにすると、横断測点に登録されているが平面計算では発生しない測点を、平面の任意点として登録します。初期状態はオフです。

[初期化]をクリックすると、設定を初期状態に戻します。

5 「平面線形計算設定」ダイアログボックスで[OK]をクリックすると、「名前を付けて保存」ダイアログボックスダイアログボックスが表示されます。

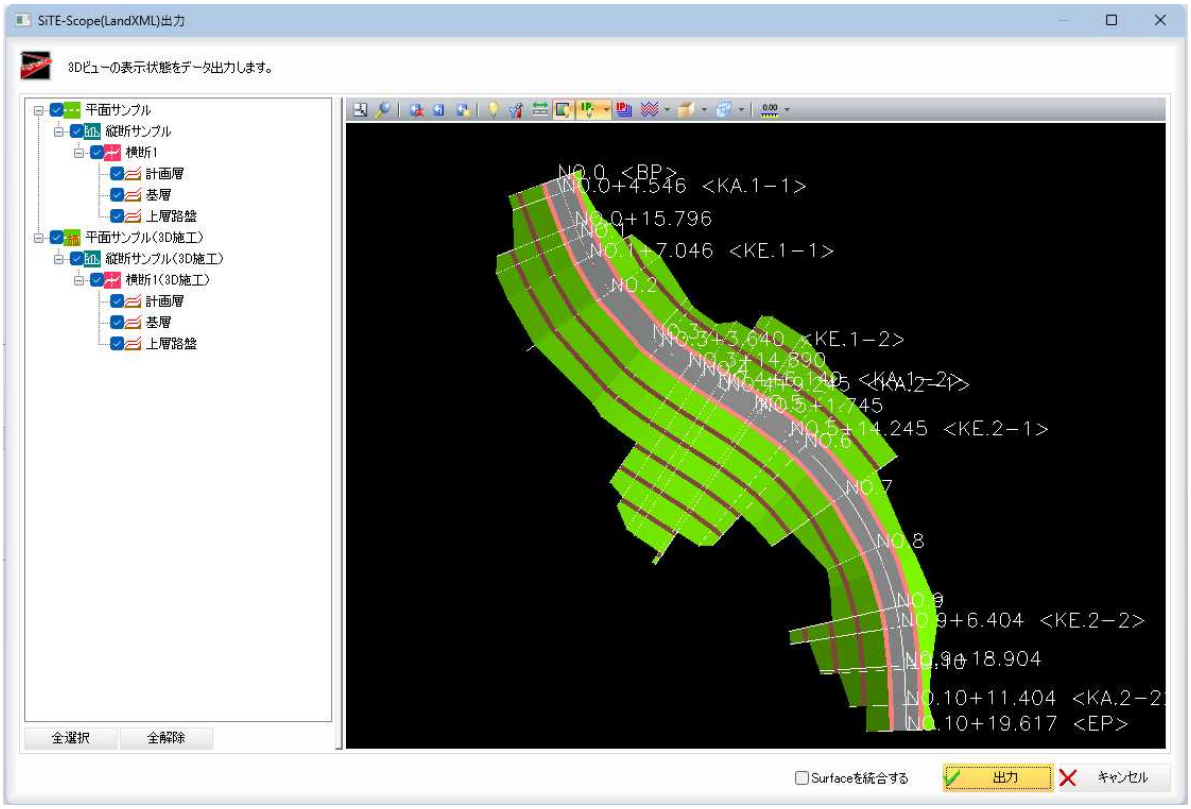


[保存]をクリックすると、各種の設定により SiTE-Scope ファイルが出力されます。

● INNOSiTE ファイル出力－SiTE-Scope(LandXML)ファイル出力

1 アプリケーションメニューで[INNOSiTE ファイル出力]－[SiTE-Scope(LandXML)]をクリックします。

2 「SiTE-Scope(LandXML)ファイル出力」ダイアログボックスが表示されます。



3 平面の選択

「SiTE-Scope(LandXML)ファイル出力」ダイアログボックスのツリー表示内チェックマークのオン・オフにより出力するデータを選択することができます。

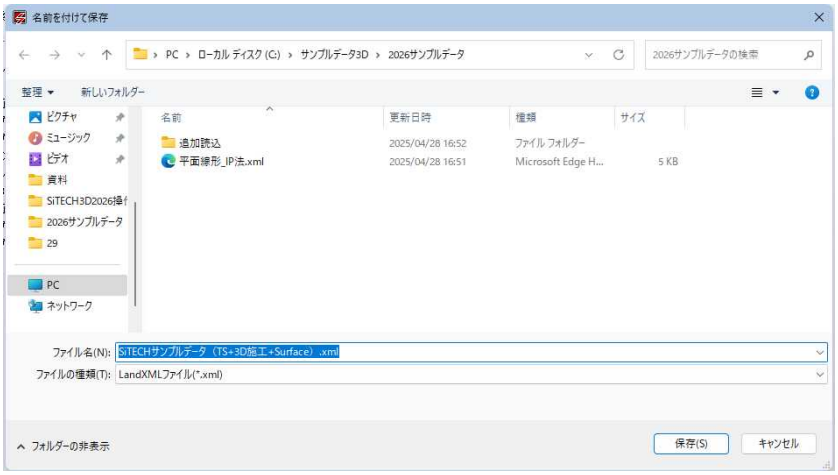
3Dビュー

操作方法はプレビュー画面の３Ｄビューと同様です。⇒参照ページへ

Surface を統合する

「Surface を統合する」チェックマークをオンにすると、Surface を統合して出力します。

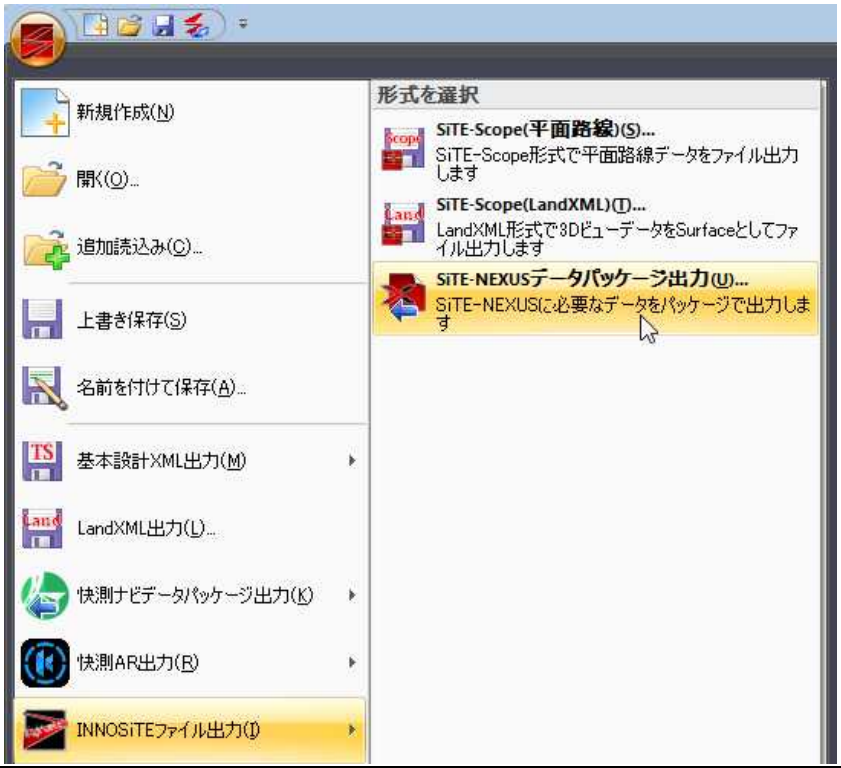
4 「SiTE-Scope(LandXML)ファイル出力」ダイアログボックスで[出力]をクリックすると、「名前を付けて保存」ダイアログボックスが表示されます。



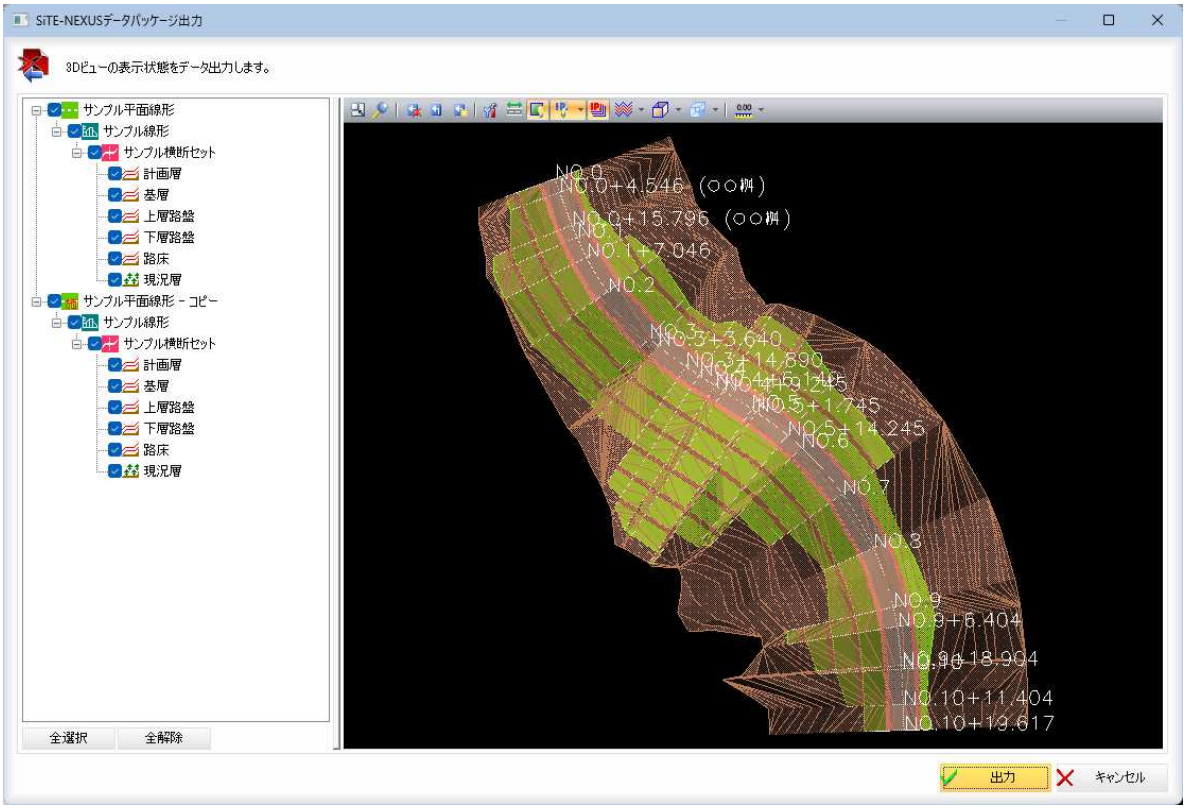
[保存]をクリックすると、各種の設定により SiTE-Scope(LandXML)ファイルが出力されます。

● INNOSiTE ファイル出力－SiTE-NEXUS データパッケージ出力

1 アプリケーションメニューで[INNOSiTE ファイル出力]－[SiTE-NEXUS データパッケージ出力]をクリックします。



2 「SiTE-NEXUS データパッケージ出力」ダイアログボックスが表示されます。



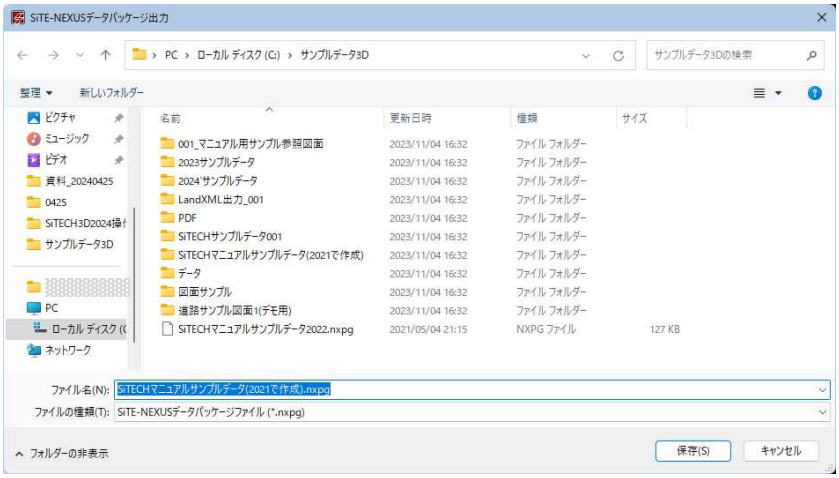
出力データの選択

ツリー表示内チェックマークのオン・オフにより、出力するデータを選択することができます。

３Dビュー

操作方法はプレビュー画面の３Ｄビューと同様です。**⇒参照ページへ**

3 「SiTE-NEXUS データパッケージ出力」ダイアログボックスで[出力]をクリックすると、「名前を付けて保存」ダイアログボックスが表示されます。



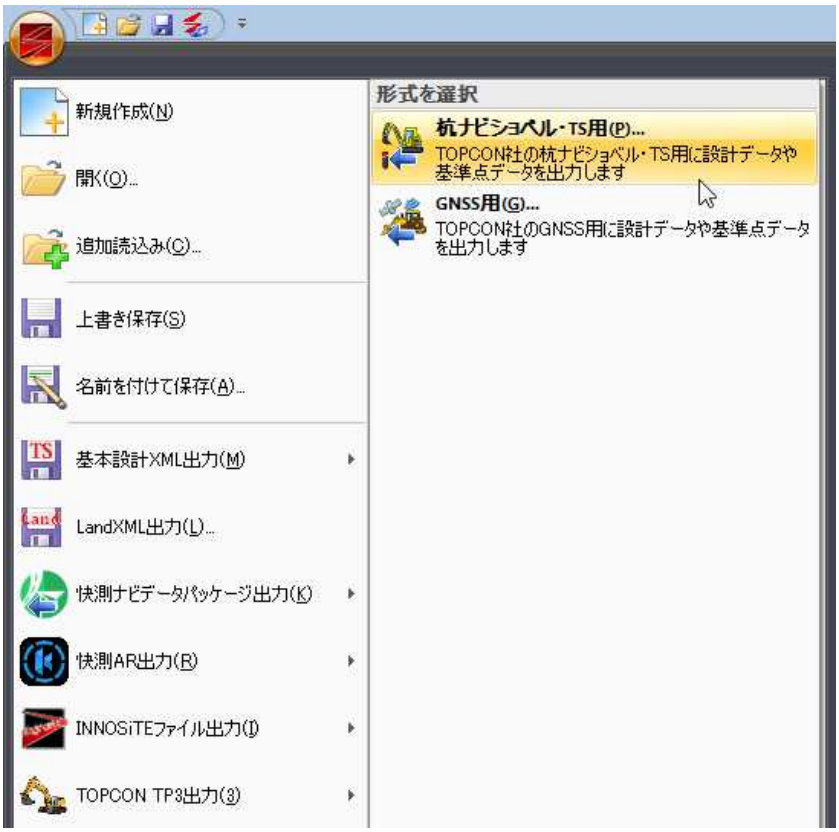
[保存]をクリックすると、SiTE-NEXUS データパッケージファイル(*.nxpg)が出力されます。

TOPCON TP3 出力

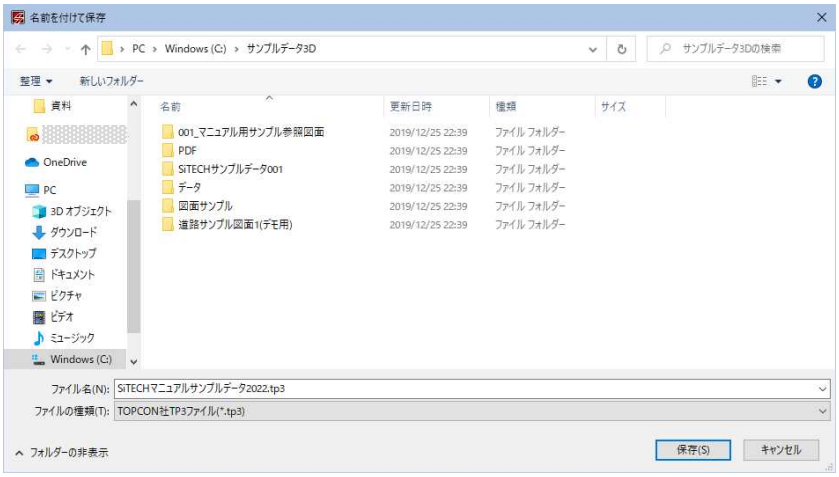
アプリケーションメニュー内の[TOPCON TP3 出力]をクリックし、抗ナビショベル･TS 用、GNSS 用のいずれかをクリックして処理を行います。

● TOPCON TP3 出力ー抗ナビショベル･TS 用

1 アプリケーションメニューで[TOPCON TP3 出力]ー[抗ナビショベル･TS 用]をクリックします。



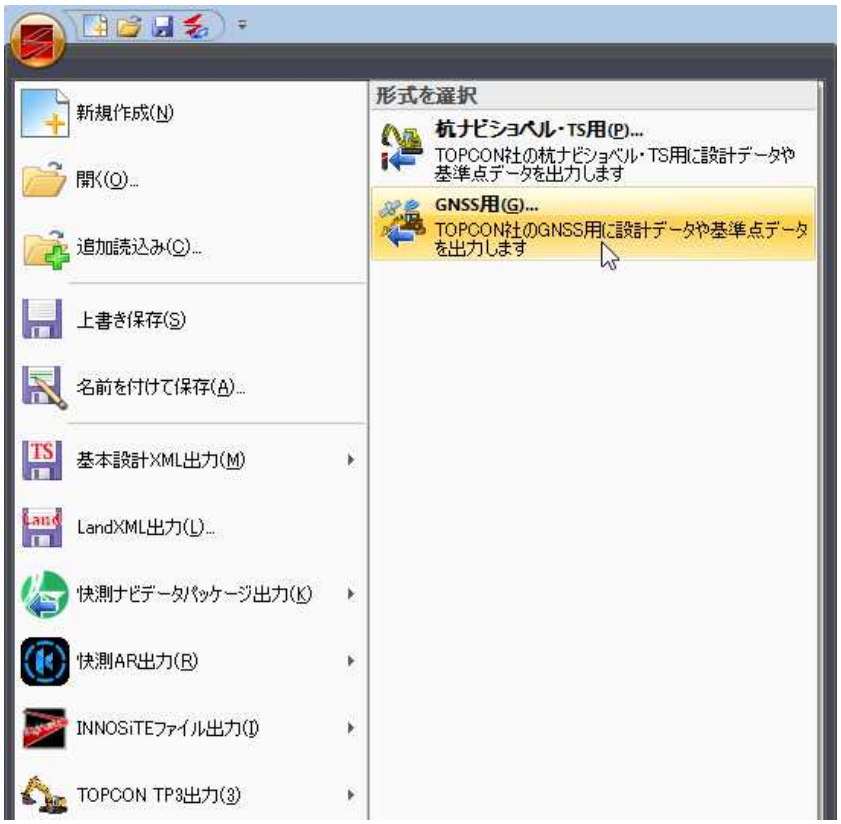
2 「名前を付けて保存」ダイアログボックスが表示されます。



3 [保存]をクリックすると、TOPCON TP3(杭ナビショベル・TS 用)ファイルに出力されます。

● TOPCON TP3 出力－GNSS 用

1 アプリケーションメニューで[TOPCON TP3 出力]－[GNSS 用]をクリックします。



2 「TOPCON TP3 出力(GNSS 用)」ダイアログボックスが表示されます。

■出力情報

プロジェクト情報

[プロジェクト情報]をクリックすると、「プロジェクト情報」ダイアログボックスが表示されます。

「名称」入力欄内に名称を入力します。
[OK]をクリックすると「TOPCON TP3 出力(GNSS 用)」ダイアログボックスに戻ります。

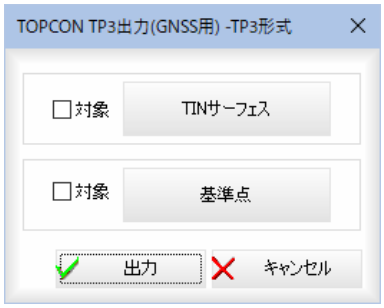
座標参照系
[座標参照系]をクリックすると、「座標参照系」ダイアログボックスが表示されます。「水平座標系」ドロップダウンリストよりいずれかを選択します。

水平座標系ドロップダウンリスト下のリンクをクリックすると、説明 HP が表示されます。
[OK]をクリックすると「TOPCON TP3 出力(GNSS 用)」ダイアログボックスに戻ります。

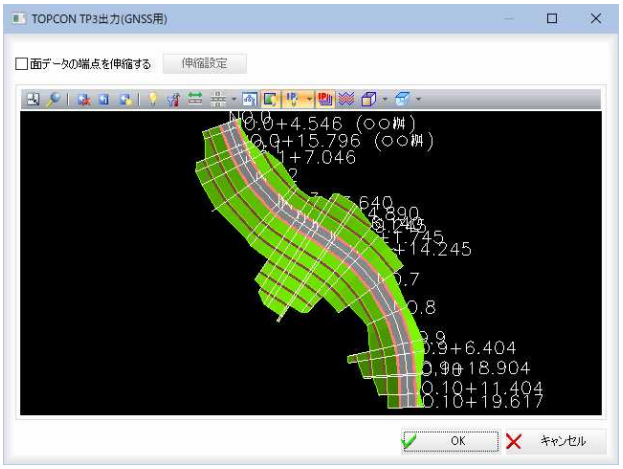
3 プロジェクト(TP3)

「TOPCON TP3 出力(GNSS 用)」ダイアログボックスで[プロジェクト(TP3)]をクリックすると、「TOPCON TP3 出力(GNSS 用)-TP3 形式」ダイアログボックスが表示されます。

処理対象の選択
各「対象」チェックマークをオンにして出力対象を選択します。



■ TIN サーフェス
[TIN サーフェス]をクリックすると、3D ビュー形式の「TOPCON TP3 出力(GNSS 用)」ダイアログボックスが表示されます。



面の端点を伸縮する
「面の端点を伸縮する」チェックマークをクリックすると、面データの端点を伸縮して出力します。
[伸縮設定]をクリックすると、「伸縮設定」ダイアログボックスが表示されます。

操作方法は、LandXML ファイル出力時と同様です。⇒参照ページへ

３Dビュー

操作方法はプレビュー画面の３Ｄビューと同様です。⇒参照ページへ

「TOPCON TP3 出力(GNSS 用)」ダイアログボックスで[ＯＫ]をクリックすると、「TOPCON TP3 出力(GNSS 用)-TP3 形式」ダイアログボックスに戻ります。

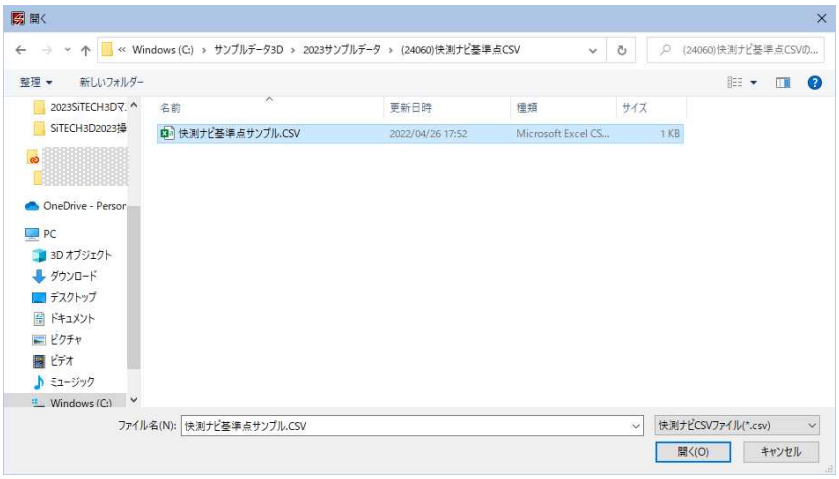
■ 基準点
「TOPCON TP3 出力(GNSS 用)-TP3 形式」ダイアログボックスで[基準点]をクリックすると、「TOPCON TP3 出力(GNSS 用)」ダイアログボックスが表示されます。

「名称」、「Ｘ座標」、「Ｙ座標」、「標高」、「ローカライズ」、「緯度(WGS84)」、「経度(WGS84)」、「高さ(WGS84)」、「水平残差」、「垂直残差」入力欄にデータを手入力、または座標一覧、快測ナビ CSV ファイルから取込みます。
ダイアログボックス中央下部には緯度経度の入力例が表記されています。

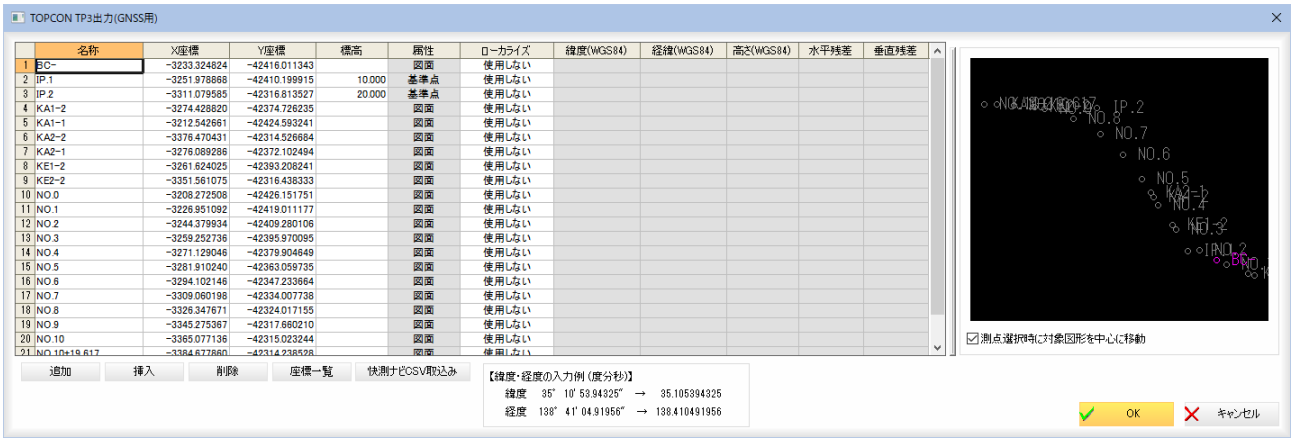
追加／挿入／削除
[追加]、[挿入]、[削除]をクリックすると、それぞれ処理が実行されます。

座標一覧
[座標一覧]をクリックすると「座標参照」ダイアログボックスが表示されますので、いずれかの座標をクリックして選択します。[ＯＫ]をクリックすると、選択中の座標が「TOPCON GNSS 用データ出力」ダイアログボックス内の座標に取り込まれます。

快測ナビ CSV 取込み
[快測ナビ CSV 取込み]をクリックすると、「開く」ダイアログボックスが表示されます。



いずれかの快測ナビ CSV ファイル(*.csv)を選択します。[開く]をクリックすると、選択中の快測ナビ CSV ファイルが「TOPCON TP3 出力(GNSS 用)」ダイアログボックス内の座標に取り込まれます。



プレビュー

現在選択中の座標のプレビューが表示されます。
「測点選択時に対象図形を中心に移動」チェックマークをオンにすると、一覧内で選択した測点が座標表示ウィンドウ内で中心になるように表示されます。

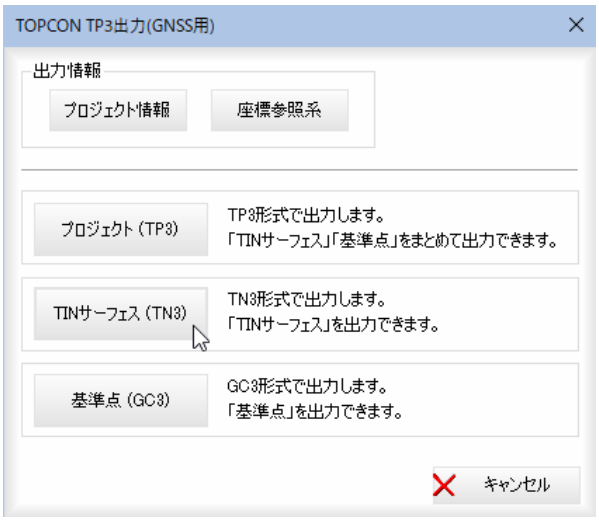
「TOPCON TP3 出力(GNSS 用)」ダイアログボックスで[OK]をクリックすると、「TOPCON TP3 出力(GNSS 用)-TP3 形式」ダイアログボックスに戻ります。

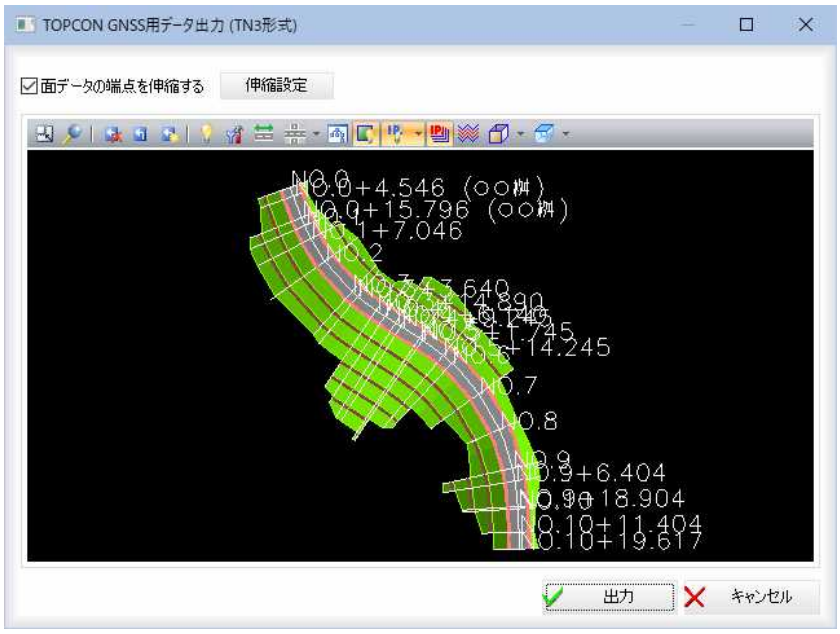
出力

[OK]をクリックすると、ファイルの保存ダイアログボックスが表示されます。
[保存]をクリックすると、TN3 形式のファイルが出力されます。

4 TIN サーフェス(TN3)

「TOPCON TP3 出力(GNSS 用)」ダイアログボックスで[TIN サーフェス(TN3)]をクリックすると、「TOPCON GNSS 用データ出力(TN3 形式)」ダイアログボックスが表示されます。





３Dビュー

操作方法はプレビュー画面の３Ｄビューと同様です。**⇒参照ページへ**

出力

[出力]をクリックすると、「名前をつけて保存」ダイアログボックスが表示されます。

[保存]をクリックすると、「txt ファイル形式」のファイルが出力されます。

5 基準点(GC3)

「TOPCON TP3 出力(GNSS 用)-TP3 形式」ダイアログボックスで[基準点(GC3)]をクリックすると、「TOPCON TP3 出力(GNSS 用)-GC3 形式」ダイアログボックスが表示されます。

各種の操作方法は、「TOPCON TP3 出力(GNSS 用)-TP3 形式」ダイアログボックスで［基準点］をクリックした場合と同様です。⇒参照ページへ

出力

［出力］をクリックすると、「名前をつけて保存」ダイアログボックスが表示されます。

［保存］をクリックすると、GC3 形式のファイルが出力されます。

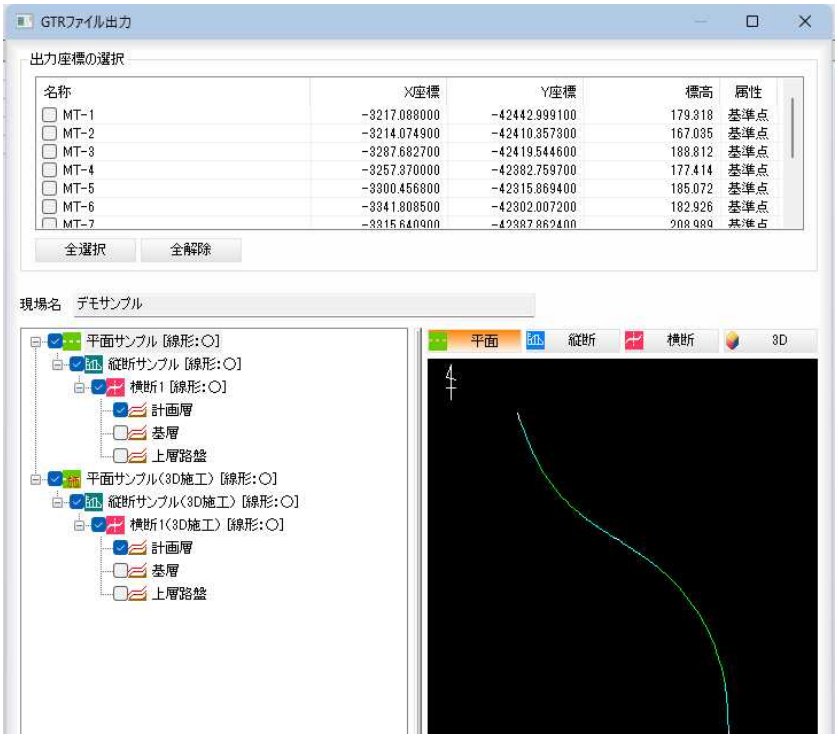
その他ファイル出力

アプリケーションメニュー内の[その他ファイル出力]をクリックし、GTR、道路中心線系 XML のいずれかをクリックして処理を行います。

● その他ファイル出力－GTR

1 アプリケーションメニューで[その他ファイル出力]－[GTR]をクリックします。

2 「GTR ファイル出力」ダイアログボックスが表示されます。



3 出力座標の選択

「名称」のチェックマークをクリックして座標を選択します。Shift または Ctrl キーを押しながら複数選択することも可能です。

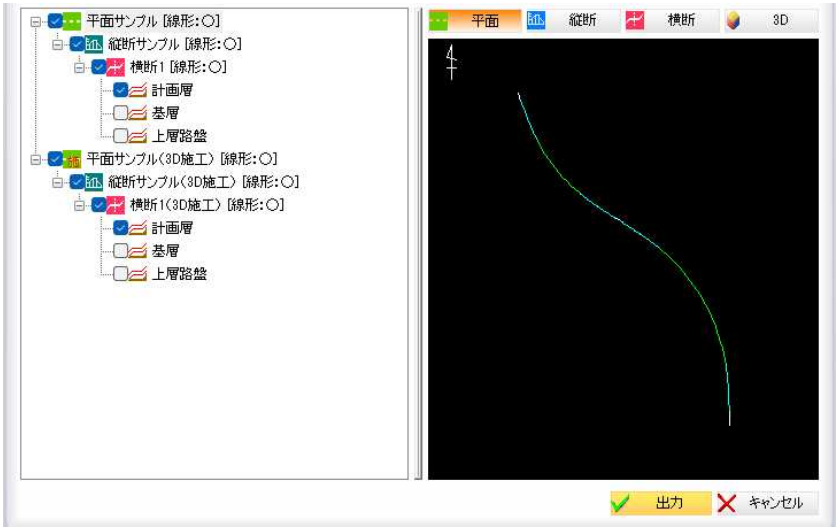
[全選択]／[全解除]

表示中の項目すべてのチェックマークをオン、またはオフにします。

4 平面・縦断・横断構築形状の選択、プレビュー画面

「GTR ファイル出力」ダイアログボックスで、ツリー表示内チェックマークのオン・オフにより、出力するデータを選択することができます。

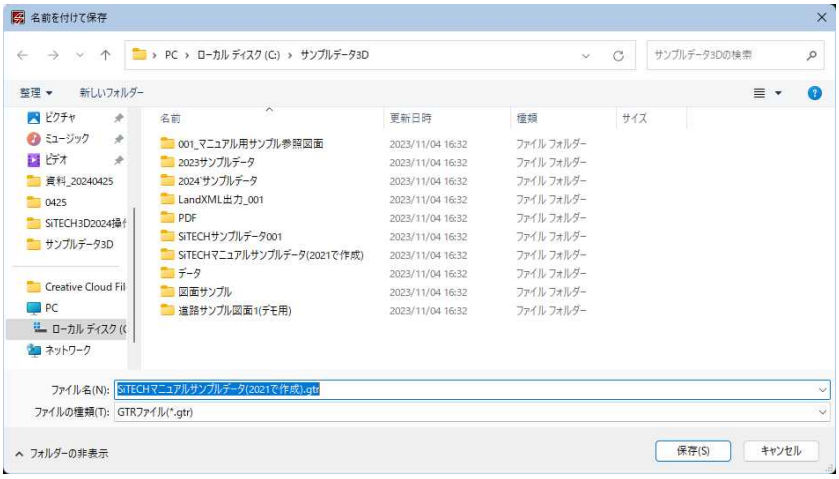
プレビュー画面では、平面、縦断、横断、3D のプレビューを切り替えることができます。



平面・縦断・横断構築形状の選択、プレビュー画面の操作方法は、[アプリケーションメニュー]－[基本設計 XML 出力]－[ローカル出力]と同様です。

⇒参照ページへ

5 「GTR ファイル出力」ダイアログボックスで[出力]をクリックすると、「名前を付けて保存」ダイアログボックスが表示されます。

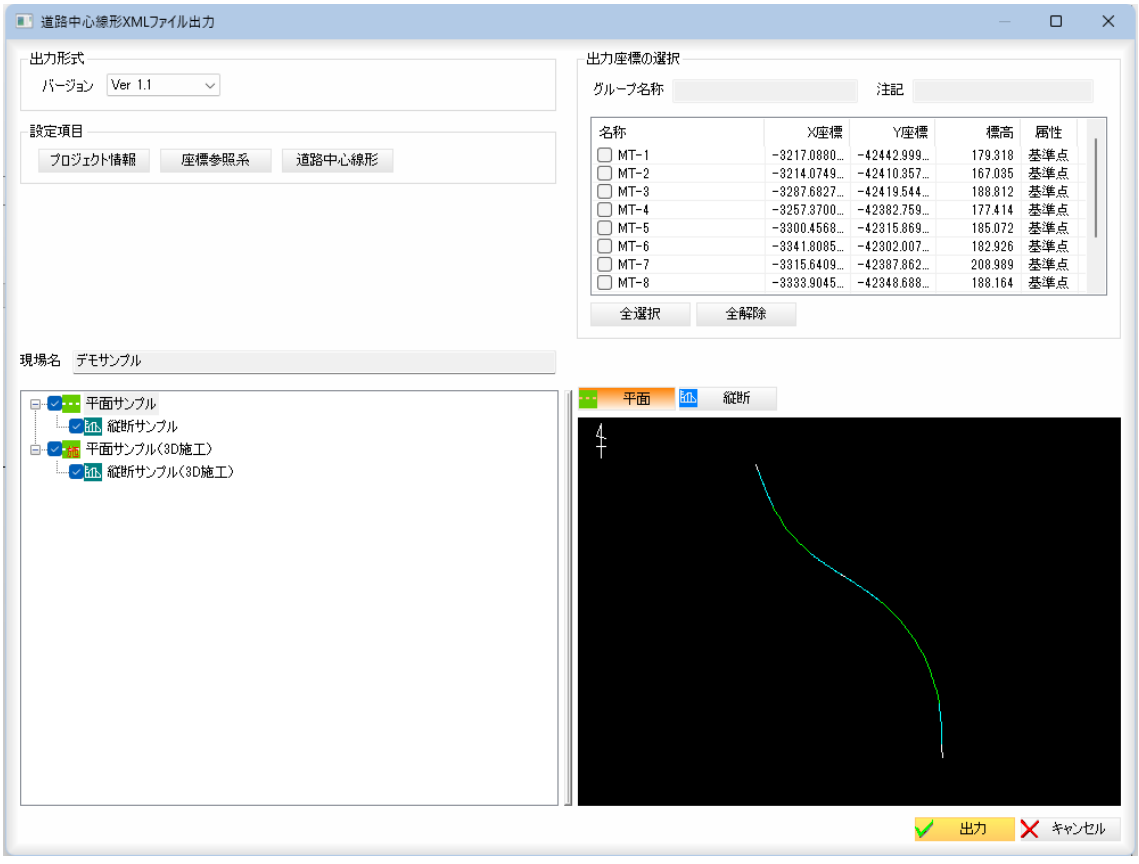


[保存]をクリックすると、各種の設定により GTR ファイルが出力されます。

● その他ファイル出力－道路中心線形 XML

1 アプリケーションメニューで[その他ファイル出力]－[道路中心線形 XML]をクリックします。

2 「道路中心線形 XML ファイル出力」ダイアログボックスが表示されます。

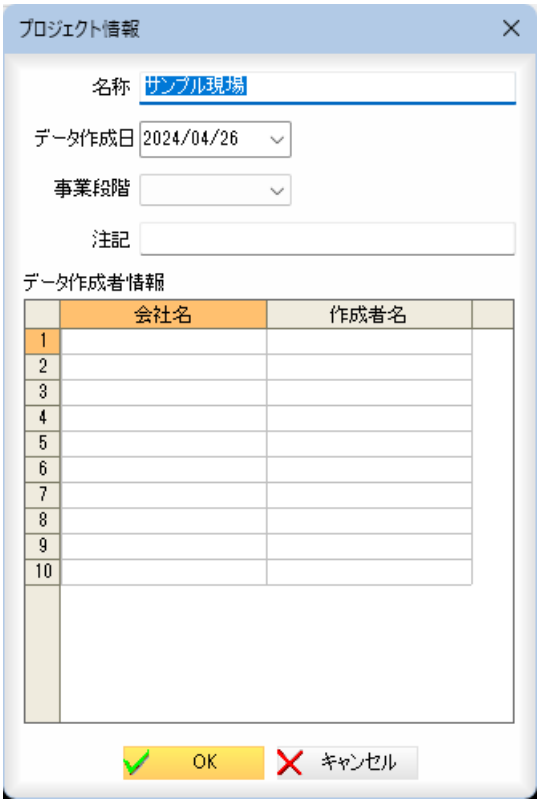


3 出力形式

出力形式：ドロップダウンリストより、「Ver1.1」または「Ver1.0」を表示させて選択します。初期状態は Ver1.1 です。

4 プロジェクト情報(設定項目)

「道路中心線形 XML ファイル出力」ダイアログボックスで「設定項目」の[プロジェクト情報]をクリックすると、「プロジェクト情報」ダイアログボックスが表示されます。



名称・データ作成日・事業段階・注記

「名称」欄にはプロジェクト名を入力し、「データ作成日」には、いずれかの日付を入力します。
「事業段階」はドロップダウンリストよりいずれかを選択します。
「注記」入力欄内に文字列を入力します。

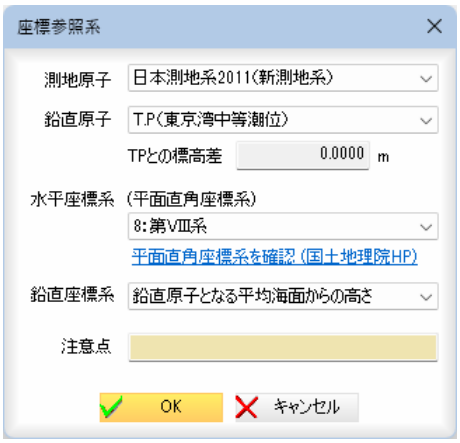
データ作成者情報

「データ作成者情報」一覧内の「会社名」、「作成者名」それぞれ、入力欄内に文字列を入力します。

[OK]をクリックすると、「道路中心線形 XML」ダイアログボックスに戻ります。

5 座標参照系(設定項目)

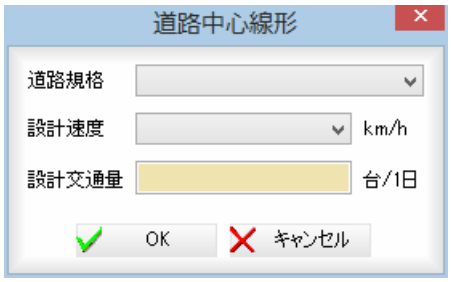
「道路中心線形 XML ファイル出力」ダイアログボックスで「設定項目」の[座標参照系]をクリックすると、「座標参照系」ダイアログボックスが表示されます。



「測地原子」、「鉛直原子」、「水平座標系」、「鉛直座標系」はそれぞれドロップダウンリストより選択します。
「TP との標高差」は、鉛直原子を選択すると設定されます。
水平座標系ドロップダウンリスト下のリンクをクリックすると、説明 HP が表示されます。
「注意点」入力欄には任意の文字列を入力します。
[OK]をクリックすると、「道路中心線形 XML」ダイアログボックスに戻ります。

6 道路中心線形(設定項目)

「道路中心線形 XML ファイル出力」ダイアログボックスで「設定項目」の[道路中心線形]をクリックすると「道路中心線形」ダイアログボックスが表示されます。



「道路規格」、「設計速度」はドロップダウンリストからいずれかを選択します。
「設計交通量」には、１日あたりの台数を入力します。
[OK]をクリックすると、「道路中心線形 XML」ダイアログボックスに戻ります。

7 出力座標の選択

座標点グループ設定

「グループ名称」、「注記」入力欄内に文字列を入力します。

「座標の選択」

「名称」のチェックマークをクリックして座標を選択します。Shift または Ctrl キーを押しながら複数選択することも可能です。

[全選択]／[全解除]

表示中の項目すべてのチェックマークをオン、またはオフにします。

8 平面・縦断の選択、平面、縦断プレビュー

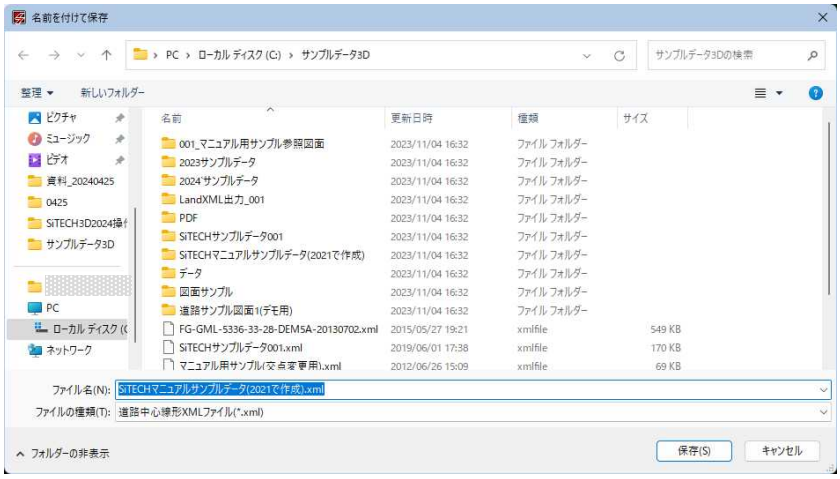
「道路中心線形 XML」ダイアログボックスのツリー表示内チェックマークのオン・オフにより、出力するデータを選択することができます。

プレビュー

平面プレビュー、縦断プレビューが表示されます。

出力データの選択、プレビュー画面の操作方法は、[アプリケーションメニュー]－[基本設計 XML 出力]－[ローカル出力]と同様です。⇒参照ページへ

9 「道路中心線形 XML ファイル出力」ダイアログボックスで[出力]をクリックすると、「名前を付けて保存」ダイアログボックスが表示されます。

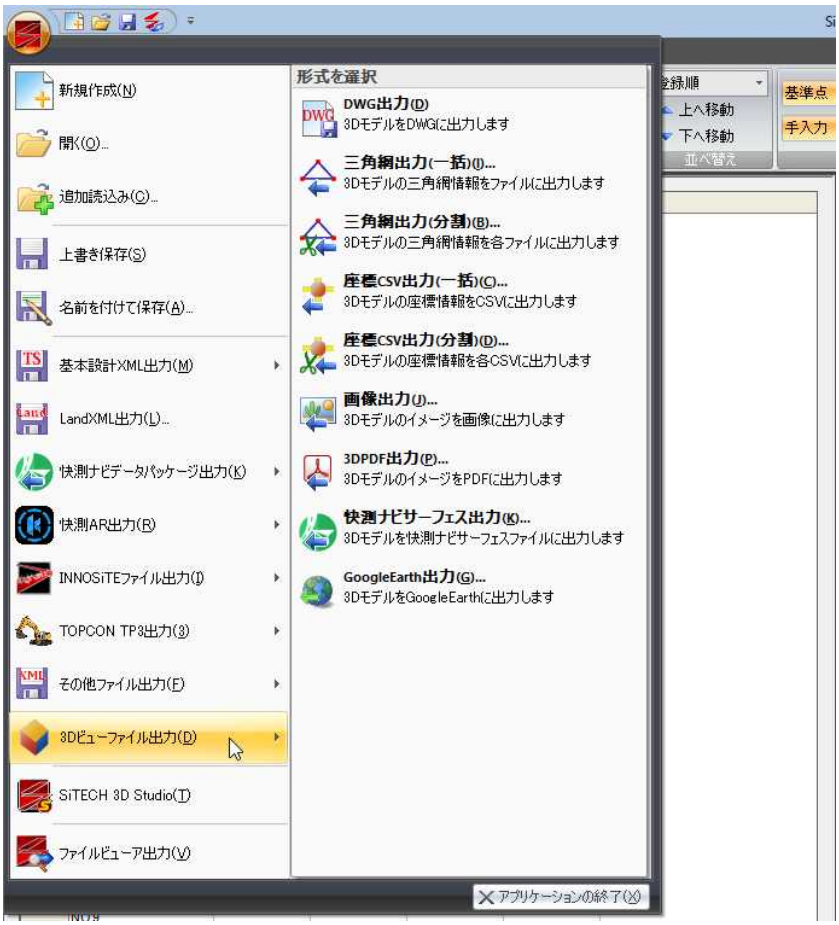


[保存]をクリックすると、各種の設定により道路中心線形 XML ファイルが出力されます。

３Ｄビューファイル出力

３Ｄビューの各種ファイル出力処理を、アプリケーションメニューから実行することができます。

1 アプリケーションメニューで[３Dビューファイル出力]をクリックし、サブメニューの各種ファイルをクリックすると、それぞれの出力ファイル形式用のダイアログボックスが表示されます。



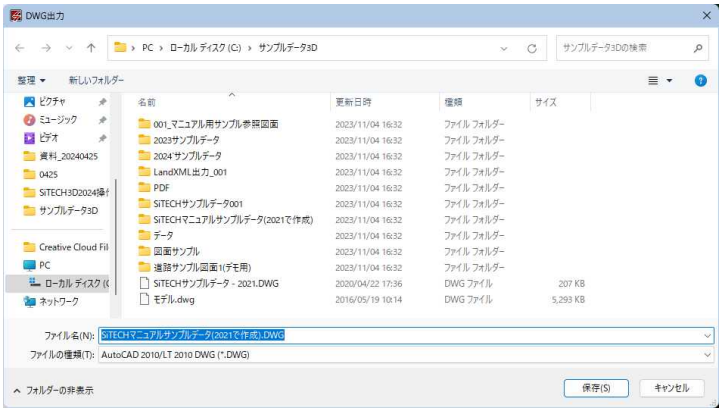
・3D ビューファイル出力の DWG 出力、快測ナビサーフェス出力、三角網出力（一括）などにおいて、3D ビューに出力する面データ（3D モデル）が表示されていない場合は、「出力する面データがありません」と出力時にメッセージが表示されます。

以下、３Ｄビューファイル出力の操作方法について説明します。

● ３Ｄビューファイル出力－DWG ファイル出力

1 アプリケーションメニューで[3D ビューファイル出力]－[DWG ファイル出力]をクリックします。

2 ファイル保存ダイアログボックスが表示されます。



ファイル名を入力し、[保存]をクリックすると、3D モデルが DWG ファイルに出力されます。

● 3Dビューファイル出力－三角網出力(一括)

1 アプリケーションメニューで[3D ビューファイル出力]－[三角網出力(一括)]をクリックします。

2 ファイル保存ダイアログボックスが表示されます。

「ファイルの種類」ドロップダウンリストからファイル種類を選択することができます。

1 つのレイヤに統合する

「1 つのレイヤに統合する」チェックマークをオンにすると、すべての図形をレイヤ"0"に出力します。オフの場合は、「横断セット名_層データ名」の書式でレイヤ分けが行われます。

ファイル名を入力し、[保存]をクリックすると、三角網データが DWG ファイルに出力されます。

● 3Dビューファイル出力－三角網出力(分割)

1 アプリケーションメニューで[3D ビューファイル出力]－[三角網出力(分割)]をクリックします。

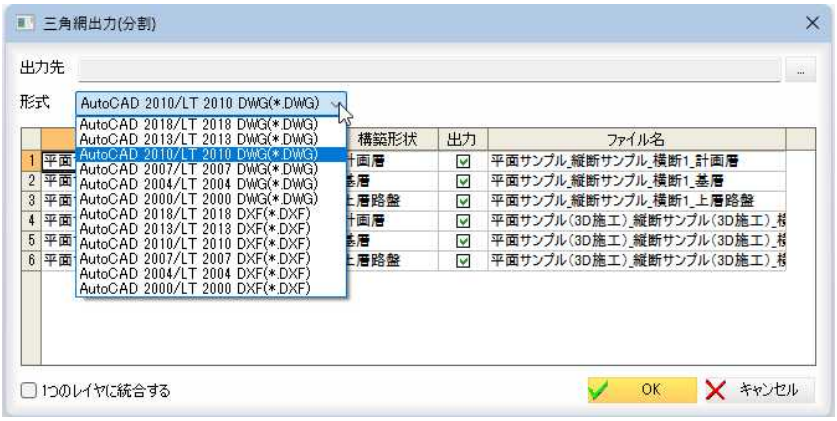
2 「三角網出力(分割)」ダイアログボックスが表示されます。

出力先の選択

[. . .]をクリックすると、「フォルダの選択」ダイアログボックスが表示されますので、いずれかのフォルダを選択します。

形式の選択

「形式」ドロップダウンリストよりいずれかの形式を選択します。



出力データの選択
一覧表示内の「出力」チェックマークをオンにして、出力データを選択します。

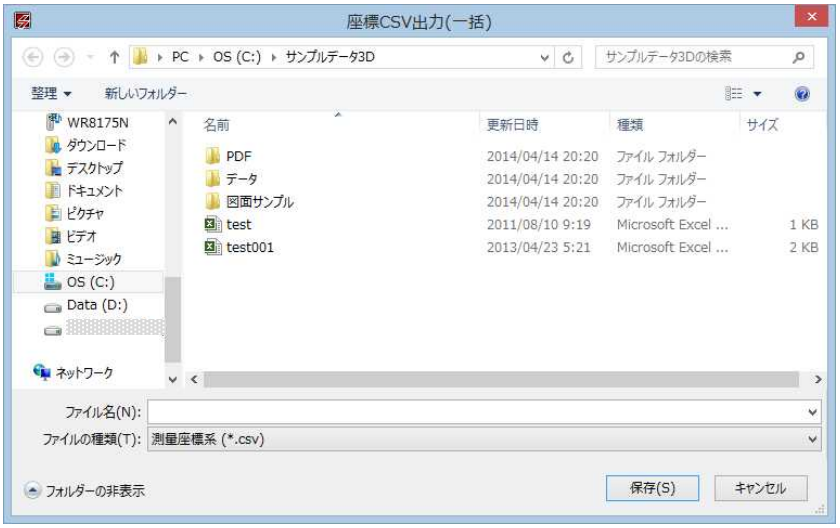
1 つのレイヤに統合する
「1 つのレイヤに統合する」チェックマークをオンにすると、すべての図形をレイヤ"0"に出力します。オフの場合は、「横断セット名_層データ名」の書式でレイヤ分けが行われます。

3 [OK]をクリックすると確認のメッセージが表示され、[OK]をクリックすると、各層の三角網データが各ファイルに出力されます。

● 3D ビューファイル出力－座標ＣＳＶ出力(一括)

1 アプリケーションメニューで[3D ビューファイル出力]－[座標ＣＳＶ出力(一括)]をクリックします。

2 ファイル保存ダイアログボックスが表示されます。

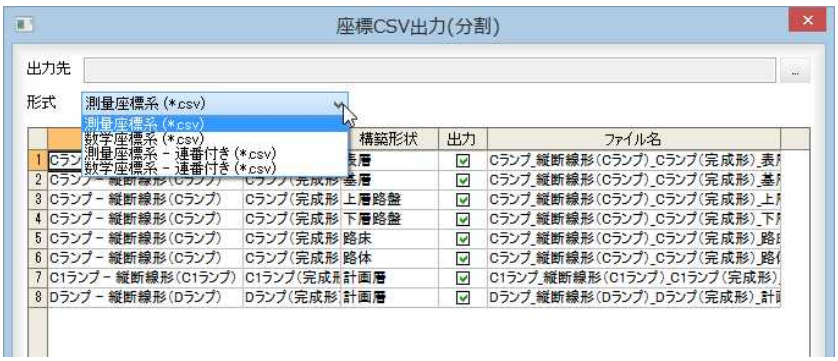


「ファイルの種類」ドロップダウンリストからファイル種類を選択することができます。
ファイル名を入力し、[保存]をクリックすると、座標情報が CSV ファイルに出力されます。

● 3D ビューファイル出力－座標ＣＳＶ出力(分割)

1 アプリケーションメニューで[3D ビューファイル出力]－[座標ＣＳＶ出力(分割)]をクリックします。

2 「座標ＣＳＶ出力(分割)」ダイアログボックスが表示されます。
出力先の選択
[. . .]をクリックすると、「フォルダの選択」ダイアログボックスが表示されますので、いずれかのフォルダを選択します。
形式の選択
「形式」ドロップダウンリストよりいずれかの形式を選択します。



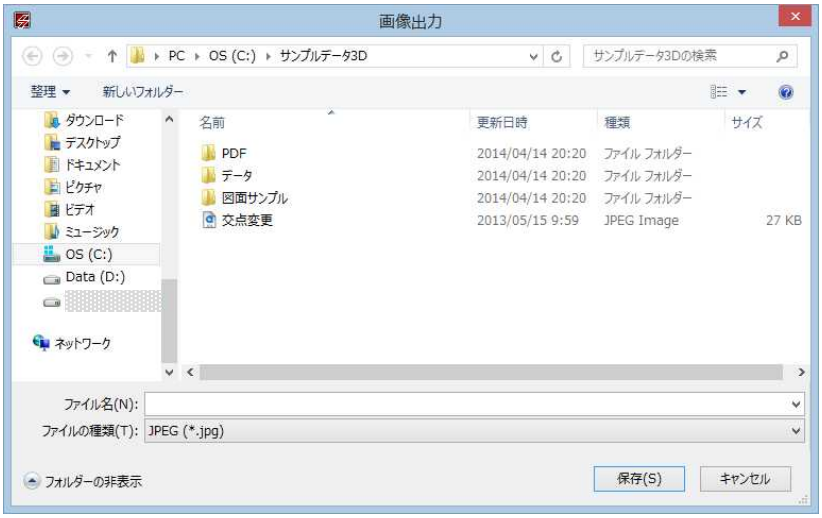
出力データの選択

一覧表示内の「出力」チェックマークをオンにして、出力データを選択します。[OK]をクリックすると確認のメッセージが表示され、[OK]をクリックすると、各層の座標情報が各ファイルに出力されます。

● 3Dビューファイル出力ー画像出力

1 アプリケーションメニューで[3Dビューファイル出力]ー[画像出力]をクリックします。

2 ファイル保存ダイアログボックスが表示されます。

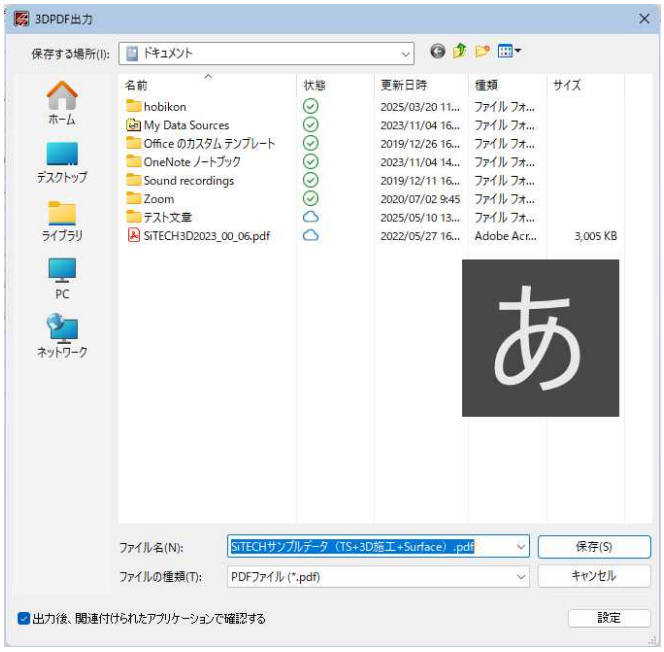


ファイル名を入力し、[保存]をクリックすると、プレビューの画像がJPEGファイルに出力されます。

● 3Dビューファイル出力－3DPDF 出力

1 アプリケーションメニューで[3D ビューファイル出力]－[3DPDF 出力]をクリックすると、確認メッセージが表示されます。

2 [OK]をクリックすると、「3DPDF 出力」ダイアログボックスが表示されます。

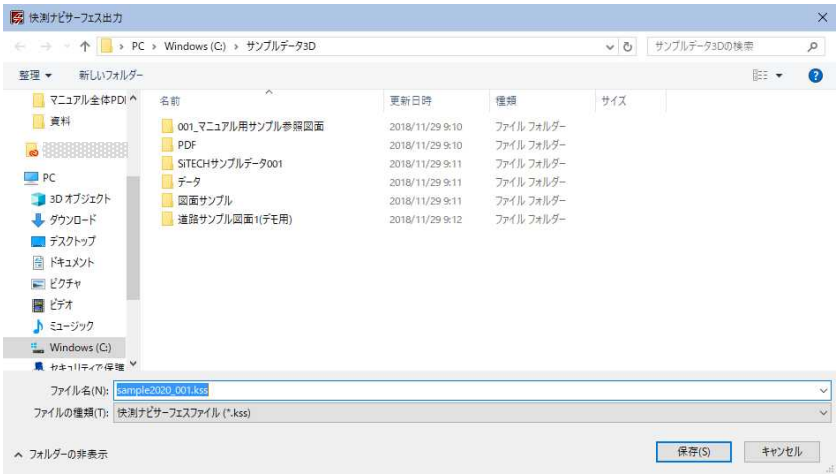


ファイル名を入力し、[保存]をクリックすると、プレビューの 3D データが PDF ファイルに出力されます。

● 3Dビューファイル出力－快測ナビサーフェス出力

1 アプリケーションメニューで[3D ビューファイル出力]－[快測ナビサーフェス出力]をクリックします。

2 ファイル保存ダイアログボックスが表示されます。

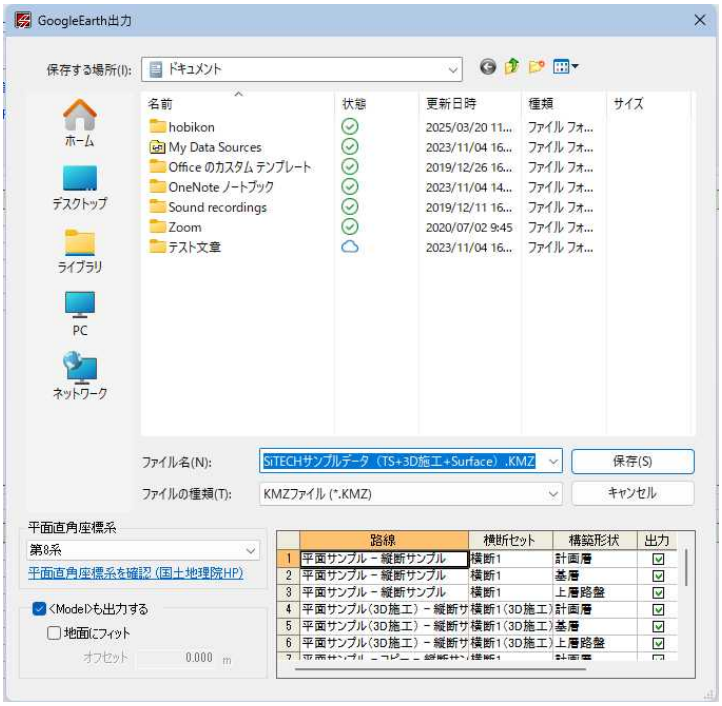


ファイル名を入力し、[保存]をクリックすると、プレビューの画像が快測ナビサーフェスファイルに出力されます。

● 3Dビューファイル出力－Google Earth 出力

1 アプリケーションメニューで[3D ビューファイル出力]－[Google Earth 出力]をクリックします。

2 「GoogleEarth 出力」ダイアログボックスが表示されます。



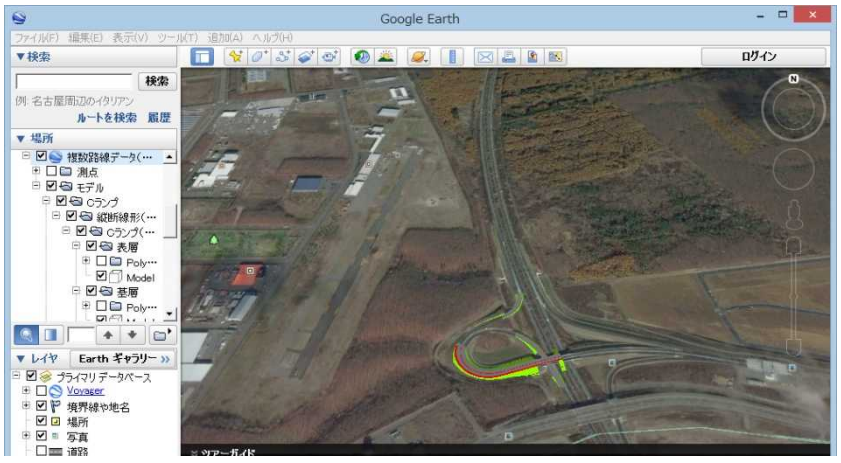
平面直角座標系の選択
ドロップダウンリストより、いずれかの座標系を選択します。
ドロップダウンリストの下には、説明 HP へのリンクが表示されます。

<Model>も出力する
「<Model>も出力する」チェックマークをオンにすると、Google Earth のデータの一種、<Model>も出力します。
「地面にフィット」チェックマークをオフにすると、実際の標高値でデータを出力します。オンにすると、地表面に配置されるように出力します。地面にフィットするをオンにして、オフセット値を設定すると、地表面からの距離を入力することができます。

出力データの選択
一覧表示内の「出力」チェックマークをオンにして、出力データを選択します。

・Google Earth を起動するためには、別途 Google Earth のインストールが必要です。

[保存]をクリックすると作業中のメッセージが表示され、その後、作業完了と、「Google Earth を起動しますか？というメッセージが表示されます。
[はい]をクリックすると、Google Earth が起動し、その位置に表示されます。

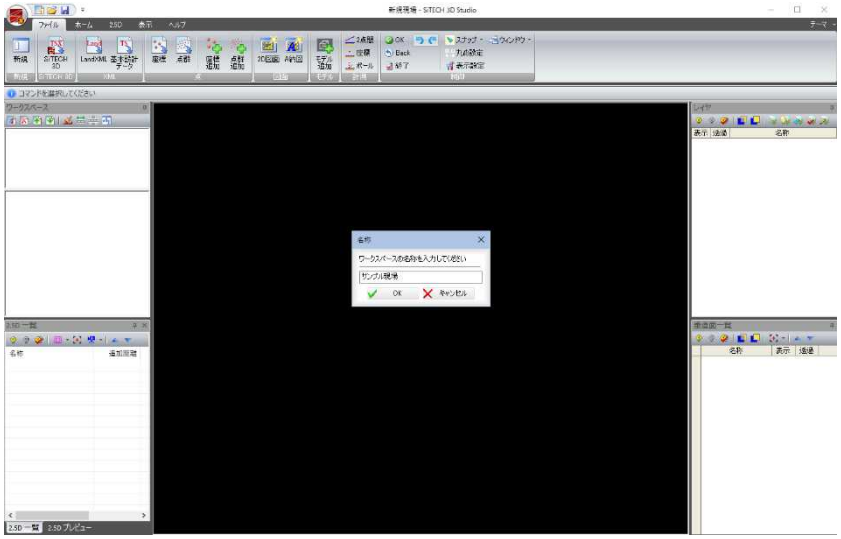


SiTECH 3D Studio

現在のデータまたは新規データで別プログラム SiTECH 3D Studio を起動し、各種の処理を行います。

1 アプリケーションメニューで[SiTECH 3D Studio]をクリックすると、以下の確認メッセージが示されます。

2 [はい]をクリックすると、現在 SiTECH 3D で開いている図面データを取り込み SiTECH 3D Studio を起動します。
[いいえ]をクリックすると、図面データを取り込まずに SiTECH 3D Studio を起動します。
[キャンセル]をクリックすると、処理を取り消します。



3 アプリケーションメニューより[アプリケーションの終了]をクリックすると SiTECH 3D Studio を終了し、SiTECH 3D に戻ります。

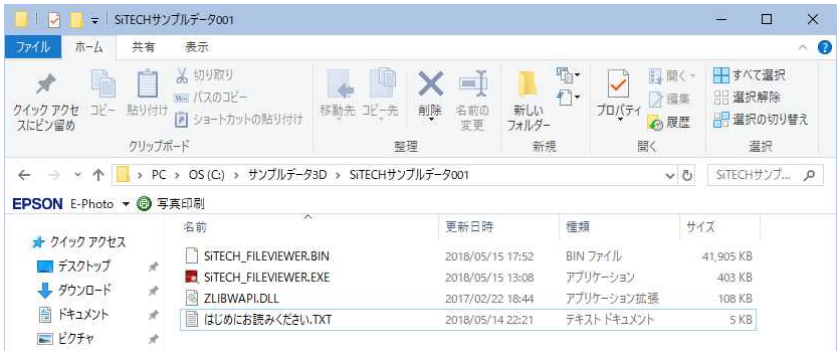
ファイルビューア出力

ビューア形式のデータファイルをプログラムとパッケージで指定フォルダ内に出力します。

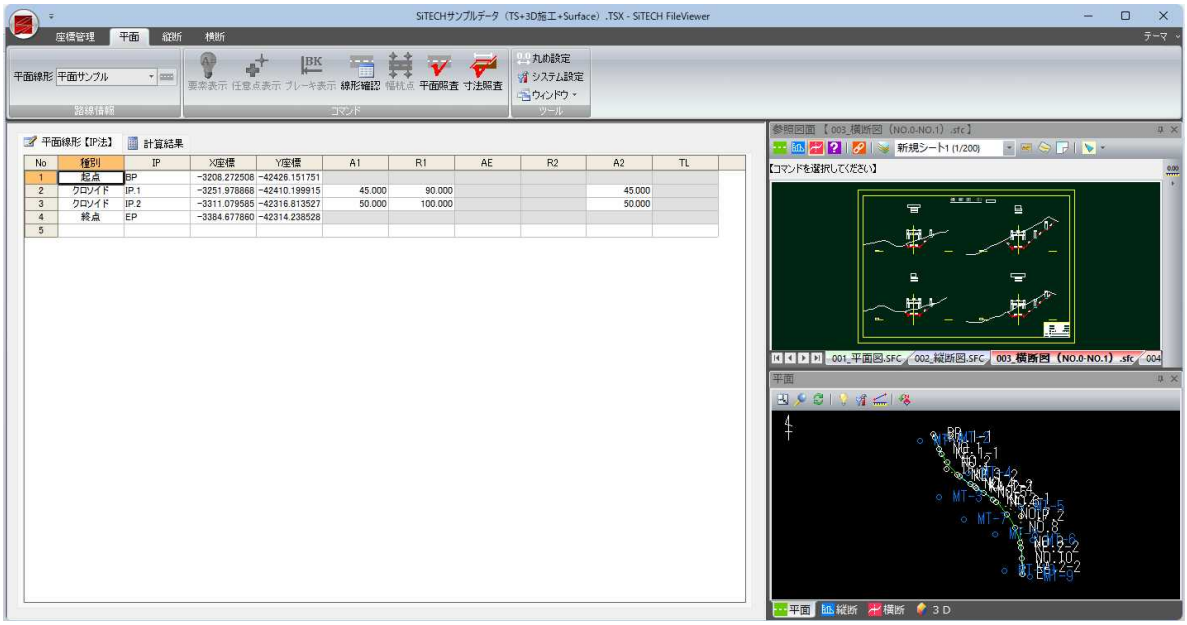
1 アプリケーションメニューで[ファイルビューア出力]をクリックすると、「フォルダーの参照」ダイアログボックスが表示されます。

2 いずれかのフィルダーを選択し、[OK]をクリックすると、「作業中...」ウィンドウが表示され、出力が実行されます。

指定したフォルダ内には出力ファイル名のフォルダが作成され、その中にファイルが作成されます。



3 フォルダ内の「SiTECH_FILEVIEWER.EXE」をダブルクリックすると、SiTECH FileViewer が起動します。



各種の表示・確認処理を実行することができます。

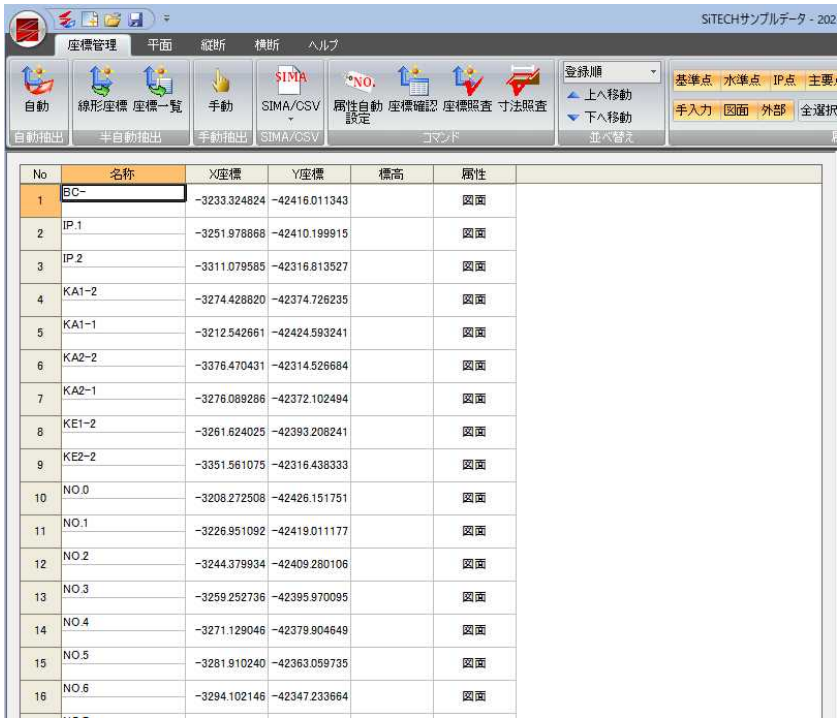
4 アプリケーションメニューより[アプリケーションの終了]をクリックすると SiTECH FileViewer を終了します。

5 データウィンドウ

各メニューのデータウィンドウ

[座標管理]、[平面]、[縦断]、[横断]の各メニューごとに異なるデータウィンドウを表示します。それぞれのモードでは行える処理も異なります。

▼ 座標管理メニューのデータウィンドウ

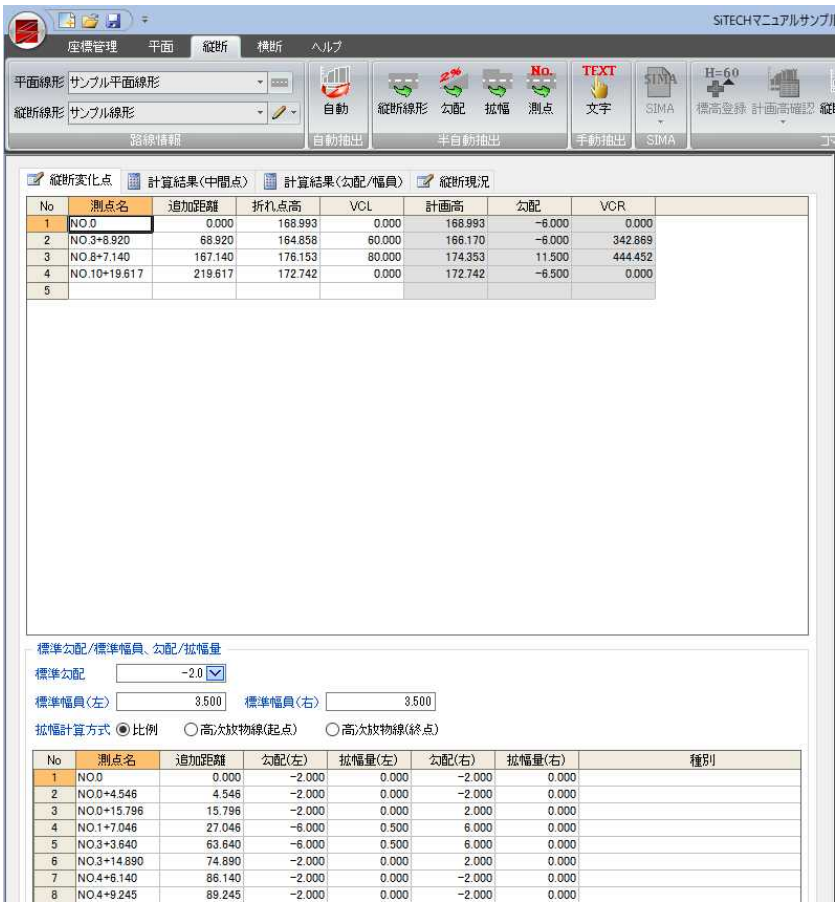


No	名称	X座標	Y座標	標高	属性
1	BC-	-3233.324824	-42416.011343		図面
2	IP.1	-3251.978868	-42410.199915		図面
3	IP.2	-3311.079585	-42316.813527		図面
4	KA1-2	-3274.428820	-42374.726235		図面
5	KA1-1	-3212.542661	-42424.593241		図面
6	KA2-2	-3376.470431	-42314.526684		図面
7	KA2-1	-3276.089286	-42372.102494		図面
8	KE1-2	-3261.624025	-42393.208241		図面
9	KE2-2	-3351.561075	-42316.438333		図面
10	NO.0	-3208.272508	-42426.151751		図面
11	NO.1	-3226.951092	-42419.011177		図面
12	NO.2	-3244.379934	-42409.280106		図面
13	NO.3	-3259.252736	-42395.970095		図面
14	NO.4	-3271.129046	-42379.904649		図面
15	NO.5	-3281.910240	-42363.059735		図面
16	NO.6	-3294.102146	-42347.233664		図面

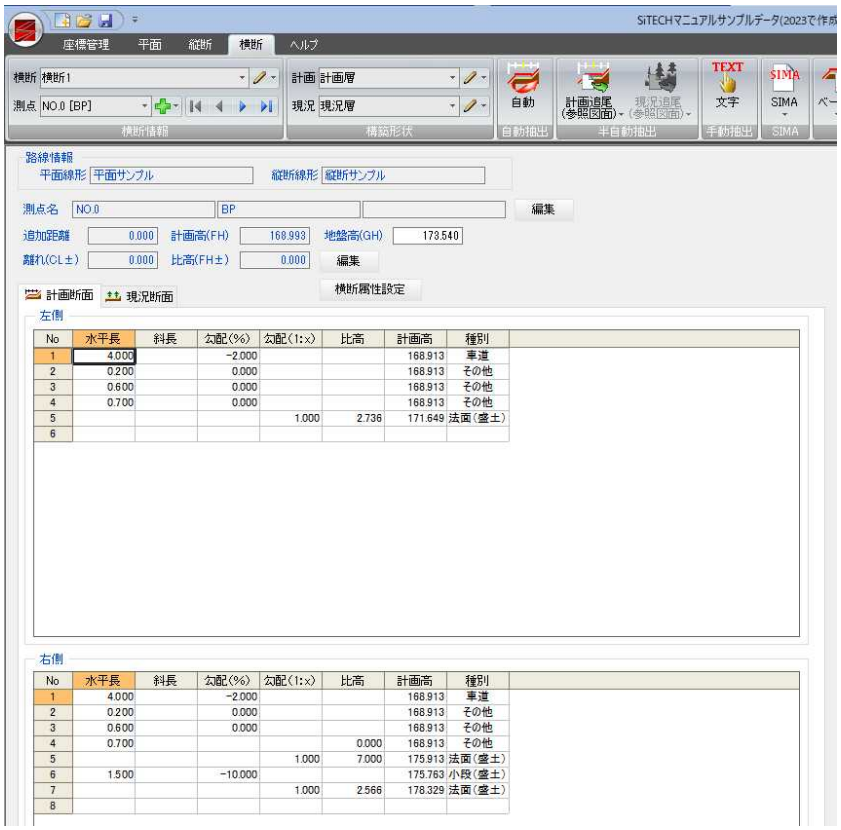
▼ 平面メニューのデータウィンドウ

No	種別	IP	X座標	Y座標	A1	R1	AE	R2	A2
1	起点	BP	-3208.272508	-42426.151751					
2	クロソイド	IP.1	-3251.978868	-42410.199915	45.000	90.000			45.000
3	クロソイド	IP.2	-3311.079585	-42316.813527	50.000	100.000			50.000
4	終点	EP	-3384.677860	-42314.238528					
5									

▼ 縦断メニューのデータウィンドウ



▼ 横断メニューのデータウィンドウ



6 参照図面ウィンドウ

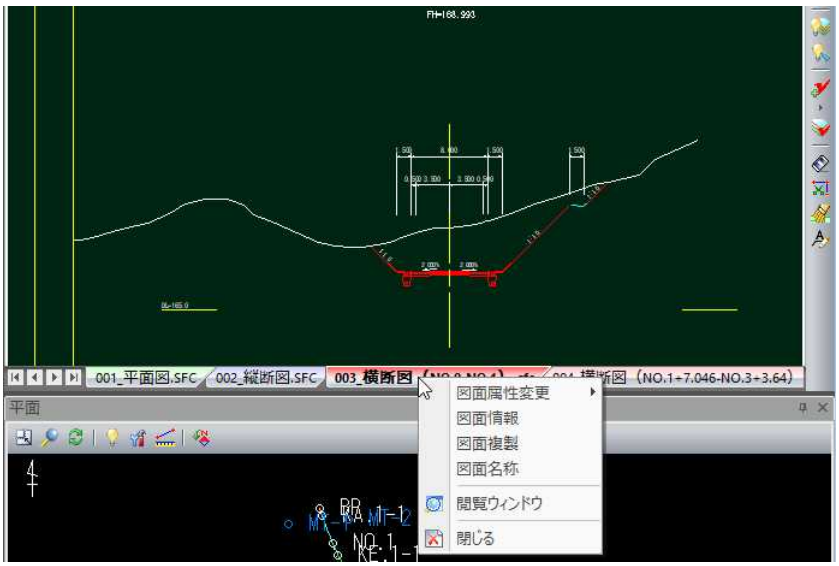
参照図面ウィンドウの構成

SXF(SFC、P21、SFZ、P2Z)、DWG/DXF、JWW/JWC、PDF や A 納図、Bigvan al-Nil、BV CAD(Ver5.0 以降)などの各種データを読み込み、図面から各種情報を取得します。表示切り替え、SXF、DWG/DXF、PDF ファイルへの保存や各種レイヤ・シートの切り替えや縮尺、背景色の設定、選択モードの切り替え、図面編集の起動ができます。また、ガイド線の入力や計測処理、文字検索、レイヤ表示設定、折線分断、図面クリーナー、簡易引出線の各処理も行えます。

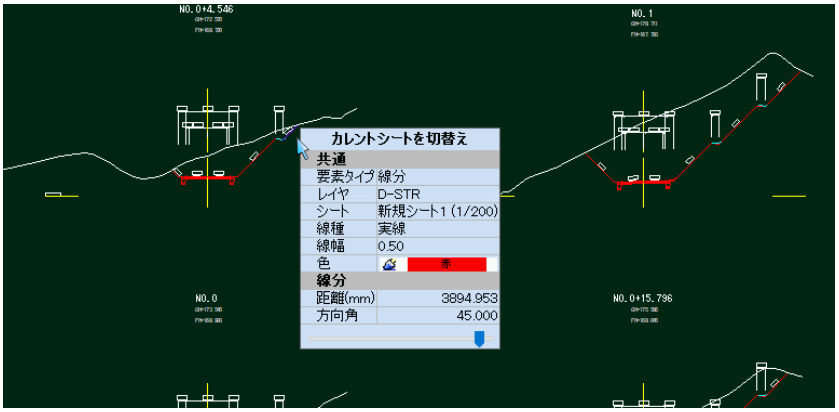
参照図面ウィンドウメニュー
各種処理のアイコンやドロップダウンリストなどが表示されています。
参照図面ウィンドウで行えるすべての処理はこのメニューから選択します。

図面表示ウィンドウ
現在選択されている図面データが表示されます。

図面切り替えタブ
表示する図面ウィンドウを切り替えます。
また、タブ上で右クリックするとポップアップメニューが表示され、各種のコマンドを実行できます。



カレントシートを切替え



参照図面内の要素をクリックすると選択した「カレントシートを切替え」ダイアログボックスが表示されます。
選択することにより、カレントシートが変更されます。

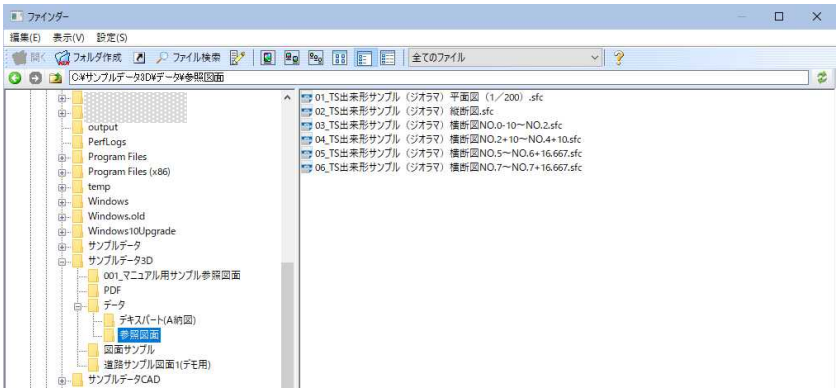
参照図面を開く

SXF(SFC、P21、SFZ、P2Z)、DWG/DXF、JWW/JWC、PDF、ndc、bvf、bvfz の各種データを読み込みます。

● 参照図面を開く

図面：開く

1 参照図面ウィンドウメニューで[ ]をクリックすると、「ファインダー」ダイアログボックスが表示されます。



Ctrl または Shift キーを押しながらクリックすることで複数の図面ファイルを選択することもできます。

2 いずれかの図面を選択し、[開く]をクリックすると「図面属性設定」ダイアログボックスが表示されます。

「図面属性設定」ダイアログボックスの操作は「図面属性設定」の説明を参照ください。⇒参照ページへ

各種の設定を行い、[図面を開く]をクリックすると、図面ウィンドウ内に選択した図面が表示されます。

●「ファインダー」ダイアログボックスのプルダウンメニュー

「ファインダー」ダイアログボックス内には以下のプルダウンメニューがあります。

編集
表示
設定

以下、各メニューについて説明します。

「編集」メニュー

■ 切り取り

1 マウスでクリップボードへ切り取るフォルダまたはファイルをクリックし、編集メニュー内の[切り取り]をクリックします。
2 フォルダまたはファイルの切り取りが行われます。

■ コピー

1 マウスでクリップボードへコピーするフォルダまたはファイルをクリックし、編集メニュー内の[コピー]をクリックします。
2 フォルダまたはファイルがコピーされます。

■ 貼り付け

1 コピー先のフォルダやドライブを開きます。
コピー先で編集メニュー内の[貼り付け]をクリックします。
2 切り取りまたはコピーしたフォルダやファイルが貼り付けされます。

■ 削除

1 マウスで削除するファイルをクリックします。
2 編集メニュー内の[削除]をクリックすると、削除が行われます。
また、**Del** キーを押しても同様の処理が行われます。

■ 名前の変更

1 マウスでファイルをクリックし、編集メニュー内の[名前の変更]をクリックします。
2 新しい名前を入力し、**Enter** キーを押すと、名前の変更が行われます。

■ フォルダ作成

1 マウスで新しいフォルダを作成する位置をクリックし、編集メニュー内の[フォルダ作成]またはツールバー内の[フォルダ作成]ボタンをクリックします。
2 一時的な名前が付いた新しいフォルダが表示されます。フォルダの名前を入力し、**Enter** キーを押します。

■ ショートカット作成

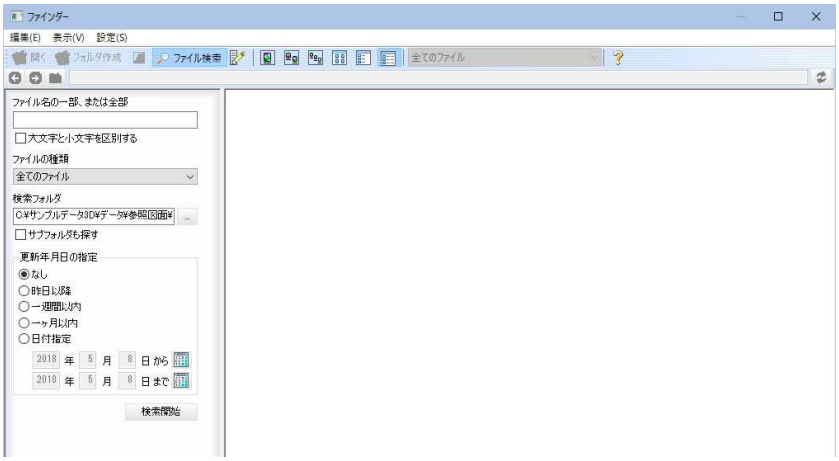
1 マウスでショートカットを作成するフォルダをクリックし編集メニュー内の[ショートカット作成]またはツールバー内の[ショートカット作成]ボタンをクリックします。
2 「ショートカット作成」ダイアログボックスが表示されますので、ショートカット名を入力し、[OK]をクリックします。

■ 全て選択

1 マウスで全てのファイルを選択するフォルダ内をクリックし、編集メニュー内の[全て選択]をクリックします。
2 選択したフォルダ内の全てが選択された状態になります。

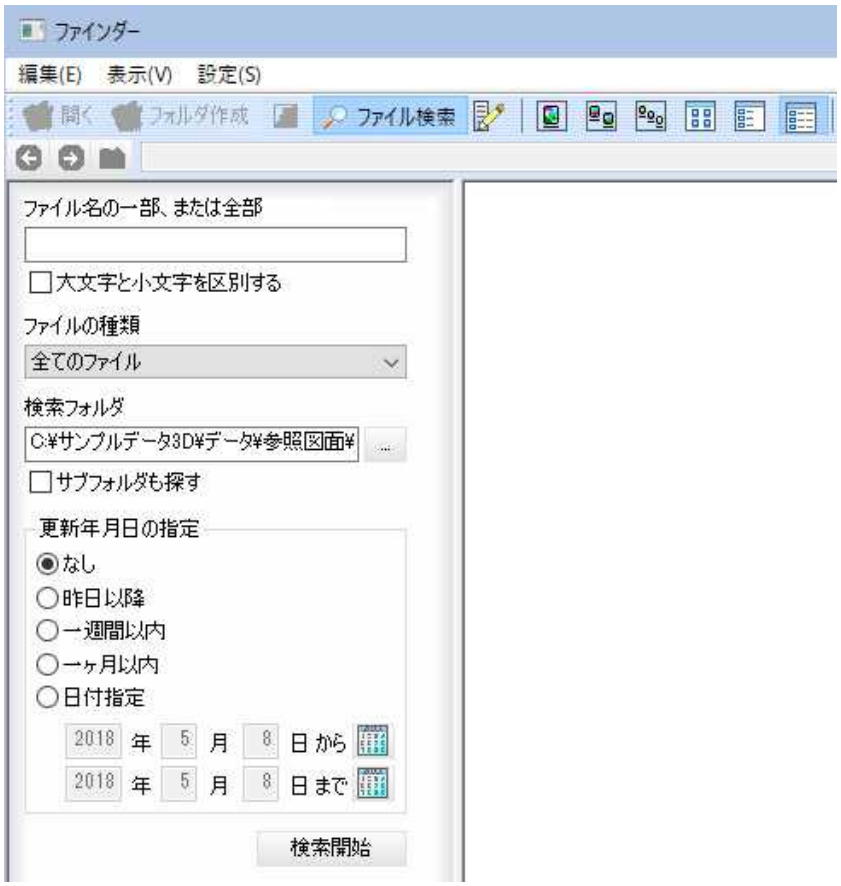
■ 検索

1 編集メニュー内の[検索]またはツールバー内の[検索]ボタンをクリックすると、「ファインダー」ダイアログボックスの表示が検索用に切り替わります。



ファイル名の一部、または全部
入力欄内にファイル名の一部または全部の文字列を入力します。
「大文字と小文字を区別する」チェックマークをオンにすると、大文字と小文字を区別して検索処理を行います。

ファイルの種類
ドロップダウンリストより、いずれかのファイル種類をクリックして選択します。



検索フォルダ
入力欄内に検索フォルダのパスを入力します。[. . .]をクリックすると「フォルダの参照」ダイアログボックスが表示されますので、いずれかのフォルダをクリックし[OK]をクリックします。
「サブフォルダも探す」チェックマークをオンにすると、サブフォルダも検索対象となります。

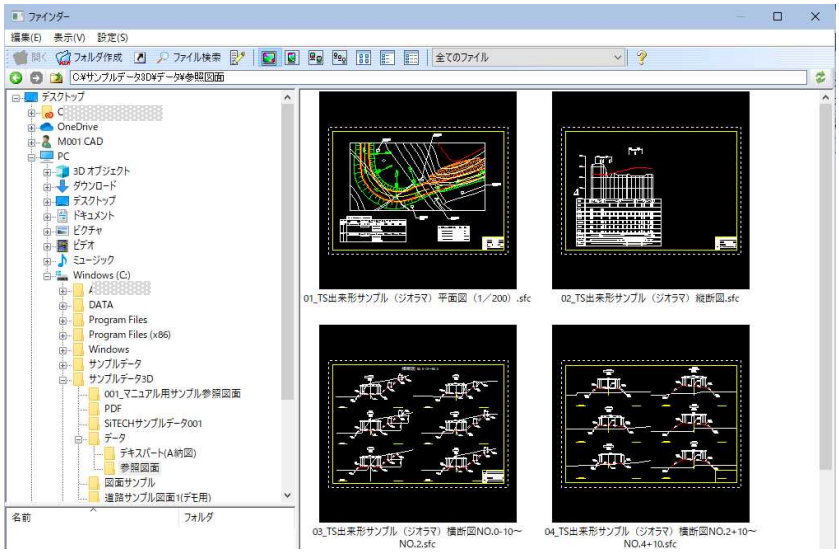
更新年月日の指定
「なし」、「昨日以降」、「一週間以内」、「一ヶ月以内」、「日付指定」のいずれかのラジオボタンをクリックして選択します。
「日付指定」をクリックした場合は日付を直接入力またはカレンダーアイコンをクリックして日付を指定します。

2 [検索開始]ボタンをクリックすると、指定した条件で検索処理が行われます。
再度[検索]コマンドを選択すると、通常の「ファインダー」ダイアログボックスに戻ります。

「表示」メニュー

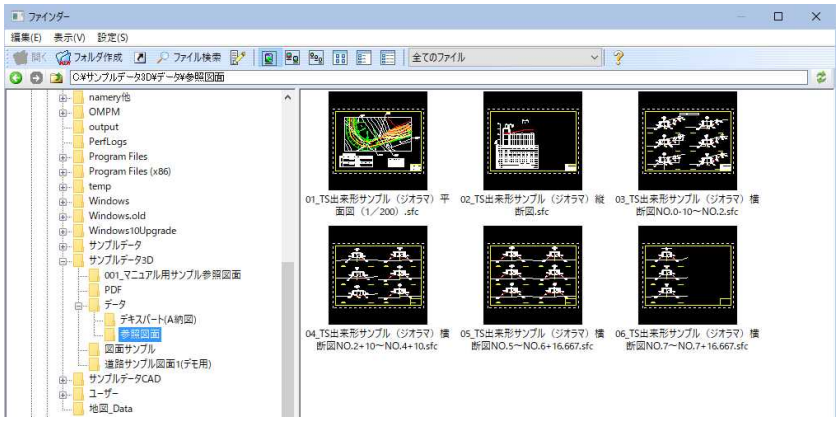
■ 縮小版(特大)

1 縮小版で表示するフォルダをクリックし、編集メニュー内の[縮小版(特大)]をクリックすると、ファイルが一覧内に特大のサイズで縮小表示されます。



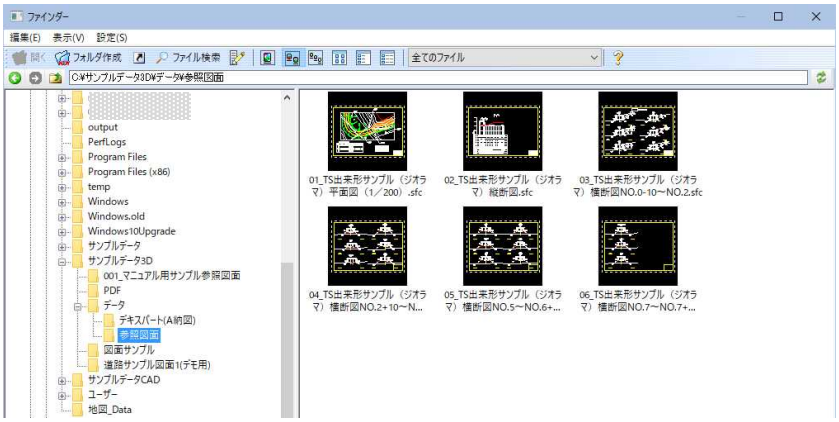
■ 縮小版(大)

1 縮小版で表示するフォルダをクリックし、編集メニュー内の[縮小版(大)]をクリックすると、ファイルが一覧内に大きいサイズで縮小表示されます。



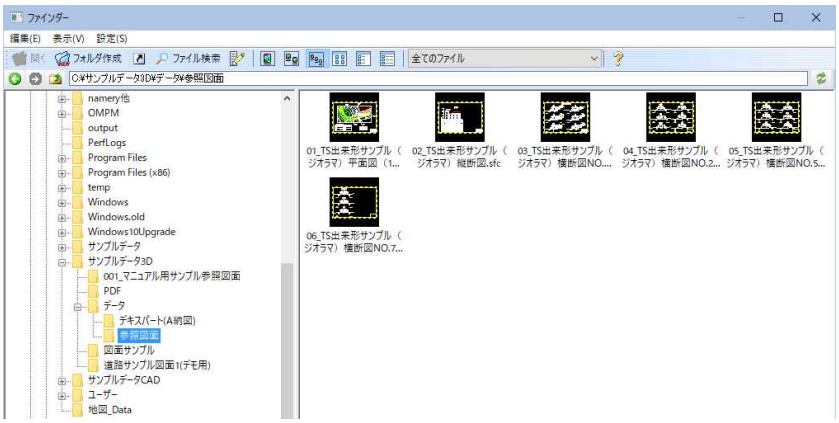
■ 縮小版(中)

1 縮小版で表示するフォルダをクリックし、編集メニュー内の[縮小版(中)]をクリックすると、ファイルが一覧内に中くらいのサイズで縮小表示されます。



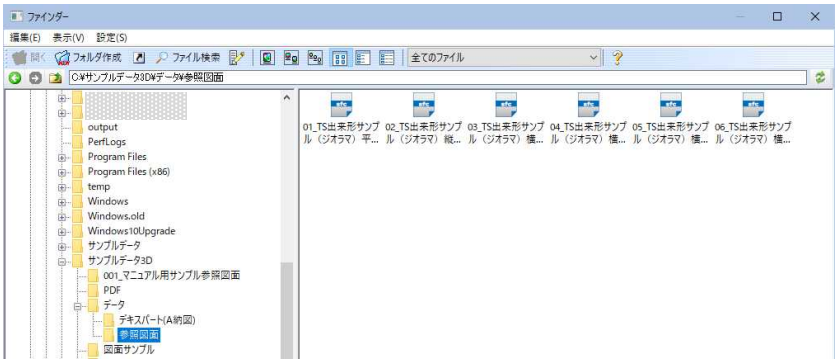
■ 縮小版(小)

1 縮小版で表示するフォルダをクリックし、編集メニュー内の[縮小版(小)]をクリックすると、ファイルが一覧内に一番小さいサイズで縮小表示されます。



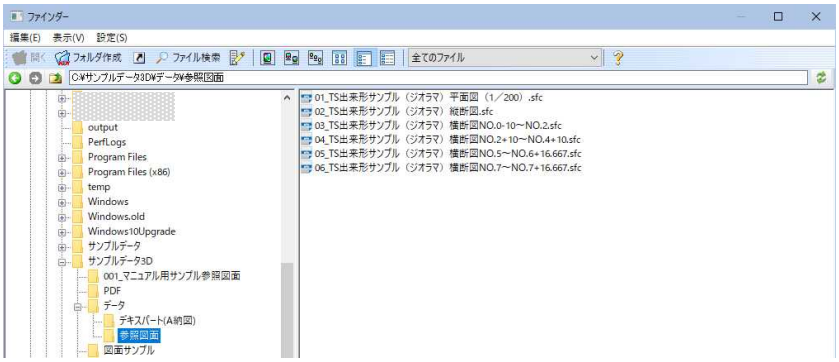
■ アイコン

1 アイコンで表示するフォルダをクリックし、編集メニュー内の[アイコン]をクリックすると、ファイルが一覧内にアイコン表示されます。



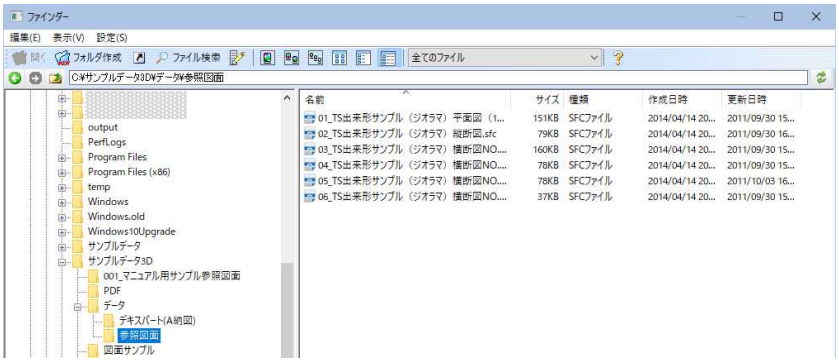
■ 一覧

1 一覧で表示するフォルダをクリックし、編集メニュー内の[一覧]をクリックすると、ファイルが一覧内にアイコン表示されます。



■ 詳細

1 詳細で表示するフォルダをクリックし、編集メニュー内の[詳細]をクリックすると、ファイルが一覧内に詳細表示されます。



■ 移動

1 **戻る**
前回表示したフォルダへ戻ります。

2 **進む**
次のフォルダへ進みます。

3 **上へ**
現在のフォルダの親フォルダの表示に切り替わります。

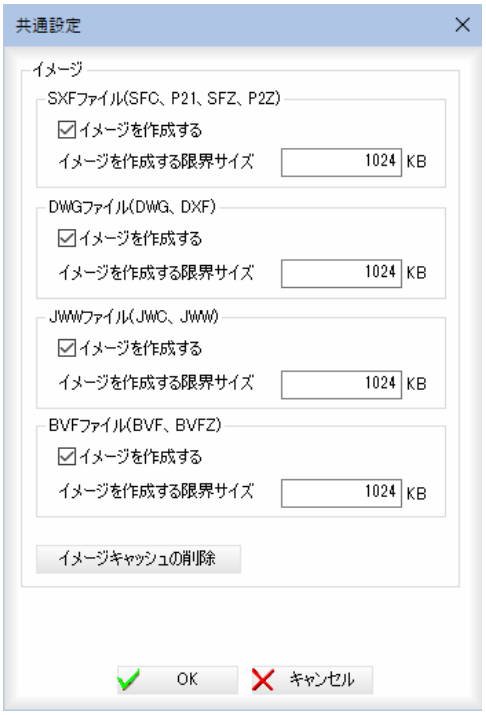
■ 最新の情報に更新

1 フォルダー内の情報を、最新のものに更新します。また、アドレスバー横の ボタン、**F5** キーを押しても、同様の処理が行えます。

「設定」メニュー

■ 共通設定

1 設定メニューで[共通設定]をクリックすると、「共通設定」ダイアログボックスが表示されます。各種のイメージ設定を行います。



・イメージの作成により、各図面やファイルのイメージを１つのファイルに保存しておくことができます。次回表示する際にこのファイルを読み込むことで、イメージの表示を高速化することができます。
特に DWG、DXF、SFC、P21、SFZ、P2Z、JWC、JWW など読み込みに時間のかかるファイルでも、一度作成すれば次回からイメージ・ファイルを読み込むため、高速に表示されます。
・メニュー[設定]－[共通設定]を選択し、ダイアログボックスで「イメージを作成する」チェックマークがオンの場合、イメージ・ファイルが作成されます。初期状態では、チェックマークはオンです。
チェックマークをオフにすると、それ以降、イメージアイコン・ファイルを作成しなくなります。
すでに作成したイメージアイコン・ファイルが存在しても無視されます。

■イメージ

ＳＸＦファイル（ＳＦＣ、Ｐ２１、ＳＦＺ、Ｐ２Ｚ）
ＤＷＧファイル（ＤＷＧ、ＤＸＦ）
ＪＷＷファイル（ＪＷＣ、ＪＷＷ）
ＢＶ ＣＡＤファイル（ＢＶＦ、ＢＶＦＺ）

それぞれ「イメージを作成する」チェックマークをオンにすると、イメージを表示する際にファイルを作成し、表示の高速化を行います。初期状態はオンです。
「イメージを作成する限界サイズ」の入力欄内には、イメージを作成する際の限界のサイズを KB 単位で入力します。

イメージキャッシュの削除

[イメージキャッシュの削除]をクリックすると、イメージファイル表示時の一時ファイルを削除します。

2 [OK]をクリックすると、「ファインダー」ダイアログボックスに戻ります。

●「ファインダー」ダイアログボックスのツールバーメニュー

「ファインダー」ダイアログボックス内のツールバーメニューについて説明します。

ツールバーメニュー内のコマンドは以下の通りです。

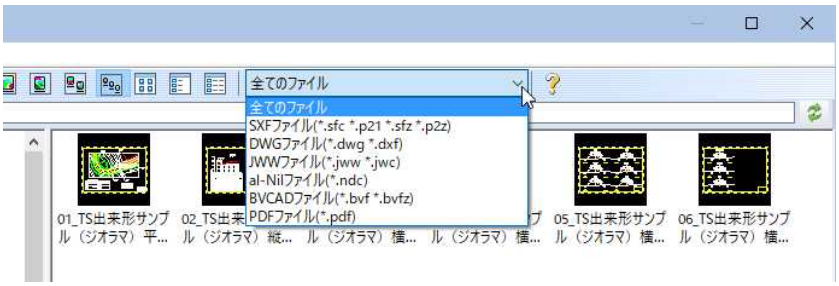
開く（選択したファイルを開きます）
フォルダ作成（プルダウンメニュー[編集]－[フォルダ作成]と同様）
ショートカット作成（プルダウンメニュー[編集]－[ショートカット作成]と同様）
ファイル検索（プルダウンメニュー[編集]－[検索]と同様）
共通設定（プルダウンメニュー[設定]－[共通設定]と同様）
縮小版(大)（プルダウンメニュー[表示]－[縮小版(大)]と同様）
縮小版(中)（プルダウンメニュー[表示]－[縮小版(中)]と同様）
縮小版(小)（プルダウンメニュー[表示]－[縮小版(小)]と同様）
アイコン（プルダウンメニュー[表示]－[アイコン]と同様）
一覧（プルダウンメニュー[表示]－[一覧]と同様）
詳細（プルダウンメニュー[表示]－[詳細]と同様）
表示ファイルタイプの選択

ここでは、以下の各メニューについて説明します。

表示ファイルタイプの選択

■ 表示ファイルタイプの選択

1 ツールバーメニューの[全てのファイル]の▼をクリックすると、以下の各種ファイル種類が表示されます。いずれかをクリックして選択します。
初期状態は「全てのファイル」です。



全てのファイル
SXF ファイル（*.SFC、*.P21、*.SFZ、*.P2Z）
DWG ファイル（*.DWG、*.DXF）
JWW ファイル（*.JWC、*.JWW）
al-Nil ファイル（*.ndc）
BV CAD ファイル（*.bvf、*.bvfz）
PDF ファイル（*.pdf）

●「ファインダー」ダイアログボックスのアドレスバーとツールバー

「ファインダー」ダイアログボックス内のアドレスバーと同列のツールバーについて説明します。

■ ツールバー

戻る・進む（前回表示したフォルダへ戻る、または進みます）

上へ（現在のフォルダの親フォルダの表示に切り替わります）

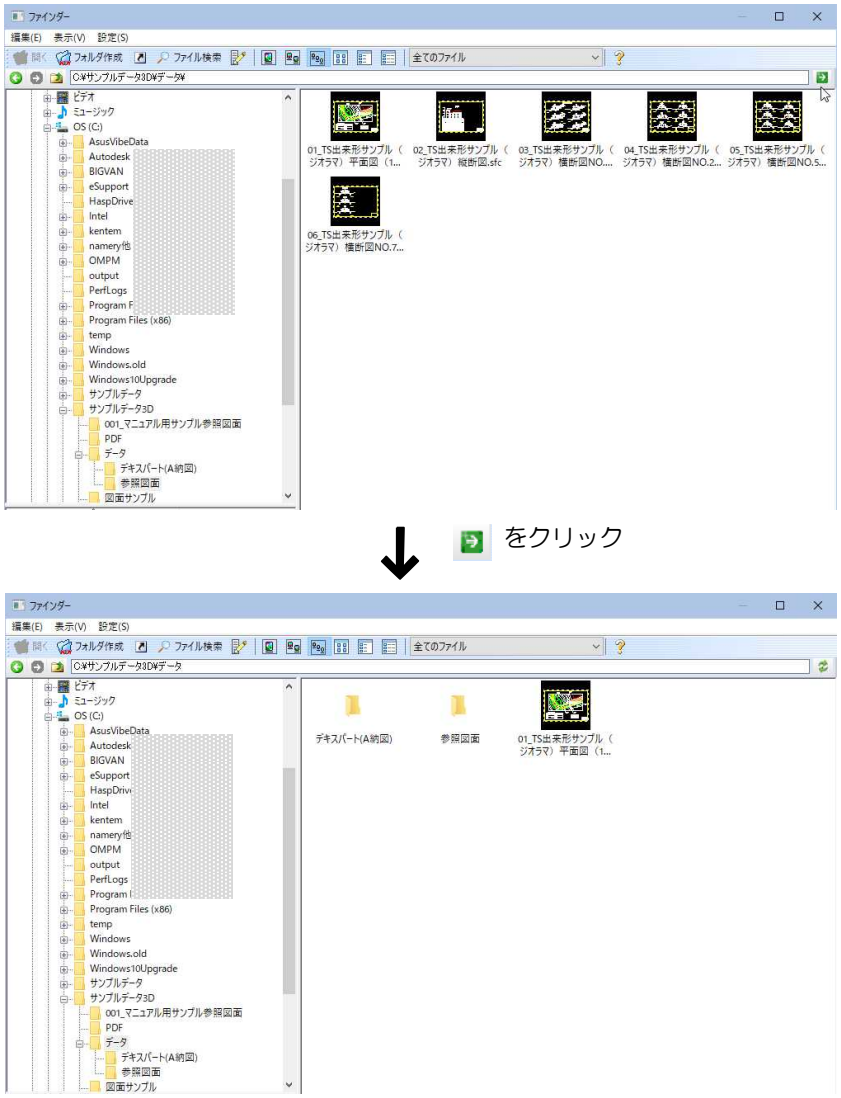
最新の情報に更新（ファイル一覧の内容を最新の情報に更新します）

■ アドレスバーの操作

・アドレスバーに無効なパスが入力されて Enter キーまたはアドレスバー横の→ボタンをクリックした場合はエラーメッセージを表示します。
・アドレスバーに変更が無くアドレスバー横のボタンをクリックした場合は、当該ツリーの内容を再表示します。
・検索タブをクリックした時はアドレスバーには入力できません。

1 アドレスバーに選択されているツリーのアドレスが表示されます。

2 アドレスバーに入力があった場合は、Enter キーまたはアドレスバー横の ボタンをクリックすると、入力されたアドレスのツリーを展開します。



をクリック

A 納図の図面を開く

A 納図の図面データを読み込みます。[フォルダ]または[工事]から A 納図の図面を開くことができます。

● A 納図の図面を開く

図面：A納図

1 参照図面ウィンドウメニューで[ ]をクリックすると、「A 納図の図面を開く」ダイアログボックスが表示されます。

フォルダ/工事の切り替え

[フォルダ]をクリックすると、フォルダを選択して、そのフォルダの A 納図ファイル（*.ant）を指定して開きます。

[工事]をクリックすると、デキスパートの工事から図面を選択します。

▼[フォルダ]をクリックした場合

ファイルの選択

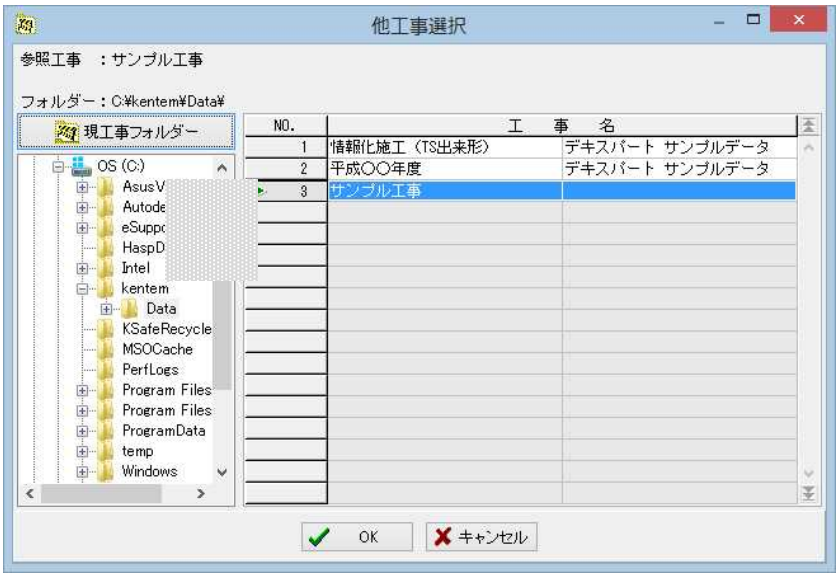
Ctrl または Shift キーを押しながらクリックすることで複数の図面ファイルを選択することもできます。

2 **工事名（[工事]をクリックした場合）**

「工事名:」には、現在選択中の工事名が表示されます。

他工事選択

[他工事選択]をクリックすると、「他工事選択」ダイアログボックスが表示されます。



フォルダの選択

「他工事選択」ダイアログボックス左側に表示されるツリー表示内のフォルダをクリックすることにより、フォルダを変更することができます。

工事の選択

「他工事選択」ダイアログボックス右側には▶[工事名一覧が表示されます。現在選択されている工事名の左側には「　　」マークが表示されます。
他の工事名上でクリックすると三角形のマークが移動し、選択されます。
[OK]をクリックすると「A 納図の図面を開く」ダイアログボックスに戻ります。

3 表示の切り替え（[フォルダ]、[工事]共通）

「A 納図の図面を開く」ダイアログボックスで表示の切り替えを行います。

表形式表示

[表形式]をクリックすると、表形式で表示されます。

一覧(小)表示

[一覧(小)]をクリックすると、小サイズの縮小版が表示されます。

一覧(中)表示

[一覧(中)]をクリックすると、中サイズの縮小版が表示されます。

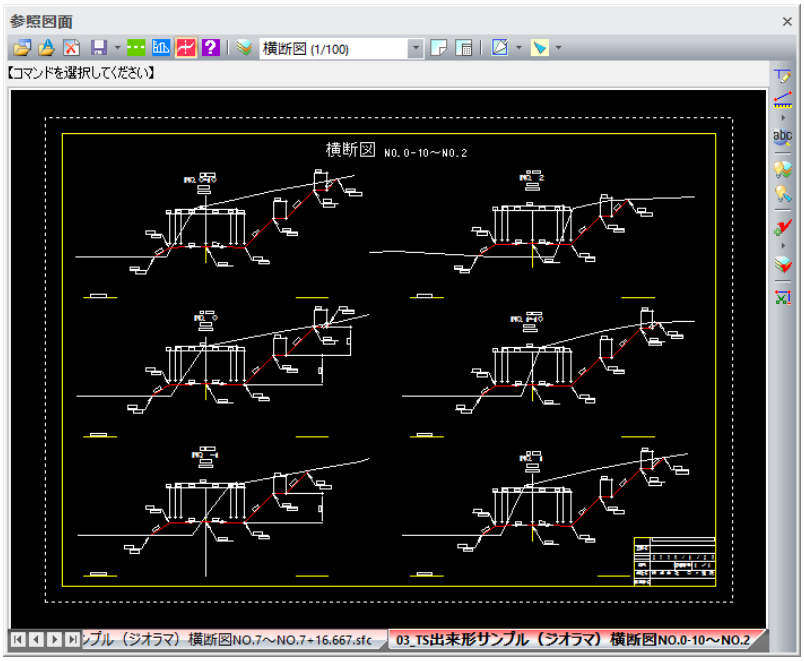
一覧(大)表示

[一覧(大)]をクリックすると、大サイズの縮小版が表示されます。

4 いずれかの図面を選択し、[OK]をクリックすると「図面属性設定」ダイアログボックスが表示されます。

「図面属性設定」ダイアログボックスの操作は「図面属性設定」の説明を参照ください。**⇒参照ページへ**

各種の設定を行い、[図面を開く]をクリックすると、参照図面ウィンドウ内に選択した A 納図データが表示されます。

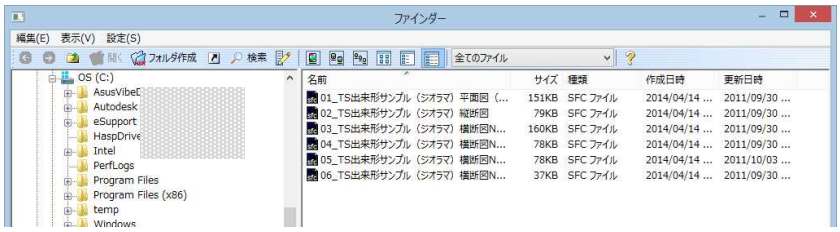


図面属性設定

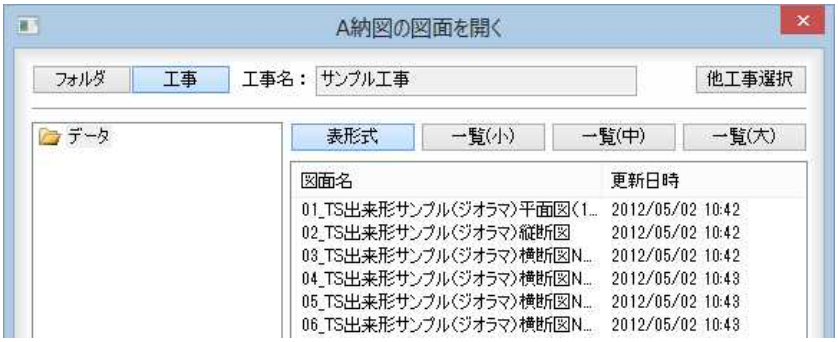
「図面を開く」または「A 納図を開く」でファイルを選択し、[開く]をクリックすると「図面属性設定」ダイアログボックスが表示されます。各種の設定を行います。

● 図面を追加／A 納図を追加

1 「図面属性設定」ダイアログボックスで[図面を追加]をクリックすると、「ファインダー」ダイアログボックスが表示されますので、いずれかの図面ファイルを選択し、[開く]をクリックします。



2 [A 納図を追加]をクリックすると、「A 納図の図面を開く」ダイアログボックスが表示されますので、それぞれ図面ファイルを選択し、[OK]をクリックします。



3 「図面属性設定」ダイアログボックスに戻ります。

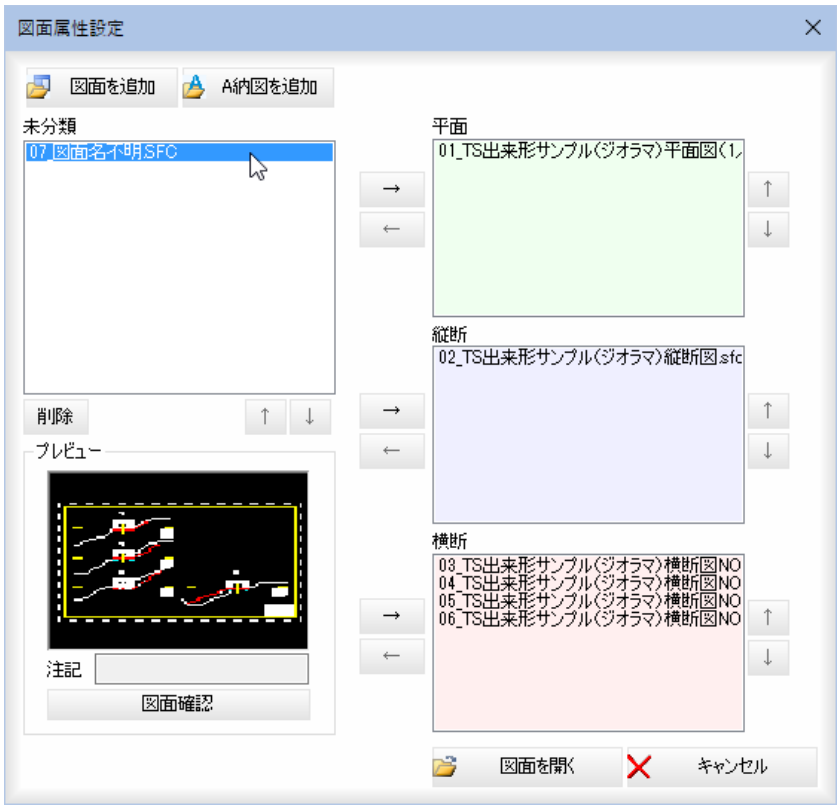
● 図面ファイルの属性を分類する

・図面属性設定で自動で「平面」「縦断」「横断」に振分けられるファイル名称を、今までの命名規則に加え、新しい CAD 製図基準案にも対応しました。

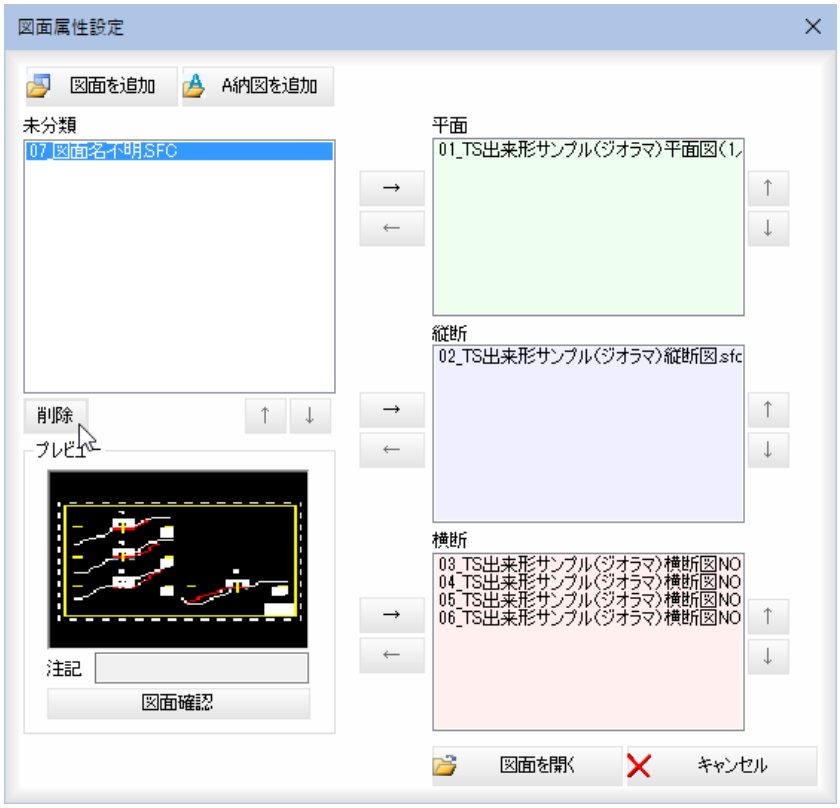
【新しい CAD 製図基準案の命名規則】
■平面図 ： 001C0PLZ.SFC
■縦断図 ： 002C0PFZ.SFC
■横断図 ： 009C0CSZ.SFC

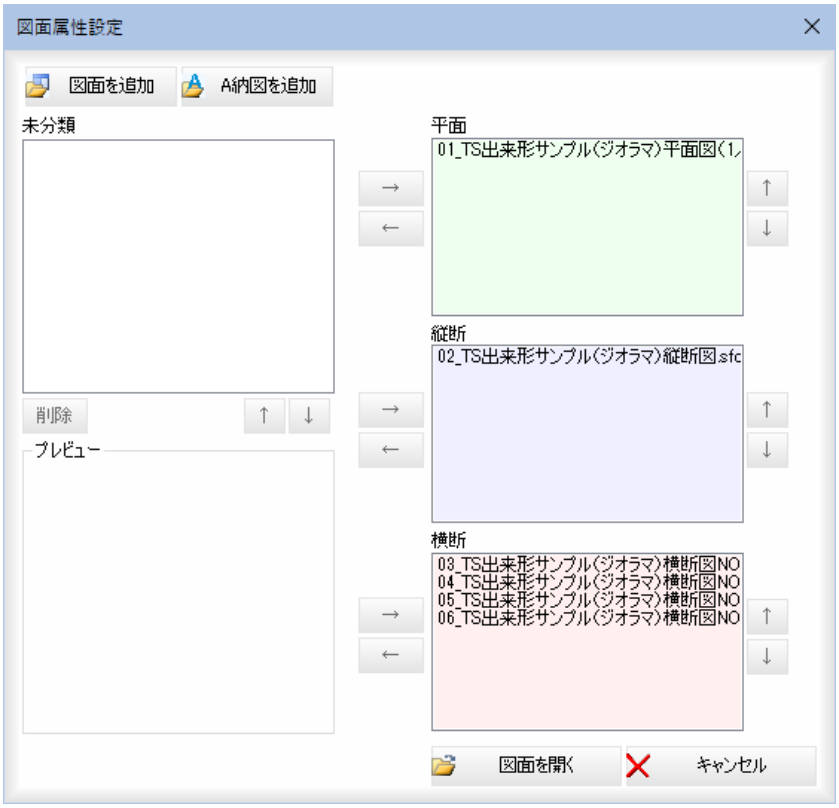
【旧】
■平面図 ： C0PL001Z.SFC
■縦断図 ： C0PF002Z.SFC
■横断図 ： C0CS009Z.SFC

1 「図面属性設定」ダイアログボックスで未分類／平面／縦断／横断のいずれかの一覧表示内に図面ファイルが表示されます。



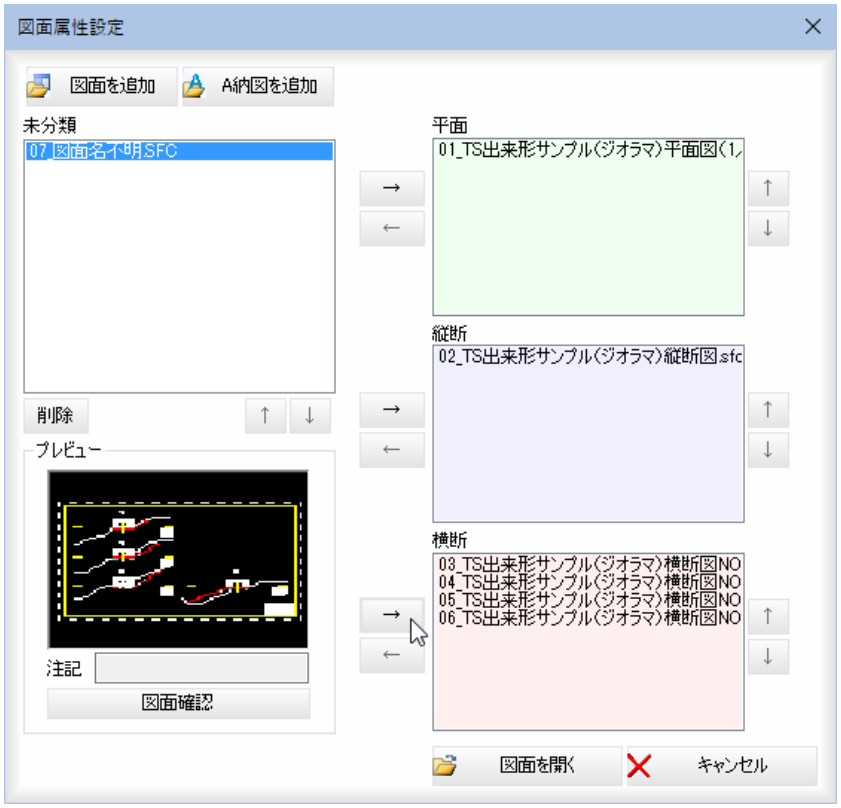
2 **未分類の図面ファイルを削除する**
「未分類」一覧表示内のいずれかの図面ファイルを選択し、[削除]をクリックすると、削除が実行されます。

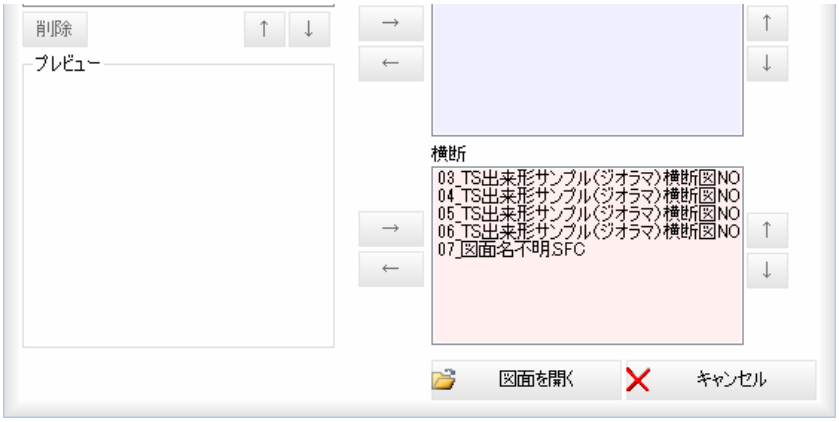




3 未分類の図面ファイルの属性を設定する

「未分類」一覧表示内のいずれかの図面ファイルを選択し、平面／縦断／横断のいずれかの[→]をクリックすると、属性一覧表示内に表示されます。





各属性一覧表示内の図面ファイルを選択し、[←]をクリックすると、未分類一覧表示内に図面ファイルが表示されます。

4 **属性一覧表示内の順序を変更する**

未分類／平面／縦断／横断の一覧表示内のいずれかのファイルを選択し、[↑]、[↓]をクリックすると、属性一覧表示内の順序を変更することができます。

● 図面のプレビュー／図面確認

1 「図面属性設定」ダイアログボックスで未分類／平面／縦断／横断のいずれかの一覧表示内の図面ファイルをクリックすると[プレビュー]が表示されます。
[図面確認]をクリックすると「図面確認」ダイアログボックスが表示されます。

注記

「注記」入力欄内に文字列を入力・変更します。

(スポイトボタン)をクリックすると、図面内の文字抽出モードとなりますので、いずれかの文字列をクリックします。入力欄内に文字列が追加されます。
[注記を更新]をクリックすると、[注記を更新]をクリックすると、確認メッセージが表示されますので、[OK]をクリックすると、注記文字列が更新されます。

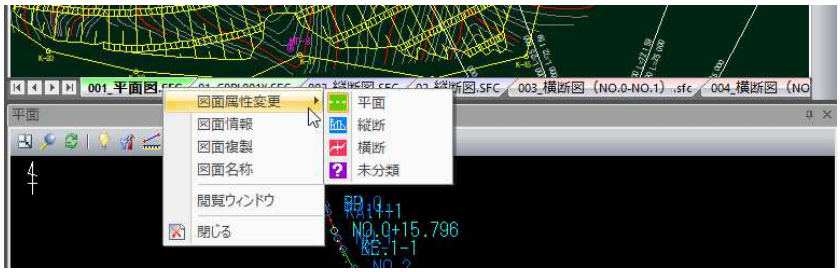
図面の切り替え

図面名のドロップダウンリストまたは をクリックして図面ファイルの切り替えを行います。
[選択]をクリックすると、「図面属性設定」ダイアログボックスに戻ります。

2 [選択]をクリックすると、表示中の図面ファイルを選択して「図面属性設定」ダイアログボックスに戻ります。
[閉じる]をクリックすると、図面確認を終了して「図面属性設定」ダイアログボックスに戻ります。

● 参照図面の属性を変更する

1 現在表示中のタブ上で[右クリック]－[図面属性変更]をクリックし変更したい属性[ ]のいずれかをクリックすると、現在表示中の参照図面の属性が変更されます。



→ 平面図
→ 縦断図
→ 横断図
→ 未設定

図面を閉じる

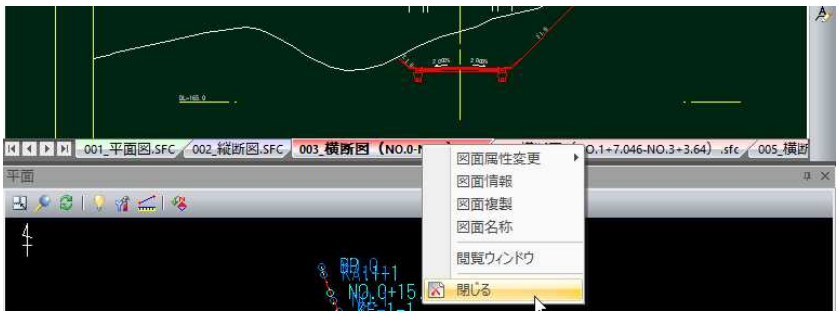
現在表示中の図面を閉じます。

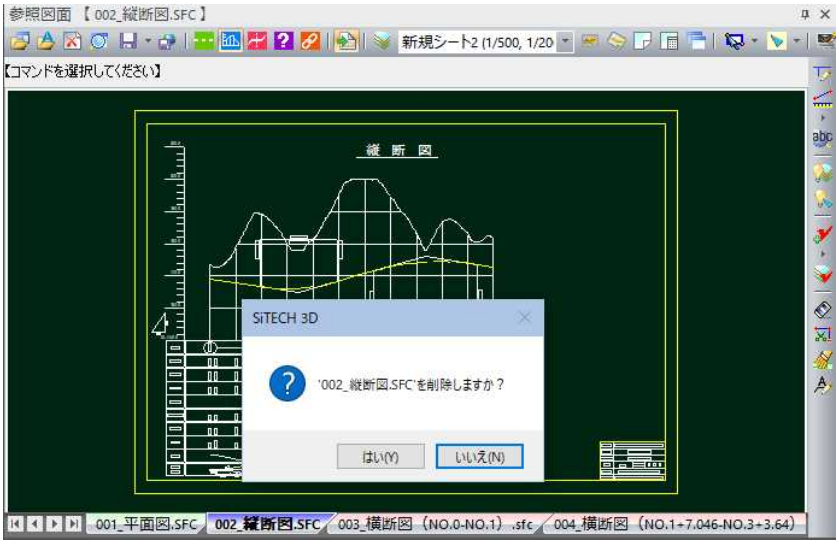
● 図面を閉じる

図面：閉じる

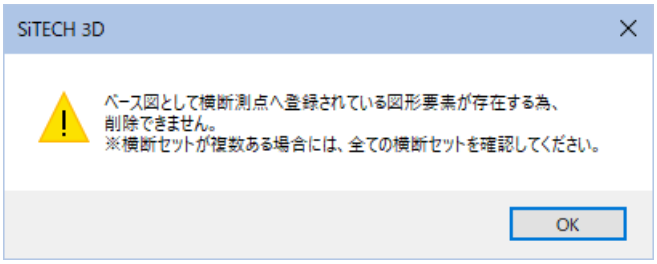
1 参照図面ウィンドウメニューで[ ]をクリック、または現在表示中のタブ上で[右クリック]－[閉じる]をクリックします。

または、





2 確認メッセージが表示されますので[はい]をクリックすると、現在表示中の参照図面を閉じます。
また、「ベース図」「2D 図面：配置」で使用されている図面の場合はメッセージが表示され、図面を閉じることができません。[OK]をクリックし、各種の処理を行い、再度「閉じる」を選択してください。



閲覧ウィンドウ

参照図面として管理されている図面の 1 ファイルを別ウィンドウで表示します。

● 閲覧ウィンドウ

・以下のコマンドの各ダイアログボックスで、[閲覧図面]をクリックすると、閲覧ウィンドウが表示されます。
○横断メニュー[構築形状]内「一括編集」ダイアログボックス
○横断メニュー内各種コマンドからの「横断属性設定」ダイアログボックス
○横断属性設定内の各種ダイアログボックス
「横断属性テンプレート」、「テンプレート取込み対象の選択」、「構築形状の自動生成」

1 参照図面ウィンドウメニューで[ ]をクリック、または現在表示中のタブ上で[右クリック]－[閲覧ウィンドウ]をクリックすると、閲覧ウィンドウが表示されます。

または、

閲覧ウィンドウは次の各種のコマンドを使用できます。

参照図面の表示を切り替える(平面図、縦断図、横断図、未分類)

をいずれかをクリックすると参照図面の表示が切り替わります。

参照図面の切り替え

図面名のドロップダウンリストまたは をクリックして図面ファイルの切り替えを行います。

シートの切り替え

シート名のドロップダウンリストをクリックしてシートの切り替えを行います。

計測コマンド

２点間距離、座標、２点間距離(延長)、標高(ＤＬ)、道のり、３点内角、面積、逆幅杭の各種計測コマンドが使用できます。 ⇒参照ページへ

その他、レイヤ表示設定、要素表示切替、文字検索コマンドが使用できます。

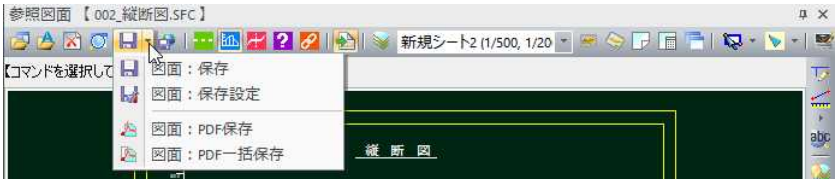
レイヤ表示設定 ⇒参照ページへ

要素表示切替 ⇒参照ページへ

文字検索 ⇒参照ページへ

図面ファイルに保存する

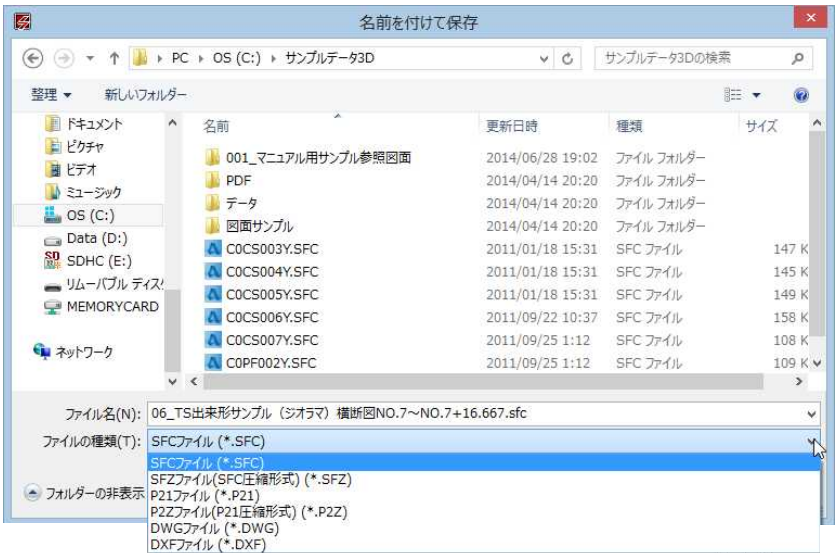
参照図面から図面ファイルを出力します。出力可能なファイル形式は、SFC、SFZ、P21、P2Z、DWG、DXF です。



● 図面：保存

図面：保存

1 参照図面ウィンドウメニューで[図面：保存]をクリックすると、ファイル保存ダイアログボックスが表示されます。
「ファイルの種類」ドロップダウンリストより、いずれかのファイル種類を選択します。

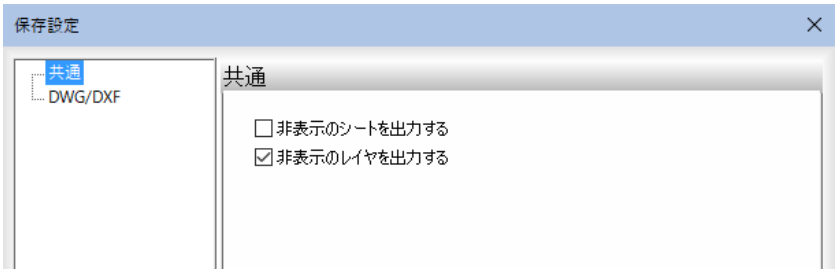


2 ファイル名を入力し、[保存]をクリックすると、現在表示中の図面データが選択した種類の図面ファイルとして保存されます。

● 図面：保存設定

図面：保存設定

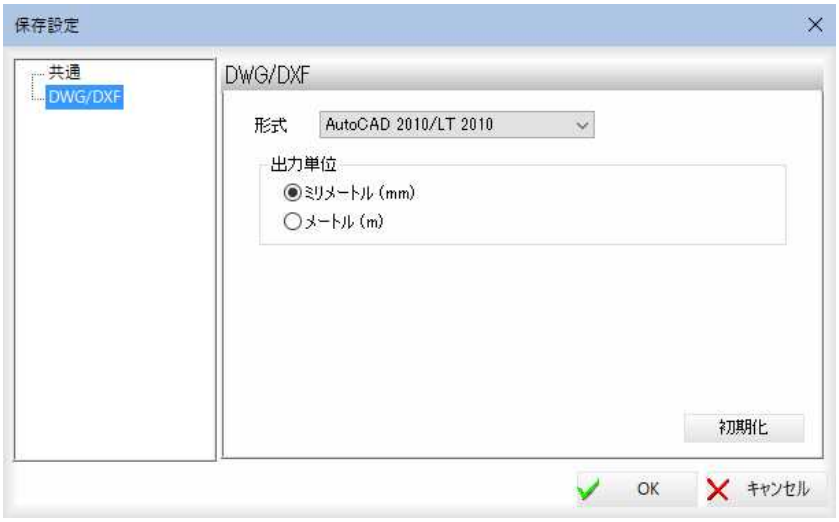
1 参照図面ウィンドウメニューで[図面：保存設定]をクリックすると、「保存設定」ダイアログボックスが表示されます。



ツリー表示内の「共通」または「DWG/DXF」をクリックして表示を切り替えます。

2 **共通の保存設定**
非表示のシート・レイヤを出力対象とするか、「非表示のシートを出力する」、「非表示のレイヤを出力する」チェックマークをクリックして設定します。

3 **DWG/DXF の保存設定**



形式の選択

形式をドロップダウンリストよりいずれかを選択します。

出力単位

いずれかの出力単位をラジオボタンをクリックして選択します。[初期化]をクリックすると、設定を初期状態に戻します。

4 [OK]をクリックすると、処理を有効として実行前に戻ります。

PDF ファイルに保存する

PDF ファイルに保存します。PDF 保存と、PDF 一括保存があります。ドロップダウンリストから選択します。

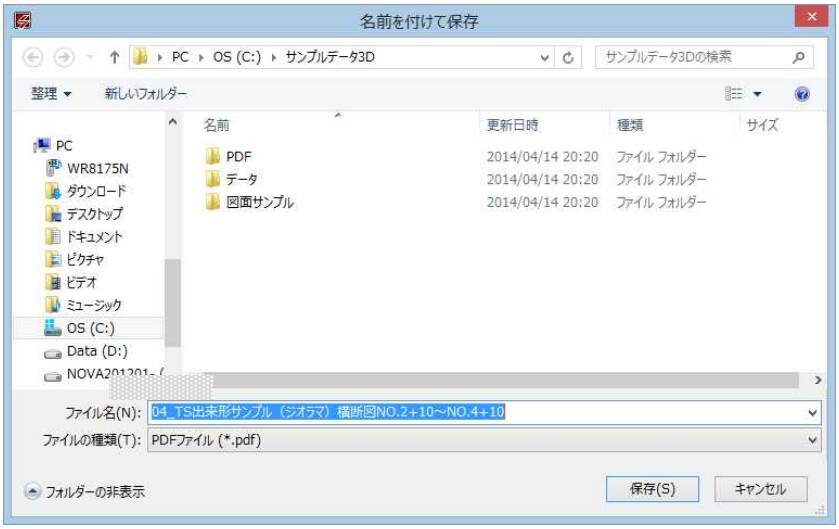
・[図面：保存設定]の「共通」で非表示のシート・レイヤを出力対象と設定した場合は、PDF ファイル保存時にも反映されます。

,

● PDF 保存

図面：PDF保存

1 参照図面ウィンドウメニューで[図面：PDF保存]をクリックすると、ファイル保存ダイアログボックスが表示されます。

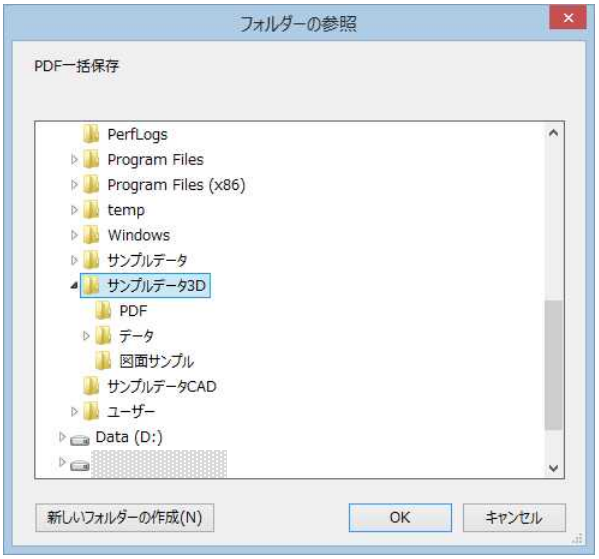


2 ファイル名を入力し、[保存]をクリックすると、現在表示中の図面データが PDF ファイルとして保存されます。

● PDF 一括保存

図面：PDF一括保存

1 参照図面ウィンドウメニューで[図面：PDF一括保存]をクリックすると、「フォルダーの参照」ダイアログボックスが表示されます。



2 いずれかのフォルダを選択し、[OK]をクリックすると、すべての図面データが PDF ファイルとして保存されます。

GoogleEarth ファイルに出力する

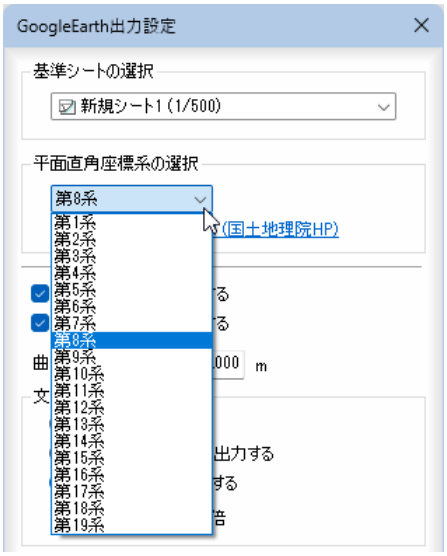
GoogleEarth ファイルに保存します。

● GoogleEarth 出力

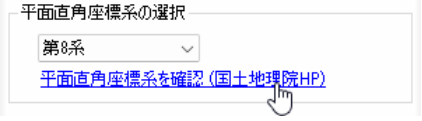
図面：GoogleEarth出力

1 参照図面ウィンドウメニューで[図面：GoogleEarth出力]をクリックすると、「GoogleEarth 出力設定」ダイアログボックスが表示されます。

基準シートの選択
ドロップダウンリストより、基準となるシートを選択します。
平面直角座標系の選択
ドロップダウンリストより、いずれかを選択します。



平面直角座標系ドロップダウンリスト下のリンクをクリックすると、説明ページが表示されます。



非表示のシートを出力する
「非表示のシートを出力する」チェックマークをオンにすると、非表示シートも出力します。
非表示のレイヤを出力する
「非表示のレイヤを出力する」チェックマークをオンにすると、非表示レイヤも出力します。
曲線の分割ピッチ
「曲線の分割ピッチ」入力欄内に分割ピッチを m 単位で入力します。

文字
「文字要素を出力する」チェックマークをオンにすると、文字も出力します。

塗りハッチング／透過
「要素ごとの指定を無効にする」チェックマークをオンにすると、塗りハッチング要素の透過設定を無効化して透明度を統一して出力します。初期状態はオフです。
透明度
「要素ごとの指定を無効にする」チェックマークをオンの場合、透明度をドロップダウンリストより選択して指定します。

[初期化]をクリックすると、設定を初期状態に戻します。

2 [OK]をクリックすると、ファイル保存ダイアログボックスが表示されます。

3 [保存]をクリックすると、GoogleEarth ファイルとして保存され、GoogleEarth を起動するか確認メッセージが表示されます。

[はい]をクリックすると、GoogleEarth が起動し、出力した平面図が表示されます。

表示を切り替える

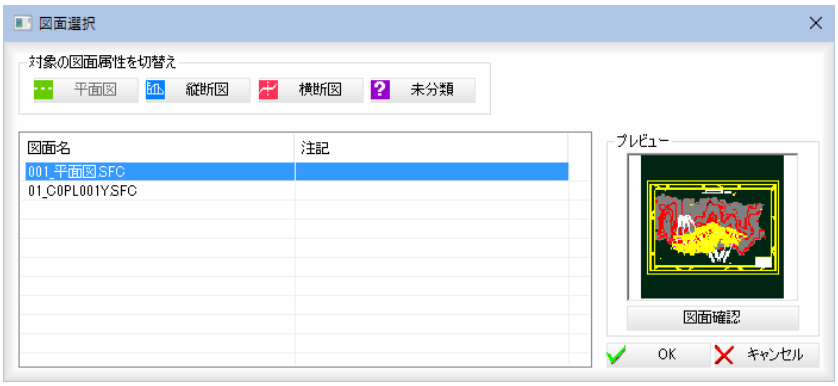
参照図面の表示を平面、縦断、横断、未分類、路線リンク画面へ切り替えます。また、「図面属性設定」ダイアログボックスの表示、図面情報の表示を行います。

● 参照図面の表示を切り替える

1 参照図面ウィンドウメニューで[ ]のいずれかをクリックすると、現在表示中の参照図面の表示が切り替わります。

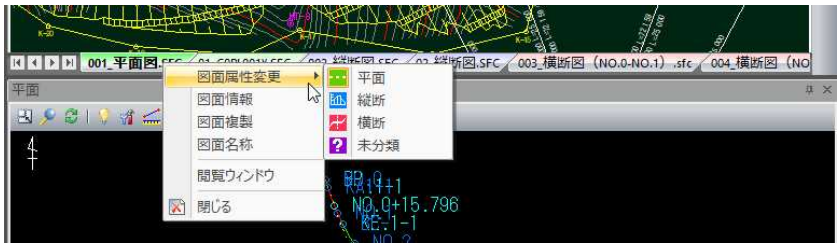
→ 平面図を表示します。
→ 縦断図を表示します。
→ 横断図を表示します。
→ 未分類の図面を表示します。

2 指定した属性の図面が複数ある場合は、「図面選択」ダイアログボックスが表示されます。



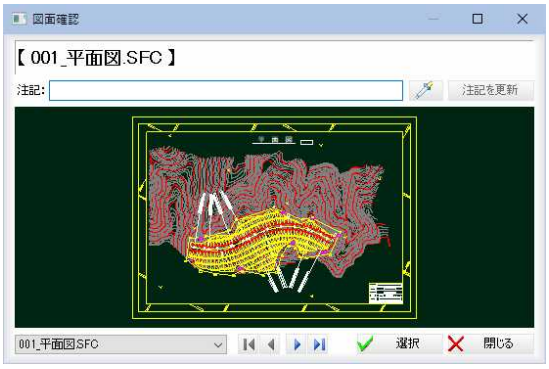
対象の図面属性を切替え

いずれかのボタンをクリックすると、図面属性が変更されます。
また、現在表示中のタブ上で[右クリック]ー[図面属性変更]をクリックし変更したい属性[ ]のいずれかをクリックすると、現在表示中の参照図面の属性が変更されます。



プレビュー画面

図面をクリックすると、右側にプレビュー画面が表示されます。
[図面確認]をクリックすると「図面確認」ダイアログボックスが表示されます。

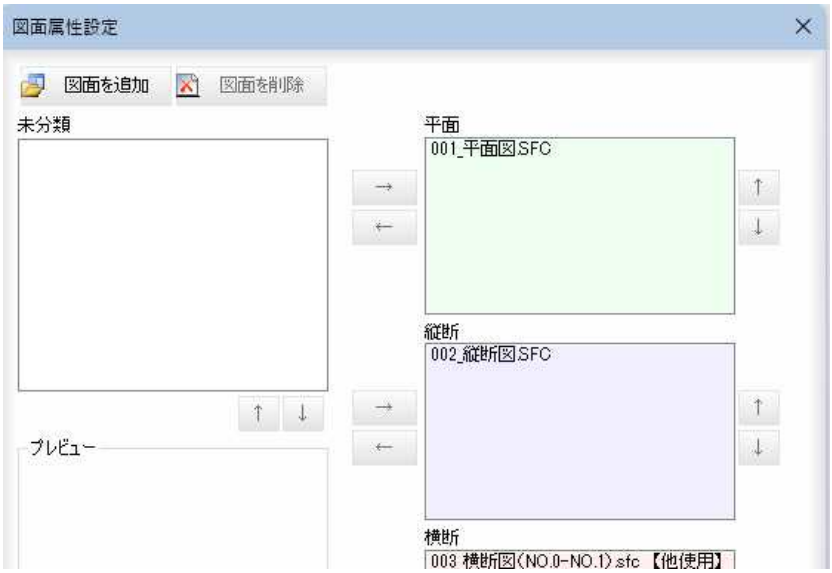


「図面確認」ダイアログボックス内の操作は、「図面属性設定」ダイアログボックス内と同様です。⇒参照ページへ

3 図面を指定して[OK]をクリックすると、その図面を表示します。

●「図面属性設定」ダイアログボックスの表示

1 参照図面ウィンドウメニューで[ ]をクリックすると、「図面属性設定」ダイアログボックスが表示されます。

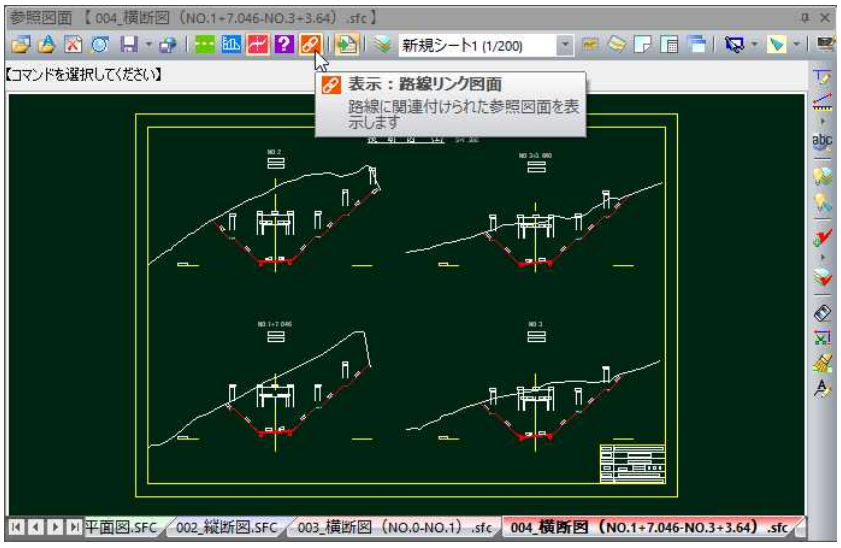


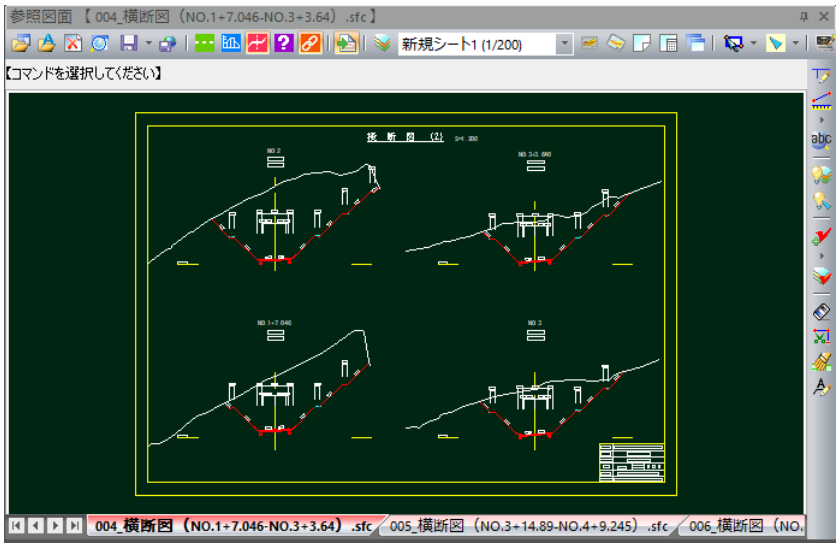
「図面属性設定」ダイアログボックスの操作は「図面属性設定」の説明を参照ください。⇒参照ページへ

2 「図面属性設定」ダイアログボックスで[OK]をクリックすると、参照図面ウィンドウに戻ります。

● 路線に関連付けられた参照図面を表示する

1 参照図面ウィンドウメニューで[ ]をクリックすると、現在表示中の参照図面の表示が路線に関連付けられた参照図面に切り替わります。



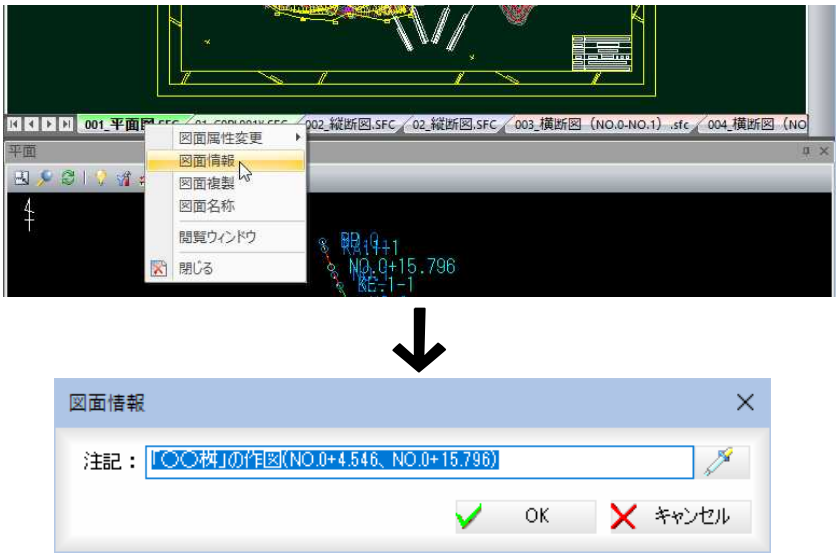


再度クリックすると、表示が元に戻ります。

路線データへの参照図面の関連付けは、平面メニューー[路線情報]で設定します。**⇒参照ページへ**

● 参照図面の図面情報を表示する

1 現在表示中のタブ上で[右クリック]ー[図面情報]をクリックすると、「図面情報」ダイアログボックスが表示されます。



・注記文字列は、以下の箇所に表示されます。
参照図面ウィンドウのタイトルバー。
「図面選択」ダイアログボックスのファイル名およびファイル一覧リスト内。

2 「注記」入力欄内に文字列を入力・変更します。

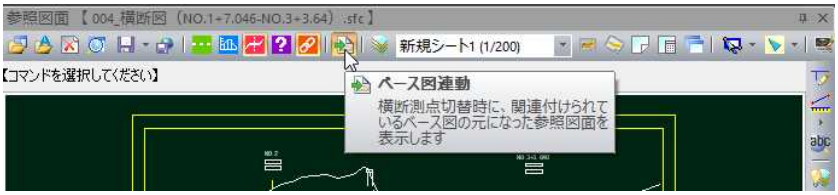
(スポイトボタン)をクリックすると、図面内の文字抽出モードとなりますので、いずれかの文字列をクリックします。入力欄内に文字列が追加されます。
[OK]をクリックすると、注記文字列が入力されます。

ベース図連動

ベース図連動のオン・オフの切り替えが行えます。初期状態はオンです。

● ベース図連動

1 参照図面ウィンドウメニューで[ ]をクリックすると、ベース図連動のオン・オフの切り替えが行えます。
オンの場合、横断測点切替時に、関連付けられているベース図の元になった参照図面を表示します。

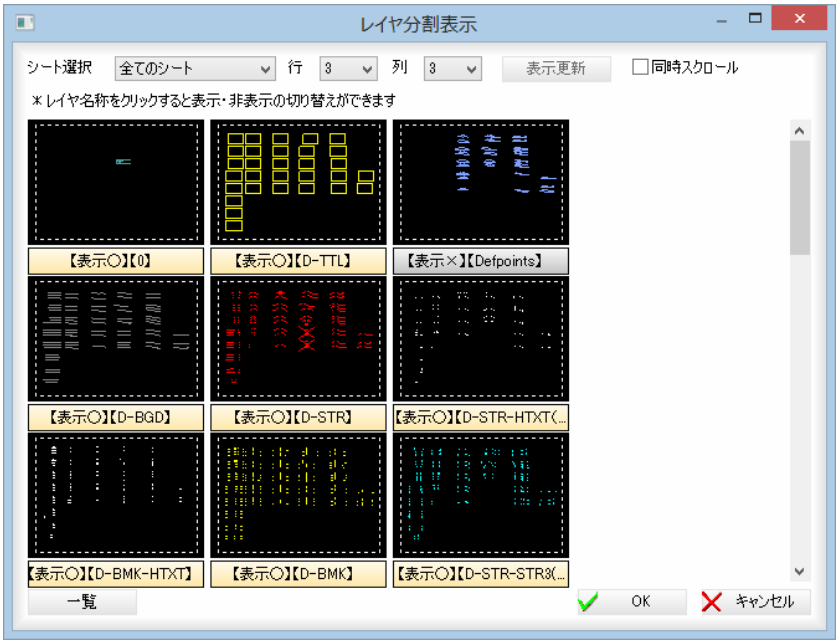


レイヤ分割表示

レイヤ分割表示で各種のレイヤ処理を行います。

● レイヤ分割表示

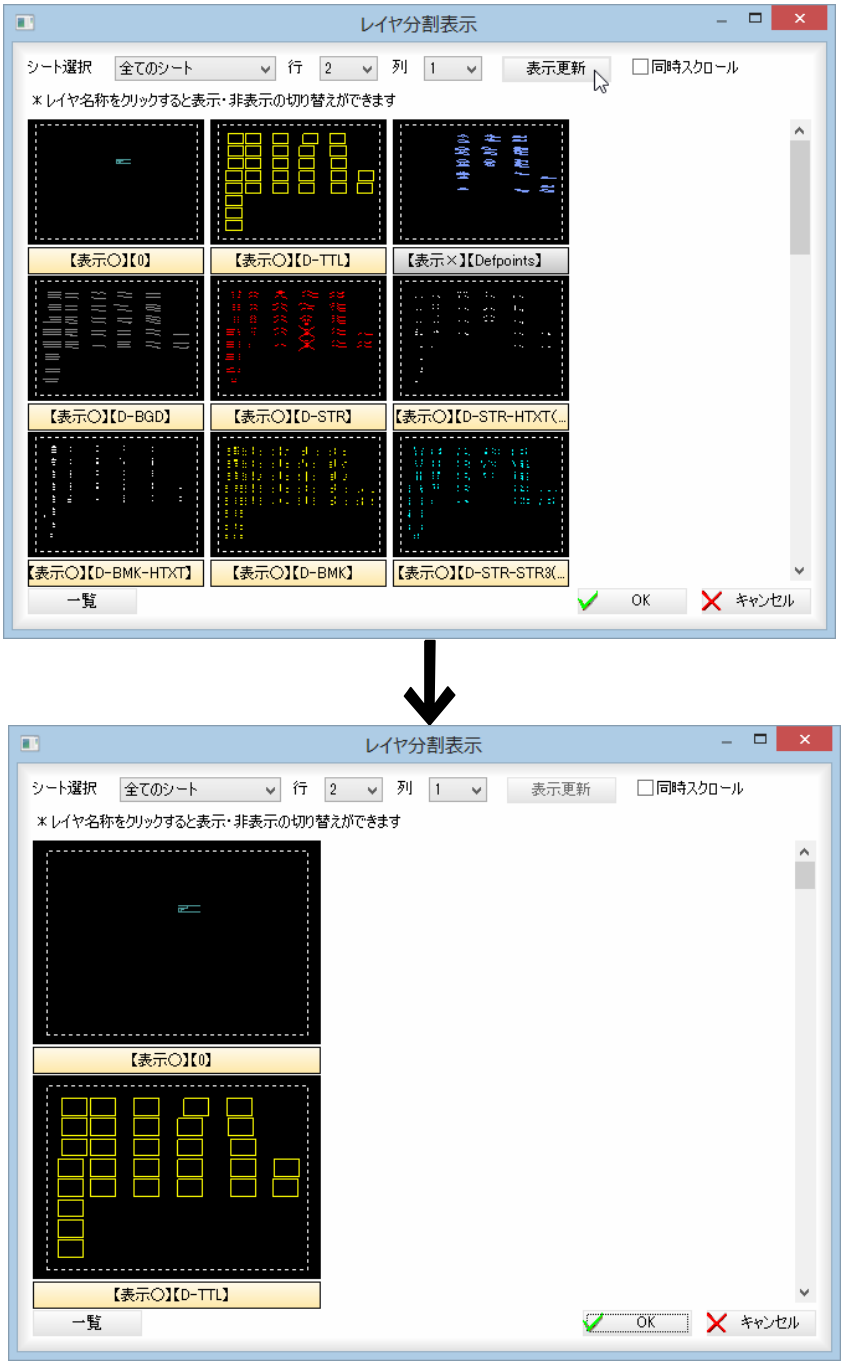
1 参照図面ウィンドウメニューで[ ]をクリックすると、「レイヤ分割表示」ダイアログボックスが表示されます。



2 **シート選択**
「シート選択」のドロップダウンリストよりシートを選択します。

3 行・列の変更

「行」、「列」のドロップダウンリストより表示数を選択します。
[表示更新]をクリックすると、設定した行・列に表示が変更されます。



同時スクロール

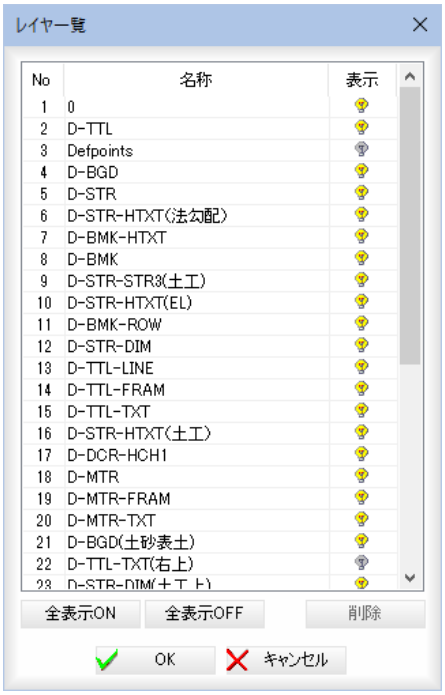
「同時スクロール」チェックマークをオンにすると、すべてのレイヤが同じ位置を表示します。

4 レイヤ情報の編集

分割表示下部のレイヤ名称をクリックすると、レイヤの表示/非表示が切り替わります。

5 一覧表示画面へ

[一覧]をクリックすると、「レイヤー覧」ダイアログボックスが表示されます。



名称

「名称」欄内に名称が表示されます。

表示

「表示」欄内で左クリックすると、オン・オフを切り替えることができます。

[OK]をクリックすると、「レイヤ分割表示」ダイアログボックスに戻ります。

[全表示 ON]／[全表示 OFF]

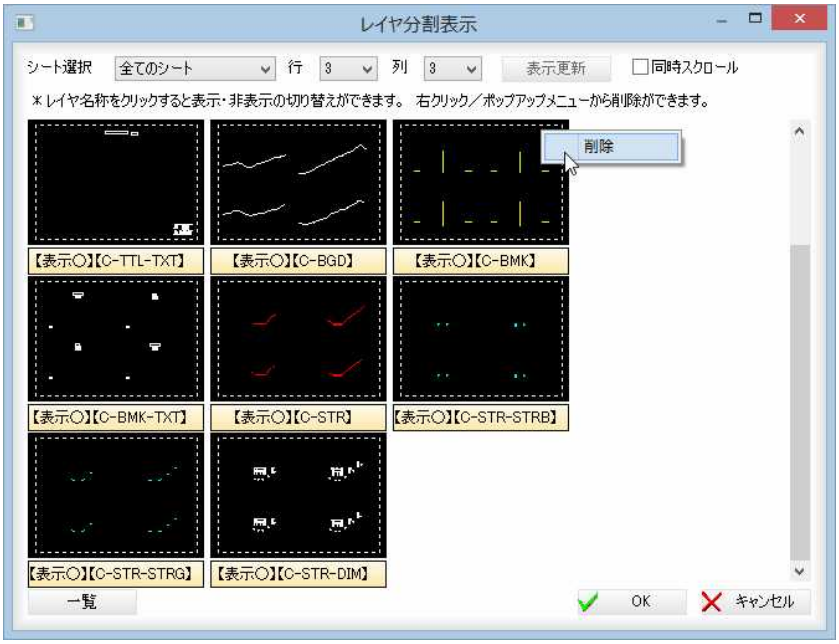
一覧表示内のすべてのレイヤの表示をオン、またはオフにします。

削除

いずれかのレイヤをクリックして選択し、[削除]をクリックすると、レイヤが削除されます。

6 レイヤの削除

レイヤ分割されたウィンドウ上で右ボタンをクリックし、[削除]をクリックすると、レイヤが削除されます。



7 「レイヤ分割表示」ダイアログボックスで[OK]をクリックすると、システム画面に戻ります。

シート処理

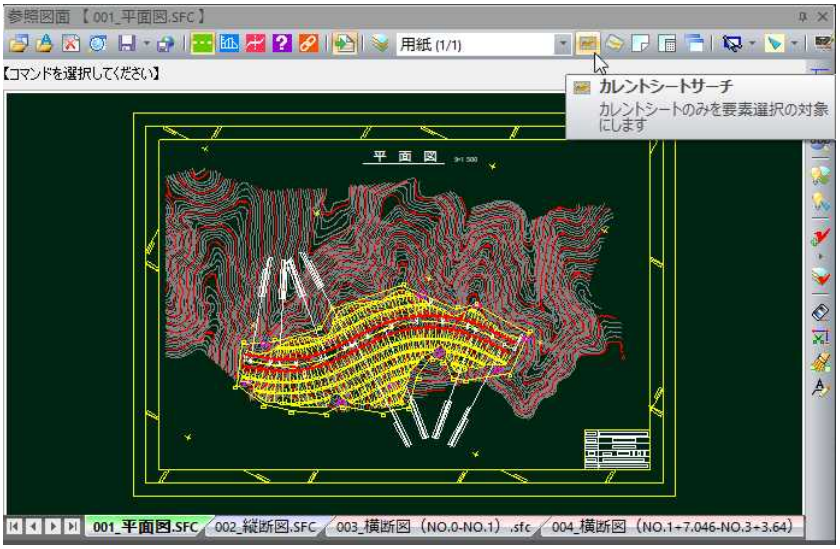
カレントシートの選択、カレントシートサーチ、自動回転、シート設定などのシート処理を行います。

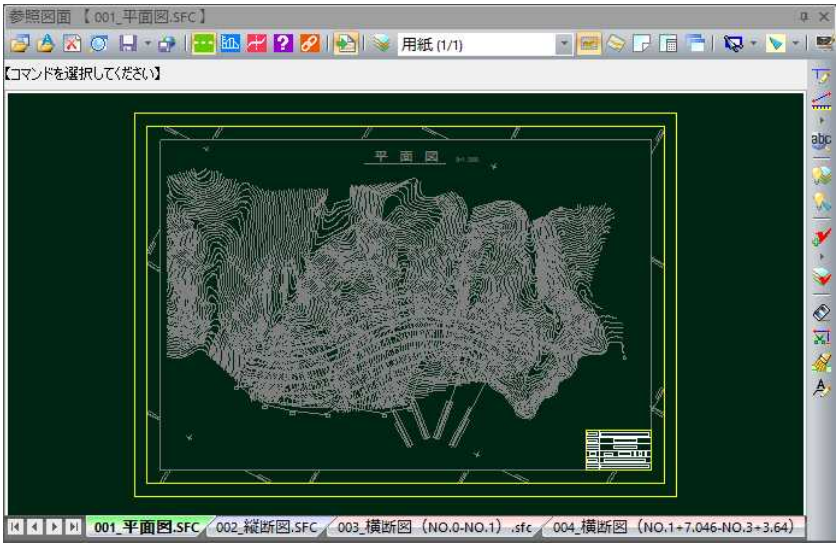
● カレントシートの選択

1 参照図面ウィンドウメニューでカレントシートをドロップダウンリストから選択すると、シートの切り替えが行われます。

● カレントシートサーチ

1 参照図面ウィンドウメニューで[ ]をクリックすると、カレントシートに作図されている要素のみを選択の対象にします。

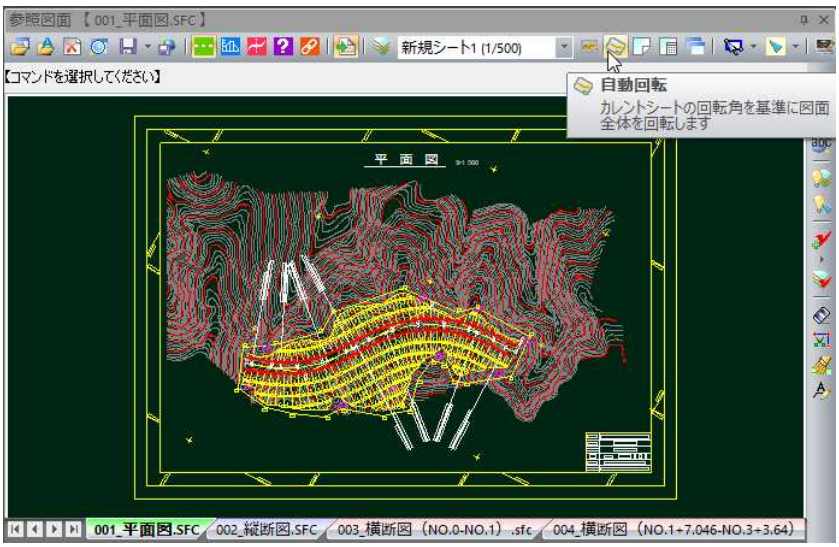


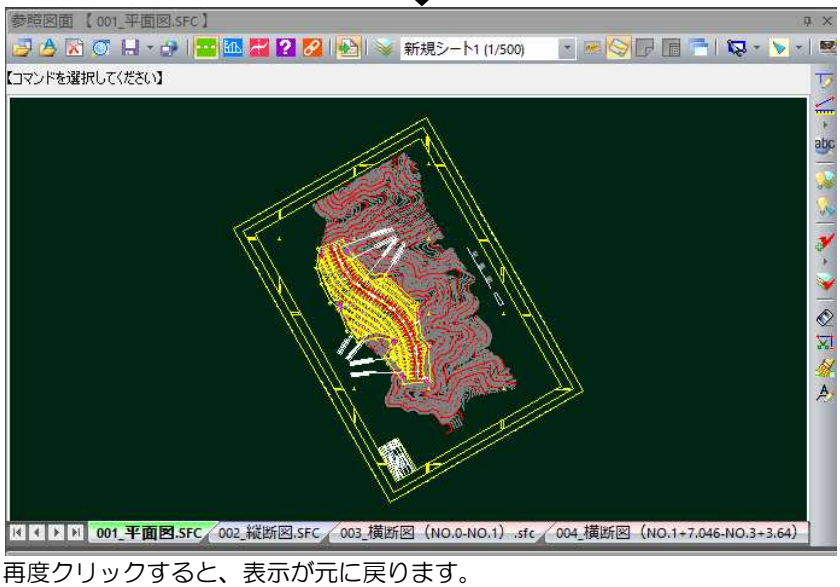


再度クリックすると、表示が元に戻ります。

● 自動回転

1 参照図面ウィンドウメニューで[ ]をクリックすると、カレントシートの回転角度を基準に図面全体を回転します。





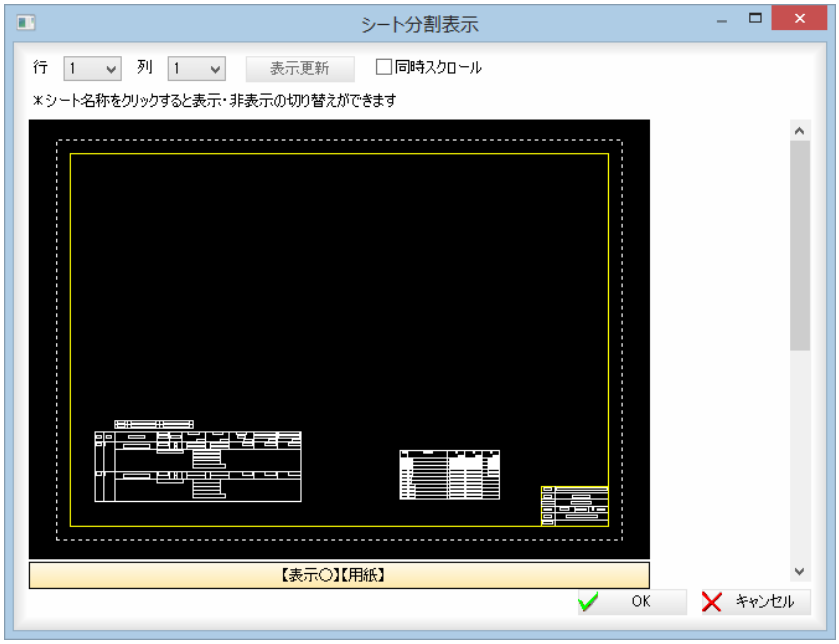
再度クリックすると、表示が元に戻ります。

● シート設定

1 参照図面ウィンドウメニューで[ ]をクリックすると、「シート設定」ダイアログボックスが表示されます。

表示
シート一覧表示の「表示」欄内で左クリックすると、オン・オフを切り替えることができます。

2 「シート設定」ダイアログボックスで[シート分割表示]をクリックすると、「シート分割表示」ダイアログボックスが表示されます。



行・列の変更
「行」、「列」のドロップダウンリストより表示数を選択します。
[表示更新]をクリックすると、設定した行・列に表示が変更されます。
同時スクロール
「同時スクロール」チェックマークをオンにすると、すべてのシートが同じ位置を表示します。
シート情報の編集
分割表示下部のシート名称をクリックすると、シートの表示/非表示が切り替わります。

3 「シート設定」ダイアログボックスで[OK]をクリックすると、システム画面に戻ります。

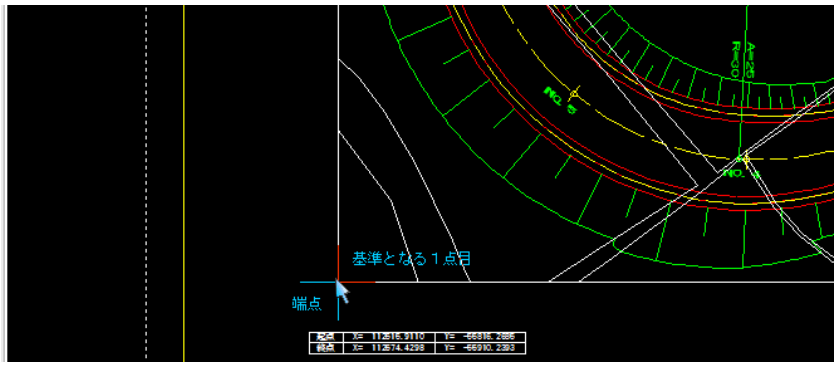
縮尺自動設定

縮尺自動設定処理を行うことができます。平面図・縦断図・横断図それぞれの選択時により、処理が異なります。

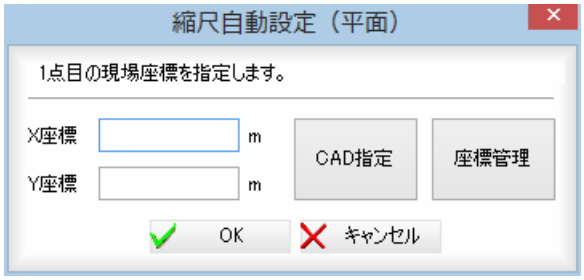
● 縮尺自動設定（平面図選択時）

1 参照図面ウィンドウメニューで[ ]をクリックすると、縮尺自動設定モードになります。
現在選択中の参照図面の種類（平面、縦断、横断）によって、操作方法が異なります。ここでは平面図を選択した場合の操作方法を説明しています。

2 基準となる１点目をマウスでクリックします。



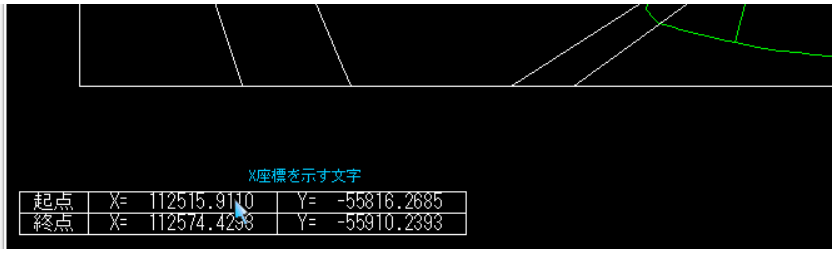
3 「縮尺自動設定(平面)」ダイアログボックスが表示されます。



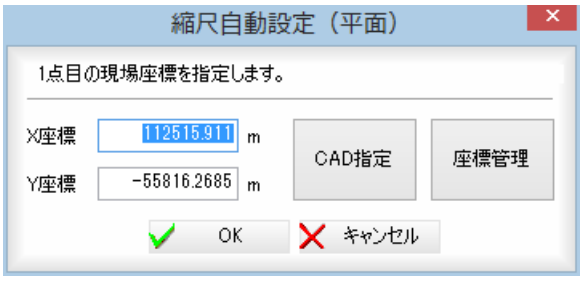
いずれかの方法で座標を指定します。

X座標／Y座標
１点目の現場座標を「X座標」、「Y座標」入力欄内に入力します。

CAD 指定
[CAD 指定]をクリックすると、参照図面内の X 座標を示す文字指定モードとなりますので、該当する文字列をクリックします。



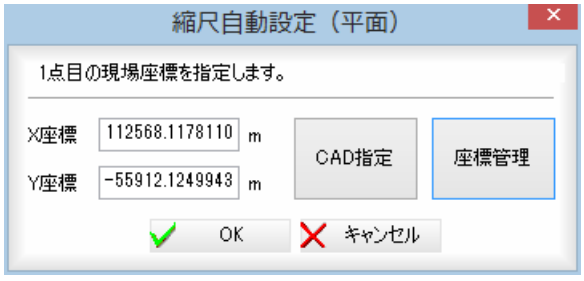
続けてY座標を示す文字列をクリックします。「縮尺自動設定(平面)」ダイアログボックス内にそれぞれの座標値が入力されます。



座標管理

[座標管理]をクリックすると、「座標参照」ダイアログボックスが表示されますので、いずれかのNo.を選択します。

[OK]をクリックすると、「縮尺自動設定(平面)」ダイアログボックス内にそれぞれの座標値が入力されます。



4 基準となる２点目をマウスでクリックします。
１点目の指定と同様、CAD 指定や座標管理処理を行い、X 座標、Y 座標欄内にデータを入力します。

5 [OK]をクリックすると、「縮尺自動設定(平面)」ダイアログボックスが表示されます。
各種の自動設定処理を行います。

【左側：変更するシート】
シートの選択
ドロップダウンリストより、いずれかのシートを選択します。
シートを変更すると、縮尺、配置座標、回転角、座標系の表示も切り替わります。

【右側：新しいシート】
縮尺
「同縮尺」、「異縮尺」いずれかのラジオボタンをクリックして選択します。
「横」、「縦」の縮尺の入力欄内に縮尺を入力します。
配置座標
「X 座標」、「Y 座標」欄にそれぞれ配置座標値が計算されます。編集も可能です。
回転角
「回転」欄に回転角度が計算されます。編集も可能です。
座標系
「数学系」、「測地系」いずれかのラジオボタンをクリックして選択します。

6 「縮尺自動設定(平面)」ダイアログボックスで[OK]をクリックすると、システム画面に戻ります。

● 縮尺自動設定（縦断図選択時）

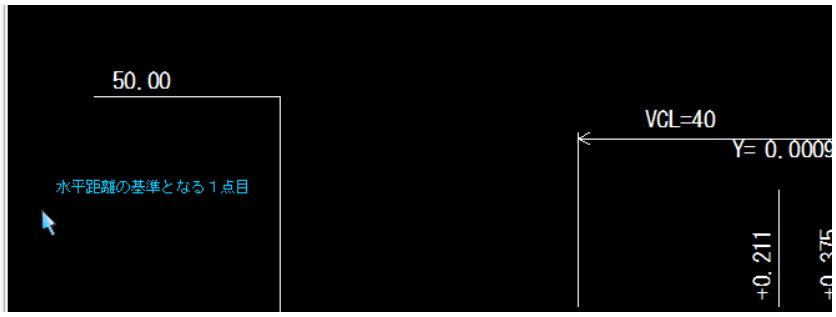
1 参照図面ウィンドウメニューで[ ]をクリックすると、縮尺自動設定モードになります。
現在選択中の参照図面の種類（平面、縦断、横断）によって、操作方法が異なります。ここでは縦断図を選択した場合の操作方法を説明しています。
「縮尺自動設定」ダイアログボックスが表示されます。

・参照図面の「縦断図」「横断図」にて「縮尺自動設定」ダイアログボックス「新しい縮尺(横)」、「新しい縮尺(縦)」が自動計算され、その結果「現在の縮尺」と異なった場合、メッセージと変更されたシート名、縮尺情報を表示します。

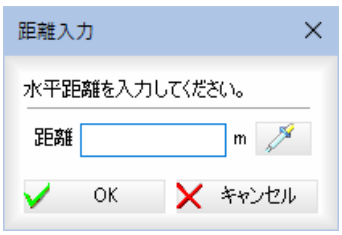
2 **縮尺を選択**
「新しい縮尺」欄内をダブルクリックするとドロップダウンリストが表示されますので、いずれかの縮尺を選択します。

3 **手動編集**
[手動編集]をクリックすると、参照図面内の水平距離の基準となる１点目指定モードとなりますので、クリックします。

・複数行を選択してから[手動編集]をクリックすることで、一括して編集することが可能です。



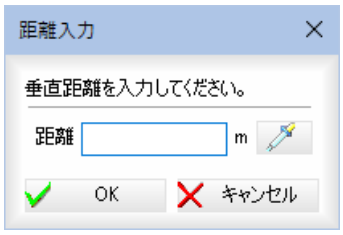
２点目をクリックすると、「距離入力」ダイアログボックスが表示されます。



（スポイトボタン）をクリックすると、図面内の文字抽出モードとなりますので、いずれかの文字列をクリックします。入力欄内に距離が追加されます。
「距離」入力欄内に水平距離を m 単位で入力します。

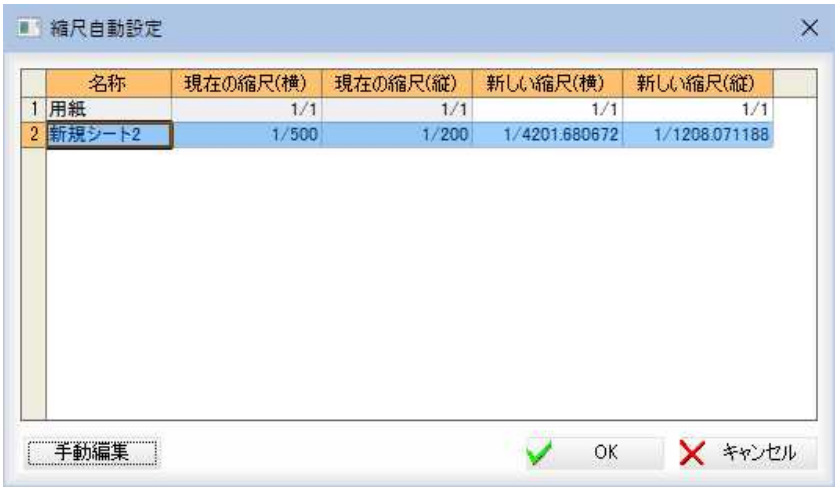
[OK]をクリックすると、次に垂直距離指定モードとなりますので、１点目、２点目をそれぞれクリックして指定します。

「距離入力」ダイアログボックスが表示されます。



（スポイトボタン）をクリックすると、図面内の文字抽出モードとなりますので、いずれかの文字列をクリックします。入力欄内に距離が追加されます。
「距離」入力欄内に垂直距離を m 単位で入力します。

[OK]をクリックすると、「縮尺自動設定」ダイアログボックスに座標が入力されます。



4 「縮尺自動設定」ダイアログボックスで[OK]をクリックすると、システム画面に戻ります。

● 縮尺自動設定（横断図選択時）

1 参照図面ウィンドウメニューで[ ]をクリックすると、縮尺自動設定モードになります。
現在選択中の参照図面の種類（平面、縦断、横断）によって、操作方法が異なります。ここでは横断図を選択した場合の操作方法を説明しています。
「縮尺自動設定」ダイアログボックスが表示されます。

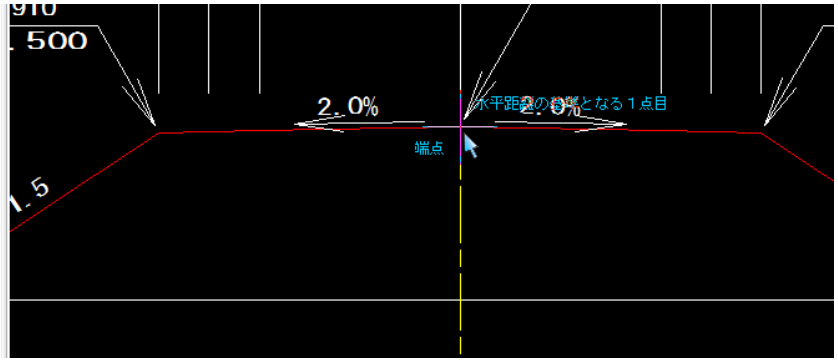
・参照図面の「縦断図」「横断図」にて「縮尺自動設定」ダイアログボックス「新しい縮尺(横)」、「新しい縮尺(縦)」が自動計算され、その結果「現在の縮尺」と異なった場合、メッセージと変更されたシート名、縮尺情報を表示します。

2 **縮尺を選択**
「新しい縮尺」欄内をダブルクリックするとドロップダウンリストが表示されますので、いずれかの縮尺を選択します。

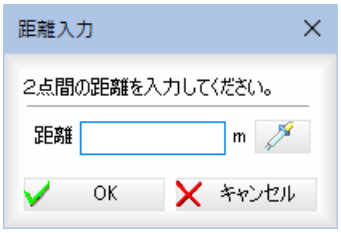
・複数行を選択してから[手動編集]をクリックすることで、一括して編集することが可能です。

3 **手動編集**

[手動編集]をクリックすると、参照図面内の距離の基準となる１点目指定モードとなりますので、クリックします。



２点目をクリックすると、「距離入力」ダイアログボックスが表示されます。



（スポイトボタン）をクリックすると、図面内の文字抽出モードとなりますので、いずれかの文字列をクリックします。入力欄内に距離が追加されます。「距離」入力欄内に２点間距離をｍ単位で入力します。

[OK]をクリックすると、「縮尺自動設定」ダイアログボックスに座標が入力されます。

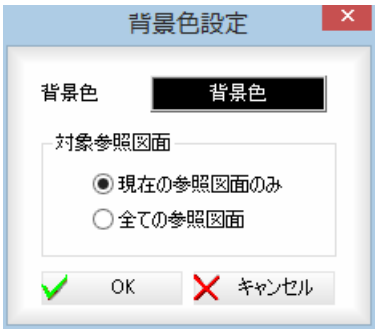
4 「縮尺自動設定」ダイアログボックスで[OK]をクリックすると、システム画面に戻ります。

背景色設定

参照図面ウィンドウの背景色を設定します。

● 背景色の設定

1 参照図面ウィンドウメニューで[ ]をクリックすると、「背景色設定」ダイアログボックスが表示されます。



2 **背景色の設定**

表示中の背景色をクリックすると、「色の設定」ダイアログボックスが表示されますので、いずれかの色を選択し、[OK]をクリックすると「背景色設定」ダイアログボックスに戻ります。

対象参照図面の選択

対象参照図面を「現在の参照図面のみ」、「全ての参照図面」いずれかのラジオボタンをクリックして選択します。

3 「背景色設定」ダイアログボックスで[OK]をクリックすると、処理を有効として参照図面ウィンドウに戻ります。

選択モード

要素を選択する方法を指定します。

● 選択モードを切り替える

1 参照図面ウィンドウメニューで[ ]をクリックすると、選択モードのメニューが表示されますので、いずれかをクリックして選択します。

→ ポイント選択モード。マウスにてクリックした位置の要素が選択されます。

→ ボックス選択モード。マウスでボックスの始点ー終点をクリックすると、ボックス内の要素が選択されます。

→ 多角形選択モード。マウスで多角形の始点ー通過点ー終点をクリックすると、多角形内の要素が選択されます。

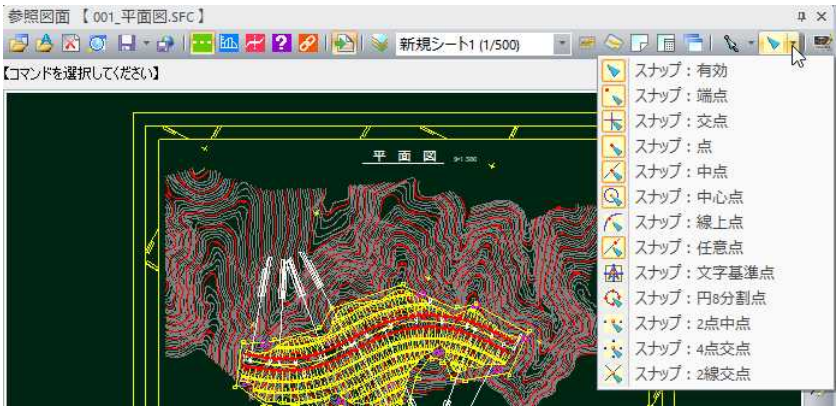
→ ライン選択モード。マウスでラインの始点ー終点をクリックすると、ライン上の要素が選択されます。

スナップモード

スナップモードの切り替えにより、処理を行う点を限定します。

● スナップモード

1 参照図面ウィンドウメニューで[ ]をクリックすると、スナップモードモードのメニューが表示されますので、いずれかをクリックして選択します。



→ **スナップ有効・無効の切り替え**
スナップ有効・無効が切り替わります。スナップ無効の場合は、任意点のみ有効となります。

→ **端点**
マウスカーソルが要素の端点位置に近づくと、表示が変わります。

→ **交点**
マウスカーソルが要素の交点位置に近づくと、表示が変わります。

→ **点**
マウスカーソルが点に近づくと、表示が変わります。

→ **中点**
マウスカーソルが要素の中央に近づくと、表示が変わります。

→ **中心点**
マウスカーソルが要素の中心または円上に近づくと、表示が変わります。

→ **線上点**
マウスカーソルが要素線上に近づくと、表示が変わります。

→ **任意点**
任意点スナップモードになります。

→ **文字基準点**
マウスカーソルが文字基準点上に近づくと、表示が変わります。

→ **円８分割点**
マウスカーソルが円の８分割点に近づくと、表示が変わります。
円の８分割点は４５度刻みで円を一周８分割した箇所でスナップされます。

→ **２点中点**
１点目をマウスで左クリックし、もう一方の点をマウスでクリックします。２点間の中点がスナップされます。

→ **４点交点**
１点目をマウスで左クリックし、２つ目の点をマウスでクリックします。続けて、３点目、４点目を指定すると、４点の交点がスナップされます。

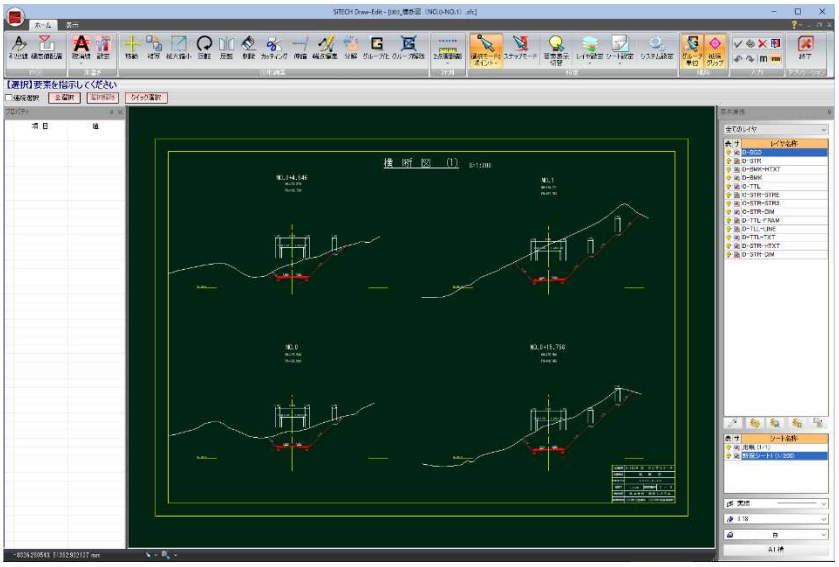
→ **２線交点**
一方の線上でマウスをクリックし、もう一方の線上でマウスをクリックします。仮想交点がスナップされます。

図面編集

図面編集処理への移行を行います。

● 図面編集を起動する

1 参照図面ウィンドウメニューで[ ]をクリックすると、SiTECH Draw-Edit が起動し、SiTECH Draw-Edit のシステム画面が表示されます。
図面ウィンドウ内には、参照図面で選択中の図面が表示されます。



SiTECH Draw-Edit の操作方法は、別冊『SiTECH Draw-Edit 操作説明書』で説明しています。

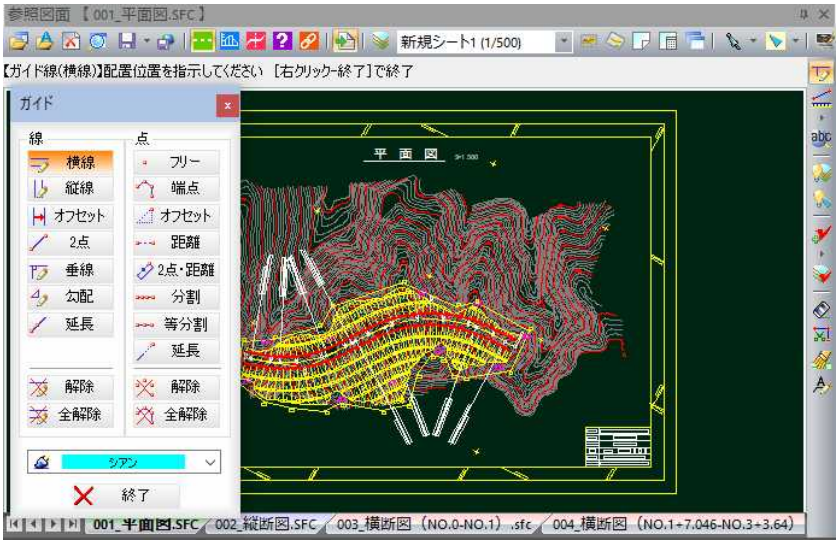
ガイド

ガイド線やガイド点の設定・解除を行います。

● ガイドを表示する

・ガイド点・ガイド線データの配置シートはカレントシートです。

1 参照図面ウィンドウメニューで[ ]をクリックすると、「ガイド」ダイアログボックスが表示されます。



「線」、「点」の各ボタンをクリックして、ガイド線またはガイド点の表示を行います。

■ ガイド：線

→ **線：横線**

水平のガイド線を表示します。
配置座標をマウスにて指定します。指定と同時にガイド線が表示されます。

→ **線：縦線**

垂直のガイド線を表示します。
配置座標をマウスにて指定します。指定と同時にガイド線が表示されます。

→ **線：オフセット**

選択した要素から設定したオフセット位置にガイド線を表示します。
マウスにて基準線をクリックすると、「オフセット」ダイアログボックスが表示されます。

「距離」にオフセット量をｍ単位で入力し、[OK]をクリックすると、指定したオフセット位置にガイド線が表示されます。

→ **線：２点**

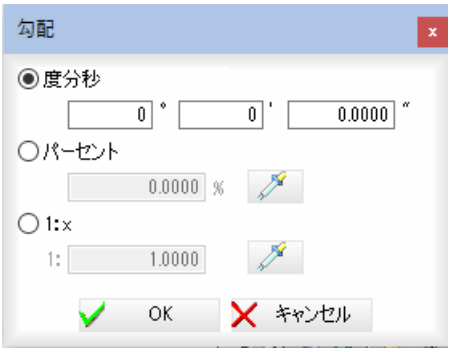
任意の傾きのガイド線を表示します。
配置座標をマウスにて始点ー終点により指定します。終点位置決定と同時に任意の傾きのガイド線が表示されます。

→ **線：垂線**

選択した要素に対して垂直のガイド線を表示します。
要素をマウスにて指定します。指定した対象要素（線分・円・円弧・楕円・楕円弧・折れ線・クロソイド）に対して垂直のガイド線が表示されます。

→ **線：勾配**

選択した要素に対して設定した勾配のガイド線を表示します。
配置位置をクリックすると、「勾配」ダイアログボックスが表示されます。



「度分秒」、「パーセント」、「1:x」いずれかのラジオボタンをクリックして勾配の設定方法を選択し、各入力欄に数値を入力します。
ポイトアイコン）をクリックすると、文字列指定モードになりますので、マウスにて文字列をクリックすると、入力欄内に入力されます。
「パーセント」と「1:X」を選択して[OK]をクリックすると、方向を指示するモードになりますので、いずれかの表示する向きをクリックして選択します。「度分秒」の場合は、方向指定はありません。
設定した勾配で配置位置よりガイド線が表示されます。

→ **線：延長**

選択した要素の延長線上にマウス指示によりガイド線を作成します。対象要素は線分・折れ線・直線寸法の補助線になります。

→ **線：解除**

ガイド線の表示を解除します。解除するガイド線をクリックすると、解除が実行されます。

→ **線：全解除**

ガイド線を全解除します。[全解除]をクリックすると、以下のメッセージが表示されます。

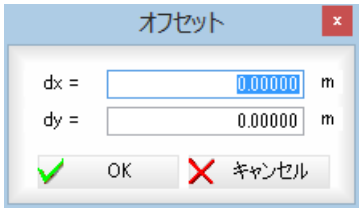
[はい]をクリックすると、全てのガイド線が解除されます。

■ ガイド：点

→ **点：フリー**
任意の位置にガイド点を表示します。
マウスにてクリックした位置にガイド点が表示されます。

→ **点：端点**
選択した要素の端点にガイド点を表示します。
マウスにて要素線を指定します。要素の端点にガイド点が表示されます。

→ **点：オフセット**
基準点から設定したオフセット位置にガイド点を表示します。
マウスにて基準点をクリックすると、「オフセット」ダイアログボックスが表示されます。「dx=」、「dy=」それぞれにオフセット位置をｍ単位で入力し、[OK]をクリックすると、指定したオフセット位置にガイド点が表示されます。



→ **点：距離**
選択した要素からの指定した距離にガイド点を表示します。
マウスにて対象要素（線分・円弧・楕円弧・折れ線・クロソイド）を指定します。
配置基準点を指定すると、方向を選択するモードになりますので、いずれかの方向をマウスにて指定します。「距離」ダイアログボックスが表示されます。
距離をｍ単位で入力し、[OK]をクリックすると、指定した位置にガイド点が表示されます。

→ **点：2点・距離**
基準点から指定した方向・距離にガイド点を表示します。
配置基準点を指定すると、方向を選択するモードになりますので、いずれかの方向をマウスにて指定します。「距離」ダイアログボックスが表示されます(「点：距離」と同様)。
Shift キーを押しながらマウスを移動すると、水平・垂直にガイド点の作成方向を指定可能です。
距離をｍ単位で入力し、[OK]をクリックすると、指定方向に移動したガイド点が表示されます。

→ **点：分割**
選択した要素の指定した２点間を分割してガイド点を表示します。
マウスにて対象要素（線分・円弧・折れ線・クロソイド）を指定します。
始点を指定すると、終点を指定するモードになりますので、終点位置をマウスにて指定します。「分割」ダイアログボックスが表示されます。分割距離をｍ単位で入力し、[OK]をクリックすると、指定した位置にガイド点が表示されます。

→ **点：等分割**

選択した要素の指定した２点間を等分割してガイド点を表示します。マウスにて対象要素（線分・円弧・円・折れ線・クロソイド）を指定します。

円・閉図形が対象要素の場合

始点と終点を指定すると、通過点の指定モードになります。マウスにて指定します。始点と終点が同一点の場合は、通過点の指定モードは省略されます。

円・閉図形以外の場合

始点を指定すると、終点を指定するモードになりますので、終点位置をマウスにて指定します。

「等分割」ダイアログボックスが表示されます。

分割数を入力し、[OK]をクリックすると、指定した位置にガイド点が表示されます。

→ **点：延長**

選択した要素の延長線上にマウス指示によりガイド点を作成します。対象要素は線分・折れ線になります。

→ **点：解除**

ガイド点の表示を解除します。解除するガイド点をクリックすると、解除が実行されます。

→ **点：全解除**

ガイド点を全解除します。[全解除]をクリックすると、以下のメッセージが表示されます。

[はい]をクリックすると、全てのガイド点が解除されます。

■ ガイド色の変更

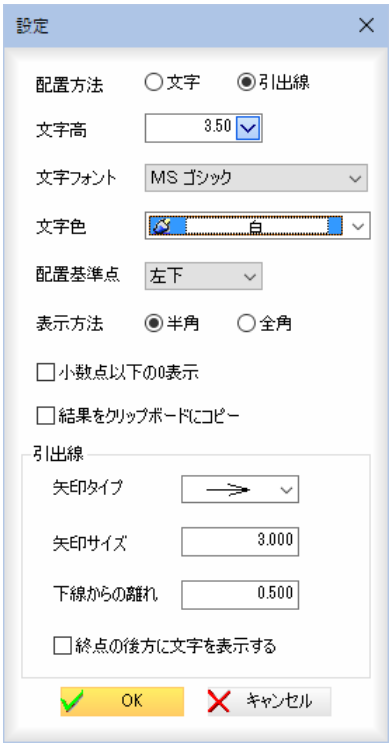
「ガイド」ダイアログボックスでドロップダウンリストよりいずれかの色を選択します。

計測

２点間距離、座標、２点間距離（延長）、標高ＤＬ、道のり、３点内角、面積、逆幅杭の各種計測処理を行います。

● 計測コマンドの共通操作(計測の設定)

1 参照図面ウィンドウメニューで各種計測コマンドをクリックして選択すると、それぞれ計測コマンドのダイアログボックスが表示されます。
ダイアログボックス内の[設定]をクリックすると、「設定」ダイアログボックスが表示されます。各種の設定を行います。



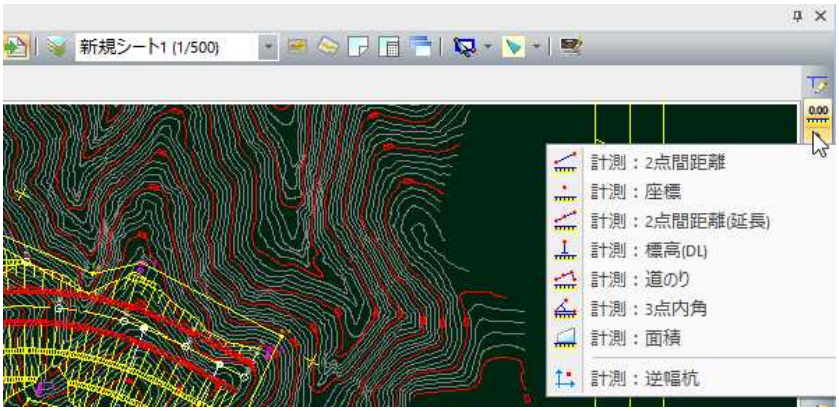
配置方法
「文字」、「引出線」いずれかのラジオボタンをクリックして選択します。
文字高
「文字高」入力欄内に用紙mm単位で入力、またはドロップダウンリストより選択します。
文字フォント、文字色、配置基準点
「文字フォント」、「文字色」、「配置基準点」のドロップダウンリストより選択します。
表示方法
「半角」、「全角」のいずれかのラジオボタンをクリックして選択します。
小数点以下の０ 表示
「小数点以下の０ 表示」チェックマークをオンにすると、小数点以下の０ を表示します。
結果をクリップボードにコピー
「結果をクリップボードにコピー」チェックマークをオンにすると、演算結果をクリップボードへコピーします。
[OK]をクリックすると、「２点間距離」ダイアログボックスに戻ります。
引出線
矢印タイプ
形状を矢印のドロップダウンリストより選択します。
矢印サイズ
矢印の矢の長さ、円の直径、ボックスの辺の長さ、スラッシュ・波の長さを「矢印サイズ」入力欄内に用紙mm単位で入力します。

下線からの離れ
引出線の下線からの離れを用紙mm単位で入力します。
終点の後方に文字を表示する
「終点の後方に文字を表示する」チェックマークをオンにすると引出線の終点の後方に文字を表示します。

2 「設定」ダイアログボックスで[OK]をクリックすると、処理を終了します。

● 計測する

1 参照図面ウィンドウメニューで[ ]をクリックすると、各種計測メニューが表示されますので、いずれかをクリックして選択します。



→ **計測：２点間距離**
２点間の距離・高さ・勾配を計測します。
メニューより「計測：２点間距離」を選択すると、「計測：２点間距離」ダイアログボックスが表示されます。

シートの選択
シートのドロップダウンリストよりいずれかのシートを選択します。
２点の指定
図面内で計測する２点をマウスにて指定すると、距離・斜長・勾配・比率が「計測：２点間距離」ダイアログボックス内に表示されます。
数値のコピー
各種の数値表示欄の横の をクリックすると、クリップボードに各数値がコピーされます。
単位
m、cm、mm のいずれかの単位をラジオボタンをクリックして選択します。

単位を付加
「文字配置」時に図面上に配置する文字要素に対し単位を付加し作図します。
設定
「文字配置」時に作図する文字要素の各種設定を行います。
文字配置
[文字配置]をクリックすると、設定の配置方法により計測結果を配置するモードになります。
「配置方法」が「文字」の場合は、マウスにて配置位置をクリックすることで文字として計測結果が配置されます。
「配置方法」が「引出線」の場合は、引出し位置と配置位置をクリックすることで引出線として計測結果が配置されます。
クリア
[クリア]をクリックすると、欄内の数値を消去します。
[終了]をクリックすると「計測：２点間距離」ダイアログボックスの表示を終了します。

→ **計測：座標**
座標値を計測します。
メニューより「計測：座標」を選択すると、「計測：座標」ダイアログボックスが表示されます。

シートの選択
シートのドロップダウンリストよりいずれかのシートを選択します。
Ｘ座標／Ｙ座標
図面内でクリックした点の座標値が「計測：座標」ダイアログボックス内に表示されます。
数値のコピー
各種の数値表示欄の横の をクリックすると、クリップボードに各数値がコピーされます。
単位
m、cm、mm のいずれかの単位をラジオボタンをクリックして選択します。
[終了]をクリックすると「計測：座標」ダイアログボックスの表示を終了します。
単位を付加
「文字配置」時に図面上に配置する文字要素に対し単位を付加し作図します。
設定
「文字配置」時に作図する文字要素の各種設定を行います。
文字配置
[文字配置]をクリックすると、設定の配置方法により計測結果を配置するモードになります。
「配置方法」が「文字」の場合は、マウスにて配置位置をクリックすることで文字として計測結果が配置されます。

「配置方法」が「引出線」の場合は、引出し位置と配置位置をクリックすることで引出線として計測結果が配置されます。

クリア

[クリア]をクリックすると、欄内の数値を消去します。
[終了]をクリックすると「計測：座標」ダイアログボックスの表示を終了します。

→ **計測：２点間距離(延長)**

２点間の距離・⊿X・⊿Y・勾配・比率を計測します。
メニューより「計測：２点間距離」を選択すると、「計測：２点間距離(延長)」ダイアログボックスが表示されます。

シートの選択

シートのドロップダウンリストよりいずれかのシートを選択します。

始点ー計測終了点の指定

開始点ー延長方向点をクリックすると仮想線が表示されますので、仮想線の任意を点をクリックし、計測終了点を確定します。
距離・⊿X・⊿Y・勾配・比率が「計測：２点間距離(延長)」ダイアログボックス内に表示されます。

数値のコピー

各種の数値表示欄の横の をクリックすると、クリップボードに各数値がコピーされます。

単位

m、cm、mm のいずれかの単位をラジオボタンをクリックして選択します。

単位を付加

「文字配置」時に図面上に配置する文字要素に対し単位を付加し作図します。

設定

「文字配置」時に作図する文字要素の各種設定を行います。

文字配置

[文字配置]をクリックすると、設定の配置方法により計測結果を配置するモードになります。
「配置方法」が「文字」の場合は、マウスにて配置位置をクリックすることで文字として計測結果が配置されます。
「配置方法」が「引出線」の場合は、引出し位置と配置位置をクリックすることで引出線として計測結果が配置されます。

クリア

[クリア]をクリックすると、欄内の数値を消去します。
[終了]をクリックすると「計測：２点間距離(延長)」ダイアログボックスの表示を終了します。

→ **計測：標高 DL**

横断図の DL 線からの高さを計測します。

メニューより「計測：標高(DL)」を選択すると、「計測：標高(DL)」ダイアログボックスが表示されます。

シートの選択

シートのドロップダウンリストよりいずれかのシートを選択します。

DL 値(m)

図面内の DL 基準線を指定すると、「DL 値(m)」の入力欄内に DL 値が自動的に取得されます。DL 値は手入力もできます。

標高

図面内の DL 基準線をマウスにて指定後、計測点をクリックすると、標高が「計測：標高(DL)」ダイアログボックス内に表示されます。

数値のコピー

各種の数値表示欄の横の をクリックすると、クリップボードに各数値がコピーされます。

単位

m、cm、mm のいずれかの単位をラジオボタンをクリックして選択します。

単位を付加

「文字配置」時に図面上に配置する文字要素に対し単位を付加し作図します。

記号を付加

「文字配置」時に図面上に配置する文字要素に対し入力されている記号を付与し文字を配置します。記号の初期値は「▽」です。

設定

「文字配置」時に作図する文字要素の各種設定を行います。

文字配置

[文字配置]をクリックすると、設定の配置方法により計測結果を配置するモードになります。

「配置方法」が「文字」の場合は、マウスにて配置位置をクリックすることで文字として計測結果が配置されます。

「配置方法」が「引出線」の場合は、引出し位置と配置位置をクリックすることで引出線として計測結果が配置されます。

クリア

[クリア]をクリックすると、欄内の数値を消去します。

[終了]をクリックすると「計測：標高(DL)」ダイアログボックスの表示を終了します。

→ **計測：道のり**

道のりを計測します。

メニューより「計測：道のり」を選択すると、「計測：道のり」ダイアログボックスが表示されます。

シートの選択

シートのドロップダウンリストよりいずれかのシートを選択します。

距離／累計距離

マウスにて対象要素を指定し、始点ー終点をクリックして指定すると、「距離」欄内に距離が表示されます。続けて対象要素を指定し、始点ー終点を指定すると、「累計距離」欄内に累計距離が表示されます。

数値のコピー

各種の数値表示欄の横の をクリックすると、クリップボードに各数値がコピーされます。

単位

m、cm、mm のいずれかの単位をラジオボタンをクリックして選択します。

単位を付加

「文字配置」時に図面上に配置する文字要素に対し単位を付加し作図します。

設定

「文字配置」時に作図する文字要素の各種設定を行います。

文字配置

[文字配置]をクリックすると、設定の配置方法により計測結果を配置するモードになります。

「配置方法」が「文字」の場合は、マウスにて配置位置をクリックすることで文字として計測結果が配置されます。

「配置方法」が「引出線」の場合は、引出し位置と配置位置をクリックすることで引出線として計測結果が配置されます。

クリア

[クリア]をクリックすると、欄内の数値を消去します。

[終了]をクリックすると「計測：道のり」ダイアログボックスの表示を終了します。

→ **計測：３点内角**

３点内角を計測します。

メニューより「計測：３点内角」を選択すると、「計測：３点内角」ダイアログボックスが表示されます。

シートの選択

シートのドロップダウンリストよりいずれかのシートを選択します。

角度

図面内で始点ー通過点をマウスにて指定後、終点をクリックすると、角度が「計測：３点内角」ダイアログボックス内に表示されます。

数値のコピー

角度表示欄の横の をクリックすると、クリップボードに角度がコピーされます。

単位

60 進、10 進のいずれかの単位をラジオボタンをクリックして選択します。

単位を付加

「文字配置」時に図面上に配置する文字要素に対し単位を付加し作図します。

設定

「文字配置」時に作図する文字要素の各種設定を行います。

文字配置

[文字配置]をクリックすると、設定の配置方法により計測結果を配置するモードになります。

「配置方法」が「文字」の場合は、マウスにて配置位置をクリックすることで文字として計測結果が配置されます。

「配置方法」が「引出線」の場合は、引出し位置と配置位置をクリックすることで引出線として計測結果が配置されます。

クリア

[クリア]をクリックすると、欄内の数値を消去します。

[終了]をクリックすると「計測：３点内角」ダイアログボックスの表示を終了します。

→ **計測：面積**

面積を計測します。

メニューより「計測：面積」を選択すると、「計測：面積」ダイアログボックスが表示されます。

シートの選択

シートのドロップダウンリストよりいずれかのシートを選択します。

面積／累計面積

マウスにて始点ー通過点の指定により、領域を指定します。右クリックによるポップアップメニューで[OK]を選択して領域を決定すると、「面積」欄内に面積が表示されます。

「累計」チェックマークをオンにして続けて領域を指定すると、「累計面積」欄内に累計面積が表示されます。

数値のコピー

各種の数値表示欄の横の をクリックすると、クリップボードに各数値がコピーされます。

単位

㎡、㎠、㎟ のいずれかの単位をラジオボタンをクリックして選択します。

単位を付加

「文字配置」時に図面上に配置する文字要素に対し単位を付加し作図します。

設定

「文字配置」時に作図する文字要素の各種設定を行います。

文字配置

[文字配置]をクリックすると、設定の配置方法により計測結果を配置するモードになります。

「配置方法」が「文字」の場合は、マウスにて配置位置をクリックすることで文字として計測結果が配置されます。

「配置方法」が「引出線」の場合は、引出し位置と配置位置をクリックすることで引出線として計測結果が配置されます。

クリア

[クリア]をクリックすると、欄内の数値を消去します。

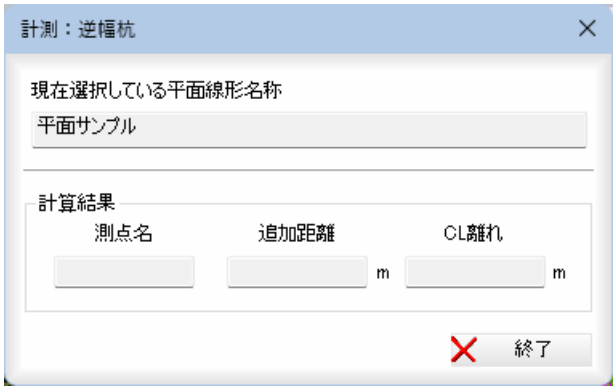
[終了]をクリックすると「計測：面積」ダイアログボックスの表示を終了します。

→ **計測：逆幅杭**

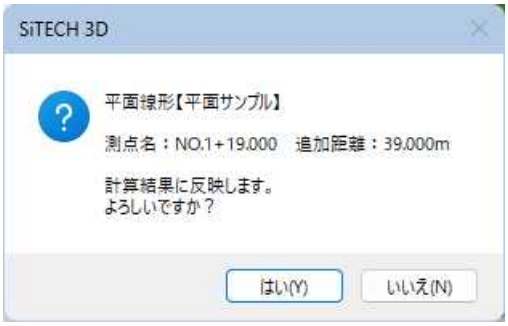
逆幅杭を計測します。[ツール] ー [土木計算] ー [逆幅杭計算]の簡易版です。

メニューより「計測：逆幅杭」を選択すると、「計測：逆幅杭」ダイアログボックスが表示されます。

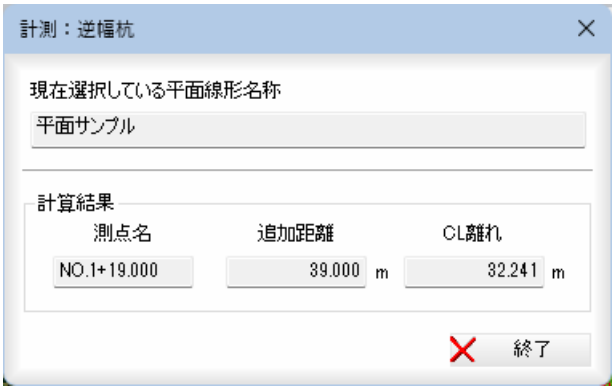
現在選択している平面線形の名称が表示されます。



参照図面内のいずれかの座標をクリックすると、確認メッセージが表示されます。



[はい]をクリックすると、「計測：逆幅杭」ダイアログボックス内に各種のデータが入力されます。



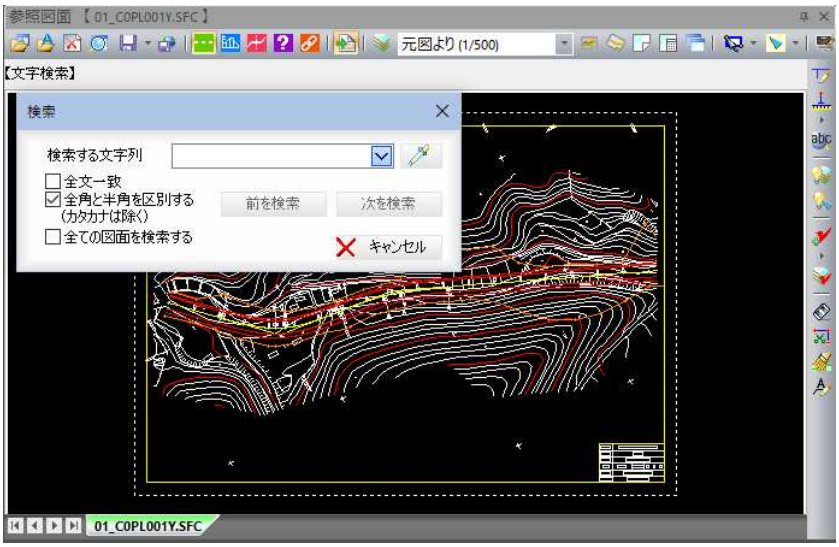
[終了]をクリックすると「計測：逆幅杭」ダイアログボックスの表示を終了します。

文字検索

文字列を検索します。路線データに関連付けられた参照図面も対象となります。

● 文字を検索する

1 参照図面ウィンドウメニューで[abc]をクリックすると、「検索」ダイアログボックスが表示されます。



2 **検索文字列の入力**

「検索する文字列」入力欄内に検索する文字列を入力します。

（スポイトアイコン）をクリックすると、文字列指定モードになりますので、マウスにて文字列をクリックすると、入力欄内に入力されます。

3 **全文一致**

「全文一致」チェックマークをオンにすると、指定した文字と完全に一致したものを検索します。オフにすると、入力文字列を含むものを検索します。初期値はオフです。

全角と半角を区別する(カタカナは除く)

「全角と半角を区別する」チェックマークをオンにすると、全角と半角を区別して検索します。初期値はオンです。

全ての図面を検索する

「全ての図面を検索する」チェックマークをオンにすると、カレント図面だけでなく参照図面全体から文字検索を行います。初期値はオフです。

4 **検索の実行**

[次を検索]をクリックすると検索処理を実行します。全体の右下から順に検索を行います。

[前を検索]をクリックすると、前の検索文字列を表示します。

検索した要素を確認できるように、検索要素が画面の中央となるように表示されます。

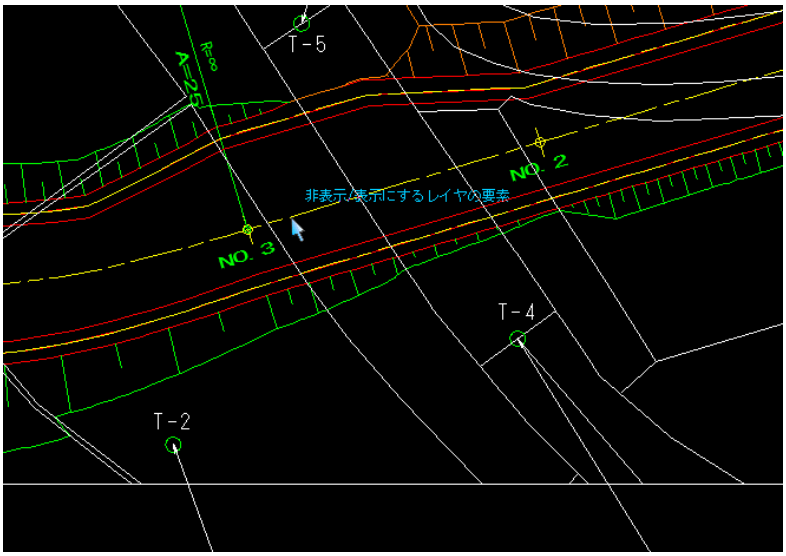
「全ての図面を検索する」チェックマークをオンに設定している場合は、複数の図面を切り替えて検索を実行します。

レイヤ表示設定

参照図面上で図形を選択してレイヤの表示・非表示を切り替えます。

● レイヤの表示・非表示を切り替える

1 参照図面ウィンドウメニューで[ ]をクリックすると、レイヤ非表示モードとなります。



2 **レイヤの要素の指定**

非表示または表示にするレイヤの要素をマウスにて指示します。
非表示レイヤの要素は、バックデータ色で表示されます。
表示レイヤの要素は、通常色で表示されます。
要素を指示する毎に、レイヤの非表示と表示が切り替わります。

3 マウス右ボタンをクリックして[OK]すると、指定した要素が非表示または表示となります。

要素表示切替

要素ごとの表示・非表示の切り替えを行います。

● 要素表示切替

1 参照図面ウィンドウメニューで[ ]をクリックすると、「要素表示切替」ダイアログボックスが表示されます。

全要素 ON／全要素 OFF
全要素のオンと、全要素オフを切り替えます。
現在設定されている表示モードのボタンが赤く表示されます。
ボタンをクリックすることで、要素ごとの表示モードの有効・無効が切り替わります。

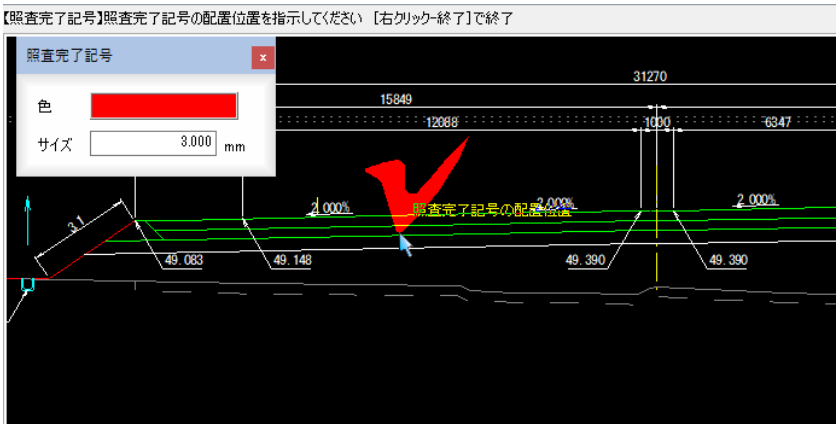
2 [OK]をクリックすると設定を有効とし、ダイアログボックスを閉じます。

照査完了記号

照査完了記号の配置・解除・設定を行います。

● 照査完了記号を配置する

1 参照図面ウィンドウメニューで[ ]をクリックすると、照査完了記号の配置位置指定モードとなり「照査完了記号」ダイアログボックスが表示されます。



2 マウスにて配置位置をクリックすると、照査完了記号が配置されます。

3 **照査完了記号の設定**

「色」をクリックすると、「色の設定」ダイアログボックスが表示されますので、いずれかの色を選択し、[OK]をクリックすると「照査完了記号」ダイアログボックスに戻ります。

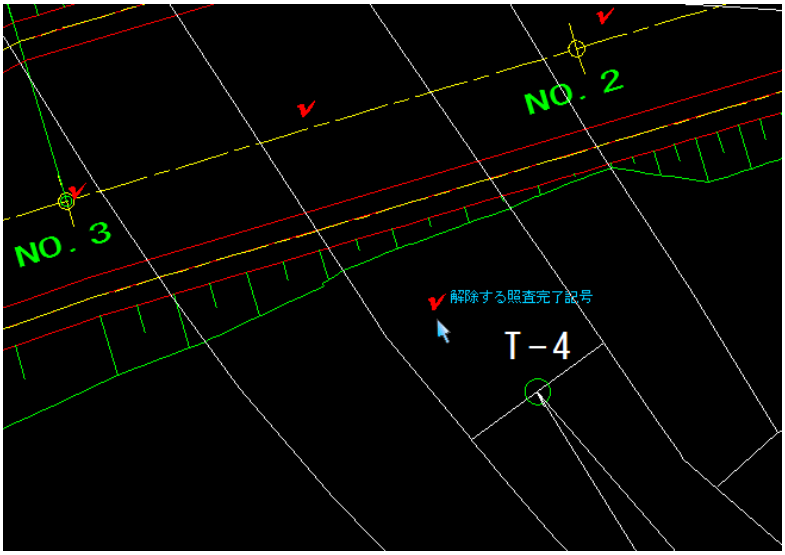
サイズの入力

「サイズ」入力欄内にサイズを mm 単位で入力します。

4 右クリックによるポップアップメニュー[終了]を選択するまで、連続して照査完了記号を配置することができます。

● 照査完了記号を解除する

1 参照図面ウィンドウメニューで[ ]をクリックすると、照査完了記号の解除モードとなります。

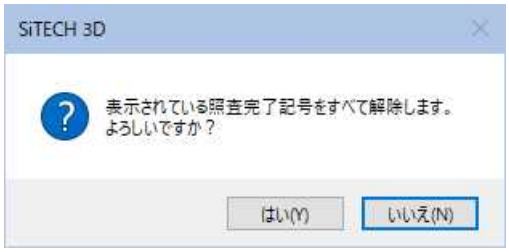


2 マウスにてクリックすると、照査完了記号が解除されます。

3 右クリックによるポップアップメニュー[終了]を選択するまで、連継して照査完了記号を解除することができます。

● 照査完了記号を全解除する

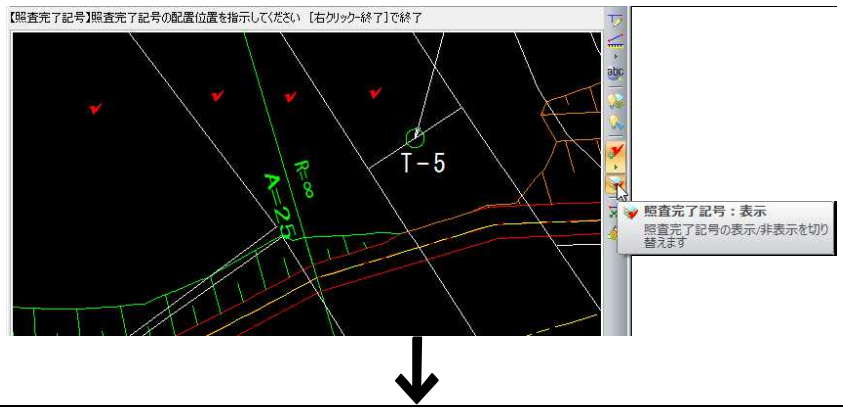
1 参照図面ウィンドウメニューで[ ]をクリックすると、照査完了記号の全解除モードとなり、確認メッセージが表示されます。

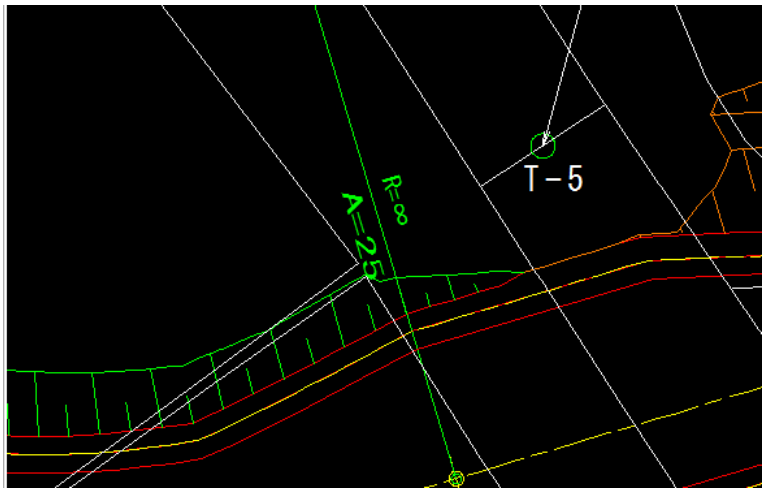


2 [はい]クリックすると、照査完了記号が全解除されます。

● 照査完了記号の表示切り替えを行う

1 参照図面ウィンドウメニューで[ ]をクリックすると、照査完了記号の表示・非表示を切り替えます。





● 照査完了記号を設定する

1 参照図面ウィンドウメニューで[ ]をクリックすると、「照査完了記号」ダイアログボックスが表示されます。

2 **色の設定**

「色」をクリックすると、「色の設定」ダイアログボックスが表示されますので、いずれかの色を選択します。

[OK]をクリックすると「照査完了記号」ダイアログボックスに戻ります。

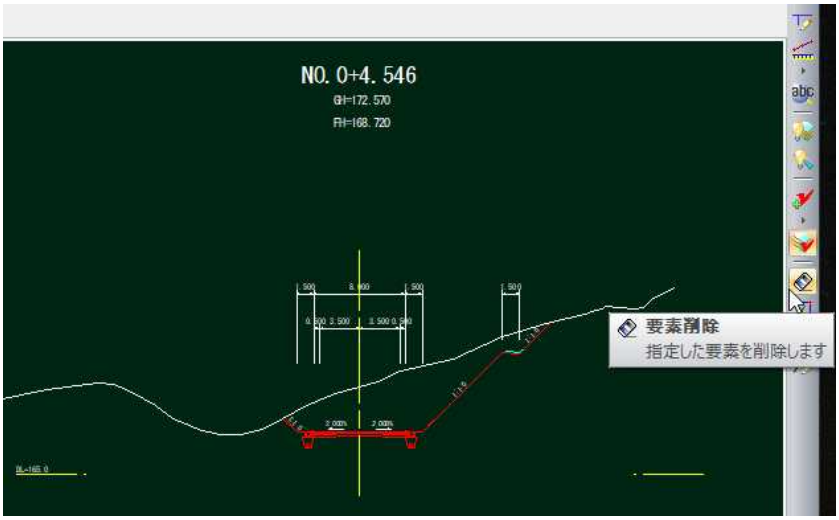
3 **サイズの入力**

「サイズ」入力欄内にサイズを mm 単位で入力します。

4 [OK]クリックすると、照査完了記号の色、サイズが設定されます。

要素削除

参照図面内の指定した要素を削除します。



● 要素を削除する

1 参照図面ウィンドウメニューで[ ]をクリックすると、要素の削除モードとなります。
範囲をマウスにて指定します。

2 右クリックによるポップアップメニュー[OK]をクリックすると、確認メッセージが表示されます。

[はい]をクリックすると、要素の処理が行われます。

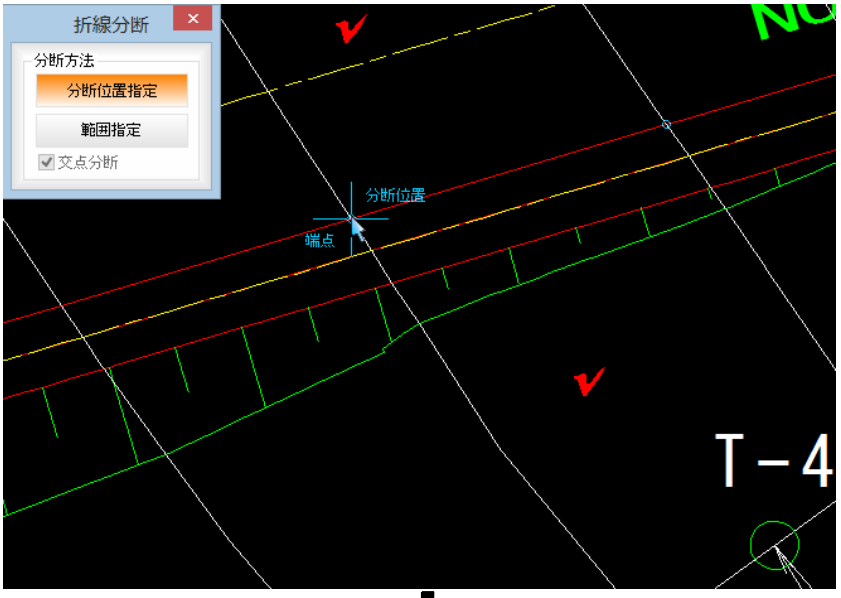
3 右クリックによるポップアップメニュー[終了]を選択するまで、連続して要素を削除することができます。

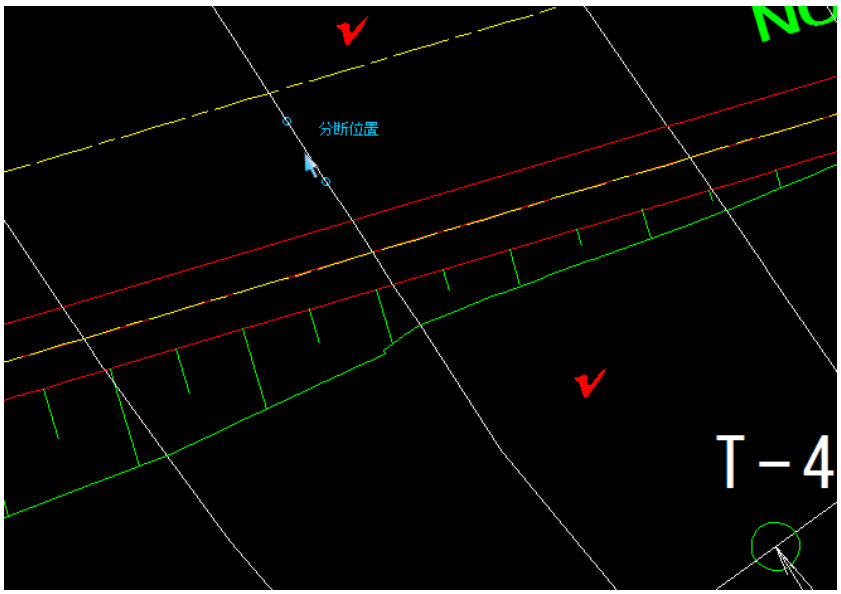
折線分断

線分・円弧・楕円弧・折れ線・スプラインを選択し、指定した点または範囲指定により分断します。

● 折線を分断する（分断位置指定）

1 参照図面ウィンドウメニューで[ ]をクリックすると、「折線分断」ダイアログボックスが表示されますので、[分断位置指定]をクリックします。
折線分断位置指定モードとなります。分断位置をマウスにて指定します。

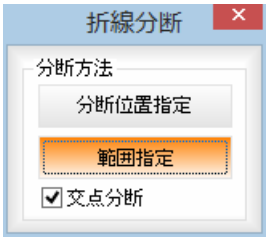


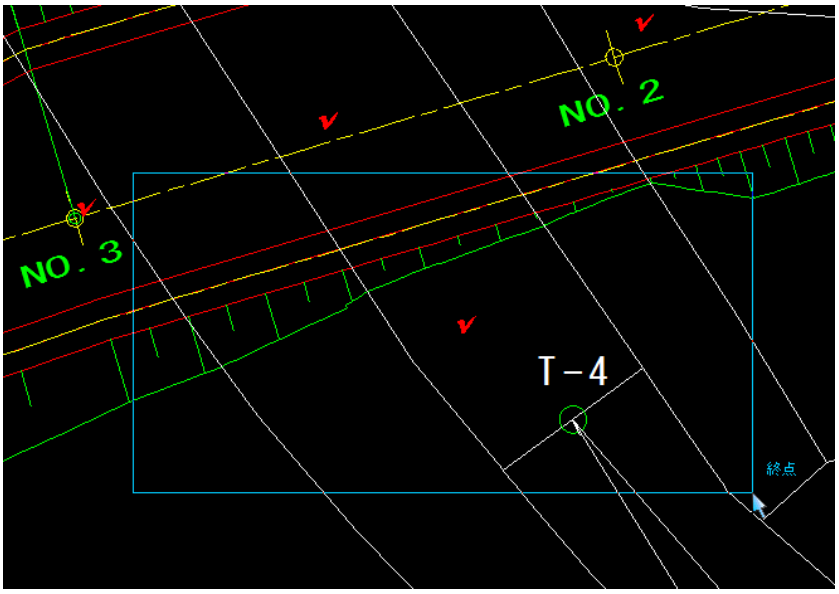


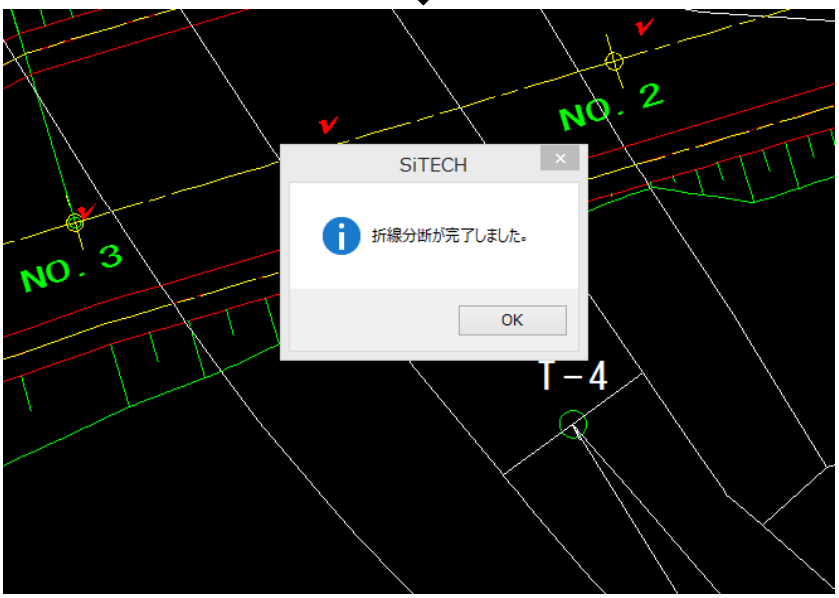
2 右クリックによるポップアップメニュー[終了]を選択するまで、連続して折線を分断することができます。

● 折線を分断する（範囲指定）

1 参照図面ウィンドウメニューで[ ]をクリックすると、「折線分断」ダイアログボックスが表示されますので、[範囲指定]をクリックします。
「交点分断」チェックマークをオンにすると、指定した範囲内の交点で分断します。
分断範囲をマウスにて指定します。







2 右クリックによるポップアップメニュー[終了]を選択するまで、連続して折線を分断することができます。

図面クリーナー

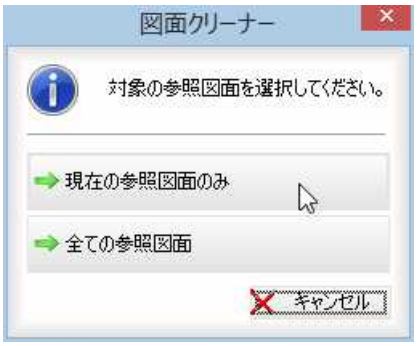
微小要素の削除、重複図形の削除、連続要素の結合を行います。

● 図面クリーナーを実行する

1 参照図面ウィンドウメニューで[ ]をクリックすると、「図面クリーナー」ダイアログボックスが表示されます。

対象の参照図面の選択

[現在の参照図面のみ]またはを[全ての参照図面]クリックし、処理対象を選択します。



2 「図面クリーナー」ダイアログボックスが表示されます。

チェックマークをオンにした処理が実行されます。

微小要素の削除

「許容値」入力欄内に微小要素の許容値を入力します。

円弧・楕円弧は、弧長が許容値以下の円弧等は削除の対象となります。文字・円弧上配置文字は、0バイト文字は削除の対象となります。

点マーカは、ダミー点とドットは、対象外とします。

ハッチングは、複合曲線で使用している要素を削除し、全て許容範囲未満の場合は、ハッチング自体を削除します。

【処理の流れ】
①微小要素の削除
↓
②重なった要素の削除
↓
③繋がった要素の連結

重なった要素の削除

「許容値」入力欄内に重なった要素の許容値を入力します。

対象要素は、全要素です。

繋がった要素の連結

「許容値」入力欄内に繋がった要素の連結の許容値を入力します。繋げるか繋げないかの判定は、以下の内容を基準とします。

シート、レイヤ、線種、線幅、線色の全てが一致するものだけを結合します。

属性が付加された要素同士を結合する場合は、同一属性のデータのみを結合します。対象要素は、線分、折れ線、スプラインです。

3 [OK]をクリックすると、操作1で「現在の参照図面のみ」をクリックした場合は図面クリーナーが行われ、「図面クリーナー」ダイアログボックスが表示されます。

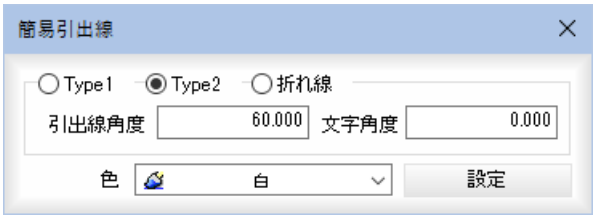
操作1で「全ての参照図面」をクリックした場合は処理ファイル数を表示するメッセージボックスが表示されます。

簡易引出線

参照図面に引出線を作図します。

●簡易引出線を作図する(共通操作)

1 参照図面ウィンドウメニューで[ ]をクリックすると、「簡易引出線」ダイアログボックスが表示されます。



引出線の種類

「Type1」、「Type2」、「折れ線」いずれかのラジオボタンをクリックして選択します。

引出線角度、文字角度

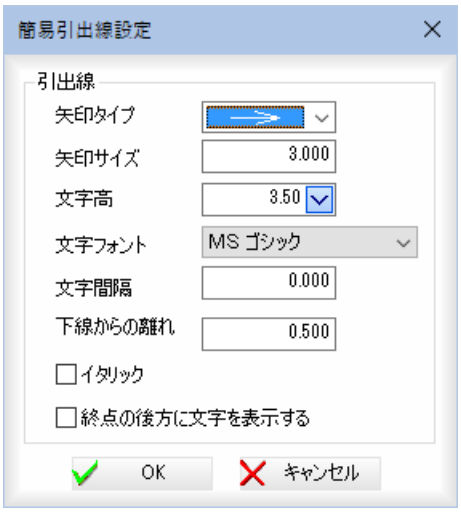
「Type1」を選択した場合は「引出線角度」入力欄内に、「Type2」を選択した場合は、「引出線角度」、「文字角度」入力欄内に角度を入力します。

色

「色」欄に現在選択中の色が表示されます。ドロップダウンリストよりいずれかの色を選択します。

設定

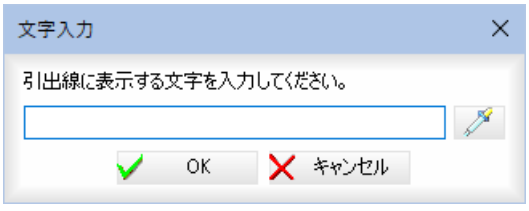
[設定]をクリックすると、「簡易引出線設定」ダイアログボックスが表示されます。



矢印タイプ
形状を矢印のドロップダウンリストより選択します。
矢印サイズ
矢印の矢の長さ、円の直径、ボックスの辺の長さ、スラッシュ・波の長さを「サイズ」入力欄内に用紙mm単位で入力します。
文字高
文字の高さをドロップダウンリストより選択します。
文字フォント
いずれかの文字フォントをドロップダウンリストより選択します。
文字間隔
文字間隔を入力欄内に用紙mm単位で入力します。
下線からの離れ
引出線の下線からの離れを用紙mm単位で入力します。
イタリック
「イタリック」チェックマークをオンにすると、イタリック体文字に設定します。初期値はオフです。
終点の後方に文字を表示する
「終点の後方に文字を表示する」チェックマークをオンにすると、引出線の終点の後方に文字を表示します。初期値はオフです。

2 **引出し位置、配置位置の指定**
「簡易引出線設定」ダイアログボックスで[OK]をクリックすると、「簡易引出線」ダイアログボックスに戻り、引出し位置指定モードになります。

文字入力
引出し位置、配置位置をマウスクリックによって決定すると、「文字入力」ダイアログボックスが表示されます。



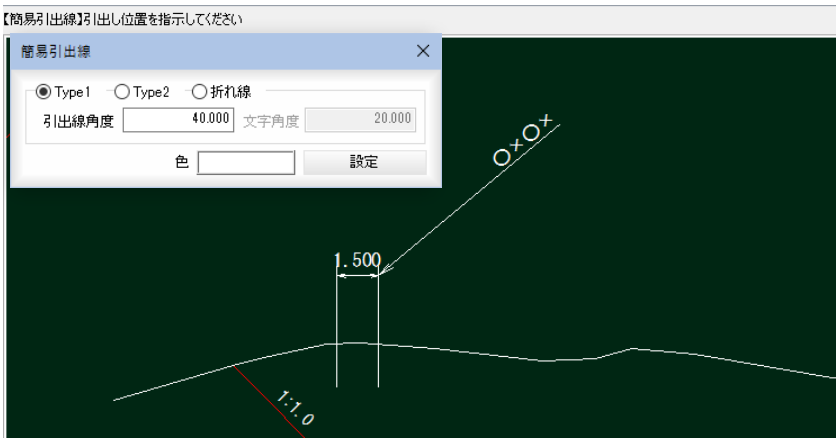
以下、「Type1」、「Type2」、「折れ線」各操作方法について説明します。

● Type1（引き出し線を１本の直線で作成する）

1 「簡易引出線」ダイアログボックスで「Type1」のラジオボタンをクリックして選択します。

2 **引出し位置ー配置位置の指示**
マウスにて引出し位置をクリックします。
続いて配置位置をマウスクリックで指定します。
文字入力
「文字入力」ダイアログボックスが表示されますので、文字を入力し、[OK]をクリックします。

3 設定した各種の条件により、簡易引出線が作成されます。

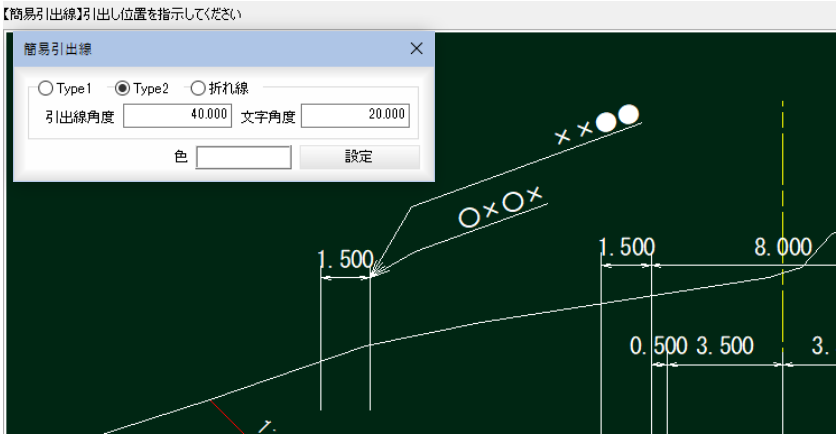


● Type2（引き出し線を２本の折れ線で作成する）

1 「簡易引出線」ダイアログボックスで「Type2」のラジオボタンをクリックして選択します。

2 **引出し位置ー配置位置の指示**
マウスにて引出し位置をクリックします。
続いて配置位置をマウスクリックで指定します。
文字入力
「文字入力」ダイアログボックスが表示されますので、文字を入力し、[OK]をクリックします。

3 設定した各種の条件により、簡易引出線が作成されます。

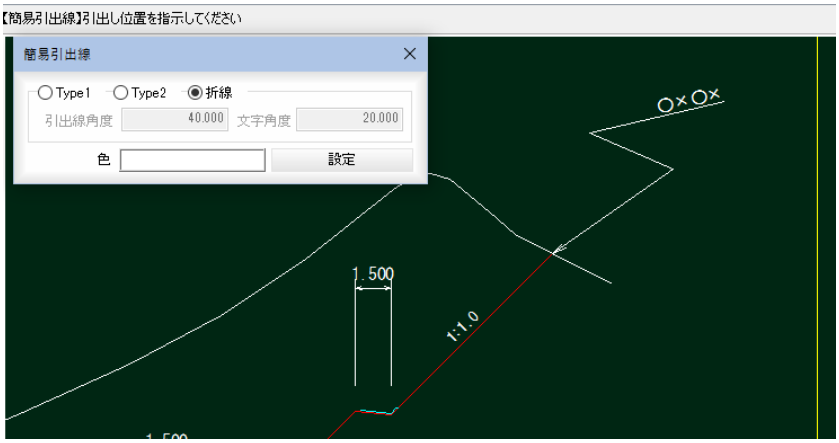


● 折れ線（引き出し線を複数の頂点の折れ線で作成する）

1 「簡易引出線」ダイアログボックスで「折れ線」のラジオボタンをクリックして選択します。

2 **引出し位置ー通過点ー確定**
マウスにて引出し位置をクリックします。
続いて通過点をクリックします。
右クリックによるポップアップメニューで[OK]を選択して確定します。
文字入力
「文字入力」ダイアログボックスが表示されますので、文字を入力し、[OK]をクリックします。

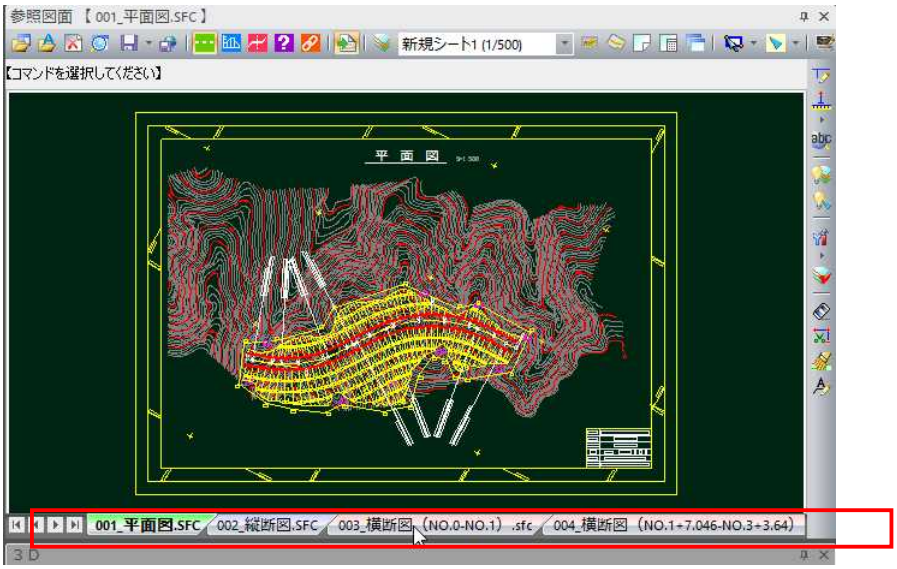
3 設定した各種の条件により、簡易引出線が作成されます。

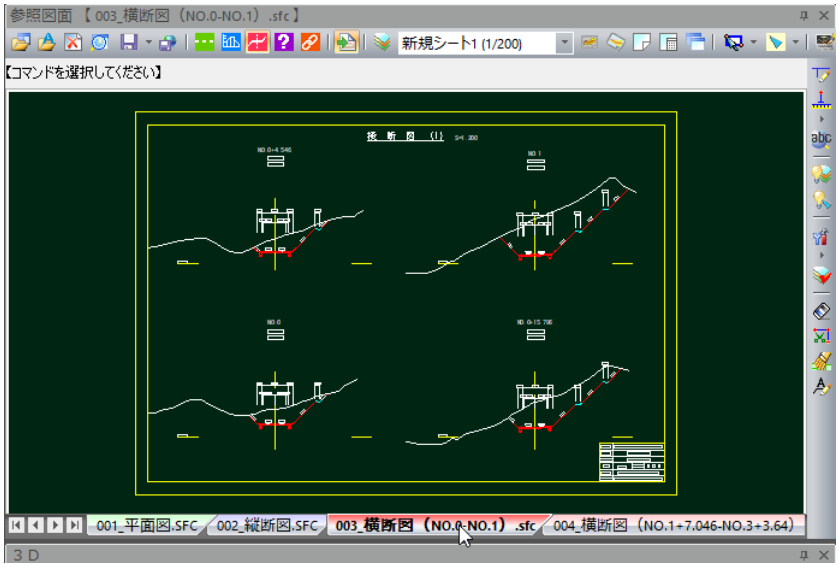


参照図面の切り替え

参照図面の切り替え処理を行います。

1 参照図面ウィンドウの下部にある図面名のタブをクリックすると、参照図面の表示が切り替わります。
また、タブをドラッグすることで、並べ替えをすることもできます。



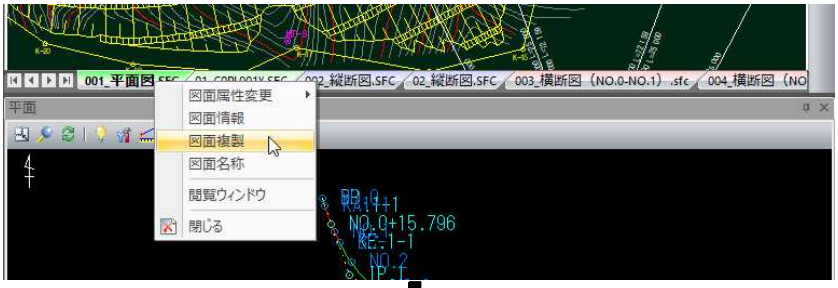


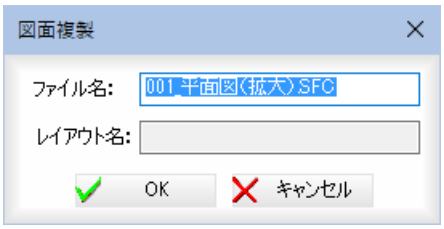
図面複製・図面名称

参照図面のコピーおよび名称の編集処理を行います。

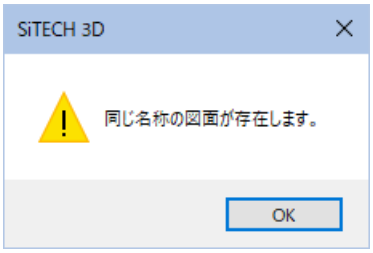
● 図面複製

1 参照図面ウィンドウメニューで現在表示中のタブ上で[右クリック]－[図面複製]をクリックすると、「図面複製」ダイアログボックスが表示されます。



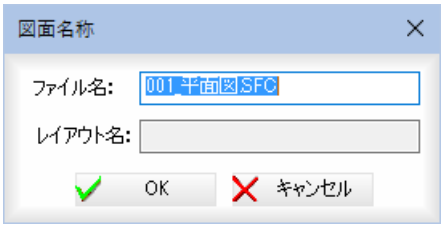


2 「ファイル名」入力欄内にファイル名を入力し、[OK]をクリックすると、図面が現在選択中の図面の右側に追加されます。
同じ名称のまま[OK]をクリックした場合、エラーメッセージが表示されます。
[OK]をクリックすると、「図面複製」ダイアログボックスに戻ります。



● 図面名称

1 参照図面ウィンドウメニューで現在表示中のタブ上で[右クリック]－[図面名称]をクリックすると、「図面名称」ダイアログボックスが表示されます。

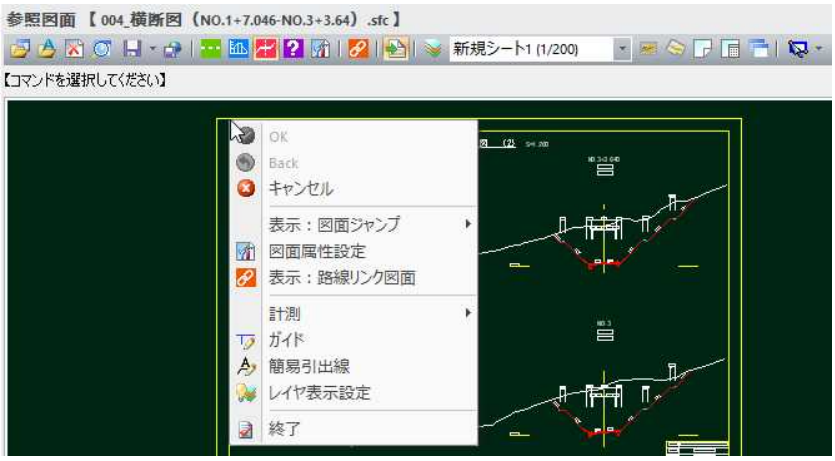


2 「ファイル名」入力欄内にファイル名を入力し、[OK]をクリックすると、図面の名称が変更されます。

ポップアップメニュー

図面ウィンドウ内に表示されるポップアップメニューから各種の処理を実行することができます。

1 参照図面ウィンドウメニューで図面ウィンドウ内でマウスの右ボタンをクリックすると、ポップアップメニューが表示されます。



→ **OK**
作業を確定します。

→ **Back**
ひとつ前の作業に戻します。

→ **キャンセル**
処理実行前に戻します。

→ **表示：図面ジャンプ**
▶をクリックし、平面図、縦断図、横断図、未分類のいずれかの図面を表示します。

→ **図面属性設定**
「図面属性設定」ダイアログボックスが表示されます。

→ **表示：路線リンク表示**
路線に関連付けられた参照図面を表示します。

→ **計測**
2 点間距離、座標、2 点間距離(延長)、標高(DL)、道のり、3 点内角、面積の各種計測処理を行います。

→ **ガイド**
ガイド線やガイド点の設定・解除を行います。

→ **簡易引出線**
参照図面に引出線を作図します。

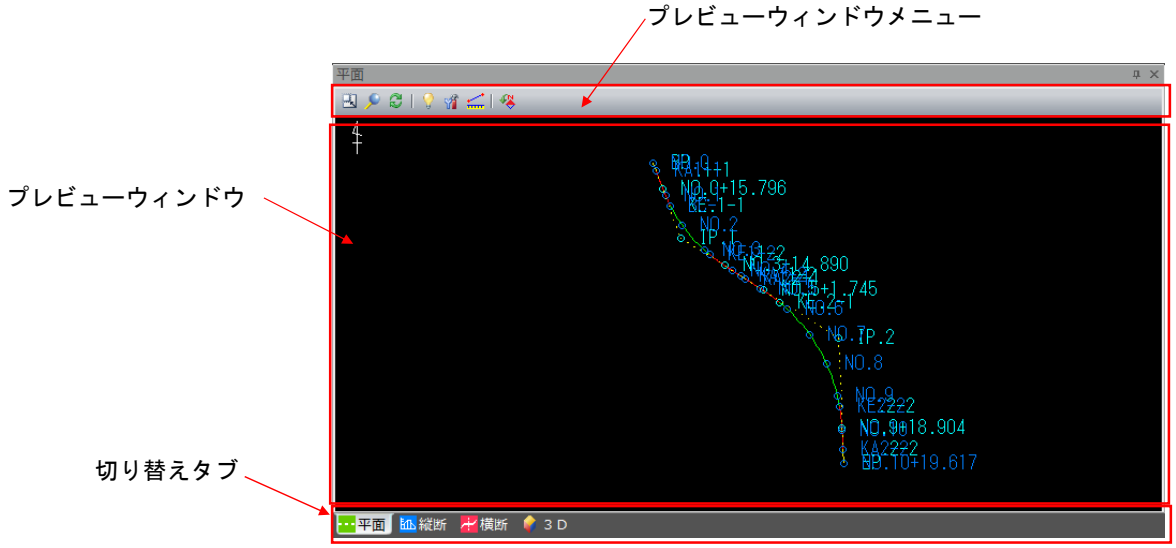
→ **レイヤ表示設定**
参照図面上で図形を選択してレイヤの表示・非表示を切り替えます。

→ **終了**
作業を終了します。

7 プレビューウィンドウ

プレビューウィンドウの構成

平面・縦断・横断・３Ｄの各プレビュー画面を表示します。



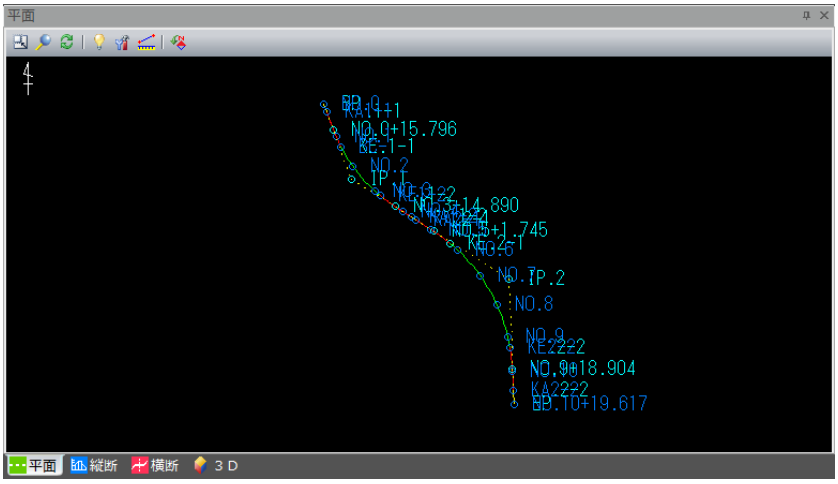
プレビューウィンドウメニュー
各種処理のアイコンが表示されています。
平面・縦断・横断・３Ｄにより表示されるアイコンが異なります。

プレビューウィンドウ
現在選択されているプレビュー画面が表示されます。

図面切り替えタブ
平面・縦断・横断・３Ｄをタブをクリックすることにより切り替えます。

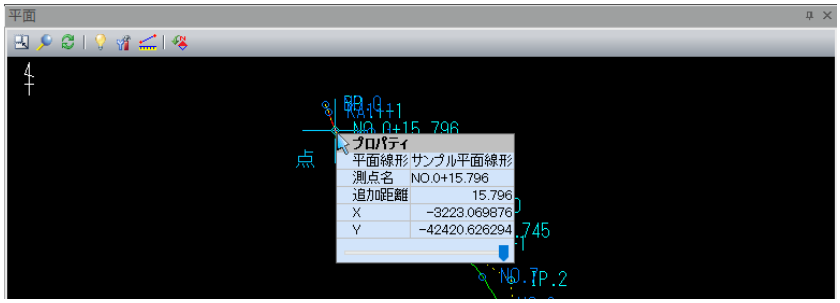
平面図プレビュー

1 プレビューウィンドウの切り替えタブで[平面]をクリックすると、平面図のプレビュー画面が表示されます。



プロパティの表示

プレビュー内の測点や線分などをクリックすると「プロパティ」ダイアログボックスが表示されます。連続して他の測点をクリックしプロパティを表示することができます。



2 **各種の表示切り替え**

全体表示（ ）

プレビューメニューから[全体表示]を選択すると、全体表示となります。

ズーム（ ）

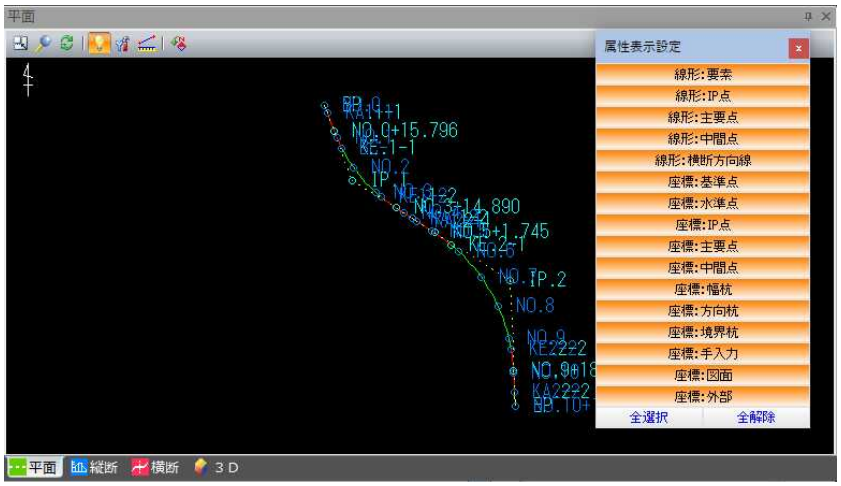
プレビューメニューから[ズーム]を選択すると、ズームモードとなります。
ズーム始点をマウスでクリックすると、終点指定モードになります。
終点をクリックすると、範囲指定した部分が拡大表示されます。

再表示（ ）

プレビューメニューから[再表示]を選択すると、再表示が行われます。

3 属性表示設定（ ）

プレビューメニューから[属性表示設定]を選択すると、「属性表示設定」ダイアログボックスが表示されます。

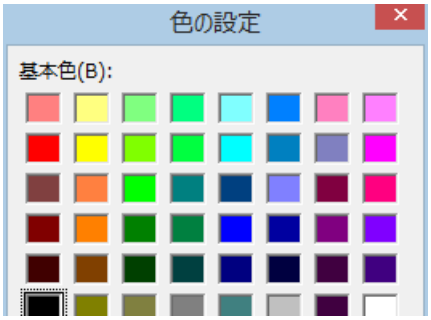


[属性名称]をクリックすることにより、それぞれの属性の表示のオン・オフを切り替えます。
[全選択]をクリックすると、すべての属性が選択されます。
[全解除]をクリックすると、すべての属性の選択が解除されます。

4 表示：設定（ ）

プレビューメニューから[表示：設定]を選択すると、「平面表示設定」ダイアログボックスが表示されます。
表示色と方位マークに関する設定を行います。

各属性の表示色を選択します。
「色」欄でダブルクリック、または[背景色]をクリックすると「色の設定」ダイアログボックスが表示されます。



色を選択し、[OK]をクリックすると「平面表示設定」ダイアログボックスに戻ります。

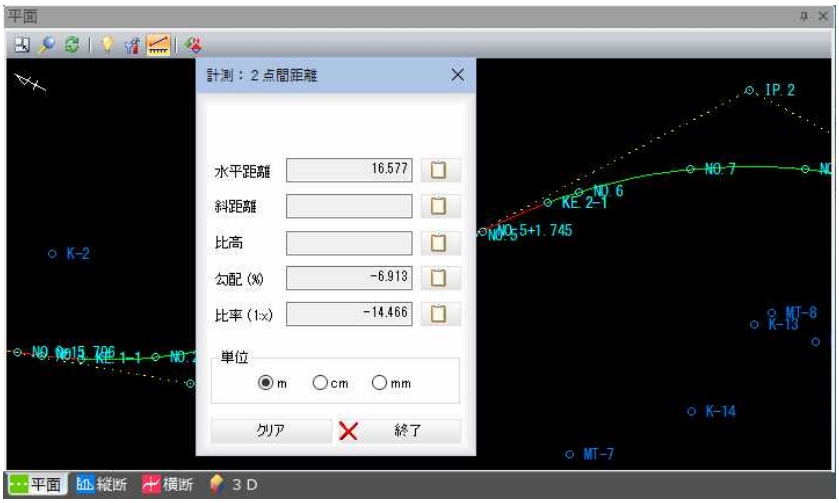
背景色
[背景色]をクリックし「色の設定」ダイアログボックスで色の変更を行うことができます。
方位マークを表示する
「方位マークを表示する」チェックマークをオンにすると、方位マークが表示されます。

既定値として設定
[既定値として設定]をクリックすると、現在の設定項目を既定値として設定します。
初期化
[初期化]をクリックすると、設定項目を初期化します。

5 計測：２点間距離（ ）

・標高が設定されている２点を指定すると、斜距離・比高の値が表示されます。

プレビューメニューから[計測：２点間距離]を選択すると、「計測：２点間距離」ダイアログボックスが表示されます。
マウスにて１点目を指定します。

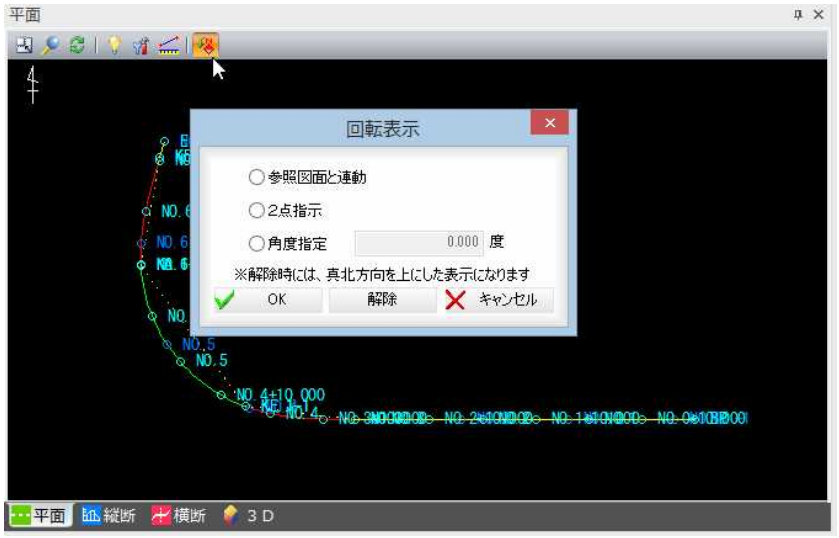


２点の指定
図面内で計測する２点をマウスにて指定すると、水平距離・斜距離・比高・勾配・比率が「計測：２点間距離」ダイアログボックス内に表示されます。
数値のコピー
各種の数値表示欄の横の をクリックすると、クリップボードに各数値がコピーされます。
単位
m、cm、mm のいずれかの単位をラジオボタンをクリックして選択します。

[クリア]をクリックすると、１点目選択モードに戻り欄内の数値を消去します。
[終了]をクリックすると「計測：２点間距離」ダイアログボックスの表示を終了します。

6 回転（ ）

プレビューメニューから[回転]を選択すると、「回転表示」ダイアログボックスが表示されます。
回転方法をラジオボタンをクリックして選択します。



参照図面と連動

「参照図面と連動」を選択し、[OK]をクリックするとアクティブな平面図のカレントシートに連動します。図面を切り替えたり、シートを切り替えたりすると、プレビューも連動します。

２点指示

「２点指示」を選択し、[OK]をクリックすると、始点ー終点の指定モードとなります。始点ー終点をマウスクリックにて指定すると、２点が水平となるように回転処理が行われます。

角度指定

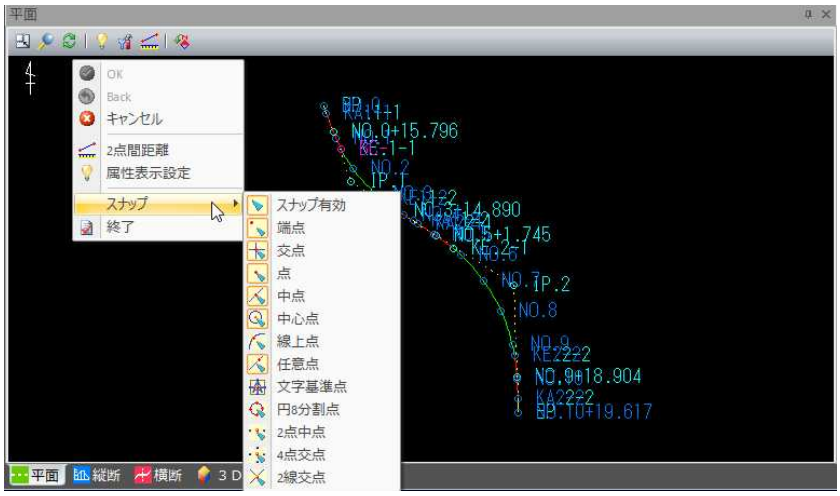
「角度指定」を選択し、角度入力欄内に角度を入力して[OK]をクリックすると、指定した角度で回転します。

回転の解除

回転を解除する場合は、「回転表示」ダイアログボックスで[解除]をクリックします。真北方向を上にした表示に戻ります。

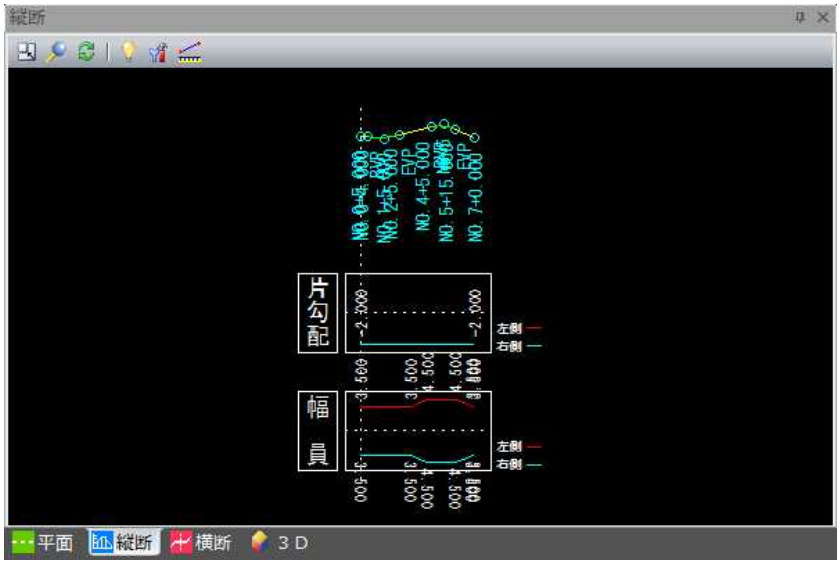
7 ポップアップメニュー

プレビューウィンドウ内で右ボタンをクリックすると、ポップアップメニューが表示され、各種の処理を行うことができます。
スナップメニューの操作は、参照図面ウィンドウ上と同様です。



縦断図プレビュー

1 プレビューウィンドウの切り替えタブで[縦断]をクリックすると、縦断図のプレビュー画面が表示されます。



プロパティの表示

プレビュー内の測点や線分などをクリックすると「プロパティ」ダイアログボックスが表示されます。連続して他の測点をクリックしプロパティを表示することができます。

また、バーチカルの開始点・終了点も表示されます。

2 **各種の表示切り替え**

全体表示（ ）

プレビューメニューから[全体表示]を選択すると、全体表示となります。

ズーム（ ）

プレビューメニューから[ズーム]を選択すると、ズームモードとなります。

ズーム始点をマウスでクリックすると、終点指定モードになります。

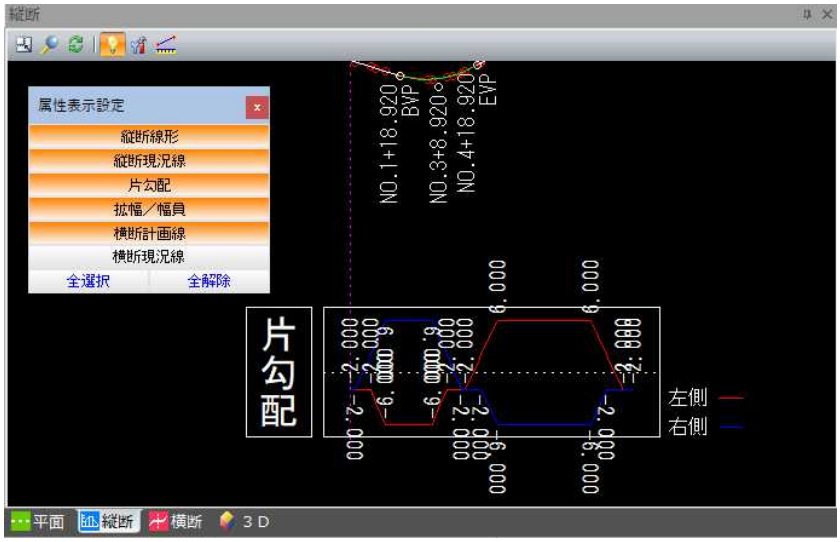
終点をクリックすると、範囲指定した部分が拡大表示されます。

再表示（ ）

プレビューメニューから[再表示]を選択すると、再表示が行われます。

3 **属性表示設定（ ）**

プレビューメニューから[属性表示設定]を選択すると、「属性表示設定」ダイアログボックスが表示されます。



[属性名称]をクリックすることにより、それぞれの属性の表示オン・オフを切り替えます。
[全選択]をクリックすると、すべての属性が選択されます。
[全解除]をクリックすると、すべての属性の選択が解除されます。

4 表示：設定（ ）

プレビューメニューから[表示：設定]を選択すると、「縦断表示設定」ダイアログボックスが表示されます。
表示色、表示比率、表示内容(帯)に関する設定を行います。

各属性の表示色を選択します。
「色」欄でダブルクリック、または「背景色」ボタンをクリックすると、「色の設定」ダイアログボックスが表示されます。
色を選択し、[OK]をクリックすると「縦断表示設定」ダイアログボックスに戻ります。

背景色
[背景色]をクリックし「色の設定」ダイアログボックスで色の変更を行うことができます。

表示比率の選択
いずれかの表示比率をラジオボタンをクリックして選択します。
「現在の参照図面に合わせる」ラジオボタンをオンにすると、表示比率を参照図面に合わせます。
「横：縦」ラジオボタンをオンにし、入力欄内に横が１の場合の縦の比率を入力します。

表示内容(帯)の選択
いずれかの表示内容をラジオボタンをクリックして選択します。
帯の表示内容を「拡幅」または「幅員」にします。

既定値として設定
[既定値として設定]をクリックすると、現在の設定項目を既定値として設定します。

初期化
[初期化]をクリックすると、設定項目を初期化します。

5 計測：２点間距離（ ）

プレビューメニューから[計測：２点間距離]を選択すると、「計測：２点間距離」ダイアログボックスが表示されます。
マウスにて１点目を指定します。

２点の指定

図面内で計測する２点をマウスにて指定すると、距離・⊿X ・⊿Y・勾配・比率が「計測：２点間距離」ダイアログボックス内に表示されます。

数値のコピー

各種の数値表示欄の横の をクリックすると、クリップボードに各数値がコピーされます。

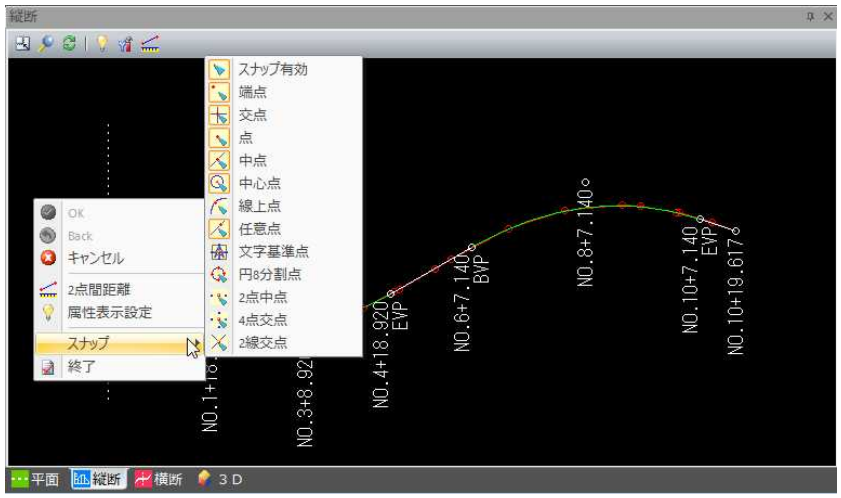
単位

m、cm、mm のいずれかの単位をラジオボタンをクリックして選択します。

[クリア]をクリックすると、１点目選択モードに戻り欄内の数値を消去します。
[終了]をクリックすると「計測：２点間距離」ダイアログボックスの表示を終了します。

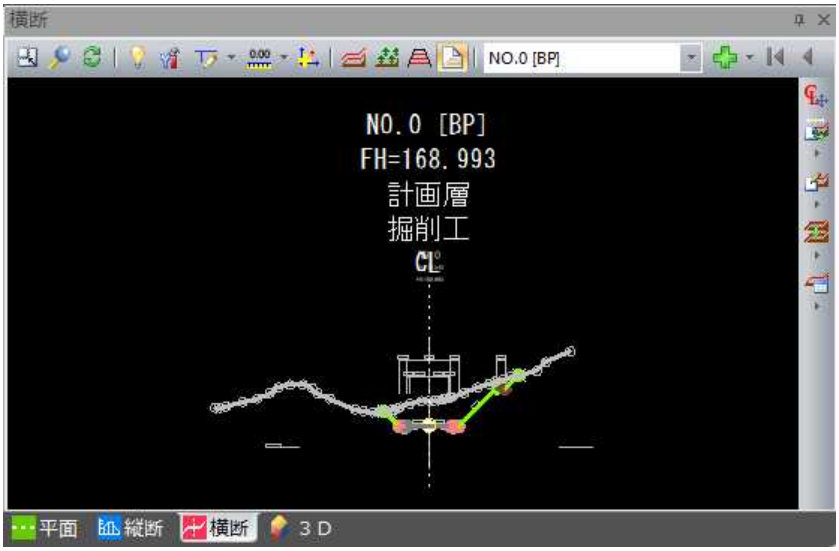
6 ポップアップメニュー

プレビューウィンドウ内で右ボタンをクリックすると、ポップアップメニューが表示され、各種の処理を行うことができます。
スナップメニューの操作は、参照図面ウィンドウ上と同様です。

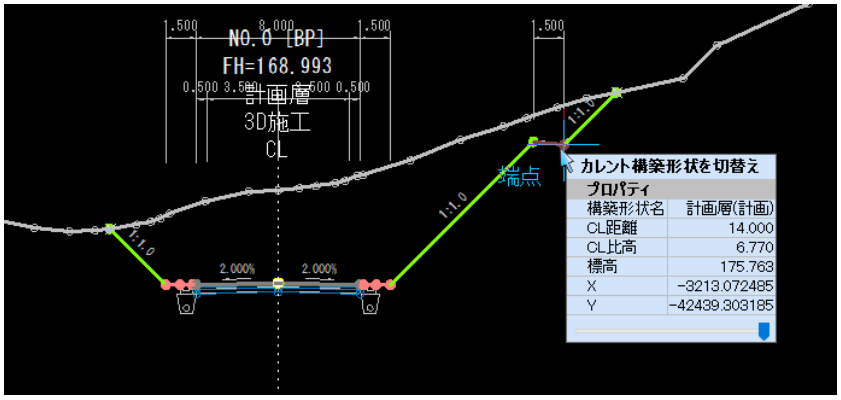


横断図プレビュー

1 プレビューウィンドウの切り替えタブで[横断]をクリックすると、横断図のプレビュー画面が表示されます。



カレント構築形状を切替え



プレビュー内の測点や線分などの要素をクリックすると選択した「カレント構築形状を切替え(プロパティ)」ダイアログボックスが表示されます。
選択することにより、構築形状が変更されます。

2 **各種の表示切り替え**

全体表示（ ）
プレビューメニューから[全体表示]を選択すると、全体表示となります。

ズーム（ ）
プレビューメニューから[ズーム]を選択すると、ズームモードとなります。
ズーム始点をマウスでクリックすると、終点指定モードになります。
終点をクリックすると、範囲指定した部分が拡大表示されます。

再表示（ ）
プレビューメニューから[再表示]を選択すると、再表示が行われます。

3 属性表示設定（ ）

プレビューメニューから[属性表示設定]を選択すると、「属性表示設定」ダイアログボックスが表示されます。

[属性名称]をクリックすることにより、それぞれの属性の表示オン・オフを切り替えます。
[全選択]をクリックすると、すべての属性が選択されます。
[全解除]をクリックすると、すべての属性の選択が解除されます。

4 表示：設定（ ）

プレビューメニューから[表示：設定]を選択すると、「横断表示設定」ダイアログボックスが表示されます。
表示色に関する設定を行います。

各属性の表示色を選択します。
「色」欄でダブルクリック、または「背景色」ボタンをクリックすると、「色の設定」ダイアログボックスが表示されます。
色を選択し、[OK]をクリックすると「横断表示設定」ダイアログボックスに戻ります。

背景色
[背景色]をクリックし「色の設定」ダイアログボックスで色の変更を行うことができます。

３D表示設定に色を適用する
「３D表示設定に色を適用する」チェックマークをオンにすると、選択した色が３D表示設定に適用されます。

センター点の描画位置を固定する(※表示測点の変更時)
「センター点の描画位置を固定する(※表示測点の変更時)」チェックマークをオンにすると、表示されている測点が変更された際に、センター点の位置が同じ位置になるように描画を行います。

既定値として設定
[既定値として設定]をクリックすると、現在の設定項目を既定値として設定します。
初期化
[初期化]をクリックすると、設定項目を初期化します。

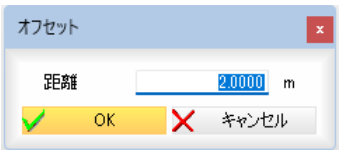
5 ガイド
プレビューメニューから[ガイド]を選択すると、それぞれ設定用のダイアログボックスが表示されます。

各種ガイドの操作は、「ガイド線(2 点指定)」、「ガイド線(オフセット)」、「ガイド線(勾配)」、「ガイド線(延長)」、「ガイド線(標高)」以外は、参照図面ウィンドウ上のガイドコマンドと同様です。 ⇒参照ページへ

→ **ガイド：ガイド線(2 点指定)**
始点終点を指定して 2 点間にガイド線を表示します。
始点を指定すると、方向を選択するモードになりますので、いずれかの方向をマウスにて指定します。
終点をクリックすると、指定した 2 点間にガイド線が表示されます。
終点の方向指定時に Shift キーを押すと水平垂直を固定します。

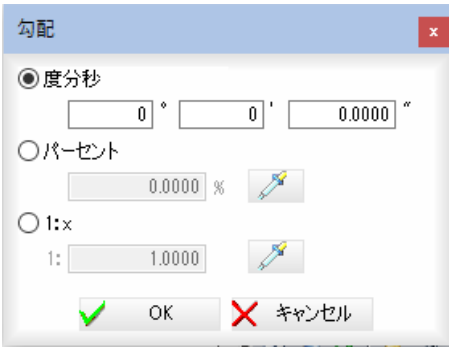
→ **ガイド：ガイド線(オフセット)**
選択した要素から設定したオフセット位置にガイド線を表示します。

マウスにて対象線をクリックすると、「オフセット」ダイアログボックスが表示されます。



「距離」にオフセット量をｍ単位で入力し、[OK]をクリックすると、どちら側にオフセットするかの指定モードになりますので、マウスをクリックして指定します。次に始点ー終点の指定モードになりますので、マウスにて指示します。
指定したオフセット位置にマウスで始点終点を指示したガイド線が表示されます。

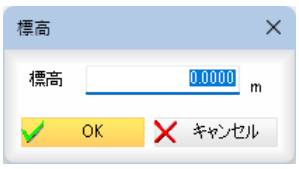
→ **ガイド：ガイド線(勾配)**
選択した要素に対して設定した勾配のガイド線を表示します。
配置位置をクリックすると、「勾配」ダイアログボックスが表示されます。



「度分秒」、「パーセント」、「1:x」いずれかのラジオボタンをクリックして勾配の設定方法を選択し、各入力欄に数値を入力します。
（スポイトアイコン）をクリックすると、文字列指定モードになりますので、マウスにて文字列をクリックすると、入力欄内に入力されます。
「パーセント」と「1:X」を選択して[OK]をクリックすると、方向を指示するモードになりますので、いずれかの表示する向きをクリックして選択します。「度分秒」の場合は、方向指定はありません。
「勾配」ダイアログボックスで[OK]をクリックするとガイド線の始点終点指定モードになりますので、マウスにてそれぞれ指定います。設定した勾配で配置位置より始点終点間にガイド線が表示されます。

→ **ガイド：ガイド線(延長)**
選択した要素の延長線上にマウス指示によりガイド線を作成します。対象要素は線分・折れ線・直線寸法の補助線になります。

→ **ガイド：ガイド線(標高)**
標高を固定した始終点間にガイド線を表示します。
コマンドを選択すると、「標高」ダイアログボックスが表示されます。



標高を入力し、[OK]をクリックすると、始点指定モードになりますので、マウスにて始点を指定します。
始点から水平方向に仮想線が表示されますので、マウスを移動して終点を指

示します。
マウスを右クリックすると、ガイド線の長さが確定します。

6 計測：２点間距離、２点間距離(延長)、座標(XYH)、面積

プレビューメニューから[ ]を選択すると、それぞれ設定用のダイアログボックスが表示されます。

２点間距離、２点間距離(延長)、面積のダイアログボックス内の操作は、参照図面ウィンドウ上の計測コマンドと同様です。 **⇒参照ページへ**

→ **計測：座標(XYH)**

横断プレビューの座標(XYH)を計測します。
メニューより「計測：座標(XYH)」を選択すると、「計測：座標(XYH)」ダイアログボックスが表示されます。

CL 距離
横断プレビュー内の計測点をマウスでクリックすると、ベース図の基準点からの水平距離である CL 距離が表示されます。
CL 比高
横断プレビュー内の計測点をマウスでクリックすると、ベース図の基準点からの垂直距離である CL 比高が表示されます。
標高
横断プレビュー内の計測点をマウスでクリックすると、標高が表示されます。
X、Y
横断プレビュー内の計測点をマウスでクリックすると、X、Y の座標が表示されます。
数値のコピー
各種の数値表示欄の横の をクリックすると、クリップボードに各数値がコピーされます。

単位
m、cm、mm のいずれかの単位をラジオボタンをクリックして選択します。
[クリア]をクリックすると、欄内の数値を消去します。
[終了]をクリックすると「計測：座標(XYH)」ダイアログボックスの表示を終了します。

7 横断座標登録（ ）

プレビューメニューから[横断座標登録]を選択すると、「横断座標登録」ダイアログボックスが表示されます。

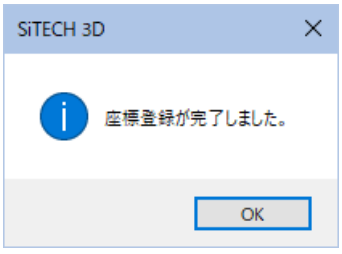
[構成点]または[方向杭]を選択し、図面内の任意の位置をクリックします。

[構成点]をクリック

「横断座標登録」ダイアログボックスが表示されます。

名称・X 座標・Y 座標・標高いずれも入力欄内をクリックして編集することができます。属性はドロップダウンリストよりいずれかを選択することができます。

[OK]をクリックすると、座標管理一覧内に登録され、完了のメッセージが表示されます。

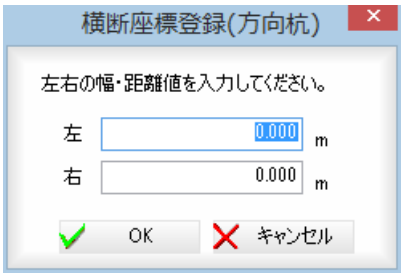


[OK]をクリックすると、処理を終了します。

[方向杭]をクリック

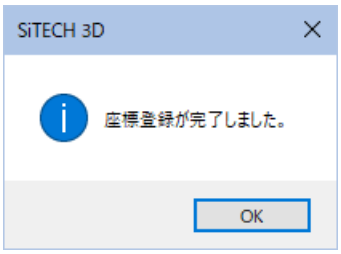
「横断座標登録」ダイアログボックスで[方向杭]をクリックすると、「横断座標登録（方向杭）」ダイアログボックスが表示されます。

左右の幅・距離値を入力します。



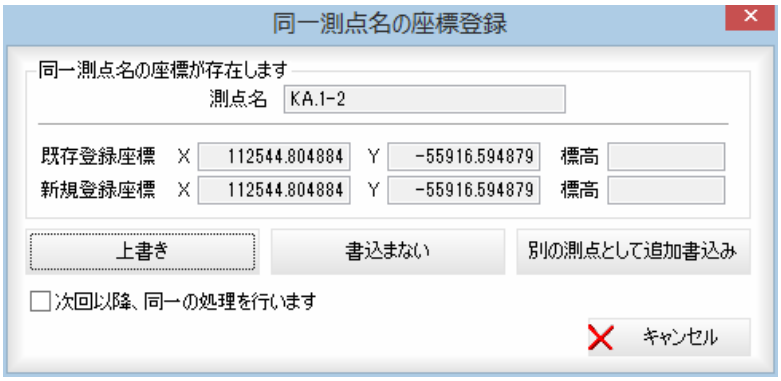
[OK]をクリックすると「横断座標登録」ダイアログボックスが表示されます。
名称・X 座標・Y 座標・標高いずれも入力欄内をクリックして編集することができます。属性はドロップダウンリストよりいずれかを選択することができます。

[OK]をクリックすると、座標管理一覧内に登録され、完了のメッセージが表示されます。



[OK]をクリックすると、処理を終了します。

同一測点名が存在する場合、「同一測点名の座標登録」ダイアログボックスが表示されます。



測点名、既存登録座標、新規登録座標の座標値が表示されます。
[上書き]、[書込まない]、[別の測点として追加書込み]のいずれかをクリックします。

上書き

[上書き]をクリックすると、新規登録座標で測点を登録します。

書込まない

[書込まない]をクリックすると、新規登録座標は登録しません。

別の測点として追加書込み
[別の測点として追加書込み]をクリックすると、別の測点として追加して書込みます。

「次回以降、同一の処理を行います」チェックマークをクリックすると、次回以降、同じ処理を行います。

8 表示：表示選択(計画)（ ）

プレビューメニューから[表示：表示選択(計画)]を選択すると、「表示：表示選択(計画)」ダイアログボックスが表示されますので、表示対象の計画層の選択を行います。

表示対象の計画層を選択
いずれかのチェックマークをクリックし、選択します。
[全選択]／[全解除]
すべて選択、またはすべて選択解除することができます。
[OK]をクリックすると、処理を終了します。

9 表示：表示選択(現況)（ ）

プレビューメニューから[表示：表示選択(現況)]を選択すると、「表示：表示選択(現況)」ダイアログボックスが表示されますので、表示対象の現況層の選択を行います。

・横断プレビューと各種コマンドの[ベース図表示]の状態は、連動しています。

表示対象の現況層を選択

いずれかのチェックマークをクリックし、選択します。

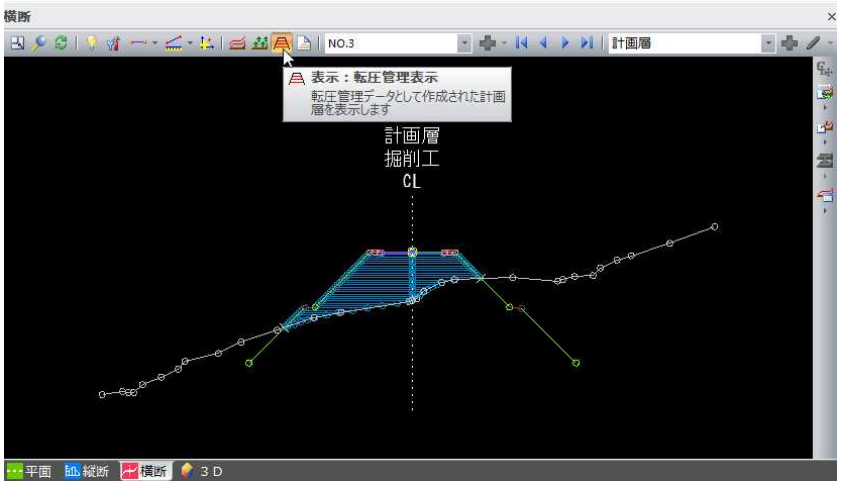
[全選択]／[全解除]

すべて選択、またはすべて選択解除することができます。

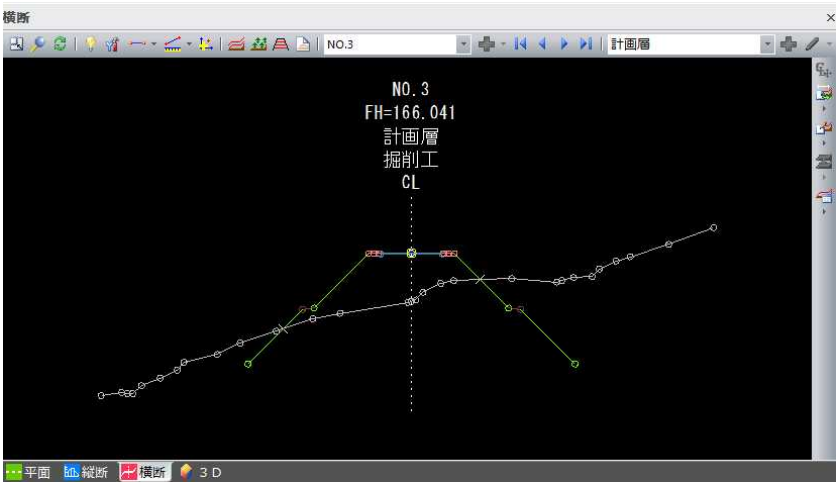
[OK]をクリックすると、処理を終了します。

10 表示：転圧管理表示（ ）

プレビューメニューから[表示：転圧管理表示]を選択すると、転圧管理として作成された計画層の表示のオン・オフが行なえます。

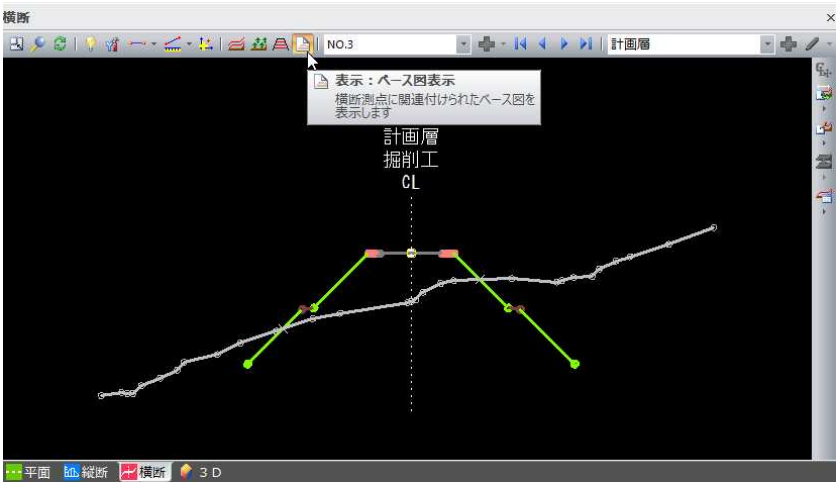


▼転圧管理の表示オフの状態

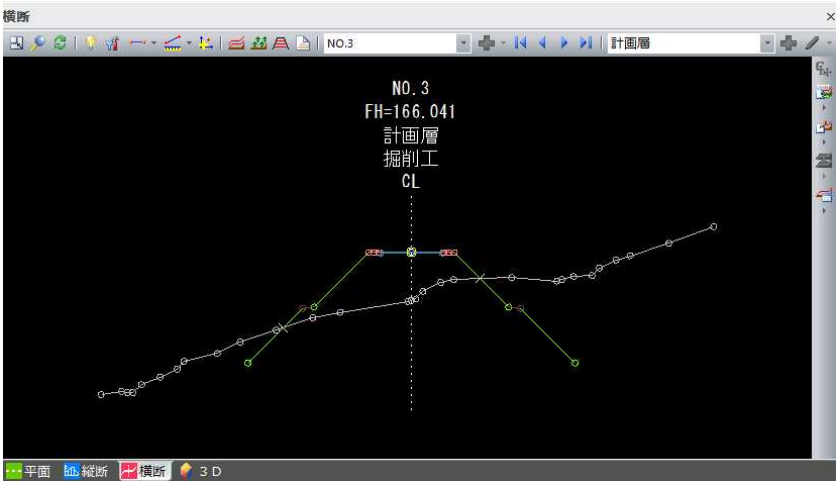


11 **表示：ベース図表示（ ）**

プレビューメニューから[表示：ベース図表示]を選択すると、カレント測点にベース図が配置されていた場合に、そのベース図を表示するかを切り替えます。

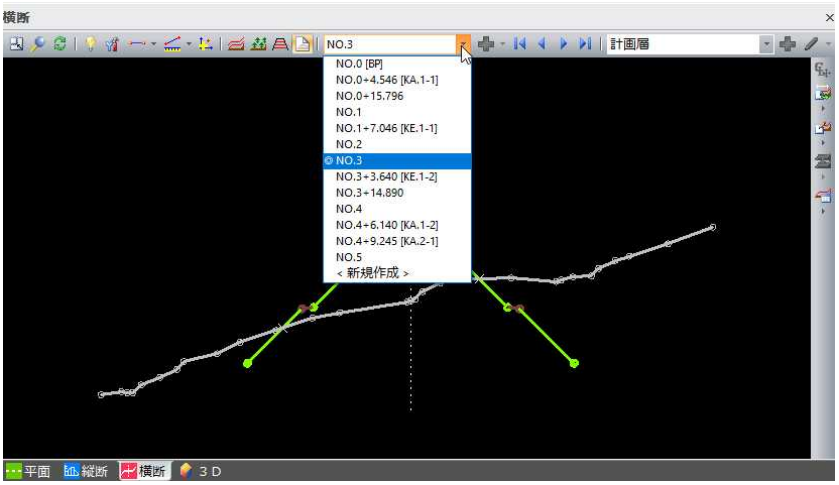


▼ベース図を表示しない状態



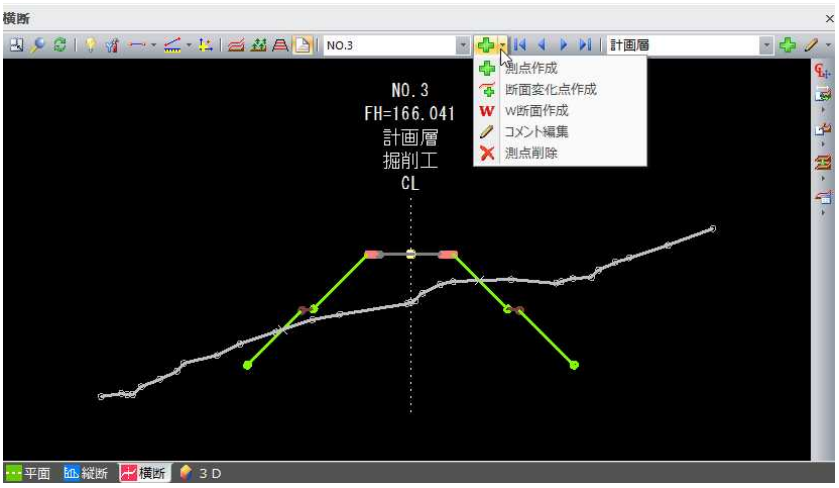
12 測点の切り替え（ドロップダウンリスト）

ドロップダウンよりいずれかの測点をクリックして測点の切り替えを行います。



13 測点の各種処理（測点作成、測点編集、W断面作成、断面変化点作成、測点削除）

ドロップダウンよりいずれかのコマンドをクリックして測点の各種処理を行います。



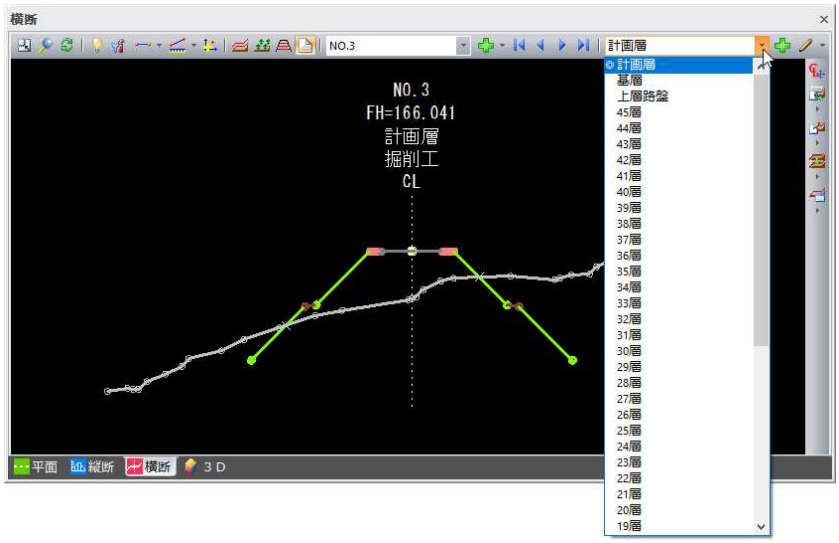
各コマンドの操作は、横断メニューの[横断情報]内の測点の各コマンドと同様です。 **⇒参照ページへ**

14 測点の切り替え（ボタン）

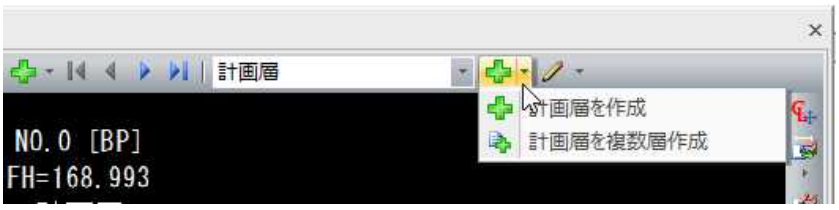
いずれかをクリックして測点の移動を行います。

15 計画層の選択

ドロップダウンよりいずれかの計画層をクリックして選択します。



16 計画層を作成・計画層を複数層作成



計画層を作成

プレビューメニューから[計画層を作成]を選択すると、「計画層の作成」ダイアログボックスが表示されます。

各コマンドの操作は、横断メニューの[構築形状]内の[計画]のドロップダウンリスト内の各コマンドと同様です。⇒参照ページへ

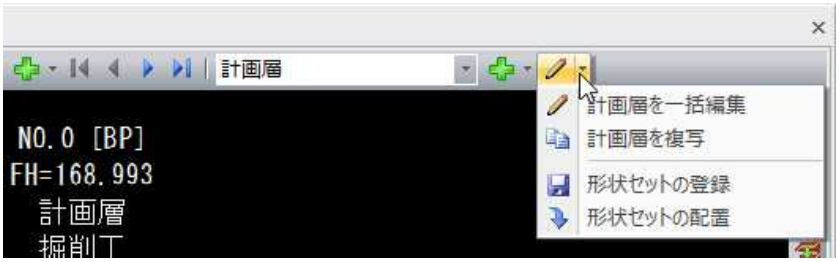
計画層を複数層作成

「複数層作成」ダイアログボックスが表示されます。

各コマンドの操作は、横断メニューの[構築形状]内の[計画]のドロップダウンリスト内の[複数層作成]と同様です。⇒参照ページへ

17 計画層の編集コマンド

ドロップダウンよりいずれかのコマンドをクリックして選択します。



各コマンドの操作は、横断メニューの[構築形状]内の[計画]のドロップダウンリスト内の各コマンドと同様です。⇒参照ページへ

18 離れ・比高編集（ ）

プレビューメニューから[離れ・比高編集]を選択すると、「離れ・比高編集」ダイアログボックスが表示されます。

「離れ(CL±)」、「比高(FH±)」入力欄にそれぞれ数値を入力します。

以下のボタンをクリックすると参照図面上でマウスクリックすることにより離れと比高を取得できます。

離れを取得します。　　比高を取得します。

離れと比高を取得します。

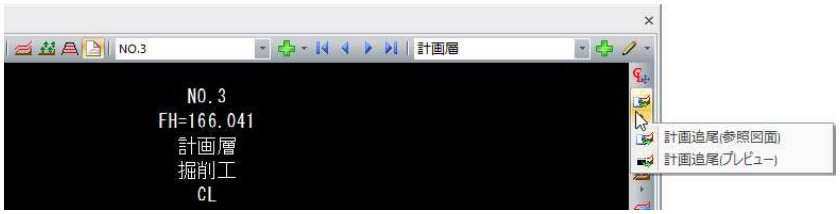
取得対象の選択

「参照図面」、「横断プレビュー」のいずれかのラジオボタンをクリックして、離れ・比高の取得対象を選択します。

「編集 離れ・比高」ダイアログボックスで[OK]をクリックすると、離れ・比高が設定されます。

19 計画追尾(参照図面)、計画追尾(プレビュー)　（ 、 ）

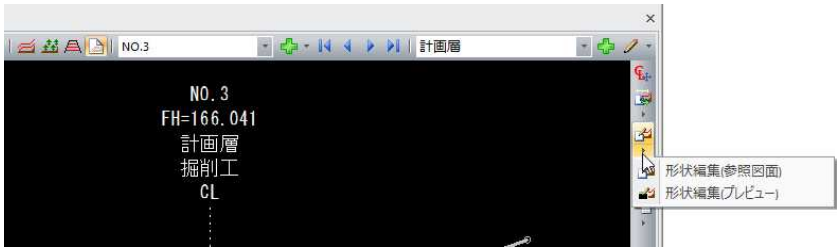
いずれかのコマンドをクリックして選択します。



各コマンドの操作は、横断メニューの[半自動抽出]内の[計画追尾(参照図面)または(プレビュー)]と同様です。 **⇒参照ページへ**

20 形状編集(参照図面)、形状編集(プレビュー) （ 、 ）

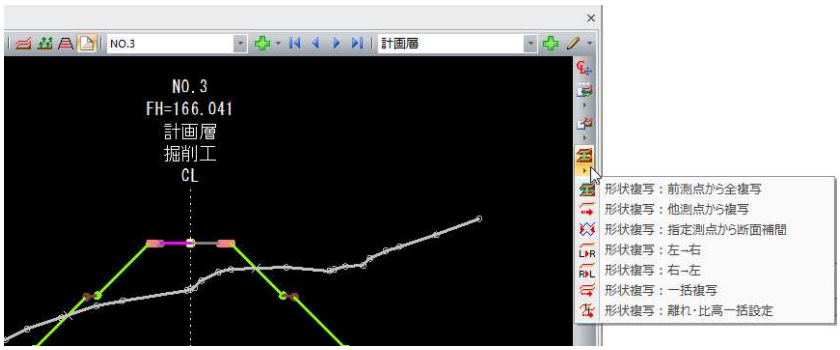
いずれかのコマンドをクリックして選択します。



各コマンドの操作は、横断メニューの[コマンド]内の[形状編集(参照図面)または(プレビュー)]と同様です。⇒参照ページへ

21 形状複写

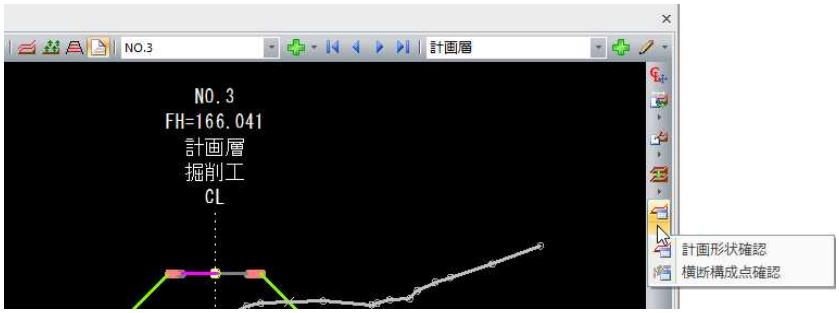
いずれかのコマンドをクリックして選択します。



各コマンドの操作は、横断メニューの[コマンド]内の[形状複写]と同様です。⇒参照ページへ

22 計画形状確認（ ）、横断構成点確認（ ）

いずれかのコマンドをクリックして選択します。

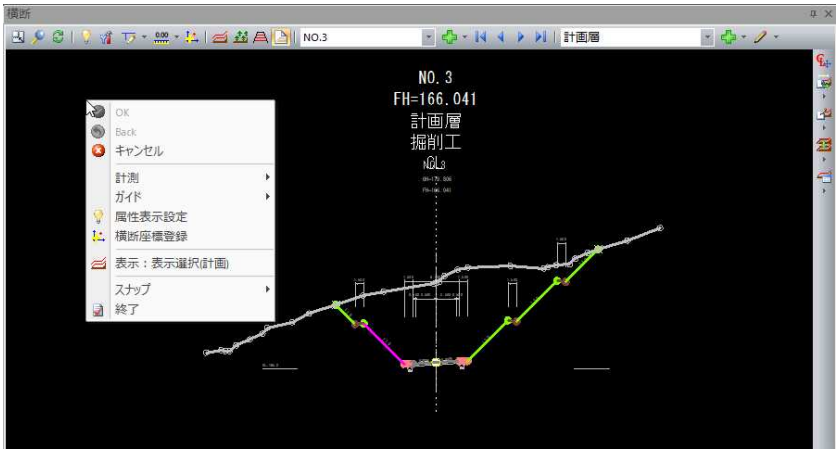


各コマンドの操作は、横断メニューの[コマンド]内の[形状編集]と同様です。⇒参照ページへ

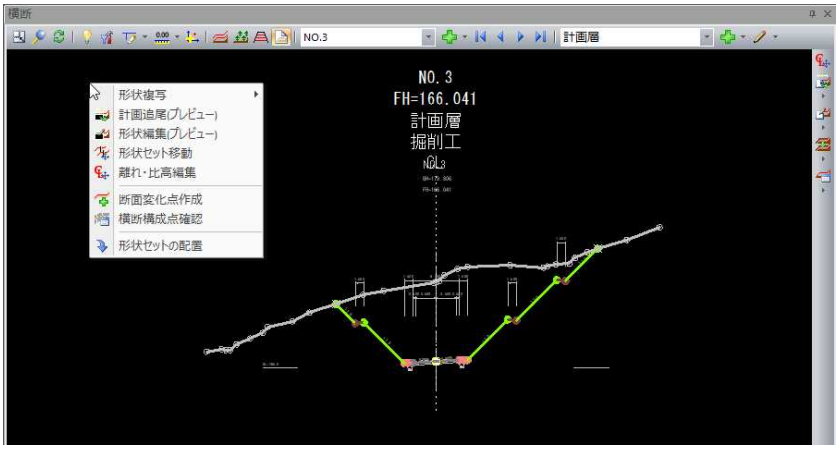
23 ポップアップメニュー

プレビューウィンドウ内で右ボタンをシングルクリックまたはダブルクリックすると、ポップアップメニューが表示され、各種の処理を行うことができます。

▼右ボタンをシングルクリック

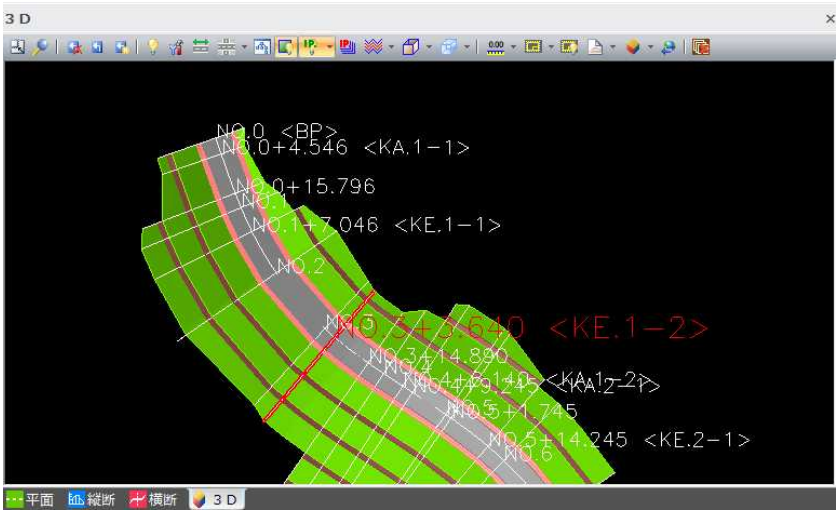


▼右ボタンをダブルクリック

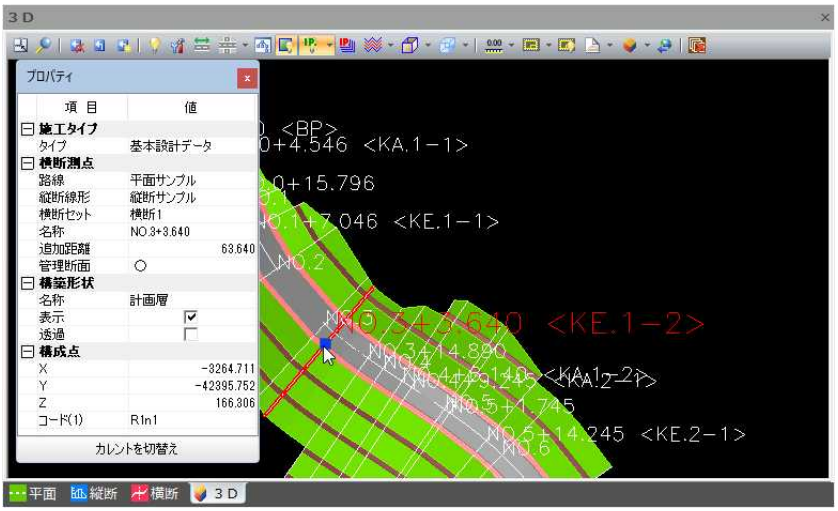


３Ｄビュー

1 プレビューウィンドウの切り替えタブで[３D]をクリックすると、３Dビュー画面が表示されます。
カレント測点の横断線は太い赤色で表示されます。



■プロパティの表示
3D ビュー内の測点をクリックすると「プロパティ」ダイアログボックスが表示されます。連続して他の測点をクリックしプロパティを表示することができます。



構築形状表示のオン・オフ設定
構築形状の表示オン・オフをチェックマークにより切り替えます。
3D ビューの「表示選択」ダイアログボックスの表示も切り替わります。

カレントを切替え
プロパティ表示内の[カレントを切替え]をクリックすると、選択対象が属する横断セットをカレント横断セットに設定します。

■横断グリッドのカレント測点同期
Shift キーを押しながら測点をクリックすると、横断タブの表示内容がクリックした測点に切り替わります。

2 **各種の表示切り替え**

全体表示（ ）

プレビューメニューから[全体表示]を選択すると、全体表示となります。

ズーム（ ）

プレビューメニューから[ズーム]を選択すると、ズームモードとなります。
ズーム始点をマウスでクリックすると、終点指定モードになります。
終点をクリックすると、範囲指定した部分が拡大表示されます。

3 **更新抑制（ ）**

プレビューメニューから[更新抑制]をオンにすると、再描画のタイミングを最低限にするので、表示が高速で行われるようになります。

4 **再構築（ ）・再構築(キャッシュ削除)（ ）**

プレビューメニューから[再構築]または[再構築(キャッシュ削除)]を選択すると、３D形状の再描画が行われます。
[再構築(キャッシュ削除)]は、データベースのリフレッシュも行います。

5 **属性表示設定（ ）**

プレビューメニューから[属性表示設定]を選択すると、「属性表示設定」ダイアログボックスが表示されます。

[属性名称]をクリックすることにより、それぞれの属性の表示オン・オフを切り替えます。
[全選択]をクリックすると、すべての属性が選択されます。
[全解除]をクリックすると、すべての属性の選択が解除されます。

6 表示：設定（ ）

プレビューメニューから[表示：設定]を選択すると、「３D表示設定」ダイアログボックスが表示されます。表示色と各種設定を行います。

横断セットの選択

ドロップダウンリストより、いずれかの横断セットを選択します。

属性表示色の選択／背景色の選択

各属性の表示色や背景色を選択します。

「色」欄でダブルクリックすると、または「背景色」ボタンをクリックすると、「色の設定」ダイアログボックスが表示されます。

色を選択し、[OK]をクリックすると「３D表示設定」ダイアログボックスに戻ります。

標高計算における「しきい値」

入力欄内に標高計算における「しきい値」を入力します。

サーフェスの色を有効にする

「サーフェスの色を有効にする」チェックマークをオンにすると、サーフェスの色を有効にして表示します。初期値はオフです。

平面/縦断の測点を使用して断面補間する

「平面/縦断の測点を使用して断面補間する」チェックマークをオンにすると、平面および縦断の測点を使用して断面補間が行われます。初期値はオンです。

現況交点で整合する

「計画」、「現況」チェックマークをオンにすると、現況交点（計画と現況との交点）まで 3D 化します。

既定値として設定

[既定値として設定]をクリックすると、現在の設定項目を既定値として設定します。

初期化

[初期化]をクリックすると、設定項目を初期化します。

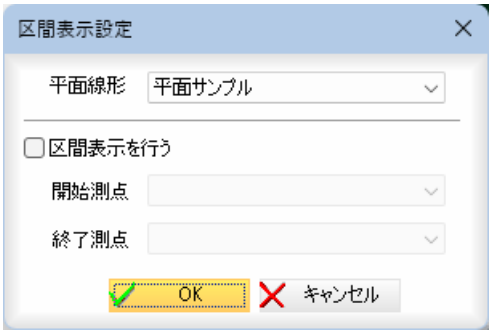
表示方法
[表示方法]をクリックすると「表示方法の変更」ダイアログボックスが表示されます。

グラフィックモード
いずれかのラジオボタンをクリックして選択します。
表示方法
「MC/MG 用の面作成」チェックマークをオンにすると、MC/MG 用として、構成点接続が行われていない場合でも横断種別から自動判別して 3D 化が行われます。オフの場合は、構成点接続がなされた点で 3D 化します。

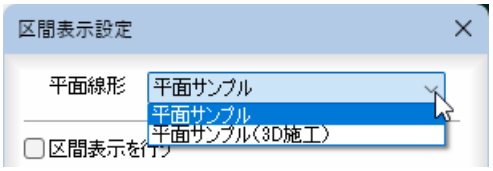
「表示方法の変更」ダイアログボックス[OK]をクリックすると「３D表示設定」ダイアログボックスに戻ります。
「３D表示設定」ダイアログボックスで[OK]をクリックすると処理を終了します。

7 表示：区間表示（ ）

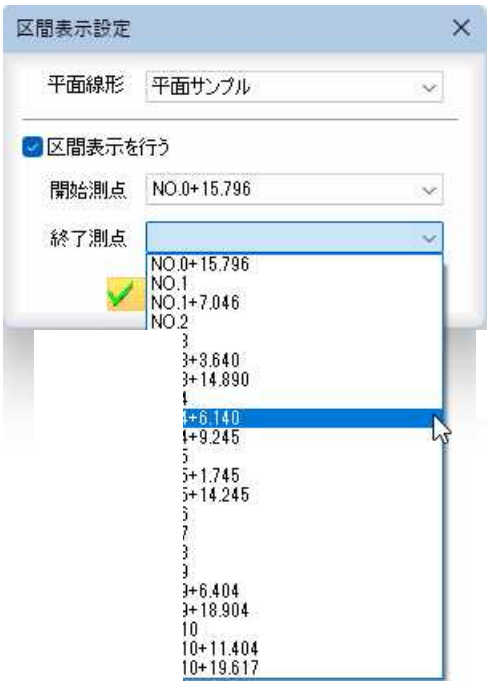
プレビューメニューから[表示：区間表示]をクリックすると、「区間表示設定」ダイアログボックスが表示されます。



平面線形の選択
ドロップダウンリストよりいずれかの平面線形を選択します。



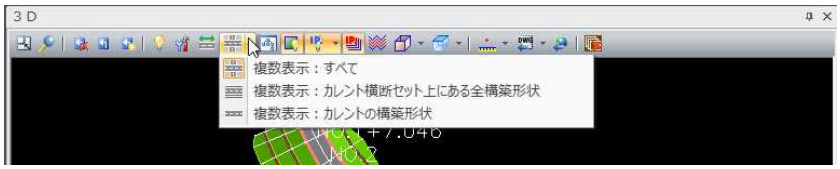
区間表示を行う
「区間表示を行う」チェックマークをオンにして、開始測点、終了測点のドロップダウンメニューから開始測点、終了測点を選択します。



「区間表示設定」ダイアログボックスで[OK]をクリックすると、選択区間の表示を行います。

8 表示：複数表示（ ）

プレビューメニューから[複数表示：すべて]、[複数表示：カレント横断セット上にある全構築形状]、[複数表示：カレントの構築形状]のいずれかをクリックすることにより、複数の横断セットの表示オン・オフを切り替えることができます。



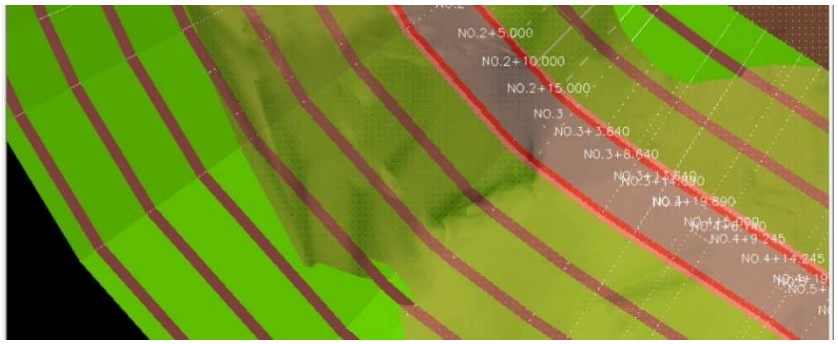
複数表示の対象

[複数表示：すべて]
⇒ すべての構築形状を複数表示します。
[複数表示：カレント横断セット上にある全構築形状]
⇒ カレントの横断図上にあるすべての構築形状を複数表示します。
[複数表示：カレントの構築形状]
⇒ カレントの構築形状を複数表示します。

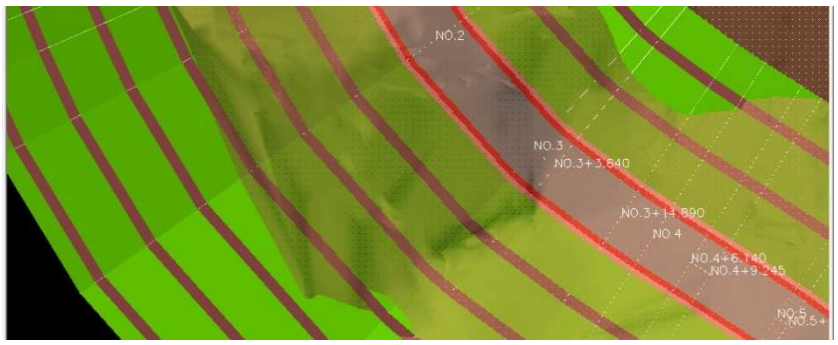
複数表示の実行

オフの場合はカレントの路線を、オンの場合は「表示選択」コマンドで設定した複数路線を表示します。初期状態はオンです。

▼複数表示：オン



▼複数表示：オフ



9 表示：表示選択（ ）

プレビューメニューから[表示：表示選択]をクリックすると、「表示選択」ダイアログボックスが表示されます。
ツリー表示と一覧表示の中間点をマウスでドラッグすると表示サイズを変更することができます。

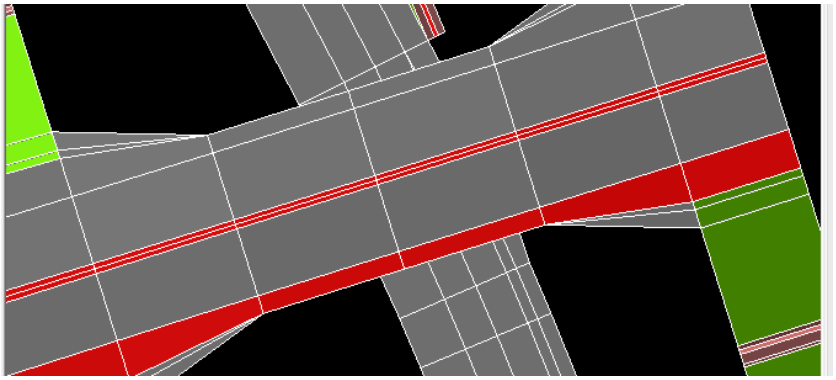
横断セットの表示設定
各横断セットの表示設定を行います。
左のツリー表示から表示を行うものをチェックマークにより選択します。

ポップアップメニュー
ツリー表示内で右ボタンをクリックすると、ポップアップメニューが表示されます。「全て表示 ON」、「全て表示 OFF」、「選択以外を表示 OFF」のいずれかを選択すると、チェックマークの選択が切り替わります。
また、「全て展開」、「全て閉じる」のいずれかを選択すると、ツリー表示が変更されます。

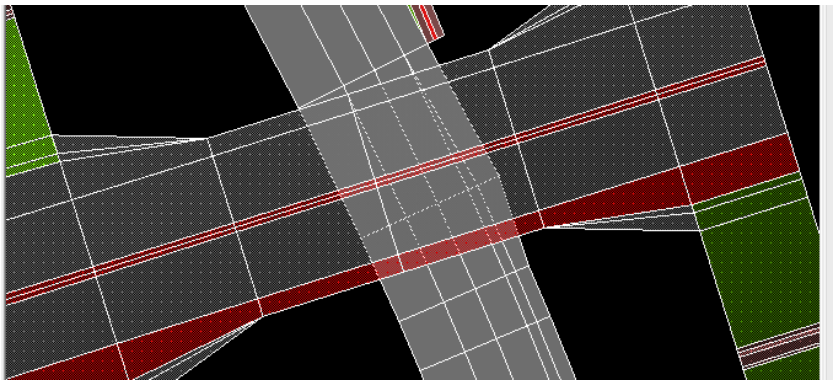
[全選択]／[全解除]
ツリー表示内のすべてのチェックマークをオン、またはオフにします。

すべてを透過する
「すべてを透過する」チェックマークをクリックすると、すべての構築形状を透過表示します。

▼ 透過：オフの場合



▼ すべてを透過する：オンの場合



構築形状ごとに表示を選択する

「表示選択」ダイアログボックスの右側の「構築形状」一覧内から表示するものをチェックマークをオンにして選択し、透過する場合は、「透過」チェックマークをオンにします。

一時適用

[一時適用]をクリックすると、「表示選択」ダイアログボックスを開いたまま、現在の設定内容を「３D」ビューに適用します。

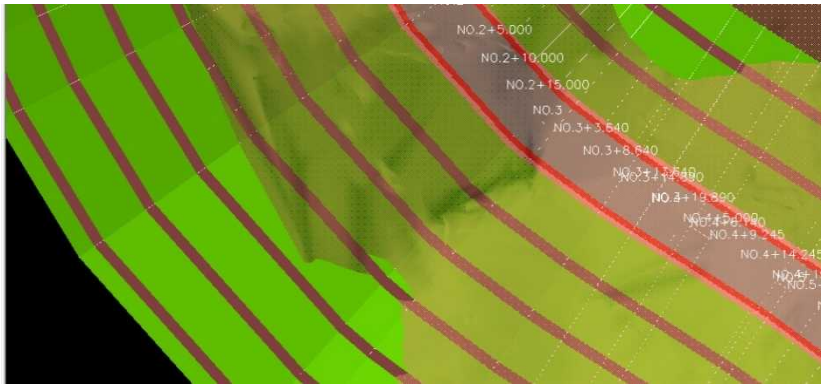
[キャンセル]をクリックすると変更前の状態に戻ります。

「表示選択」ダイアログボックスで[OK]をクリックすると、「３D」ビューに戻ります。

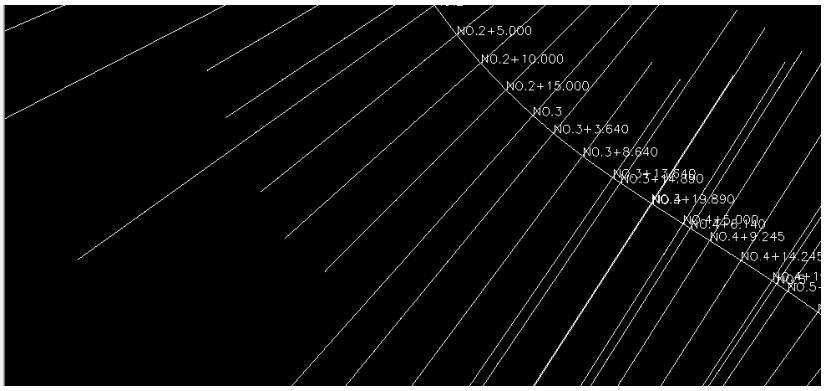
10 **表示：面表示（ ）**

プレビューメニューから[表示：面表示]をクリックすることにより、面表示のオン・オフを切り替えることができます。初期状態はオンです。

▼ 面表示オン



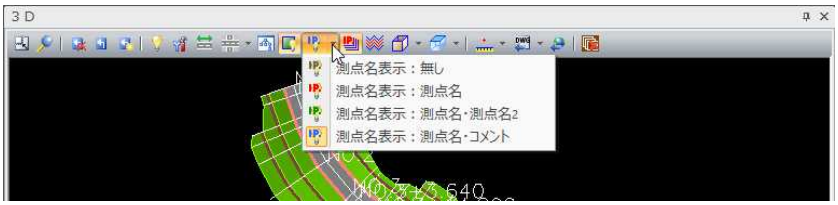
▼ 面表示オフ



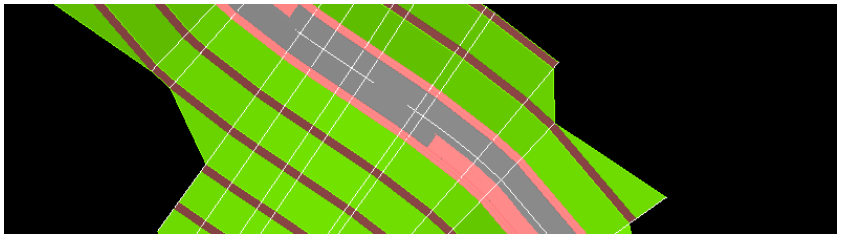
・メインウィンドウで設定中のカレント測点は赤く表示されます。

11 **表示：測点名表示モードの設定（ ・ ・ ・ ）**

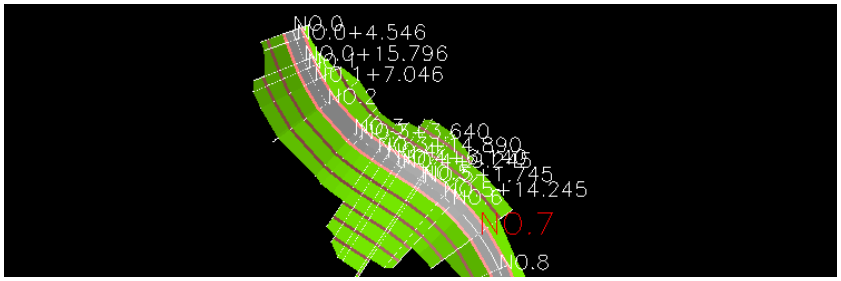
プレビューメニューから測点名表示モードのドロップダウンリストよりいずれかの表示モードを選択します。



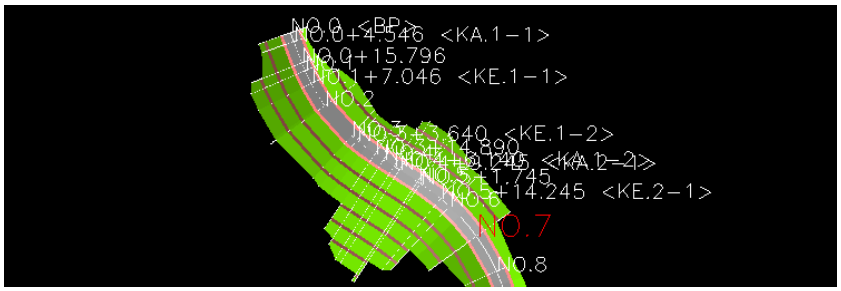
▼ 測点名表示：無し



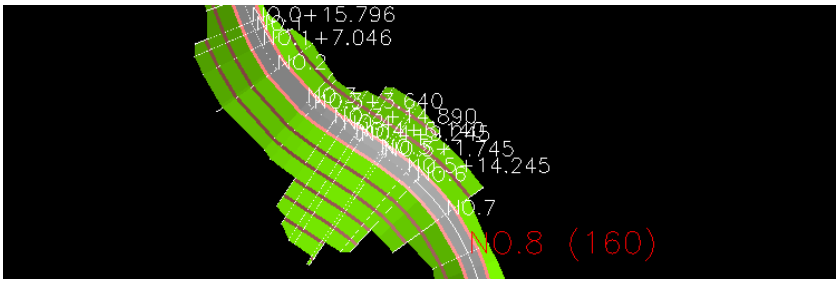
▼ 測点名表示：測点名



▼ 測点名表示：測点名・測点名２



▼ 測点名表示：測点名・コメント



12 測点名表示：複数表示（ ）

プレビューメニューから[測点名表示：複数表示]をクリックすると、すべての平面線形の測点名表示のオン・オフを切り替えます。
初期値はオンです。

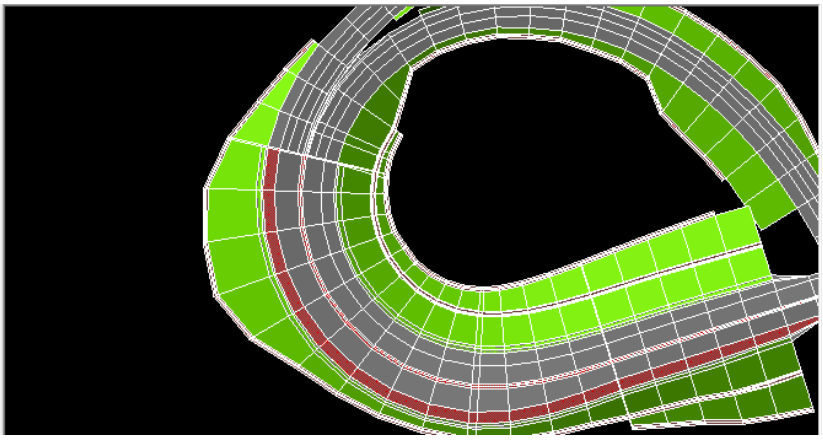
13 表示：断面補間（ ）、表示：断面補間設定（ ）

プレビューメニューから[表示：断面補間]をクリックすることにより、断面補間のオン・オフを切り替えることができます。初期状態はオフです。
また、[表示：断面補間設定]をクリックすることにより、断面補間設定を行うこともできます。

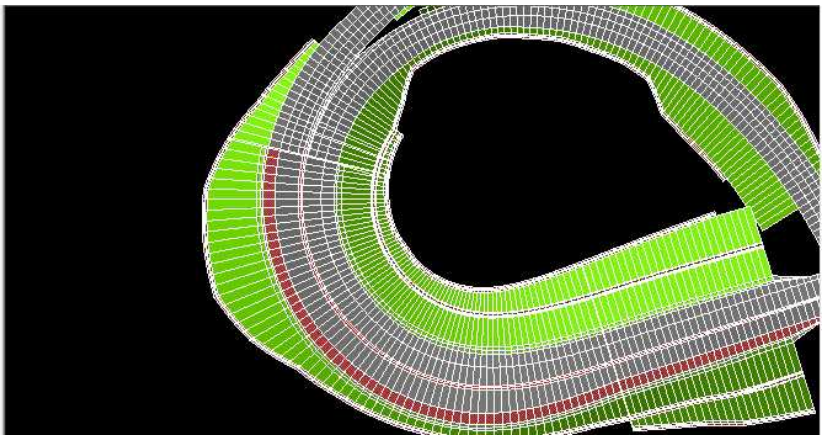
断面補間のオン・オフを切り替える

オフの場合はカレントの路線を、オンの場合は「表示選択」コマンドで設定した複数路線を表示します。初期状態はオンです。

▼ 断面補間オフ



▼ 断面補間オン



断面補間の設定

[表示：断面補間設定]をクリックすると、「断面補間設定」ダイアログボックスが表示されます。カレント路線の名称欄は赤色塗り表示されます。

全路線、各路線

「全路線」、「各路線」のいずれかをクリックして選択します。

全路線

「直線部」、「単曲線部」、「クロソイド部」の補間ピッチを入力、またはドロップダウンリストより選択します。

各路線

各路線ごとに断面補間ピッチを変更することができます。

「対象」チェックマークをオンにして路線を選択します。

規定値として設定

[規定値として設定]をクリックすると現在の設定内容を規定値に設定します。

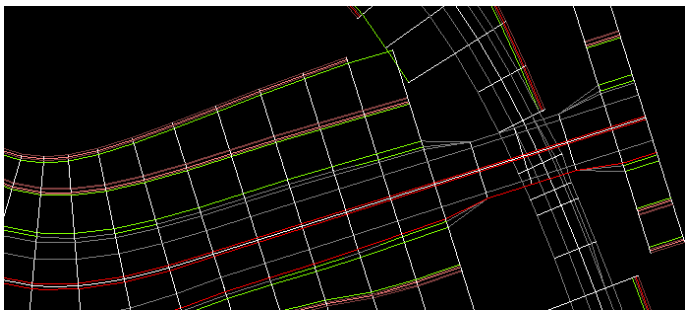
「断面補間設定」ダイアログボックスで[OK]をクリックすると、「3D」ビューに戻ります。

14 各種の描画方法に切り替える

アイコンをクリックすることにより、各種の3D描画方法を切り替えます。

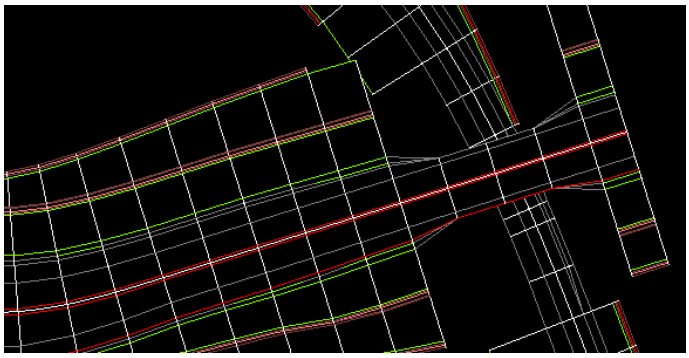
→ **ワイヤーフレーム**

ワイヤーフレームで描画します。



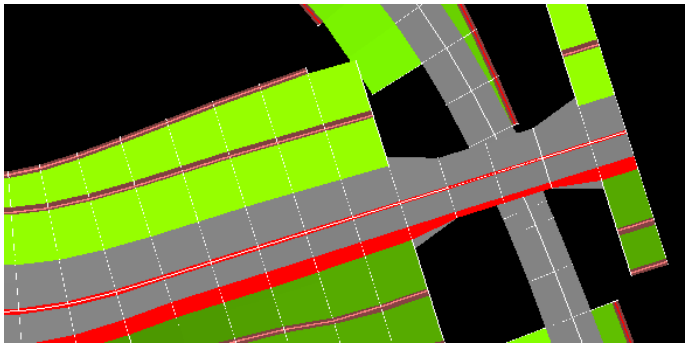
→ **陰線処理**

陰線処理で描画します。オンにすると、隠れている部分が見えなくなります。



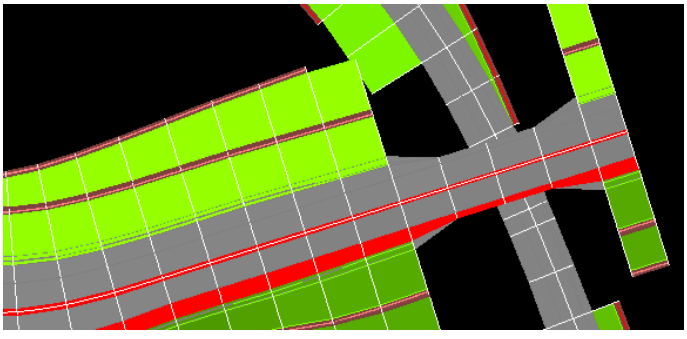
→ **シェード**

フラットシェードで描画します。



→**シェード＋ワイヤーフレーム**

シェード＋ワイヤーフレームで描画します。

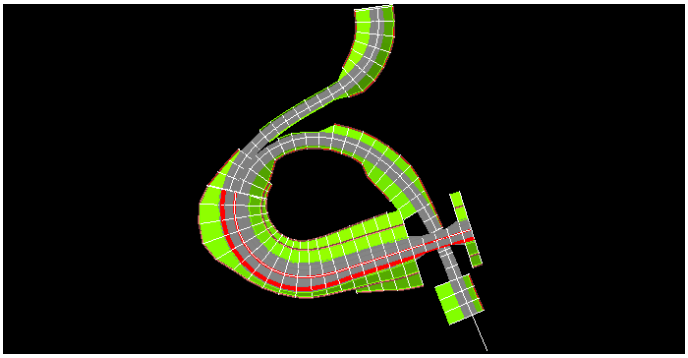


15 ビューを切り替える

アイコンをクリックすることにより、各種の３Ｄビューを切り替えます。

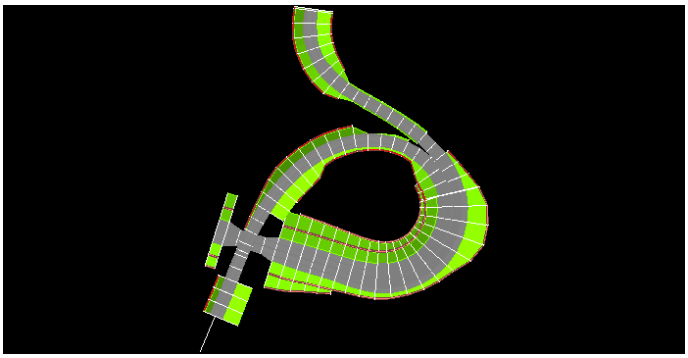
→ ３Ｄ／ビュー：平面図

平面図を表示します。



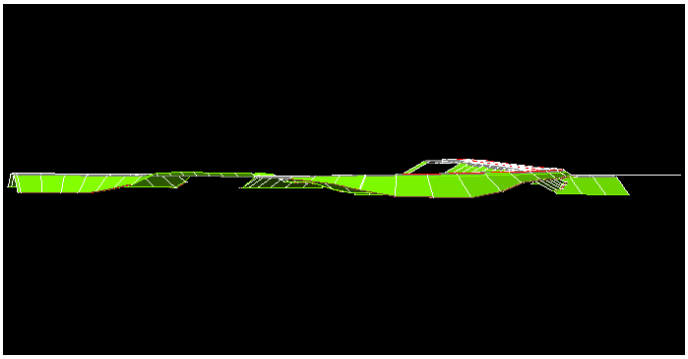
→ ３Ｄ／ビュー：下面図

下面図を表示します。



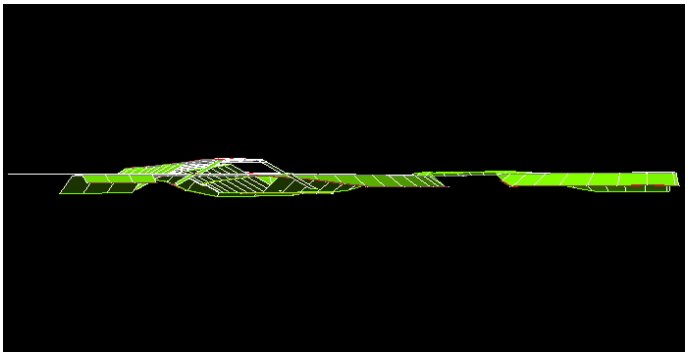
→ ３Ｄ／ビュー：左側面図

左側面図を表示します。



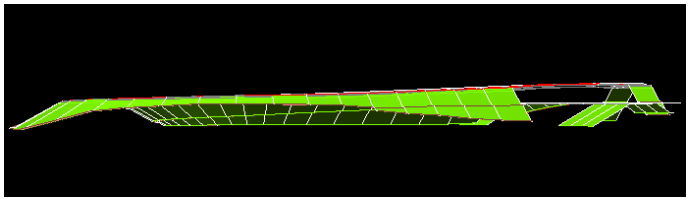
→ ３Ｄ／ビュー：右側面図

右側面図を表示します。



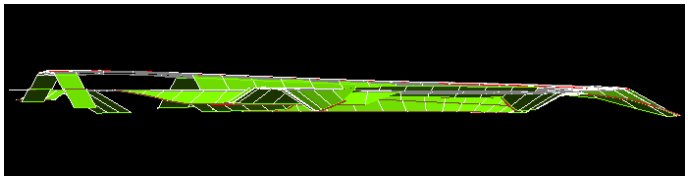
→ 3D／ビュー：正面図

正面図を表示します。



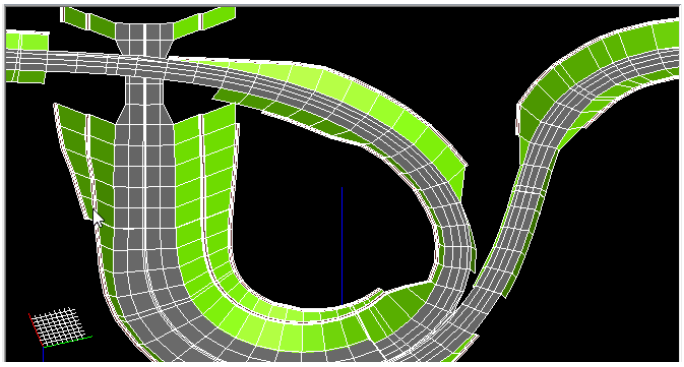
→ 3D／ビュー：背面図

背面図を表示します。



マウスカーソルの移動で表示を回転する。

マウス右ボタンを押したままマウスを動かすと、３Ｄビューの図形が回転します。

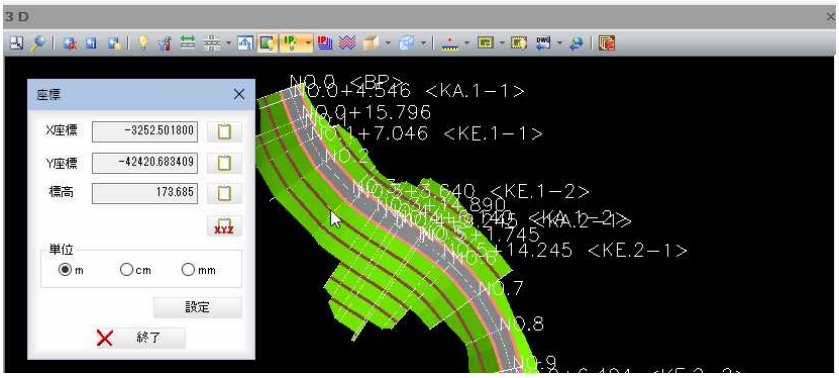


Shift キーを押しながら表示を回転すると、マウスの初動が横に動いた場合には横方向の回転で固定され、マウスの初動が縦に動いた場合には縦方向の回転で固定されます。

16 計測処理を行う(座標)（ ）

プレビューメニューから[計測(座標)]を選択すると、座標指定モードとなりますので、マウスでプレビューウィンドウ内をクリックします。

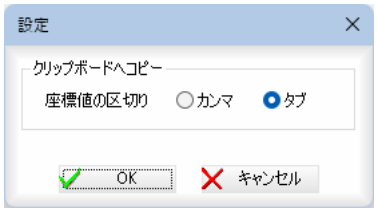
「座標」ダイアログボックスが表示されます。



Ｘ座標／Ｙ座標／標高

図面内でクリックした点の座標値が「計測：座標」ダイアログボックス内に表示されます。

数値のコピー
各種の数値表示欄の横の をクリックすると、クリップボードに各数値がコピーされます。
をクリックすると、クリップボードに一度で X 座標、Y 座標、標高がコピーされます。
単位
m、cm、mm のいずれかの単位をラジオボタンをクリックして選択します。
[閉じる]をクリックすると「座標」ダイアログボックスの表示を終了します。
設定
[設定]をクリックすると、「設定」ダイアログボックスが表示されます。



クリップボードへのコピー
座標値の区切りを「カンマ」、「タブ」いずれかのラジオボタンをクリックして選択します。初期値は「タブ」です。

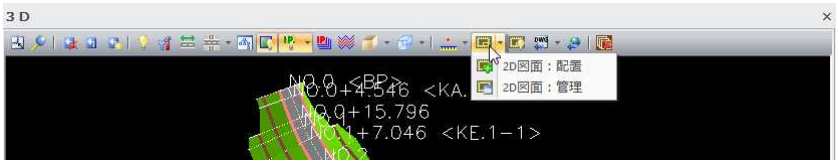
17 計測処理を行う（2点間距離）（ ）

プレビューメニューから[計測（2点間距離）]を選択すると、2点指定モードとなります。プレビューウィンドウ内で計測する2点をマウスにて指定すると、「2点間」ダイアログボックスが表示されます。

X座標／Y座標／標高（1点目、2点目）
図面内でクリックした2点の座標値が表示されます。
距離・水平・比高・勾配(%)・勾配(1:x)
指定した2点間の距離・水平・比高・勾配(%)・勾配(1:x)が表示されます。
数値のコピー
各種の数値表示欄の横の をクリックすると、クリップボードに各数値がコピーされます。
単位
m、cm、mm のいずれかの単位をラジオボタンをクリックして選択します。
[閉じる]をクリックすると「2点間距離」ダイアログボックスの表示を終了します。

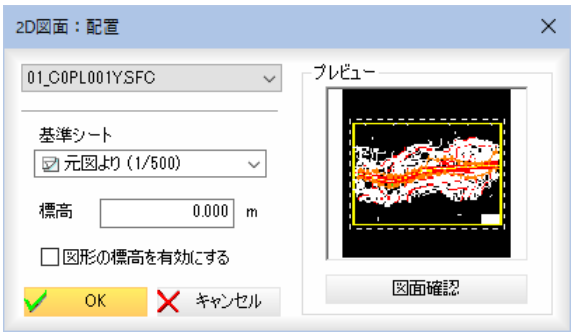
18 2D 画面（ ・ ）

参照図面(平面属性)を 3D ビューに配置・管理を行います。



■ 2D 画面：配置（ ）

[2D 画面：配置]をクリックすると、「2D 画面：配置」ダイアログボックスが表示されます。



図面の選択

参照図面にて平面属性の図面が複数ある場合、ドロップダウンリストより選択します。

基準シートの選択

ドロップダウンリストより、基準となるシートを選択します。

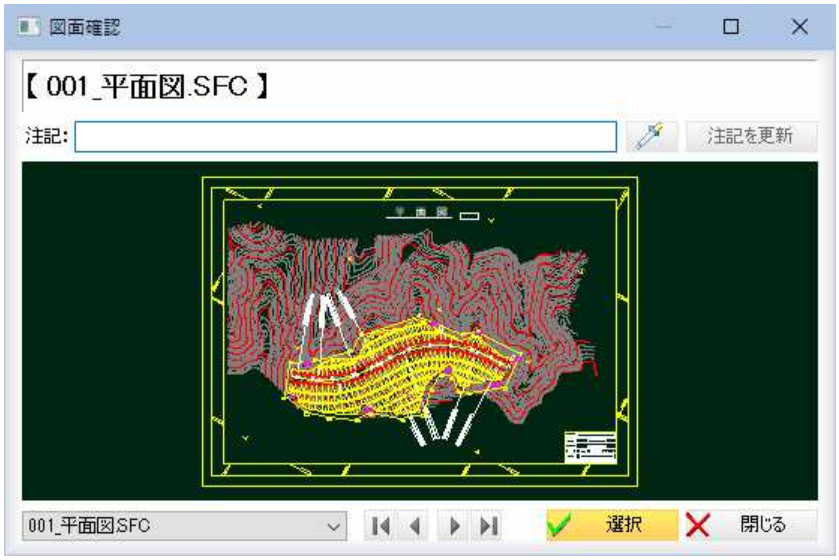
標高

「標高」の入力欄内に入力します。

「図形の標高を有効にする」チェックマークをオンにすると、図形の標高が有効となります。初期値はオフです。

図面確認

プレビューの下の[図面確認]をクリックすると「図面確認」ダイアログボックスが表示されます。



注記

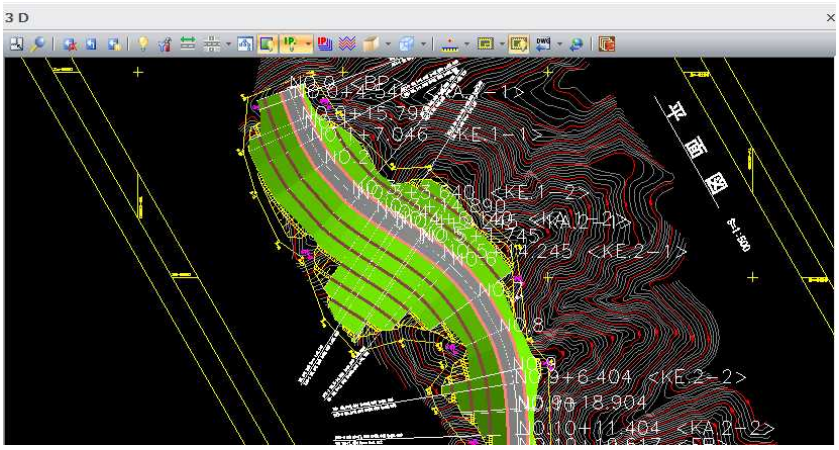
「注記」入力欄内に文字列を入力・変更します。

（スポイトボタン）をクリックすると、図面内の文字抽出モードとなりますので、いずれかの文字列をクリックします。入力欄内に文字列が追加されます。

[注記を更新]をクリックすると、確認メッセージが表示されますので、[OK]をクリックすると、注記文字列が更新されます。

参照図面の切り替え
図面名のドロップダウンリストまたは をクリックして図面ファイルの切り替えを行います。

[選択]をクリックすると、現在表示中の図面が選択され、「2D 画面：配置」ダイアログボックスに戻ります。
「2D 画面：配置」ダイアログボックスで[OK]をクリックすると、参照図面(平面属性)が配置されます。



■ 2D 画面：管理（ ）
[2D 画面：管理]をクリックすると、「2D 画面：管理」ダイアログボックスが表示されます。

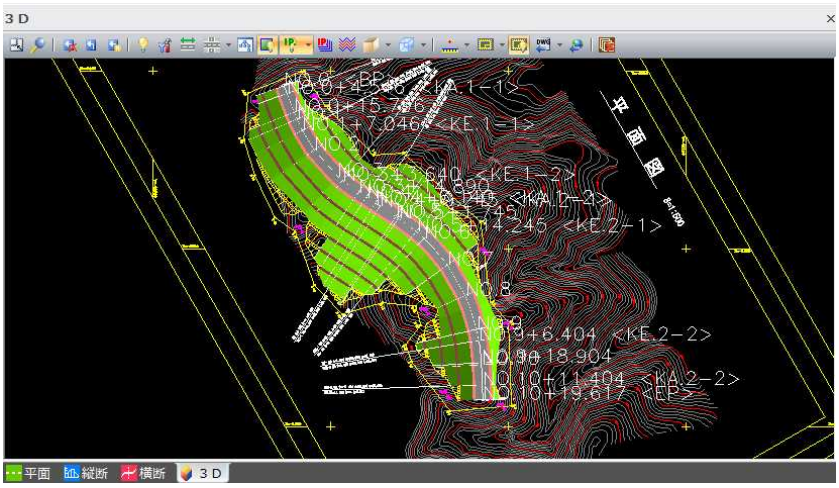
参照図面(平面属性)の標高を変更する
[変更]をクリックすると、「2D 図面：変更」ダイアログボックスが表示されます。

標高
「標高」の入力欄内に入力します。
[OK]をクリックすると、「2D 図面：変更」ダイアログボックスに戻ります。
参照図面(平面属性)の配置の解除
「2D 画面：管理」ダイアログボックスで[解除]をクリックすると、配置を解除します。
図面確認
プレビューの下の[図面確認]をクリックすると「図面確認」ダイアログボックスが表示されます。操作方法は[2D 画面：配置]と同様です。
「2D 画面：管理」ダイアログボックスで[OK]をクリックすると処理を終了します。

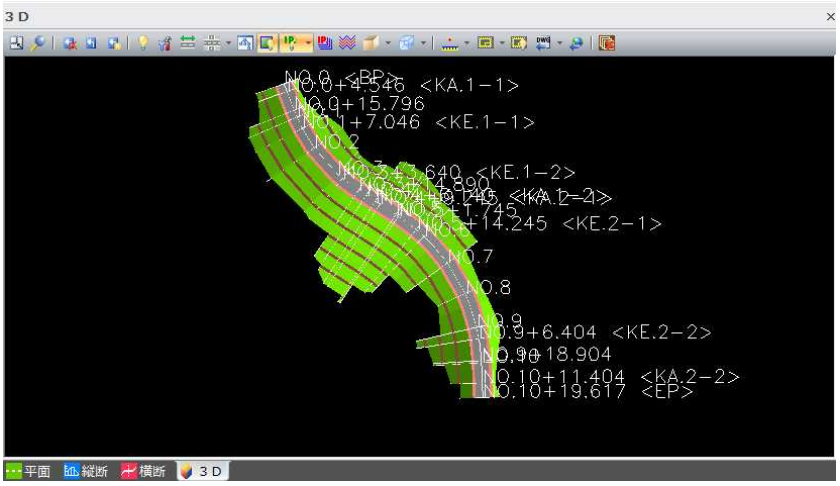
19 表示：2D 画面（ ）

プレビューメニューから[表示：2D 画面]をクリックすることにより、2D 表示のオン・オフを切り替えることができます。初期状態は、2D 画面が設定されている場合はオンです。

▼ 2D 表示オン



▼ 2D 表示オフ

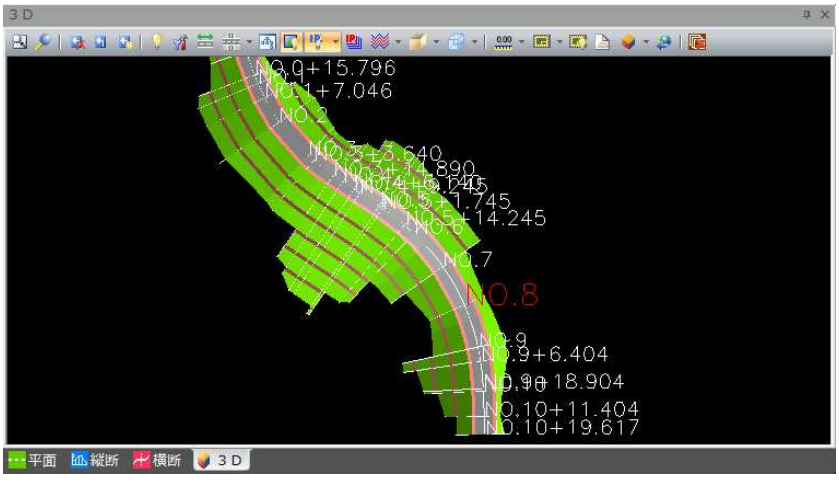


20 表示：ベース図（ ）、表示：ベース図管理（ ）

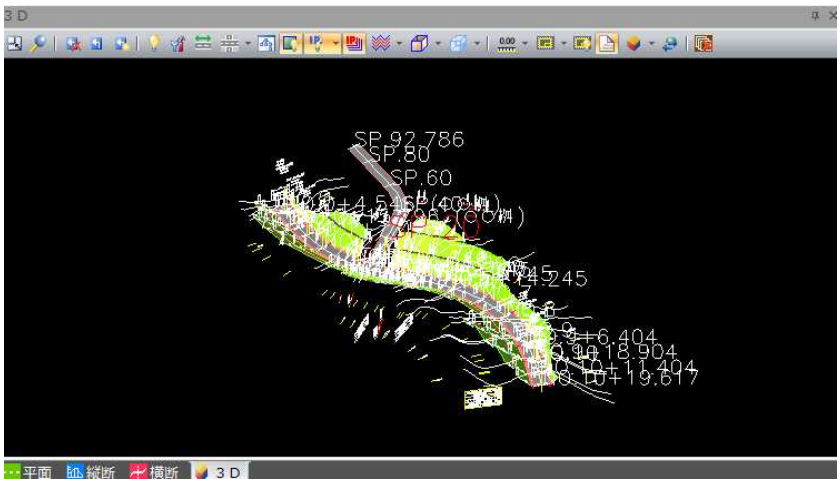
ベース図の表示

プレビューメニューから[表示：ベース図]をクリックすることにより、ベース図表示のオン・オフを切り替えることができます。初期状態は、オフです。

▼ ベース図表示オフ



▼ ベース図表示オン



ベース図の管理

プレビューメニューから[表示：ベース図(管理)]を選択すると、「ベース図管理」ダイアログボックスが表示されます。

左側のツリー表示には横断セットが表示されますので、チェックマークによりベース表示のオン・オフを選択します。
右側の一覧内にはレイヤが表示されますので、横断セットごとにレイヤの表示のオン・オフを指定することができます。

[全選択]／[全解除]

ツリー表示内のすべてのチェックマークをオン、またはオフにします。

一時適用

[一時適用]をクリックすると、「ベース図管理」ダイアログボックスを開いたまま、現在の設定内容を「３D」ビューに適用します。

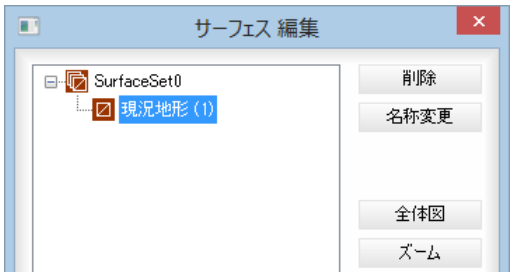
「ベース図管理」ダイアログボックスで[OK]をクリックすると、「３D」ビューに戻ります。

21 各種ファイル形式に出力する

以降の操作は、アプリケーションメニュー内の[３Ｄビューファイル出力]の各種ファイル出力と同様です。**⇒参照ページへ**

22 Surface 編集（ ）

プレビューメニューから[Surface 編集]を選択すると、「サーフェス編集」ダイアログボックスが表示されます。



削除

[削除]をクリックすると、現在選択中の Surface が削除されます。

名前変更

[名前変更]をクリックすると、「名称」ダイアログボックスが表示されます。

名称を変更し、[OK]をクリックすると、名前が変更され、「サーフェス編集」ダイアログボックスに戻ります。

全体図

[全体図]をクリックすると、プレビューウィンドウ内の全ての Surface を表示します。

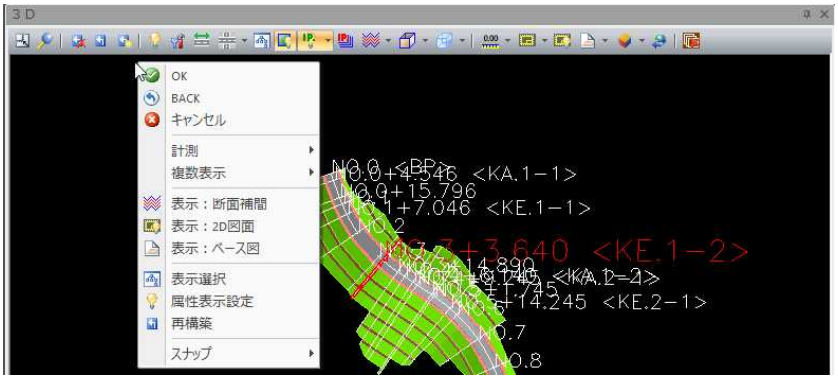
ズーム

[ズーム]をクリックすると、現在選択中の Surface をプレビューウィンドウ内の中央に表示します。

[OK]をクリックすると「サーフェス編集」ダイアログボックスの表示を終了します。

23 ポップアップメニュー

プレビューウィンドウ内で右ボタンをクリックすると、ポップアップメニューが表示され、各種の処理を行うことができます。



→ **OK**
作業を確定します。

→ **Back**
ひとつ前の作業に戻します。

→ **キャンセル**
処理実行前に戻します。
ガイド線やガイド点の設定・解除を行います。

→ **計測**
座標、２点間距離の各種計測処理を行います。

→ **複数表示**
すべて、カレント横断セット上にある全構築形状、カレントの構築形状の各種複数表示処理を行います。

→ **表示：断面補間**
断面補間のオン・オフを切り替えます。

→ **表示：2D 図面**
参照図面（平面属性）を 3D ビューに配置・管理を行います。

→ **表示：ベース図**
ベース図表示のオン・オフを切り替えます。

→ **表示選択**
各横断セットの表示設定を行います。

→ **属性表示設定**
属性表示の設定を行います。

→ **再構築**
3D 図形を再構築します。

→ **スナップ**
スナップの各種処理を行います。

8 図面編集

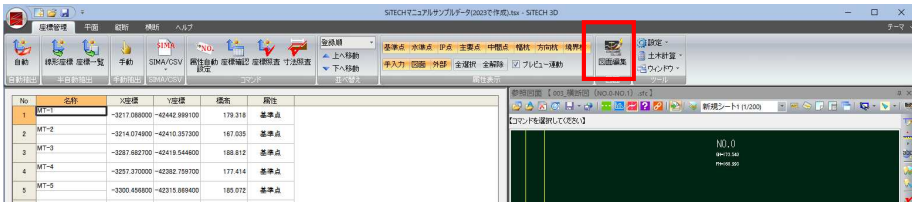
図面編集処理への移行を行います。

座標管理 平面 縦断 横断 [図面]－[図面編集]

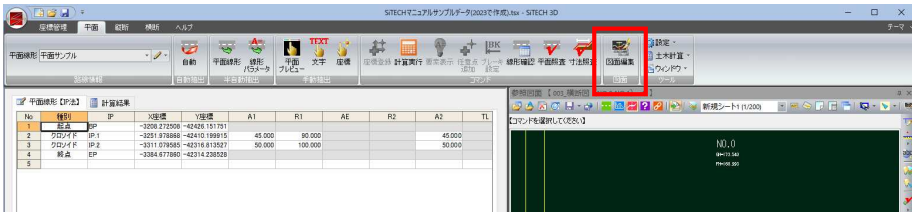
図面編集処理を行う

各メニューで[図面]－[図面編集]をクリックしすると、カレントの図面の「図面編集」ウィンドウが表示されます。

▼座標管理メニュー

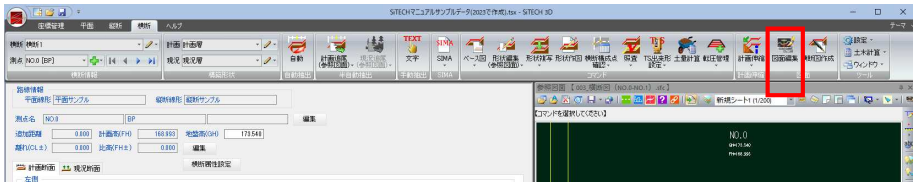


▼平面メニュー



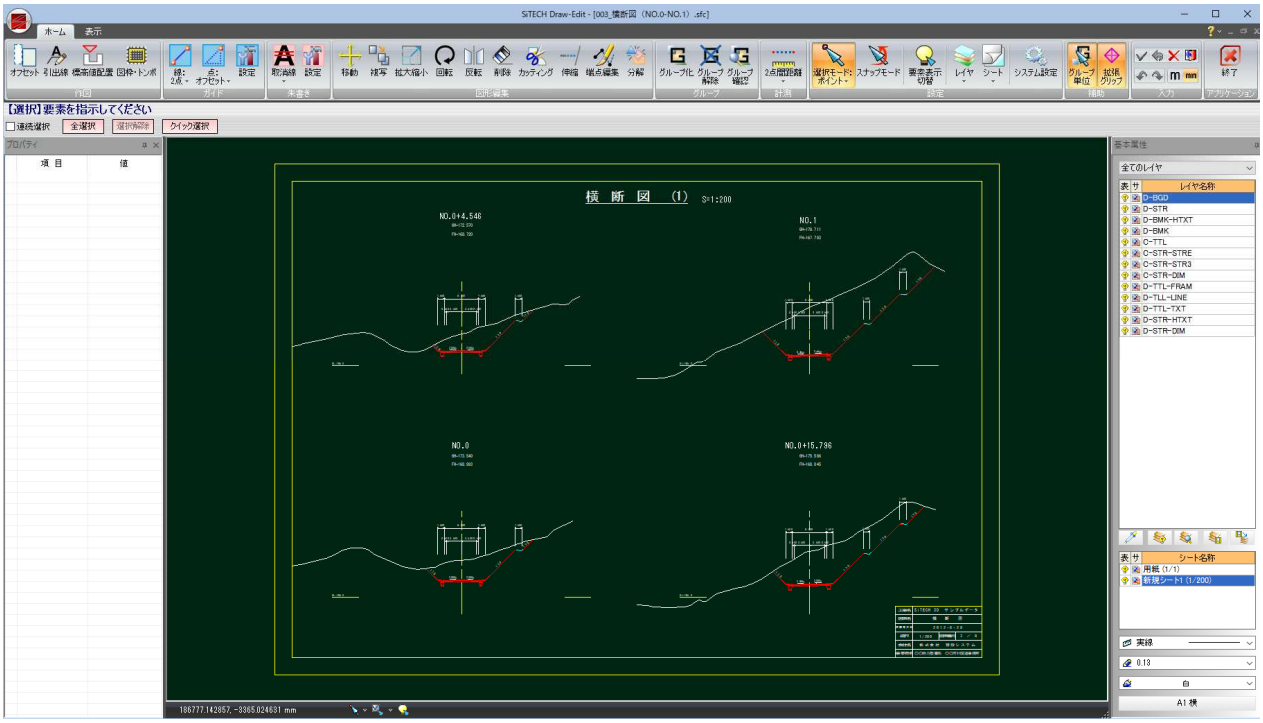
▼縦断メニュー

▼横断メニュー



● 図面編集の起動

1 各メニューで[コマンド]－[図面]－[図面編集]をクリックすると、「SiTECH Draw-Edit」ウィンドウが表示されます。

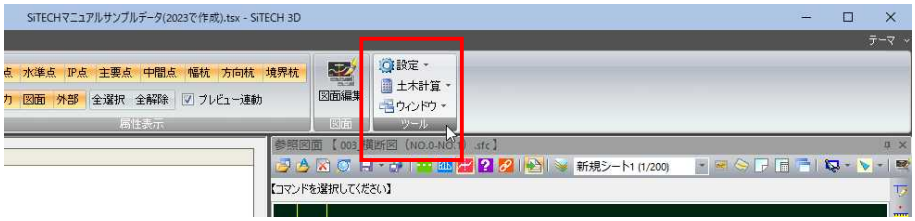


各種の編集処理を行います。

SiTECH Draw-Edit の操作方法は、別冊『SiTECH Draw-Edit 操作説明書』で説明しています。

9 ツール

各種丸め、システムの各種設定、ウィンドウの表示切り替え、土木計算を行います。
座標管理メニューのみ、座標の名称入力時に自動的に作成される測点名形式の設定を行います。



各メニュー －[ツール]－[設定]－[丸め設定]

各種丸めの設定を行う

● 丸め設定の操作方法

1 各メニューで[ツール]－[設定]－[丸め設定]をクリックすると、「丸め設定」ダイアログボックスが表示されます。

ドロップダウンリストより、項目の丸め桁数や丸め方法を選択します。
丸め方法には、以下の種類があります。
４捨５入、５捨５入、切り捨て、切り上げ。

[初期化]をクリックすると、丸め設定を初期状態に戻します。

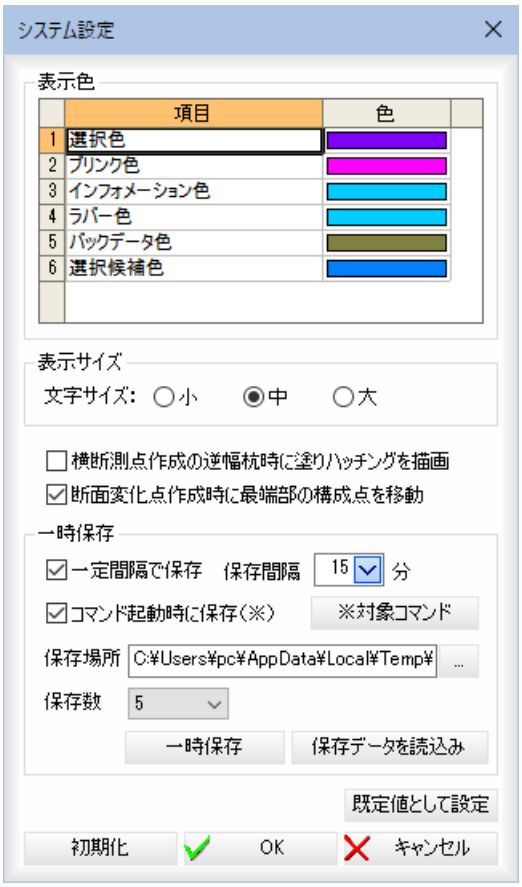
2 [OK]をクリックすると、システム画面に戻ります。

各メニュー －[ツール]－[設定]－[システム設定]

システムの各種設定を行う

● システム設定の操作方法

1 各メニューで[ツール]－[設定]－[システム設定]をクリックすると、「システム設定」ダイアログボックスが表示されます。



2 **表示色の設定**

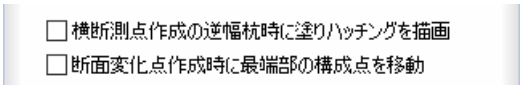
各項目の表示色を選択します。

「色」欄でダブルクリックすると、「色の設定」ダイアログボックスが表示されます。

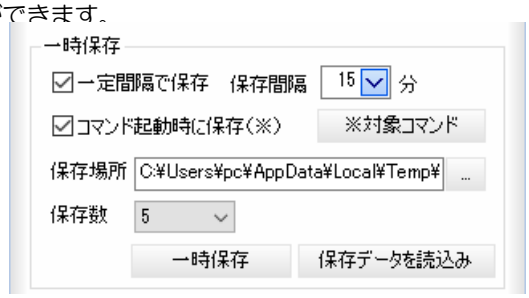
色を選択し、[OK]をクリックすると「システム設定」ダイアログボックスに戻ります。

文字サイズの設定
各種のプレビュー画面内の文字列の大きさを選択します。
「小」、「中」、「大」のいずれかのラジオボタンをクリックして選択します。

3 **横断測点作成の逆幅杭時に塗りハッチングを描画、**
断面変化点作成時に最端部の構成点を移動
「横断測点作成の逆幅杭時に塗りハッチングを描画」チェックマークをオンにすると、横断測点作成の逆幅杭時に塗りハッチングを描画します。
「断面変化点作成時に最端部の構成点を移動」チェックマークをオンにすると、断面変化点作成コマンドの完了時に最端部調整確認のメッセージを表示します。



4 **自動保存の設定**
自動保存に設定しておくことによって、システムダウンした場合も自動保存時の状態に戻すことができます。



一定間隔で保存
「一定間隔で保存」チェックマークをクリックすると、指定した保存場所に指定した保存間隔で自動保存を行います。
「保存間隔」は、ドロップダウンリストより、いずれかの間隔を選択または、任意の間隔を入力します。

コマンド起動時に保存(※)
「コマンド起動時に保存(※)」チェックマークをオンにすると、特定のコマンドを実行した際に自動保存を行います。初期値はオンです。
[※対象コマンド]をクリックすると、対象となるコマンドの一覧が表示されます。

保存場所の指定
「保存場所」欄内には、保存先のパスを入力します。
保存数
ドロップダウンリストより保存数を選択します。超えた場合、古いものから破棄されます。

一時保存
[一時保存]をクリックすると、確認メッセージが表示されます。[OK]をクリックすると、自動保存を実行します。

保存データを読込み
[保存データを読込み]をクリックすると、確認メッセージが表示されます。[OK]をクリックすると、保存された自動保存データの一覧が表示され、選択した保存データを読込みます。

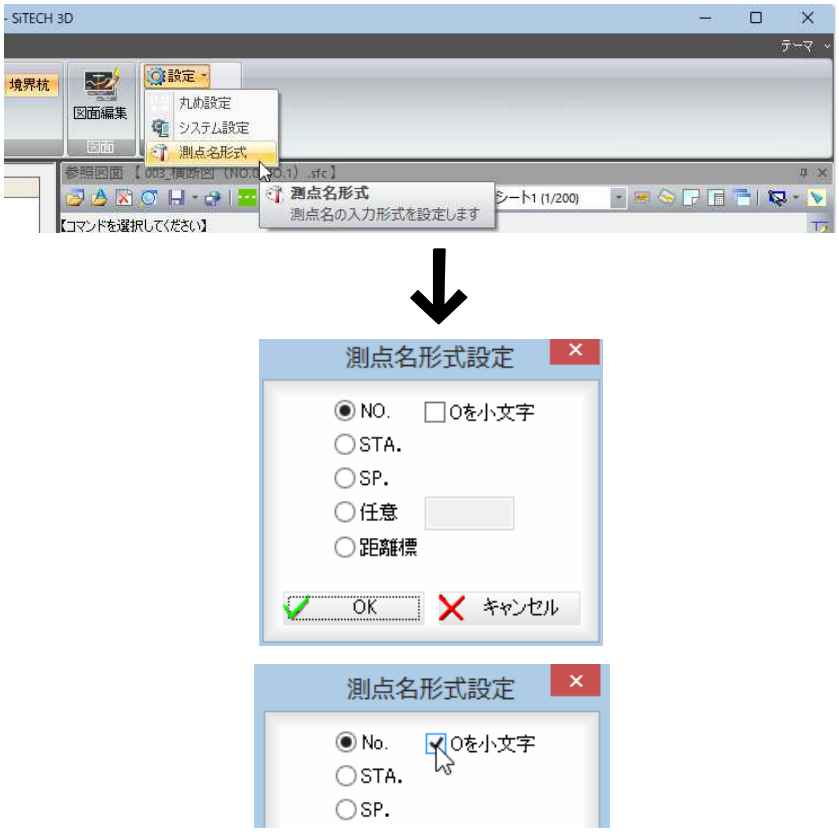
5 [初期化]をクリックすると、各種の設定を初期状態に戻します。
[OK]をクリックすると、システム画面に戻ります。

座標管理 －[ツール]－[設定]－[測点名形式]（座標管理メニューのみ）

測点名形式の設定を行う

● 測点名形式の操作方法

1 座標管理メニューで[ツール]－[設定]－[測点名形式]をクリックすると、「測点名形式設定」ダイアログボックスが表示されます。



各種の測点名の形式を、ラジオボタンをクリックして選択します。
「NO.」を選択し、「O を小文字」チェックマークをオンにすると、「No.」になります。

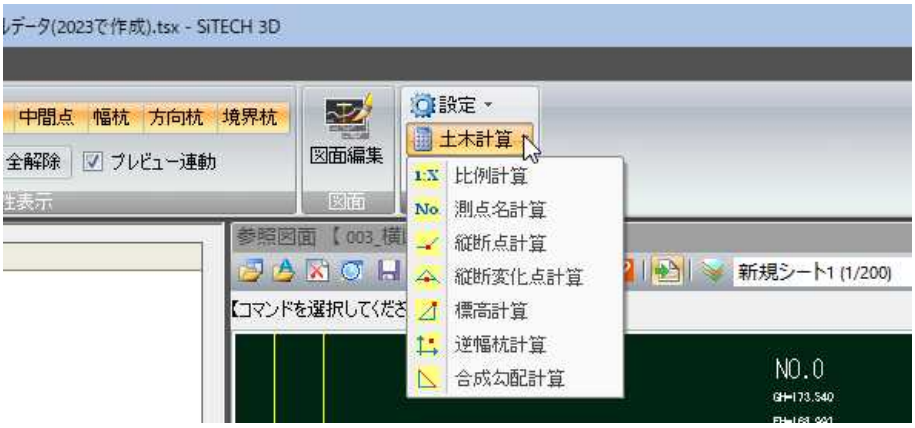
「任意」を選択した場合は、入力欄内に任意の文字列を入力します。

2 [OK]をクリックすると、システム画面に戻ります。

各メニュー －[ツール]－[土木計算]

各種の土木計算を行う

比例計算、測点名計算、縦断点計算、縦断変化点計算、標高計算、逆幅杭計算、合成勾配計算を行います。[土木計算]のプルダウンメニューからいずれかの計算方法を選択します。



● 比例計算

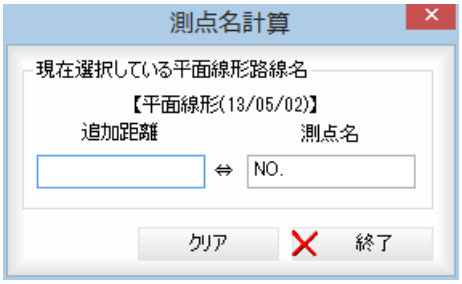
1 各メニューで[ツール]－[土木計算]－[比例計算]をクリックすると、「比例計算」ダイアログボックスが表示されます。

いずれかのラジオボタンをクリックして、計算する位置を選択します。
各欄に数値を入力し、[計算]をクリックすると、計算値に計算結果が表示されます。[クリア]をクリックすると、計算値をクリアします。

2 [終了]をクリックすると、計算モードを終了し、ダイアログボックスを閉じます。

● 測点名計算

1 各メニューで[ツール]－[土木計算]－[測点名計算]をクリックすると、「測点名計算」ダイアログボックスが表示されます。



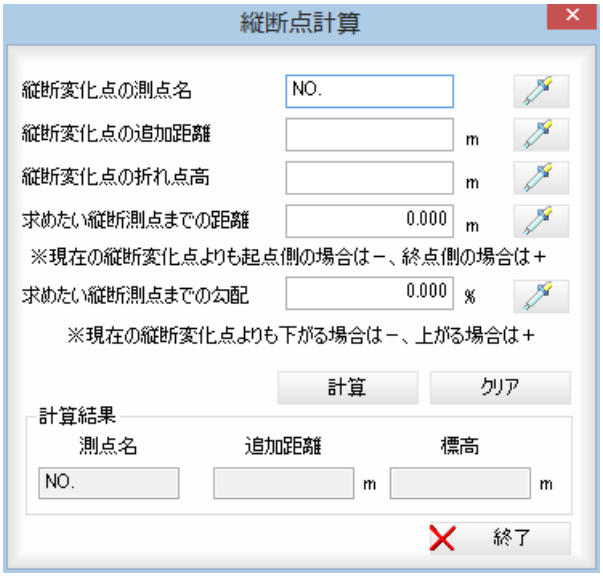
「追加距離」欄に数値または式(加算と減算のみ)を入力すると、「測点名」欄内に追加距離から計算した測点名が表示されます。
また、「測点名」欄に測点名を入力することで、「追加距離」欄内に測点名から計算した追加距離が表示されます。

[クリア]をクリックすると、計算値をクリアします。

2 [終了]をクリックすると、計算モードを終了し、ダイアログボックスを閉じます。

● 縦断点計算

1 各メニューで[ツール]－[土木計算]－[縦断点計算]をクリックすると、「縦断点計算」ダイアログボックスが表示されます。



各入力欄内に、測点名や距離、高さ、勾配などを入力します。
「求めたい縦断測点までの距離」は、現在の縦断変化点よりも起点側の場合は「－」、終点側の場合は、「＋」を入力します。
「求めたい縦断測点までの勾配」は、現在の縦断変化点よりも下がる場合は「－」、上がる場合は、「＋」を入力します。

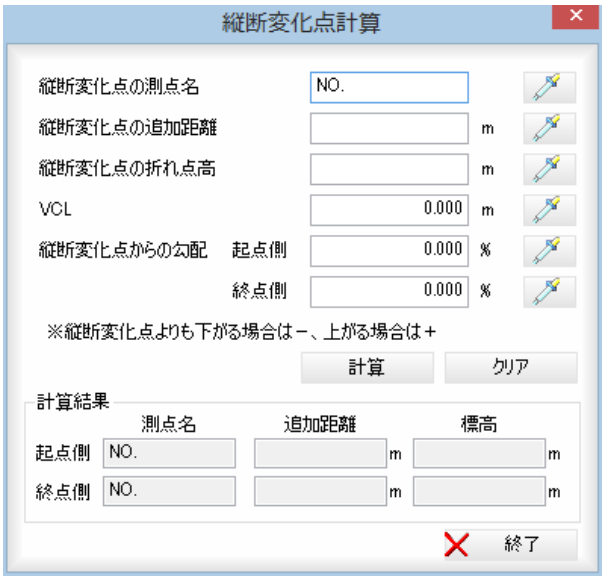
各入力欄の (スポイトボタン)をクリックすると、参照図面内の文字抽出モードとなりますので、いずれかの文字列、数値をクリックします。各入力欄内に文字列、数値が表示されます。
参照図面が開かれていない場合は、[スポイト機能]は使用できません。

[計算]をクリックすると、計算結果が表示されます。
[クリア]をクリックすると、計算結果をクリアします。

2 [終了]をクリックすると、計算モードを終了し、ダイアログボックスを閉じます。

● 縦断変化点計算

1 各メニューで[ツール]－[土木計算]－[縦断変化点計算]をクリックすると、「縦断変化点計算」ダイアログボックスが表示されます。



各入力欄内に、測点名や追加距離、高さ、勾配(起点側、終点側)などを入力します。
「縦断変化点からの勾配」は、縦断変化点よりも下がる場合は「－」、上がる場合は、「＋」を入力します。

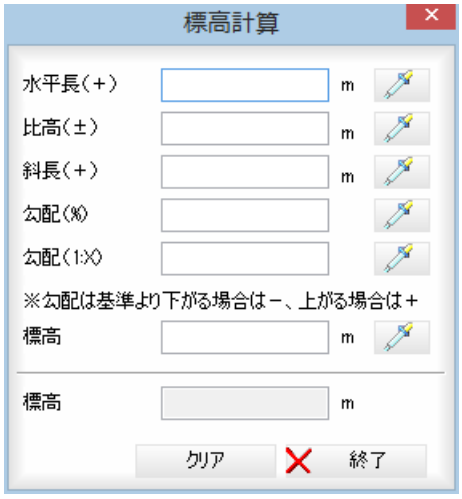
各入力欄の (スポイトボタン)をクリックすると、参照図面内の文字抽出モードとなりますので、いずれかの文字列、数値をクリックします。各入力欄内に文字列、数値が表示されます。
参照図面が開かれていない場合は、[スポイト機能]は使用できません。

[計算]をクリックすると、計算結果が表示されます。
[クリア]をクリックすると、計算結果をクリアします。

2 [終了]をクリックすると、計算モードを終了し、ダイアログボックスを閉じます。

● 標高計算

1 各メニューで[ツール]－[土木計算]－[標高計算]をクリックすると、「標高計算」ダイアログボックスが表示されます。



各入力欄内に、水平長、比高、斜長、勾配(%、1:X)、標高を入力します。
「勾配」は、基準よりも下がる場合は「－」、上がる場合は、「＋」を入力します。

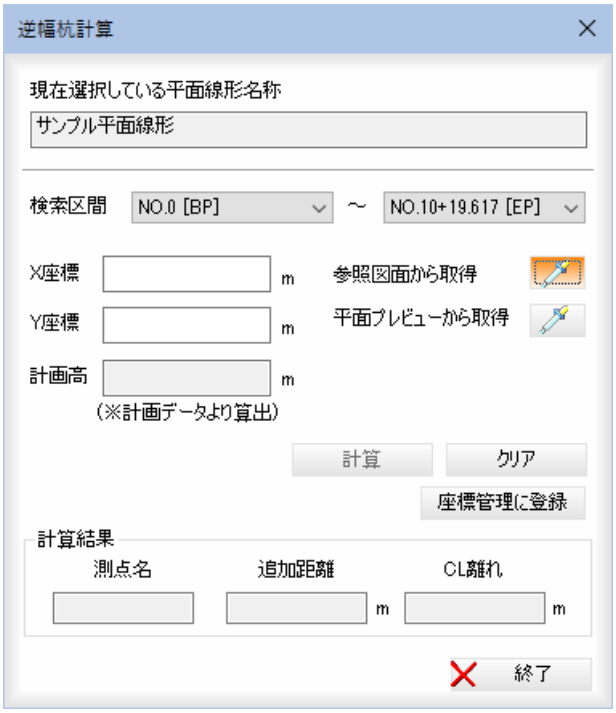
各入力欄の (スポイトボタン)をクリックすると、参照図面内の文字抽出モードとなりますので、いずれかの数値をクリックします。各入力欄内に数値が表示されます。
参照図面が開かれていない場合は、[スポイト機能]は使用できません。

各欄に数値を入力すると、「標高」欄内に計算した標高が表示されます。
[クリア]をクリックすると、計算結果をクリアします。

2 [終了]をクリックすると、計算モードを終了し、ダイアログボックスを閉じます。

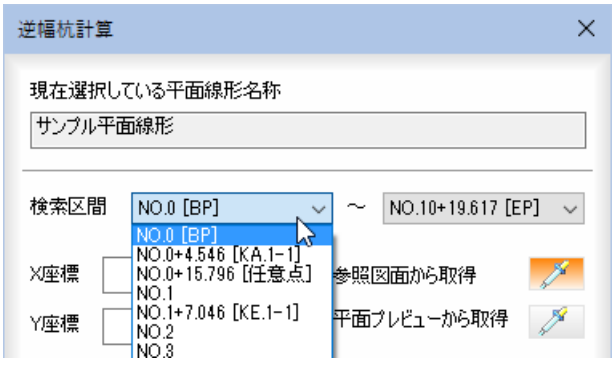
● 逆幅杭計算

1 各メニューで[ツール]－[土木計算]－[逆幅杭計算]をクリックすると、「逆幅杭計算」ダイアログボックスが表示されます。



現在選択している平面線形路線名が表示されます。

検索区間の選択
検索区間をそれぞれドロップダウンリストより選択します。

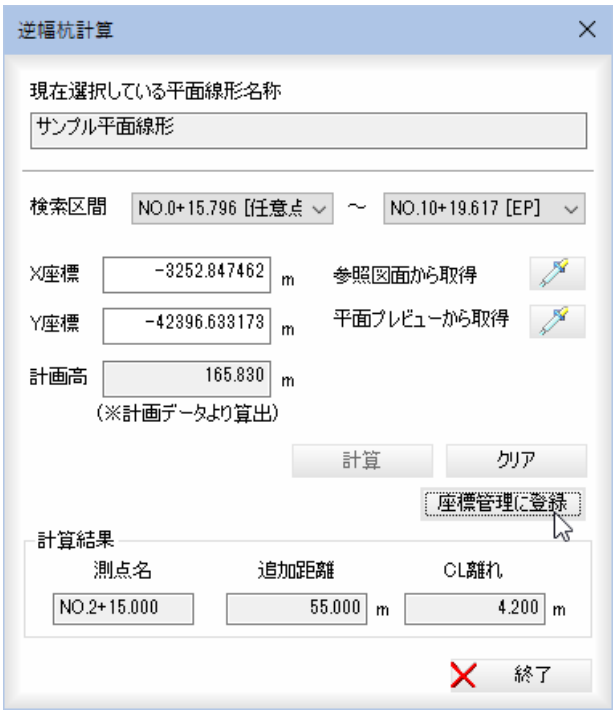


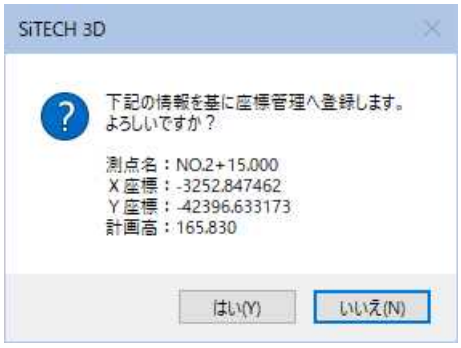
X 座標、Y 座標、計算高(計画データより算出)の各入力欄内に、座標を入力します。

「参照図面から取得」の (スポイトボタン)をクリックすると、参照図面が平面図に切り替わり、座標抽出モードになります。
参照図面上をクリックすると、クリックした点と平面線形が直交した点が検索区間内の点であれば、X・Y 座標と計算結果が表示されます。
なお、参照図面が読み込まれていない場合は、[スポイト機能]は使用できません。
「平面プレビューから取得」の　　(スポイトボタン)をクリックすると、平面プレビューに切り替わり、座標抽出モードになります。
平面プレビュー上をクリックすると、クリックした点と平面線形が直交した点が検索区間内の点であれば、X・Y 座標と計算結果が表示されます。

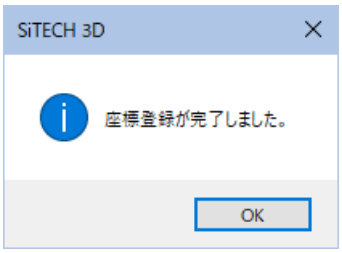
計算・クリア
[計算]をクリックすると、計算結果が表示されます。
[クリア]をクリックすると、検索区間、X 座標、Y 座標、計算結果をクリアします。

座標管理に登録
「測点名」「X 座標」「Y 座標」「計画高」の情報により座標管理に「方向杭」として登録されます。
計算を実行し、[座標管理に登録]をクリックすると、確認メッセージが表示されます。





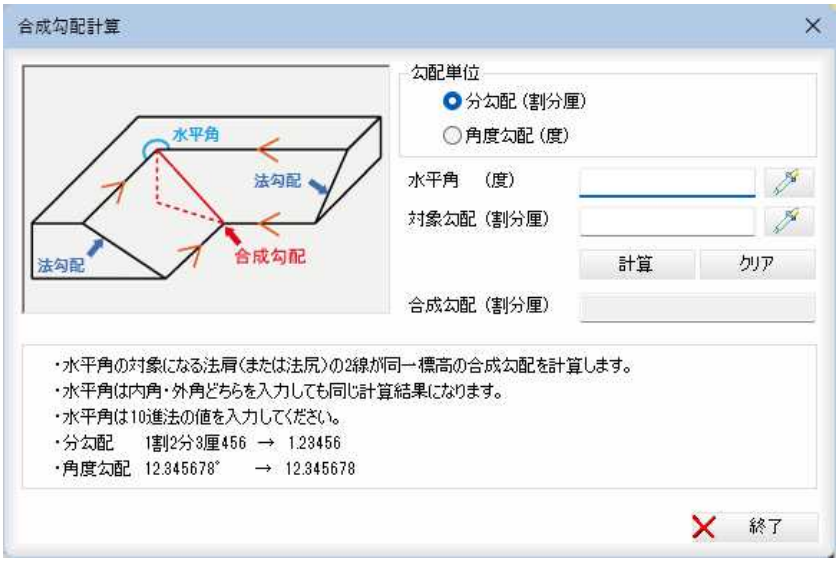
[はい]をクリックすると、登録完了のメッセージが表示され、「逆幅杭計算」ダイアログボックスに戻ります。



2 「逆幅杭計算」ダイアログボックスで[終了]をクリックすると、計算モードを終了し、ダイアログボックスを閉じます。

● 合成勾配計算

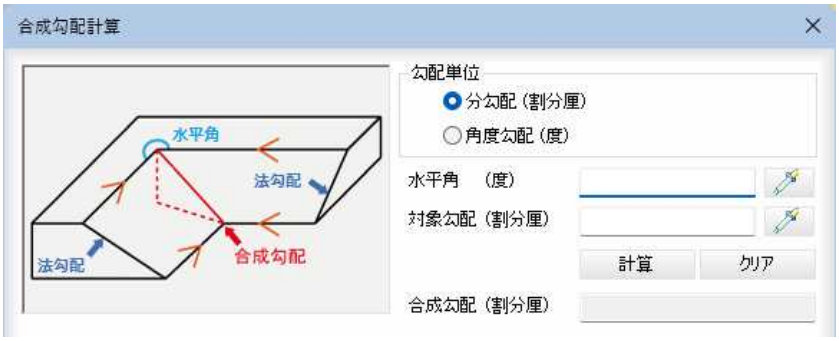
1 各メニューで[ツール]－[土木計算]－[合成勾配計算]をクリックすると、「合成勾配計算」ダイアログボックスが表示されます。
各入力欄の (スポイトボタン)をクリックすると、図面内の文字抽出モードとなりますので、いずれかの数値をクリックします。
ダイアログボックスの下側には、合成勾配計算についての注意事項が記述されています。



勾配単位の選択
勾配単位を「分勾配(割分厘)」、「角度勾配」のいずれかのラジオボタンをクリックして選択します。

以下、単位「分勾配(割分厘)」、「角度勾配」の合成勾配計算について説明します。

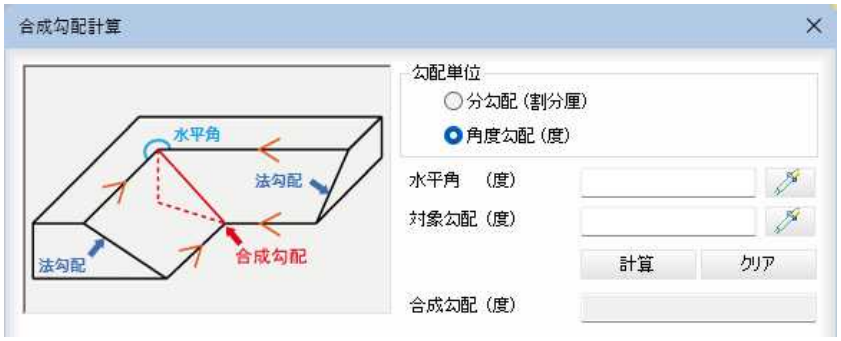
■単位が「分勾配(割分厘)」の合成勾配計算



水平角(度)、対象勾配(割分厘)の入力
「水平角(度)」入力欄内に角度を入力し、「対象勾配(割分厘)」入力欄内には対象勾配の割分厘を入力します。

計算・クリア
[計算]をクリックすると、「合成勾配(割分厘)」欄内に計算結果が表示されます。
[クリア]をクリックすると、計算結果をクリアします。

■単位が「角度勾配(度)」の合成勾配計算



水平角(度)、対象勾配(割分厘)の入力
「水平角(度)」、「対象勾配(度)」入力欄内に角度を入力します。

計算・クリア
[計算]をクリックすると、「合成勾配(度)」欄内に計算結果が表示されます。
[クリア]をクリックすると、計算結果をクリアします。

2 [終了]をクリックすると、計算モードを終了し、ダイアログボックスを閉じます。

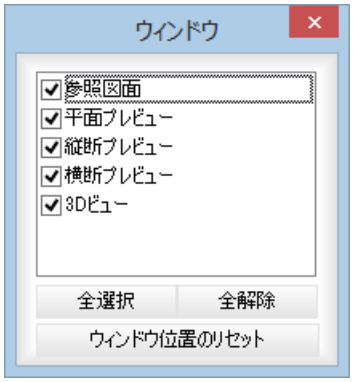
各メニュー －[ツール]－[ウィンドウ]

各種ウィンドウの表示／非表示を切り替える

● ウィンドウの操作方法

1 「ウィンドウ」ダイアログボックスで切り替える

各メニューで[ツール]－[ウィンドウ]をクリックすると、「ウィンドウ」ダイアログボックスが表示されます。



各種ウィンドウの表示／非表示をチェックマークのオン／オフにより選択します。

[全選択]／[全解除]

表示中の画面すべてのチェックマークをオン、またはオフにします。

[ウィンドウ位置のリセット]

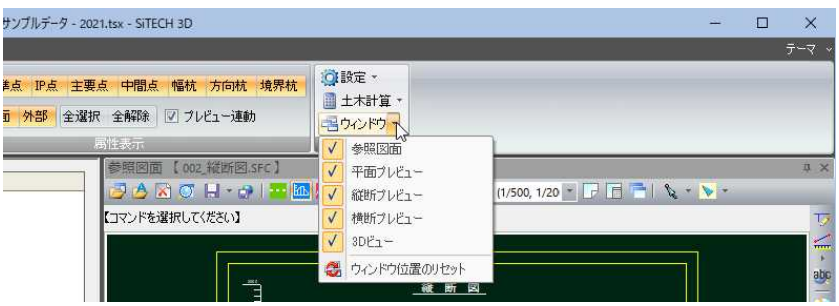
[ウィンドウ位置のリセット]をクリックすると、確認メッセージが表示されます。

[はい]をクリックすると、次回起動時に各種ウィンドウの位置をリセットします。

2 「ウィンドウ」ダイアログボックスの[×]をクリックすると、システム画面に戻ります。

3 ドロップダウンリストで切り替える

[ウィンドウ]のドロップダウンリストからチェックマークのオン／オフを変更することでも、各種ウィンドウの表示／非表示を切り替えることができます。



10 ヘルプメニュー

[ヘルプ]タブをクリックすると、ヘルプメニューが表示されます。
各種のヘルプ関連コマンドが表示されますのでいずれかをクリックし選択します。

ヘルプメニューから開くコマンドは以下の通りです。

ヘルプ
よくあるご質問
リモートサポート
バージョン情報
マイページ
認証管理
自動アップデート

ヘルプ

ヘルプウィンドウの各種ボタン

1 [ヘルプ]タブをクリックすると、システム画面の左側の表示が切り替わります。

ヘルプタブ内の各アイコンをクリックすると、それぞれの処理が実行されます。

また、ヘルプページ内の以下のボタンをクリックすると、それぞれの処理が実行されます。

バージョンアップ情報

バージョンアップで搭載した新機能を動画でご覧いただけます。

よくあるご質問(FAQ)

よくあるご質問(FAQ)を動画でご覧いただけます。

活用動画

基本操作をサンプルデータを使ってわかりやすく学習できます。

PDF ファイル

SiTECH のマニュアルをダウンロードできます。

以下、ヘルプタブ内の各コマンドについて説明します。

ヘルプ －[ヘルプ]

ヘルプの表示

1 [ヘルプ]タブをクリックし、[ヘルプ]をクリックすると、「SiTECH 3D 2026 ヘルプ」が起動します。

ヘルプ －[よくあるご質問]

「よくあるご質問」ページの表示

1 [ヘルプ]タブをクリックし、[よくあるご質問]または、[よくあるご質問(FAQ)]をクリックするとブラウザが起動し、関連ページが表示されます。

ヘルプ －[リモートサポート]

リモートサポートソフトを起動する

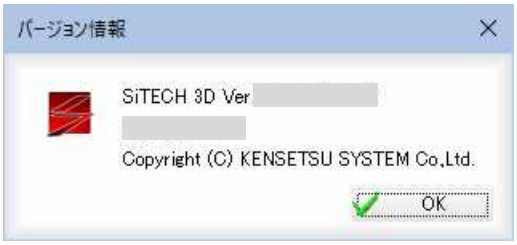
1 [ヘルプ]タブをクリックし、[リモートサポート]をクリックすると「リモートサポートに関する利用規約」ダイアログボックスが表示されます。
[同意して TeamViewer を起動する]をクリックすると、リモートサポートプログラムが起動します。

2 以降、表示されるメッセージに従って、リモートサポート処理を行います。
なお、既にリモートサポート実行中は使用できません。

ヘルプ －[バージョン情報]

システムのバージョン情報を表示する

1 [ヘルプ]タブをクリックし、[バージョン情報]をクリックすると「バージョン情報」ウィンドウが開きます。



2 [OK]をクリックすると、表示を終了します。

ヘルプ －[マイページ]

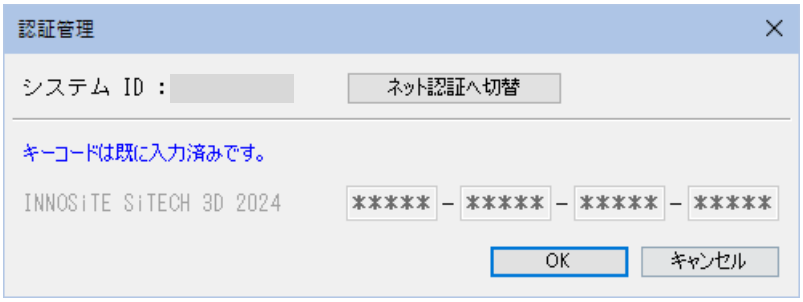
「マイページ」の表示

1 [ヘルプ]タブをクリックし、[マイページ]をクリックするとブラウザが起動し、関連ページが表示されます。

ヘルプ －[認証管理]

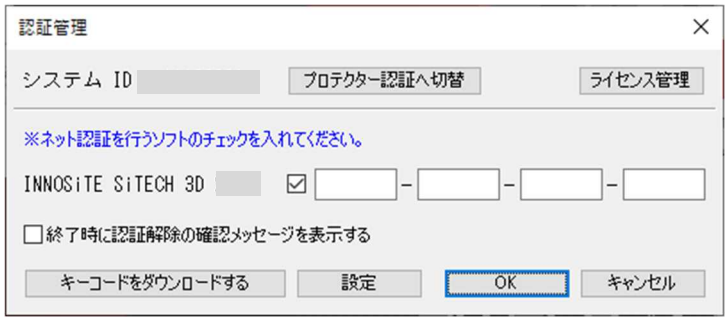
認証管理を行う

1 [ヘルプ]タブをクリックし、[認証管理]をクリックすると「認証管理」ダイアログボックスが表示されます。

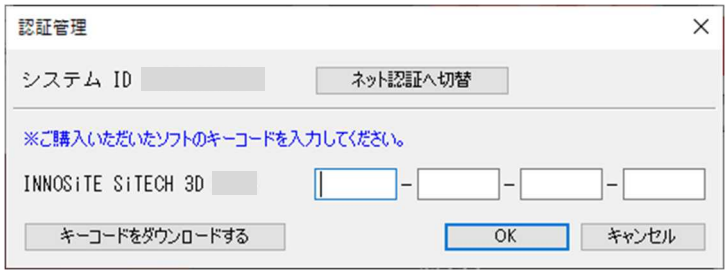


2 [ネット認証へ切替]または[USB 認証へ切替]をクリックすると、一度認証を初期化しアプリケーションを終了します。次回起動時には、認証方法の変更を行うダイアログが表示されますので、再度認証処理を行ってください。

▼[ネット認証へ切替]の場合



▼[USB 認証へ切替]の場合



ヘルプ－[自動アップデート]

アプリケーションの自動アップデート

1 [ヘルプ]タブをクリックし、[自動アップデート]をクリックすると、以下のサブメニューが表示されます。

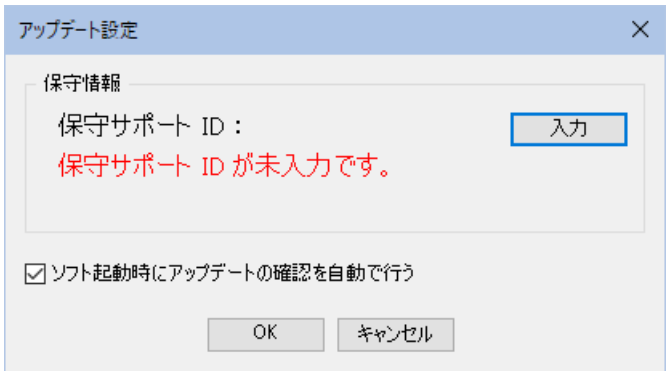
以下、それぞれについて説明します。

●今すぐ確認（自動アップデート）

1 ヘルプタブで[自動アップデート]－[今すぐ確認]をクリックすると、最新バージョンへのアップデートが実行可能か確認します。

●アップデート設定（自動アップデート）

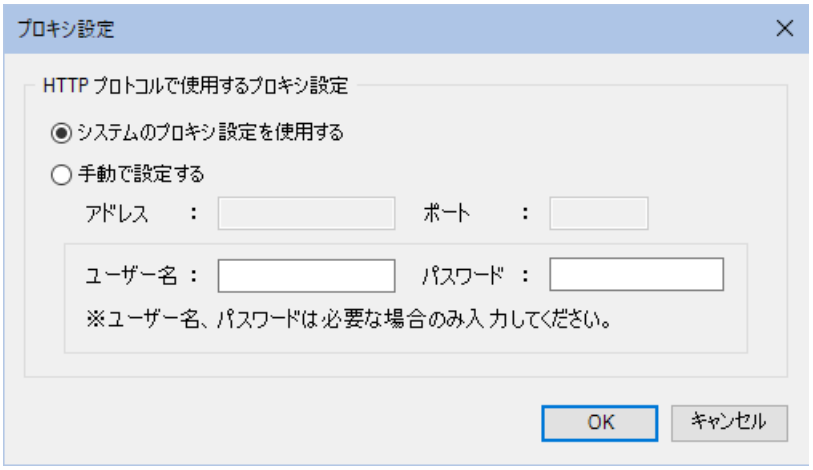
1 ヘルプタブで[自動アップデート]－[アップデート設定]をクリックすると、保守サポート ID を入力していない場合、以下の「アップデート設定」ダイアログボックスが表示されます。



[入力]をクリックすると、保守サポート ID 入力欄が表示されますので、入力して[OK]をクリックします。
「ソフト起動時にアップデートの確認を自動で行う」チェックマークをオンにすると、自動でアップデートの確認を行います。

●プロキシ設定（自動アップデート）

1 ヘルプタブで[自動アップデート]－[プロキシ設定]をクリックすると、「プロキシ設定」ダイアログボックスが表示されます。



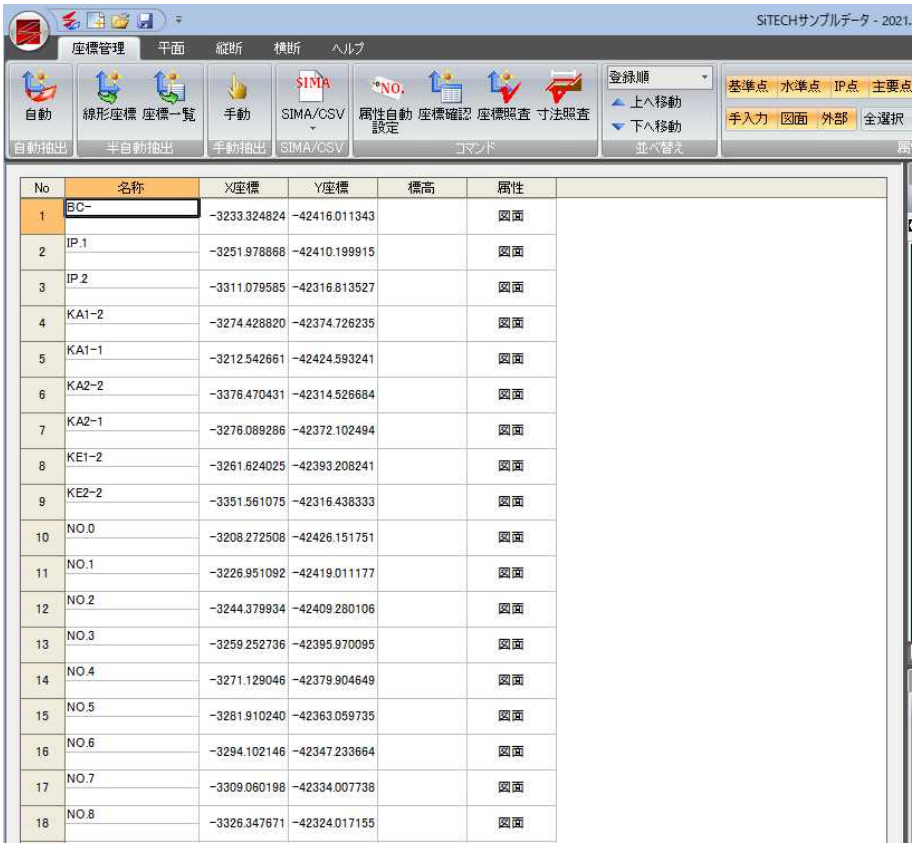
「システムのプロキシ設定を使用する」、「手動で設定する」のいずれかのラジオボタンをクリックして選択します。
「システムのプロキシ設定を使用する」を選択した場合は、必要に応じてユーザー名、パスワードをそれぞれ入力します。
「手動で設定する」を選択した場合は、アドレス、ポート、（必要に応じてユーザー名、パスワード）をそれぞれ入力します。

2 [OK]をクリックすると、処理を終了します。

Part 1 座標管理メニュー

1 座標入出力

各種の方法で座標を入力します。キーボードからの入力や、自動、半自動、手動の各種抽出、ファイルからの取込みによりデータを入力します。
座標 SIMA/CSV ファイルから座標データを取込む事ができます。既に入力されている座標を SIMA/CSV ファイルに保存することも可能です。

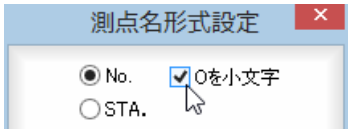


No	名称	X座標	Y座標	標高	属性
1	BC-	-3233.324824	-42416.011343		図面
2	IP.1	-3251.978868	-42410.199915		図面
3	IP.2	-3311.079585	-42316.813527		図面
4	KA1-2	-3274.428820	-42374.726235		図面
5	KA1-1	-3212.542661	-42424.593241		図面
6	KA2-2	-3376.470431	-42314.526684		図面
7	KA2-1	-3276.089286	-42372.102494		図面
8	KE1-2	-3261.624025	-42393.208241		図面
9	KE2-2	-3351.561075	-42316.438333		図面
10	NO.0	-3208.272508	-42426.151751		図面
11	NO.1	-3226.951092	-42419.011177		図面
12	NO.2	-3244.379934	-42409.280106		図面
13	NO.3	-3259.252736	-42395.970095		図面
14	NO.4	-3271.129046	-42379.904649		図面
15	NO.5	-3281.910240	-42363.059735		図面
16	NO.6	-3294.102146	-42347.233664		図面
17	NO.7	-3309.060198	-42334.007738		図面
18	NO.8	-3326.347671	-42324.017155		図面

＜共通操作＞ 測点名形式の設定

[ツール]－[設定]－[測点名形式]をクリックすると、「測点名形式設定」ダイアログボックスが表示されます。

各種の測点名の形式を、ラジオボタンをクリックして選択します。
「NO.」を選択し、「0 を小文字」チェックマークをオンにすると、「No.」になります。



「任意」を選択した場合は、入力欄内に任意の文字列を入力します。
[OK]をクリックするとシステム画面に戻ります。

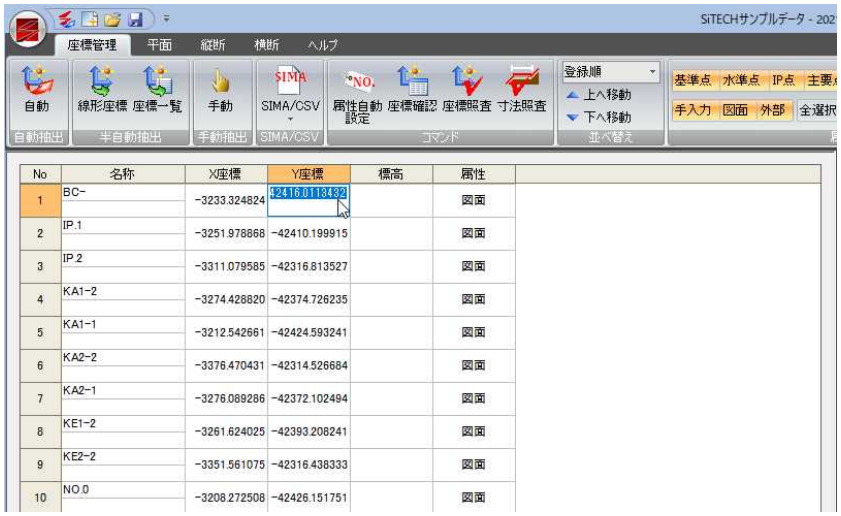
座標管理（座標一覧キー入力）

キーボードから座標入力する

キーボードから直接名称 1、名称 2、X 座標、Y 座標、標高、属性を入力します。
また、追加・挿入・削除処理を行うこともできます。

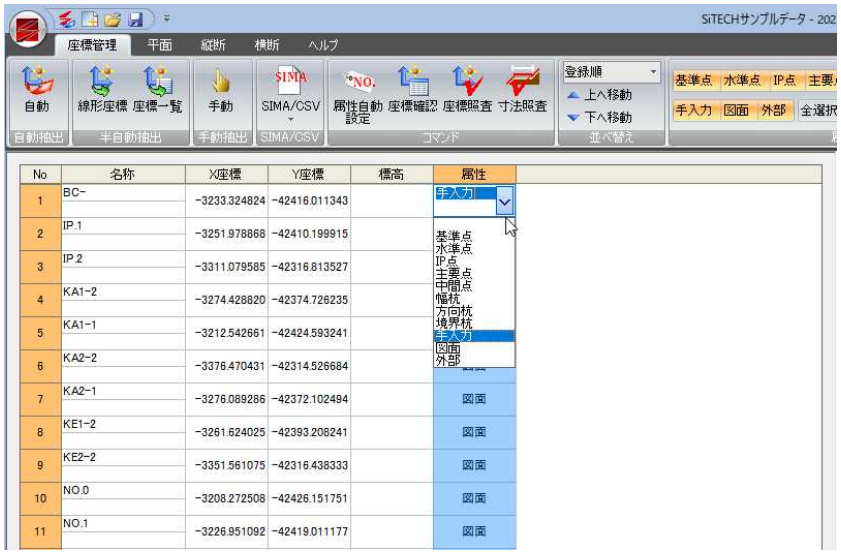
● キーボードから座標を入力する

1 座標一覧内の「名称」、「X座標」、「Y座標」、「標高」の入力欄内をクリックし、データを入力します。



No	名称	X座標	Y座標	標高	属性
1	BC-	-3233.324824	-42416.011343		図面
2	IP.1	-3251.978868	-42410.199915		図面
3	IP.2	-3311.079585	-42316.813527		図面
4	KA1-2	-3274.428820	-42374.726235		図面
5	KA1-1	-3212.542661	-42424.593241		図面
6	KA2-2	-3376.470431	-42314.526684		図面
7	KA2-1	-3276.089286	-42372.102494		図面
8	KE1-2	-3261.624025	-42393.208241		図面
9	KE2-2	-3351.561075	-42316.438333		図面
10	NO.0	-3208.272508	-42426.151751		図面

2 座標一覧内の「属性」欄内でマウスをクリックすると、ドロップダウンリストが表示されますので、いずれかをクリックして選択します。

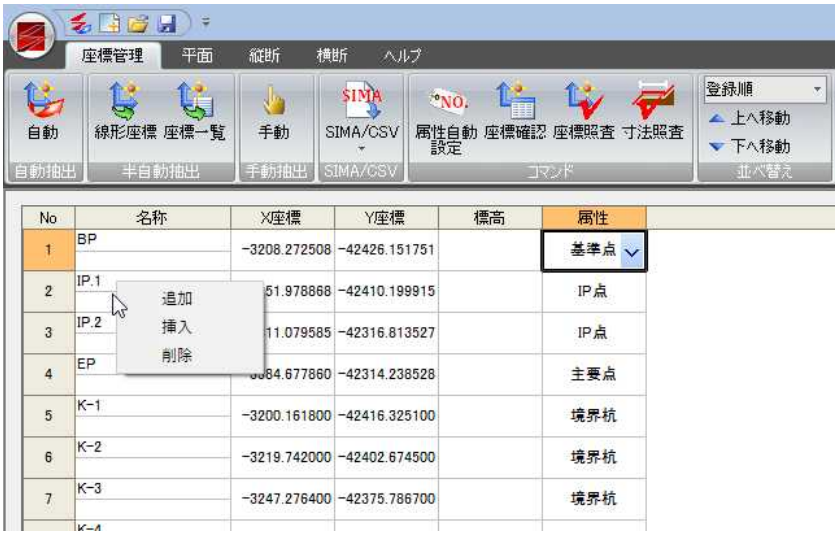


No	名称	X座標	Y座標	標高	属性
1	BC-	-3233.324824	-42416.011343		手入力
2	IP.1	-3251.978868	-42410.199915		
3	IP.2	-3311.079585	-42316.813527		
4	KA1-2	-3274.428820	-42374.726235		
5	KA1-1	-3212.542661	-42424.593241		
6	KA2-2	-3376.470431	-42314.526684		
7	KA2-1	-3276.089286	-42372.102494		図面
8	KE1-2	-3261.624025	-42393.208241		図面
9	KE2-2	-3351.561075	-42316.438333		図面
10	NO.0	-3208.272508	-42426.151751		図面
11	NO.1	-3226.951092	-42419.011177		図面

属性自動設定
座標管理メニューで[コマンド]－[属性自動設定]を実行すると、各座標の属性を名称から自動設定します。

● 座標一覧表示内のポップアップメニュー

1 座標一覧表示上でマウスの右ボタンクリックのポップアップメニューを表示し、各種の編集処理を行います。



[追加]　：末尾に選択している行数分、行を追加します。
[挿入]　：選択位置に、選択している行数分、行を挿入します。
[削除]　：選択している行を削除します。

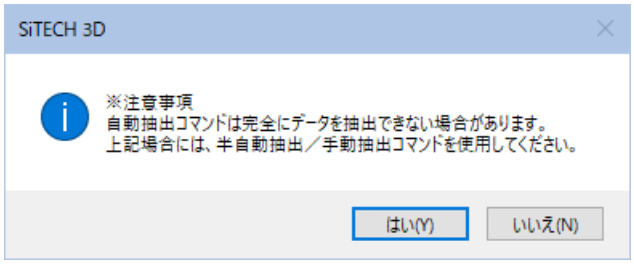
座標管理 －[自動抽出]－[自動]

参照図面の平面図から座標を自動抽出する

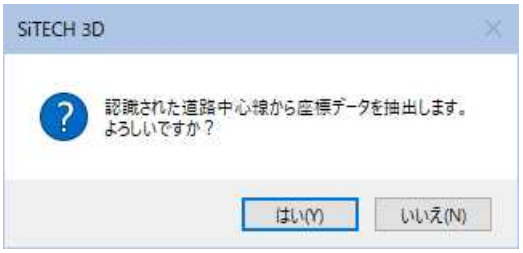
参照図面の平面図から座標を自動的に抽出します。

●自動抽出の操作方法

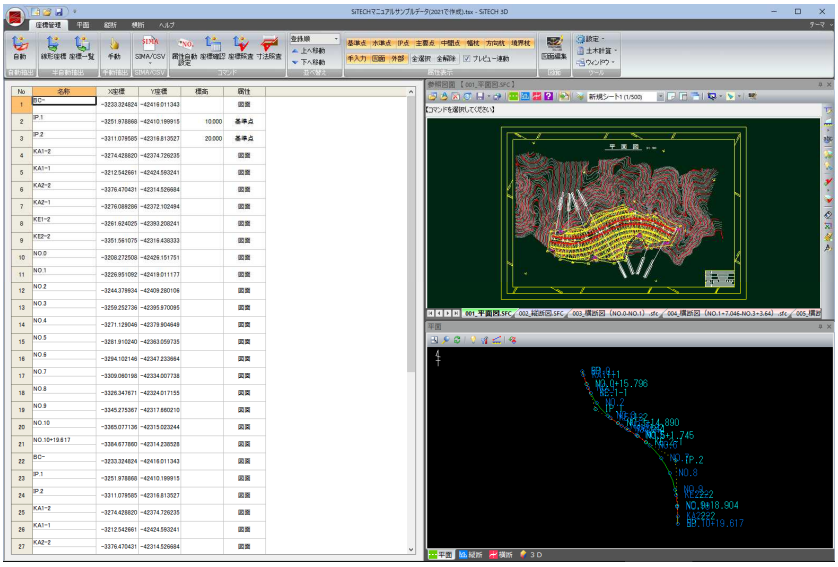
1 座標管理メニューで[自動抽出]－[自動]をクリックすると、以下のメッセージが表示されます。



2 [OK]をクリックすると、以下のメッセージが表示されます。



3 [はい]をクリックすると、自動抽出処理が行われます。



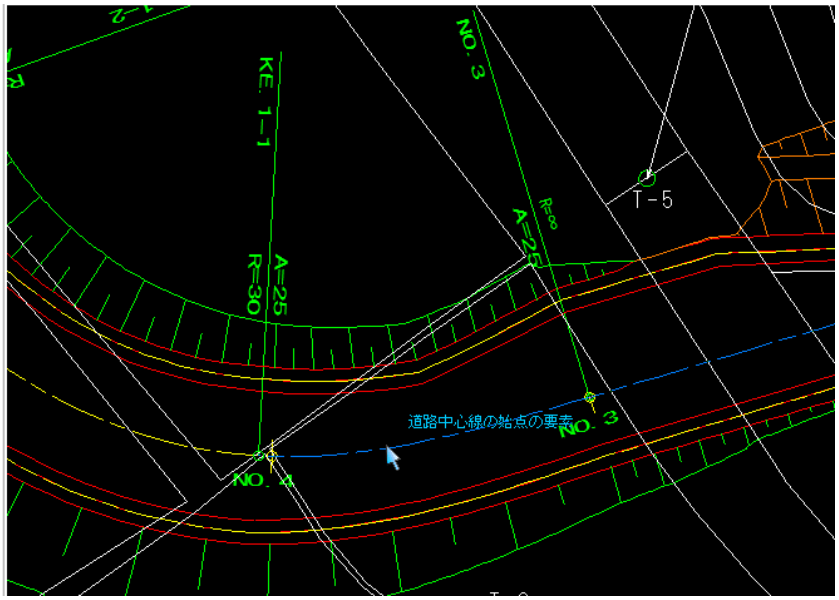
座標管理 －[半自動抽出]－[線形座標]

参照図面の平面図から道路中心線に使用されている座標を半自動抽出する

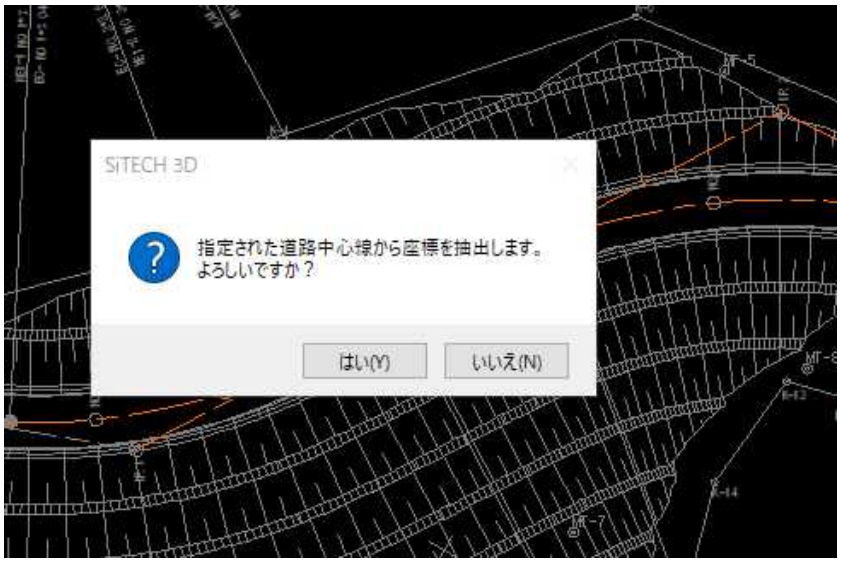
参照図面の平面図で道路中心線を指定して座標を抽出します。

● 半自動抽出－線形座標の操作方法

1 座標管理メニューで[半自動抽出]－[線形座標]をクリックすると、参照図面ウィンドウ内が始点要素指定モードとなります。



2 始点要素をクリックすると、次に終点要素指定モードとなります。
終点要素をクリックすると、以下のメッセージが表示されます。



3 2で[はい]をクリックすると、半自動抽出処理が行われます。

No	名称	X座標	Y座標	標高	属性
1	KA.1-2	112544.804884	-55916.594879		図面
2	KE.1-2	112565.211410	-55912.993298		図面
3	KE.1-1	112518.301537	-55896.852055		図面
4	NO.-1	112515.910961	-55812.268494		図面
5	NO.0	112515.910960	-55816.268496		図面
6	NO.1	112515.910960	-55836.268496		図面
7	NO.2	112515.910960	-55856.268496		図面
8	NO.3	112515.910959	-55876.268496		図面
9	NO.4	112518.028738	-55896.064665		図面
10	NO.5	112529.953077	-55911.660017		図面
11	NO.6	112548.968705	-55916.561949		図面
12	NO.7	112568.117811	-55912.124994		図面
13	KA.1-2	112544.804884	-55916.594879		図面
14	KE.1-2	112565.211410	-55912.993298		図面
15	KE.1-1	112518.301537	-55896.852055		図面
16	NO.-1	112515.910961	-55812.268494		図面
17	NO.0	112515.910960	-55816.268496		図面

4 同一測点名が存在する場合、「同一測点名の座標登録」ダイアログボックスが表示されます。

測点名、既存登録座標、新規登録座標の座標値が表示されます。
[上書き]、[書込まない]、[別の測点として追加書込み]のいずれかをクリックします。

上書き

[上書き]をクリックすると、新規登録座標で測点を登録します。

書込まない

[書込まない]をクリックすると、新規登録座標は登録しません。

別の測点として追加書込み

[別の測点として追加書込み]をクリックすると、別の測点として追加して書込みます。

「次回以降、同一の処理を行います」チェックマークをクリックすると、次回以降、同じ処理を行います。

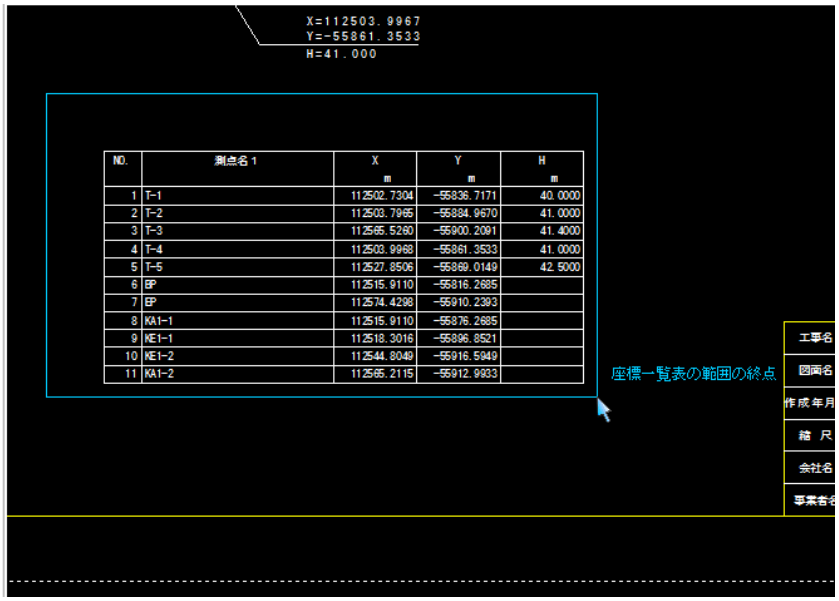
座標管理 －[半自動抽出]－[座標一覧]

参照図面の座標一覧表から座標を半自動抽出する

参照図面の座標一覧表から座標データを半自動抽出します。

● 半自動抽出－座標一覧の操作方法

1 座標管理メニューで[半自動抽出]－[座標一覧]をクリックすると、参照図面ウィンドウ内が座標一覧表の範囲の指定モードとなります。

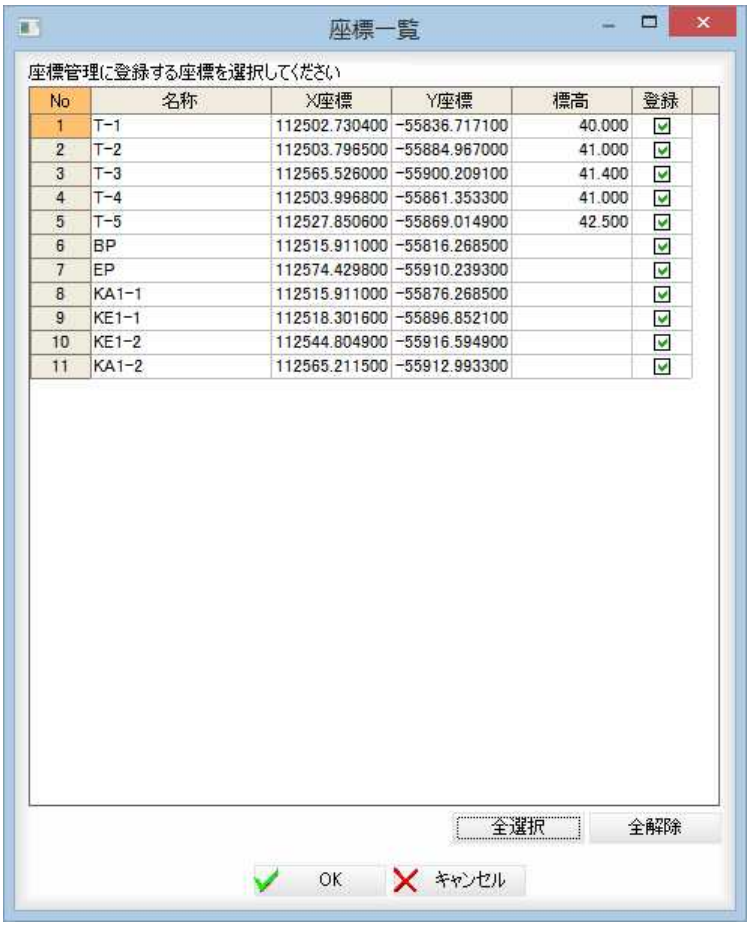


NO.	測点名1	X m	Y m	H m
1	T-1	112502.7304	-55836.7171	40.0000
2	T-2	112503.7965	-55884.9670	41.0000
3	T-3	112565.5260	-55900.2091	41.4000
4	T-4	112503.9968	-55861.3533	41.0000
5	T-5	112527.8506	-55869.0149	42.5000
6	BP	112515.9110	-55816.2685	
7	EP	112574.4298	-55910.2393	
8	KA1-1	112515.9110	-55876.2685	
9	KE1-1	112518.3016	-55896.8521	
10	KE1-2	112544.8049	-55916.5949	
11	KA1-2	112565.2115	-55912.9933	

2 測点名/X/Y/Z 以外の行がある場合、先頭行をマウスにてクリックして選択します。

NO.	測点名1	X m	Y m	H m
1	T-1	112502.7304	-55836.7171	40.0000
2	T-2	112503.7965	-55884.9670	41.0000
3	T-3	112565.5260	-55900.2091	41.4000
4	T-4	112503.9968	-55861.3533	41.0000
5	T-5	112527.8506	-55869.0149	42.5000
6	BP	112515.9110	-55816.2685	
7	EP	112574.4298	-55910.2393	
8	KA1-1	112515.9110	-55876.2685	
9	KE1-1	112518.3016	-55896.8521	
10	KE1-2	112544.8049	-55916.5949	
11	KA1-2	112565.2115	-55912.9933	

3 右クリック→[OK]で決定すると、「登録座標の選択」ダイアログボックスが表示されます。

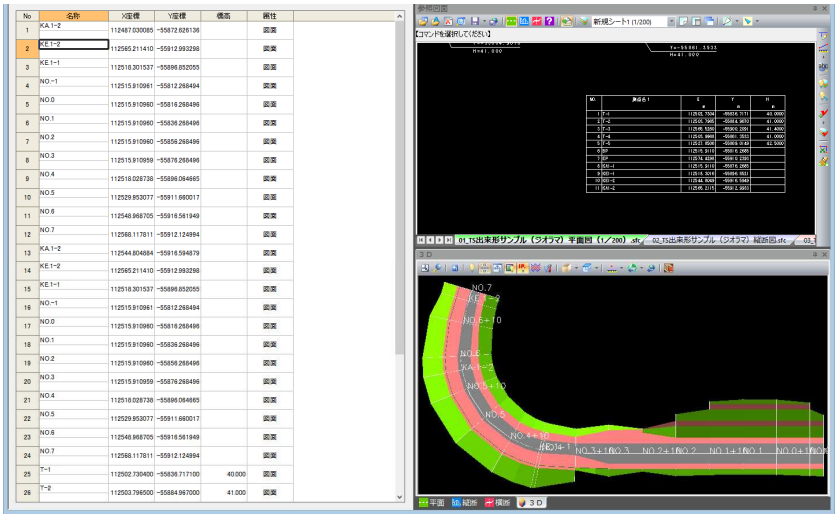


名称、座標の変更
名称、各座標入力欄内をクリックして編集することができます。

登録する座標の選択
「登録」チェックマークをオンにした座標が座標管理に登録されます。

[全選択]／[全解除]
登録欄すべてのチェックマークをオン、またはオフにします。

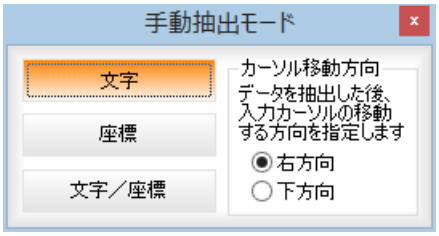
4 [OK]をクリックすると、半自動抽出処理が行われます。



座標管理 －[手動抽出]－[手動抽出]

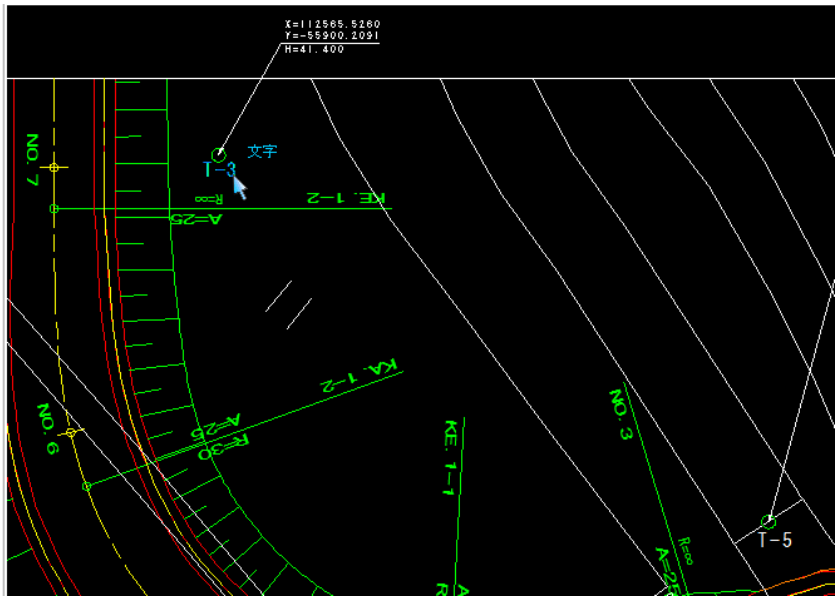
参照図面上の文字や座標値を取得する

参照図面上の文字や座標値を取得します。
文字、座標、文字／座標の３つのモードがあります。
座標は、クリックした位置の座標を取得します。
文字／座標は、文字→座標の順で取得します。
また、データを抽出した後、入力カーソルの移動する方向を「右方向」、「下方向」いずれかのラジオボタンをクリックして選択します。



● 手動抽出モード－文字

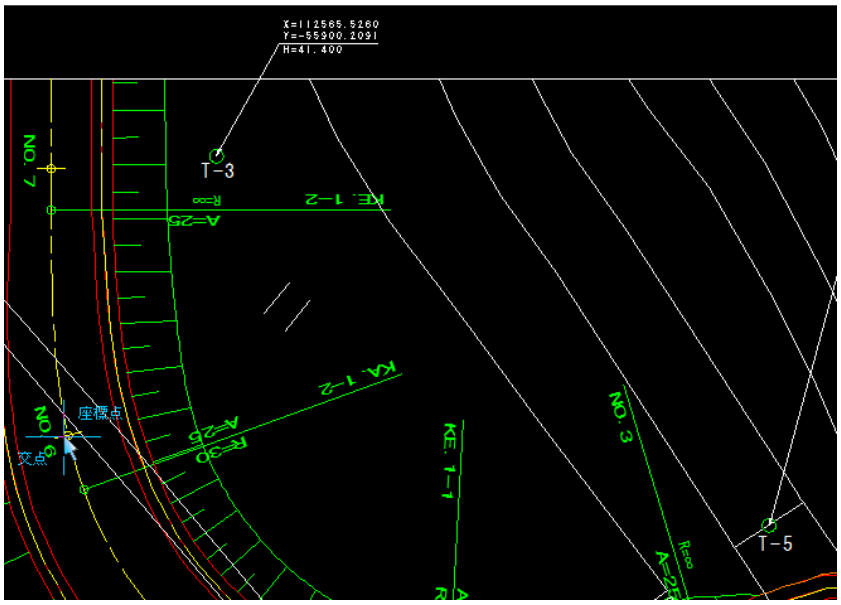
1 手動抽出モードメニューで[文字]をクリックします。
文字指定モードとなりますので、参照図面内の文字をクリックします。



2 指定した文字が座標管理に登録されます。

● 手動抽出モード－座標

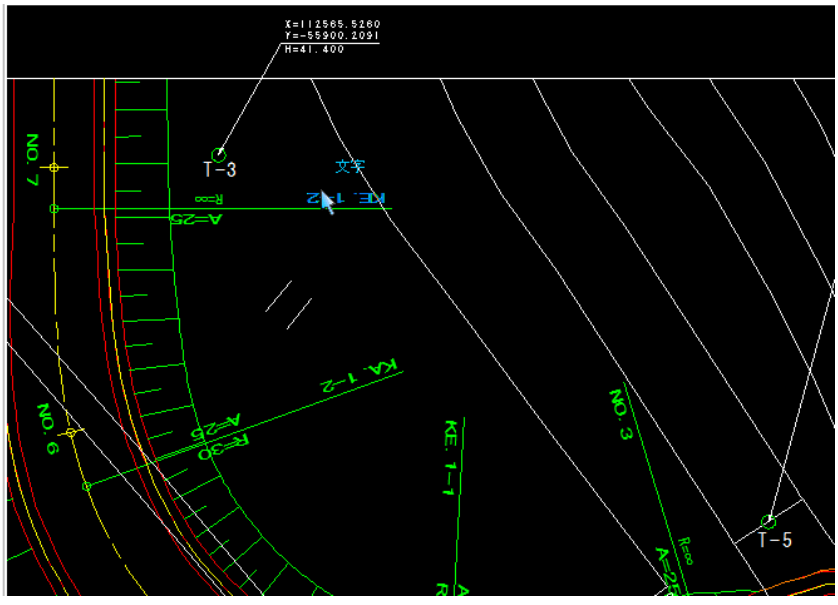
1 手動抽出モードメニューで[座標]をクリックします。
座標点指定モードとなりますので、参照図面内の座標点をクリックします。



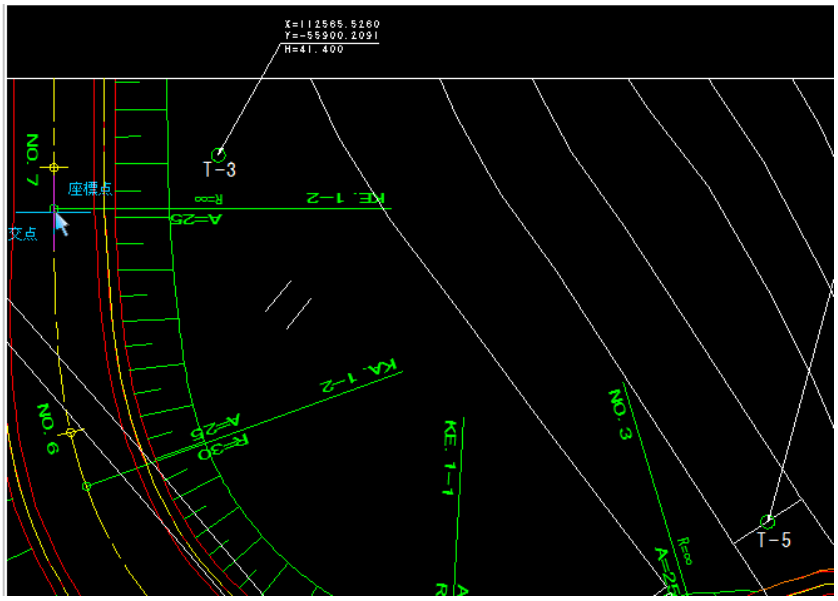
2 指定した座標が座標管理に登録されます。

● 手動抽出モード－文字／座標

1 手動抽出モードメニューで[文字/座標]をクリックします。
文字指定モードとなりますので、参照図面内の文字をクリックします。



2 次に、点指定モードになりますので、マウスにてクリックします。



3 指定した文字および座標が座標管理に登録されます。
手動抽出モードメニューを閉じるまで、作業は続けて行うことができます。

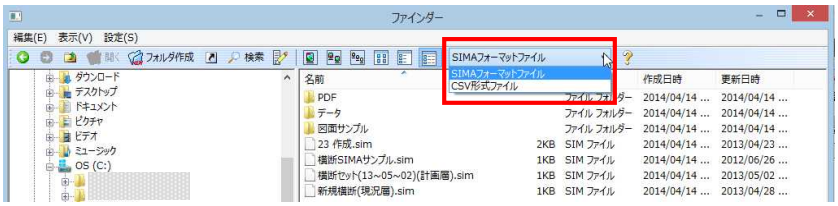
座標管理 −[SIMA/CSV]−[SIMA/CSV 入力]

SIMA 形式や CSV 形式のデータを読み込む

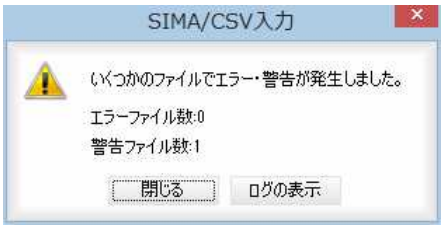
SIMA 形式や CSV 形式の座標データを読み込みます。
SIMA 形式と CSV 形式では操作方法が異なります。

● SIMA 形式ファイルの読み込み

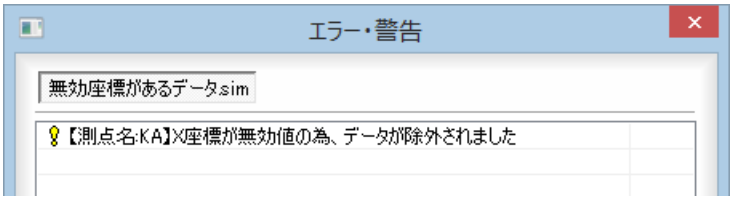
1 座標管理メニューで[SIMA/CSV]−[SIMA/CSV 入力]をクリックすると、「ファインダー」ダイアログボックスが表示されます。
[表示ファイルタイプ]のドロップダウンリストから[SIMA フォーマットファイル]を選択します。



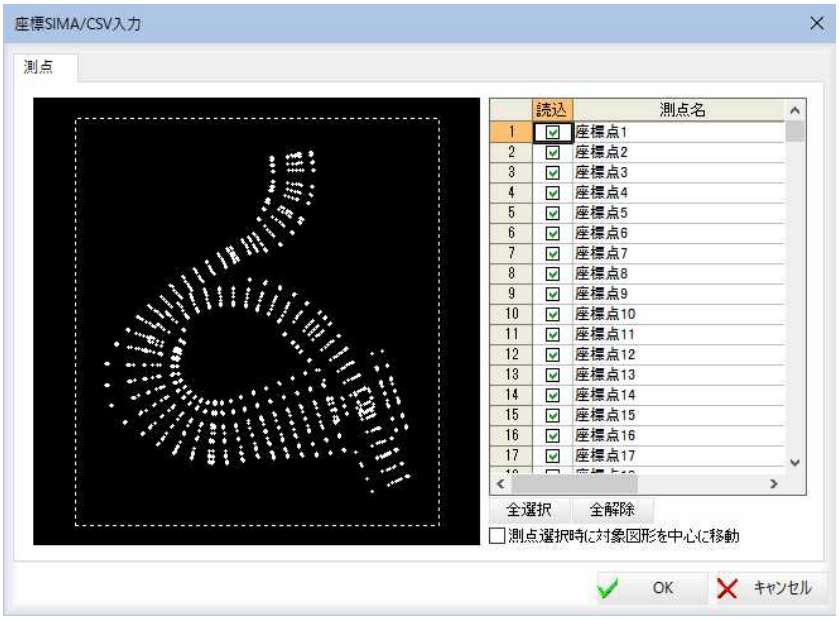
2 SIMA 形式ファイルを選択し、[開く]をクリックすると、無効な座標値の測点データが存在する場合、以下のメッセージが表示されます。



[ログの表示]をクリックすると、「エラー・警告」ダイアログボックスが表示され、エラーの内容が表示されます。



3 「SIMA/CSV 入力」または「エラー・警告」ダイアログボックスで[閉じる]をクリックすると、「座標 SIMA/CSV 入力」ダイアログボックスが表示されます。



4 **測点の表示**

「座標 SIMA/CSV 入力」ダイアログボックスの左側には測点表示ウィンドウ、右側には「読込」チェックボックスと、「測点名」の一覧が表示されます。一覧内の測点名をクリックすると、表示ウィンドウ内の測点がブリンク表示します。
また、測点表示ウィンドウ内の測点をクリックすると、一覧内が反転表示します。

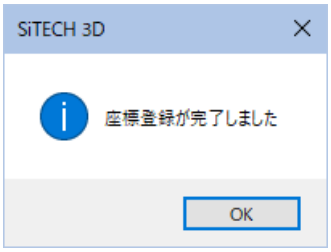
[全選択]／[全解除]

「読込」チェックマークの全てをオン、またはオフにします。

測点選択時に対象図形を中心に移動

「測点選択時に対象図形を中心に移動」チェックマークをオンにすると、一覧内で選択した測点が座標表示ウィンドウ内で中心になるように表示されます。

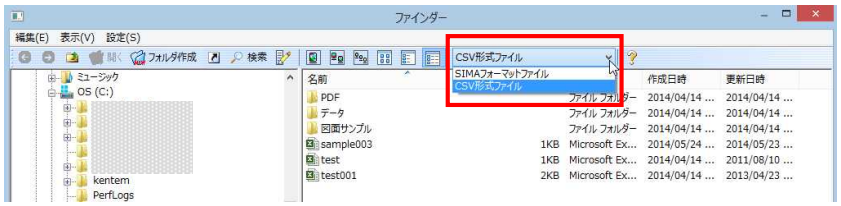
5 「座標 SIMA/CSV 入力」ダイアログボックスで[OK]をクリックすると、SIMA 形式ファイルの選択した測点が座標管理に登録され、以下のメッセージが表示されます。



6 [OK]をクリックすると処理を終了します。

● CSV 形式ファイルの読み込み

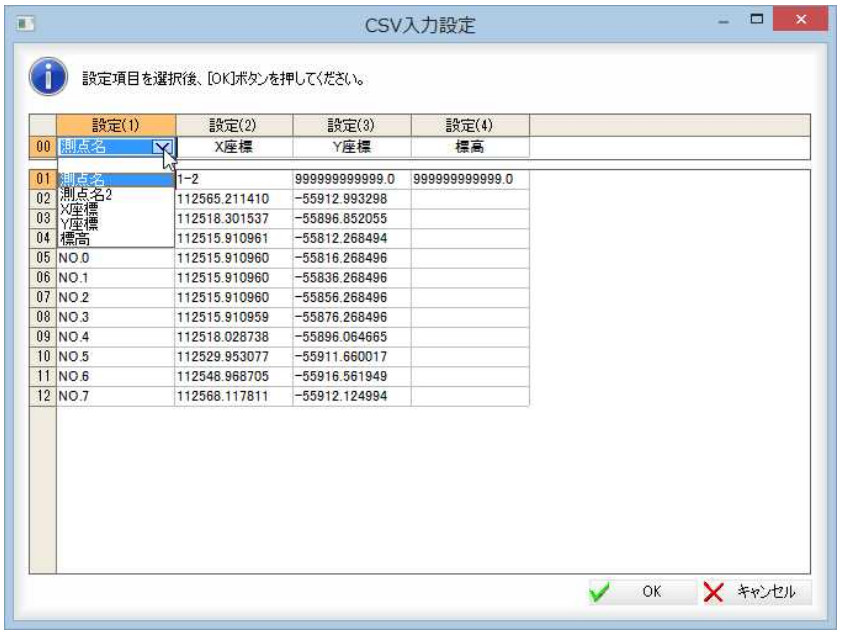
1 座標管理メニューで[SIMA/CSV]－[SIMA/CSV 入力]をクリックすると、「ファインダー」ダイアログボックスが表示されます。
[表示ファイルタイプ]のドロップダウンリストから[CSV 形式ファイル]を選択します。



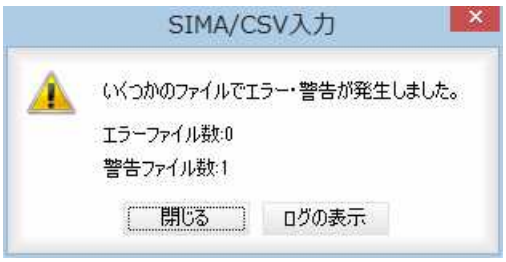
2 CSV 形式ファイルを選択し、[開く]をクリックすると、「CSV 入力設定」ダイアログボックスが表示されます。
表示されている列を何の項目として読込むかを、設定項目に設定します。
設定項目として選択可能な項目は以下の通りです。

- (空欄)
- 測点名
- 測点名 2
- X 座標
- Y 座標
- 標高

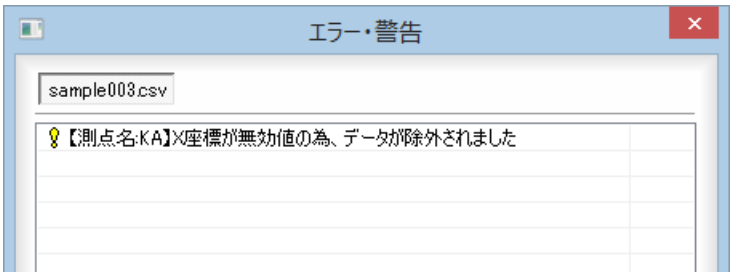
読込ませたくない列が有る場合には、設定項目に(空欄)を指定してください。



[OK]をクリックすると、無効な座標値の測点データが存在する場合、以下のメッセージが表示されます。



[ログの表示]をクリックすると、「エラー・警告」ダイアログボックスが表示され、エラーの内容が表示されます。



3 「SIMA/CSV 入力」または「エラー・警告」ダイアログボックスで[閉じる]をクリックすると、「座標 SIMA/CSV 入力」ダイアログボックスが表示されます。
操作方法は、「SIMA 形式ファイルの読み込み」と同様です。

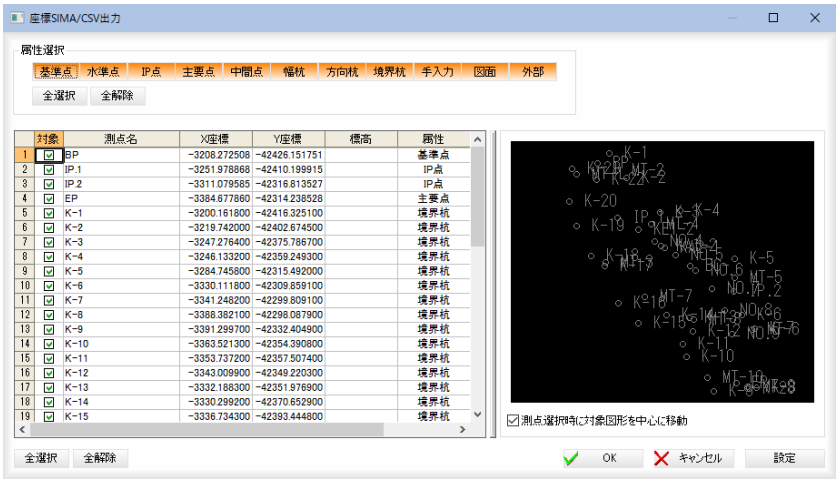
4 「座標 SIMA/CSV 入力」ダイアログボックスで[OK]をクリックすると、CSV 形式ファイルの選択した測点が座標管理に登録されます。

SIMA 形式や CSV 形式のデータを書き込む

SIMA 形式や CSV 形式の座標データを書込みます。

● SIMA/CSV 形式ファイルの書き込み

1 座標管理メニューで[SIMA/CSV]－[SIMA/CSV 出力]をクリックすると、「座標 SIMA/CSV 出力」ダイアログボックスが表示されます。属性選択、測点一覧表示、測点プレビューが表示されます。

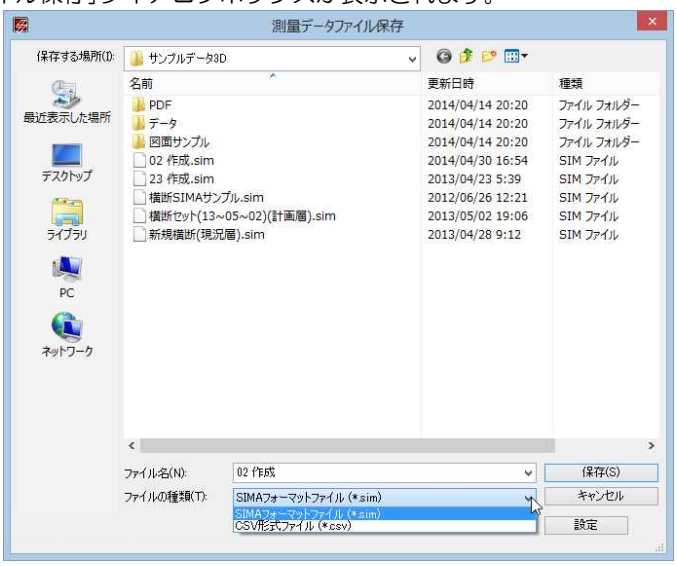


属性選択
いずれかの属性名をクリックし、選択します。
[全選択]／[全解除]
属性をすべて選択、またはすべて選択解除することができます。

測点の選択
チェックマークをオンにして測点を選択します。
[全選択]／[全解除]
一覧表示内のすべてのチェックマークをオン、またはオフにします。

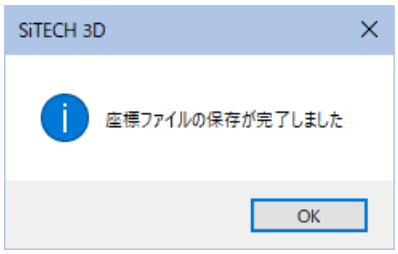
測点選択時に対象図形を中心に移動
「測点選択時に対象図形を中心に移動」チェックマークをオンにすると、一覧内で選択した測点が座標表示ウィンドウ内で中心になるように表示されます。

2 「座標 SIMA/CSV 出力」ダイアログボックスで[OK]をクリックすると、「測量データファイル保存」ダイアログボックスが表示されます。



ファイルの種類の選択
[ファイルの種類]ドロップダウンリストから SIMA フォーマットファイルまたは CSV 形式ファイルのいずれかを選択します。

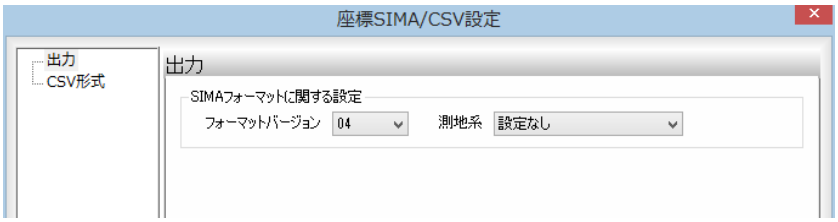
3 ファイル名を入力し、[保存]をクリックすると、ファイルへの書き込みが実行され、以下のメッセージが表示されます。



4 [OK]をクリックすると処理を終了します。

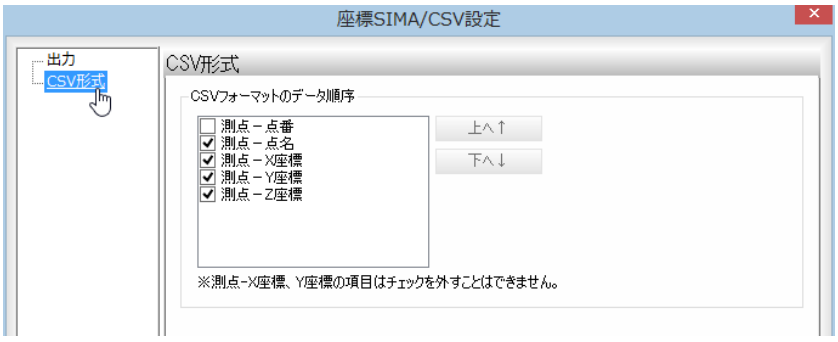
● SIMA/CSV 形式ファイルの書き込みの設定

1 「座標 SIMA/CSV 出力」ダイアログボックスまたは「測量データファイル保存」ダイアログボックスで[設定]をクリックすると、「座標 SIMA/CSV 設定」ダイアログボックスが表示されます。
左側のツリー表示より「出力」または「CSV 形式」をクリックして設定を行います。



2 **出力の設定**
SIMA フォーマットに関する設定を、「フォーマットバージョン」、「測地系」いずれもドロップダウンリストより選択します。
「フォーマットバージョン」の初期値は「04」、測地系の初期値は「設定なし」です。
[初期化]をクリックすると、設定を初期化します。

3 **CSV 形式の設定**
CSV フォーマットのデータ出力順序をチェックマークをクリックして選択します。
なお、測点-X 座標、Y 座標はチェックを外すことはできません。



[初期化]をクリックすると、設定を初期化します。

4 [OK]をクリックすると、設定処理を終了し、各ダイアログボックスに戻ります。

2 コマンド

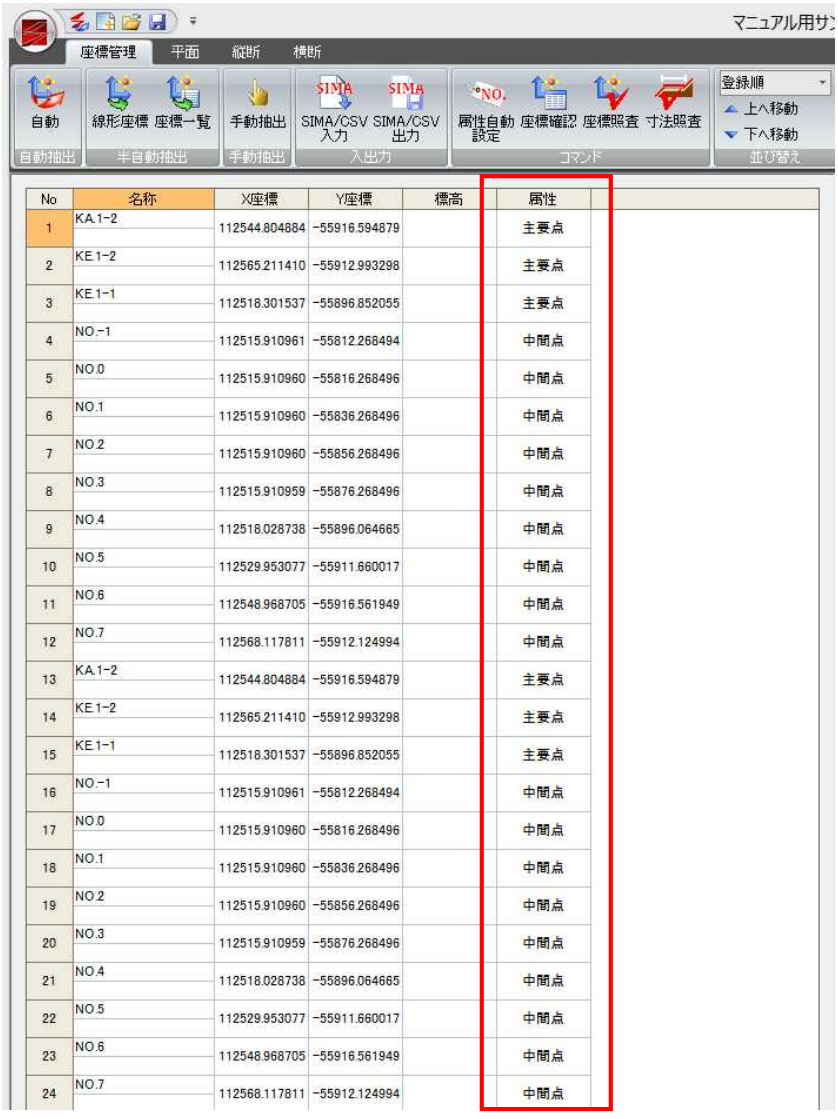
属性自動設定では、各座標の属性を名称から自動設定します。
座標確認では、参照図面（平面図）に座標管理の入力データを重ね合わせて表示します。
座標照査では、参照図面（平面図）の測点位置が座標管理データと合っているかをチェックします。

座標管理 －[コマンド]－[属性自動設定]

各座標の属性を名称から自動設定する

●属性自動設定の操作方法

1 座標管理メニューで[コマンド]－[属性自動設定]をクリックすると、名称から属性を自動的に判断し、設定されます。

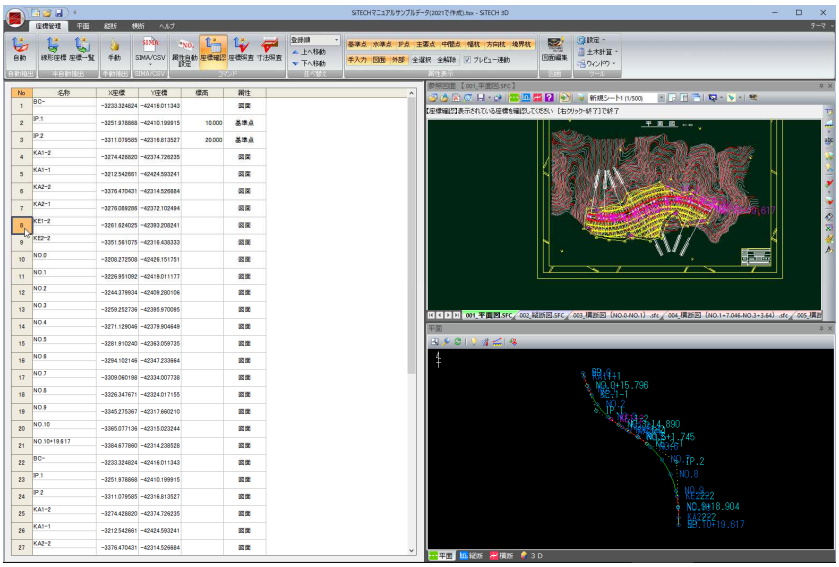


座標管理 −[コマンド]−[座標確認]

参照図面に座標管理データを表示する

● 座標確認の操作方法

1 座標管理メニューで[コマンド]−[座標確認]をクリックすると、座標確認モードとなり、座標一覧内の測点がブリンク表示され、クリックした測点が参照図面内の中央に表示されます。



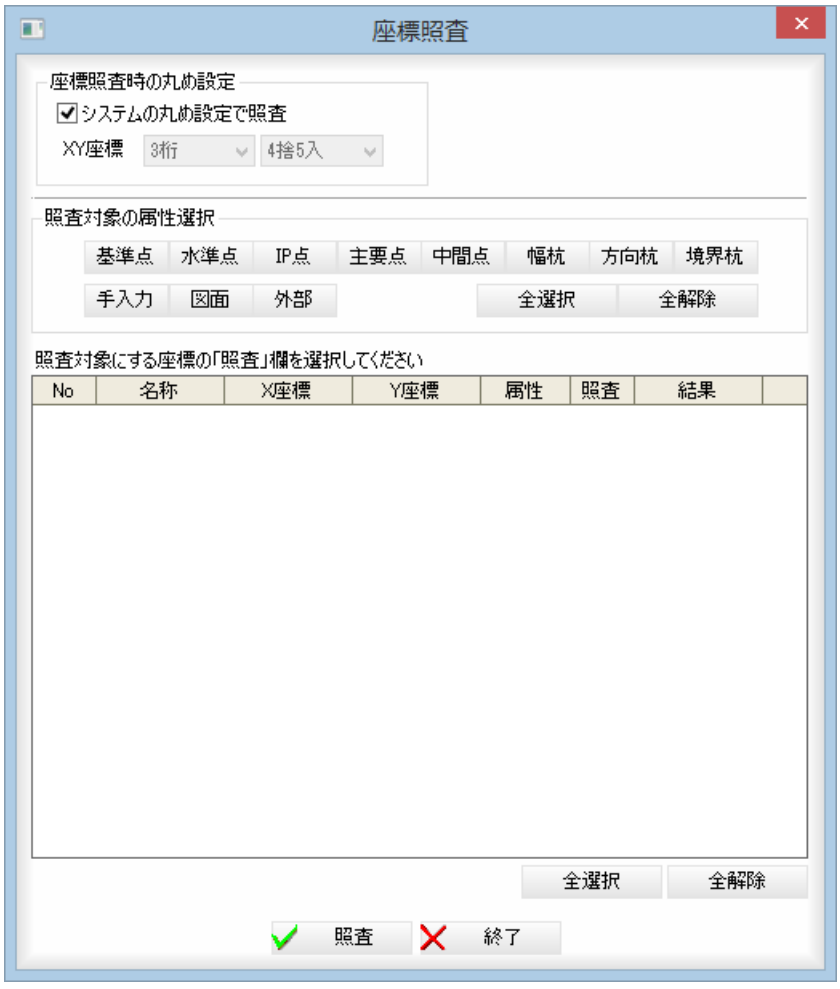
2 座標確認モードを終了するには、参照図面内で右ボタン→[終了]をクリックします。

座標管理 −[コマンド]−[座標照査]

平面図上の測点位置と座標管理入力データが合っているかチェックする

● 座標照査の操作方法

1 座標管理メニューで[コマンド]−[座標照査]をクリックすると、「座標照査」ダイアログボックスが表示されます。



座標照査時の丸め設定

「システムの丸め設定で照査」チェックマークをオンにすると、[ツール]−[丸め設定]で設定された丸め設定で照査が行われます。

オフの場合は、XY 座標の桁数および丸め設定を、それぞれドロップダウンリストより選択することができます。

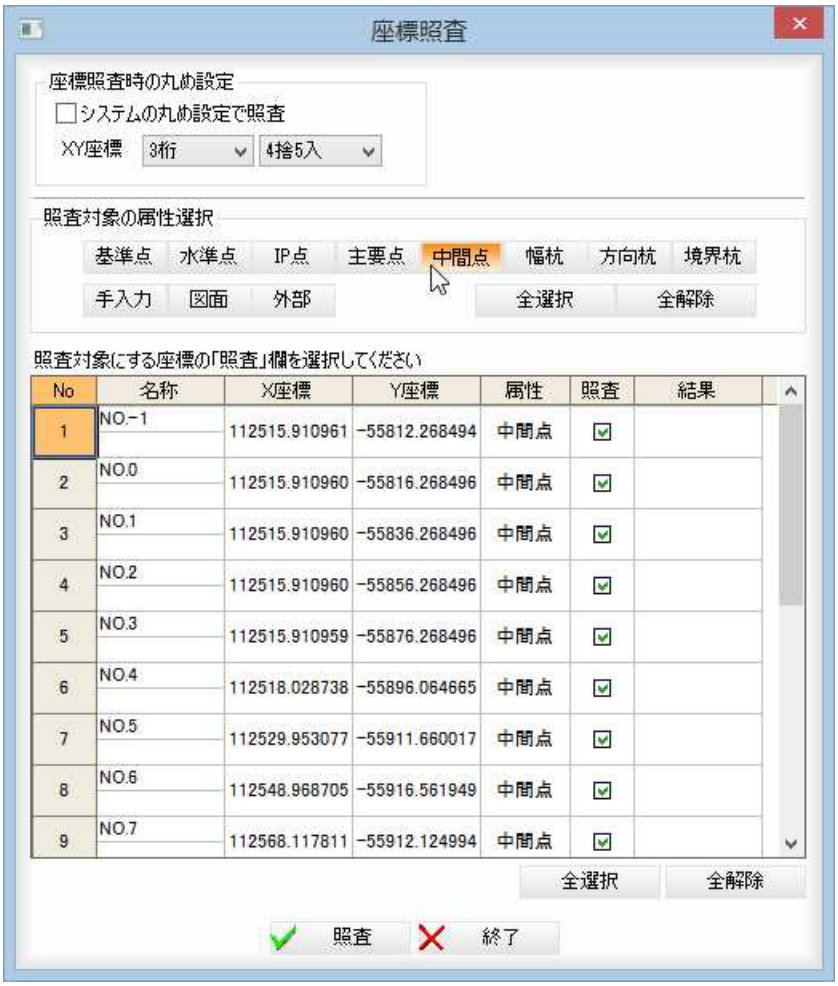
照査対象の属性選択

いずれかの属性名をクリックすると、座標管理一覧内のデータが表示されます。

[全選択]／[全解除]

属性をすべて選択、またはすべて選択解除することができます。

▼ 例：[中間点]を選択した場合



照査対象の測点選択

一覧内の「照査」チェックマークをオンにすると、照査対象となります。

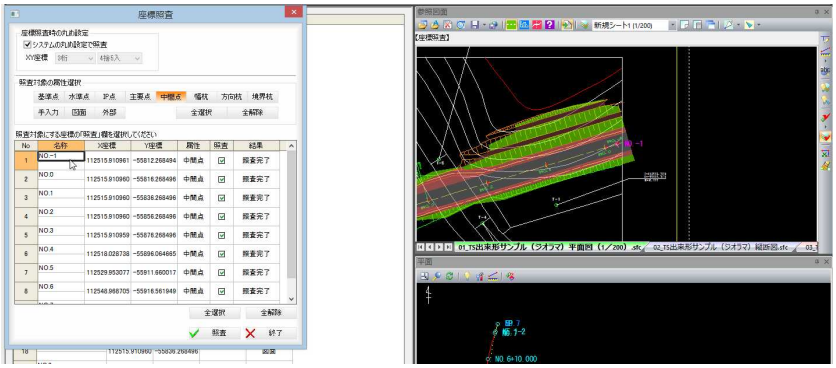
[全選択]／[全解除]

一覧内のすべての「照査」チェックマークをオン、またはオフにします。

2 照査の実行

[照査]をクリックすると照査を実行し、照査が終わると、各欄内に「照査完了」と表示され、参照図面内にチェックマーク（✔点）が表示されます。

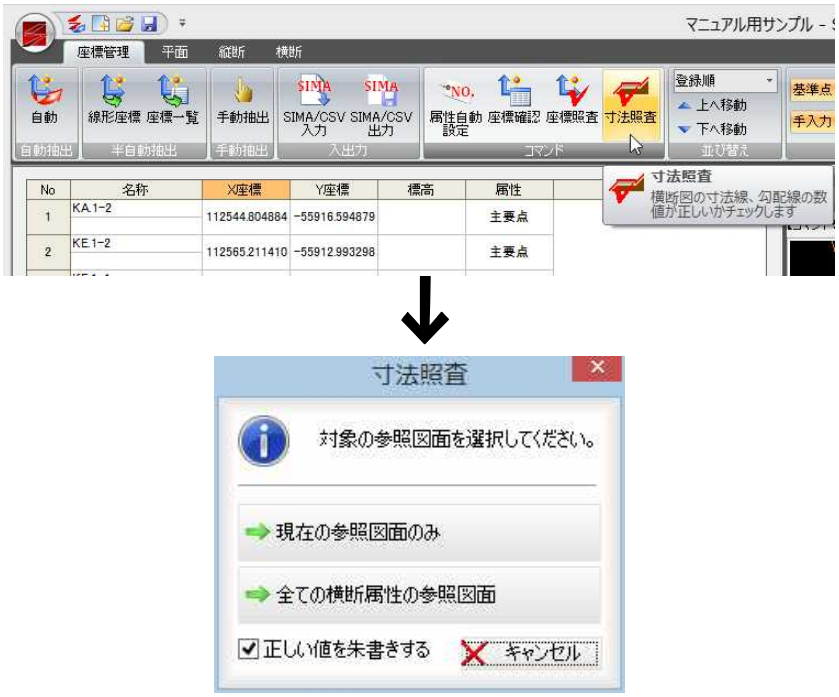
一覧内のいずれかの測点をクリックすると、参照図面内の中央に表示されます。



3 「座標照査」ダイアログボックスの[終了]をクリックすると、処理を終了します。

● 寸法照査の操作方法

1 座標管理メニューで[コマンド]−[寸法照査]をクリックすると、「寸法照査」ダイアログボックスが表示されます。



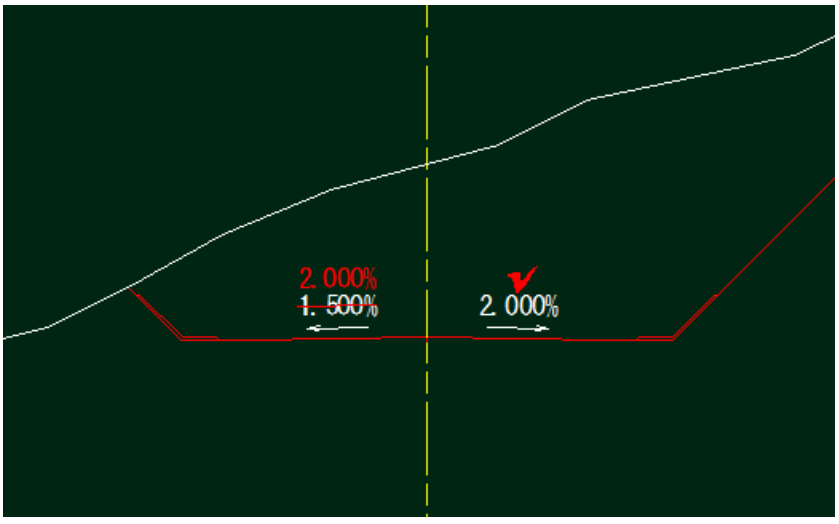
2 **対象図面の選択**

「現在の参照図面のみ」、「全ての横断属性の参照図面」をクリックすると、いずれかの方法で寸法照査処理を行います。

正しい値を朱書きする

「正しい値を朱書きする」チェックマークをクリックすると、間違った寸法値や勾配数値がある場合、図面上に正しい数値が朱書きされます。

3 参照図面の寸法をチェックし、正しい寸法値や勾配数値にチェックマーク（✔点）を配置し、間違った寸法値や勾配数値上に正しい数値を追加します。



3 並べ替え

座標を並べ替えます。並び順の切り替えを行い、並べ替えを行います。

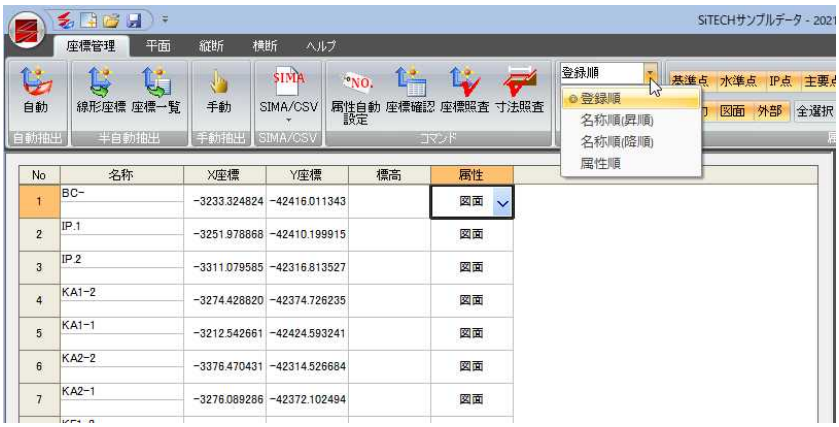
座標管理 －[並べ替え]－[登録順(他)]・[上へ移動]・[下へ移動]・[属性順]

各座標を並べ替える

● 並べ替えの操作方法

1 並び順の選択

座標管理メニューで[並べ替え]グループ内の並び順選択用のドロップダウンリストよりいずれかをクリックして選択します。

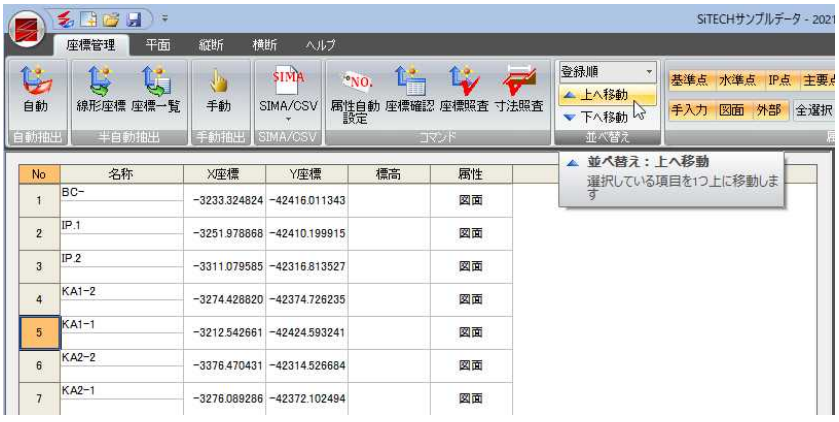


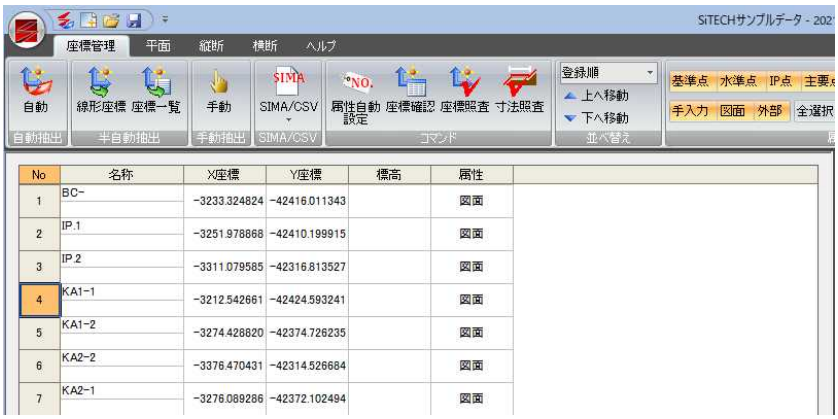
登録順　：測点を登録した順に並べ替えます。
名称順(昇順)　：名称の昇順に並べ替えます。
名称順(降順)　：名称の降順に並べ替えます。
属性順　：属性のドロップダウンリストに表示される順に並べ替えます。

いずれかの並び順を選択すると、一覧内の並び順が変更されます。

2 順序の移動

座標管理メニューで順序の移動を行う測点をマウスでクリックして選択し、[並べ替え]－[上へ移動](または[下へ移動])をクリックします。





No	名称	X座標	Y座標	標高	属性
1	BC-	-3233.324824	-42416.011343		図面
2	IP.1	-3251.978868	-42410.199915		図面
3	IP.2	-3311.079585	-42316.813527		図面
4	KA1-1	-3212.542661	-42424.593241		図面
5	KA1-2	-3274.428820	-42374.726235		図面
6	KA2-2	-3376.470431	-42314.526684		図面
7	KA2-1	-3276.089286	-42372.102494		図面

4 属性表示

座標の表示／非表示を属性単位で切り替えます。

座標管理 －[属性表示]

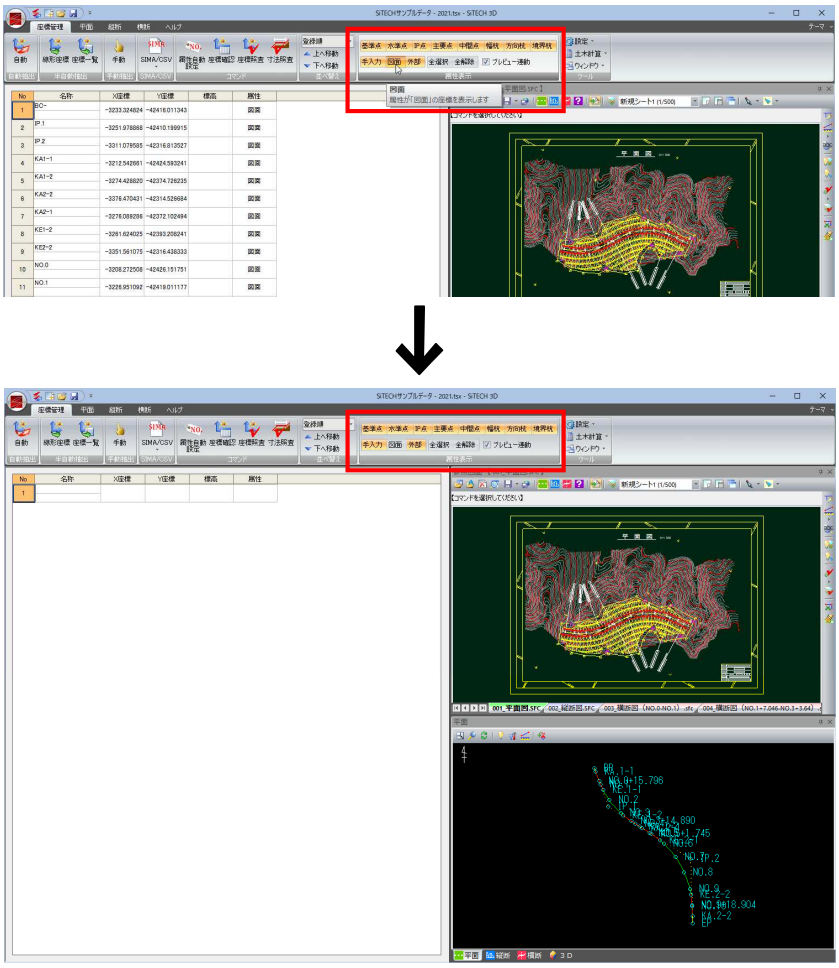
属性単位で座標表示のオン・オフを行う

● 属性表示切り替えの操作方法

1 **表示する属性の選択**

座標管理メニューで[属性表示]グループ内のいずれかの属性をクリックして表示／非表示を切り替えます。

例）「図面」をオフにします。



2 **[全選択]／[全解除]**

すべての属性の表示をオン、またはオフにします。

3 **プレビュー連動**

「プレビュー連動」チェックマークをオンにすると、属性表示を切り替えるとプレビューウィンドウ内の表示も同時に切り替わります。

Part 2 平面メニュー

1 路線情報

路線情報の選択・編集・路線設定を行います。

平面 ー[路線情報]

各種の路線設定を行う

平面線形計算を行う前に、各種の路線設定を行います。
[路線情報]で[線形選択]ー[新規作成]を選択したときなどに表示される「路線設定」ダイアログボックスで設定を行います。

●「路線設定」ダイアログボックスの各種設定

1 平面メニューの[路線情報]で[線形選択]ー[新規作成]を選択、または路線情報のドロップダウンリストより[作成]を選択すると、「路線設定」ダイアログボックスが表示されます。各種の設定を行います。

2 **現場名／路線名の入力**

「現場名」、「路線名」の入力欄内にそれぞれ名称を入力します。

平面線形の入力方法

「IP 法」、「要素法(卵型等)」、「横断が中心線形に直交しない」いずれかのラジオボタンをクリックして選択します。この入力方法の選択により、データウィンドウの表示が切り替わります。

▼ IP 法

平面線形【IP法】 線形計算結果

No	種別	IP	X座標	Y座標	A1	R1	AE	R2
1	起点	BP	-116079.411000	-83131.082000				
2	クロソイド	IP.1	-116016.374000	-83066.519000	58.000	78.000		
3	クロソイド	IP.2	-115924.654000	-83052.912000	78.000	167.000		
4	終点	EP	-115744.435039	-82966.372150				
5								

▼ 要素法(卵型等)

平面線形【要素法】 計算結果

No	線形種別	方向	主要点名称	X座標	Y座標	R1	A	R2	要素長さ
1	BP点		BP	-3208.272508	-42426.151751				
2	直線		NO.0+4.546						
3	開始クロソイド	左	NO.1+7.046			-90.000			0.000
4	単曲線	左	NO.3+3.640			-90.000			0.000
5	終了クロソイド	左	NO.4+6.140				45.000	-90.000	0.000
6	直線		NO.4+9.245						0.000
7	開始クロソイド	右	NO.5+14.245			100.000			0.000
8	単曲線	右	NO.9+6.404			100.000			0.000
9	終了クロソイド	右	NO.10+11.404				50.000	100.000	0.000
10	直線		EP	-3384.677860	-42314.238528				
11									

曲線方向の左右の指定

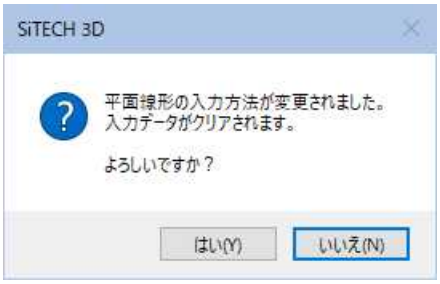
一覧内の「方向」欄内をクリックすると、ドロップダウンリストが表示されますので、いずれかの方向を選択します。

▼ 横断が中心線形に直交しない

平面線形【横断が中心線形に直交しない】

No	測点名	追加距離	単距離	中心X座標	中心Y座標	中心標高	横断方向角	端部X座標	端部
1	NO.0	0.00	0.00	500.0000	500.0000	105.0	91°29'17"66058	504.0030	
2	NO.1	20.00	20.00	500.0000	480.0030	105.0	91°02'50"23116	504.0480	
3	NO.2	40.01	20.01	499.9990	459.9910	100.0	92°12'43"47259	503.9910	
4	NO.3	60.01	20.00	500.0000	439.9940	100.0	88°44'57"39660	503.9940	
5	NO.4	80.00	19.99	500.0000	420.0000	100.0	90°29'11"45726	504.0040	
6	NO.5	99.82	19.82	503.3830	400.4690	100.0	102°33'42"81370	507.0850	
7	NO.6	119.67	19.85	515.3600	384.6400	100.0	99°38'42"17786	518.0760	
8	NO.7	139.67	20.00	529.5010	370.4990	105.0	87°19'25"07101	532.4680	
9	NO.8	159.67	20.00	543.6440	356.3570	105.0	89°49'33"73301	546.4850	
10									

既にデータが入力されている状態で平面メニューの[路線情報]で をクリック、またはドロップダウンリストより[編集]をクリックすると以下の確認メッセージが表示されます。



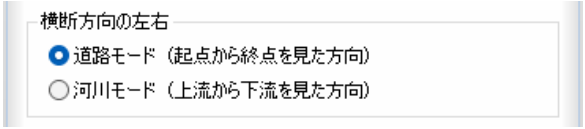
[はい]をクリックすると、既存の入力データがクリアされ、変更後の入力方法で平面線形が入力されます。

3 横断方向の左右

「道路モード」、「河川モード」いずれかのラジオボタンをクリックして選択します。

道路モード：起点から終点を見た方向に対しての左右。

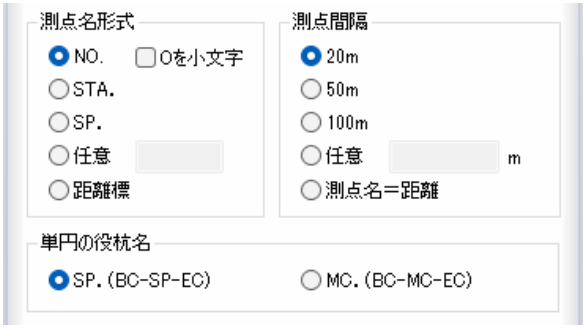
河川モード：上流から下流を見た方向に対しての左右。



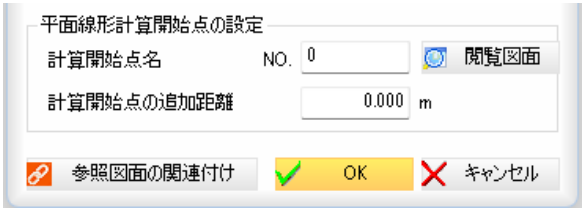
測点名形式
各種の測点名の形式をラジオボタンをクリックして選択します。
「NO.」を選択し、「O を小文字」チェックマークをオンにすると、「No.」になります。
「任意」を選択した場合は、入力欄内に任意の文字列を入力します。

測点間隔
各種の測点間隔をラジオボタンをクリックして選択します。
「任意」を選択した場合は、入力欄内に任意の間隔を m 単位で入力します。
「測点名=距離」を選択すると、測点名が距離となります。

単円の役杭名
いずれかの役杭名をラジオボタンをクリックして選択します。



平面線形計算開始点の設定
「計算開始点名」入力欄内に開始点名を入力します。
「計算開始点の追加距離」入力欄内に追加距離を m 単位で入力します。



閲覧図面の表示
[閲覧図面]をクリックすると、「閲覧図面」ダイアログボックスが表示されます。

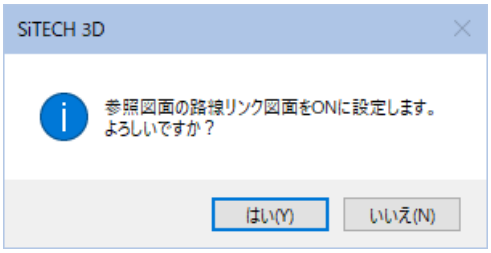
ガイドの各操作は、参照図面ウィンドウの「ガイド」処理と同様です。
⇒参照ページへ

4 **参照図面の関連付け**

「路線設定」ダイアログボックスで[参照図面の関連付け]をクリックすると、「図面選択(路線名：新規路線)」ダイアログボックスが表示されます。

操作は、参照図面ウィンドウ上の「参照図面の表示を切り替える」機能と同様です。⇒参照ページへ

「図面選択(路線名：新規路線)」ダイアログボックスで[OK]をクリックすると、参照図面の路線リンク図面をONに設定するか、確認メッセージが表示されます。



[はい]をクリックすると、路線リンクの設定が行われ、「路線設定」ダイアログボックスに戻ります。

5 「路線設定」ダイアログボックスで[OK]をクリックすると、システム画面に戻ります。

平面 ー[路線情報]

平面線形を選択・編集する

平面線形計算を行う前に、各種の路線設定を行います。
[路線情報]で[線形選択]ー[新規作成]を選択したときなどに表示される「路線設定」ダイアログボックスで設定を行います。

● 平面線形を選択する

1 平面メニューの[路線情報]で[線形選択]のドロップダウンリストより、いずれかの平面線形を選択します。

[新規作成]を選択した場合は、「路線設定」ダイアログボックスが表示されますので、各種の設定を行い、[OK]をクリックします。

2 データウィンドウに表示されている平面線形が切り替わりますので、各種処理を行います。

● 平面線形を編集する

1 平面メニューの[路線情報]で をクリック、またはドロップダウンリストより[編集]をクリックします。

2 「路線設定」ダイアログボックスが表示されますので、各種の設定を行い、[OK]をクリックします。データウィンドウに戻ります。

● 平面線形を作成する

1 平面メニューの[路線情報]で「平面線形」のドロップダウンリストから[新規作成]をクリック、またはドロップダウンリストより[作成]をクリックします。

2 「路線設定」ダイアログボックスが表示されますので、各種の設定を行い、[OK]をクリックします。データウィンドウに戻ります。

● 平面線形を削除する

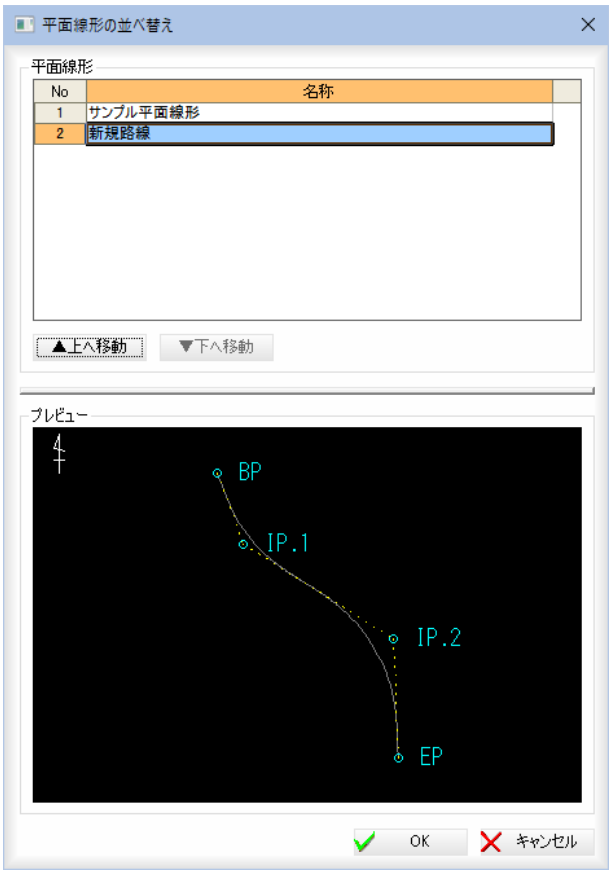
1 平面メニューの[路線情報]でドロップダウンリストより[削除]をクリックします。

2 現在選択中の平面線形が削除されます。
ただし、平面線形が１つだけの場合には、削除できません。

● 平面線形を並べ替える

1 平面メニューの[路線情報]でドロップダウンリストより[並べ替え]をクリックします。

「平面線形の並べ替え」ダイアログボックスが表示されます。



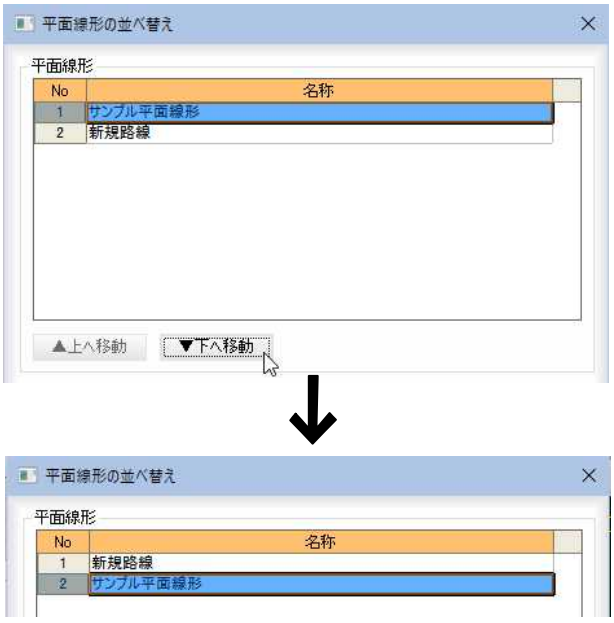
平面線形一覧表示

一覧表示内に、平面線形の名称が表示されます。

[▲上へ移動]／[▼下へ移動]

縦断図に表示する帯の順番を移動します。

選択中の平面線形を一覧表示内で上へ移動、または下へ移動します。



プレビュー

現在選択中の平面線形が表示されます。

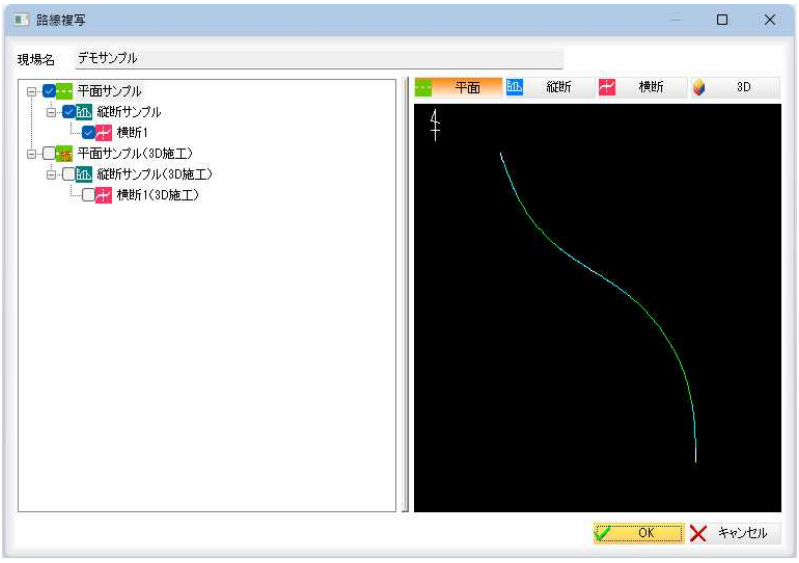
2 「平面線形の並べ替え」ダイアログボックスで[OK]をクリックすると、平面線形の並べ替えが実行されます。

以降、各コマンドでもこの並び順で各種の処理が行われます。

● 路線を複写する

1 平面メニューの[路線情報]でドロップダウンリストより[路線複写]をクリックします。

2 「路線複写」ダイアログボックスが表示されます。
複写対象路線がツリー形式(平面・縦断・横断)で表示されます。
チェックマークがオンのもののみ複写されます。
右側には平面、縦断、横断、3D のプレビュー画面が表示されます。



ツリー表示内のポップアップメニュー
ツリー表示内で右ボタンをクリックすると、ポップアップメニューが表示されます。

表示方法の選択
「全て ON」、「全て OFF」、「選択以外を OFF」のいずれかを選択すると、チェックマークの選択が切り替わります。

展開、閉じる
「全て展開」、「全て閉じる」のいずれかを選択すると、ツリー表示が変更されます。

3 「路線複写」ダイアログボックスで[OK]をクリックすると、「複写後の路線名設定」ダイアログボックスが表示されます。

路線名の入力

「複写先」欄内をクリックして、路線名を入力します。

縦断線形名称、横断名称を路線名に合わせる

「縦断線形名称、横断名称を路線名に合わせる」チェックマークをオンにすると、複写した路線データ内の縦断線形名称、横断名称を路線名に合わせることができます。初期値はオンです。

4 「複写後の路線名設定」ダイアログボックスで[OK]をクリックすると、路線の複写処理が行われます。

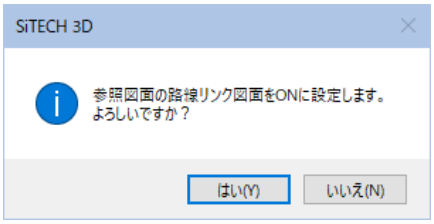
● 参照図面の関連付け

1 平面メニューの[路線情報]でドロップダウンリストより[参照図面の関連付け]をクリックします。

2 「図面選択(路線名：新規路線)」ダイアログボックスが表示されます。

操作は、参照図面ウィンドウ上の「参照図面の表示を切り替える」機能と同様です。⇒参照ページへ

「図面選択(路線名：新規路線)」ダイアログボックスで[OK]をクリックすると、参照図面の路線リンク図面をONに設定するか、確認メッセージが表示されます。



[はい]をクリックすると、路線リンクの設定が行われ、「路線設定」ダイアログボックスに戻ります。

2 線形計算データ入力

平面図線形のデータを、キーボードからの入力、自動、半自動、手動の各種抽出により行います。

平面 （線形計算一覧キー入力）

キーボードからデータを入力する

キーボードから直接種別、IP、X 座標、Y 座標、A1、R1、A2、R2…などを入力します。
ポップアップメニューより追加・挿入・削除処理を行うこともできます。
「IP 法」、「要素法」、「横断が中心線形に直交しない」のいずれかの入力方法により線形を入力します。

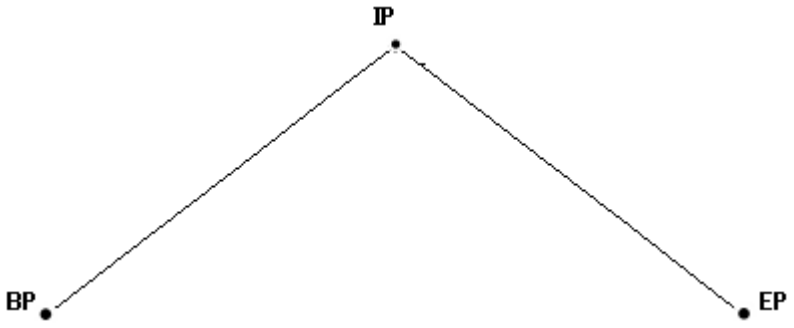
● IP 法により線形を入力する

1 「路線設定」ダイアログボックスで平面線形の入力方法を「IP 法」に指定します。
データウィンドウ内の「種別（起点を除く）」、「X座標」、「Y座標」、「A1」、「R1」…の入力欄内をクリックし、それぞれデータを入力します。

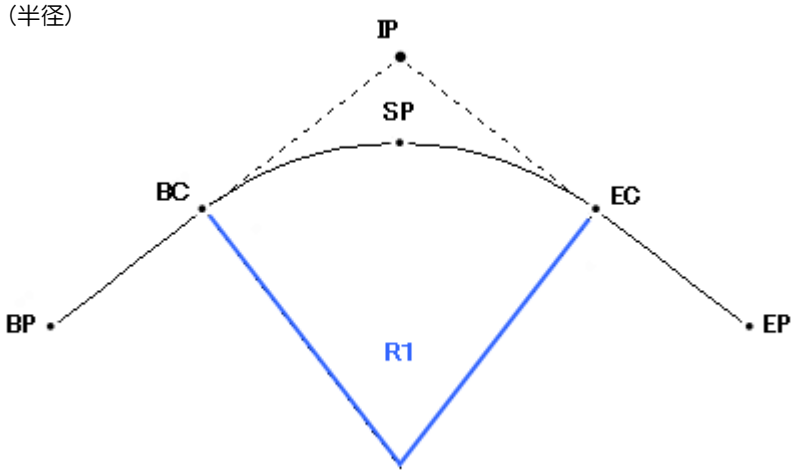
「種別」欄内でマウスをクリックすると、ドロップダウンリストが表示されますので、いずれかをクリックして選択します。
「IP」入力欄内に IP 点名を入力します。
「X 座標」、「Y 座標」入力欄内にそれぞれ座標を入力します。
「A1」、「R1」…など、入力欄内に数値を入力します。

2 IP 法による入力パラメータは、種別ごとに異なります。

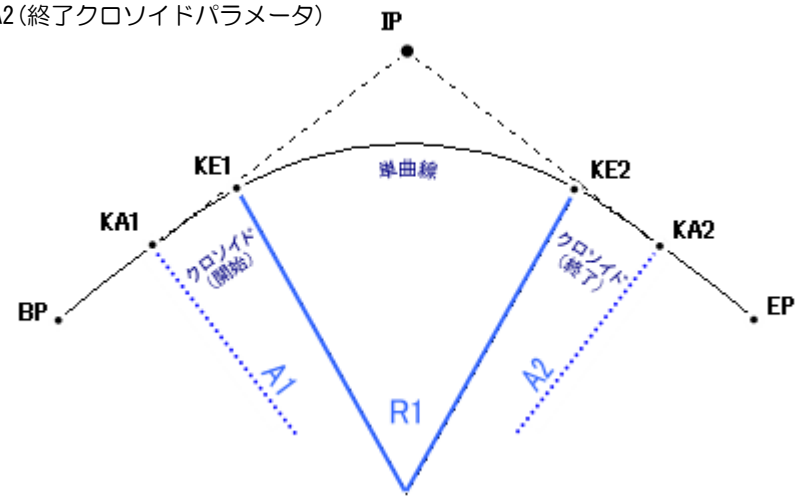
［BP点］［EP点］
起点、終点を作成します。



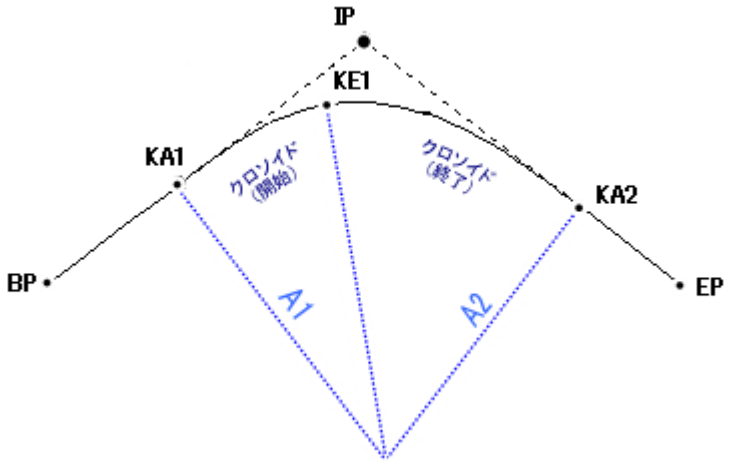
[単曲線]
単曲線を作成します。
以下の入力パラメータを設定してください。
・R1(半径)



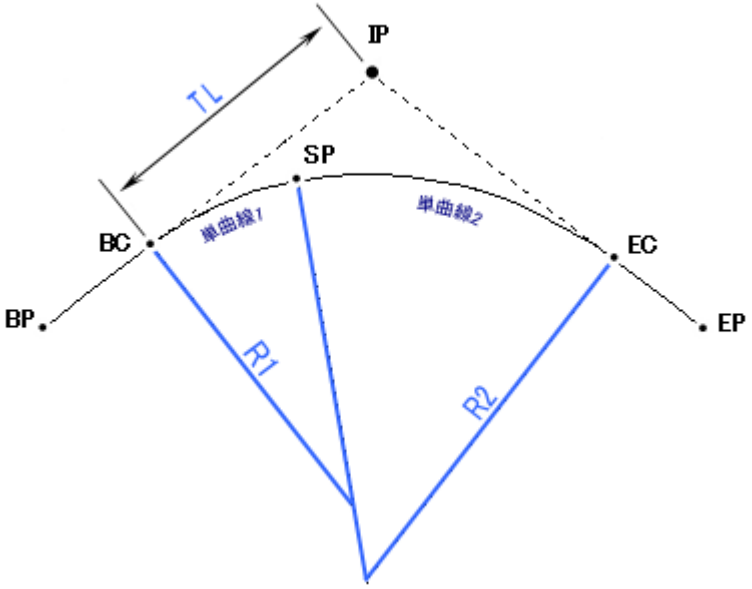
[クロソイド]
クロソイドを作成します。
以下の入力パラメータを設定してください。
・R1(半径)
・A1(開始クロソイドパラメータ)
・A2(終了クロソイドパラメータ)



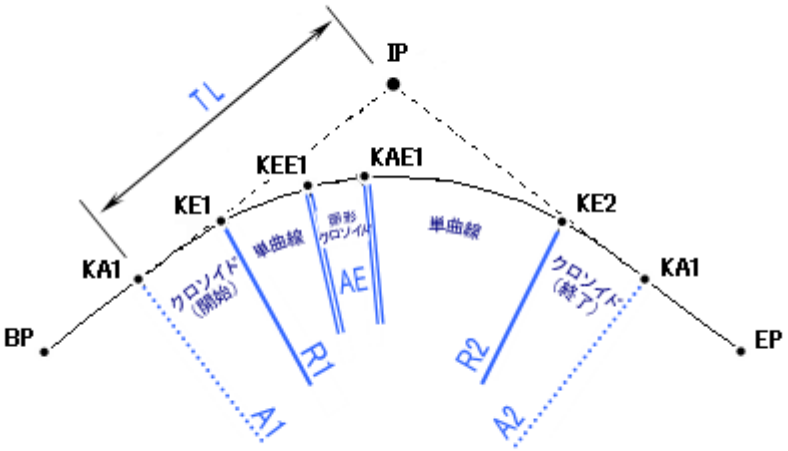
[凸型クロソイド]
凸型クロソイドを作成します。
以下の入力パラメータを設定してください。
・A1(開始クロソイドパラメータ)
・A2(終了クロソイドパラメータ)



[複合円]
複合円を作成します。
以下の入力パラメータを設定してください。
・R1(始点側半径)
・R2(終点側半径)
・TL(始点側接線長)



[卵型クロソイド]
卵型クロソイドを作成します。
以下の入力パラメータを設定してください。
・R1(始点側半径)
・R2(終点側半径)
・A1(開始クロソイドパラメータ)
・A2(終了クロソイドパラメータ)
・AE(卵型クロソイドパラメータ)
・TL(始点側接線長)



● 要素法により線形を入力する

1 「路線設定」ダイアログボックスで平面線形の入力方法を「要素法」に指定します。
データウィンドウ内の「線形種別」、「X座標」、「Y座標」、「R1」、「A」、「R2」…の入力欄内をクリックし、それぞれデータを入力します。

No	線形種別	方向	主要点名称	X座標	Y座標	R1	A	R2	要素長さ
1	BP点		BP	-3208.272508	-42426.151751				
2	直線		NO.0+4.546						
3	開始クロソイド	左	NO.1+7.046			-90.000			0.000
4	単曲線	左	NO.3+3.640			-90.000			0.000
5	終了クロソイド	左	NO.4+6.140				45.000	-90.000	0.000
6	直線		NO.4+9.245						0.000
7	開始クロソイド	右	NO.5+14.245			100.000			0.000
8	単曲線	右	NO.9+6.404			100.000			0.000
9	終了クロソイド	右	NO.10+11.404				50.000	100.000	0.000
10	直線		EP	-3384.677860	-42314.238528				
11									

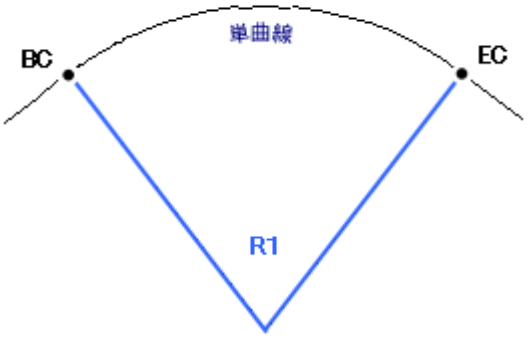
「線形種別」入力欄に使用する種別を選択します。
「方向」入力欄で方向を指示します。
「X 座標」、「Y 座標」入力欄内にそれぞれ座標を入力します。
「方向」入力欄が未設定の場合に「R1」、「A」、「R2」の入力欄に数値を入力すると符合により「方向」が自動で入力されます。

2 要素法による入力パラメータは、種別ごとに異なります。

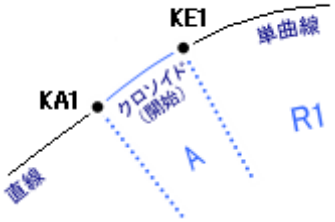
[ＢＰ点]
起点、終点を作成します。

[折れ点]
折れ点を作成します。

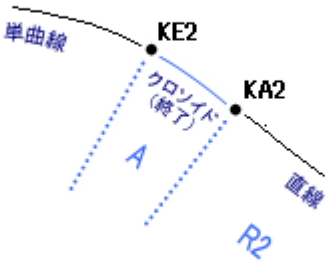
[単曲線]
単曲線を作成します。
以下の入力パラメータを設定してください。
・R1（半径）



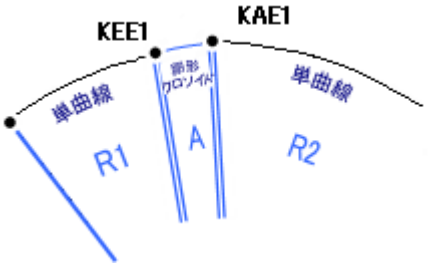
[開始クロソイド]
開始クロソイドを作成します。
以下の入力パラメータを設定してください。
・R1（半径）
・A（クロソイドパラメータ）



[終了クロソイド]
終了クロソイドを作成します。
以下の入力パラメータを設定してください。
・R2(半径)
・A(クロソイドパラメータ)



[卵型クロソイド]
卵型クロソイドを作成します。
以下の入力パラメータを設定してください。
・R1(半径)
・R2(半径)
・A(クロソイドパラメータ)



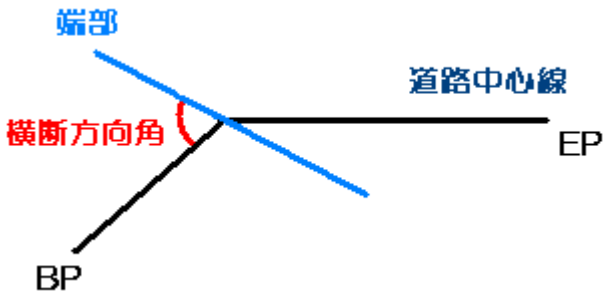
● 横断が中心線形に直交しない方法で線形を入力する

1 「路線設定」ダイアログボックスで平面線形の入力方法を「横断が中心線形に直交しない」に指定します。
データウィンドウ内の「測点名」、「中心X座標」、「中心Y座標」、「中心標高」、「横断方向角」、「端部X座標」、「端部Y座標」、「端部種類」の入力欄内をクリックし、それぞれデータを入力します。

No	測点名	追加距離	単距離	中心X座標	中心Y座標	中心標高	横断方向角	端部
1	NO.0	0.00	0.00	500.0000	500.0000	105.0	91°29'17"66058	5
2	NO.1	20.00	20.00	500.0000	480.0030	105.0	91°02'50"23116	5
3	NO.2	40.01	20.01	499.9990	459.9910	100.0	92°12'43"47259	5
4	NO.3	60.01	20.00	500.0000	439.9940	100.0	88°44'57"39660	5
5	NO.4	80.00	19.99	500.0000	420.0000	100.0	90°29'11"45726	5
6	NO.5	99.82	19.82	503.3830	400.4690	100.0	102°33'42"81370	5
7	NO.6	119.67	19.85	515.3600	384.6400	100.0	99°38'42"17786	5
8	NO.7	139.67	20.00	529.5010	370.4990	105.0	87°19'25"07101	5
9	NO.8	159.67	20.00	543.6440	356.3570	105.0	89°49'33"73301	5
10								

2 「測点名」入力欄内に主要点名を入力します。
「中心 X 座標」、「中心 Y 座標」、「中心標高」入力欄内にそれぞれ座標、標高を入力します。
「横断方向角」、「端部 X 座標」、「端部 Y 座標」入力欄内に数値を入力します。
「端部種類」欄内でマウスをクリックすると、ドロップダウンリストが表示されますので、いずれかをクリックして選択します。

3 「横断方向角」は、角度を直接入力する事も出来ますが、「端部 X 座標」、「端部 Y 座標」を指定する事により自動で算出されます。
※端部座標を指定した場合には、その端部座標が道路中心線よりも左の座標なのか右の座標なのかを「端部種類」で指定してください。
※横断方向角は説明図のように、起点側からの中心線形と横断面の左端部のなす角です。

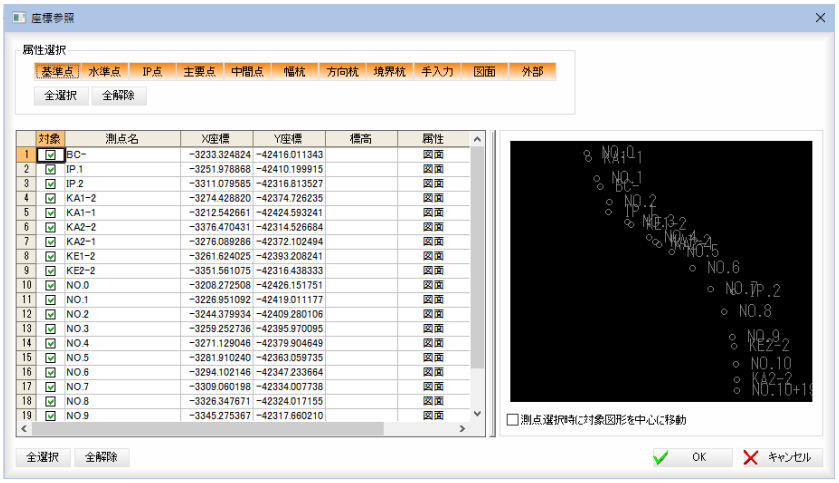


4 「追加距離」「単距離」「追加距離(元)」「移動量」は、入力されたデータより算出された数値が表示されます。

● 平面線形一覧表示内のポップアップメニュー

1 平面線形一覧表示上でマウスの右ボタンクリックのポップアップメニューを表示し、各種の編集処理を行います。

[座標一覧から取得]
ポップアップメニューより[座標一覧から取得]をクリックすると、「座標参照」ダイアログボックスが表示されます。属性選択、測点一覧表示、測点プレビューが表示されます。



属性選択
いずれかの属性名をクリックし、選択します。
[全選択]／[全解除]
属性をすべて選択、またはすべて選択解除することができます。

測点の選択
チェックマークをオンにして測点を選択します。
[全選択]／[全解除]
一覧表示内のすべてのチェックマークをオン、またはオフにします。

測点選択時に対象図形を中心に移動
「測点選択時に対象図形を中心に移動」チェックマークをオンにすると、一覧内で選択した測点が測点プレビュー内で中心になるように表示されます。

取得するデータを選択し、[OK]をクリックすると、データウィンドウのカーソル位置にデータが入力されます。
既にデータがある場合は、上書き確認メッセージボックスが表示されます。「はい」を選択すると、上書きされます。
座標参照ダイアログで複数行選択した場合は、データウィンドウで選択している位置から、選択したデータ分、上書きします。
ダイアログボックス内右側のプレビュー画面内には、測点が表示されます。

2 **追加・挿入・削除**

ポップアップメニューより以下のコマンドを選択すると、一覧内に追加・挿入・削除されます。

[追加]　：末尾に行を追加します。
[挿入]　：選択位置に１行挿入します。
[削除]　：選択位置の行を削除します。

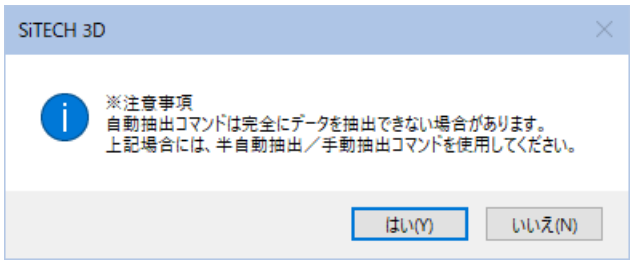
平面 －[自動抽出]－[自動]

参照図面の縦断図から平面線形を自動抽出する

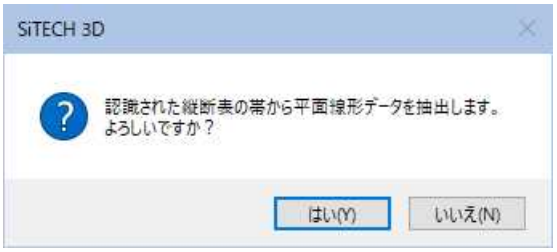
参照図面の縦断図から平面線形パラメータを自動抽出します。
要素法の場合も、自動抽出を実行することができます。

● 自動抽出の操作方法

1 平面メニューで[自動抽出]－[自動]をクリックすると、以下のメッセージが表示されます。



2 [はい]をクリックすると、以下のメッセージが表示されます。



3 [OK]をクリックすると、自動抽出処理が行われます。

No	線形種別	方向	主要点名称	X座標	Y座標	R1	A	R2	要素長さ
1	BP点		BP	-3208.272508	-42426.151751				
2	直線		NO.0+4.546						
3	開始クロソイド	左	NO.1+7.046			-90.000			0.000
4	単曲線	左	NO.3+3.640			-90.000			0.000
5	終了クロソイド	左	NO.4+6.140				45.000	-90.000	0.000
6	直線		NO.4+9.245						0.000
7	開始クロソイド	右	NO.5+14.245			100.000			0.000
8	単曲線	右	NO.9+6.404			100.000			0.000
9	終了クロソイド	右	NO.10+11.404				50.000	100.000	0.000
10	直線		EP	-3384.677860	-42314.238528				
11									

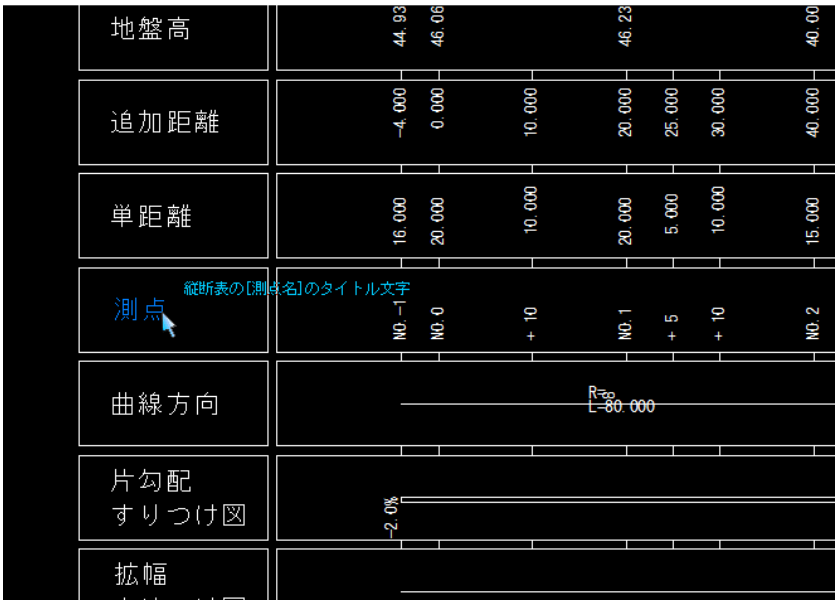
平面 －[半自動抽出]－[平面線形]

縦断図の縦断表の帯を指定して平面線形を半自動抽出する

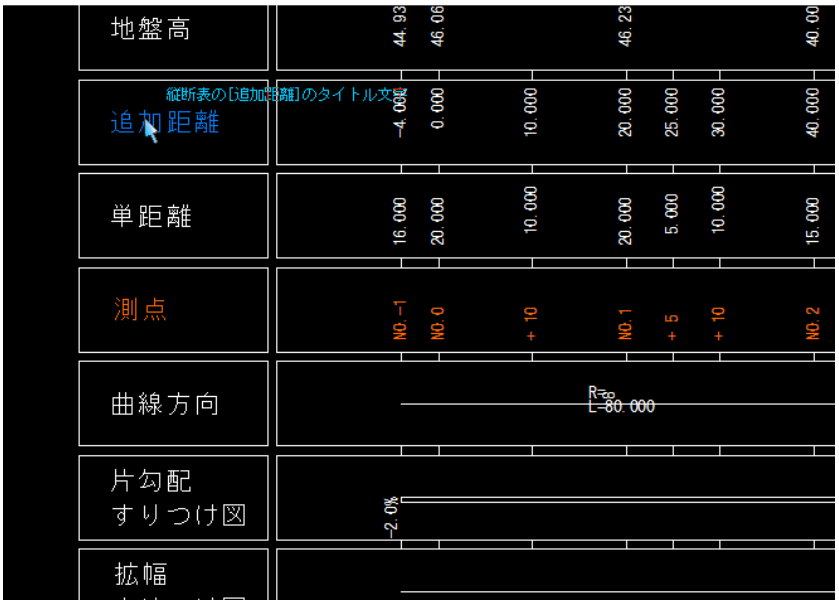
参照図面の縦断図の縦断表の帯を指定して、平面線形パラメータを半自動抽出します。

● 平面線形の操作方法

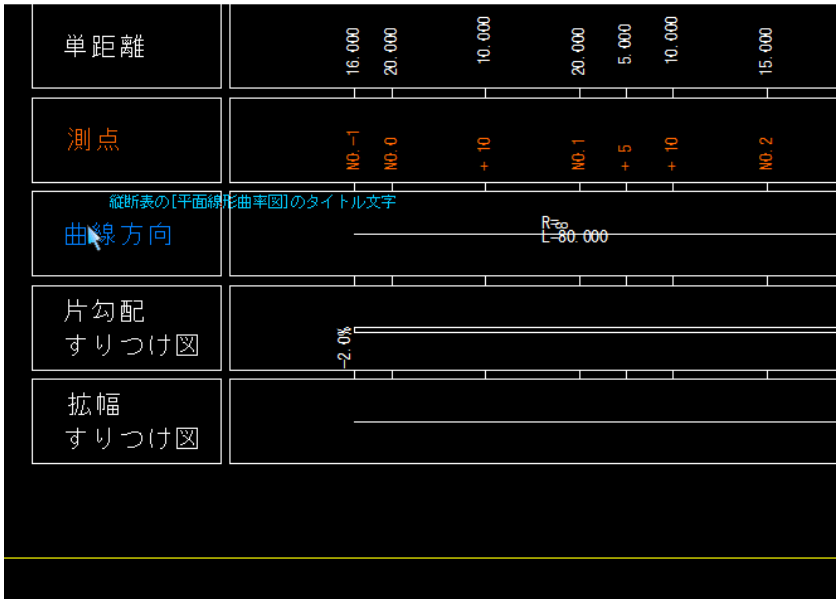
1 平面メニューで[半自動抽出]－[平面線形]をクリックすると、参照図面ウィンドウ内が縦断表の測点名のタイトル文字指定モードとなります。



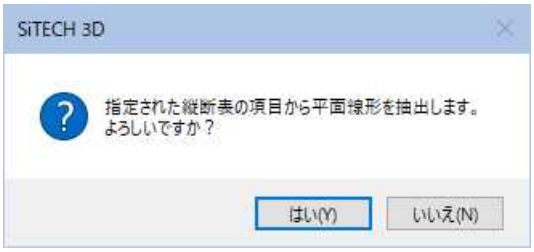
2 文字位置をクリックすると、次に縦断表の追加距離のタイトル文字指定モードとなります。



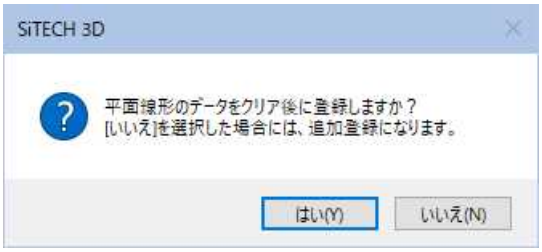
3 文字位置をクリックすると、次に縦断表の平面線形曲率図の指定モードとなります。



4 文字位置をクリックすると、次の確認メッセージが表示されます。



5 [はい]をクリックすると、既に平面線形データが存在する場合、次の確認メッセージが表示されます。



6 [はい]をクリックすると、既存の平面線形データをクリア後、データを登録します。[いいえ]をクリックした場合は、追加登録となります。

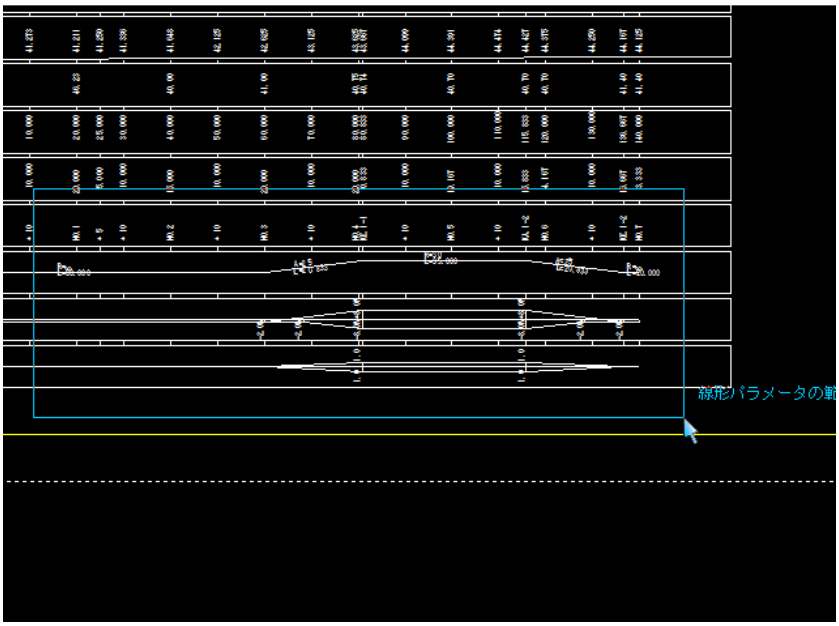
平面 －[半自動抽出]－[線形パラメータ]

縦断図の範囲を指定して線形パラメータを半自動抽出する

参照図面の縦断図内の範囲を指定して、線形パラメータを半自動抽出します。

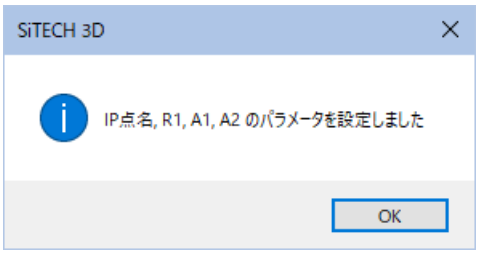
● 線形パラメータの操作方法

1 平面メニューで[半自動抽出]－[線形パラメータ]をクリックすると、参照図面ウィンドウ内の範囲指定モードとなります。



データウィンドウ内の「種別」が設定されている場合に、その種別に応じた線形パラメータが取得されます
例えば、種別が“単曲線”の場合には、取得対象の線形パラメータは、R の数値になります。

2 範囲が確定すると、線形パラメータが設定され、次のメッセージが表示されます。



3 [OK]をクリックすると、システム画面に戻ります。

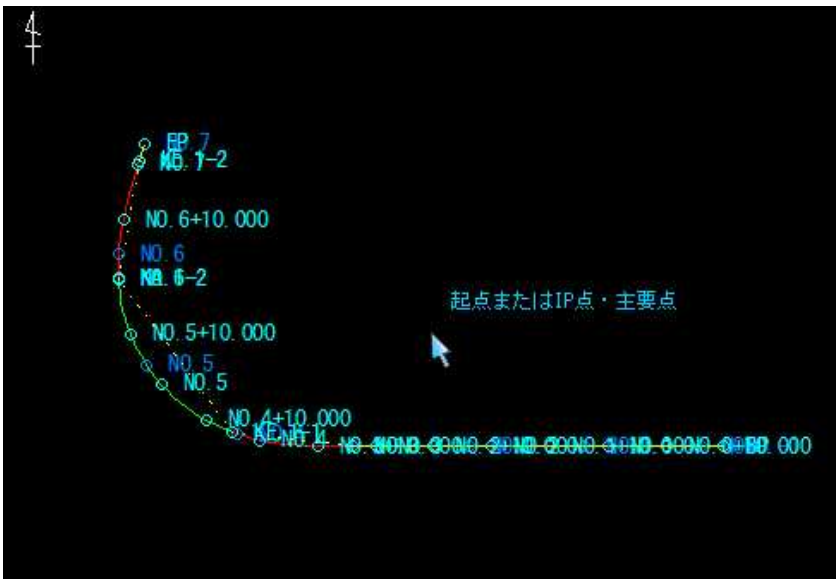
平面－[手動抽出]－[平面プレビュー]

平面プレビューから座標データを手動抽出する

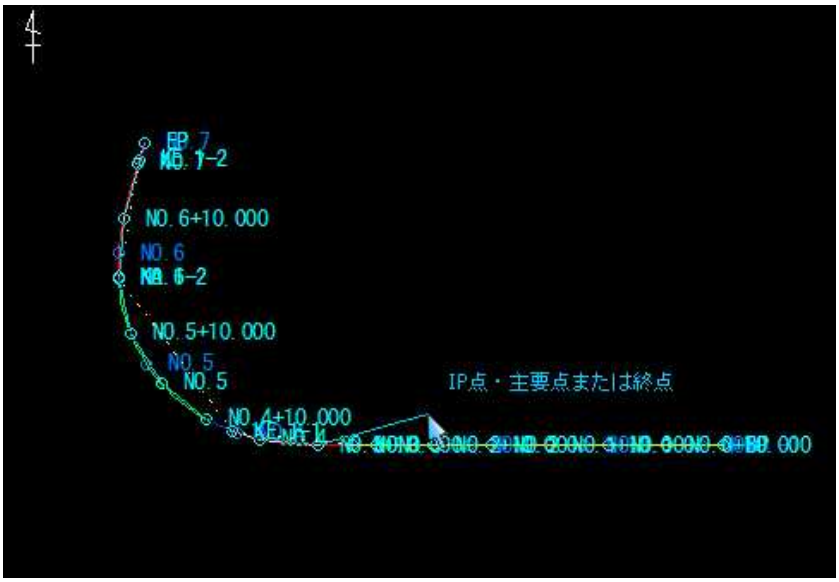
平面プレビューから平面線形データの XY 座標を手動抽出します。

● 手動抽出－平面プレビューの操作方法

1 平面メニューで[手動抽出]－[平面プレビュー]をクリックすると、平面プレビュー内の座標データの起点または主要点指定モードとなります。
但し、横断が中心線形に直交しない方法の場合には、[中心／端部-個別][中心／端部-同時]の選択ダイアログボックスが表示されます。



2 続けて主要点または終点をクリックして指定します。
[中心／端部-個別]の場合には、中心線形の主要点を最初に全て指定し、その後、端部座標を全て指定します。
[中心／端部-同時]の場合には、中心線形の主要点と端部座標を交互に指定します。



3 終点でダブルクリックもしくは、マウスの右クリックでポップアップメニューが表示されますので、[OK]を選択すると、平面線形データのＸＹ座標が抽出されます。

No	線形種別	方向	主要点名称	X座標	Y座標	R1	A	R2	要素長さ
1	BP点		BP	-3208.272508	-42426.151751				
2	直線		NO.0+4.546						
3	開始クロソイド	左	NO.1+7.046			-90.000			0.000
4	単曲線	左	NO.3+3.640			-90.000			0.000
5	終了クロソイド	左	NO.4+6.140				45.000	-90.000	0.000
6	直線		NO.4+9.245						0.000
7	開始クロソイド	右	NO.5+14.245			100.000			0.000
8	単曲線	右	NO.9+6.404			100.000			0.000
9	終了クロソイド	右	NO.10+11.404				50.000	100.000	0.000
10	直線		EP	-3384.677860	-42314.238528				
11									

平面－[手動抽出]－[文字]

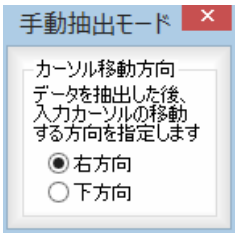
文字データを手動抽出する

文字データを手動抽出します。

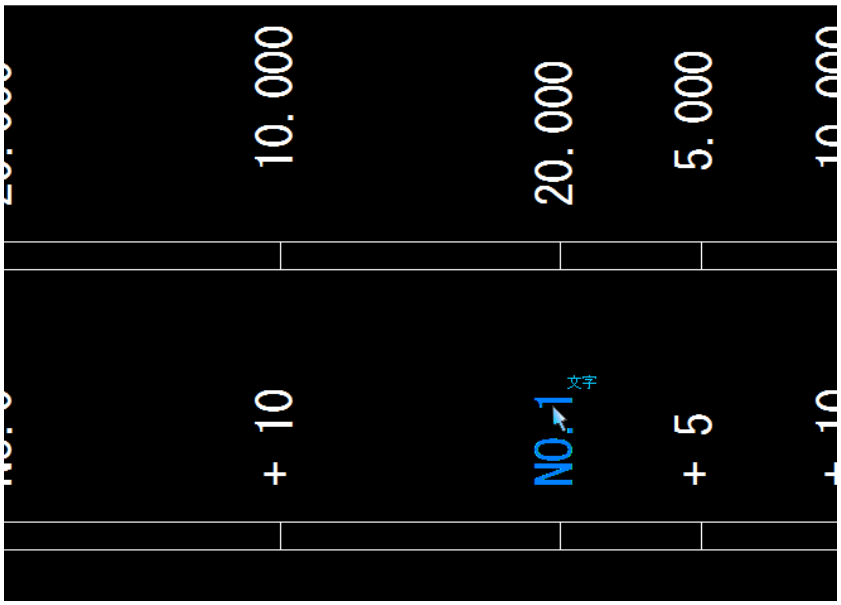
● 手動抽出－文字の操作方法

・IP法・要素法ともに図面の文字列から値を取得することができます。
平面線形にてR(半径)やA(パラメータ)を文字抽出する際に、CADで作図されている文章から「R」「A」を判定して文字を抽出します。

1 平面メニューで[手動抽出]－[文字]をクリックすると、「手動抽出モード」ダイアログボックスが表示されますので、データ抽出後のカーソル移動方向を選択します。



2 文字指定モードとなりますので、参照図面内の文字をクリックします。
文字データが抽出されます。



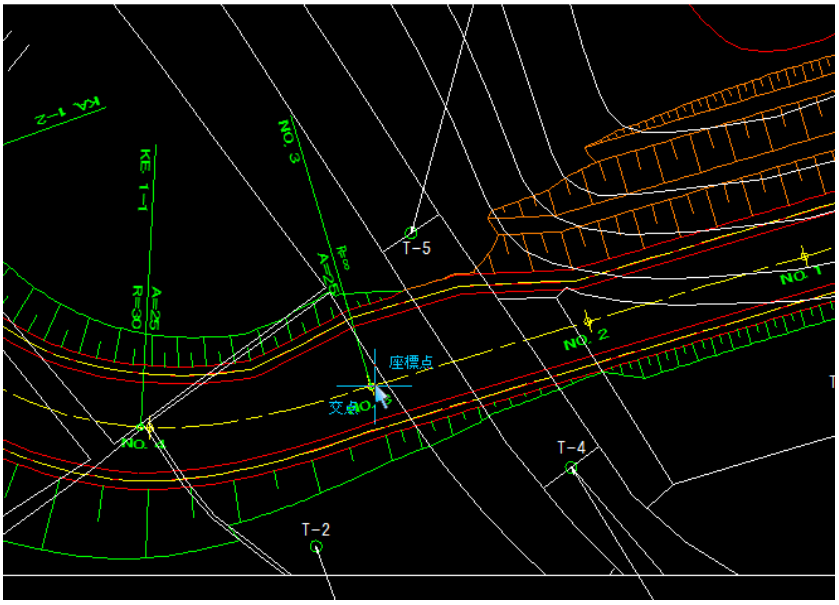
平面 －[手動抽出]－[座標]

座標データを手動抽出する

座標データを手動抽出します。

● 手動抽出－座標の操作方法

1 平面メニューで[手動抽出]－[座標]をクリックすると、座標点指定モードとなります。参照図面内の座標点をクリックします。



2 指定した座標が抽出されます。

3 コマンド

コマンドメニューから平面図の線形計算を実行します。また、計算実行後の座標登録や要素表示、任意の測点追加処理、ブレーキの設定や、線形確認、平面照査、寸法照査の各処理を行います。

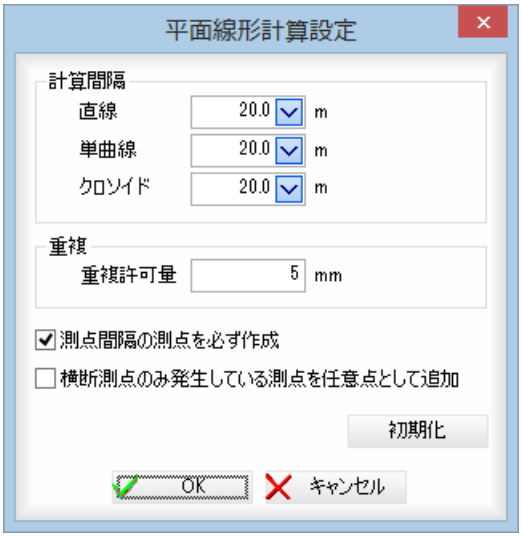
平面－[コマンド]－[計算実行]

線形計算を実行する

線形計算を実行します。

● 計算実行の操作方法

1 平面メニューで[コマンド]－[計算実行]または「線形計算結果」タブをクリックすると、「計算設定」ダイアログボックスが表示されます。



計算間隔

「直線」、「単曲線」、「クロソイド」それぞれの計算間隔を m 単位で入力します。

重複

「重複許可量」入力欄内に重複許可量を mm 単位で入力します。

入力データによっては、線形が重複する場合がありますが、その重複許可量を設定します。設定されている重複許可量を超える場合には、警告メッセージが表示されます。

測点間隔の測点を必ず作成

「測点間隔の測点を必ず作成」チェックマークをクリックすると、路線設定の測点間隔で設定されているピッチの測点を作成します。初期状態はオンです。

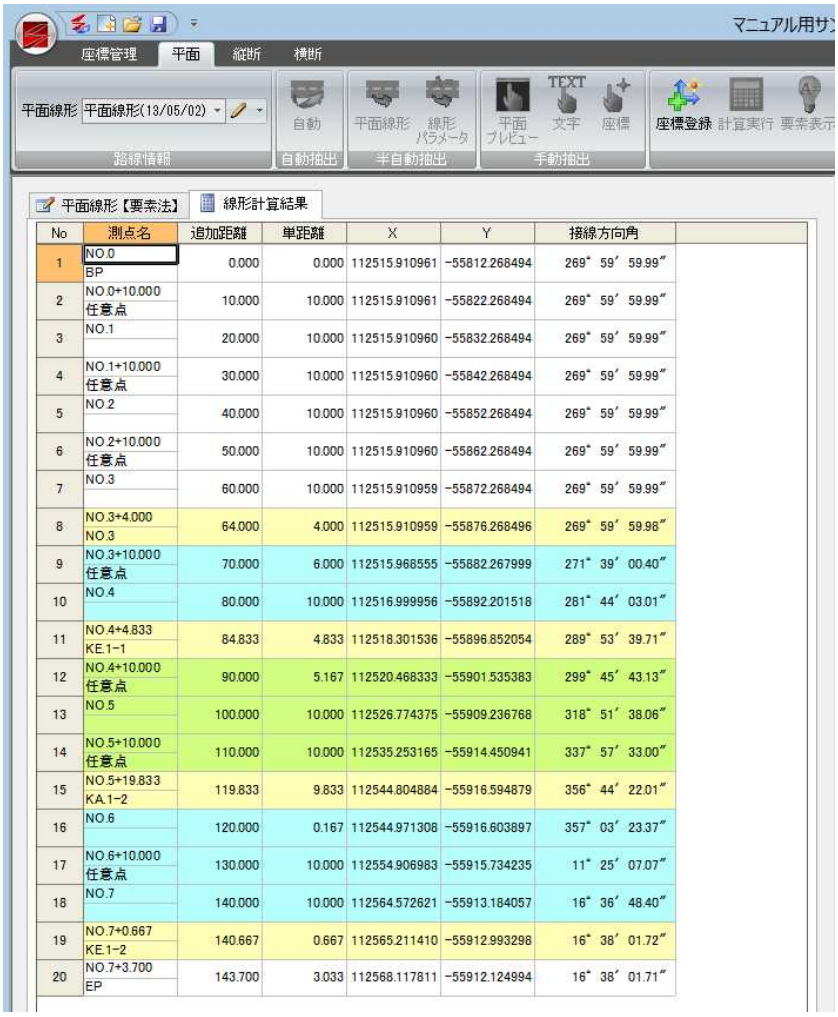
横断測点のみ発生している測点を任意点として追加

「横断測点のみ発生している測点を任意点として追加」チェックマークをオンにすると、横断測点に登録されているが平面計算では発生しない測点を、平面の任意点として登録します。初期状態はオフです。

[初期化]をクリックすると、設定を初期状態に戻します。

2 「計算設定」ダイアログボックスで[OK]をクリックすると、データウィンドウ内に線形計算結果が表示されます。

● 計算結果表示



No	測点名	追加距離	単距離	X	Y	接線方向角
1	NO.0 BP	0.000	0.000	112515.910961	-55812.268494	269° 59′ 59.99″
2	NO.0+10.000 任意点	10.000	10.000	112515.910961	-55822.268494	269° 59′ 59.99″
3	NO.1	20.000	10.000	112515.910960	-55832.268494	269° 59′ 59.99″
4	NO.1+10.000 任意点	30.000	10.000	112515.910960	-55842.268494	269° 59′ 59.99″
5	NO.2	40.000	10.000	112515.910960	-55852.268494	269° 59′ 59.99″
6	NO.2+10.000 任意点	50.000	10.000	112515.910960	-55862.268494	269° 59′ 59.99″
7	NO.3	60.000	10.000	112515.910959	-55872.268494	269° 59′ 59.99″
8	NO.3+4.000 NO.3	64.000	4.000	112515.910959	-55876.268496	269° 59′ 59.98″
9	NO.3+10.000 任意点	70.000	6.000	112515.968555	-55882.267999	271° 39′ 00.40″
10	NO.4	80.000	10.000	112516.999956	-55892.201518	281° 44′ 03.01″
11	NO.4+4.833 KE.1-1	84.833	4.833	112518.301536	-55896.852054	289° 53′ 39.71″
12	NO.4+10.000 任意点	90.000	5.167	112520.468333	-55901.535383	299° 45′ 43.13″
13	NO.5	100.000	10.000	112526.774375	-55909.236768	318° 51′ 38.06″
14	NO.5+10.000 任意点	110.000	10.000	112535.253165	-55914.450941	337° 57′ 33.00″
15	NO.5+19.833 KA.1-2	119.833	9.833	112544.804884	-55916.594879	356° 44′ 22.01″
16	NO.6	120.000	0.167	112544.971308	-55916.603897	357° 03′ 23.37″
17	NO.6+10.000 任意点	130.000	10.000	112554.906983	-55915.734235	11° 25′ 07.07″
18	NO.7	140.000	10.000	112564.572621	-55913.184057	16° 36′ 48.40″
19	NO.7+0.667 KE.1-2	140.667	0.667	112565.211410	-55912.993298	16° 38′ 01.72″
20	NO.7+3.700 EP	143.700	3.033	112568.117811	-55912.124994	16° 38′ 01.71″

[線形計算結果]タブの一覧内に、各種の色分けで表示されます。

線形曲線の開始・終了点 → 黄色

単曲線中 → 緑色

クロソイド曲線中 → 水色

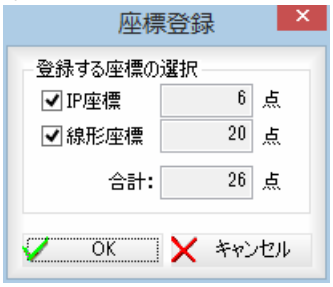
平面－[コマンド]－[座標登録]

計算結果の測点を座標管理に登録する

計算された測点を座標管理に登録します。

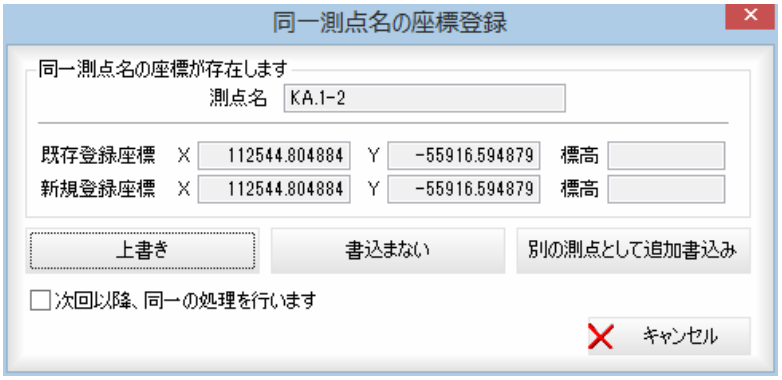
● 座標登録の操作方法

1 平面メニューで[コマンド]－[座標登録]をクリックすると、「座標登録」ダイアログボックスが表示されます。



登録する座標の選択
「IP 座標」、「線形座標」それぞれの点数と合計数が表示されます。
いずれもチェックマークをクリックすることにより、登録対象となります。

2 同じ名前の測点名が存在する場合、「同一測点名の座標登録」ダイアログボックスが表示されます。



測点名、既存登録座標、新規登録座標が表示されます。
[上書き]、[書込まない]、[別の測点として追加書込み]のいずれかをクリックします。

上書き
[上書き]をクリックすると、新規登録座標で測点を登録します。

書込まない
[書込まない]をクリックすると、新規登録座標は登録しません。

別の測点として追加書込み
[別の測点として追加書込み]をクリックすると、別の測点として追加して書込みます。

「次回以降、同一の処理を行います」チェックマークをクリックすると、次回以降、同じ処理を行います。

3 すべての測点の登録が終了すると、処理を終了します。

平面－[コマンド]－[要素表示]

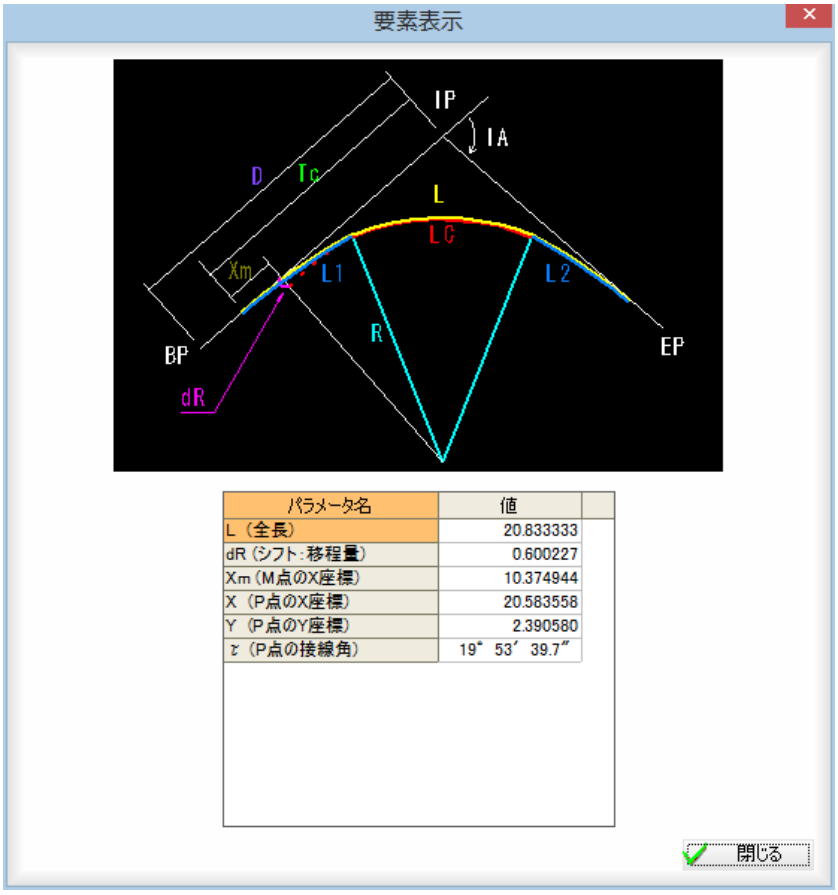
カーブのパラメータを表示する

選択した種別のカーブのパラメータを表示します。

● 要素表示の操作方法

・起点、終点、折れ点では、要素表示は実行できません。

1 平面メニューで線形計算一覧内のいずれかの種別を選択し、[コマンド]－[要素表示]をクリックすると、「要素表示」ダイアログボックスが表示されます。



2 [閉じる]をクリックすると、「要素表示」ダイアログボックスの表示を終了します。

平面 ー[コマンド]ー[任意点追加]

線形上に任意の測点を追加する

線形上に任意の測点を追加します。

● 任意点追加の操作方法

1 平面メニューで線形計算結果タブに移動し、[コマンド]ー[任意点追加]をクリックすると、「任意点追加」ダイアログボックスが表示されます。

キーボードから入力

「測点名１」、「測点名２」、「追加距離」の入力欄内をクリックし、測点名や追加距離を入力します。

スポイト

（スポイトアイコン）をクリックすると、文字抽出モードとなります。マウスにて文字列をクリックすると、選択している入力欄内に入力されます。

追加／挿入／削除

[追加]　：末尾に選択している行数分、行を追加します。
[挿入]　：選択位置に、選択している行数分行を挿入します。
[削除]　：選択している行を削除します。

2 **一括追加**

[一括追加]をクリックすると、「任意点一括作成」ダイアログボックスが表示されます。

開始測点、終了測点

開始測点、終了測点をそれぞれドロップダウンリストより選択します。

作成間隔入力

「作成間隔」入力欄内に間隔をｍ単位で入力します。

[OK]をクリックすると、「任意点追加」ダイアログボックスに戻ります。

3 「任意点追加」ダイアログボックスで[OK]をクリックすると、任意点が追加されます。

平面－[コマンド]－[ブレーキ設定]

ブレーキを設定する

ブレーキを設定します。

● ブレーキ設定の操作方法

1 平面メニューで線形計算結果タブに移動し、[コマンド]－[ブレーキ設定]をクリックすると、「ブレーキ設定」ダイアログボックスが表示されます。

キーボードから入力

「測点名」、「追加距離」、「変更測点名」の入力欄内をクリックし、測点名や距離を入力します。

追加／挿入／削除

[追加]　：末尾に選択している行数分、行を追加します。
[挿入]　：選択位置に、選択している行数分行を挿入します。
[削除]　：選択している行を削除します。

2 「ブレーキ設定」ダイアログボックスで[OK]をクリックすると、ブレーキ点が追加されます。

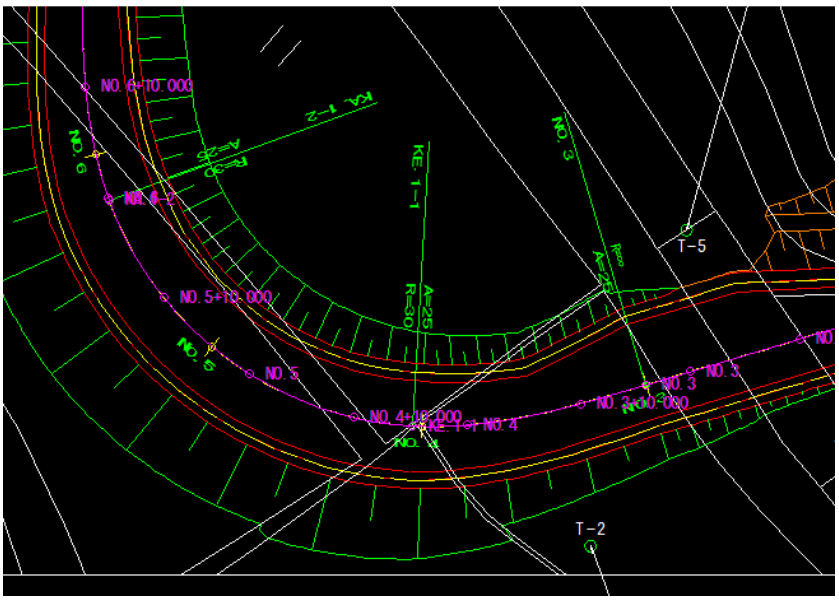
平面 ー[コマンド]ー[線形確認]

線形確認

平面の参照図面上に道路中心線および測点を重ねてチェックします。

● 線形確認の操作方法

1 平面メニューで[コマンド]ー[線形確認]をクリックすると、参照図面の平面図面上で平面線形がブリンク表示されます。



2 参照図面上で右ボタンをクリックし、ポップアップメニューより[終了]をクリックすると、線形確認処理を終了します。

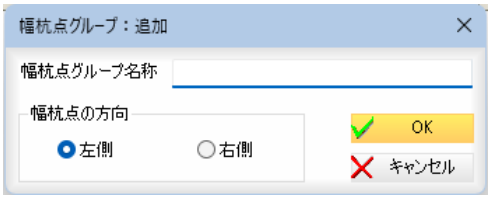
平面－[コマンド]－[幅杭点]

線形上に幅杭点を追加する

線形上に幅杭点を追加します。このコマンドは、計算結果モードでのみ選択可能です。

● 幅杭点の操作方法

1 平面メニューで[コマンド]－[幅杭点]をクリックすると、「幅杭点グループ：追加」ダイアログボックスが表示されます。



幅杭点グループ名称の入力
「幅杭点グループ名称」入力欄内に入力します。
幅杭点の方向
幅杭点の方向を「左側」、「右側」いずれかのラジオボタンをクリックして選択します。

2 「幅杭点グループ：追加」ダイアログボックスで[OK]をクリックすると、「幅杭点」ダイアログボックスが表示されます。

■幅杭点グループ名の追加・編集・削除
幅杭点グループ名の追加
[追加]をクリックすると、「幅杭点グループ：追加」ダイアログボックスが表示されます。グループ名を入力し、[OK]をクリックすると、「幅杭点」ダイアログボックスに戻ります。複数のグループ名が存在する場合は、ドロップダウンリストから選択します。

幅杭点グループ名の編集
[編集]をクリックすると、「幅杭点グループ：編集」ダイアログボックスが表示されます。グループ名を入力し、[OK]をクリックすると、「幅杭点」ダイアログボックスに戻ります。

幅杭点グループ名の削除

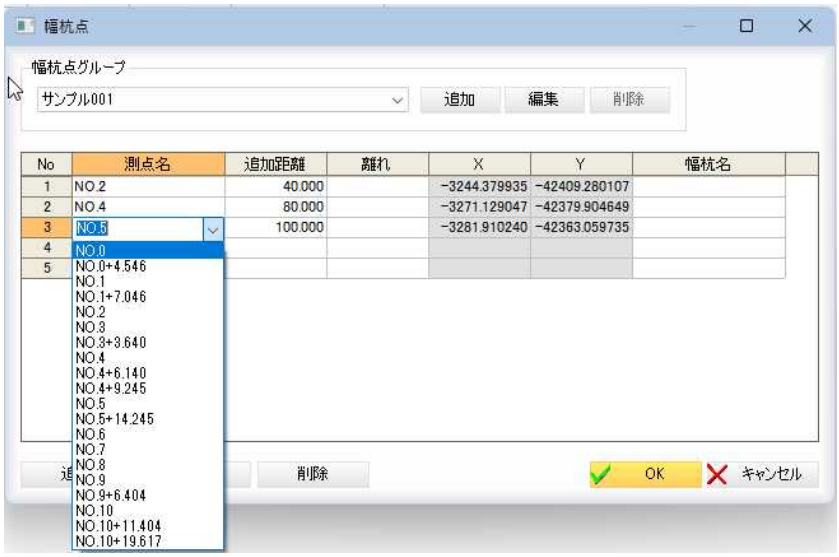
[削除]をクリックすると、確認メッセージが表示されます。

[はい]をクリックすると、現在表示中の幅杭点グループが削除されます。

■測点一覧の操作

測点の選択

測点欄のドロップダウンリストよりいずれかの測点を選択します。



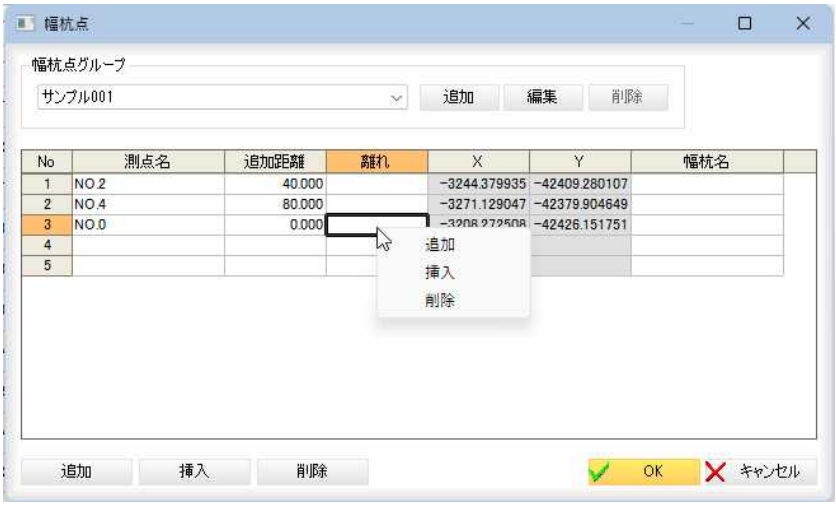
追加・挿入・削除

[追加]、[挿入]、[削除]ボタンまたは、一覧表示内で右ボタンをクリックして表示されるポップアップメニューより、以下の追加・挿入・削除処理を行います。

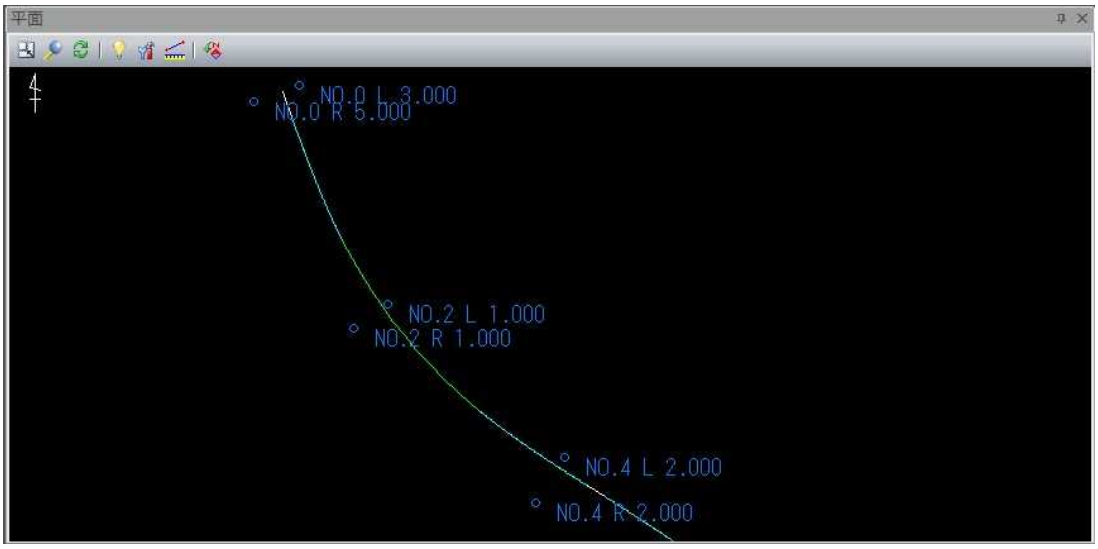
[追加] ：末尾に行を追加します。

[挿入] ：選択位置に１行挿入します。

[削除] ：選択位置の行を削除します。



3 「幅杭点」ダイアログボックスで[OK]をクリックすると、線形上に幅杭点が追加されます。


平面
NO.0 L 3.000
NO.0 R 5.000
NO.2 L 1.000
NO.2 R 1.000
NO.4 L 2.000
NO.4 R 2.000

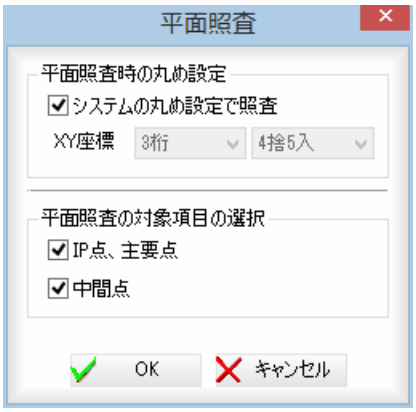
平面 ー[コマンド]ー[平面照査]

平面図の主要点をチェックする

平面図の IP 点、主要点や中間点が正しいかチェックします。

● 平面照査の操作方法

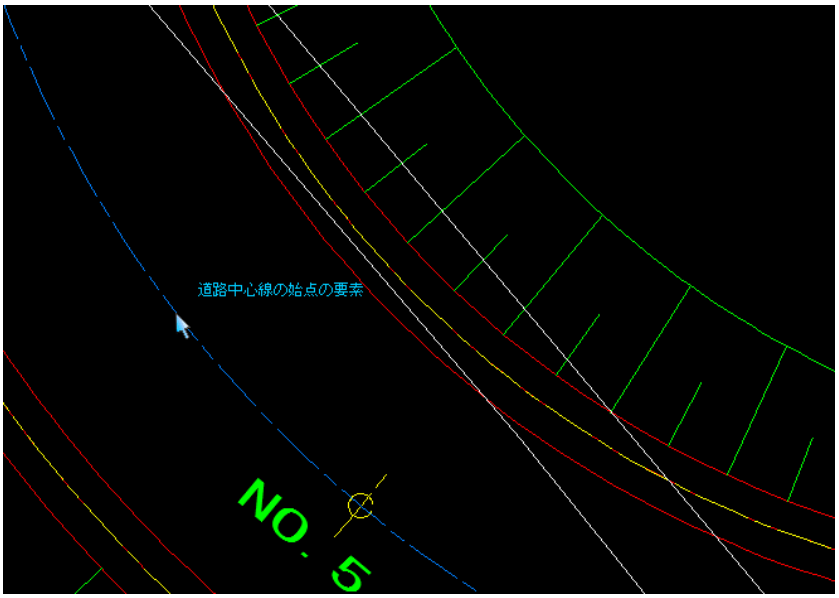
1 平面メニューで[コマンド]ー[平面照査]をクリックすると、「平面照査」ダイアログボックスが表示されます。



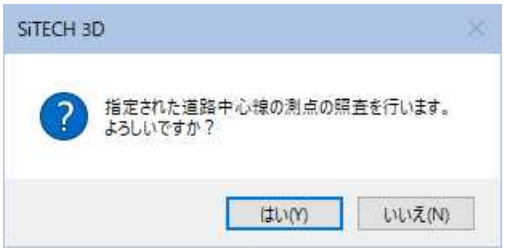
平面照査時の丸め設定
「システムの丸め設定で照査」チェックマークをオンにすると、[ツール]ー[丸め設定]で設定された丸め設定で照査が行われます。
オフの場合は、XY 座標の桁数および丸め設定を、それぞれドロップダウンリストより選択することができます。

平面照査の対象項目の選択
「IP 点、主要点」、「中間点」チェックマークをオンにすると、平面照査対象となります。

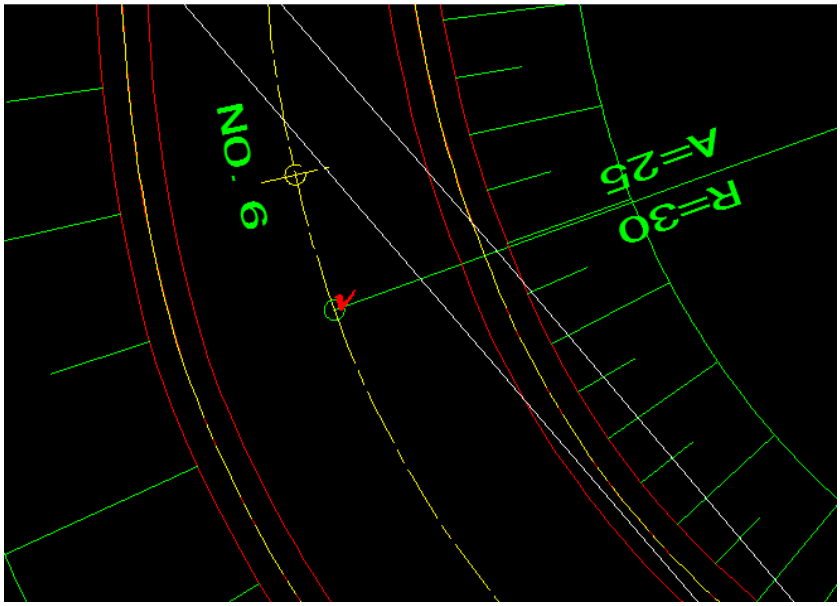
2 [OK]をクリックすると、道路中心線の始点の要素指定モードとなりますので、始点要素をマウスでクリックします。



3 次に終点指定モードとなりますので、終点要素をマウスでクリックします。
確認メッセージが表示されます。

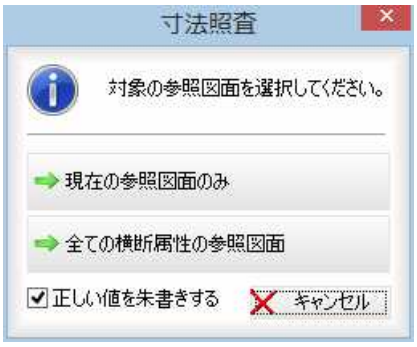


4 [はい]をクリックすると、道路中心線の測点をチェックし、正しい測点にチェックマーク（✔点）を配置します。
参照図面上で右ボタンをクリックし、ポップアップメニューより[終了]をクリックすると、平面照査処理を終了します。



● 寸法照査の操作方法

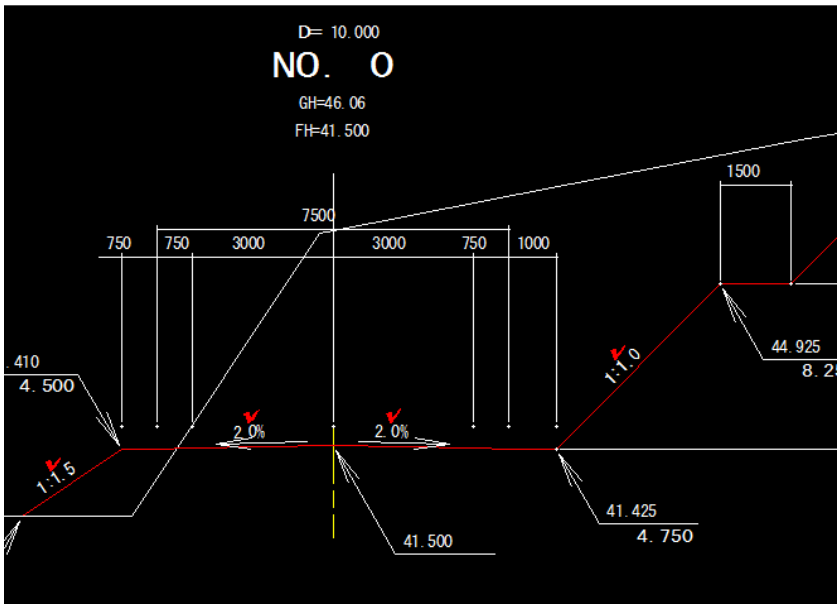
1 平面メニューで[コマンド]ー[寸法照査]をクリックすると、「寸法照査」ダイアログボックスが表示されます。



2 **対象図面の選択**
「現在の参照図面のみ」、「全ての横断属性の参照図面」をクリックすると、いずれかの方法で寸法照査処理を行います。

正しい値を朱書きする
「正しい値を朱書きする」チェックマークをクリックすると、間違った寸法値や勾配数値がある場合、図面上に正しい数値が朱書きされます。

3 参照図面の寸法をチェックし、正しい寸法値や勾配数値にチェックマーク（✔点）を配置し、間違った寸法値や勾配数値上に正しい数値を追加します。



Part 3 縦断メニュー

1 路線情報

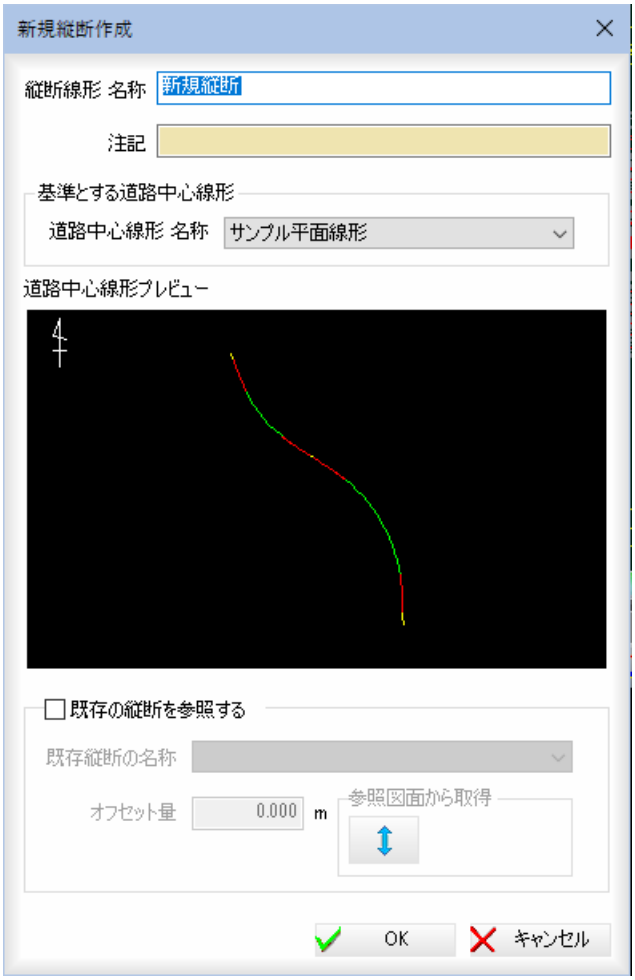
縦断線形の新規作成・選択・編集、路線設定の確認を行います。

縦断 ー[路線情報]

縦断線形を新規作成する

新規に縦断線形を作成します。

1 編集中のデータに縦断線形が存在しない場合、[縦断]メニューを選択すると、「新規縦断作成」ダイアログボックスが表示されます。



縦断線形 名称

「縦断線形 名称」入力欄内に名称を入力します。
注記がある場合は、[注記]入力欄内に入力します。

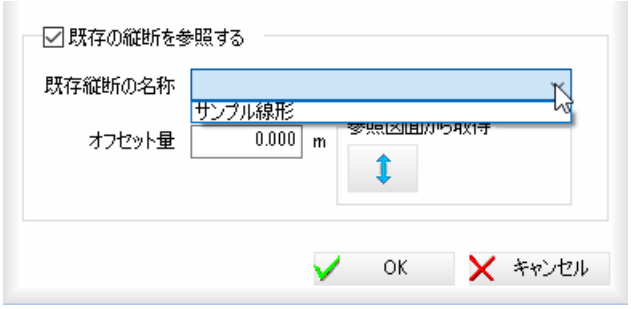
基準とする道路中心線形

「道路中心線形 名称」のドロップダウンリストからいずれかを選択します。

既存の縦断を参照する

「既存の縦断を参照する」チェックマークをクリックすると、新規作成する縦断データに、既存の縦断データが複写された状態になります。

「既存縦断の名称」のドロップダウンリストからいずれかを選択します。



オフセット量の入力

「オフセット量」入力欄内にオフセット量をｍ単位で入力します。

参照図面から取得

をクリックすると、離れ・比高距離計測モードとなりますので、参照図面内で基準点をクリックします。次にオフセット位置をクリックすると、「オフセット量」入力欄内にオフセット距離が入力されます。

2 [OK]をクリックするとシステム画面に戻ります。

縦断 －[路線情報]

平面線形を確認する

1 現在選択されている平面データがドロップダウンリストに表示されています。

2 [平面線形]ドロップダウンリスト横の をクリックすると、「路線設定」ダイアログボックスが表示されます。平面線形の路線設定を確認します。

平面線形計算開始点の設定

「計算開始点名」入力欄内に開始点名が表示されます。

「計算開始点の追加距離」入力欄内に追加距離がｍ単位で表示されます。

3 [OK]をクリックするとシステム画面に戻ります。

縦断 －[路線情報]（縦断線形選択・編集）

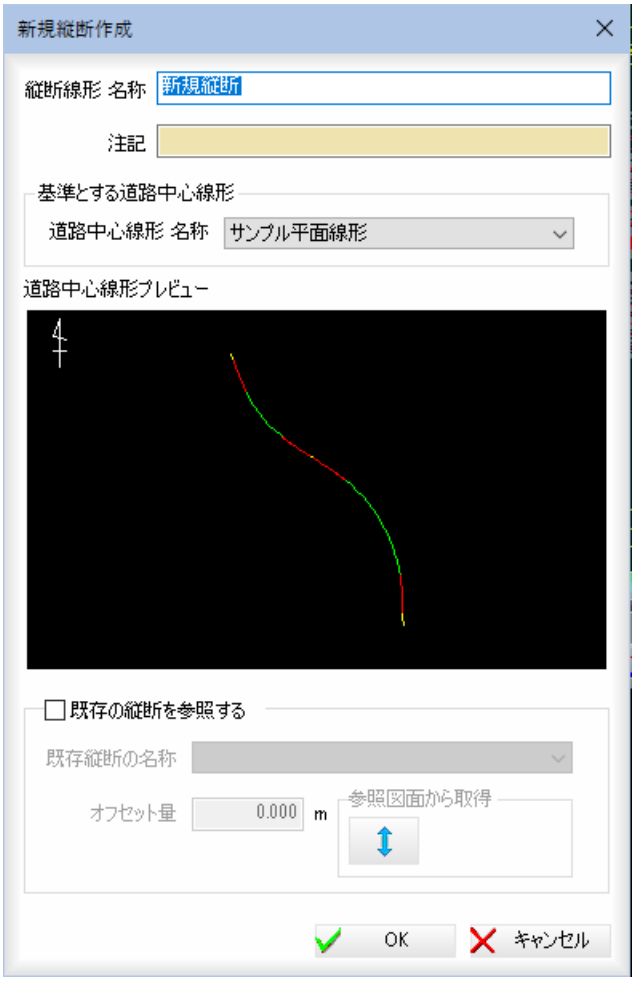
縦断線形を選択・編集する

現在表示中の縦断線形を選択・編集します。

● 縦断線形を選択する

1 縦断メニューの[路線情報]で[縦断線形]のドロップダウンリストより、いずれかの縦断線形を選択します。

2 [縦断線形]ドロップダウンリストから[新規作成]を選択すると、「新規縦断作成」ダイアログボックスが表示されます。



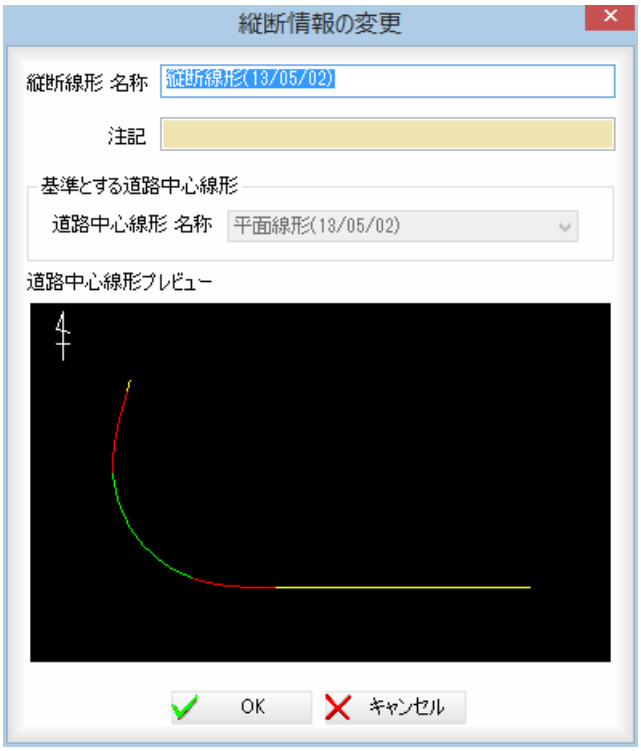
操作方法は、「縦断線形を新規作成する」と同様です。⇒参照ページへ

3 [OK]をクリックすると、データウィンドウに表示されている縦断線形が切り替わりますので、各種処理を行ってください。

● 縦断線形を編集する

1 縦断メニューの[路線情報]で をクリック、またはドロップダウンリストより[編集]をクリックします。

「縦断情報の変更」ダイアログボックスが表示されますので、「縦断線形 名称」および[注記]入力欄内を変更します。



2 [OK]をクリックすると、システム画面に戻ります。

● 縦断線形を作成する

1 縦断メニューの[路線情報]で「縦断線形」のドロップダウンリストから[新規作成]をクリック、またはドロップダウンリストより[作成]をクリックします。

「新規縦断作成」ダイアログボックスが表示されます。

操作方法は、「縦断線形を新規作成する」と同様です。⇒参照ページへ

2 [OK]をクリックするとシステム画面に戻ります。

● 縦断線形を削除する

・縦断線形が１つだけの場合には、削除できません。

1 縦断メニューの[路線情報]でドロップダウンリストより[削除]をクリックします。

2 現在選択中の縦断線形が削除されます。

2 縦断データ入力

縦断線形のデータを、キーボードからの入力、自動、半自動、手動の各種抽出により行います。

● データウィンドウの構成

1 「縦断」メニューのデータウィンドウ内の[縦断変化点]、[計算結果(中間点)]、[計算結果(勾配／幅員)]、[縦断現況]のタブをクリックすると、データウィンドウの構成が変わります。

縦断現況へのデータ入力（現況取込処理）についての解説は、「３．縦断計算処理の表示」を参照ください。⇒参照ページへ

縦断（縦断変化点キー入力）

キーボードからデータを入力する

キーボードから測点名、追加距離、折れ点高、VCL を入力します。
ポップアップメニューより追加・挿入・削除処理を行うこともできます。

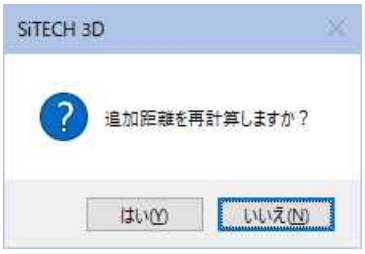
● データを入力する

1 データウィンドウ内上部の「測点名」、「追加距離」、「折れ点高」、「VCL」の入力欄内をクリックし、それぞれデータを入力します。

No	測点名	追加距離	折れ点高	VCL	計画高	勾配	VCR
1	NO.0	0.000	168.993	0.000	168.993	-6.000	0.000
2	NO.3+8.920	68.920	164.858	60.000	166.170	-6.000	342.869
3	NO.8+7.140	167.140	176.153	80.000	174.353	11.500	444.452
4	NO.10+19.617	219.617	172.742	0.000	172.742	-6.500	0.000
5							

測点名の変更

測点名を変更する際、追加距離が既に入力されている場合は、以下の確認メッセージが表示されます。



[はい]をクリックすると、追加距離を再計算します。
[いいえ]をクリックすると、追加距離を再計算せずに測点名を変更します。

2 **標準勾配／標準幅員、勾配／拡幅量**

No	測点名	追加距離	勾配(左)	拡幅量(左)	勾配(右)	拡幅量(右)	種別
1	NO.0	0.000	-2.000	0.000	-2.000	0.000	
2	NO.0+4.546	4.546	-2.000	0.000	-2.000	0.000	
3	NO.0+15.796	15.796	-2.000	0.000	2.000	0.000	

標準勾配と標準幅員、勾配と拡幅量の変化点の位置とそれぞれの値を入力します。
「標準勾配」ドロップダウンリストよりいずれかの勾配を選択します。
「標準幅員(左)」、「標準幅員(右)」入力欄内にそれぞれ数値を入力します。
「拡幅計算方式」は、「比例」、「高次放物線」のいずれかのラジオボタンをクリックして選択します。

データウィンドウ下部一覧内の「測点名」、「追加距離」、「勾配(左)」、「拡幅量(左)」、「勾配(右)」、「拡幅量(右)」の入力欄内をクリックし、それぞれデータを入力します。

3 **計算結果(中間点)の表示**

データウィンドウ内の[計算結果(中間点)]タブをクリックすると、計算結果が表示されます。

4 **計算結果(勾配／幅員)の表示**

データウィンドウ内の[計算結果(勾配／幅員)]タブをクリックすると、計算結果が表示されます。

● 縦断変化点表示内のポップアップメニュー

1 縦断変化点一覧表示上でマウスの右ボタンクリックのポップアップメニューを表示し、各種の編集処理を行います。

[追加]　　：末尾に選択している行数分、行を追加します。
[挿入]　　：選択位置に、選択している行数分、行を挿入します。
[削除]　　：選択している行を削除します。

線形計算結果一覧から取得

「線形計算結果参照」ダイアログボックスが表示されます。
取得するデータを「対象」チェックマークをクリックして選択します。

[全選択]／[全解除]

一覧表示内のすべてのチェックマークをオン、またはオフにします。

「線形計算結果参照」ダイアログボックスで[OK]をクリックすると、選択したデータが取り込まれます。取得したデータは追加距離で並び替えが行われます。

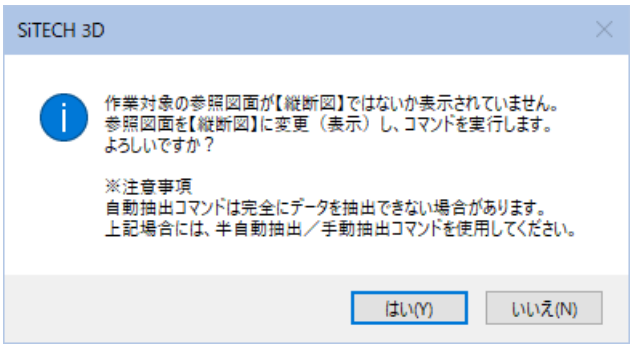
縦断－[自動抽出]－[自動]

縦断図から縦断線形パラメータを自動抽出する

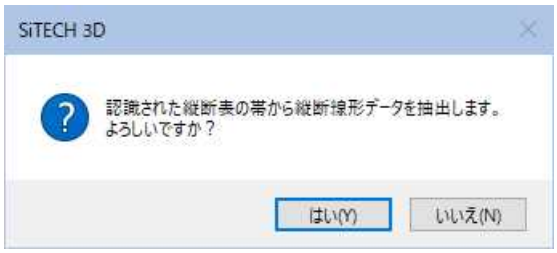
参照図面の縦断図から縦断線形と片勾配、拡幅を抽出します。

● 自動抽出の操作方法

1 縦断メニューで[自動抽出]－[自動]をクリックすると、以下のメッセージが表示されます。



2 [はい]をクリックすると、以下のメッセージが表示されます。



3 [はい]をクリックすると、自動抽出処理が行われます。

縦断 －[半自動抽出]－[縦断線形]

縦断図の縦断表の帯を指定して縦断線形を抽出する

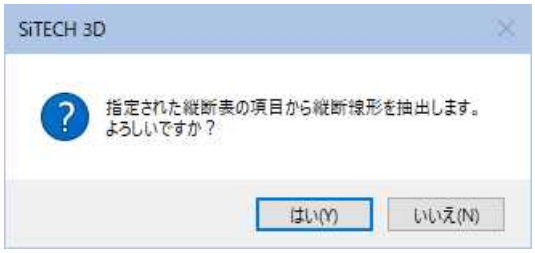
参照図面の縦断図の縦断表の帯を指定して、縦断線形を抽出します。

● 半自動抽出(縦断線形)の操作方法

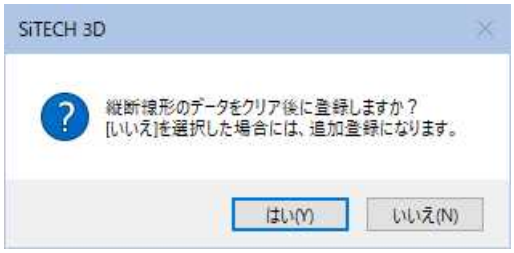
1 縦断メニューで[半自動抽出]－[縦断線形]をクリックすると、参照図面ウィンドウ内が[測点名]のタイトル文字指定モードとなります。

2 縦断表の[測点名]タイトルを示す文字列要素をクリックすると、次に縦断表の[追加距離]のタイトル文字指定モードとなります。
縦断表の[追加距離]タイトルを示す文字列要素をマウスでクリックすると、縦断表の[計画高]、[縦断線形(勾配)]の順にタイトル文字指定モードとなります。

3 それぞれマウスでクリックすると、以下の確認メッセージが表示されます。



4 [はい]をクリックすると、既に縦断線形データが存在する場合、以下の確認メッセージが表示されます。



5 [はい]をクリックすると新しい抽出データに書き換えられます。
[いいえ]をクリックすると、抽出データを追加登録します。

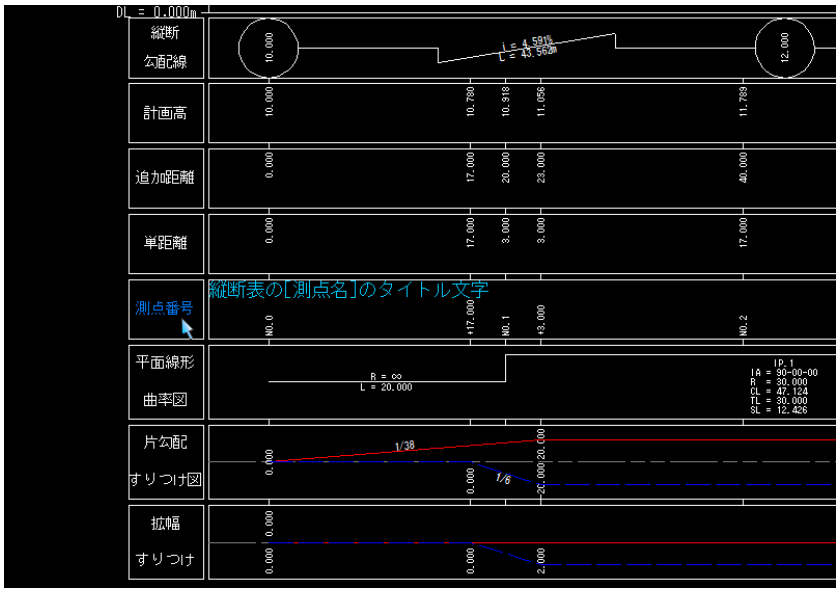
縦断 －[半自動抽出]－[勾配・拡幅]

縦断図の縦断表の帯を指定して片勾配・拡幅を抽出する

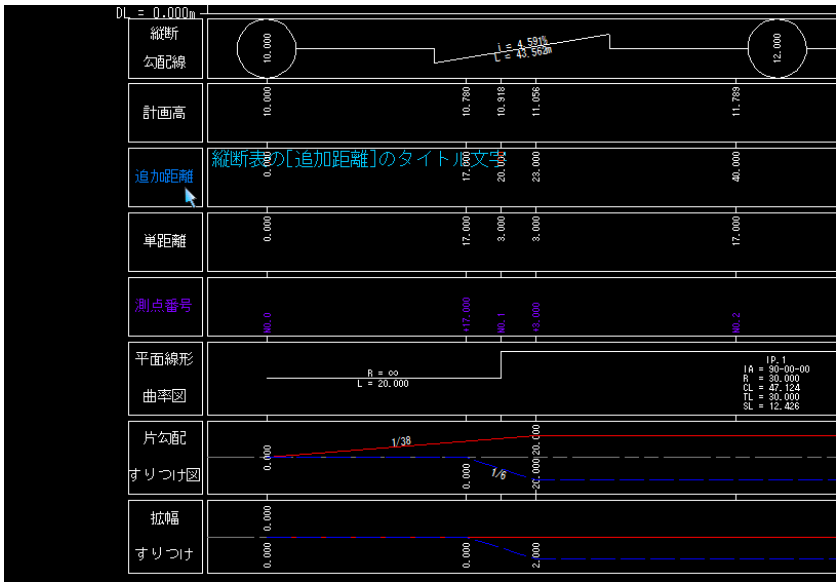
参照図面の縦断図の縦断表の帯を指定して、片勾配および拡幅を抽出します。
前回縦断表の[測点名][追加距離]タイトルを示す文字列要素を半自動抽出コマンドで指定した場合には、それを使用することができます。

● 半自動抽出(勾配・拡幅)の操作方法

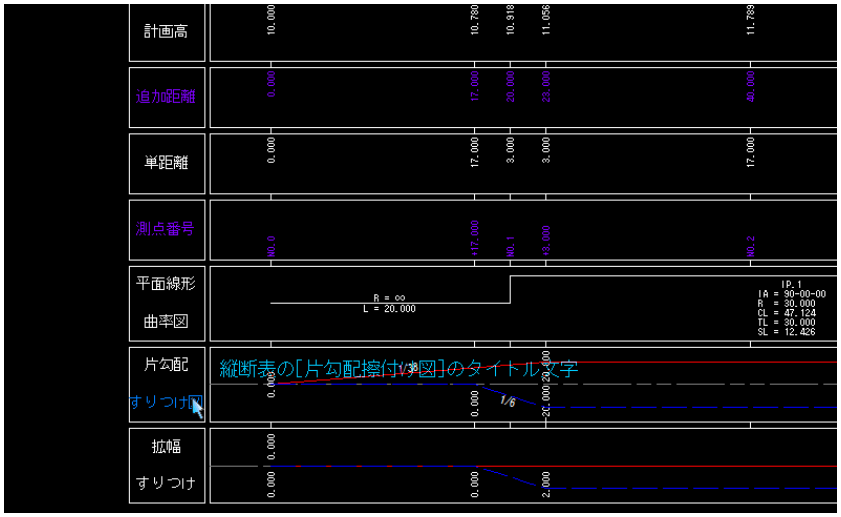
1 縦断メニューで[半自動抽出]－[勾配・拡幅]をクリックすると、参照図面ウィンドウ内の[測点名]のタイトル文字指定モードとなります。



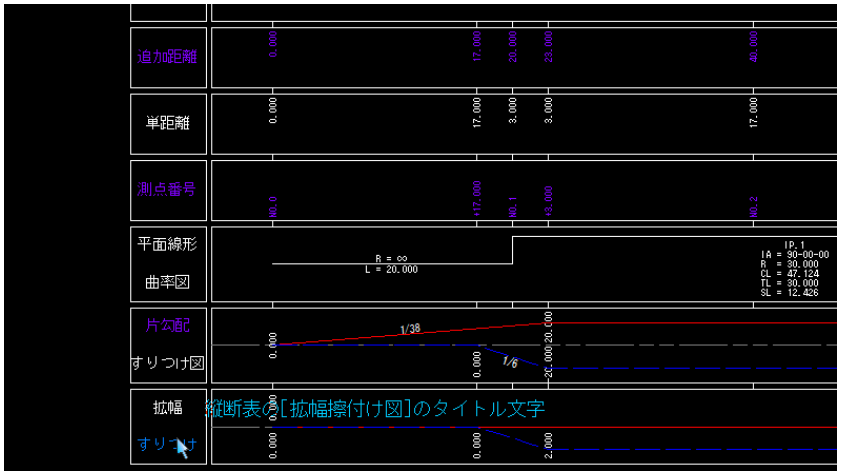
2 縦断表の[測点名]タイトルを示す文字列要素をクリックすると、次に縦断表の[追加距離]のタイトル文字指定モードとなります。いずれかの文字をクリックします。



3 縦断表の[追加距離]タイトルを示す文字列要素をマウスでクリックすると、縦断表の[片勾配擦付け図]のタイトル文字指定モードとなりますので、いずれかの文字をクリックします。



4 縦断表の[片勾配擦付け図]のタイトル文字を示す文字列要素をマウスでクリックすると、縦断表の[拡幅擦付け図]のタイトル文字指定モードとなりますので、いずれかの文字をクリックします。



5 「横断・勾配拡幅変化点入力」ダイアログボックスが表示されます。勾配・拡幅変化点の各種設定を行います。

測点名・追加距離
「測点名」、「追加距離」入力欄内にそれぞれ入力します。
変化点指定
[変化点指定]をクリックすると、マウス指定モードになりますので、いずれかの変化点をクリックして指定します。

勾配設定
「勾配(左)」、「勾配(右)」入力欄内にそれぞれ入力します。

(スポイトボタン)をクリックすると、図面内の文字抽出モードとなりますので、いずれかの文字列をクリックします。入力欄内に文字列が追加されます。

(プラスマイナスボタン)をクリックすると、プラス・マイナスが切り替わります。

拡幅設定
「拡幅(左)」、「拡幅(右)」入力欄内にそれぞれ入力します。

(スポイトボタン)をクリックすると、図面内の文字抽出モードとなりますので、いずれかの文字列をクリックします。入力欄内に文字列が追加されます。

(プラスマイナスボタン)をクリックすると、プラス・マイナスが切り替わります。

測点の切り替え

をクリックして測点の切り替えを行います。

6 [登録]をクリックすると、標準勾配/標準幅員、勾配/拡幅量で選択されている箇所に対し追加距離・勾配・拡幅が入力されます。

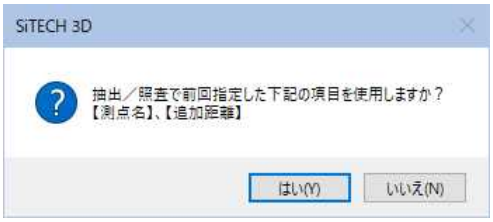
縦断－[半自動抽出]－[測点]

縦断図の縦断表の測点、文字を抽出する

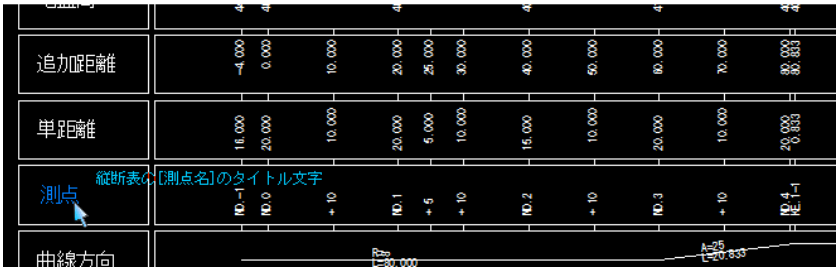
縦断図から測点だけ、または測点と文字を抽出します。

● 半自動抽出(測点)の操作方法

1 縦断メニューで[半自動抽出]－[測点]をクリックすると、前回指定したデータがある場合、以下の確認メッセージが表示されます。



[はい]をクリックすると、前回指定した測点名、追加距離で拡幅の抽出が行われます。
[いいえ]をクリックすると、参照図面ウィンドウ内が[測点名]のタイトル文字指定モードとなります。



2 縦断表の[測点名]タイトルを示す文字列要素をクリックすると、次に縦断表の[追加距離]のタイトル文字指定モードとなりますので、縦断表の[追加距離]タイトルを示す文字列要素をマウスでクリックします。

3 **抽出方法**

「抽出モード」ダイアログボックスにて「測点」、「測点/文字」いずれかのラジオボタンをクリックして選択します。

以降の操作は抽出方法により操作が異なります。
「測点」を選択 → 操作4へ。
「測点/文字」を選択 → 操作5へ。

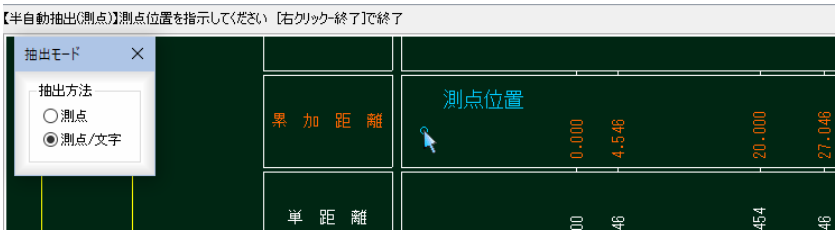
4 **測点の抽出方法**

「抽出モード」ダイアログボックスで「測点」ラジオボタンをクリックして選択します。測点位置をマウスでクリックし測点の抽出を行います。

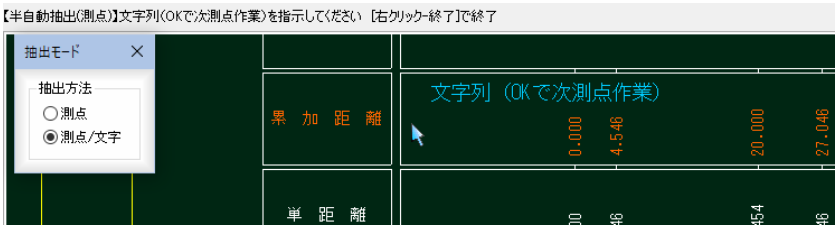
測点の抽出モードは、右クリックによるポップアップメニュー [終了]を選択するまで、連続して実行することができます。

5 測点/文字の抽出方法

「抽出モード」ダイアログボックスで「測点/文字」ラジオボタンをクリックして選択します。測点位置をマウスでクリックし測点の抽出を行います。



測点位置の指示後は文字抽出モードになります。
取得する文字列を図面上から選択することで抽出されます。

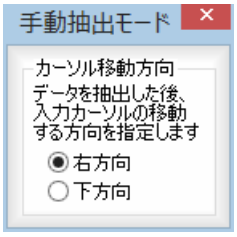


文字抽出モードでは右クリックによるポップアップメニュー[OK]を選択すると入力グリッドのカーソルが 1 行下へ移動し、測点抽出モードに戻ります。
測点/文字の抽出モードは、右クリックによるポップアップメニュー [終了]を選択するまで、連続して実行することができます。

縦断－[手動抽出]－[文字]

参照図面から文字を取得する

参照図面上の文字を取得します。
抽出した文字列は、入力グリッドのカーソルがある箇所に入力されます。



＜共通操作＞ カーソル移動方向の設定

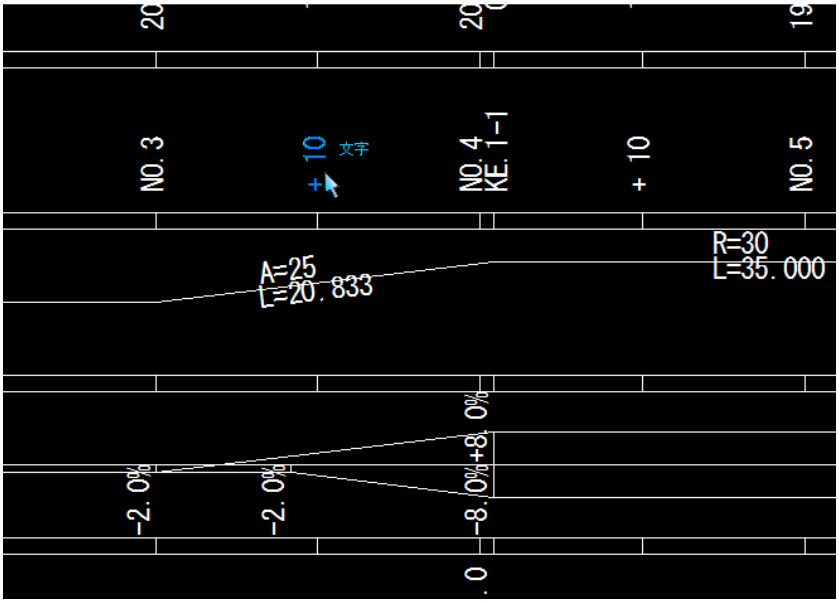
「手動抽出モード」ダイアログボックス内で、データ抽出後の入力カーソルの移動する方向を、「右方向」、「下方向」いずれかのラジオボタンをクリックして選択します。

「右方向」を選択すると、データ抽出後、データウィンドウ内の入力グリッドのカーソルが右方向に移動します。

「下方向」を選択すると、データ抽出後、データウィンドウ内の入力グリッドのカーソルが下方向に移動します。

● 手動抽出モードの操作方法

1 縦断メニューで[手動抽出]－[文字]をクリックします。
文字指定モードとなりますので、参照図面ウィンドウ内の文字をクリックします。



2 文字の指定が行われると、データウィンドウ内にデータが入力されます。

3 縦断計算結果の表示

中間点の計算結果や、勾配、幅員、縦断現況の計算結果を表示します。
コマンドメニューでは、座標管理一覧内に、測点の標高値を登録します。
また、計算高の確認、縦断照査、寸法照査処理、現況取込み処理も行います。

縦断　計算結果(中間点)・計算結果(勾配／幅員)

縦断計算結果を表示する

中間点の計算結果や、勾配、幅員、縦断現況の計算結果を表示します。

● 計算結果の表示

・縦断にて「計算結果(中間点)」タブと「計算結果(勾配/幅員)」タブを選択した際、
「平面線形と縦断線形に重複区間が存在しません。平面線形、縦断線形の開始測点を確認してください。」
というメッセージが表示されます。

1 縦断メニューで計算結果を表示します。
[計算結果(中間点)]、[計算結果(勾配／幅員)]、[縦断現況]のタブをクリックします。

▼ [計算結果(中間点)]タブ
縦断曲線の変化点 → 黄色
縦断曲線中 → 緑色
バーチカルの開始点と終了点が表示されます。
バーチカルの開始点・終了点の測点名は、以下の名称となります。
・開始点→BVP
・終了点→EVP

縦断変化点　計算結果(中間点)　計算結果(勾配/幅員)　縦断現況

No	測点名	追加距離	計画高	計画高(図面)	勾配	Y
1	NO.0 BP	0.000	168.993		-6.000	0.000
2	NO.0+4.546 KA.1-1	4.546	168.720		-6.000	0.000
3	NO.0+15.796 任意点	15.796	168.045		-6.000	0.000
4	NO.1	20.000	167.793		-6.000	0.000
5	NO.1+7.046 KE.1-1	27.046	167.370		-6.000	0.000
6	NO.1+18.920 BVP	38.920	166.658		-6.000	0.000
7	NO.2	40.000	166.595		-6.000	0.002
8	NO.3	60.000	166.041		-6.000	0.648
9	NO.3+3.640 KE.1-2	63.640	166.066		-6.000	0.891
10	NO.3+8.920	68.920	166.170		-6.000	1.312
11	NO.3+14.890 任意点	74.890	166.387		11.500	0.842
12	NO.4	80.000	166.654		11.500	0.522
13	NO.4+6.140 KA.1-2	86.140	167.076		11.500	0.238
14	NO.4+9.245 KA.2-1	89.245	167.332		11.500	0.136
15	NO.4+18.920 EVP	98.920	168.308		11.500	0.000
16	NO.5	100.000	168.432		11.500	0.000
17	NO.5+1.745 任意点	101.745	168.633		11.500	0.000
18	NO.5+14.245 KE.2-1	114.245	170.070		11.500	0.000
19	NO.6	120.000	170.732		11.500	0.000
20	NO.6+7.140 BVP	127.140	171.553		11.500	0.000
21	NO.7	140.000	172.846		11.500	-0.186
22	NO.8	160.000	174.117		11.500	-1.215
23	NO.8+7.140	167.140	174.353		11.500	-1.800
24	NO.9	180.000	174.488		-6.500	-0.829
25	NO.9+6.404	186.404	174.417		-6.500	-0.484

▼［計算結果(勾配／幅員)］タブ
縦断曲線の変化点 → 黄色
縦断曲線中 → 緑色
バーチカルの開始点と終了点が表示されます。
バーチカルの開始点・終了点の測点名は、以下の名称となります。
・開始点→BVP
・終了点→EVP

縦断変化点 | 計算結果(中間点) | 計算結果(勾配/幅員) | 縦断現況

No	測点名	追加距離	勾配(左)	幅員(左)	計画高(左)	勾配(右)	幅員(右)	計画高(右)
1	NO.0 BP	0.000	−2.000	3.500	168.923	−2.000	3.500	168.923
2	NO.0+4.546 KA.1−1	4.546	−2.000	3.500	168.650	−2.000	3.500	168.650
3	NO.0+15.796 任意点	15.796	−2.000	3.500	167.975	2.000	3.500	168.115
4	NO.1	20.000	−3.495	3.687	167.664	3.495	3.500	167.915
5	NO.1+7.046 KE.1−1	27.046	−6.000	4.000	167.130	6.000	3.500	167.580
6	NO.1+18.920 BVP	38.920	−6.000	4.000	166.418	6.000	3.500	166.868
7	NO.2	40.000	−6.000	4.000	166.355	6.000	3.500	166.805
8	NO.3	60.000	−6.000	4.000	165.801	6.000	3.500	166.251
9	NO.3+3.640 KE.1−2	63.640	−6.000	4.000	165.826	6.000	3.500	166.276
10	NO.3+8.920	68.920	−4.123	3.765	166.015	4.123	3.500	166.315
11	NO.3+14.890 任意点	74.890	−2.000	3.500	166.317	2.000	3.500	166.457
12	NO.4	80.000	−2.000	3.500	166.584	0.183	3.500	166.661
13	NO.4+6.140 KA.1−2	86.140	−2.000	3.500	167.006	−2.000	3.500	167.006
14	NO.4+9.245 KA.2−1	89.245	−2.000	3.500	167.262	−2.000	3.500	167.262
15	NO.4+18.920 EVP	98.920	1.096	3.500	168.346	−2.000	3.500	168.238
16	NO.5	100.000	1.442	3.500	168.483	−2.000	3.500	168.362
17	NO.5+1.745 任意点	101.745	2.000	3.500	168.703	−2.000	3.500	168.563
	NO.5+14.245							

▼［縦断現況］タブ
縦断現況処理で入力された値が表示されます。

縦断変化点 | 計算結果(中間点) | 計算結果(勾配/幅員) | 縦断現況

No	測点名	追加距離	単距離	地盤高	比高
1	NO.0	0.000	0.000	173.540	0.000
2	NO.0+4.546	4.546	4.546	172.570	−0.970
3	NO.0+15.796	15.796	11.250	175.586	3.016
4	NO.1	20.000	4.204	178.711	3.125
5	NO.1+7.046	27.046	7.046	183.891	5.180
6	NO.2	40.000	12.954	189.064	5.173
7	NO.3	60.000	20.000	179.806	−9.258
8	NO.3+3.640	63.640	3.640	178.022	−1.784
9	NO.3+14.890	74.890	11.250	179.495	1.473
10	NO.4	80.000	5.110	181.539	2.044
11	NO.4+6.140	86.140	6.140	185.104	3.565
12	NO.4+9.245	89.245	3.105	187.632	2.528
13	NO.5	100.000	10.755	195.321	7.689
14	NO.5+1.745	101.745	1.745	196.759	1.438
15	NO.5+14.245	114.245	12.500	200.843	4.084
16	NO.6	120.000	5.755	200.911	0.068
17	NO.7	140.000	20.000	194.502	−6.409
18	NO.8	160.000	20.000	183.146	−11.356
19	NO.9	180.000	20.000	186.601	3.455
20	NO.9+6.404	186.404	6.404	187.587	0.986
21	NO.9+18.904	198.904	12.500	183.544	−4.043
22	NO.10	200.000	1.096	182.837	−0.707
23	NO.10+11.404	211.404	11.404	181.342	−1.495
24	NO.10+19.617	219.617	8.213	181.637	0.295
25					

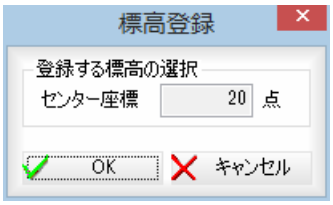
縦断－[コマンド]－[標高登録]

座標管理に測点の標高値を登録する

座標管理に測点の標高値を登録します。

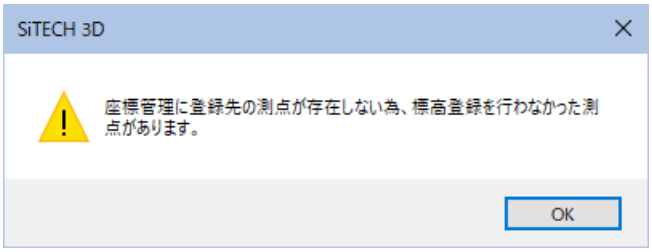
● 標高登録の操作方法

1 縦断メニューで[コマンド]－[標高登録]をクリックすると、「標高登録」ダイアログボックスが表示されます。

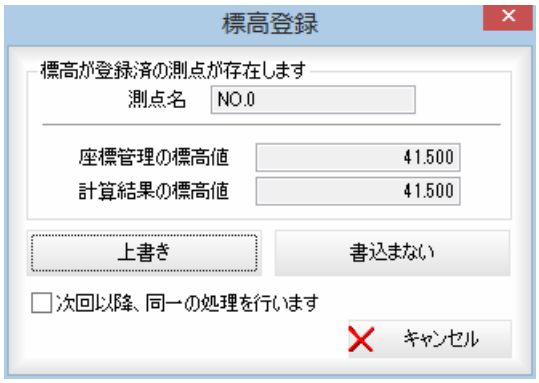


登録する標高の選択
「センター座標」の点数が表示されます。

登録先の測点が存在しない場合
座標管理で、登録先の標高が存在しない場合、以下のメッセージが表示されます。
よければ、[OK]をクリックすると、操作を終了します。



2 標高が登録済みの測点が存在する場合、以下の「標高登録」ダイアログボックスが表示されます。



測点名、座標管理の標高値、計算結果の標高値が表示されます。
[上書き]、[書込まない]のいずれかをクリックします。
上書き
[上書き]をクリックすると、新しい標高で測点を登録します。
書込まない
[書込まない]をクリックすると、新しい標高は登録しません。

「次回以降、同一の処理を行います」チェックマークをクリックすると、次回以降、同じ処理を行います。

3 すべての測点の標高値の登録が終了すると、処理を終了します。

縦断 －[コマンド]－[計画高確認]

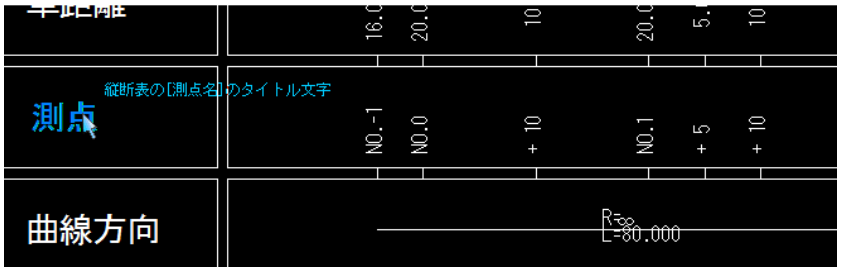
計画高の計算結果をチェックする

・取得した計画高は縦断の「計算結果（中間点）」計画高（図面）に表示され、計算結果と異なる箇所は赤く表示されます。

計画高の計算結果と縦断図の計画高が一致しているかをチェックします。
計画高（図面）の取得と計画高（図面）の削除処理があります。

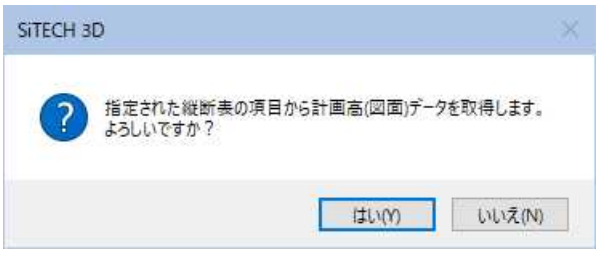
● 計画高(図面)の取得

1 縦断メニューで[コマンド]－[計画高確認]－[計画高（図面）の取得]をクリックすると、参照図面ウィンドウ内が[測点名]のタイトル文字指定モードとなります。



2 縦断表の[測点名]タイトルを示す文字列要素をクリックすると、次に縦断表の[追加距離]のタイトル文字指定モードとなります。
縦断表の[追加距離]タイトルを示す文字列要素をマウスでクリックすると、縦断表の[計画高]文字指定モードとなります。

3 [計画高]文字を指定すると、以下の確認メッセージが表示されます。



4 [はい]をクリックすると、計算結果（中間点）タブの計画高（図面）に取得された数値が表示されます。

縦断変化点 | 計算結果(中間点) | 計算結果(勾配/幅員) | 縦断現況

No	測点名	追加距離	計画高	計画高(図面)	勾配	Y
1	NO.0 BP	0.000	168.993	168.993	-6.000	0.000
2	NO.0+4.546 KA.1-1	4.546	168.720	168.720	-6.000	0.000
3	NO.0+15.796 任意点	15.796	168.045		-6.000	0.000
4	NO.1	20.000	167.793	167.793	-6.000	0.000
5	NO.1+7.046 KE.1-1	27.046	167.370	167.370	-6.000	0.000
6	NO.1+18.920 BVP	38.920	166.658		-6.000	0.000
7	NO.2	40.000	166.595	166.595	-6.000	0.002
8	NO.3	60.000	166.041	166.041	-6.000	0.648
9	NO.3+3.640 KE.1-2	63.640	166.066	166.066	-6.000	0.891
10	NO.3+8.920	68.920	166.170		-6.000	1.312
11	NO.3+14.890 任意点	74.890	166.387		11.500	0.842
12	NO.4	80.000	166.654	166.654	11.500	0.522
13	NO.4+6.140 KA.1-2	86.140	167.076	167.076	11.500	0.238
14	NO.4+9.245 KA.2-1	89.245	167.332	167.332	11.500	0.136
15	NO.4+18.920 EVP	98.920	168.308		11.500	0.000
16	NO.5	100.000	168.432	168.432	11.500	0.000
17	NO.5+1.745 任意点	101.745	168.633		11.500	0.000
18	NO.5+14.245 KE.2-1	114.245	170.070	170.070	11.500	0.000
19	NO.6	120.000	170.732	170.732	11.500	0.000
20	NO.6+7.140 BVP	127.140	171.553		11.500	0.000
21	NO.7	140.000	172.846	172.846	11.500	-0.186
22	NO.8	160.000	174.117	174.117	11.500	-1.215
23	NO.8+7.140	167.140	174.353		11.500	-1.800
24	NO.9	180.000	174.488	174.488	-6.500	-0.829

● 計画高(図面)の削除

1 縦断メニューで[コマンド]－[計画高確認]－[計画高(図面)の削除]をクリックすると、以下の確認メッセージが表示されます。

2 [はい]をクリックすると計算結果(中間点)タブの計画高(図面)が削除されます。

縦断変化点 | 計算結果(中間点) | 計算結果(勾配/幅員) | 縦断現況

No	測点名	追加距離	計画高	計画高(図面)	勾配	Y
1	NO.0 BP	0.000	168.993		-6.000	0.000
2	NO.0+4.546 KA.1-1	4.546	168.720		-6.000	0.000
3	NO.0+15.796 任意点	15.796	168.045		-6.000	0.000
4	NO.1	20.000	167.793		-6.000	0.000
5	NO.1+7.046 KE.1-1	27.046	167.370		-6.000	0.000
6	NO.1+18.920 BVP	38.920	166.658		-6.000	0.000
7	NO.2	40.000	166.595		-6.000	0.002
8	NO.3	60.000	166.041		-6.000	0.648
9	NO.3+3.640 KE.1-2	63.640	166.066		-6.000	0.891
10	NO.3+8.920	68.920	166.170		-6.000	1.312
11	NO.3+14.890 任意点	74.890	166.387		11.500	0.842
12	NO.4	80.000	166.654		11.500	0.522
13	NO.4+6.140	86.140	167.076		11.500	0.238

縦断 －[コマンド]－[勾配・拡幅確認]、[勾配・拡幅確認設定]

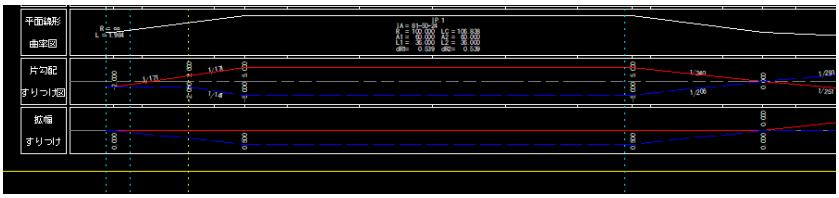
縦断計算結果から勾配・拡幅の内容を確認する、確認設定を行う

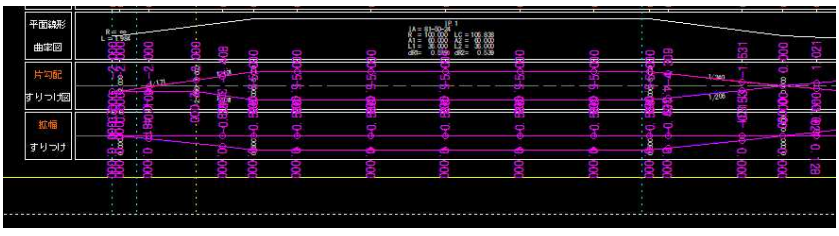
[コマンド]で[勾配・拡幅確認]または[勾配・拡幅確認設定]を選択して各操作を行います。

● 勾配・拡幅確認

1 縦断メニューで[コマンド]－[勾配・拡幅確認]をクリックすると、参照図面ウィンドウ内の[測点名]のタイトル文字指定モードとなります。

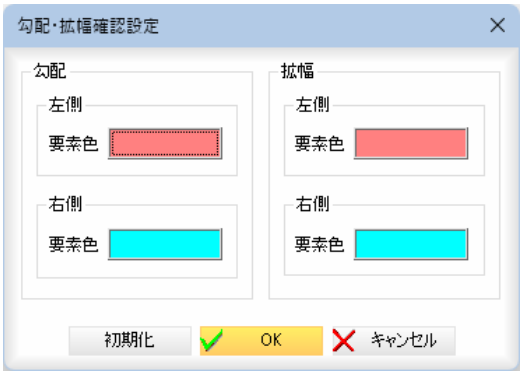
マウスで文字列をクリックすると、以降「追加距離のタイトル」、「片勾配すりつけのタイトル」「拡幅のタイトル」と指示することで、縦断表上で折れ線グラフを照らし合わせることで確認を行うことができます。





● 勾配・拡幅確認設定

1 縦断メニューで[コマンド]ー[勾配・拡幅確認設定]をクリックすると、「勾配・拡幅確認設定」ダイアログボックスが表示されます。

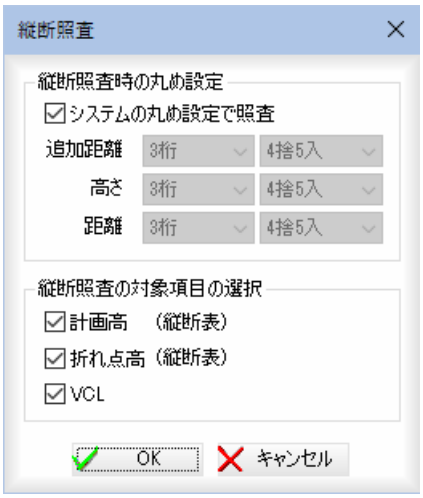


要素色の色表示部分をクリックすると、「色の設定」ダイアログボックスが表示されますので、いずれかの色を選択し、[OK]をクリックすると要素色が変更されます。

2 [OK]をクリックすると、縦断メニューに戻ります。

● 縦断照査の操作方法

1 縦断メニューで[コマンド]－[縦断照査]をクリックすると、「縦断照査」ダイアログボックスが表示されます。



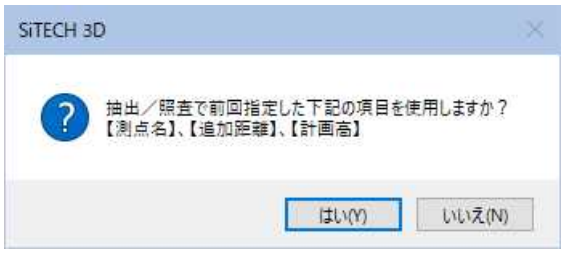
2 **縦断照査時の丸め設定**

「システムの丸め設定で照査」チェックマークをオンにすると、システム設定で指定した丸め設定で照査します。オフの場合は、「追加距離」、「高さ」、「距離」のドロップダウンリストよりいずれかを選択します。

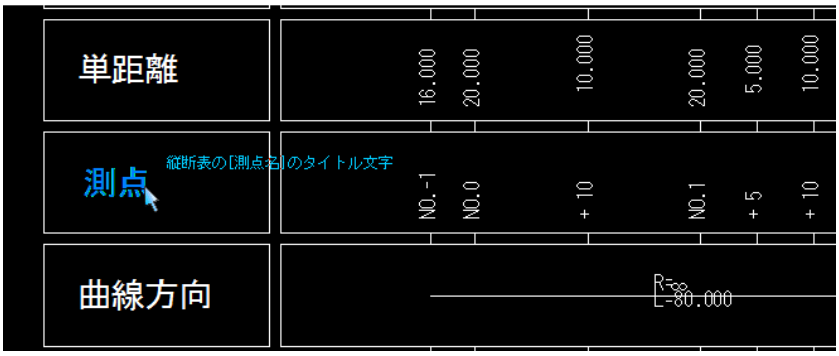
3 **縦断照査の対象項目の選択**

対象項目をチェックマークをオンにして選択します。

4 前回指定したデータがある場合、以下の確認メッセージが表示されます。



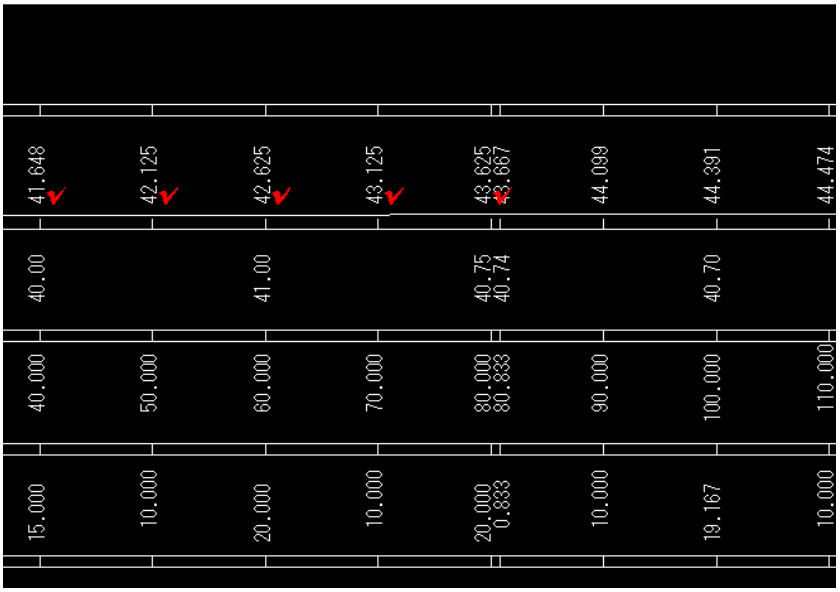
[はい]をクリックすると、前回指定した測点名、追加距離、計算高で縦断照査処理が行われます。
[いいえ]をクリックすると、参照図面ウィンドウ内の[測点名]のタイトル文字指定モードとなります。



5 縦断表の[測点名]タイトルを示す文字列要素をクリックすると、次に縦断表の[追加距離]のタイトル文字指定モードとなります。
マウスにてクリックすると、続いて[計画高]、[縦断線形(勾配)]のそれぞれのタイトル文字指定モードになりますので、順次マウスにてクリックします。

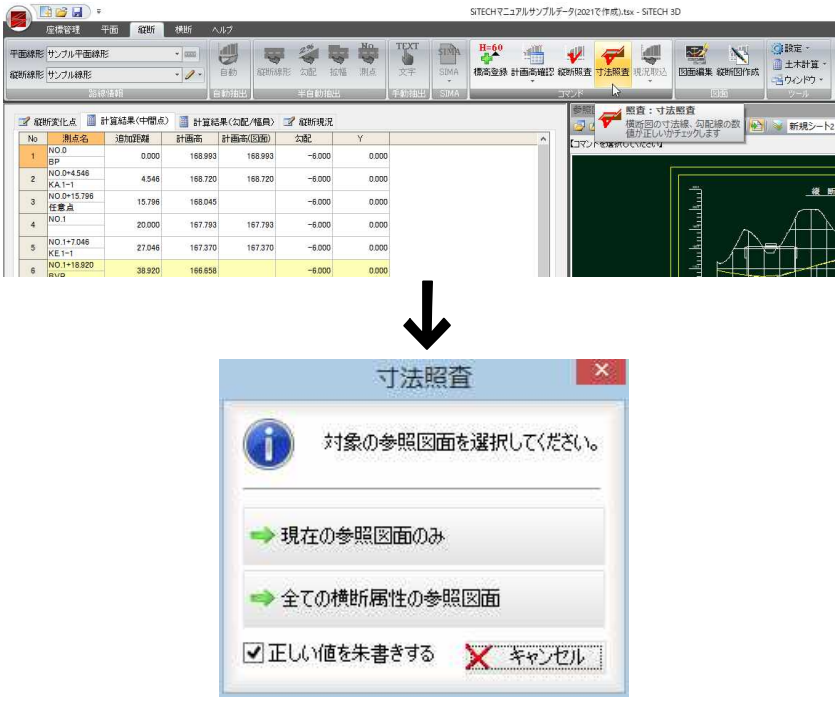
6 以下の確認メッセージが表示されます。

7 [はい]をクリックすると、計算結果の計画高と一致している参照図面の計画高の文字にチェックマーク（✔点）を配置します。
また、入力した VCL や折れ点高と一致している参照図面の VCL や折れ点高にもチェックマーク（✔点）を配置します。



● 寸法照査の操作方法

1 縦断メニューで[コマンド]−[寸法照査]をクリックすると、「寸法照査」ダイアログボックスが表示されます。



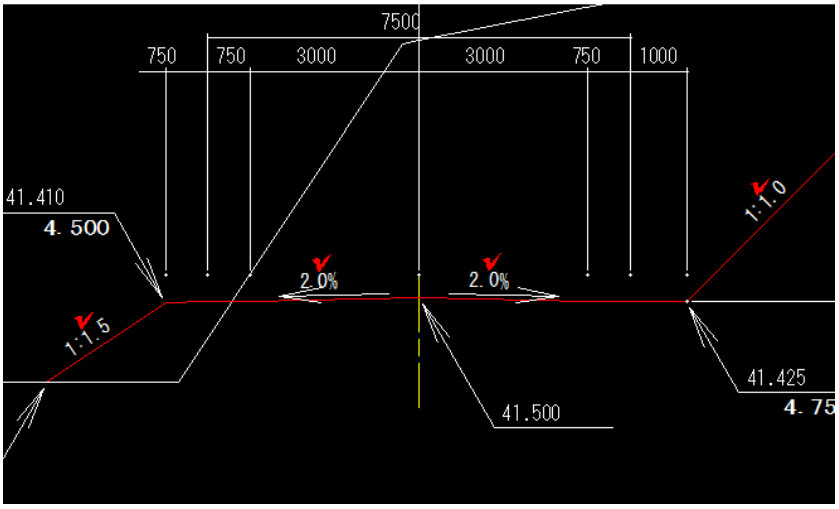
2 **対象図面の選択**

「現在の参照図面のみ」、「全ての横断属性の参照図面」をクリックすると、いずれかの方法で寸法照査処理を行います。

正しい値を朱書きする

「正しい値を朱書きする」チェックマークをクリックすると、間違った寸法値や勾配数値がある場合、図面上に正しい数値が朱書きされます。

3 参照図面の寸法をチェックし、正しい寸法値や勾配数値にチェックマーク（✔点）を配置し、間違った寸法値や勾配数値上に正しい数値を追加します。



縦断 －[コマンド]－[現況取込]

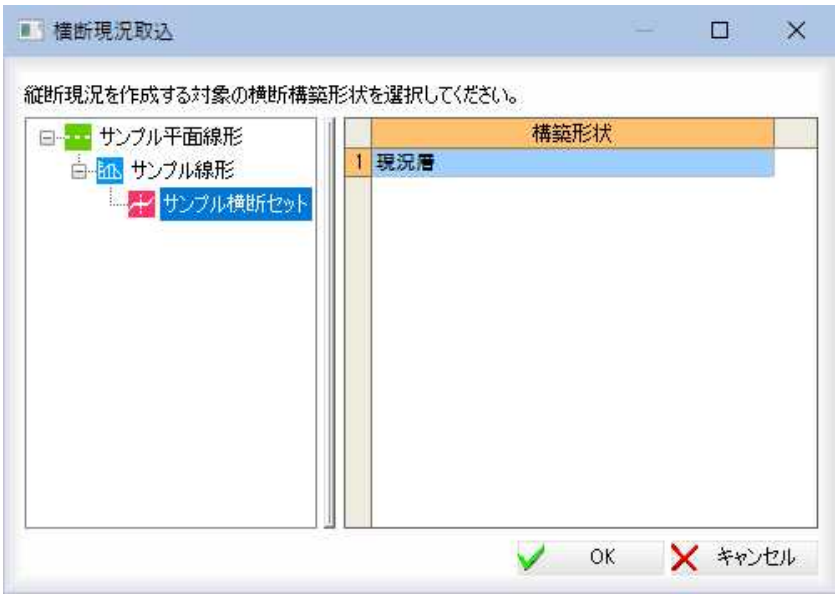
地盤高から縦断現況を構築する

横断現況取込と測点取込処理があります。

横断現況取込
横断セットが管理している測点から地盤高などを取得し、縦断現況を構築します。
測点取込
縦断の計算結果から測点を取得し、縦断現況を構築します。
縦断の計算結果には地盤高の情報が無いため、測点のみの取込となります。
図面取込
参照図面の縦断図から「DL 線」「現況線」を選択し、縦断現況データの取込を行います。

● 横断現況取込

1 縦断メニューで[コマンド]－[現況取込]－[横断現況取込]をクリックすると、「横断現況取込」ダイアログボックスが表示されます。



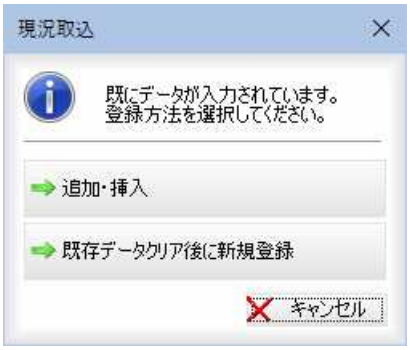
構築形状を選択し、[OK]をクリックします。

2 「測点選択」ダイアログボックスが表示されます。

	対象	測点名	測点名2	コメント	追加距離	測点種類
1	☑	NO.0	BP		0.000	主要点
2	☑	NO.0+4.546	KA.1-1	○○桝	4.546	主要点
3	☑	NO.0+15.796	任意点	○○桝	15.796	任意点
4	☑	NO.1			20.000	ナンバー杭
5	☑	NO.1+7.046	KE.1-1		27.046	主要点
6	☑	NO.2			40.000	ナンバー杭
7	☑	NO.3			60.000	ナンバー杭

対象測点の選択
測点をいずれかのチェックマークをオンにして選択します。
測点の選択
一覧表示内の「対象」欄内のチェックマークをオンにして、測点を選択します。
[全選択]／[全解除]
一覧表示内のすべてのチェックマークをオン、またはオフにします。

3 「測点選択」ダイアログボックスで[OK]をクリックします。
既存データがない場合は、横断現況の取り込みが行われます。
既存データが入力されている場合は、「現況取込」ダイアログボックスが表示されます。



いずれかをクリックして処理を選択します。
追加・挿入
データ入力を既存データに追加・挿入します。
既存データをクリア後に新規登録
既存データはクリアされ、取り込むデータで新規登録されます。

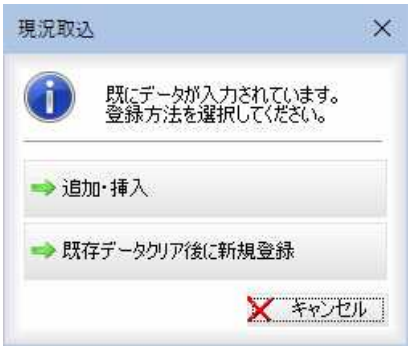
● 測点取込

1 縦断メニューで[コマンド]－[現況取込]－[測点取込]をクリックすると、「測点選択」ダイアログボックスが表示されます。

	対象	測点名	測点名2	コメント	追加距離	測点種類
1	☑	NO.0	BP		0.000	主要点
2	☑	NO.0+4.546	KA.1-1	○○橋	4.546	主要点
3	☑	NO.0+15.796	任意点	○○橋	15.796	任意点
4	☑	NO.1			20.000	ナンバー杭
5	☑	NO.1+7.046	KE.1-1		27.046	主要点
6	☑	NO.2			40.000	ナンバー杭
7	☑	NO.3			60.000	ナンバー杭
8	☑	NO.3+3.640	KE.1-2		63.640	主要点
9	☑	NO.3+8.920			68.920	縦断変化点
10	☑	NO.3+14.890	任意点		74.890	任意点
11	☑	NO.4			80.000	ナンバー杭
12	☑	NO.4+6.140	KA.1-2		86.140	主要点
13	☑	NO.4+9.245	KA.2-1		89.245	主要点
14	☑	NO.5			100.000	ナンバー杭
15	☑	NO.5+1.745	任意点		101.745	任意点
16	☑	NO.5+14.245	KE.2-1		114.245	主要点
17	☑	NO.6			120.000	ナンバー杭
18	☑	NO.7			140.000	ナンバー杭
19	☑	NO.8			160.000	ナンバー杭
20	☑	NO.8+7.140			167.140	縦断変化点
21	☑	NO.9			180.000	ナンバー杭
22	☑	NO.9+6.404	KE.2-2		186.404	主要点
23	☑	NO.9+18.904	任意点		198.904	任意点
24	☑	NO.10			200.000	ナンバー杭

対象測点の選択
測点をいずれかのチェックマークをオンにして選択します。
測点の選択
一覧表示内の「対象」欄内のチェックマークをオンにして、測点を選択します。
[全選択]／[全解除]
一覧表示内のすべてのチェックマークをオン、またはオフにします。

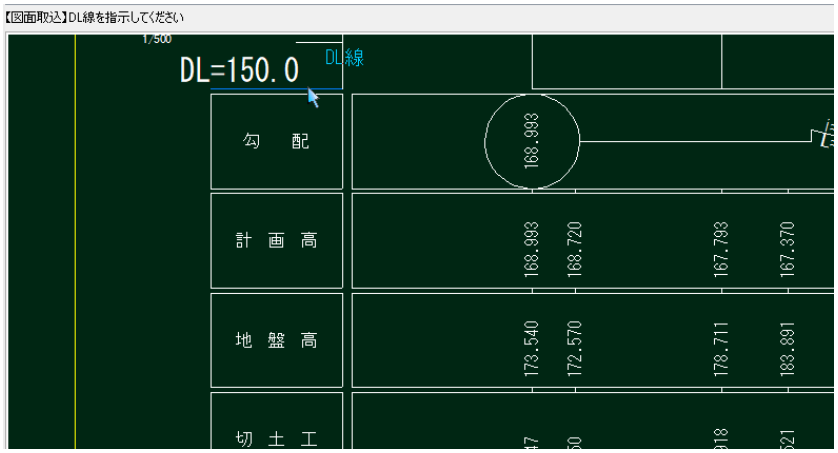
2 「測点選択」ダイアログボックスで[OK]をクリックします。
既存データがない場合は、測点の取り込みが行われます。
既存データが入力されている場合は、「現況取込」ダイアログボックスが表示されます。



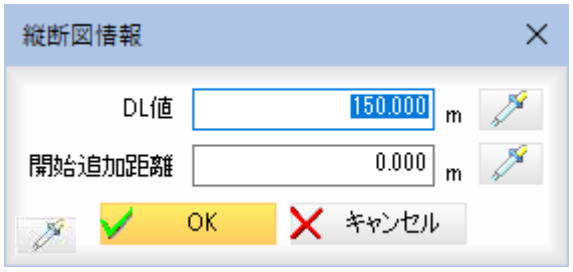
いずれかをクリックして処理を選択します。
追加・挿入
データ入力を既存データに追加・挿入します。
既存データをクリア後に新規登録
既存データはクリアされ、取り込むデータで新規登録されます。

● 図面取込

1 縦断メニューで[コマンド]－[現況取込]－[図面取込]をクリックすると、図面取込モードになりますので、参照図面の縦断図内の DL 線を指示します。



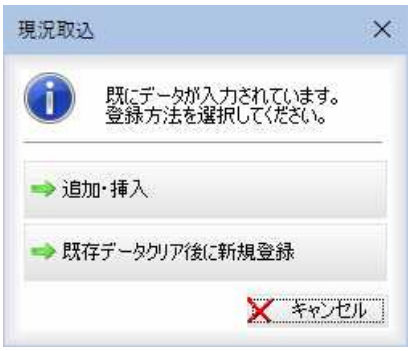
2 DL 線をマウスでクリックすると、「縦断図情報」ダイアログボックスが表示されます。



DL 値、開始追加距離各入力欄内に入力します。

各入力欄の (スポイトボタン)をクリックすると、参照図面内の文字抽出モードとなりますので、いずれかの数値をクリックします。

3 「縦断図情報」ダイアログボックスで[OK]をクリック後、縦断線を指示します。
既存データがない場合は、測点の取り込みが行われます。
既存データが入力されている場合は、「現況取込」ダイアログボックスが表示されます。



いずれかをクリックして処理を選択します。

追加・挿入
データ入力を既存データに追加・挿入します。

既存データをクリア後に新規登録
既存データはクリアされ、取り込むデータで新規登録されます。

4 SIMA

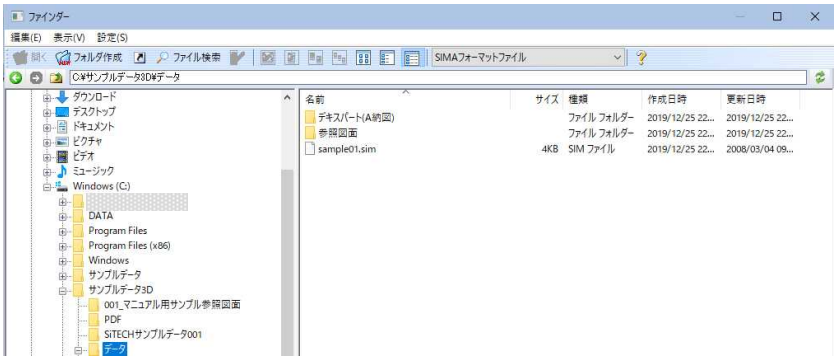
縦断現況のデータを、SIMA 形式ファイルで入力、出力します。

縦断－[SIMA]－[SIMA 入力]

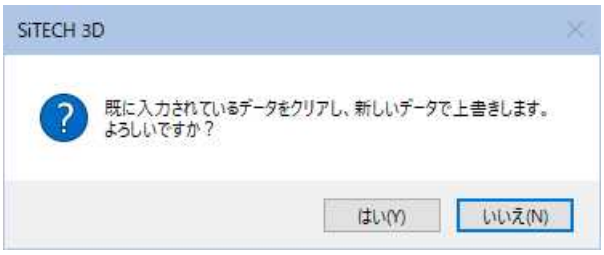
縦断現況を SIMA ファイルから入力する

● SIMA 形式ファイルの読み込み

1 縦断メニューで[SIMA]－[SIMA 入力]をクリックすると、「ファインダー」ダイアログボックスが表示されます。



2 SIMA 形式ファイルを選択し、[開く]をクリックすると、既にデータが存在する場合、以下のメッセージが表示されます。

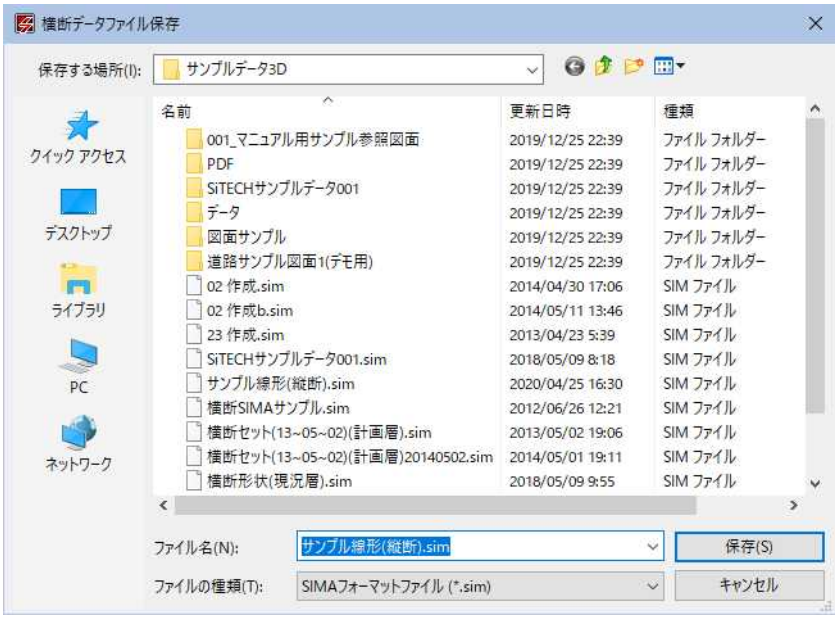


3 [はい]をクリックすると、SIMA 形式ファイルの読み込みが実行されます。

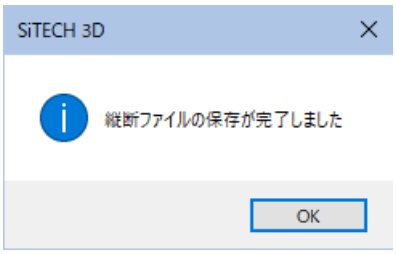
縦断現況を SIMA ファイルに出力する

● SIMA 形式ファイルへ出力

1 縦断メニューで[SIMA]－[SIMA 出力]をクリックすると、「縦断データファイル保存」ダイアログボックスが表示されます。



2 SIMA 形式ファイルを入力し、[保存]をクリックすると、SIMA 形式ファイルへの出力が実行され、処理完了のメッセージが表示されます。



5 図面

縦断図作成ウィンドウへの移行を行います。

縦断 －[図面作成]－[縦断図作成]

縦断図の作成を行う

縦断図ウィンドウへ移行し、縦断図の図面作成を行います。

●「縦断図作成」ダイアログボックスの各種設定

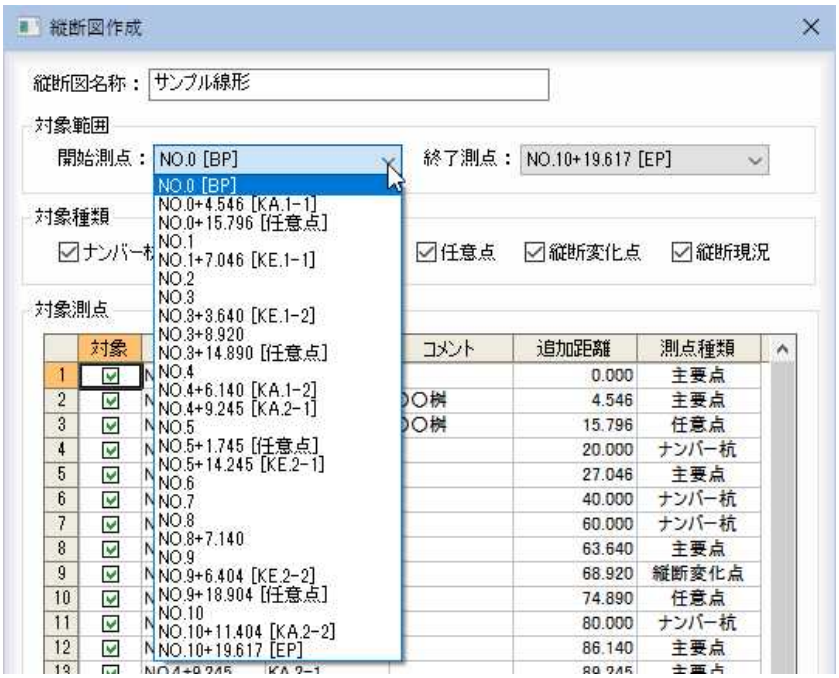
1 縦断メニューで[図面作成]－[縦断図作成]をクリックすると「縦断図作成」ダイアログボックスが表示されます。

各種の設定を行います。

縦断図名称

「縦断図名称」入力欄内に縦断図の名称を入力します。

対象範囲
開始測点、終了測点それぞれドロップダウンリストより選択します。

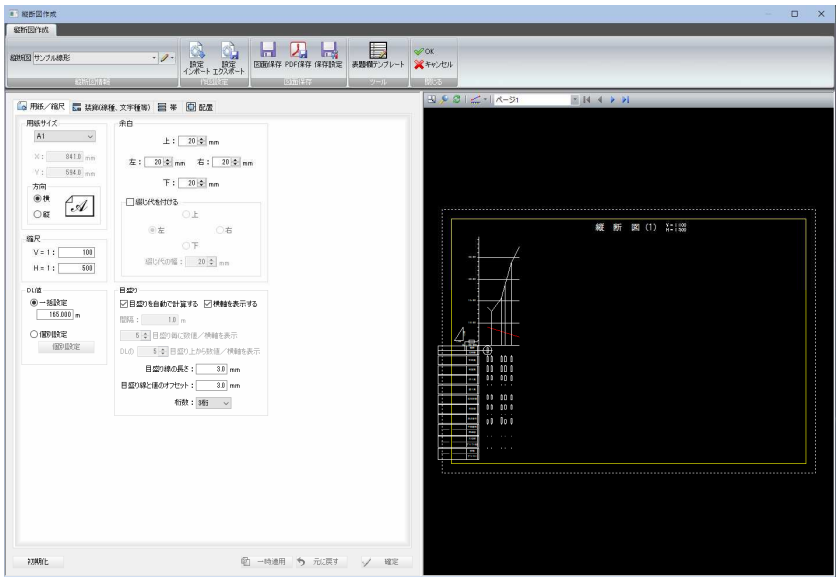


対象範囲
いずれかのチェックマークをオンにすると、対象種類として選択されます。

対象測点
測点の一覧表示から「対象」欄内のチェックマークをクリックして対象の測点を選択します。

[全選択]／[全解除]
一覧表示内のすべてのチェックマークをオン、またはオフにします。

2 「縦断図作成」ダイアログボックスで[OK]をクリックすると、「縦断図作成」ウィンドウが表示されます。各種の設定を行います。



詳しい操作方法については「Part4 縦断図作成」で説明しています。

Part 4 縦断図作成

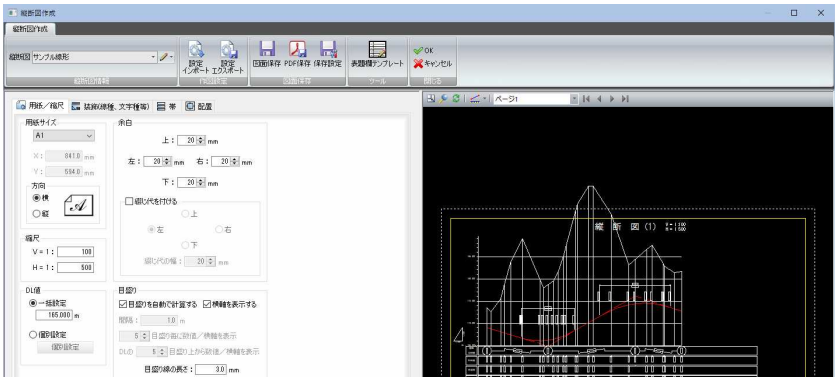
1 「縦断図作成」の基本操作

「縦断図作成」の起動および終了方法、ウィンドウの構成について説明します。

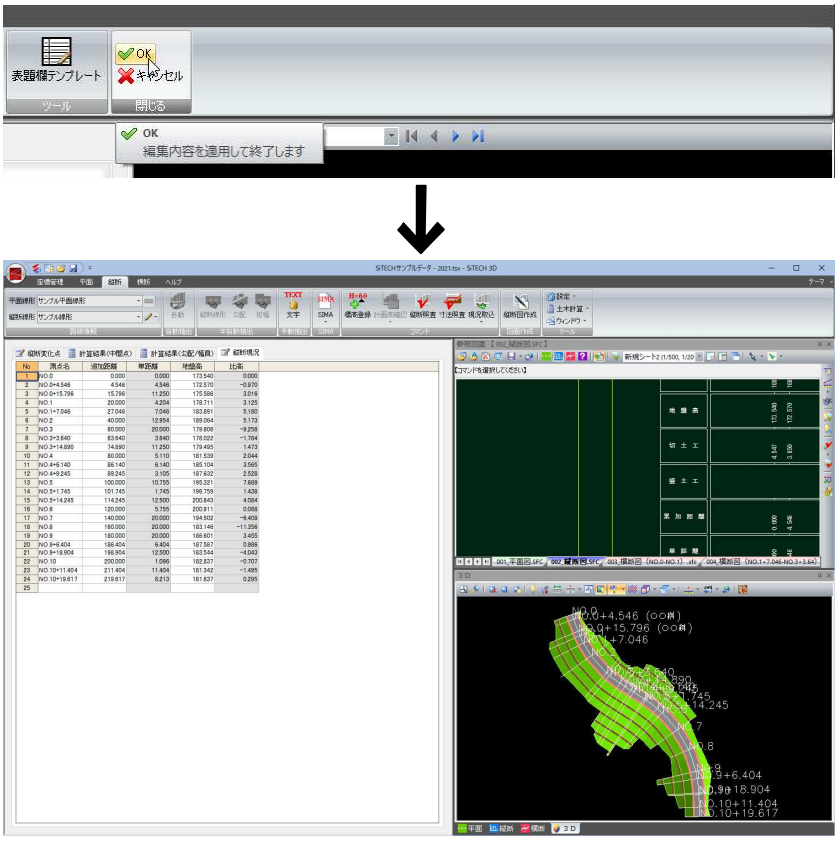
起動と終了

1 縦断メニューで[図面作成]－[縦断図作成]をクリックすると、「縦断図作成」ダイアログボックスが表示されます。

2 各種の設定を行い、[OK]をクリックすると、「縦断図作成」ウィンドウが表示されます。
各種の設定を行います。

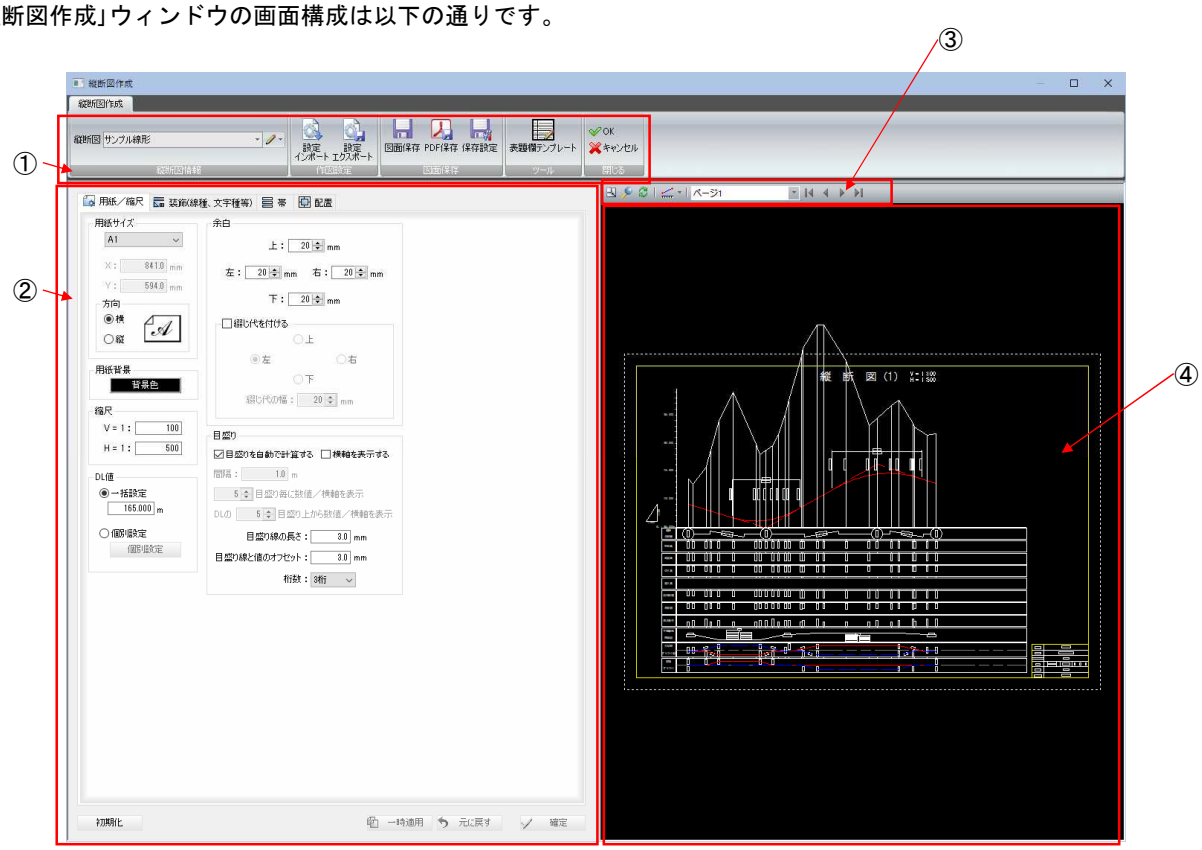


3 閉じるメニューの[OK]または[キャンセル]をクリックすると、システム画面に戻ります。
OK　　編集結果を保存して「縦断図作成」ウィンドウを閉じます。
キャンセル　編集結果を破棄して「縦断図作成」ウィンドウを閉じます。



「縦断図作成」ウィンドウの画面構成

「縦断図作成」ウィンドウの画面構成は以下の通りです。



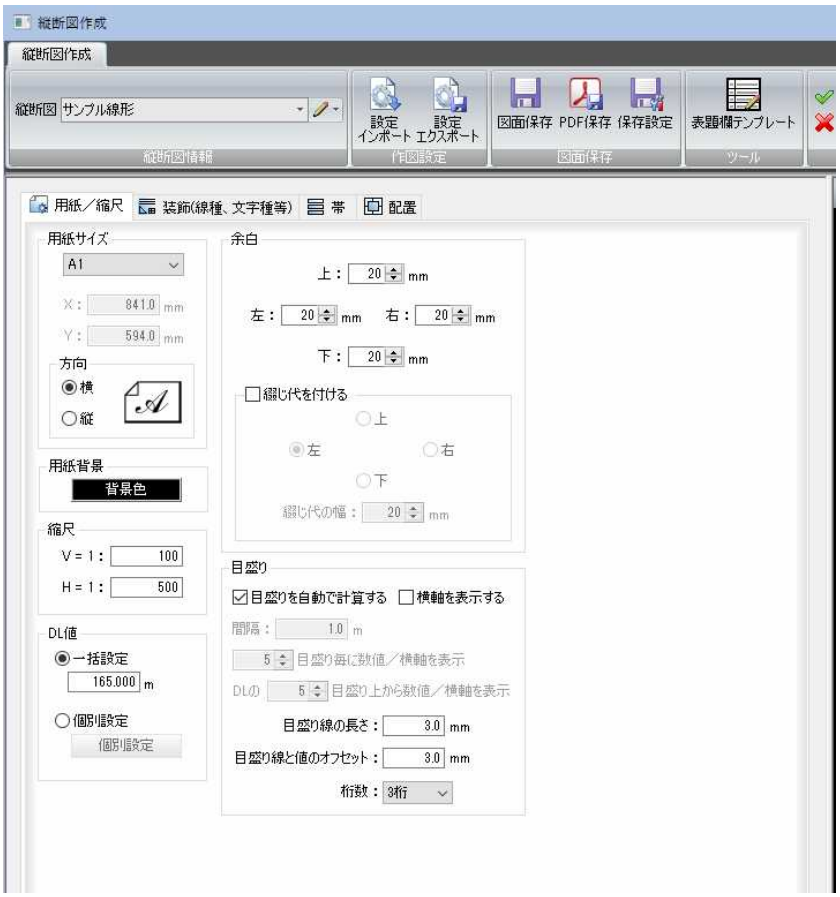
① リボンメニュー
② 縦断図設定ウィンドウ
③ 縦断図ウィンドウメニュー
④ 縦断図ウィンドウ

● リボンメニュー

1 リボンメニュー内には縦断図情報、作図設定、図面保存、ツール、閉じるの各メニューがあります。

● 縦断図設定ウィンドウ

1 縦断図設定ウィンドウ内では、各種の設定を行います。



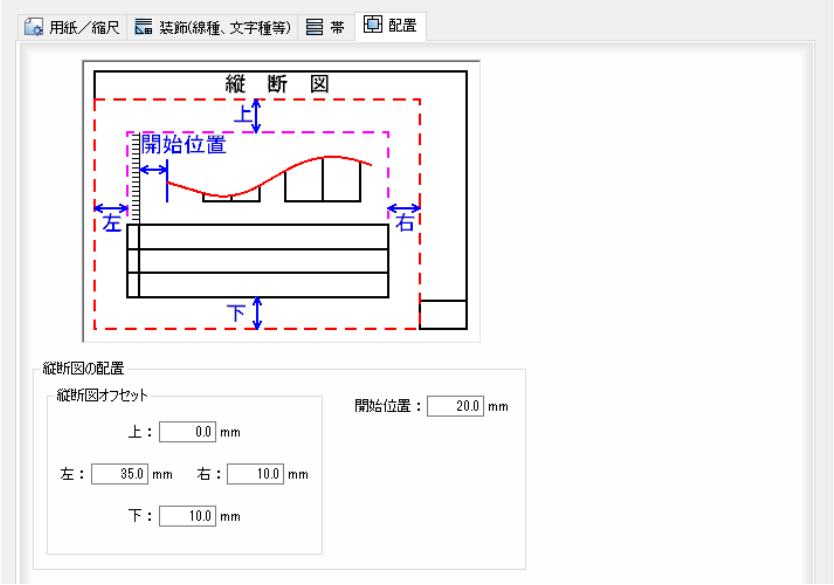
縦断図設定ウィンドウの切り替え

「用紙／縮尺」、「装飾(線種、文字種等)」、「帯」、「配置」のタブをクリックすると、それぞれの設定ウィンドウに表示が切り替わります。

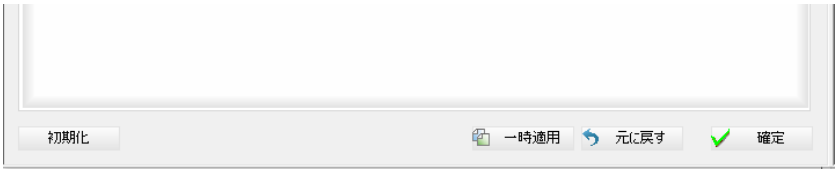
▼「装飾(線種、文字種等)」タブ

▼「帯」タブ

▼「配置」タブ



2 初期化・一時適用・元に戻す



初期化

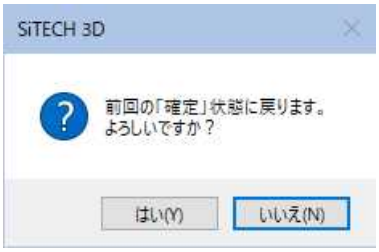
[初期化]をクリックすると、設定を初期状態に戻します。

一時適用

[一時適用]をクリックすると、設定内容を縦断図ウィンドウ上で確認することができます。

元に戻す

[元に戻す]をクリックすると、以下の確認メッセージが表示されます。

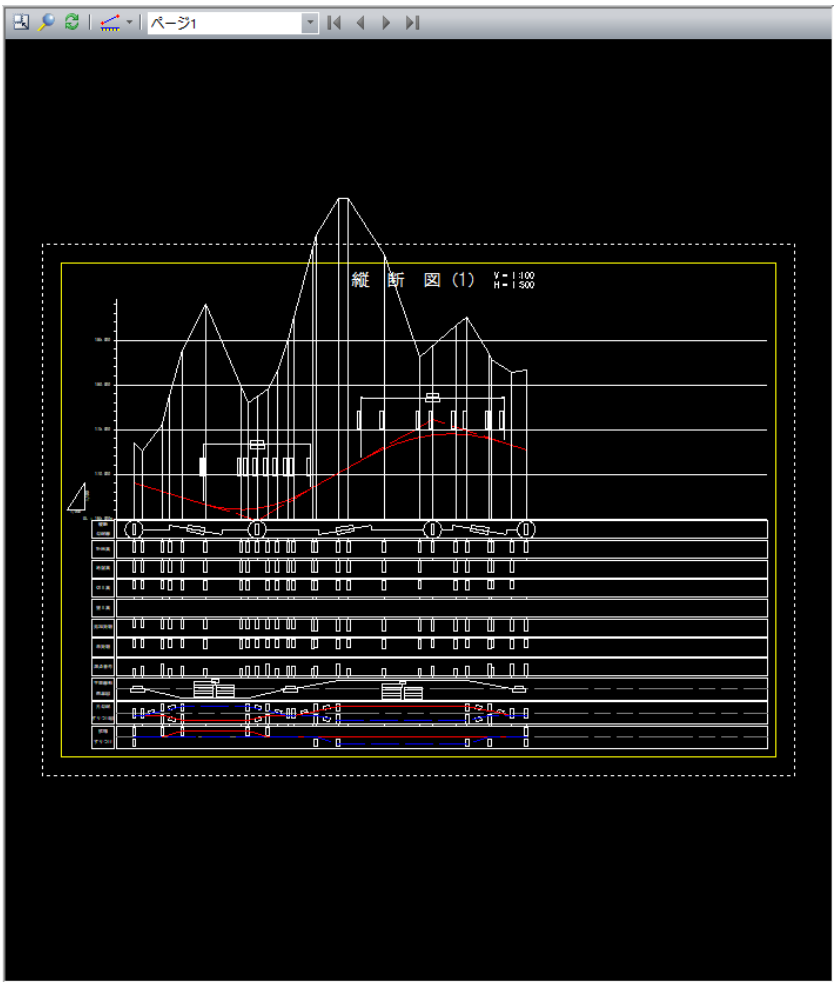


[はい]をクリックすると、設定内容を変更前（前回の確定状態）に戻します。

3 [確定]をクリックすると、各種の設定が確定されます。

● 縦断図ウィンドウ

1 縦断図ウィンドウでは、各種の設定が反映された縦断図がウィンドウ内に表示されます。



2 各種の表示切り替え

全体表示（ ）

縦断図ウィンドウメニューから[全体表示]を選択すると全体表示となります。

ズーム（ ）

縦断図ウィンドウメニューから[ズーム]を選択すると、ズームモードとなります。

ズーム始点をマウスでクリックすると、終点指定モードになります。

終点をクリックすると、範囲指定した部分が拡大表示されます。

再表示（ ）

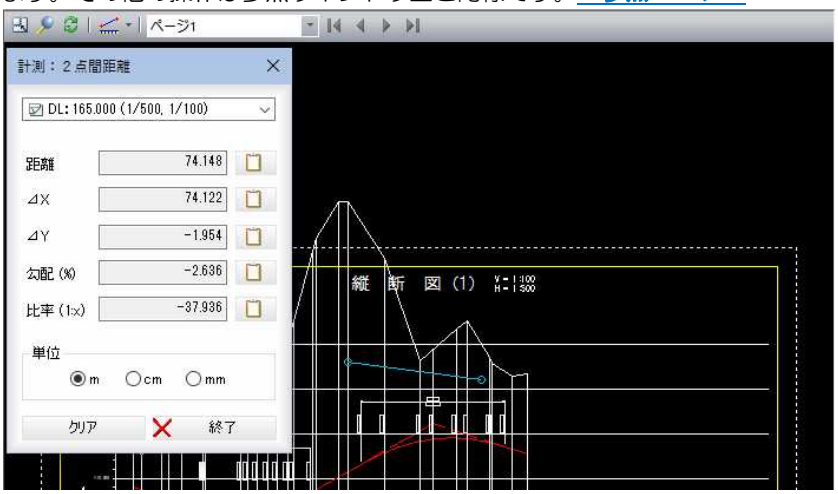
縦断図ウィンドウメニューから[再表示]を選択すると、再表示が行われます。

3 ２点間距離・標高(DL)

２点間距離（ ）

縦断図ウィンドウメニューから[２点間距離]を選択すると、２点間距離モードとなり、「２点間距離」ダイアログボックスが表示されます。

始点をクリックし、続けて終点をクリックすると、２点間の距離が入力されます。その他の操作は参照ウィンドウ上と同様です。**⇒参照ページへ**



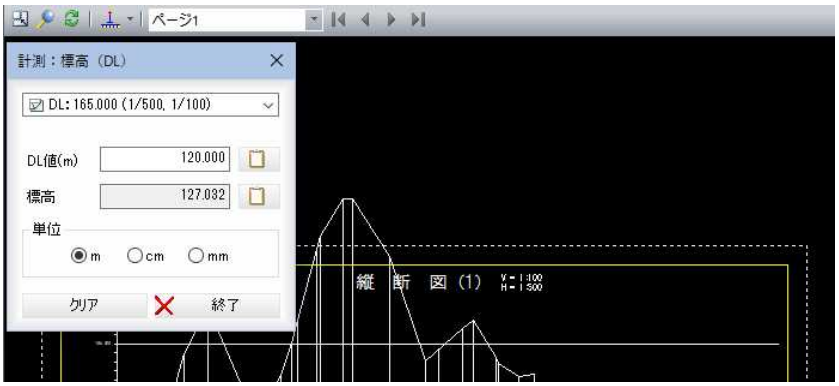
標高(DL)（ ）

縦断図ウィンドウメニューから[標高(DL)]を選択すると、標高(DL)モードとなり、「標高(DL)」ダイアログボックスが表示されます。

DL 基準線をクリックすると、DL 値入力モードとなります。「標高(DL)」ダイアログボックス内の「DL 値(m)」入力欄内に DL 値を入力します。

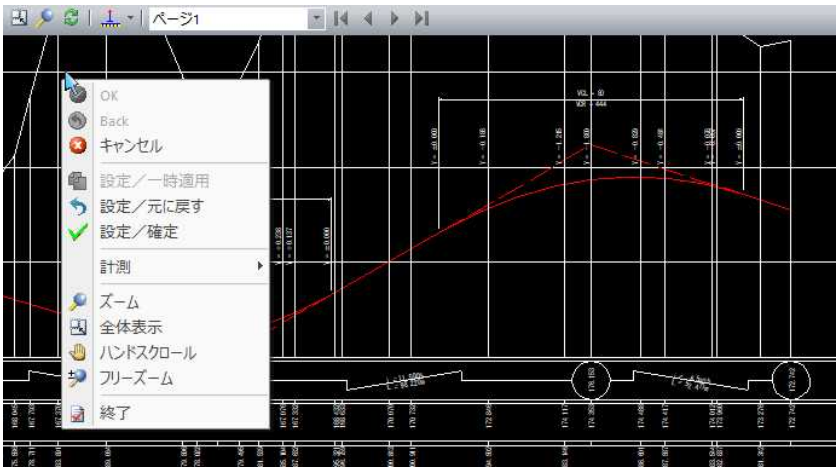
次に計測点指定モードとなりますので、マウスにて指定します。

その他の操作は参照ウィンドウ上と同様です。**⇒参照ページへ**



4 ポップアップメニュー

縦断図ウィンドウ内で右クリックすると、ポップアップメニューが表示されます。各種の処理を行うことができます。



→ **OK**
作業を確定します。

→ **Back**
ひとつ前の作業に戻します。

→ **キャンセル**
処理実行前に戻します。

→ **設定／一時適用**
設定ウィンドウ内の設定を一時的に適用します。

→ **設定／元に戻す**
設定ウィンドウ内の設定を元に戻します。

→ **設定／確定**
設定ウィンドウ内の設定を確定します。

→ **計測**
２点間距離、標高ＤＬの各種計測処理を行います。

→ **ズーム**
ズームモードとなります。ズーム始点→終点をマウスでクリックすると、範囲指定した部分が拡大表示されます。

→ **全体表示**
ズーム表示から全体表示に戻ります。

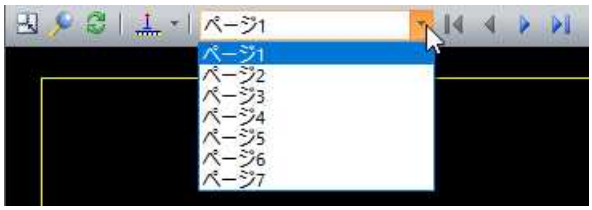
→ **ハンドスクロール**
ハンドスクロールモードとなります。マウスを動かした方向に表示がスクロールします。

→ **フリーズーム**
フリーズームモードとなります。マウスを動かした方向に表示が拡大／縮小します。
上へ移動：拡大
下へ移動：縮小

→ **終了**
作業を終了します。

5 **ページの切り替え**

ドロップダウンリストよりいずれかのページ番号を選択し、表示を切り替えます。
また、 のいずれかのボタンをクリックして測点を切り替えることもできます。



いずれかをクリックしてページの切り替えを行います。

閉じるメニュー

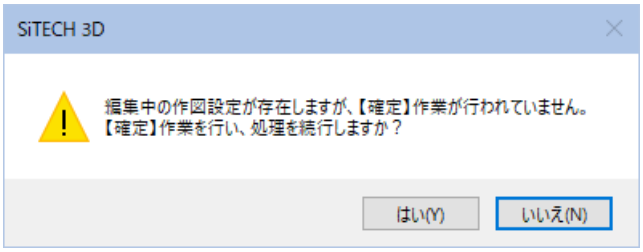
「縦断図作成」ウィンドウを閉じる操作を行います。

●ＯＫ／キャンセルの操作方法

1 閉じるメニューの[OK]または[キャンセル]をクリックすると、システム画面に戻ります。

OK　　編集結果を保存して「縦断図作成」ウィンドウを閉じます。
キャンセル　編集結果を破棄して「縦断図作成」ウィンドウを閉じます。

2 設定を変更して[OK]をクリックした場合は、以下の確認メッセージが表示されます。



[はい]をクリックすると、確定作業が行われ「縦断図作成」ウィンドウを終了します。

2 縦断図設定ウィンドウ

「縦断図作成」ウィンドウの縦断図設定ウィンドウで、各種の設定処理を行います。
縦断図設定ウィンドウのタブをクリックして、各種の設定画面に切り替えます。以下、タブごとに設定内容について説明します。

縦断図作成 －[縦断図設定ウィンドウ]－[用紙／縮尺]タブ

縦断図の用紙／縮尺を設定する

● [用紙／縮尺]タブの設定

1 縦断図設定ウィンドウの[用紙／縮尺]タブをクリックして各種の設定を行います。

2 **用紙サイズ**

用紙サイズの選択

ドロップダウンリストより、いずれかの用紙サイズを選択します。
用紙サイズを「フリー」に設定した場合のみ、「X:」、「Y:」入力欄内にサイズを入力します。

用紙方向の選択

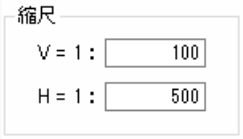
用紙方向を、「横」、「縦」いずれかのラジオボタンをクリックして選択します。

3 用紙背景・縮尺の設定

用紙背景の設定

縦断図作成、横断図作成のプレビューの背景色を設定します。
[背景色]をクリックすると、「色の設定」ダイアログボックスが表示されますので、いずれかの色を選択し、[OK]をクリックすると背景色が変更されます。

縮尺の設定



「V = 1:」、「H = 1:」入力欄内に縮尺を入力します。

4 DL 値の設定

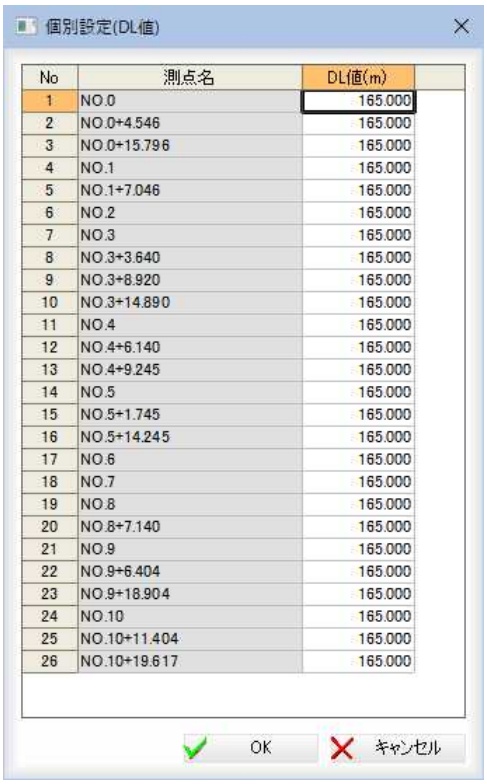
DL 値設定の方法を「一括設定」、「個別設定」いずれかのラジオボタンをクリックして選択します。

一括設定

入力欄内に入力した値で縦断図内の DL 値を一括で設定します。

個別設定

「個別設定」ラジオボタンをオンにして、[個別設定]をクリックすると「個別設定(DL 値)」ダイアログボックスが表示されます。



DL 値(m)の入力

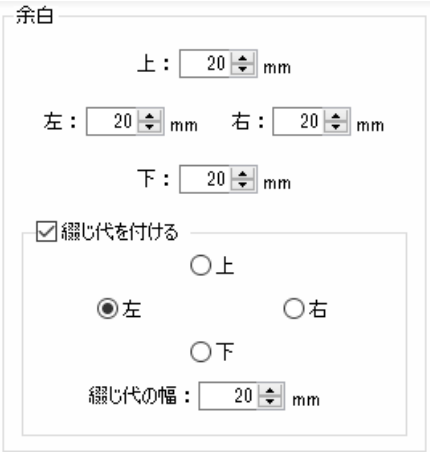
「DL 値(m)」入力欄内をクリックすると文字編集モードになりますので、任意の DL 値を入力します。

個別設定の中の値を変更した場合、選択した値以降の値を変更するかどうかを選択するメッセージボックスが表示されます。

[はい]をクリックすると、以降の測点を同じ値で変更します。

個別設定(DL 値)」ダイアログボックスで[OK]をクリックすると、縦断図設定ウィンドウに戻ります。

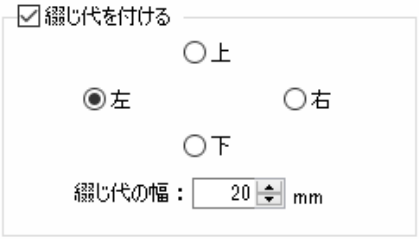
5 余白の設定



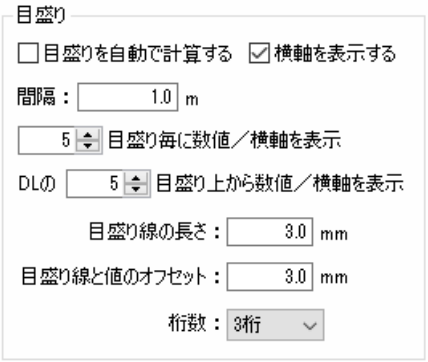
枠線外の余白寸法をmm単位で、各入力欄に数値を入力します。

綴じ代を付ける

「綴じ代を付ける」チェックマークをオンにすると、余白の外側に綴じ代を設定します。綴じ代の方向はいずれかのラジオボタンをクリックして選択します。
綴じ代の幅を「綴じ代の幅」入力欄内に入力します。



6 目盛りの設定



目盛りを自動で計算する

「目盛りを自動で計算する」チェックマークをオンにすると、縦断図の目盛りを自動で計算します。チェックマークをオフにすると、間隔や各種の目盛り表示方法を設定することができます。初期値はオンです。

横軸を表示する

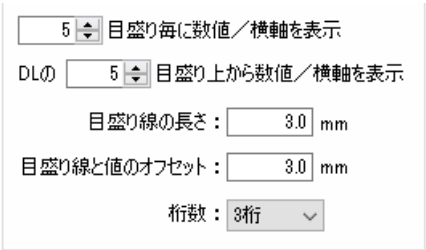
「横軸を表示する」チェックマークをオンにすると、縦断図内に横軸を表示します。チェックマークをオフにすると、横軸は表示されません。初期値はオフです。

目盛の間隔を設定する

「目盛りを自動で計算する」チェックマークがオフの状態では、「間隔」入力欄内に目盛りの間隔を入力することができます。

目盛り毎の表示設定・長さ・オフセット・桁数

目盛りの各種設定を行います。



ｎ目盛り毎に数値／横軸を表示・DL のｎ目盛り上から数値／横幅を表示

それぞれ、入力欄内に数値を入力します。

目盛り線の長さ

「目盛り線の長さ」入力欄内に長さを入力します。

目盛り線と値のオフセット

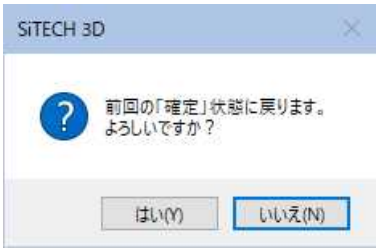
「目盛り線と値のオフセット」入力欄内にオフセット距離を入力します。

桁数
「桁数」ドロップダウンリストよりいずれかの桁数を選択します。

7 **初期化**
[初期化]をクリックすると、設定を初期状態に戻します。

一時適用
[一時適用]をクリックすると、設定内容を縦断図ウィンドウ上で確認することができます。

元に戻す
[元に戻す]をクリックすると、以下の確認メッセージが表示されます。



[はい]をクリックすると、設定内容を変更前（前回の確定状態）に戻します。

8 [確定]をクリックすると、各種の設定が確定されます。

● [装飾(線種、文字種等)]タブの設定

1 縦断図設定ウィンドウの[装飾(線種、文字種等)]タブをクリックして各種の設定を行います。

2 **線種設定**

縦断図設定ウィンドウの[装飾(線種、文字種等)]タブで[線種設定]をクリックすると、「線種設定」ダイアログボックスが表示されます。

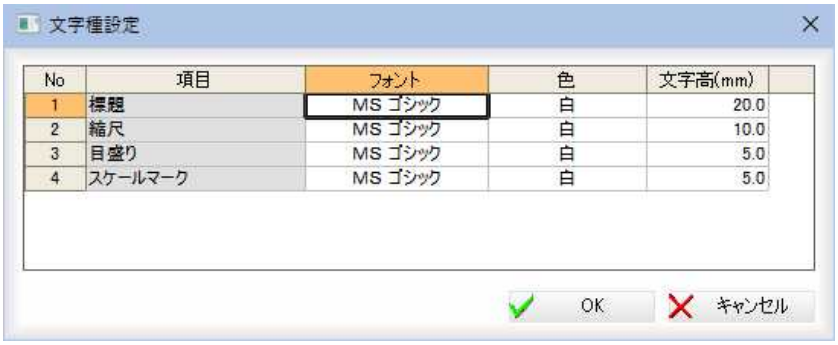
線種・線色・線幅

それぞれドロップダウンリストより選択します。

[OK]をクリックすると、縦断図設定ウィンドウに戻ります。

3 文字種設定

縦断図設定ウィンドウの[装飾(線種、文字種等)]タブで[文字種設定]をクリックすると、「文字種設定」ダイアログボックスが表示されます。



フォント・色

それぞれドロップダウンリストより選択します。

文字高(mm)

「文字高(mm)」入力欄内に文字高を入力します。

[OK]をクリックすると、縦断図設定ウィンドウに戻ります。

4 寸法設定

縦断図設定ウィンドウの[装飾(線種、文字種等)]タブで[寸法設定]をクリックすると「寸法設定」ダイアログボックスが表示されます。

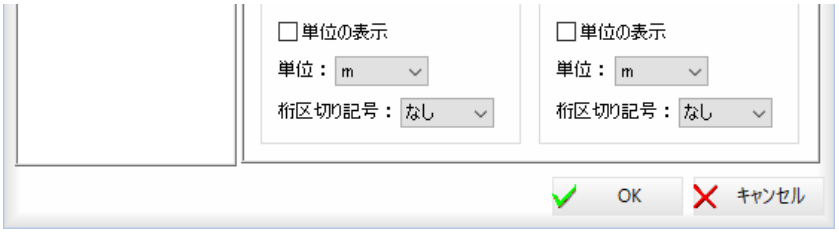
ダイアログボックス内左側の分類をクリックすると、設定内容が切り替わります。各種設定を行います。

■寸法設定

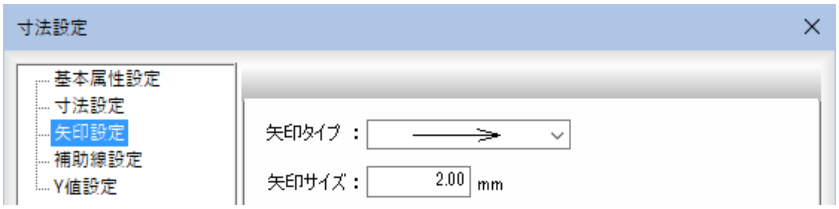
「寸法設定」ダイアログボックス内左側の「寸法設定」をクリックします。設定内容が切り替わりますので、各種設定を行います。

文字高
ドロップダウンリストより文字高を選択します。
間隔
「間隔」入力欄内に間隔を入力します。
フォント
「フォント」ドロップダウンリストよりいずれかのフォントを選択します。
表示
「半角」、「全角」いずれかのラジオボタンをクリックして選択します。
寸法線からの距離
入力欄内に寸法線からの距離を入力します。

桁表示と単位(VCL)／桁表示と単位（VCR)
通常寸法の設定
「桁数」ドロップダウンリストからいずれかを選択します。
「小数点以下の 0 表示」チェックマークをオンにすると、小数点以下の 0 が表示されます。
単位の表示
「単位の表示」チェックマークをオンにすると、単位・桁区切り記号のドロップダウンリストで選択した単位が表示されます。初期値はオフです。



■矢印設定



矢印タイプ
ドロップダウンリストよりいずれかの矢印タイプを選択します。
矢印サイズ
「矢印サイズ」入力欄内にサイズを入力します。

■補助線設定

離れ・突出長
それぞれ入力欄内にサイズを入力します。

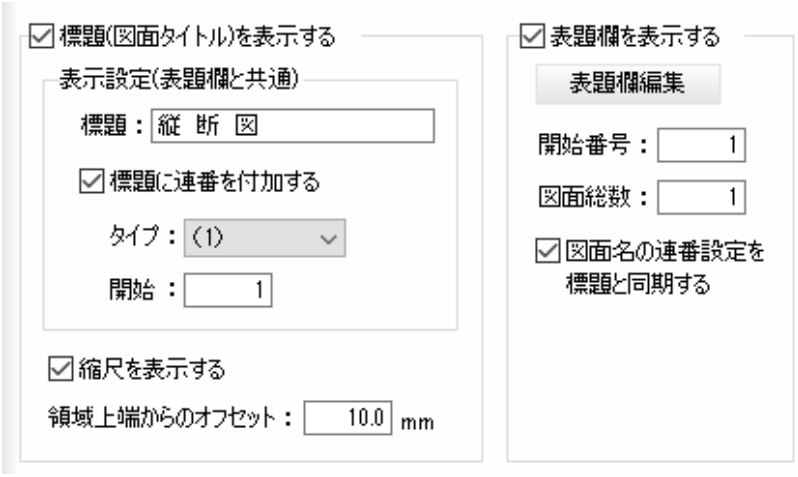
■Y値設定

桁数
ドロップダウンリストよりいずれかの桁数を選択します。
「単位の表示」チェックマークをオンにすると、単位を表示します。初期値はオフです。

5 標題（図面タイトル）を表示する

・「標題（図面タイトル）の表示設定の各項目は、図面内の表題欄の表示と連動します。

「標題（図面タイトル）を表示する」チェックマークをオンにすると、標題の表示が行われます。初期値はオンです。



表示設定（表題欄と共通）
標題
「標題」入力欄内に文字列を入力します。
標題に連番を付加する
「標題に連番を付加する」チェックマークをオンにすると、タイトル名にドロップダウンリストから選択したタイプ、開始番号で連番を付加します。初期値はオンです。

縮尺を表示する
「縮尺を表示する」チェックマークをオンにすると、標題に縮尺を表示します。初期値はオンです。
領域上端からのオフセット
「領域上端からのオフセット」入力欄内にオフセット値を入力します。

6 表題欄を表示する

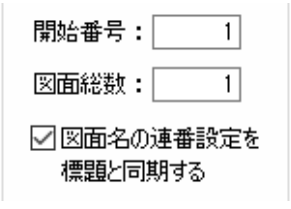
「表題欄を表示する」チェックマークをオンにすると、標題に表題欄を表示します。初期値はオンです。
表題欄編集
表題欄の情報（要素）が設定されていない場合は、「表題欄テンプレート選択」ダイアログボックスが表示され、[✓選択]をクリックすると「表題欄編集」ダイアログボックスが表示されます。
または、既に表題欄の情報が設定されている場合も「表題欄編集」ダイアログが表示されます。

[テンプレート選択]をクリックすると、「表題欄テンプレート選択」ダイアログボックスが表示されます。
[表題欄編集]ダイアログボックスで[OK]をクリックすると、一時適用の確認メッセージが表示されます。
[はい]をクリックすると、編集した表題欄テンプレートが一時適用されます。

[表題欄テンプレート]、[表題欄編集]の詳しい操作は、縦断図作成ウィンドウの[ツール]－[表題欄テンプレート]で説明しています。**⇒参照ページへ**

開始番号・図面総数

「開始番号」、「図面総数」入力欄内に、開始番号および図面総数をそれぞれ入力します。

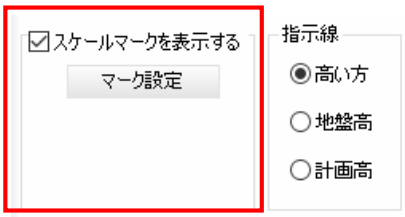


図面名の連番設定を標題と同期する

「図面名の連番設定を標題と同期する」チェックマークをオンにすると、「表示設定(表題欄と共通)」の連番設定「標題に連番を付加する」「タイプ」「開始」を図面名にも反映します。

7 スケールマークを表示する

縦断図設定ウィンドウの[装飾(線種、文字種等)]タブでスケールマークの設定を行います。



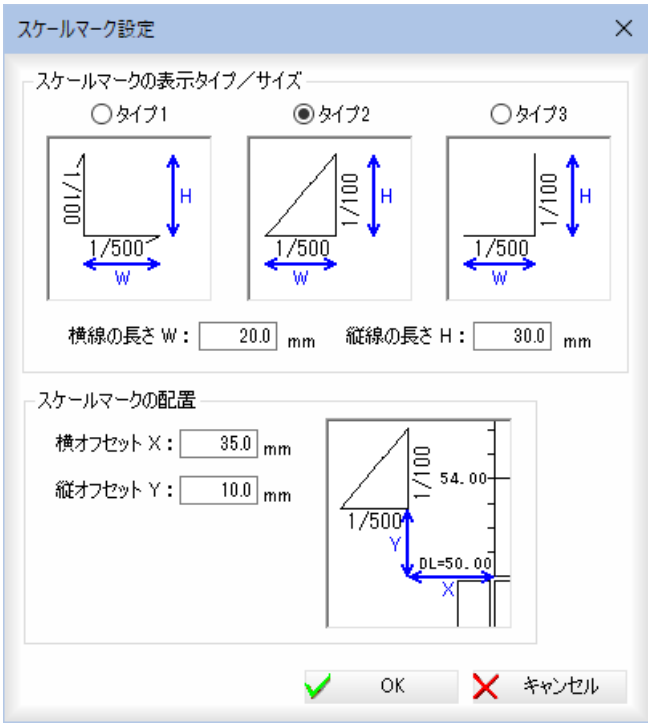
スケールマークを表示する

「スケールマークを表示する」チェックマークをオンにすると、縦断図上にスケールマークを表示します。初期値はオンです。

マーク設定

[マーク設定]をクリックすると、「スケールマーク設定」ダイアログボックスが表示されます。

スケールマークの各種設定を行います。



スケールマークの表示タイプ／サイズ

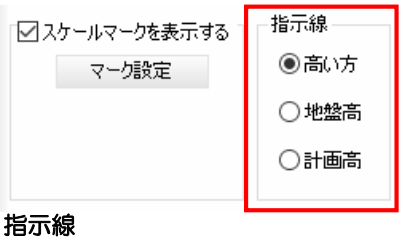
「タイプ 1」、「タイプ 2」、「タイプ 3」いずれかのラジオボタンをクリックして表示タイプ／サイズを選択します。

スケールマークの配置

「横オフセット X:」、「横オフセット Y:」入力欄内にそれぞれ数値を入力します。

8 指示線

縦断図設定ウィンドウの[装飾(線種、文字種等)]タブで指示線の設定を行います。



指示線

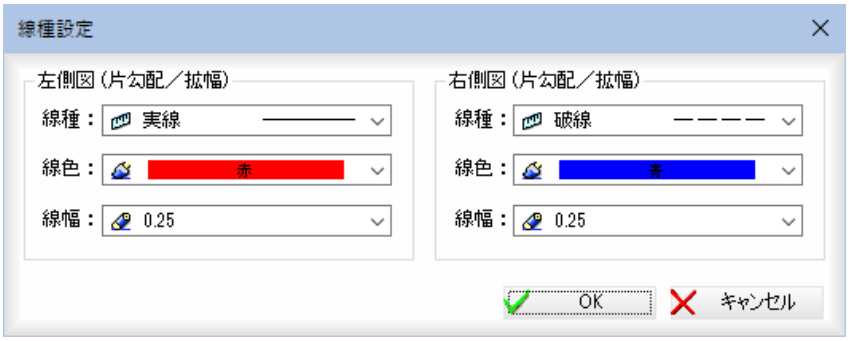
「高い方」、「地盤高」、「計画高」いずれかのラジオボタンをクリックして選択します。初期値は「高い方」です。

● [帯]タブの設定

1 縦断図設定ウィンドウの[帯]タブをクリックして各種の設定を行います。

2 **線種設定**

縦断図設定ウィンドウの[帯]タブで[線種設定]をクリックすると、「線種設定」ダイアログボックスが表示されます。



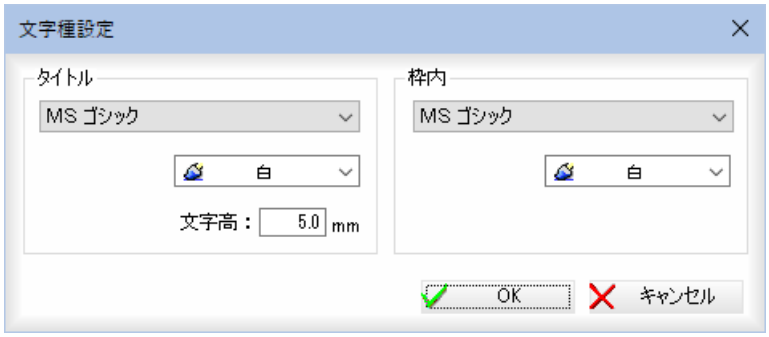
左側図／右側図の線種・線色・線幅

それぞれドロップダウンリストより選択します。

「線種設定」ダイアログボックスで[OK]をクリックすると、縦断図設定ウィンドウに戻ります。

3 **文字種設定**

縦断図設定ウィンドウの[帯]タブで[文字種設定]をクリックすると、「文字種設定」ダイアログボックスが表示されます。



■タイトル

フォント

タイトルのフォントおよび文字の色をドロップダウンリストより選択します。

文字高

「文字高」入力欄内に高さを入力します。

■枠内

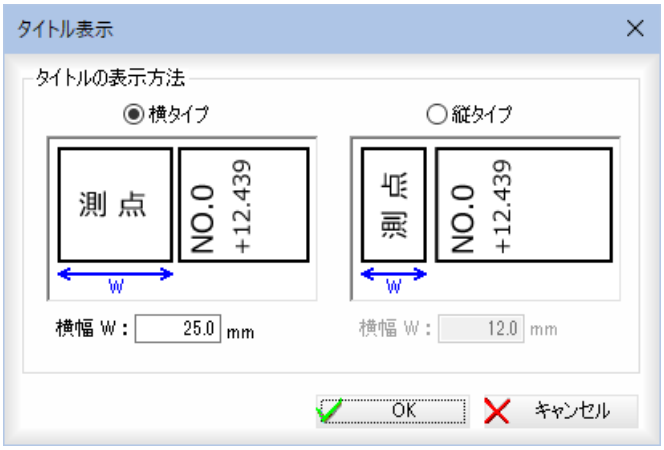
フォント

タイトルのフォントおよび文字の色をドロップダウンリストより選択します。

「文字種設定」ダイアログボックスで[OK]をクリックすると、縦断図設定ウィンドウに戻ります。

4 タイトル表示

縦断図設定ウィンドウの[帯]タブで[タイトル表示]をクリックすると、「タイトル表示」ダイアログボックスが表示されます。



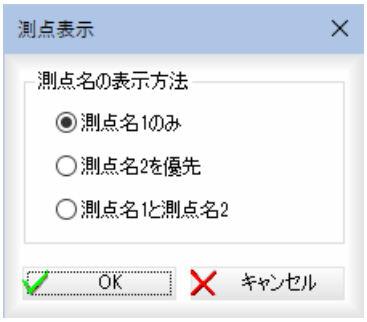
タイトルの表示方法

「横タイプ」、「縦タイプ」いずれかのラジオボタンをクリックして選択します。
それぞれ文字の横幅を「横幅 W:」入力欄内に入力します。
初期値は「横タイプ」です。

「文字種設定」ダイアログボックスで[OK]をクリックすると、縦断図設定ウィンドウに戻ります。

5 測点表示

縦断図設定ウィンドウの[帯]タブで[測点表示]をクリックすると、「測点表示」ダイアログボックスが表示されます。
「測点名 1 のみ」、「測点名 2 を優先」、「測点名 1 と測点名 2」いずれかのラジオボタンをクリックして選択します。



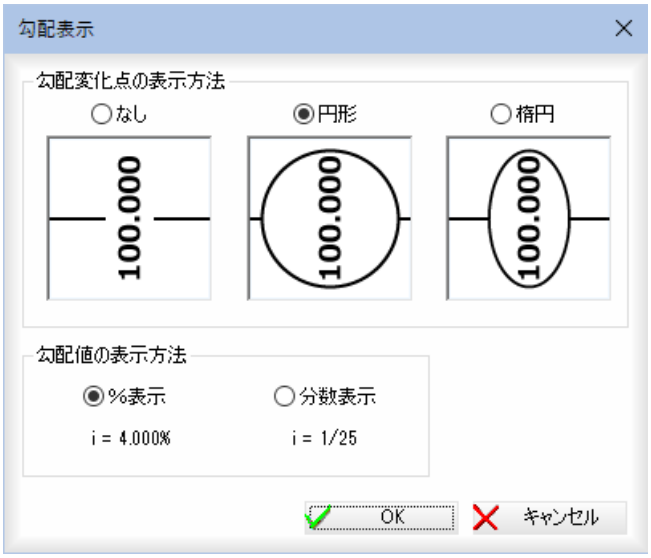
「測点表示」ダイアログボックスで[OK]をクリックすると、縦断図設定ウィンドウに戻ります。

6 勾配表示

縦断図設定ウィンドウの[帯]タブで[勾配表示]をクリックすると、「勾配表示」ダイアログボックスが表示されます。

勾配変化点の表示方法

勾配変化点の表示方法を、「なし」、「円形」、「楕円」いずれかのラジオボタンをクリックして選択します。初期値は「円形」です。



勾配値の表示方法

勾配値の表示方法を、「%表示」、「分数表示」のいずれかのラジオボタンをクリックして選択します。初期値は平面メニューの「路線設定」ダイアログボックスにて、道路モードを選択している場合は「%表示」、河川モードを選択している場合は「分数表示」となります。⇒参照ページへ

「勾配表示」ダイアログボックスで[OK]をクリックすると、縦断図設定ウィンドウに戻ります。

7 表示する帯の選択

縦断図設定ウィンドウの[帯]タブで、一覧表示からチェックマークをオン・オフにして指定します。

No	設定名	表示名称	帯	縦幅(mm)	桁数	文字高(mm)
1	勾配	縦断/勾配線	☑	20.0	3桁	3.5
2	計画高	計画高	☐	20.0	3桁	3.5
3	地盤高	地盤高	☑	20.0	3桁	3.5
4	切土高	切土高	☑	20.0	3桁	3.5
5	盛土高	盛土高	☑	20.0	3桁	3.5
6	追加距離	追加距離	☑	20.0	3桁	3.5
7	単距離	単距離	☑	20.0	3桁	3.5
8	測点名	測点番号	☑	20.0	3桁	3.5
9	平面線形曲率図	平面線形/曲率図	☑	25.0	3桁	3.5
10	片勾配	片勾配/すりつけ図	☑	25.0	3桁	3.5
11	拡幅量	拡幅/すりつけ	☑	25.0	3桁	3.5

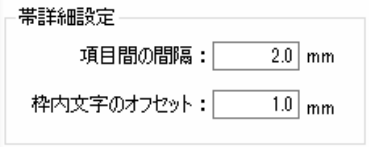
[▲上へ移動]／[▼下へ移動]

縦断図に表示する帯の順番を移動します。

選択中の帯の項目を一覧表示内で上へ移動、または下へ移動します。

8 帯詳細設定

縦断図設定ウィンドウの[帯]タブで、帯詳細設定を行います。



項目間の間隔

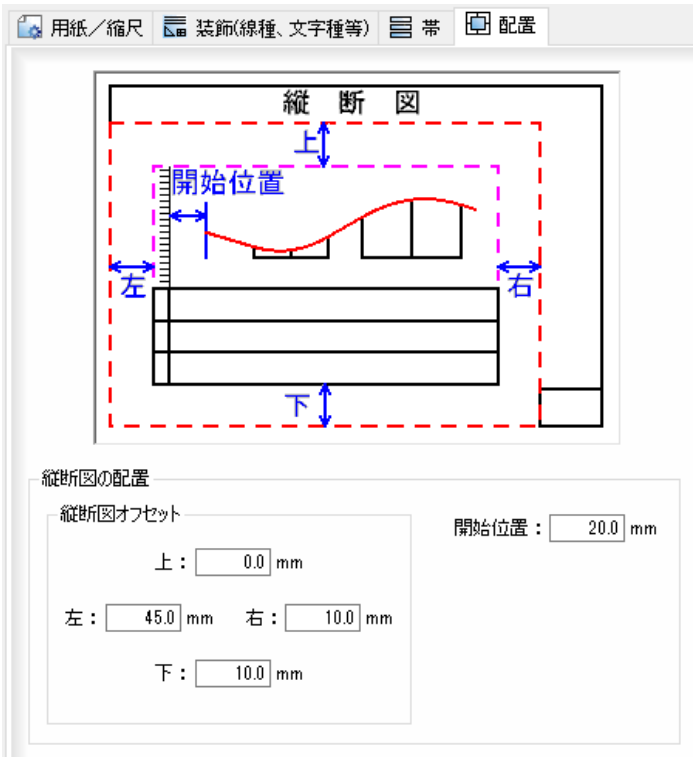
「項目間の間隔」入力欄内に間隔を入力します。

枠内文字のオフセット

「枠内文字のオフセット」入力欄内にオフセット値を入力します。

● [配置]タブの設定

1 縦断図設定ウィンドウの[配置]タブをクリックして各種の設定を行います。



縦断図の配置

縦断図オフセット

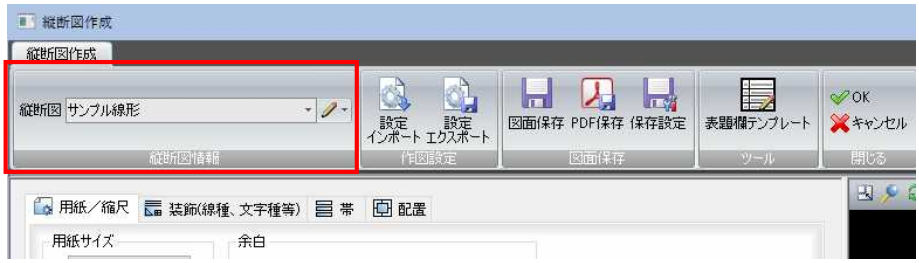
「上」、「左」、「右」、「下」入力欄内にそれぞれ縦断図のオフセット位置を入力します。

開始位置

「開始位置」入力欄内に開始位置を入力します。

3 縦断図情報

縦断図の選択・新規作成・編集処理を行います。



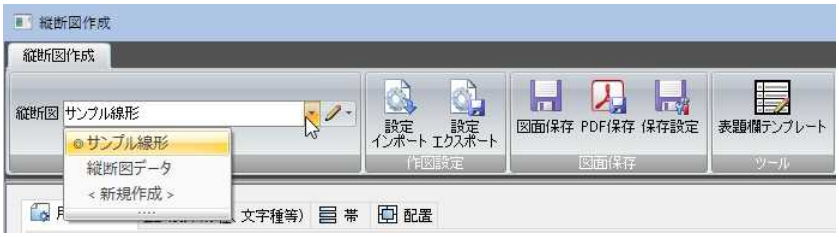
縦断図作成 ー[縦断図情報]ー選択・新規作成・編集

縦断図を選択・新規作成・編集する

現在表示中の縦断線形を選択・編集します。

● 縦断図を選択する

1 「縦断図作成」ウィンドウの[縦断図情報]で[縦断図]のドロップダウンリストより、いずれかの縦断図を選択します。



2 縦断図が切り替わります。

● 縦断図を新規作成する

1 編集中のデータに縦断図が存在しない場合や、[縦断図]のドロップダウンリストより〈新規作成〉を選択、または をクリックしドロップダウンリストより[作成]をクリックすると、「縦断図作成」ダイアログボックスが表示されます。

	対象	測点名	測点名2	コメント	追加距離	測点種類
1	☑	NO.0	BP		0.000	主要点
2	☑	NO.0+4.546	KA.1-1	○○橋	4.546	主要点
3	☑	NO.0+15.796		○○橋	15.796	任意点
4	☑	NO.1			20.000	ナンバー杭
5	☑	NO.1+7.046	KE.1-1		27.046	主要点
6	☑	NO.2			40.000	ナンバー杭
7	☑	NO.3			60.000	ナンバー杭
8	☑	NO.3+3.640	KE.1-2		63.640	主要点
9	☑	NO.3+8.920			68.920	縦断変化点
10	☑	NO.3+14.890			74.890	任意点
11	☑	NO.4			80.000	ナンバー杭

縦断図名称
「縦断図名称」入力欄内に名称を入力します。

対象範囲
「開始測点」、「終了測点」のドロップダウンリストからそれぞれ選択します。

対象種類

対象種類をチェックマークをクリックして選択します。

対象測点

	対象	測点名	測点名2	コメント	追加距離	測点種類
1	☑	NO.0	BP		0.000	主要点
2	☑	NO.0+4.546	KA.1-1	○○桝	4.546	主要点
3	☑	NO.0+15.796		○○桝	15.796	任意点
4	☑	NO.1			20.000	ナンバー杭
5	☑	NO.1+7.046	KE.1-1		27.046	主要点
6	☑	NO.2			40.000	ナンバー杭
7	☑	NO.3			60.000	ナンバー杭
8	☑	NO.3+3.640	KE.1-2		63.640	主要点
9	☑	NO.3+8.920			68.920	縦断変化点
10	☑	NO.3+14.890			74.890	任意点
11	☑	NO.4			80.000	ナンバー杭
12	☑	NO.4+6.140	KA.1-2		86.140	主要点
13	☑	NO.4+9.245	KA.2-1		89.245	主要点
14	☑	NO.5			100.000	ナンバー杭
15	☑	NO.5+1.745			101.745	任意点
16	☑	NO.5+14.245	KE.2-1		114.245	主要点
17	☑	NO.6			120.000	ナンバー杭
18	☑	NO.7			140.000	ナンバー杭
19	☑	NO.8			160.000	ナンバー杭
20	☑	NO.8+7.140			167.140	縦断変化点

対象測点を対象欄内のチェックマークをオンにして選択します。

[全選択]／[全解除]
一覧表示内のすべてのチェックマークをオン、またはオフにします。

2 「縦断図作成」ダイアログボックスで[OK]をクリックすると、縦断図作成ウィンドウに戻ります。

● 縦断線形を編集する

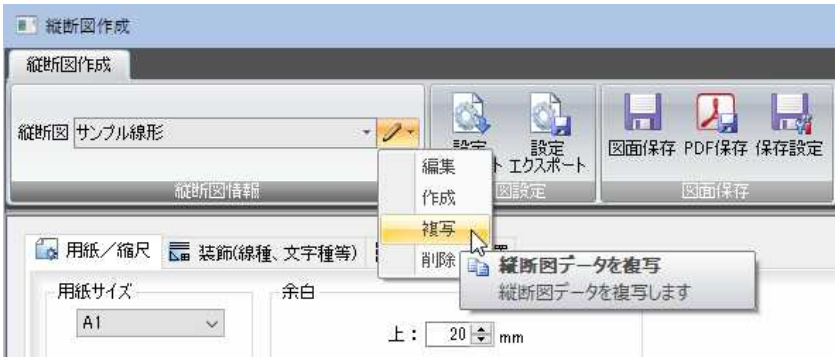
1 「縦断図作成」ウィンドウの[縦断図情報]で をクリックしドロップダウンリストより[編集]をクリックします。

「縦断図編集」ダイアログボックスが表示されます。操作方法は、「縦断図作成」ダイアログボックスと同様です。

2 [OK]をクリックすると、縦断図作成ウィンドウに戻ります。

● 縦断図を複写する

1 「縦断図作成」ウィンドウの[縦断図情報]で をクリックしドロップダウンリストより[複写]をクリックします。



「縦断図複写」ダイアログボックスが表示されます。

名称の入力

「名称」入力欄内にコピー元になった表題欄テンプレートの名称に「－コピー」をプラスした文字列が表示されます。入力欄内に文字列を入力します。

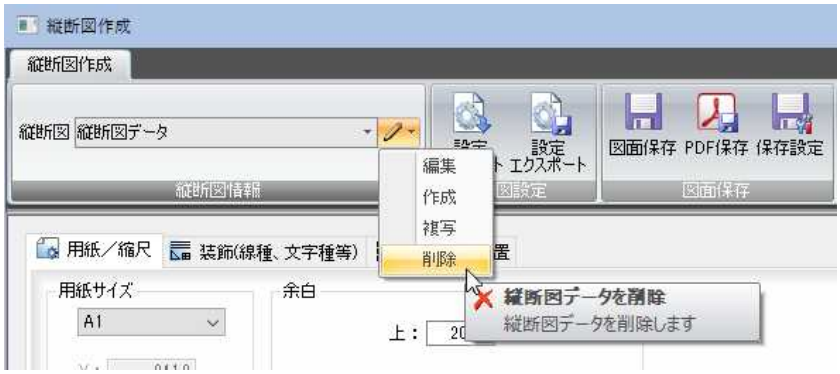
その他の各機能は、「縦断図作成」ダイアログボックスと同様です。
⇒参照ページへ

2 [OK]をクリックすると、縦断図作成ウィンドウに戻ります。

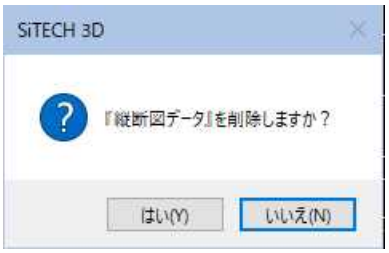
● 縦断図を削除する

・縦断図が１つだけの場合には、「縦断図作成」ウィンドウが終了します。

1 「縦断図作成」ウィンドウの[縦断図情報]で をクリックしドロップダウンリストより[削除]をクリックします。



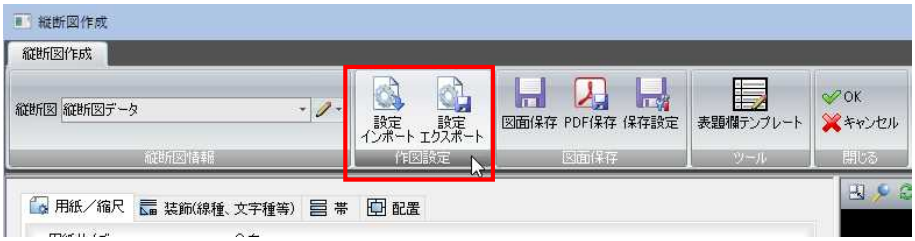
確認のメッセージが表示されます。



2 [はい]をクリックすると、現在選択中の縦断図が削除されます。

4 作図設定

「縦断図作成」ウィンドウの作図設定メニューで、縦断図設定ファイルのインポートとエクスポートを行います。

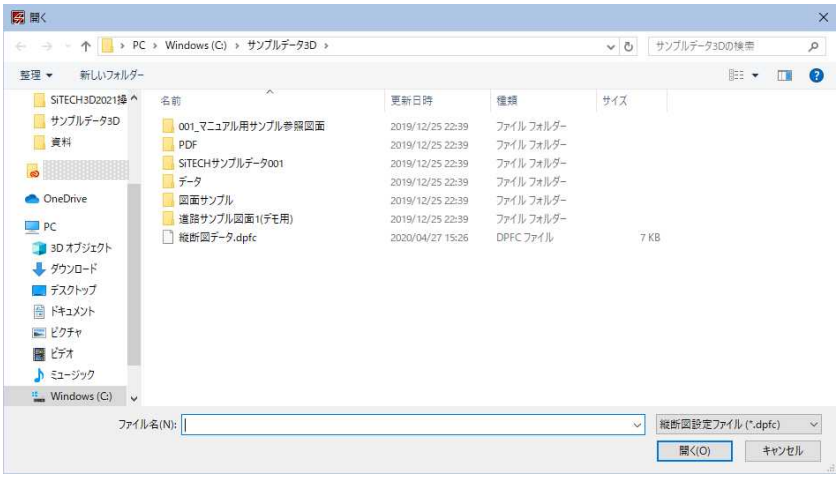


縦断図作成 －[作図設定]－[設定インポート]

設定ファイルをインポートする

● 縦断図設定ファイルのインポート

1 縦断図設定ウィンドウの[作図設定]メニュー－[設定インポート]をクリックすると、「開く」ダイアログボックスが表示されます。

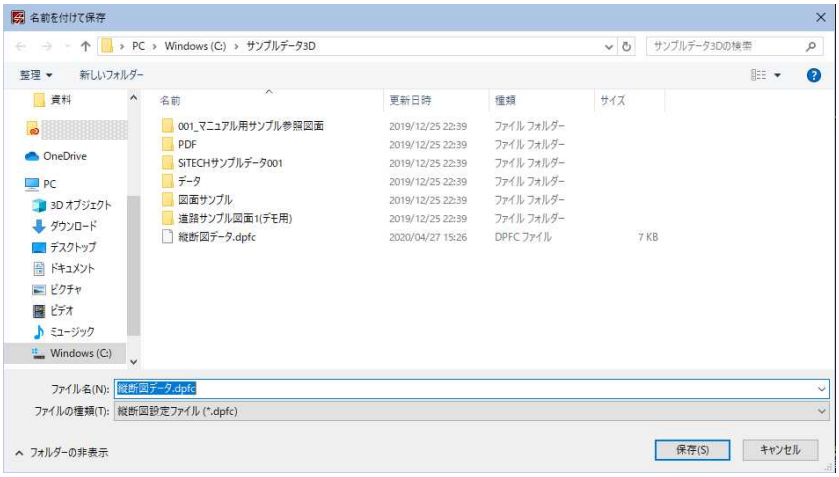


いずれかの縦断図設定ファイル(*.dpfc)を選択します。

2 [開く]をクリックすると、縦断図設定ファイルが開き、取込完了のメッセージが表示されます。

● 縦断図設定ファイルのエクスポート

1 縦断図設定ウィンドウの[作図設定]メニュー－[設定エクスポート]をクリックすると、「名前を付けて保存」ダイアログボックスが表示されます。

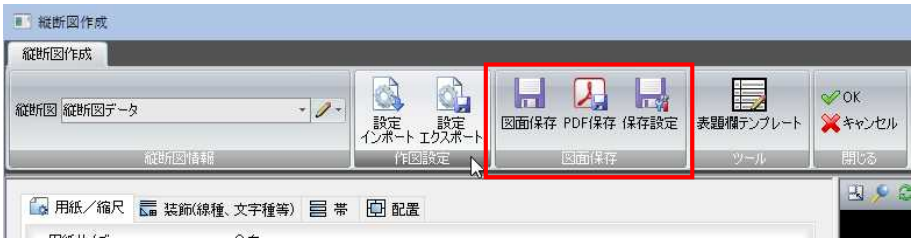


縦断図設定ファイル(*.dpfc)名を入力します。

2 [保存]をクリックすると、縦断図設定ファイルに現在の設定が保存されます。

5 図面保存

「縦断図作成」ウィンドウの図面保存メニューで、図面保存・PDF 保存・保存設定の各種処理を行います。

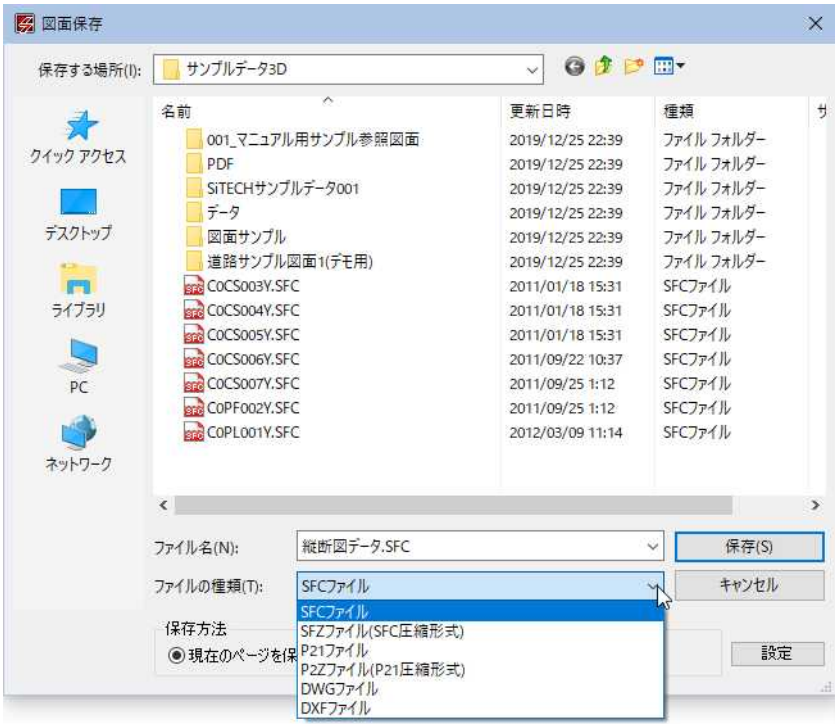


縦断図作成 －[図面保存]－[図面保存]

図面ファイルに保存する

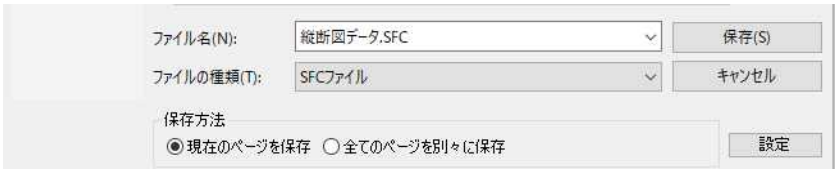
● 図面ファイルに保存する

1 縦断図作成ウィンドウの[図面保存]メニュー－[図面保存]をクリックすると、「図面保存」ダイアログボックスが表示されます。



「ファイルの種類」ドロップダウンリストより、いずれかのファイル種類を選択します。

保存方法



SXF 形式(SFC・SFZ・P21・P2Z)の場合

「現在のページを保存」、「全てのページを別々に保存」の２種類から選択します。

DWG 形式(DWG・DXF)の場合

「現在のページを保存」、「全てのページを別々に保存」、「全てのページをまとめて保存」の３種類から選択します。

設定

[設定]をクリックすると、「図面保存設定」ダイアログボックスが表示されます。

各種の設定方法は、縦断作成ウィンドウの[図面保存]メニュー－[保存設定]と同様です。⇒参照ページへ

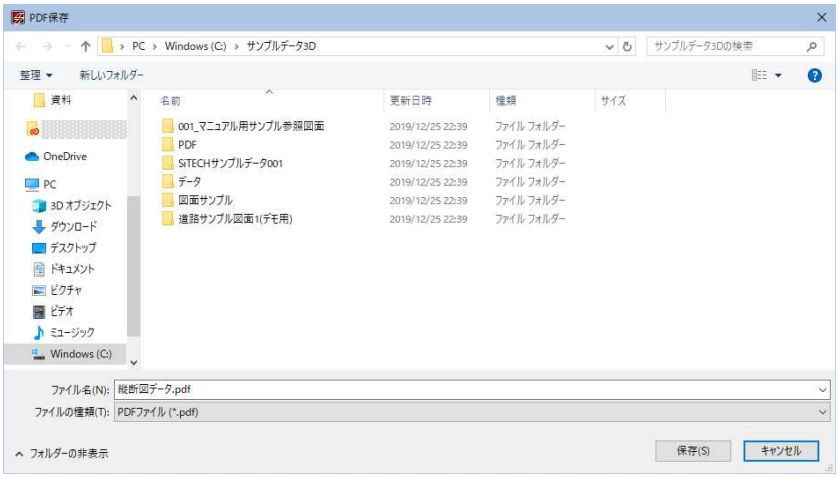
2 ファイル名を入力し、[保存]をクリックすると、現在表示中の縦断図が、選択した種類の図面ファイルとして保存されます。

縦断図作成 －[図面保存]－[PDF 保存]

PDF ファイルに保存する

● PDF ファイルに保存する

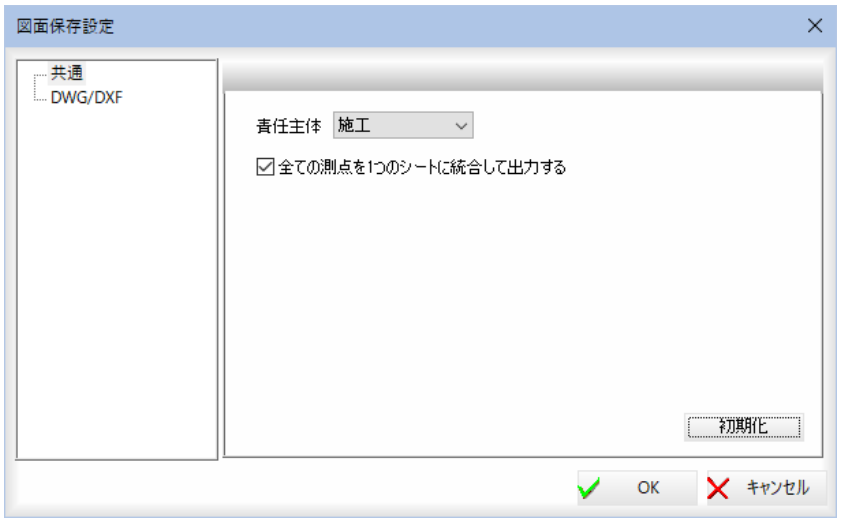
1 縦断図作成ウィンドウの[図面保存]メニュー－[PDF 保存]をクリックすると、「PDF 保存」ダイアログボックスが表示されます。



2 ファイル名を入力し、[保存]をクリックすると、現在表示中の図面データが PDF ファイルとして保存されます。

● ファイルの保存設定を行う

1 縦断図作成ウィンドウの[作図設定]メニュー－[保存設定]をクリックすると、「図面保存設定」ダイアログボックスが表示されます。

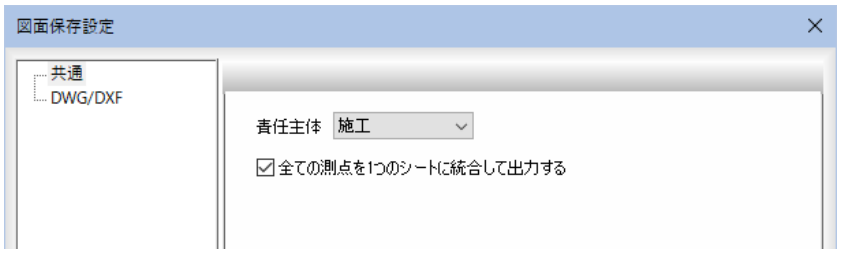


ツリー表示内の「共通」または「DWG/DXF」をクリックして表示を切り替えます。

初期化

[初期化]をクリックすると、設定を初期状態に戻します。

2 **共通の保存設定**



責任主体の選択

「責任主体」のドロップダウンリストよりいずれかを選択します。

全ての測点を１つのシートに統合して出力する

「全ての測点を1つのシートに統合して出力する」チェックマークをオンにすると、全ての測点を１つのシートに統合して出力します。

3 **DWG/DXF の保存設定**

形式

「形式」ドロップダウンリストよりいずれかを選択します。

出力単位

「ミリメートル」、「メートル」いずれかのラジオボタンをクリックして選択します。

4 [OK]をクリックすると、処理を有効として実行前に戻ります。

6 ツール

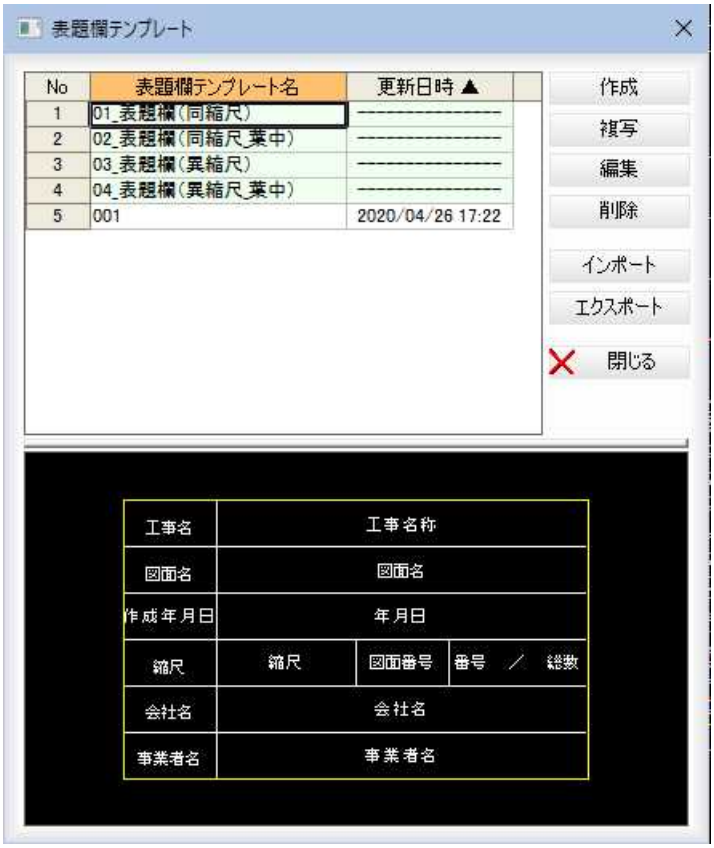
「縦断図作成」ウィンドウの[ツール]－[表題欄テンプレート]で、表題欄テンプレートの各種の処理を行います。

縦断図作成－[ツール]－[表題欄テンプレート]

表題欄テンプレートを選択する

●「表題欄テンプレート」ダイアログボックス

1 縦断図作成ウィンドウの[ツール]メニュー－[表題欄テンプレート]をクリックすると、「表題欄テンプレート」ダイアログボックスが表示されます。



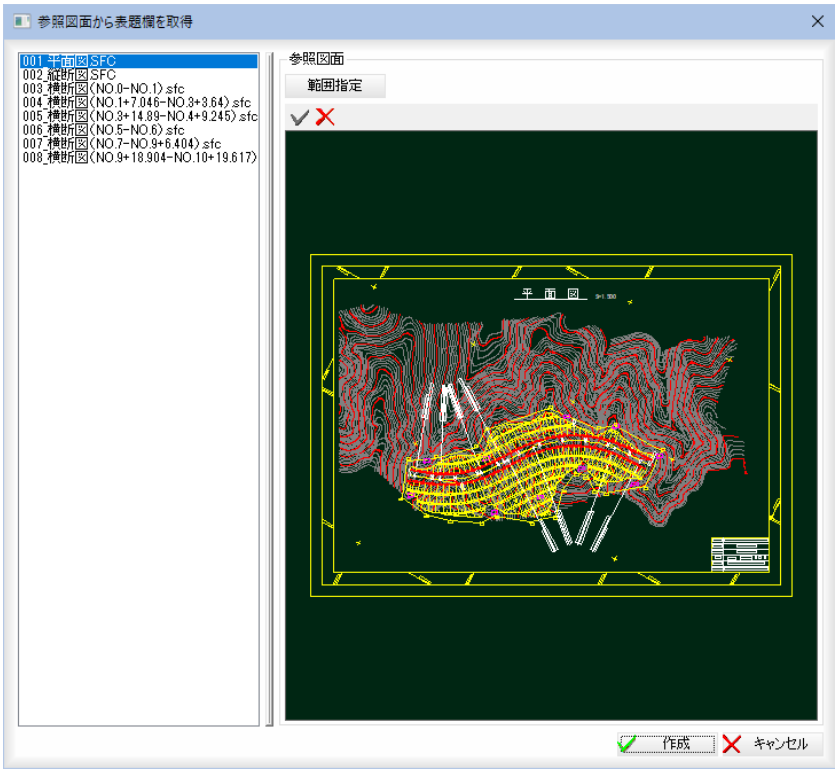
・「表題欄テンプレート」ダイアログボックスの一覧で背景が薄緑色の項目は標準表題欄テンプレートとなります。
標準表題欄テンプレートは[編集]、[削除]、[エクスポート]の各処理の対象にはなりません。

表題欄テンプレート一覧の表示
表題欄テンプレート名と、更新日時が一覧表示されます。
いずれかの表題欄テンプレートを選択すると、ダイアログボックス下部のプレビューウィンドウに表示されます。

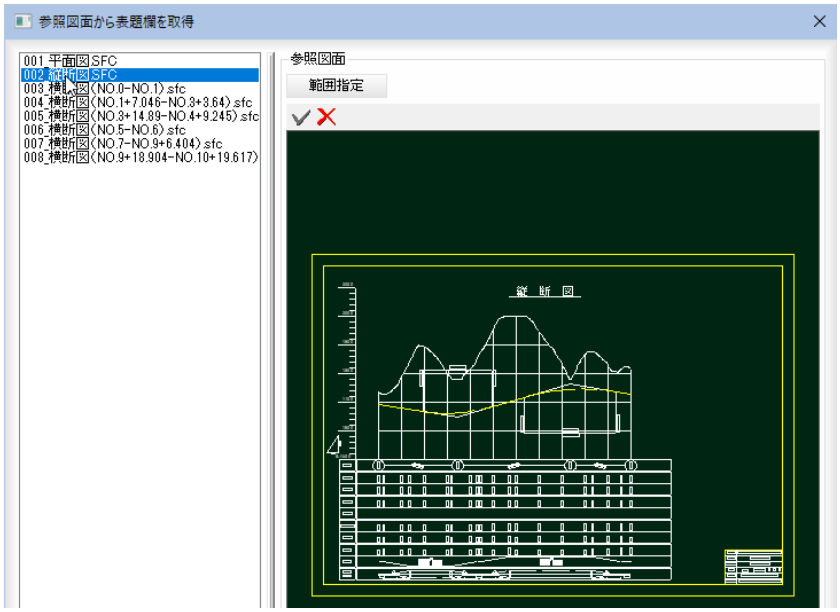
一覧上で右クリックし表示されるポップアップの項目で表示順を変更することができます。

2 表題欄テンプレートの作成

「表題欄テンプレート」ダイアログボックスで[作成]をクリックすると、「参照図面から表題欄を取得」ダイアログボックスが表示されます。

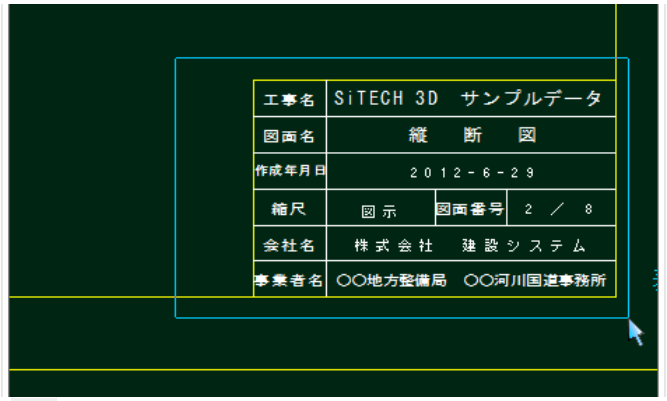


「参照図面から表題欄を取得」ダイアログボックスの左側に表示される参照図面名をクリックすると、右側のプレビュー画面の表示が切り替わります。



参照図面の範囲指定

[範囲指定]をクリックすると、範囲指定モードとなりますので、始点ー終点指定により範囲を指定します。



範囲指定後、 をクリックします。対象要素が選択され、点滅表示します。

をクリックすると、範囲指定をキャンセルします。

ポップアップメニュー

プレビューウィンドウ内で右クリックするとポップアップメニューが表示されます。各種の処理を行うことができます。

→ **OK**
作業を確定します。

→ **Back**
ひとつ前の作業に戻します。

→ **キャンセル**
処理実行前に戻します。

→ **ズーム**
ズームモードとなります。ズーム始点→終点をマウスでクリックすると、範囲指定した部分が拡大表示されます。

→ **全体表示**
ズーム表示から全体表示に戻ります。

→ **ハンドスクロール**
ハンドスクロールモードとなります。マウスを動かした方向に表示がスクロールします。

→ **フリーズーム**
フリーズームモードとなります。マウスを動かした方向に表示が拡大／縮小します。
上へ移動：拡大
下へ移動：縮小

→ **終了**
作業を終了します。

■「表題欄編集」ダイアログボックスの操作
「参照図面から表題欄を取得」ダイアログボックスで[✓作成]をクリックすると、「表題欄編集」ダイアログボックスが表示されます。

名称の入力
「名称」入力欄内に名称を入力します。

文字編集・表題欄属性

[文字編集]および[表題欄属性]の各機能は、「表題欄テンプレート」ダイアログボックスで[編集]をクリックして表示される「表題欄編集」ダイアログボックス上の各処理と同様です。**⇒参照ページへ**

3 表題欄テンプレートの複写

・「表題欄テンプレート」ダイアログボックスの一覧で背景が薄緑色の項目は標準表題欄テンプレートとなります。

「表題欄テンプレート」ダイアログボックスで[複写]をクリックすると、「表題欄複写」ダイアログボックスが表示されます。

名称の入力
「名称」入力欄内にコピー元になった表題欄テンプレートの名称に「－コピー」をプラスした文字列が表示されます。入力欄内に文字列を入力します。

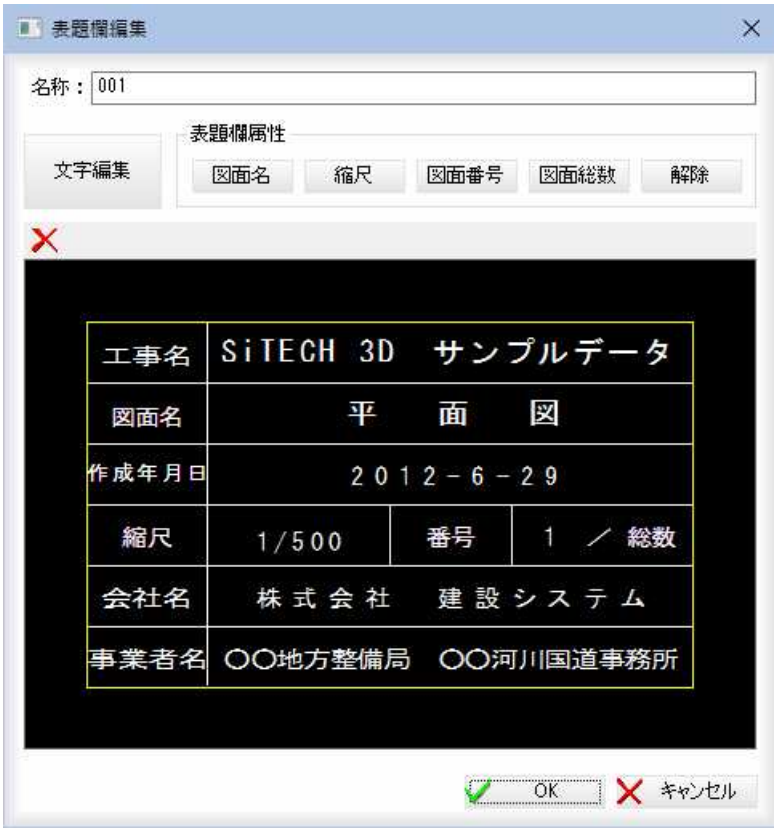
その他の各機能は、「表題欄テンプレート」ダイアログボックスで[編集]をクリックして表示される「表題欄編集」ダイアログボックス上の各処理と同様です。
⇒参照ページへ

「表題欄複写」ダイアログボックスで[OK]をクリックすると、複写が行われ、「表題欄テンプレート選択」ダイアログボックスに戻ります。

・「表題欄テンプレート」ダイアログボックスの一覧で背景が薄緑色の項目は標準表題欄テンプレートとなります。
標準表題欄テンプレートは[編集]処理の対象にはなりません。

4 表題欄テンプレートの編集

「表題欄テンプレート」ダイアログボックスで[編集]をクリックすると、「表題欄編集」ダイアログボックスが表示されます。



■文字編集

「表題欄編集」ダイアログボックスで[文字編集]をクリックすると、文字編集モードとなります。
編集を行う文字をクリックすると、「文字編集」ダイアログボックスが表示されます。

選択した文字列が入力欄内に表示されますので、文字を入力します。
フォント・文字高・配置基準点は、ドロップダウンリストより選択します。
フォントの「イタリック」チェックマークをオンにすると、イタリック体で入力します。
文字間隔は「文字間隔」入力欄内に文字間隔を入力します。

書出し方向

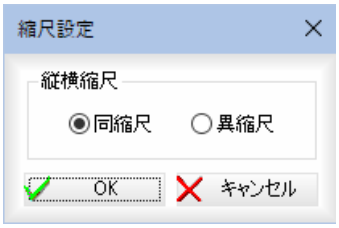
「横書き」、「縦書き」いずれかのラジオボタンをクリックして書き出し方向を選択します。

「文字編集」ダイアログボックスで[OK]をクリックすると、「表題欄編集」ダイアログボックスに戻ります。

■表題欄属性の割り当て

「表題欄編集」ダイアログボックスで表題欄属性の[図面名]、[縮尺]、[図面番号]、[図面総数]をクリックすると、それぞれの指定モードなります。マウスにてクリックした文字列が選択中の表題欄属性に設定されます。
[解除]をクリックすると、表題欄属性の割り当てを解除します。

「表題欄属性」の[縮尺]をクリックした場合のみ、「縮尺設定」ダイアログボックスが表示されますので、「同縮尺」、「異縮尺」いずれかのラジオボタンをクリックして選択します。



[OK]をクリックすると、「表題欄編集」ダイアログボックスに戻ります。
「表題欄編集」ダイアログボックスで[OK]をクリックすると、下記２点のどちらかの動作を行います。

- [表題欄テンプレート選択]ダイアログボックスから表示されている場合、表題欄テンプレートを作成し、「表題欄テンプレート」ダイアログボックスに戻ります。
- [装飾（線種、文字種等）]タブにある[表題欄編集]ボタン表示されている場合、一時適用の確認メッセージが表示されます。

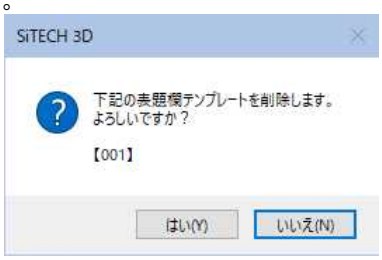
[はい]をクリックすると、選択した表題欄テンプレートが一時適用されます。
「表題欄編集」ダイアログボックスで[OK]をクリックすると、編集が行われ、「表題欄テンプレート」ダイアログボックスに戻ります。

・「表題欄テンプレート」ダイアログボックスの一覧で背景が薄緑色の項目は標準表題欄テンプレートとなります。

標準表題欄テンプレートは［削除］、［エクスポート］の各処理の対象にはなりません。

5 表題欄テンプレートの削除

「表題欄テンプレート」ダイアログボックスで［削除］をクリックすると、確認メッセージが表示されます。



［はい］をクリックすると、選択した表題欄テンプレートの削除が行われます。

6 インポート

「表題欄テンプレート」ダイアログボックスで［インポート］をクリックすると、「開く」ダイアログボックスが表示されます。

いずれかの表題欄テンプレートファイルを選択し、［開く］をクリックすると、表題欄テンプレートが開きます。

7 エクスポート

「表題欄テンプレート」ダイアログボックスで［エクスポート］をクリックすると、「名前を付けて保存」ダイアログボックスが表示されます。
ただし、標準テンプレートは選択できません（エラーメッセージが表示されます）。

表題欄テンプレートファイルを選択し、［保存］をクリックすると、表題欄テンプレートが保存されます。

Part 5 横断メニュー

1 横断情報

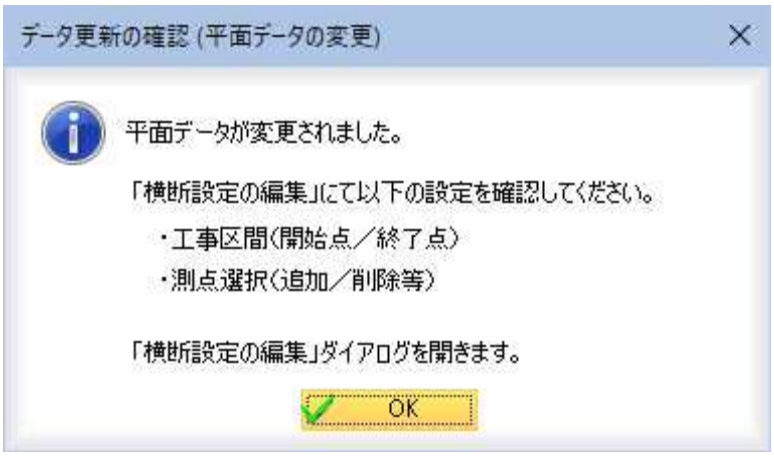
横断に関するデータの新規作成・選択・編集を行います。横断属性の設定を行うこともできます。

横断 タブをクリック

横断データ更新の確認

1 [平面]メニューまたは[縦断]メニューでデータを変更後、[横断]タブをクリックすると、以下の「横断データ更新の確認」ダイアログボックスが表示されます。
推奨される作業が記述されていますので、説明通りに実行してください。

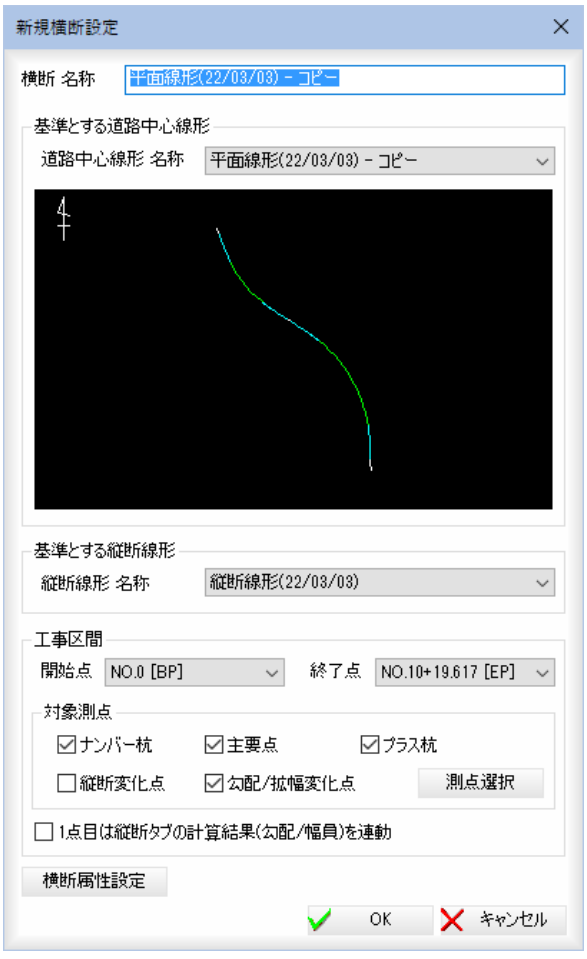
▼平面線形データを変更後、[横断]タブをクリック



2 [OK]をクリックすると、横断メニューの各種処理を実行できるようになります。

● 横断セットを新規作成する

1 [横断]メニューで[横断情報]ー[横断]のドロップダウンリストから[新規作成]をクリック、または のドロップダウンリストより[作成]を選択すると、「新規横断設定」ダイアログボックスが表示されます。



2 **横断 名称、基準とする道路中心線形、基準とする縦断線形の設定**

横断 名称

「横断 名称」入力欄内に名称を入力します。

基準とする道路中心線形
「道路中心線形 名称」のドロップダウンリストからいずれかを選択します。

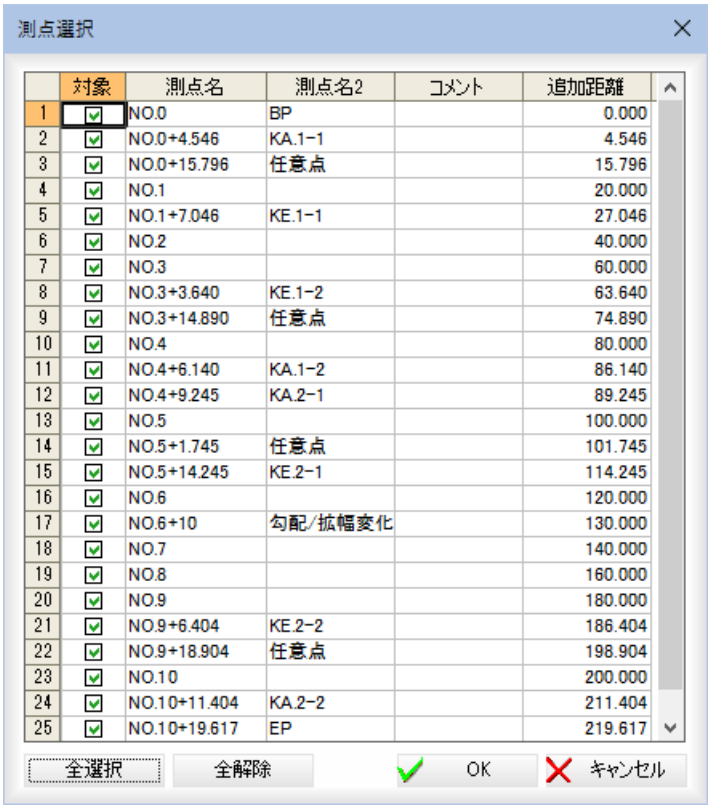
基準とする縦断線形
「縦断線形 名称」のドロップダウンリストからいずれかを選択します。

3 工事区間の設定

開始点、終了点
「開始点」、[終了点]のドロップダウンリストからいずれかを選択します。

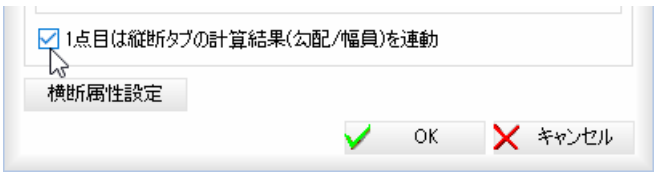
対象測点
いずれかの測点をチェックマークをオンにして選択します。
[測点選択]をクリックすると「測点選択」ダイアログボックスが表示されます。チェックマークをオンにして選択します。
一覧内を Shift キーや Ctrl キーを押しながらクリックして複数の測点を選択することもできます。

・対象測点が「縦断変化点」、「勾配/拡幅変化点」の測点の場合、測点名 2 に「縦断変化点」、「勾配/拡幅変化点」と表記されます。



[全選択]／[全解除]
表示中の測点すべてのチェックマークをオン、またはオフにします。
[OK]をクリックすると、「新規横断設定」ダイアログボックスに戻ります。

１点目は縦断タブの計算結果（勾配/拡幅）を連動する
「新規横断設定」ダイアログボックスで「１点目は縦断タブの計算結果（勾配/拡幅）を連動する」チェックマークをオンにすると、計算結果から横断の端部が作成されます。



4 横断属性の設定

「新規横断設定」ダイアログボックスで[横断属性設定]をクリックすると、「横断属性設定」ダイアログボックスが表示されます。
横断属性に関する各種設定を行います。

■横断属性

横断属性の表示

種別名が太字で表示されているものは、現在使用されているデータを指します。
種別名の背景色が薄緑色で表示されているものは、システムで設定されている編集不可のデータです。

分類確認

[分類確認]をクリックすると、「横断属性設定－分類(基本設計 XML 出力)確認ダイアログボックスが表示されます。

[閉じる]をクリックすると、「横断属性設定」ダイアログボックスに戻ります。

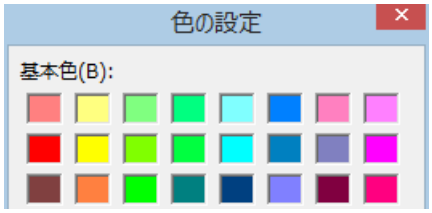
種別名の変更

「種別名」入力欄内をクリックして、文字列を入力し、変更することができます（編集不可のデータを除く）。

色の選択

各属性の表示色を選択します。

「色」欄内でダブルクリックすると「色の設定」ダイアログボックスが表示されます。



色を選択し、[OK]をクリックすると「横断属性設定」ダイアログボックスに戻ります。

なお、種別名が入力済みで表示色が未設定の場合は、「色」欄にマウスのクリックやキーボードの矢印キーなどでカーソルが移動すると「色の設定」ダイアログボックスが表示されます。

分類（基本設計 XML 出力）

「分類（基本設計 XML 出力）」欄内をクリックし、ドロップダウンリストよりいずれかを選択します。

表示選択

「表示選択」チェックマークのオン・オフによって、計画断面の「種別」ドロップダウンリストに表示する種別の選択ができます。

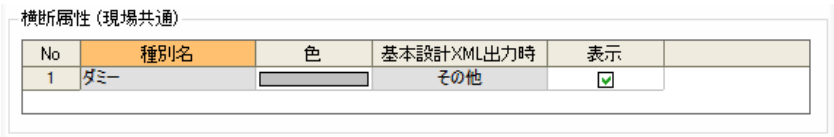
[上へ移動]／[下へ移動]

選択中の項目を一覧表示内で上へ移動、または下へ移動します。

追加／挿入／削除

[追加]　　：末尾に選択している行数分、行を追加します。
[挿入]　　：選択位置に、選択している行数分行を挿入します。
[削除]　　：選択している行を削除します。

■横断属性（現場共通）



左右先頭レコードのみ属性にダミーを選択することができます。

ダミー属性として設定した場合には、その構成点までの線分は、仮想な線分として扱われます。

「色」欄でダブルクリックすると「色の設定」ダイアログボックスが表示されます。

「表示」チェックマークをオンにすると、ダミー点が点線で表示されます。

■閲覧図面

[閲覧図面]をクリックすると、参照図面として管理されている図面の１ファイルを別ウィンドウで表示します。

詳しい操作方法は、参照図面上の[閲覧ウィンドウ]と同様です。⇒参照ページへ

■テンプレート

取込み

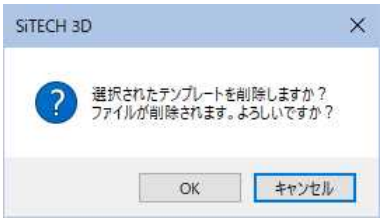
[取込み]をクリックすると、「横断属性テンプレート」ダイアログボックスが表示されます。

テンプレートの切り替え

テンプレート名一覧内のテンプレートをクリックすることにより、設定された横断属性の一覧のプレビュー表示が切替わります。

テンプレートの削除

テンプレート名一覧内のいずれかのテンプレートをクリックして反転表示させ、[削除]をクリックすると、確認メッセージが表示されます。



[OK]をクリックすると、選択したテンプレートを削除します。

インポート

[インポート]をクリックすると、「開く」ダイアログボックスが表示されますので、いずれかの横断属性設定データファイル(*.ozt)を選択し、[開く]をクリックします。「横断属性テンプレート」ダイアログボックス内に表示されます。

エクスポート

[エクスポート]をクリックすると、「エクスポート対象の選択」ダイアログボックスが表示されます。

エクスポート対象の選択

横断属性一覧表示内の「対象」チェックマークをクリックして、エクスポートする対象を選択します。

[全選択]／[全解除]

一覧表示内のすべてのチェックマークをオン、またはオフにします。

■閲覧図面

[閲覧図面]をクリックすると、参照図面として管理されている図面の１ファイルを別ウィンドウで表示します。

詳しい操作方法は、参照図面上の[閲覧ウィンドウ]と同様です。⇒参照ページへ

「エクスポート対象の選択」ダイアログボックスで[OK]をクリックすると、処理を有効にして「横断属性テンプレート」ダイアログボックスに戻ります。

取込対象の選択

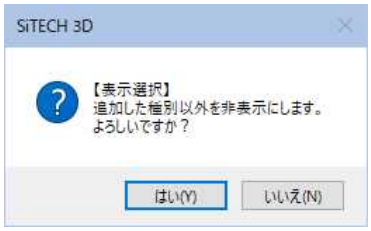
「横断属性テンプレート」ダイアログボックスで[次へ]をクリックすると、「テンプレート取込み対象の選択」ダイアログボックスが表示されます。

横断属性一覧表示内の「対象」チェックマークをクリックして、テンプレート取込み対象を選択します。

[全選択]／[全解除]

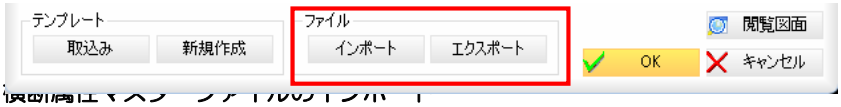
一覧表示内のすべてのチェックマークをオン、またはオフにします。

対象を１つ以上選択し、「テンプレート取込み対象の選択」ダイアログボックスで[OK]をクリックすると、確認メッセージが表示されます。



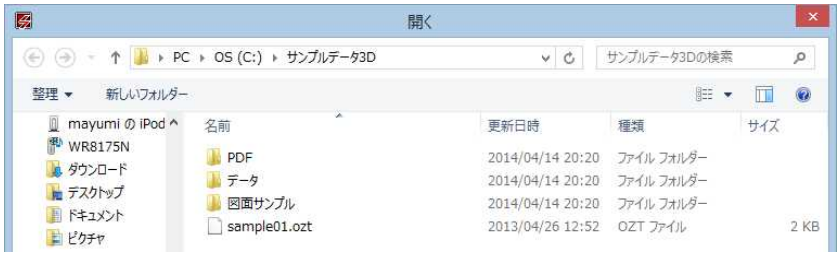
適した処理を選択すると、「横断属性設定」ダイアログボックスに戻ります。

■ファイル



横断属性マスターファイルのインポート

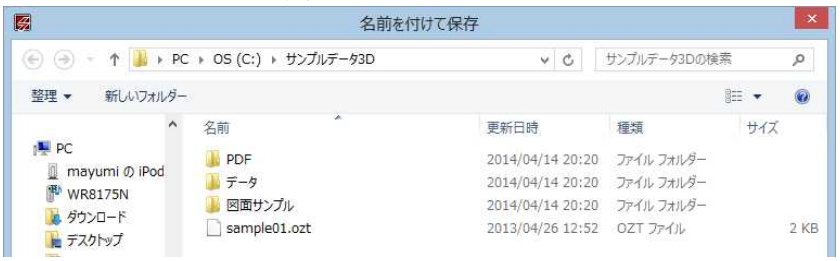
「横断属性設定」ダイアログボックスで、[インポート]をクリックすると、「開く」ダイアログボックスが表示されますので、いずれかの横断属性設定データファイル(*.ozt)を選択します。



[開く]をクリックすると、「横断属性設定」ダイアログボックスに戻ります。

横断属性マスターファイルのエクスポート

「横断属性設定」ダイアログボックスで、[エクスポート]をクリックすると、「名前を付けて保存」ダイアログボックスが表示されますので、横断属性設定データファイル(*.ozt)名を入力します。

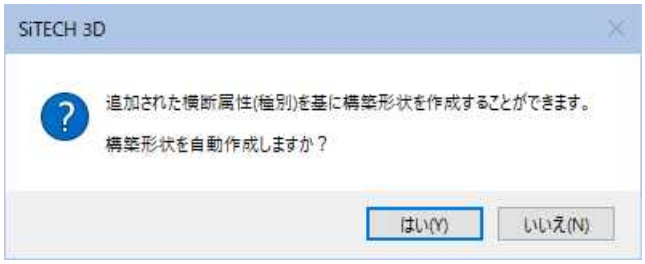


[保存]をクリックすると、「横断属性設定」ダイアログボックスに戻ります。

「横断属性設定」ダイアログボックスで[OK]をクリックすると「新規横断設定」ダイアログボックスに戻ります。

5 構築形状の自動作成

「新規横断設定」ダイアログボックスで[OK]をクリックすると、確認メッセージが表示されます。



[はい]をクリックすると、「構築形状の自動作成」ダイアログボックスが表示されます。

構築形状の対象の選択

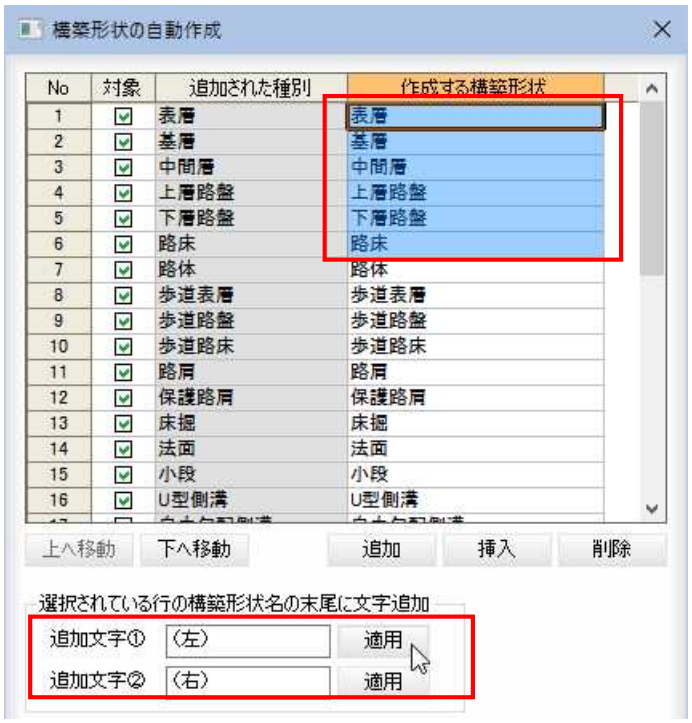
一覧表示内の「対象」チェックマークをクリックして選択します。

追加／挿入／削除

[追加]　　：末尾に選択している行数分、行を追加します。
[挿入]　　：選択位置に、選択している行数分行を挿入します。
[削除]　　：選択している行を削除します。

選択されている行の構築形状名の末尾に文字追加

一覧表示内の種別を選択し、「追加文字①」、「追加文字②」入力欄内に文字列を入力し、[適用]をクリックすると、構築形状名の末尾に文字列が追加されます。
Shift または Ctrl キーを押しながら対象を複数行選択することも可能です。



■閲覧図面

[閲覧図面]をクリックすると、参照図面として管理されている図面の１ファイルを別ウィンドウで表示します。

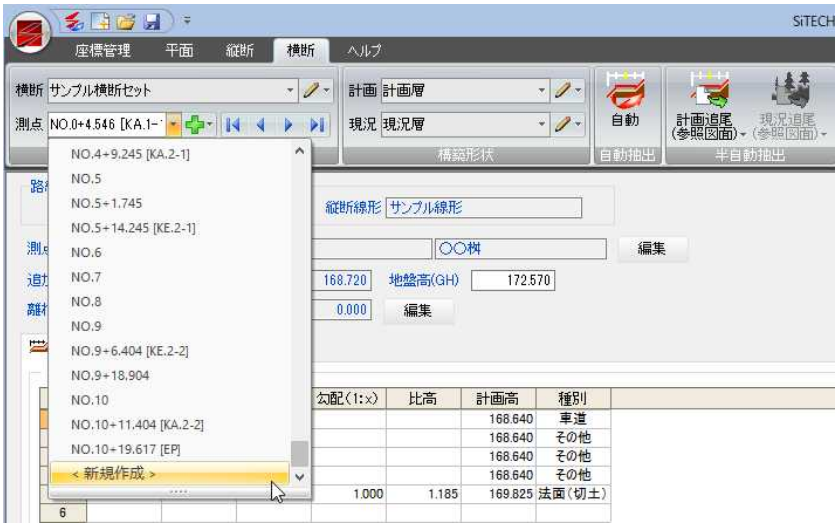
詳しい操作方法は、参照図面上の[閲覧ウィンドウ]と同様です。⇒参照ページへ

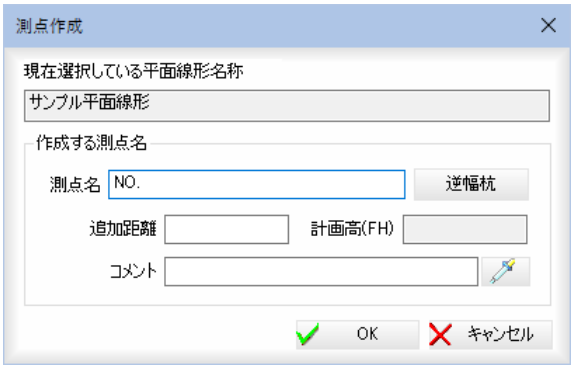
6 「構築形状の自動作成」ダイアログボックスで[OK]をクリックすると、処理を終了します。

計画層のドロップダウンリストには、自動作成された構築形状が表示されます。

● 測点を新規作成する

1 [横断]メニューで[横断情報]－[測点]のドロップダウンリストから[新規作成]をクリック、または のドロップダウンリストより[作成]をそうすると、「測点作成」ダイアログボックスが表示されます。





現在選択している平面線形路線名が表示されます。センター点のみの測点を作成します。「作成する測点名」の各種処理を行います。
以下、各処理について説明します。

■作成する測点名

測点名

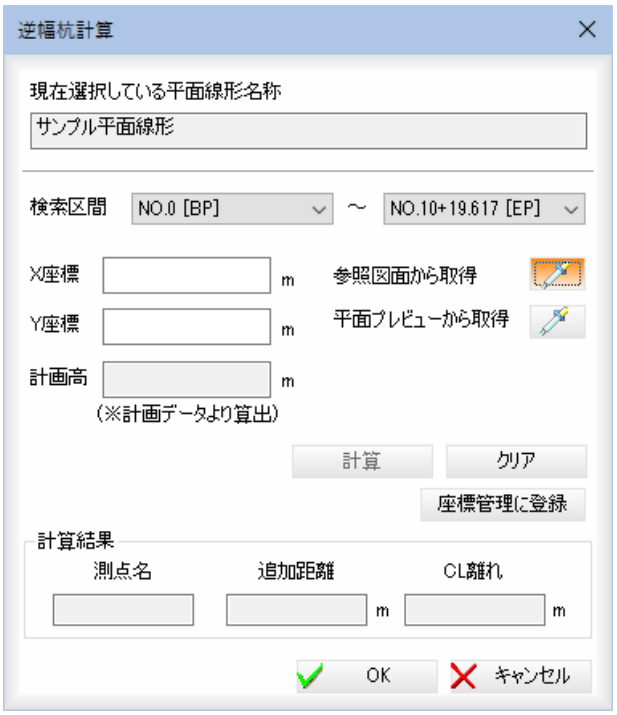
測点名を入力欄内に入力します。

追加距離、計算高(FH)、コメント

「測点作成」ダイアログボックスで追加距離を入力欄内に入力します。
計画高は、縦断の計算結果から自動算出された値が表示されます。
コメントを「コメント」入力欄内に入力します。[スポイト]ボタンをクリックし、参照図面にあるいずれかの文字列をクリックします。「コメント」入力欄内に入力されます。

逆幅杭計算

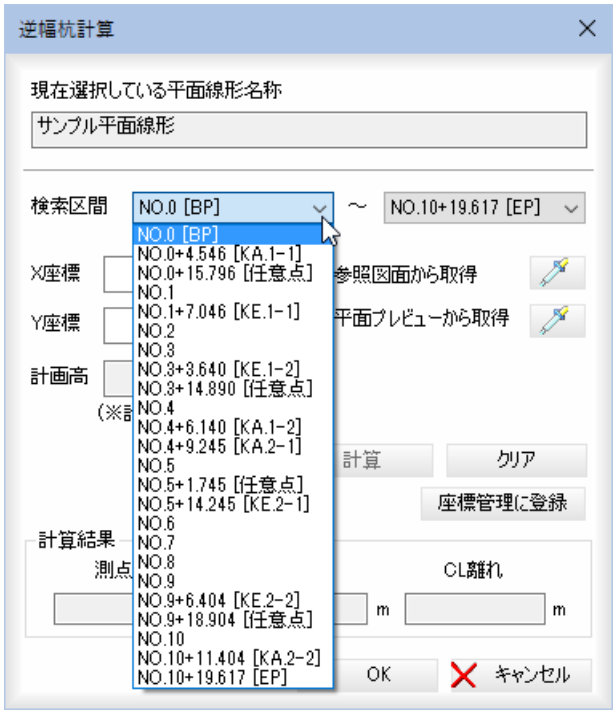
[逆幅杭]をクリックすると、「逆幅杭計算」ダイアログボックスが表示されます。



現在選択している平面線形路線名が表示されます。

検索区間の選択

検索区間をそれぞれドロップダウンリストリストより選択します。



X 座標、Y 座標、計算高の入力

X 座標、Y 座標各入力欄内に、座標値を入力します。

計画高は、縦断の計算結果から自動算出された値が表示されます。

参照図面から取得(スポイト)

参照図面から取得の[スポイト]ボタンをクリックすると、参照図面が平面図に切り替わり、座標抽出モードになります。

参照図面上をクリックすると、クリックした点と平面線形が直交した点が検索区間内の点であれば、X・Y 座標と計算結果が表示されます。

なお、参照図面が開かれていない場合は、[スポイト機能]は使用できません。

平面プレビューから取得(スポイト)
平面プレビューから取得の[スポイト]ボタンをクリックすると、平面プレビューに切り替わり、座標抽出モードになります。
平面プレビュー上をクリックすると、クリックした点と平面線形が直交した点が検索区間内の点であれば、X・Y 座標と計算結果が表示されます。
計算・クリア
[計算]をクリックすると「計算結果」に反映されます。
[クリア]をクリックすると、計算結果をクリアします。
[OK]をクリックすると、「測点作成」ダイアログボックスに戻ります。

座標管理に登録
[座標管理に登録]をクリックすると、確認メッセージが表示されます。

[はい]をクリックすると、計算結果が座標管理一覧内に表示され、「逆幅杭計算」ダイアログボックスに戻ります。

計算結果
計算結果が表示されます。

「逆幅杭計算」ダイアログボックスで[OK]をクリックすると、処理を終了し「測点作成」ダイアログボックスに戻ります。

2 「測点作成」ダイアログボックスで[OK]をクリックすると横断測点が新規作成され、システム画面に戻ります。

横断 －[横断情報]

横断セットを選択・編集する

現在表示中の横断セットを選択・編集します。

● 横断セットを選択する

1 横断メニューの[横断情報]で[横断]のドロップダウンリストより、いずれかの横断セットを選択します。

[新規作成]を選択した場合は、「新規横断設定」ダイアログボックスが表示されますので、各種の設定を行い、[OK]をクリックします。

2 データウィンドウに表示されている横断セットが切り替わりますので、各種処理を行ってください。

● 横断セットを編集する

1 横断メニューの[横断情報]で をクリック、またはドロップダウンリストより[編集]をクリックします。

「横断設定の編集」ダイアログボックスが表示されます。操作方法は、「新規横断設定」ダイアログボックスと同様です。⇒参照ページへ

2 [OK]をクリックすると、システム画面に戻ります。

● 横断セットを作成する

1 [横断]メニューで[横断情報]－[横断]のドロップダウンリストから[新規作成]をクリック、または横断編集ドロップダウンリストより[作成]を選択すると、「新規横断設定」ダイアログボックスが表示されます。

操作方法は、「横断セットを新規作成する」と同様です。**⇒参照ページへ**

2 [OK]をクリックするとシステム画面に戻ります。

● 横断セットを複写する

1 [横断]メニューで[横断情報]－[横断]のドロップダウンリストから[複写]をクリックします。

2 「横断セットの複写」ダイアログボックスが表示されます。

「横断セット名」、「上下オフセット量(比高)」の各入力欄に入力し、[OK]をクリックします。

図形から取得

をクリックすると、参照図面もしくは横断プレビュー上で基準点をマウスクリックし、続けてオフセット位置でクリックすることにより比高を取得できます。

取得対象の選択

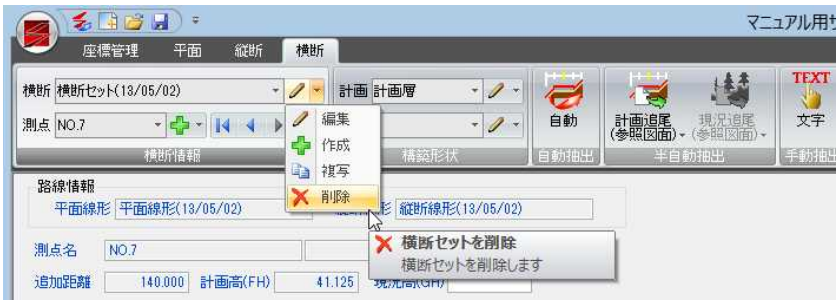
「参照図面」、「横断プレビュー」のいずれかのラジオボタンをクリックして、比高の取得対象を選択します。

3 [OK]をクリックすると、横断が複写され、システム画面に戻ります。

● 横断セットを削除する

・横断セットが１つだけの場合には、削除後に縦断メニューに切り替わります。

1 横断メニューの[横断情報]で横断編集ドロップダウンリストより[削除]をクリックします。



2 現在選択中の横断セットが削除されます。

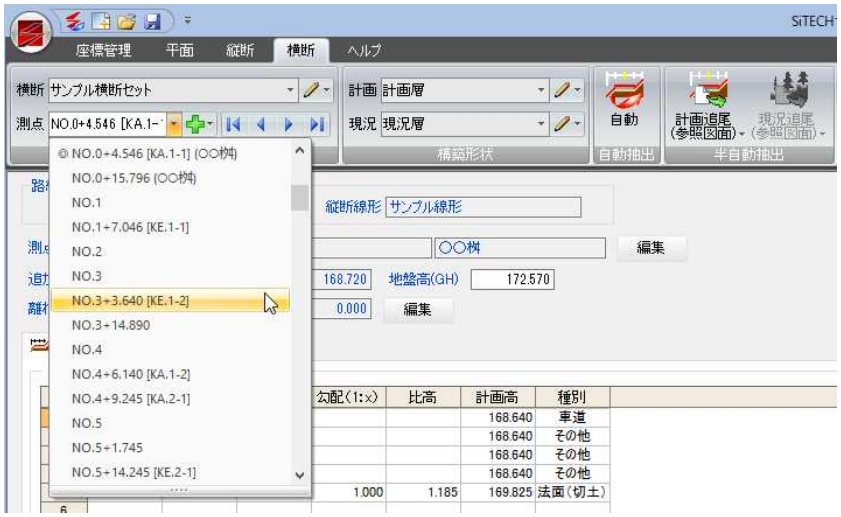
横断 －[横断情報]（測点選択・編集）

測点を選択・編集する

現在表示中の測点を選択・編集します。

● 測点を選択する

1 横断メニューの[横断情報]で[測点]のドロップダウンリストより、いずれかの測点を選択します。



2 データウィンドウに表示されている測点が切り替わりますので、各種処理を行ってください。

● 測点を作成する

1 [横断]メニューで[横断情報]－[測点]のドロップダウンリストから[新規作成]をクリック、または　　のドロップダウンリストより[作成]を選択すると、「新規横断設定」ダイアログボックスが表示されます。

操作方法は、「測点を新規作成する」と同様です。⇒参照ページへ

2 [OK]をクリックするとシステム画面に戻ります。

● 断面変化点を作成する

現状の 3D 形状と平面図を比較し、不足する変化点を作成します。

1 [横断]メニューで[横断情報]－[測点]のドロップダウンリストから[断面変化点作成]をクリックします。
「断面変化点作成」ダイアログボックスが表示されます。

現在選択している平面線形および構築形状の名称が表示されます。

「作成する断面変化点」の各種処理を行います。

■作成する測点名

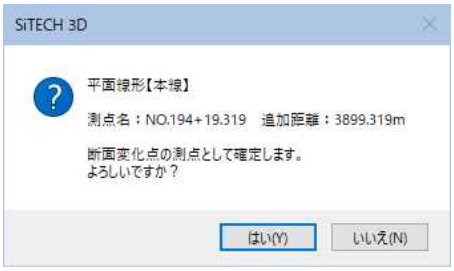
測点名

測点名を入力欄内に入力します。

逆幅杭

[逆幅杭]をクリックすると、逆幅杭指定モードとなりますので、作成したい断面変化点の横断方向の点をマウスにて指示します。確認メッセージが表示されます。

・「逆幅杭」「コメント」をクリックすると平面図の参照図面が表示された状態になります。

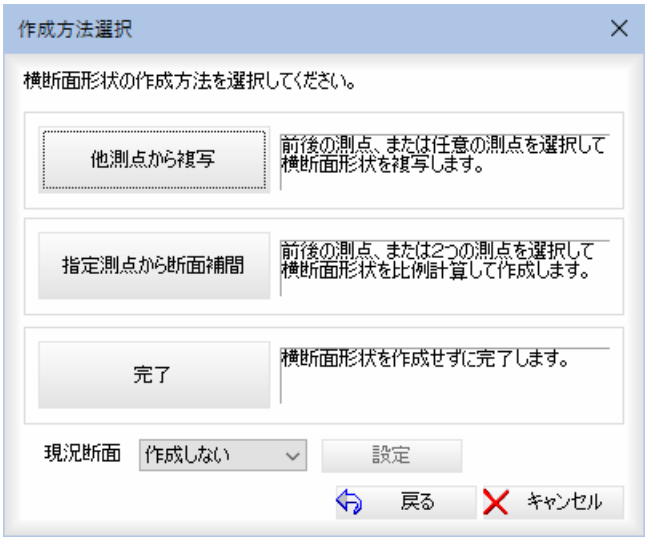


[はい]をクリックすると、データが取り込まれ「断面変化点作成」ダイアログボックスに戻ります。

コメントの入力

「コメント」入力欄内にコメントを入力します。 をクリックすると、参照図面内指定モードになりますので、マウスにて文字列をクリックします。文字が取り込まれ「断面変化点作成」ダイアログボックスに戻ります。

2 「断面変化点作成」ダイアログボックスで[次へ]をクリックすると、「作成方法選択」ダイアログボックスが表示されます。いずれかの作成方法を選択します。



現況断面

「現況断面」のドロップダウンリストよりいずれかを選択します。

作成しない

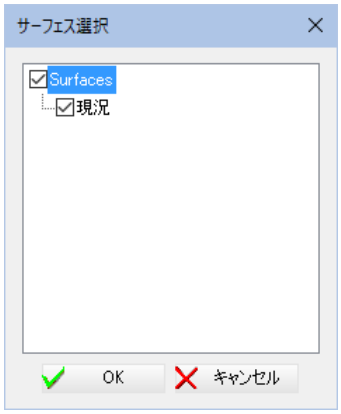
現況断面を作成しないで横断面形状を作成します。

現況層から作成

現況層から横断面形状を作成します。

Surface から作成

Suface から横断面形状を作成します。[設定]をクリックすると「サーフェス選択」ダイアログボックスが表示されますので、チェックマークをオンにして対象の Surface を選択します。



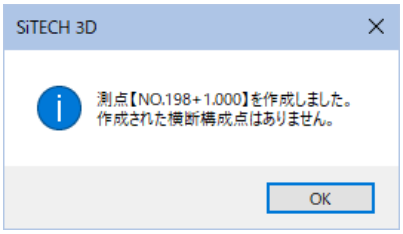
[OK]をクリックすると、「作成方法選択」ダイアログボックスに戻ります。

以下、横断面形状の各種作成方法について説明します。

[他測点から複写] → **操作３**へ。

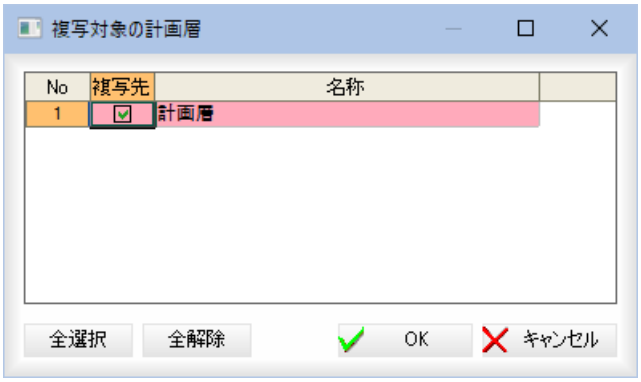
[指定測点から断面補間] → **操作４**へ。

[完了] → 横断面形状を作成せずに、処理を終了します。

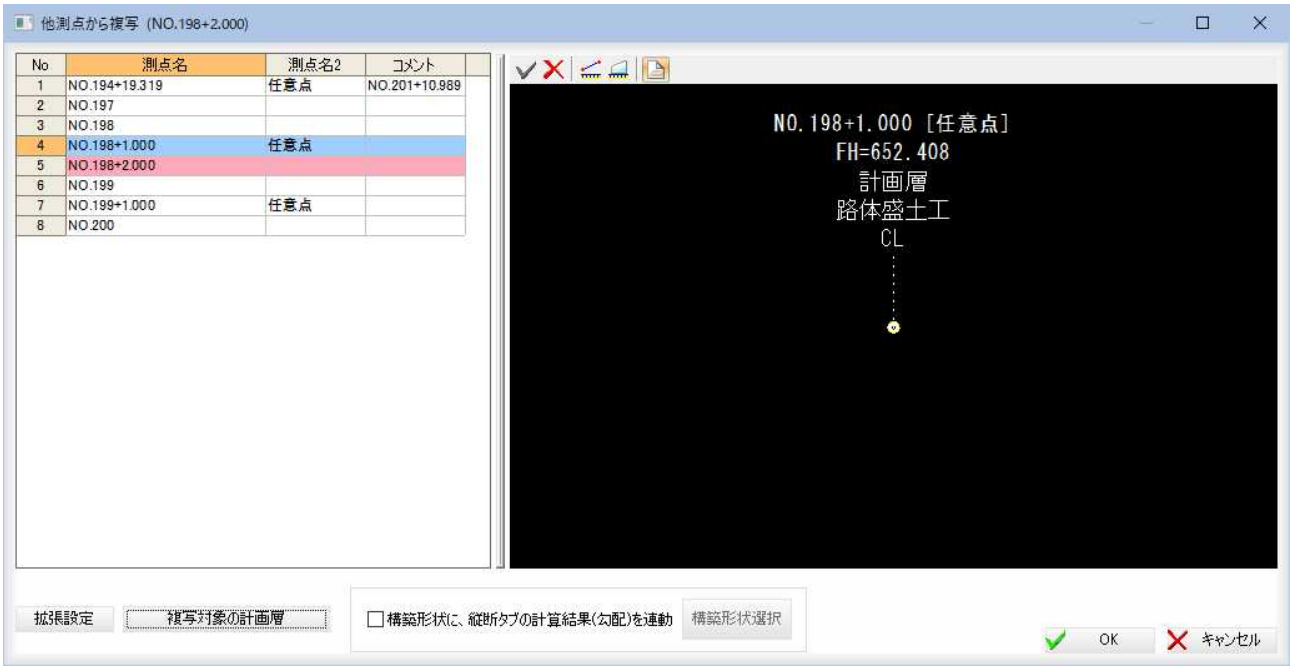


3 他測点から複写

指定の測点を選択して横断面形状を複写します。
「作成方法選択」ダイアログボックスで[他測点から複写]をクリックすると、「複写対象の計画層」ダイアログボックスが表示されます。



「複写先」チェックマークをクリックして、複写先を選択します。
[全選択]／[全解除]
一覧表示内のすべてのチェックマークをオン、またはオフにします。
[OK]をクリックすると、「他測点から複写」ダイアログボックスが表示されます。

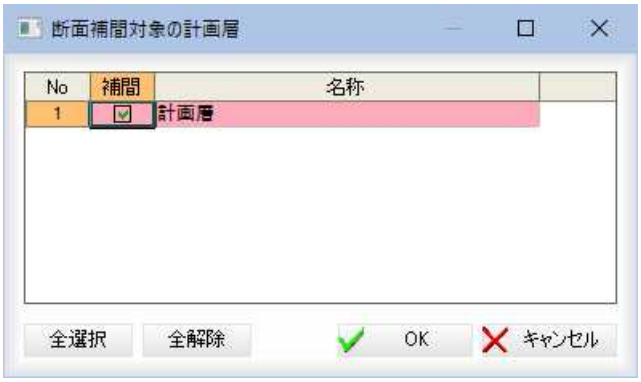


以降の操作は、横断メニューの[コマンド]－[形状複写](形状複写：他測点から複写)の処理と同様です。⇒参照ページへ

「他測点から複写」ダイアログボックスで[OK]をクリックすると、選択した測点から横断面形状を複写し、処理を終了します。

4 指定測点から断面補間

指定の測点を選択して横断面形状を比例計算して作成します。
「作成方法選択」ダイアログボックスで[指定測点から断面補間]をクリックすると、「断面補間対象の計画層」ダイアログボックスが表示されます。

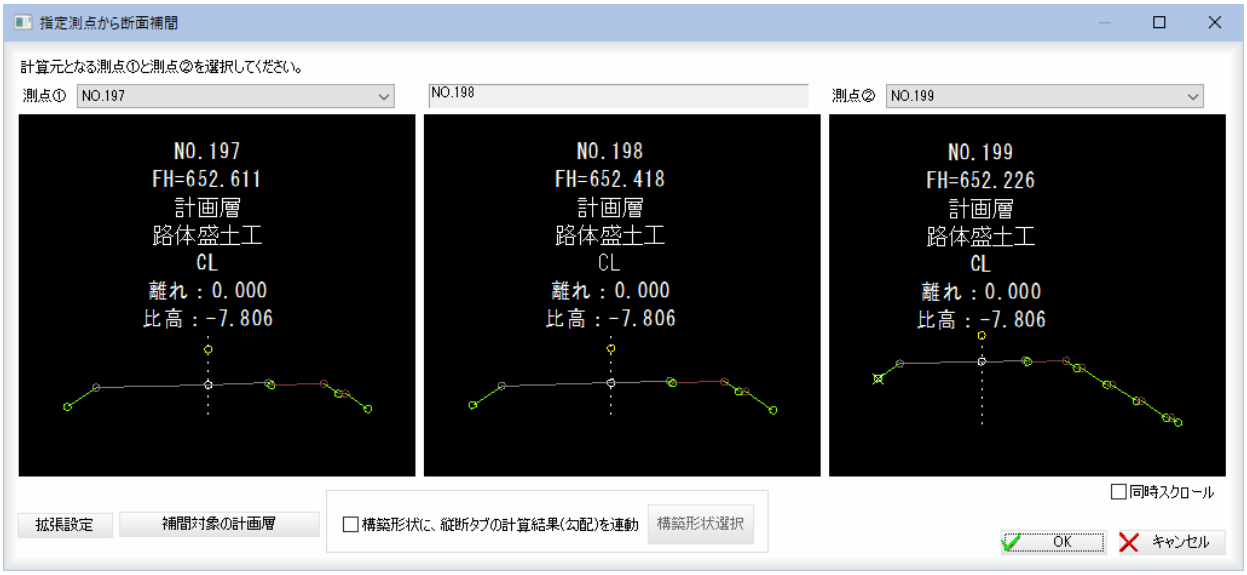


「補間」チェックマークをクリックして、補間対象を選択します。

[全選択]／[全解除]

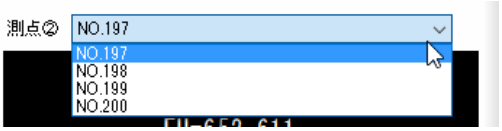
一覧表示内のすべてのチェックマークをオン、またはオフにします。

[OK]をクリックすると「指定測点から断面補間」ダイアログボックスが表示されます。



計算元となる測点①と測点②の選択

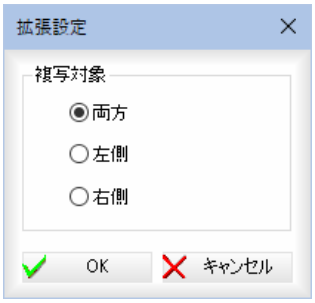
[測点①]および[測点②]のドロップダウンリストから測点を選択します。



プレビュー画面内に選択した測点が表示されます。「同時スクロール」チェックマークをオンにすると、プレビュー画面内の表示を同時にスクロールすることができます。

拡張設定

[拡張設定]をクリックすると、「拡張設定」ダイアログボックスが表示されます。

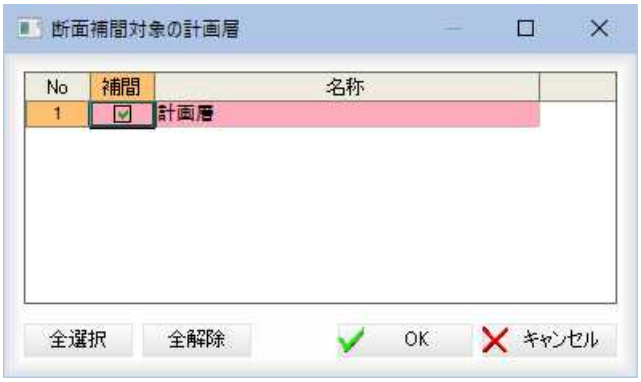


「両方」、「左側」、「右側」いずれかのラジオボタンをクリックして選択します。

[OK]をクリックすると、「指定測点から断面補間」ダイアログボックスに戻ります。

補間対象の計画層

[補間対象の計画層]をクリックすると、「断面補間対象の計画層」ダイアログボックスが表示されます。



「補間」チェックマークをクリックして、補間対象を選択します。

[全選択]／[全解除]

一覧表示内のすべてのチェックマークをオン、またはオフにします。

[OK]をクリックすると、「指定測点から断面補間」ダイアログボックスに戻ります。

構築形状に、縦断タブの計算結果(勾配)を連動

計画層の複写の場合のみ、「構築形状に、縦断タブの計算結果(勾配)を連動」チェックマークをクリックすると、縦断タブの計算結果(勾配)と連動することができます。「構築形状選択」ダイアログボックスが表示されます。

勾配を連動させる横断構成点の選択

「【1 点目】に連動」、「【全点】に連動」いずれかのラジオボタンをクリックして選択します。

「拡幅量を加算」チェックマークをオンにすると、連動する際に拡幅量を加算します。

構築形状の選択

チェックマークをオンにして構築形状を選択します。

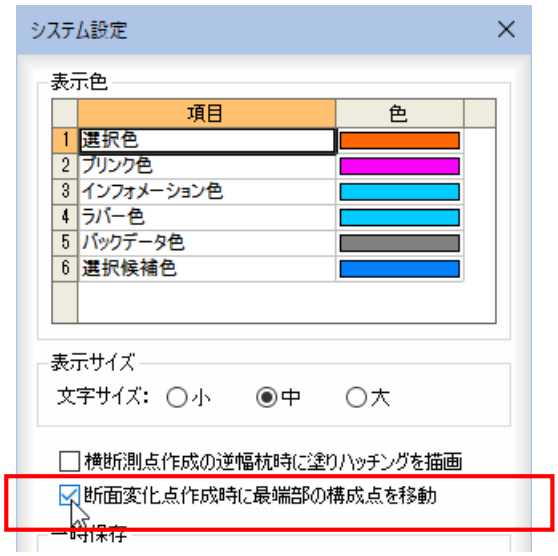
[全選択]／[全解除]

表示中の項目すべてのチェックマークをオン、またはオフにします。

[OK]をクリックすると、「指定測点から断面補間」ダイアログボックスに戻ります。

「指定測点から断面補間」ダイアログボックスで[OK]をクリックすると、選択測点の横断面形状を比例計算して断面変化点が作成されます。

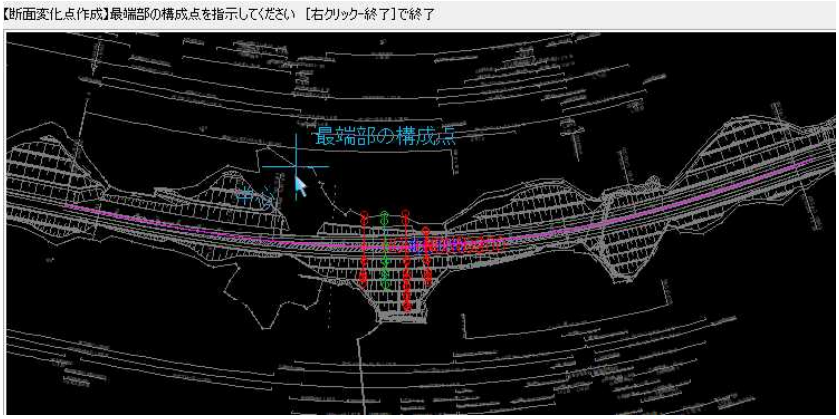
[ツール]メニュー→[設定]－[システム設定]の「断面変化点作成時に最端部の構成点を移動」が ON の場合、「指定測点から断面補間」ダイアログボックスで[OK]をクリックすると、最端部調整確認のメッセージが表示されます。



[はい]をクリックすると、端部調整操作に移行します。
[いいえ]をクリック→処理を終了し、システム画面に戻ります。

■端部調整操作

最端部の構成点をマウスにてクリックします。
ただし、構成点を内側に移動して前構成点を超える場合には、最端部の構成点は削除されます。

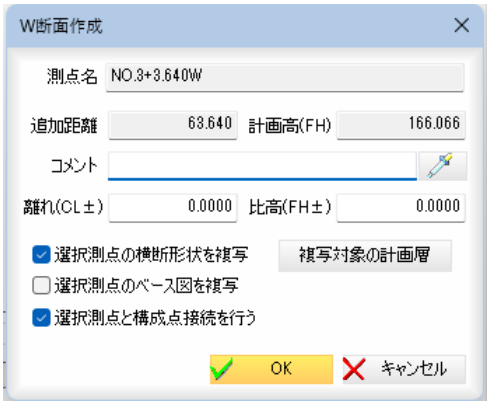


右クリック→終了を選択すると、処理を終了し、システム画面に戻ります。

● W断面を作成する

1 [横断]メニューで[横断情報]－[測点]のドロップダウンリストから[W断面作成]をクリックします。

2 「W断面作成」ダイアログボックスが表示されます。



コメントの入力
コメントを「コメント」入力欄内に入力します。
スポイト
[スポイト]ボタンをクリックし、参照図面にあるいずれかの文字列をクリックします。「コメント」入力欄内に入力されます。
離れ・比高
「離れ(CL±)」、「比高(FH±)」入力欄内にそれぞれ入力します。

選択測点の横断形状を複写する
「選択測点の横断形状を複写する」チェックマークをクリックすると、選択した測点の横断形状を複写して作成します。
選択測点のベース図を複写
「選択測点のベース図を複写」チェックマークをクリックすると、選択した測点の選択測点のベース図も複写します。初期値はオフです。
選択測点と構成点接続を行う
「選択測点と構成点接続を行う」チェックマークをクリックすると、選択した測点と構成点の接続を行います。

複写対象の計画層
[複写対象の計画層]をクリックすると、「構築形状選択」ダイアログボックスが表示されます。

「W断面作成」ダイアログボックスで「選択測点の横断形状を複写する」チェックがオンの場合に、複写対象にする計画層の選択を行います。

構築形状の選択
対象欄のチェックマークをオンにして構築形状を選択します。
[全選択]／[全解除]
表示中の項目すべてのチェックマークをオン、またはオフにします。
[OK]をクリックすると、「W断面作成」ダイアログボックスに戻ります。

3 [OK]をクリックするとシステム画面に戻ります。

● 測点のコメントを編集する

1 [横断]メニューで[横断情報]－[測点]のドロップダウンリストから[コメント編集]をクリックします。

2 「測点編集」ダイアログボックスが表示されます。

コメントの入力
コメントを「コメント」入力欄内に入力します。
スポイト
[スポイト]ボタンをクリックし、参照図面にあるいずれかの文字列をクリックします。「コメント」入力欄内に入力されます。

3 [OK]をクリックするとシステム画面に戻ります。

● 測点を削除する

1 横断メニューの[横断情報]で測点ドロップダウンリストより[削除]をクリックします。

2 確認メッセージが表示されます。

任意点の場合

選択した測点が任意点の場合は、確認メッセージが表示されます。

いずれかのボタンをクリックすると、それぞれの方法で測点の削除が行われます。

任意点以外の場合

現在表示中の測点名と削除確認のメッセージが表示されます。
[はい]をクリックすると、測点が削除されます。

横断 －[横断情報]（測点切り替え）

測点を切り替える

対象となる測点を切り替えます。

● 測点切り替えの操作方法

1 横断メニューの[横断情報]で測点切り替えボタンをクリックします。
例）次測点に移動

測点の切り替えには以下の種類があります。

いずれかをクリックして測点の移動を行います。

2 構築形状

計画層の新規作成・選択・編集・削除、現況層の新規作成・選択・編集・削除を行います。

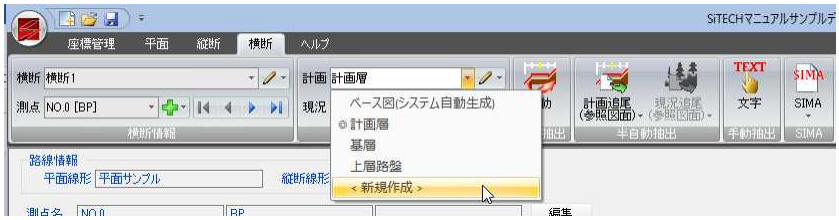
横断 ー[構築形状]

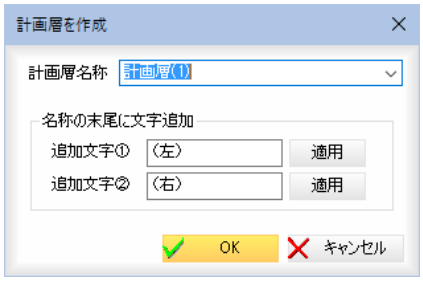
計画層・現況層を新規作成する

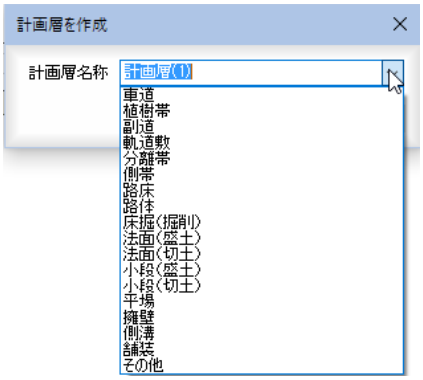
計画層・現況層を新規作成します。

● 計画層を新規作成する

1 [横断]メニューで[構築形状]ー[計画]のドロップダウンリストから[新規作成]をクリック、または のドロップダウンリストより[作成]を選択すると、「計画層を作成」ダイアログボックスが表示されます。







計画層名称
「計画層名称」入力欄内に形状名を入力、またはドロップダウンリストより選択します。

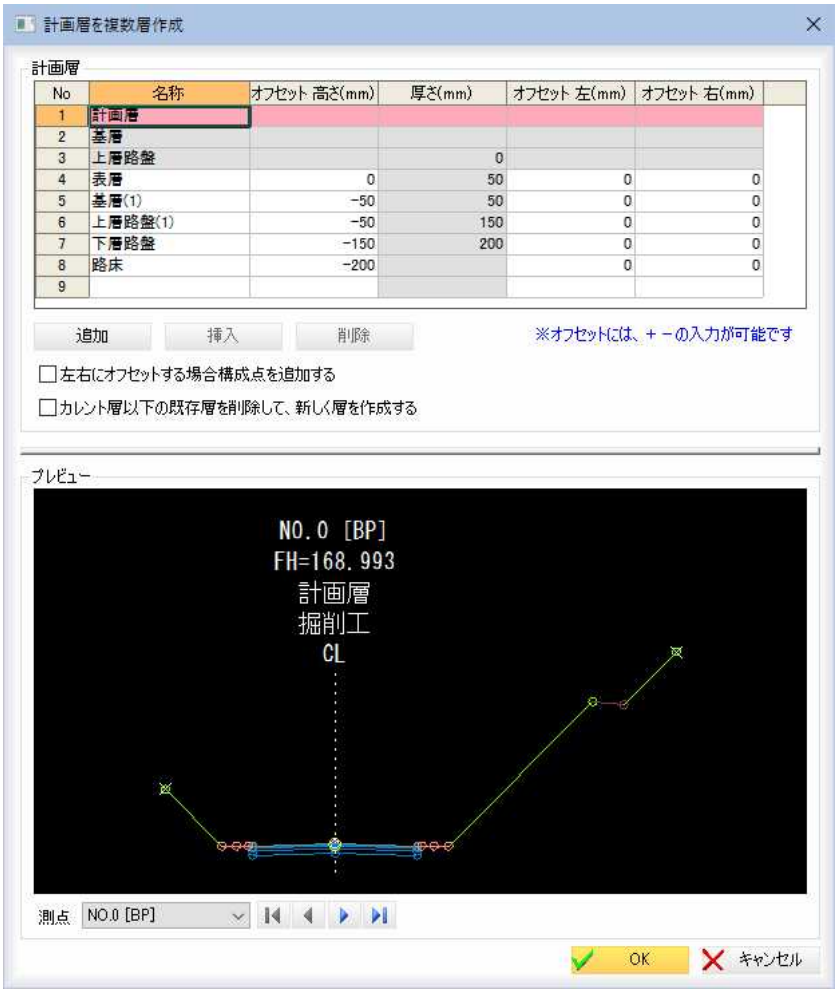
名称の末尾に文字追加
「追加文字①」、「追加文字②」入力欄内に文字列を入力し、[適用]をクリックすると、構築形状名の末尾に文字列が追加されます。

2 [OK]をクリックすると新しく計画層が作成され、システム画面に戻ります。

● 複数の計画層を作成する

1 [横断]メニューで[構築形状]－[計画]のドロップダウンリストから[複数層作成]をクリックします。

2 「複数層作成」ダイアログボックスが表示されます。



■計画層

キーボードから入力

「名称」、「オフセット高さ(mm)」、「オフセット左(mm)」、「オフセット右(mm)」入力欄内にそれぞれ入力します。

追加／挿入／削除

[追加] ：末尾に選択している行数分、行を追加します。
[挿入] ：選択位置に、選択している行数分行を挿入します。
[削除] ：選択している行を削除します。

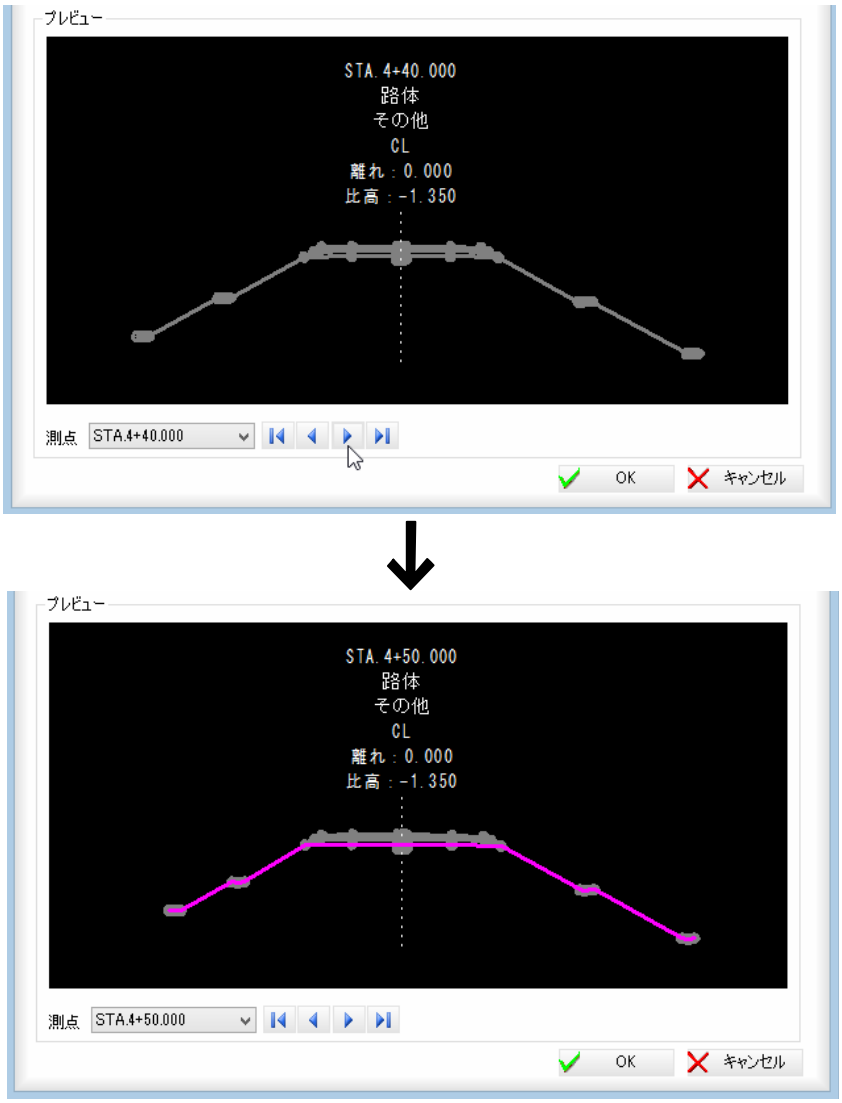
左右にオフセットする場合構成点を追加する

「左右にオフセットする場合構成点を追加する」チェックマークをオンにすると、オフセット時に構成点を追加します。初期状態は、オフです。

カレント層以下の既存層を削除して、新しく層を作成する
「カレント層以下の既存層を削除して、新しく層を作成する」チェックマークをオンにすると、カレント層以下の既存層を全て削除し、新たに複数層を作成します。

■プレビュー
測点の切り替え
測点の切り替えには以下の種類があります。

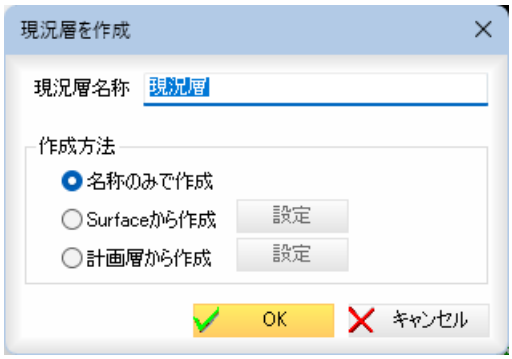
いずれかをクリックして測点の移動を行います。



3 [OK]をクリックすると、計画層が作成され、システム画面に戻ります。

● 現況層を新規作成する

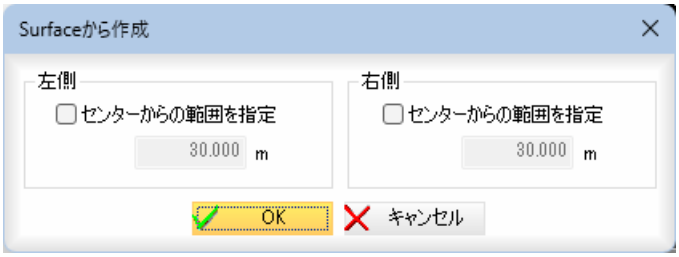
1 [横断]メニューで[構築形状]－[現況]のドロップダウンリストから[新規作成]をクリック、または のドロップダウンリストより[作成]を選択すると、「現況層を作成」ダイアログボックスが表示されます。



現況層名称
「現況層名称」入力欄内に新規地形構築形状の名前を入力します。

作成方法の選択
「名称のみで作成」、「Surface から作成」、「計画層から作成」いずれかのラジオボタンをクリックして選択します。
「名称のみで作成」を選択→操作４へ。
「Surface から作成」を選択→操作２へ。
「計画層から作成」を選択→操作３へ。

2 **Surface の設定**
「現況層を作成」ダイアログボックスで「Surface から作成」を選択し、[設定]をクリックすると、「Surface から作成」ダイアログボックスが表示されます。

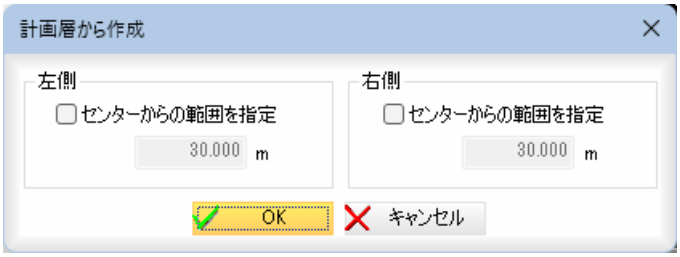


「左側」、「右側」の「センターからの範囲を指定」チェックマークをオンにすると、それぞれ入力欄内の範囲で指定を有効とします。

[OK]をクリックすると、「現況層を作成」ダイアログボックスに戻ります。
「現況層を作成」ダイアログボックスで[OK]をクリックすると、操作5へ移行します。

3 計画層から設定

「現況層を作成」ダイアログボックスで「計画層から作成」を選択し、[設定]をクリックすると、「計画層から作成」ダイアログボックスが表示されます。

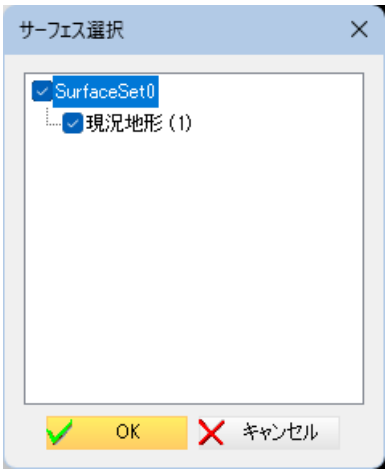


「左側」、「右側」の「センターからの範囲を指定」チェックマークをオンにすると、それぞれ入力欄内の範囲で指定を有効とします。

[OK]をクリックすると、「現況層を作成」ダイアログボックスに戻ります。
「現況層を作成」ダイアログボックスで[OK]をクリックすると、操作6へ移行します。

4 「現況層を作成」ダイアログボックスで[OK]をクリックすると新しく現況層が作成され、システム画面に戻ります。

5 「現況層を作成」ダイアログボックスで[OK]をクリックすると「サーフェス選択」ダイアログボックスが表示されます。



対象とするサーフェスをクリックして選択します。
「サーフェス選択」ダイアログボックスで[OK]をクリックすると、新しく現況層が作成され、システム画面に戻ります。

6 「現況層を作成」ダイアログボックスで[OK]をクリックすると「形状データ選択」ダイアログボックスが表示されます。

対象の計画層のチェックマークをオンにして選択します。
「形状データ選択」ダイアログボックスで[OK]をクリックすると、新しく現況層が作成され、システム画面に戻ります。

横断 －[構築形状]

計画層を選択・編集する

現在表示中の計画層を選択・編集します。

● 計画層を選択する

1 横断メニューの[構築形状]で[計画]のドロップダウンリストより、いずれかの計画層を選択します。

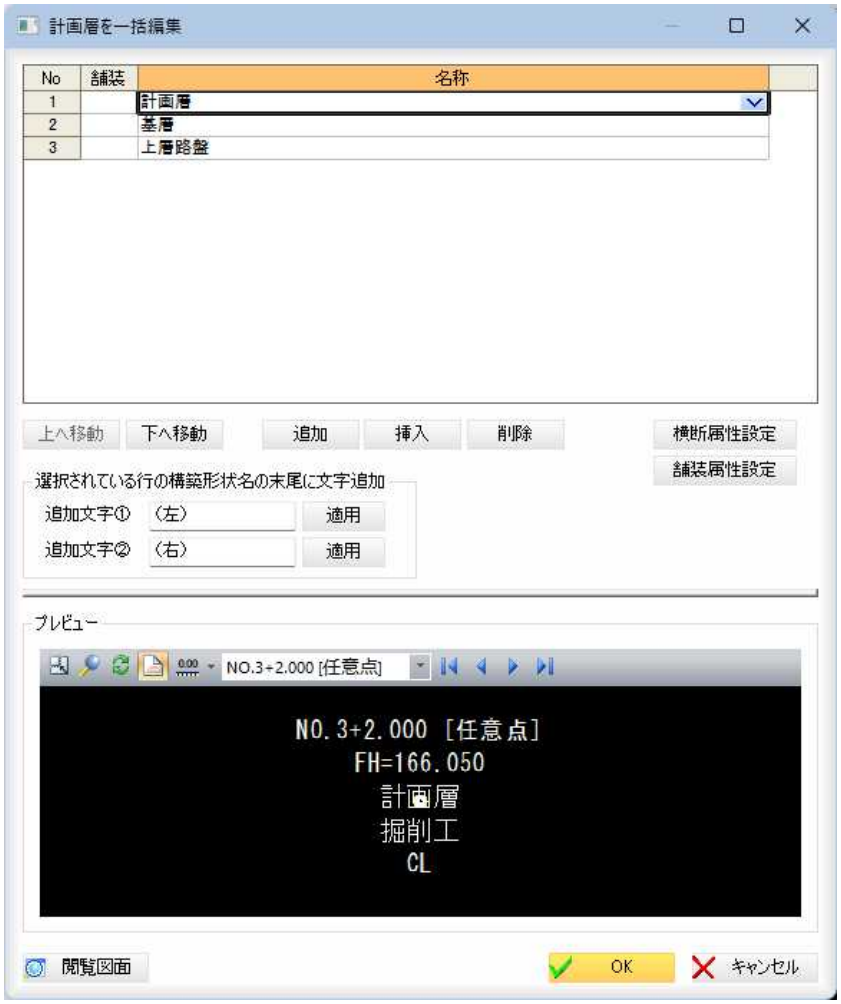
2 データウィンドウに表示されている計画層が切り替わりますので、各種処理を行ってください。

● 計画層を一括編集する

1 横断メニューの[構築形状]でドロップダウンリストより[一括編集]をクリックします。

「計画層を一括編集」ダイアログボックスが表示されますので、各種の設定を行います。

2 「計画層を一括編集」ダイアログボックスの各種処理

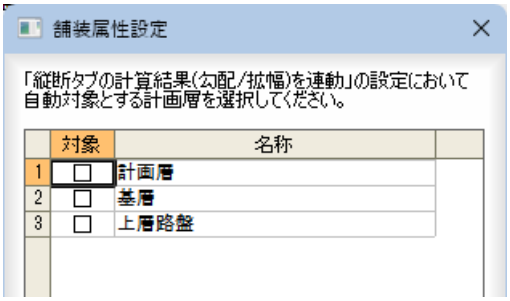


舗装、名称一覧
一覧内には、舗装の有無と、構築形状の名称が一覧表示されます。
[上へ移動]／[下へ移動]
選択中の項目を一覧表示内で上へ移動、または下へ移動します。
追加／挿入／削除
[追加]：末尾に１行分、行を追加します。
[挿入]：選択位置に１行分、行を挿入します。
[削除]：選択している行を削除します。

横断属性の設定
[横断属性設定]をクリックすると、「横断属性設定」ダイアログボックスが表示されます。

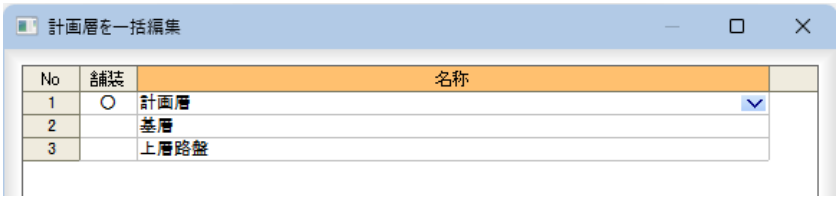
「横断属性設定」ダイアログボックス⇒参照ページへ

舗装属性の設定
[舗装属性設定]をクリックすると、「舗装属性設定」ダイアログボックスが表示されます。

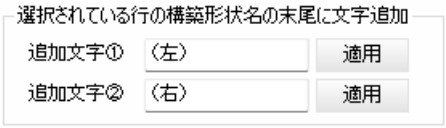


計画層を選択
「縦断タブの計算結果(勾配/拡幅)を連動」の設定で自動対象とする計画層を、いずれかのチェックマークをクリックし、選択します。
[全選択]／[全解除]
すべて選択、またはすべて選択解除することができます。

「舗装属性設定」ダイアログボックスで[OK]をクリックすると、「計画層を一括編集」ダイアログボックスに戻ります。選択した計画層の[舗装]列が○表示されます。



選択されている行の構築形状名の末尾に文字追加
一覧表示内の名称を選択し、「追加文字①」、「追加文字②」入力欄内に文字列を入力し、[適用]をクリックすると、名称の末尾に文字列が追加されます。
Shift または Ctrl キーを押しながら対象を複数行選択することも可能です。



プレビュー
一覧でクリックした構築形状のプレビューが表示されます。
各種の操作は、横断プレビュー画面上と同様です。⇒参照ページへ

■閲覧図面
[閲覧図面]をクリックすると、参照図面として管理されている図面の１ファイルを別ウィンドウで表示します。

詳しい操作方法は、参照図面上の[閲覧ウィンドウ]と同様です。
⇒参照ページへ

3 「計画層を一括編集」ダイアログボックスで[OK]をクリックすると、処理を終了しシステム画面に戻ります。

● 計画層を削除する

1 [横断]メニューで[構築形状]－[計画]のドロップダウンリストから[削除]をクリックします。

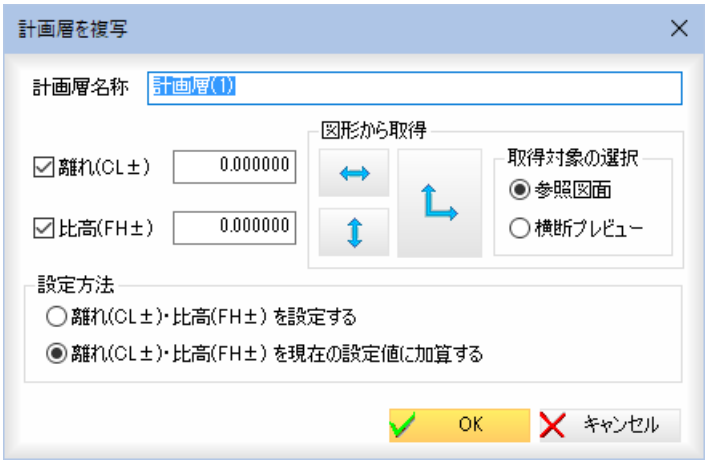
2 確認のメッセージが表示されます。

[はい]をクリックすると、選択中の計画層が削除されます。

● 計画層を複写する

1 [横断]メニューで[構築形状]－[計画]のドロップダウンリストから[複写]をクリックします。

2 「計画層を複写」ダイアログボックスが表示されます。



計画層名称
「計画層名称」入力欄内に名称を入力します。

離れ(CL±)、比高(FH±)
「離れ(CL±)」、「比高(FH±)」入力欄にそれぞれ数値を入力します。
各種ボタンをクリックし、参照図面もしくは横断プレビュー上でマウスクリックすることにより離れと比高を取得できます。

離れを取得します。

比高を取得します。

離れと比高を取得します。

取得対象の選択
「参照図面」、「横断プレビュー」のいずれかのラジオボタンをクリックして、離れ・比高の取得対象を選択します。

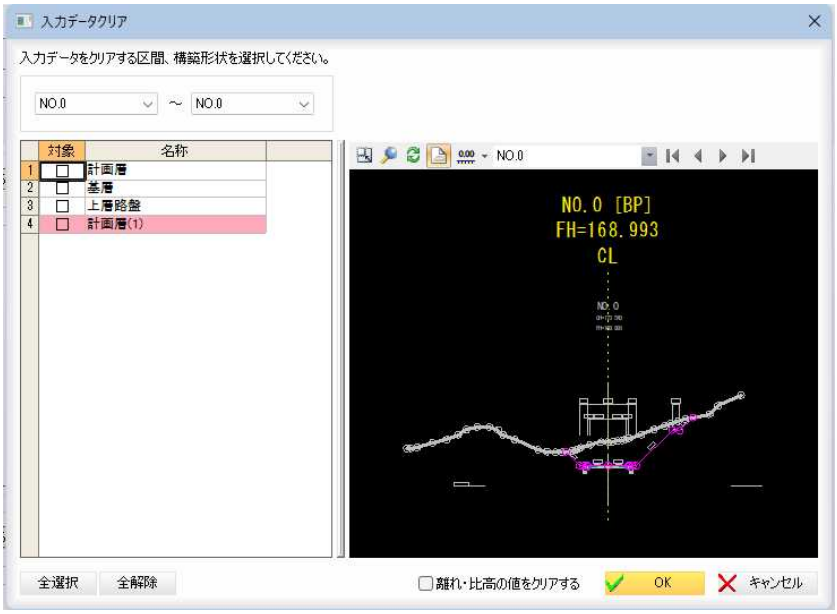
設定方法
いずれかのラジオボタンをクリックして離れ・比高の設定方法を選択します。

3 [OK]をクリックすると、計画層が複写され、システム画面(横断メニュー)に戻ります。

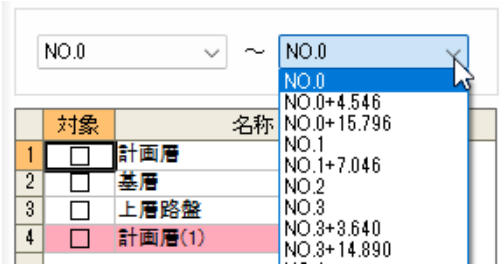
● 計画層の入力データクリア

1 [横断]メニューで[構築形状]－[計画]のドロップダウンリストから[入力データクリア]をクリックします。

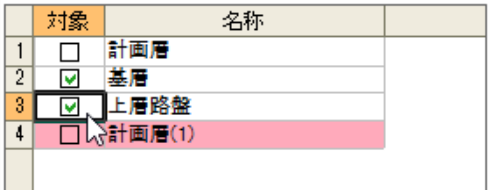
2 「入力データクリア」ダイアログボックスが表示されます。



入力データをクリアする区間を選択
ドロップダウンリストからクリアする区間を選択します。

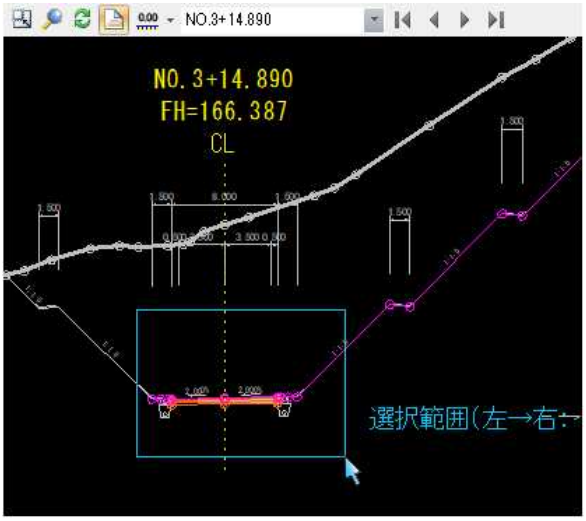


対象の構築形状を選択する
一覧内の「対象」チェックマークをオンにして、入力データをクリアする構築形状を選択します。



[全選択]／[全解除]
一覧表示内のすべてのチェックマークをオン、またはオフにします。

■プレビューウィンドウ
範囲の指定
マウスの始点ー終点の指定により、範囲を指定することで一覧にある「対象」チェックマークの ON／OFF を切り替えることができます。



各種の表示切り替え
全体表示（ ）
縦断図ウィンドウメニューから[全体表示]を選択すると全体表示となります。
ズーム（ ）
縦断図ウィンドウメニューから[ズーム]を選択すると、ズームモードとなります。
ズーム始点をマウスでクリックすると、終点指定モードになります。
終点をクリックすると、範囲指定した部分が拡大表示されます。
再表示（ ）
縦断図ウィンドウメニューから[再表示]を選択すると、再表示が行われます。

ベース図連動のオン・オフ（ ）
オンの場合、横断測点切替時に、横断測点に関連付けられているベース図を表示します。初期値はオフです。

計測：２点間距離・計測：座標(XYH)

計測：２点間距離（ ）

プレビューメニューから[計測：２点間距離]を選択すると、２点間距離モードとなり、「２点間距離」ダイアログボックスが表示されます。
始点をクリックし、続けて終点をクリックすると、２点間の距離が入力されます。
その他の操作は参照ウィンドウ上と同様です。

計測：座標(XYH)（ ）

プレビューメニューから[計測：座標(XYH)]を選択すると、「座標」ダイアログボックスが表示されます。以降の操作は参照ウィンドウ上と同様です。

計測の各コマンドは、参照図面上の計測コマンドと同様です。**⇒参照ページへ**

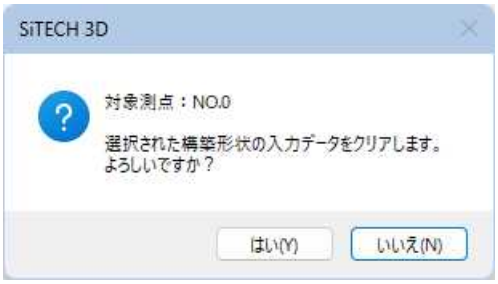
測点を選択する

ドロップダウンリストまたは のいずれかをクリックして、測点を切り替えます。
測点の切替えには以下の種類があります。

離れ・比高の値をクリアする

「離れ・比高の値をクリア」チェックマークをオンにすると、離れと比高の値もクリアします。初期値はオフです。

3 「入力データクリア」ダイアログボックスで[OK]をクリックすると、確認のメッセージが表示されます。

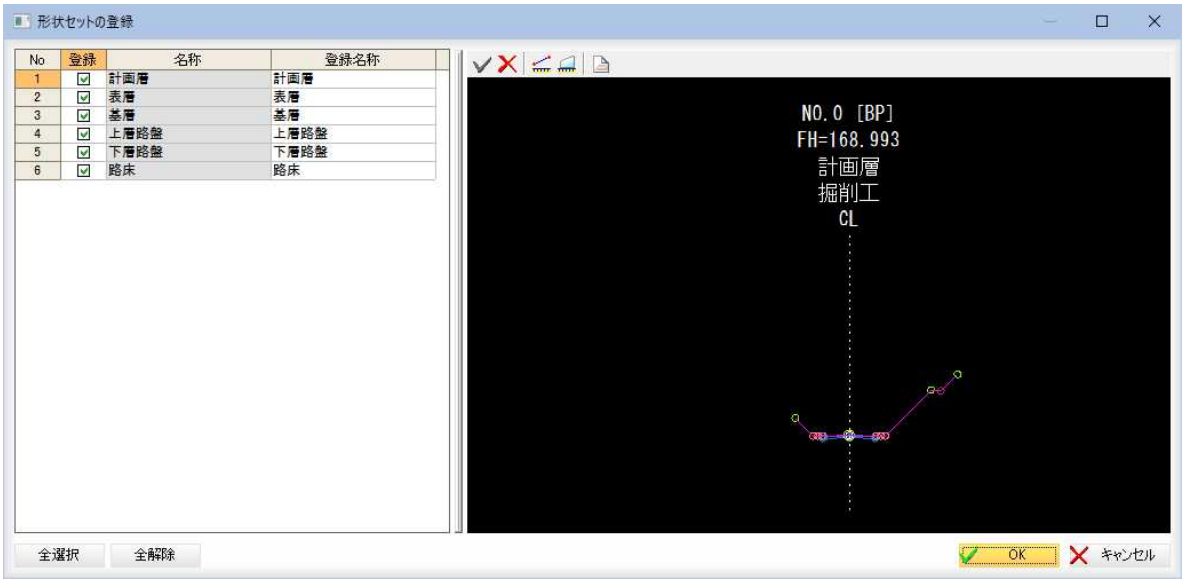


[はい]をクリックすると、選択した構築形状の入力データがクリアされます。

● 計画層を登録する

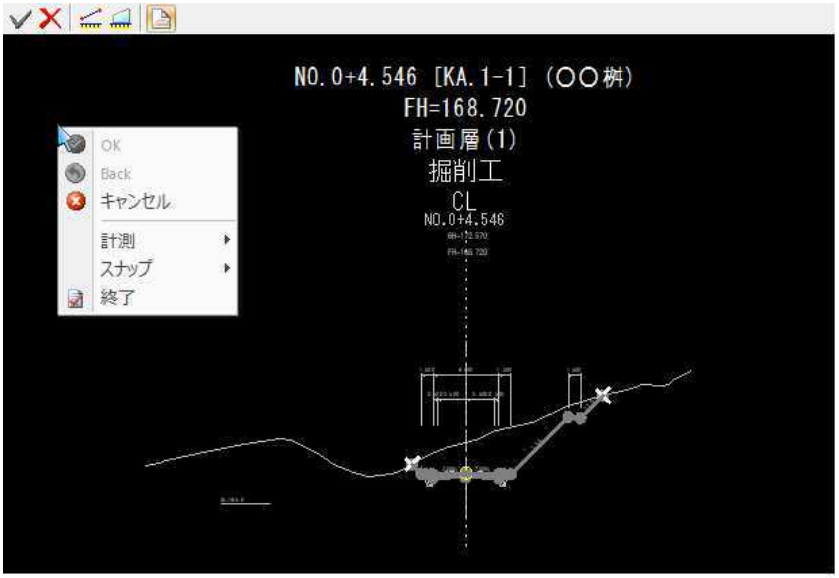
1 横断メニューの[構築形状]で計画編集ドロップダウンリストより[登録]をクリックします。

2 「形状セットの登録」ダイアログボックスが表示されます。
一覧表示、プレビューが表示されます。



[全選択]／[全解除]
一覧表示内のすべてのチェックマークをオン、またはオフにします。

プレビュー画面
プレビュー画面では各種のコマンドをツールバーまたはマウス右クリックによるポップアップメニューから実行することができます。



→ OK
作業を確定します。

→ **Back**
ひとつ前の作業に戻します。

→ **キャンセル**
処理実行前に戻します。

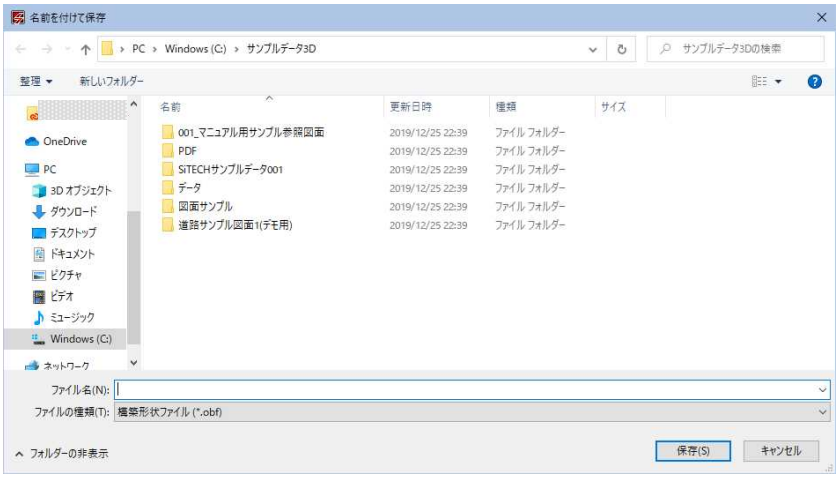
→ **計測**
２点間距離、面積の各種計測処理を行います。

スナップ
スナップモードを切り替えます。

→ **終了**
作業を終了します。

→ **ベース図表示**
ベース図表示のオン・オフの切り替えが行えます。

3 「形状セットの登録」ダイアログボックスで[OK]をクリックすると、「名前を付け保存」ダイアログボックスが表示されます。

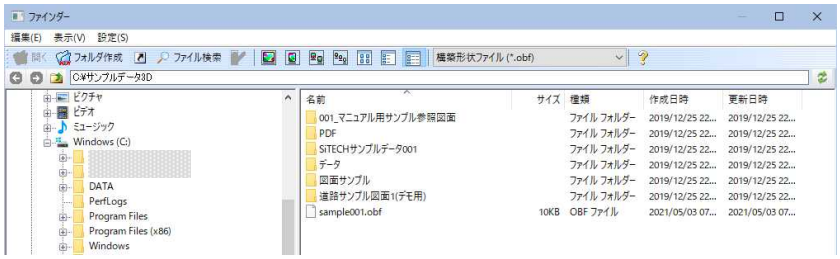


構築形状ファイル(*. obf)名を入力します。
[保存]をクリックすると、構築形状ファイルが保存されます。

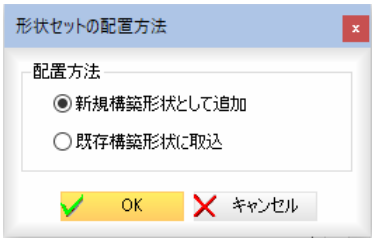
● 計画層を配置する(新規構築形状として追加)

1 横断メニューの[構築形状]で計画編集ドロップダウンリストより[配置]をクリックします。

2 「ファインダー」ダイアログボックスが表示されます。

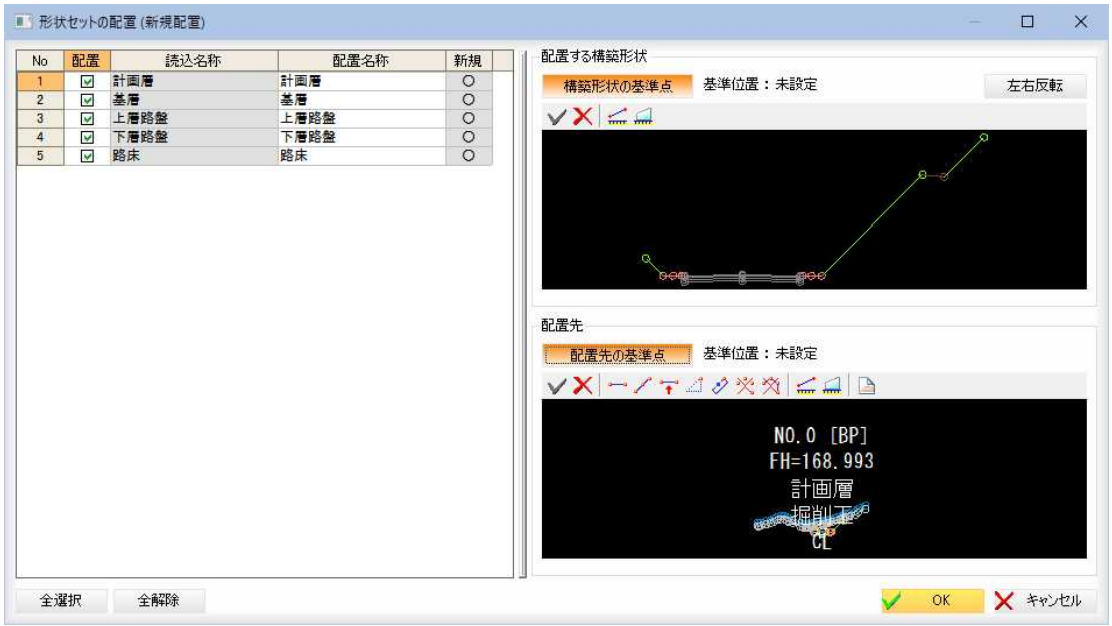


いずれかの構築形状ファイル(*. obf)を選択し、[開く]をクリックすると「形状セットの配置方法」ダイアログボックスが表示されます。



配置方法
「新規構築形状として追加」をクリックします。

3 [OK]をクリックすると、「形状セットの配置(新規配置)」ダイアログボックスが表示されます。



ダイアログボックス内には、構築形状の一覧表示と配置元、配置先の構築形状のプレビュー画面が表示されます。

それぞれのツールバーメニューの各コマンド(計測、ガイド、ベース図表示)は、参照図面上のものと同様です。⇒参照ページへ

■配置する構築形状の選択

一覧内の「配置」チェックマークをオンにすると、配置対象となります。

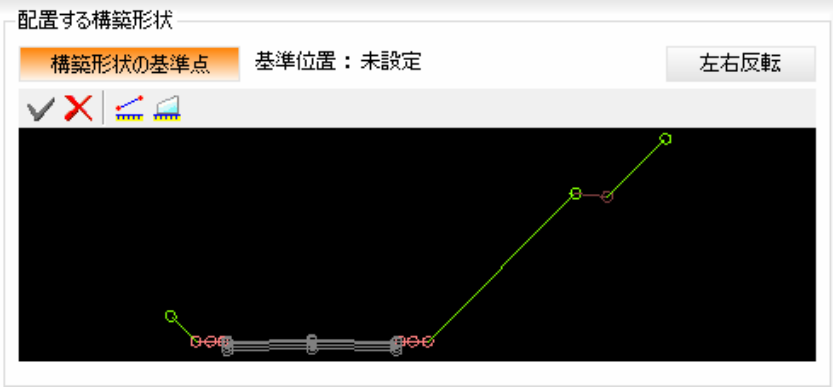
配置名称

「配置名称」入力欄内をクリックし、配置先の各名称を入力します。

[全選択]／[全解除]

一覧内のすべての「配置」チェックマークをオン、またはオフにします。

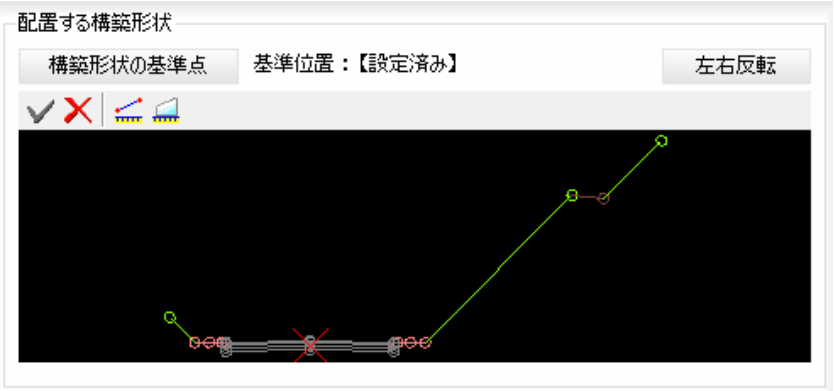
■配置する構築形状プレビュー画面



構築形状の基準点

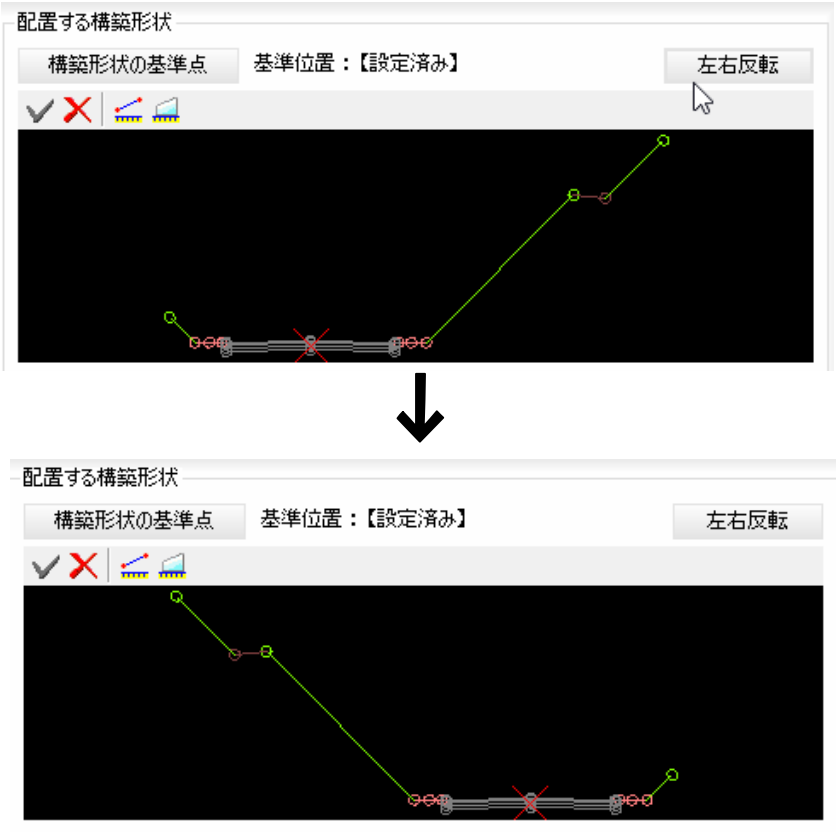
[構築形状の基準点]をクリックすると、基準点モードとなりますので、プレビュー画面内で基準点をクリックします。×が表示されます。

プレビュー画面の上に【設定済み】と表示されます。



左右反転

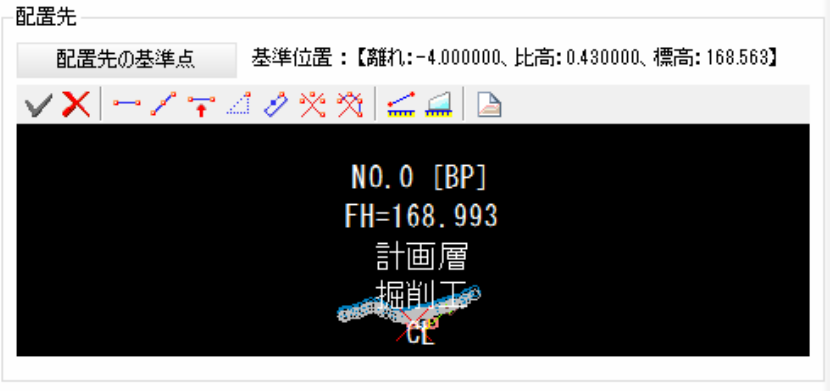
[左右反転]をクリックすると、配置する構築形状をセンター点を中心に左右反転します。



■配置先プレビュー画面

配置先の基準点

[配置先の基準点]をクリックすると、基準点モードとなりますので、プレビュー画面内で基準点をクリックします。×が表示されます。
プレビュー画面の上に基準位置の離れ、比高、標高が表示されます。



ポップアップメニュー

配置する構築形状プレビュー画面では各種のコマンドをツールバーまたはマウス右クリックによるポップアップメニューから実行することができます。

→ **OK**
作業を確定します。

→ **Back**
ひとつ前の作業に戻します。

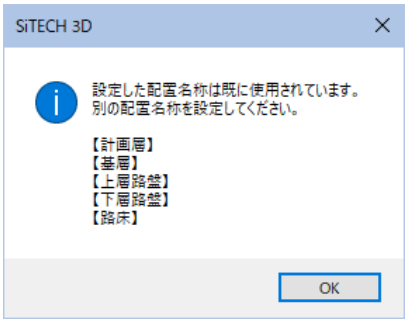
→ **キャンセル**
処理実行前に戻します。

→ **計測**
２点間距離、面積の各種計測処理を行います。

スナップ
スナップモードを切り替えます。

→ **終了**
作業を終了します。

4 「形状セットの配置（新規配置）」ダイアログボックスで［OK］をクリックすると、配置先名称に配置元と同じ名称が使用されている場合、メッセージが表示されます。



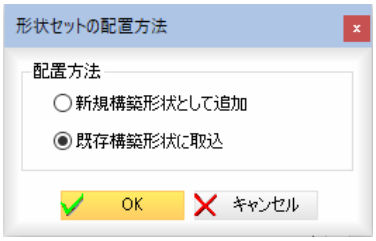
［OK］をクリックすると、「形状セットの配置（新規配置）」ダイアログボックスに戻りますので、名称を変更します。

配置名称を変更し［OK］をクリックすると、処理を実行しシステム画面（横断メニュー）に戻ります。

● 計画層を配置する(既存構築形状に取込)

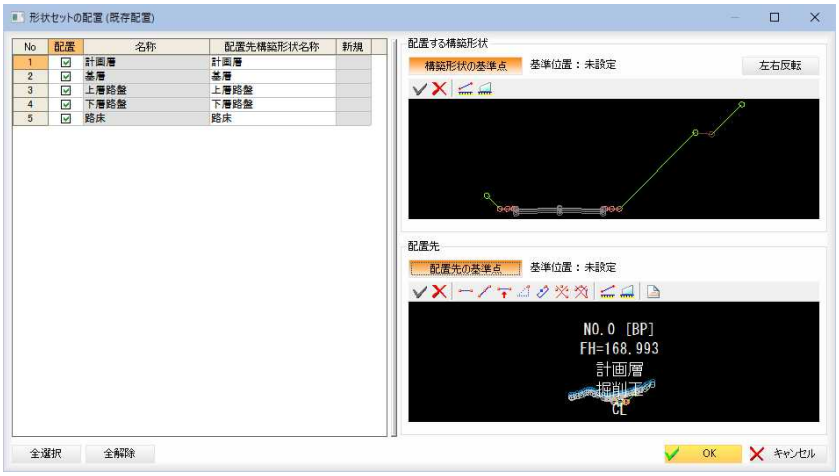
1 横断メニューの[構築形状]で計画編集ドロップダウンリストより[配置]をクリックします。

2 「ファインダー」ダイアログボックスが表示されます。
いずれかの構築形状ファイル(*. obf)を選択し、[開く]をクリックすると「構築形状の配置方法」ダイアログボックスが表示されます。



配置方法
「既存構築形状に取込」をクリックします。

3 [OK]をクリックすると、「形状セットの配置(既存配置)」ダイアログボックスが表示されます。



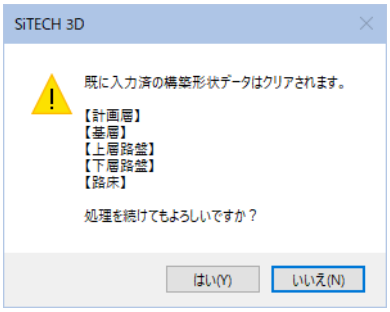
配置する構築形状の選択
一覧内の「配置」チェックマークをオンにすると、配置対象となります。
配置先構築形状名称
「配置先構築形状名称」入力欄内をクリックするとドロップダウンリストが表示されますので、配置先の各名称を選択します。

「新規」欄
配置先の構築形状が新規に作成されることになる場合には、「新規」欄内に「○」が表示されます。
[全選択]／[全解除]
一覧内のすべての「配置」チェックマークをオン、またはオフにします。

配置する構築形状プレビュー画面、配置先プレビュー画面
各プレビュー画面上の操作は、「新規構築形状として追加」を選択した場合と同様です。

「新規構築形状として追加」の操作⇒参照ページへ

4 「形状セットの配置（既存配置）」ダイアログボックスで[OK]をクリックすると、配置先構築形状に既に構成点が存在している場合、メッセージが表示されます。



[いいえ]をクリックすると、「形状セットの配置（既存配置）」ダイアログボックスに戻ります。
[はい]をクリックすると、処理を実行しシステム画面（横断メニュー）に戻ります。

横断 ー[構築形状]

現況層を選択・編集する

現在表示中の現況層を選択・編集します。

● 現況層を選択する

1 横断メニューの[構築形状]で[現況]のドロップダウンリストより、いずれかの現況層を選択します。

2 データウィンドウに表示されている現況層が切り替わりますので、各種処理を行ってください。

● 現況層を一括編集する

1 横断メニューの[構築形状]で[現況]の をクリックし、ドロップダウンリストより[一括編集]をクリックします。

「現況層を一括編集」ダイアログボックスが表示されますので、各種の設定を行います。

2 **「現況層を一括編集」ダイアログボックスの各種処理**

名称一覧

名称一覧内には、構築形状が一覧表示されます。

[上へ移動]／[下へ移動]

選択中の項目を一覧表示内で上へ移動、または下へ移動します。

削除

選択している行を削除します。

プレビュー

一覧でクリックした構築形状のプレビューが表示されます。

各種の操作は、横断プレビュー画面上と同様です。**⇒参照ページへ**

3 「現況層を一括編集」ダイアログボックスで[OK]をクリックすると、処理を終了しシステム画面に戻ります。

● 現況層を削除する

1 横断メニューの[構築形状]で[現況]の をクリックし、ドロップダウンリストより[削除]をクリックします。

2 確認のメッセージが表示されます。

[はい]をクリックすると、選択中の現況層が削除されます。

3 横断データ入出力

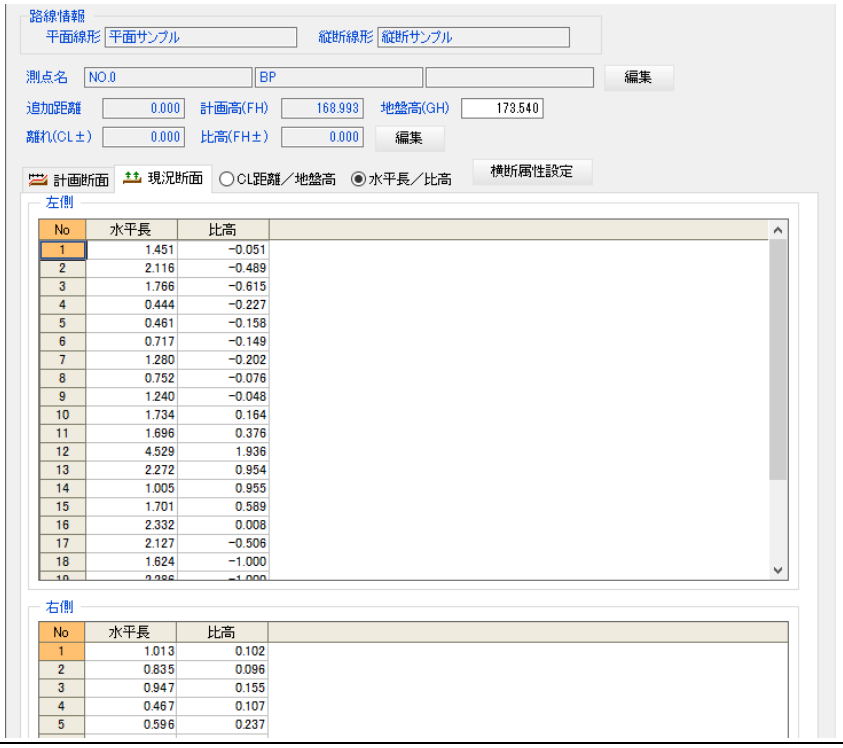
横断の断面形状データを、キーボードからの入力、自動、半自動、手動の各種抽出により行います。
横断 SIMA ファイルから計画または現況断面を個別または一括して取り込む事ができます。既に入力されている計画または現況断面を横断 SIMA ファイルに保存することも可能です。

● データウィンドウの構成

1 [横断]メニューのデータウィンドウ内の[計画断面]、[現況断面]のタブをクリックすると、データウィンドウの表示が変わります。

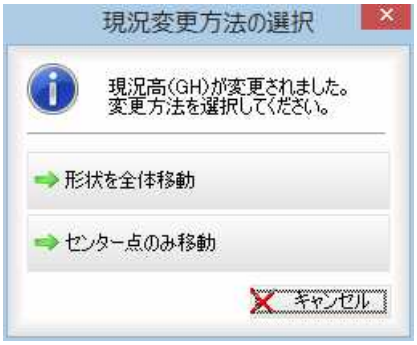
▼ 計画断面

▼ 現況断面



＜共通操作＞ 現況高の変更

「現況高(GH)」入力欄内の数値を変更し、Enter キーを押すと以下の変更方法の選択ウィンドウが表示されます。いずれかのボタンをクリックして選択します。



形状を全体移動
全ての構成点を移動し、構築形状の形状を維持します。
センター点のみ移動
センター点だけを移動します。

＜共通操作＞ 離れ・比高編集

「比高」入力欄の横にある[編集]をクリックすると、「編集 離れ・比高」ダイアログボックスが表示されます。

「離れ(CL±)」、「比高(FH±)」入力欄にそれぞれ数値を入力します。
以下のボタンをクリックすると参照図面上でマウスクリックすることにより離れと比高を取得できます。

離れを取得します。

比高を取得します。

離れと比高を取得します。

取得対象の選択
「参照図面」、「横断プレビュー」のいずれかのラジオボタンをクリックして、離れ・比高の取得対象を選択します。
「横断プレビュー」を選択し、ベース図が配置／表示されている場合には、離れ・比高の基準点には自動でベース図の基準点が指定されます。

「編集 離れ・比高」ダイアログボックスで[OK]をクリックすると、離れ・比高が設定されます。

キーボードからデータを入力する

キーボードから計画断面または現況断面のデータを入力します。
ポップアップメニューより追加・挿入・削除処理を行うこともできます。

＜共通操作＞ 一覧表示内のポップアップメニュー

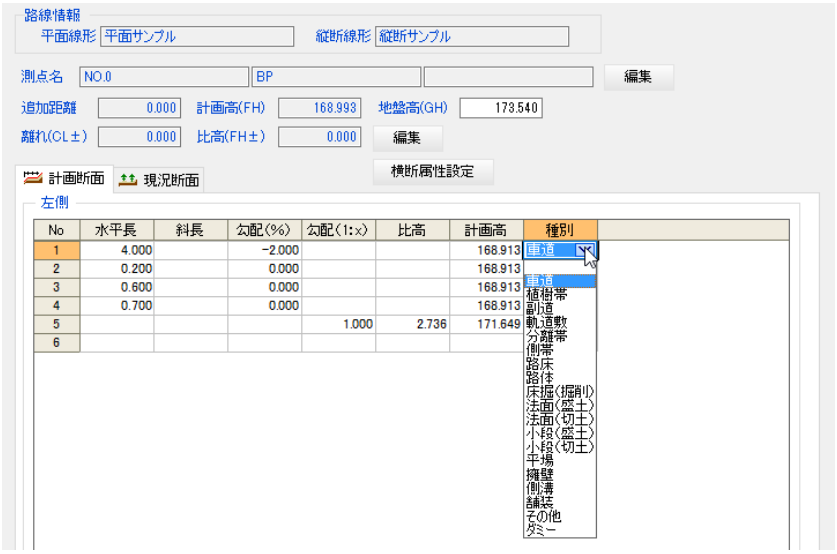
一覧表示上でマウスの右ボタンクリックのポップアップメニューを表示し、各種の編集処理を行います。

[追加]　：末尾に行を追加します。
[挿入]　：選択位置に１行挿入します。
[削除]　：選択位置の行を削除します。
[横断属性設定]（「種別」欄のみ）
「横断属性設定」ダイアログボックスが表示されます。
各種の横断属性の設定を行います。

横断属性の設定 ⇒参照ページへ

● 計画断面を入力する

1 横断メニューでデータウィンドウ内の[計画断面]タブをクリックします。
データウィンドウ内の「水平長」、「斜長」、「勾配(%)」、「勾配(1:x)」、「比高」、「計画高」の入力欄内をクリックし、それぞれデータを入力します。
「種別」欄内でマウスをクリックすると、ドロップダウンリストが表示されますので、いずれかをクリックして選択します。
データ入力欄には、「左側」と「右側」があります。
「種別」欄内で右クリックすると、ポップアップメニューに横断属性設定が追加されます。



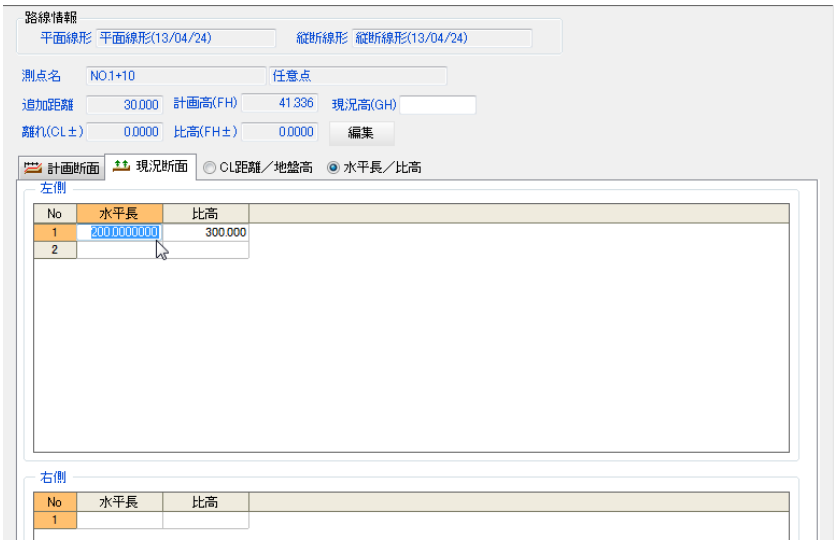
● 現況断面を入力する

1 横断メニューでデータウィンドウ内の[現況断面]タブをクリックします。
現況層が存在しない状態で[現況断面]タブを選択した場合、「現況層の作成」ダイアログボックスが表示されます。

「現況層を作成」ダイアログボックス ⇒参照ページへ

ＣＬ距離／地盤高
「ＣＬ距離／地盤高」ラジオボタンをクリックすると、データウィンドウ内の項目がＣＬ距離と地盤高になります。
水平長／比高
「水平長／比高」ラジオボタンをクリックすると、データウィンドウ内の項目が水平長／比高になります。
データウィンドウ内の各項目の入力欄内をクリックし、それぞれデータを入力します。また、データ入力欄には、「左側」と「右側」があります。
▼ ＣＬ距離／地盤高

▼ 水平長／比高



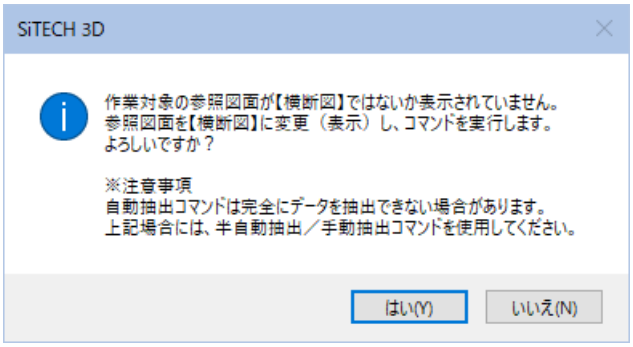
横断 －[自動抽出]－[自動]

横断図から計画形状と現況形状を自動抽出する

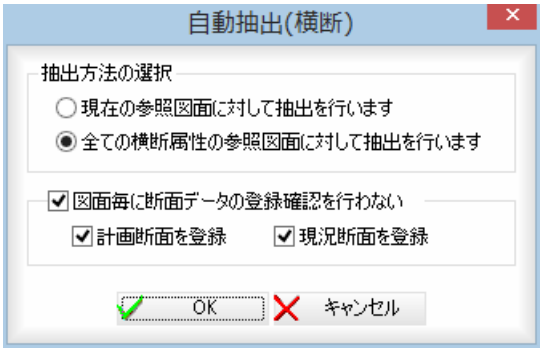
参照図面の横断図から計画形状と現況形状を自動抽出します。

● 自動抽出の操作方法

1 横断メニューで[自動抽出]－[自動]をクリックすると、以下のメッセージが表示されます。



2 [はい]をクリックすると、「自動抽出(横断)」ダイアログボックスが表示されます。

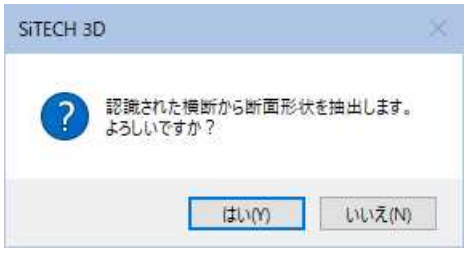


抽出方法の選択

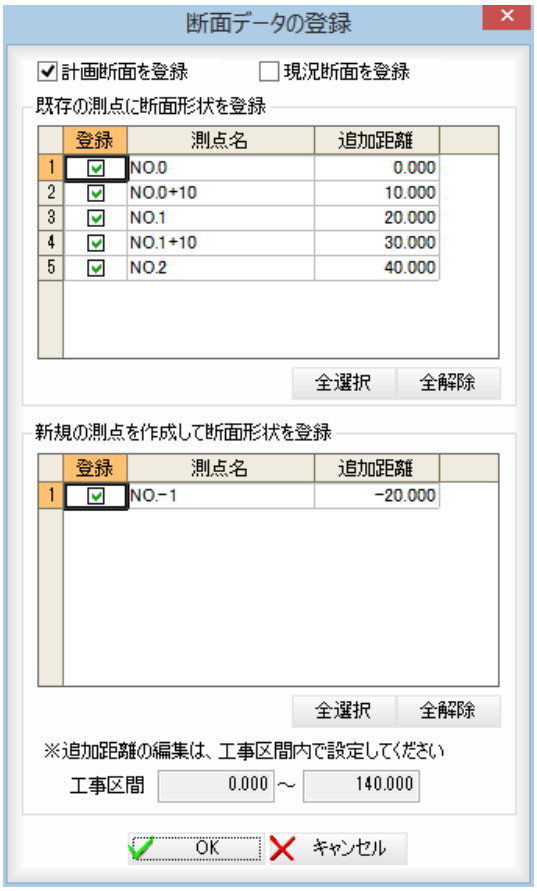
「現在の参照図面に対して抽出を行います」、「全ての横断属性の参照図面に対して抽出を行います」いずれかのラジオボタンをクリックして選択します。

「全ての横断属性の参照図面に対して抽出を行います」の設定
「図面ごとに断面データの登録確認を行わない」チェックマークをクリックし、「計画断面を登録」、「現況断面を登録」チェックマークをオンにすると、それぞれの登録が有効となります。

3 [OK]をクリックすると、以下のメッセージが表示されます。



4 [はい]をクリックすると、「全ての横断属性の参照図面に対して抽出を行います」を選択し、すべてのチェックマークをオンにした場合は、操作５へ。
それ以外の場合は、「断面データの登録」ダイアログボックスが表示されます。



計画断面を登録／現況断面を登録
「計画断面を登録」、「現況断面を登録」チェックマークをオンにすると、それぞれの登録となります。初期値は「計画断面を登録」のみがオンとなっています。

既存の測点に断面形状を登録
測点名のチェックマークをオンにして選択します。
抽出できた測点の中から、既存データに同一名称の測点が存在している測点が表示されます。

新規の測点を作成して断面形状を登録
抽出できた測点の中から、既存データに同一名称の測点が存在しない測点が表示されます。登録を行う測点名のチェックマークをオンにして選択します。

[全選択]／[全解除]
表示中の項目すべてのチェックマークをオン、またはオフにします。
工事区間の表示
横断作成時の工事区間の追加距離が表示されます。追加距離から指定する場合は表示されている追加距離内の距離を入力してください。

5 [OK]をクリックすると、自動抽出処理が行われます。

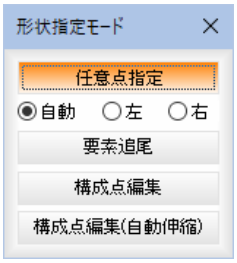
横断－[半自動抽出]－[計画追尾(参照図面)または(プレビュー)]

参照図面やベース図の計画線を指定して、計画形状を抽出する

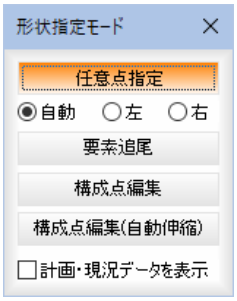
参照図面の横断図または横断プレビューに配置されているベース図の計画線を指定して計画形状を抽出します。
横断メニューで[半自動抽出]－[計画追尾(参照図面)または(プレビュー)]をクリックすると、形状指定モードメニューが表示されます。

形状基準点指定後、形状指定モードの各メニューを用途に応じて切り替えて、半自動抽出処理を行います。

▼[計画追尾(参照図面)]を選択

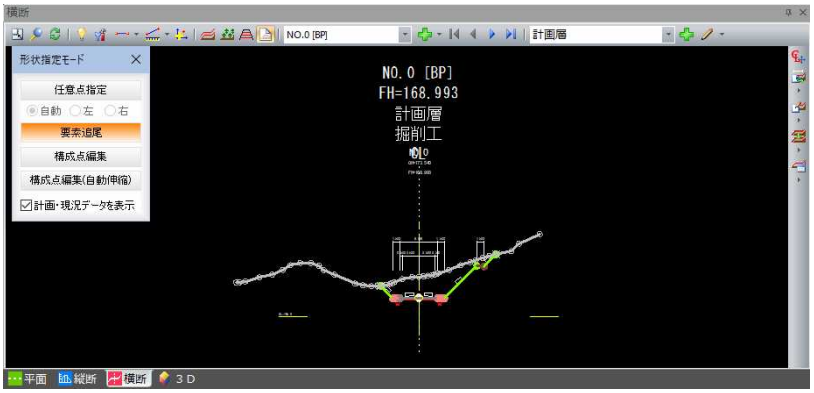


▼[計画追尾(プレビュー)]を選択



■[計画追尾(プレビュー)]の形状指定モードの共通操作

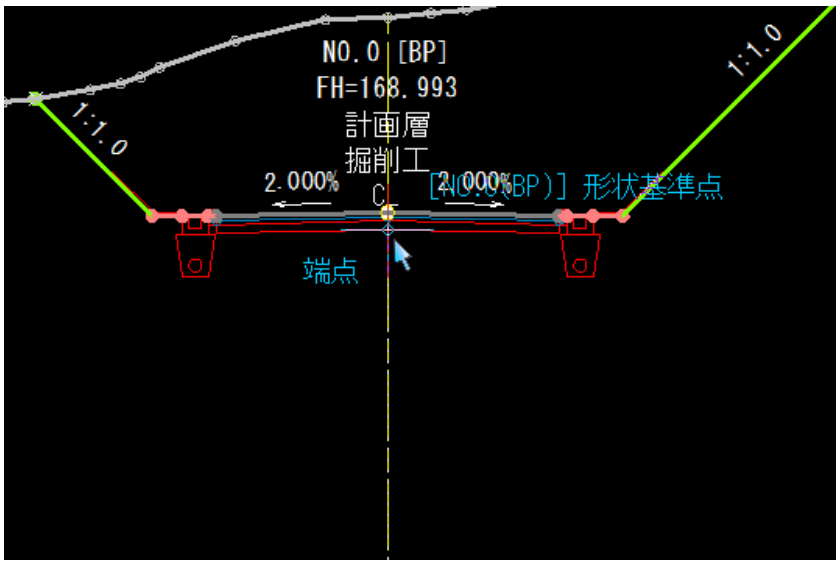
計画・現況データを表示
「計画・現況データを表示」チェックマークをオンにすると、プレビューウィンドウに計画・現況データがグレーで表示されます。



以降、[計画追尾(参照図面)]、 [計画追尾(プレビュー)]共通の形状指定モードメニューの各種操作手順を説明します。

● 計画追尾コマンド共通操作－形状基準点指定

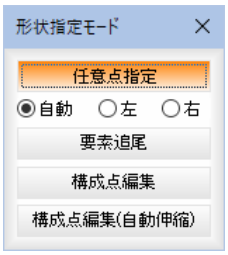
1 横断メニューで[半自動抽出]－[計画追尾(参照図面)または(プレビュー)]をクリックすると、形状指定モードメニューが表示されます、断面形状の形状基準点指定モードとなります。参照図面またはプレビューウィンドウ内の断面形状の形状基準点の位置をクリックします。



2 形状基準点決定後、形状指定モードメニューの[任意点指定]、[要素追尾]、[構成点編集]、[構成点編集(自動伸縮)]いずれかの処理をクリックして操作を行います。

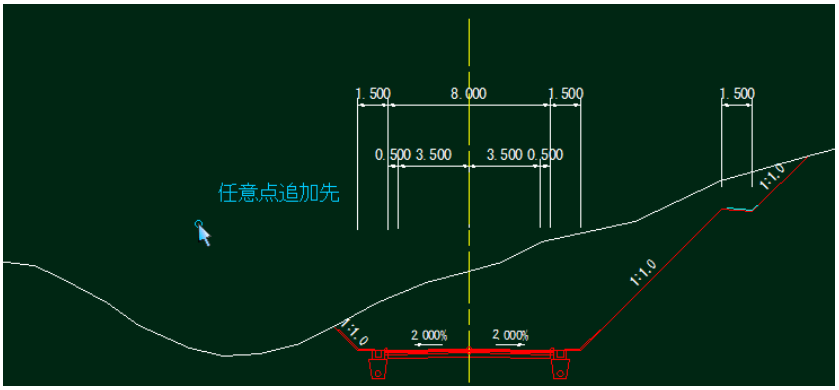
● 計画追尾－任意点指定

1 形状指定モードメニューで[任意点指定]をクリックします。

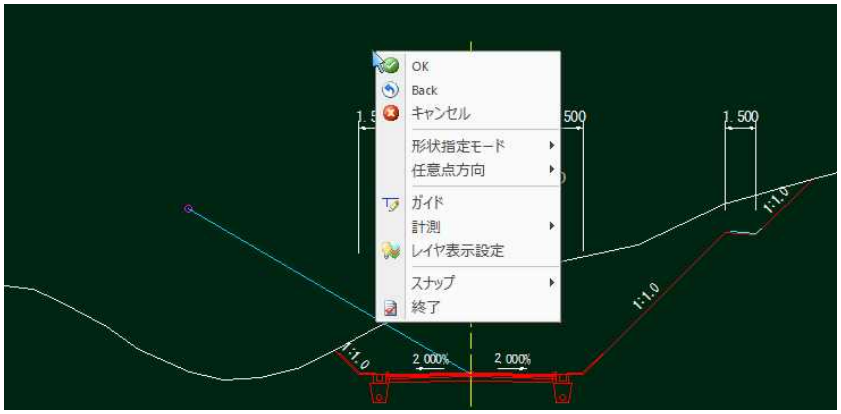


自動、左、右

「自動」、「左」、「右」いずれかのラジオボタンをクリックして選択します。
形状基準点を指定すると、任意点追加先指定モードとなりますので、マウスでクリックして指定します。断面形状の要素をマウスでクリックして指定します。
自動：指定した形状基準点から左右どちらかを自動で判定し横断の断面形状を追加します。
左：横断の左側として断面形状を追加します。
右：横断の右側として断面形状を追加します。

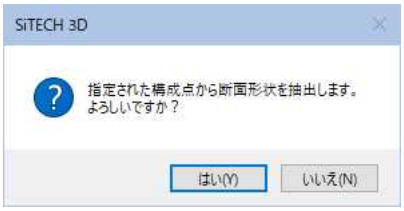


2 マウスを右クリックし、ポップアップメニューから[OK]をクリックするまで連続して断面形状の要素を指定することができます。



ポップメニューからは、各種のコマンドの他に、形状指定モードの変更や、任意点方向の選択を行うこともできます。

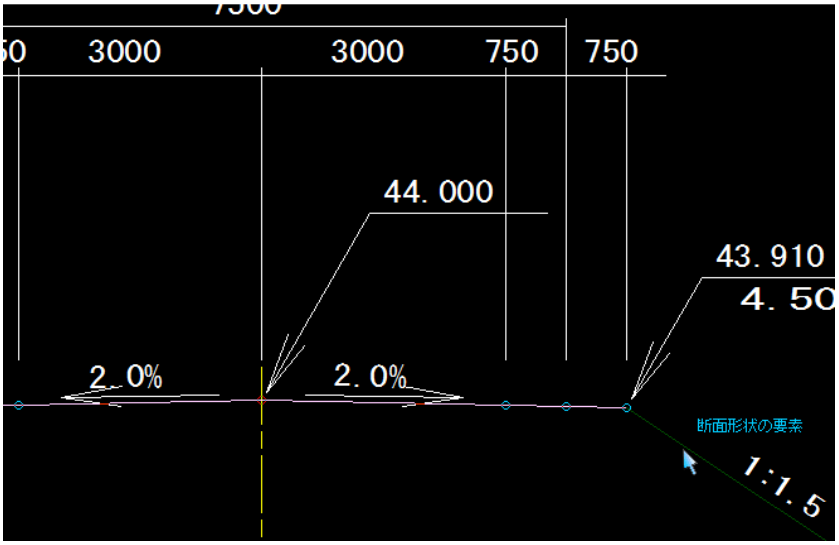
3 形状の指定が確定すると、以下のメッセージが表示されます。



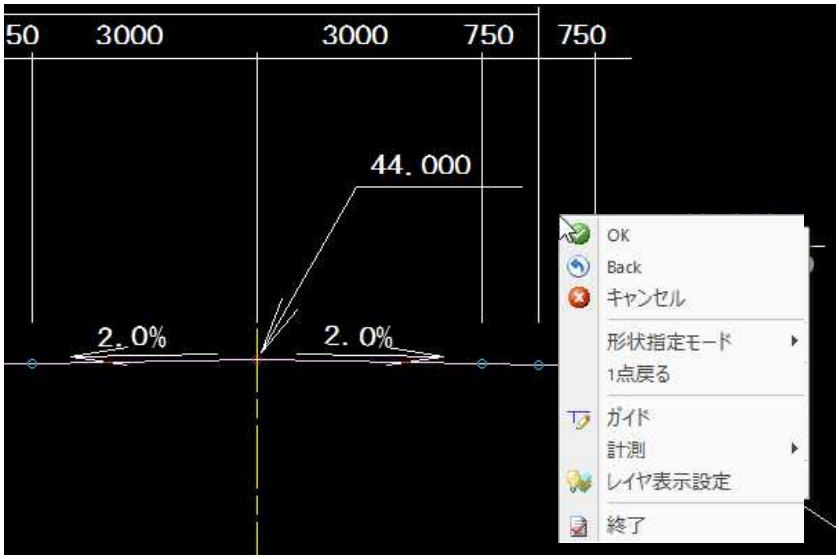
[はい]をクリックすると、データ抽出が行われます。

● 計画追尾－要素追尾

1 形状指定モードメニューで[要素追尾]をクリックします。断面形状の要素をマウスでクリックして指定します。繋がっている要素を自動で追尾して計画形状の対象に設定します。

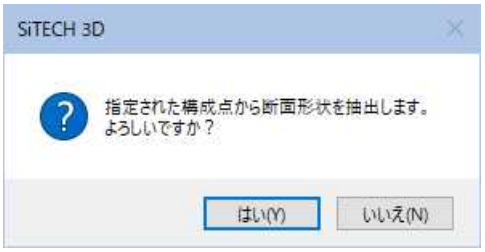


2 マウスを右クリックし、ポップアップメニューから[OK]をクリックするまで連続して断面形状の要素を指定することができます。
ポップアップメニュー内の「1 点戻る」をクリックすると自動認識された構成点中で 1 点前に戻ります。



ポップメニューからは、各種のコマンドの他に、形状指定モードの変更を行うこともできます。

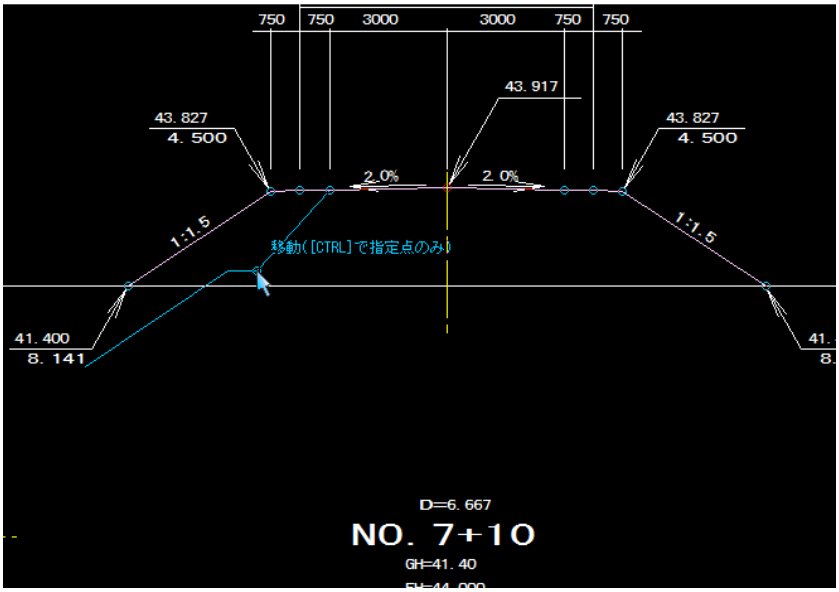
3 形状の指定が確定すると、以下のメッセージが表示されます。



[はい]をクリックすると、データ抽出が行われます。

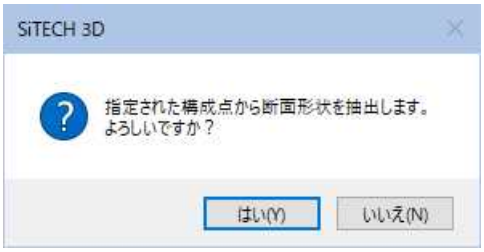
● 半自動抽出モード－構成点編集

1 形状指定モードメニューで[構成点編集]をクリックします。
現在設定されている計画形状の構成点を編集するモードです。
移動：構成点を示す○をクリック後、移動したい箇所をクリックで移動します。
挿入：構成点と構成点の間に、新たに構成点を追加します。
削除：構成点を示す○をクリックして削除します。



2 マウスを右クリックし、ポップアップメニューから[OK]をクリックするまで連続して各種の編集処理を行うことができます。

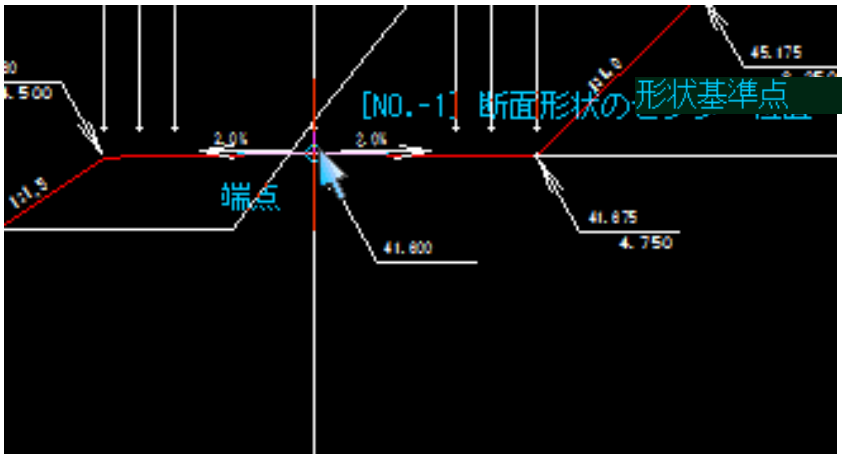
3 形状の指定が確定すると、以下のメッセージが表示されます。



[はい]をクリックすると、データ抽出が行われます。

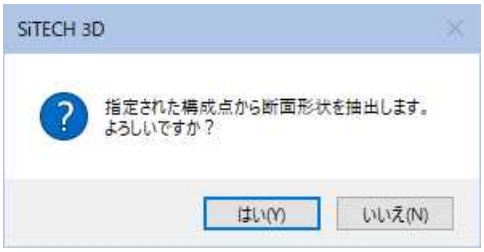
● 半自動抽出モード－構成点編集(自動伸縮)

1 形状指定モードメニューで[構成点編集(自動伸縮)]をクリックします。
プレビューに表示されている計画断面／現況断面を使用して、計画断面を現況断面まで自動で伸縮させる機能です。



2 マウスを右クリックし、ポップアップメニューから[OK]をクリックするまで連続して各種の編集処理を行うことができます。

3 形状の指定が確定すると、以下のメッセージが表示されます。



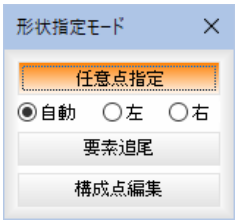
[はい]をクリックすると、データ抽出が行われます。

横断 －[半自動抽出]－[現況追尾(参照図面)または(プレビュー)]

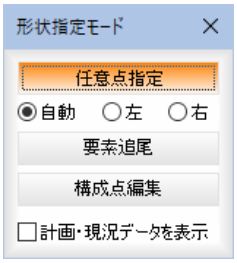
参照図面やベース図の現況線を指定して、現況形状を抽出する

参照図面の横断図または横断プレビューに配置されているベース図(背景横断図)などから現況断面を半自動抽出します。
横断メニューで[半自動抽出]－[現況追尾(参照図面)または(プレビュー)]をクリックすると、形状指定モードメニューが表示されます。
形状基準点指定後、形状指定モードの各メニューを用途に応じて切り替えて、半自動抽出処理を行います。

▼[現況追尾(参照図面)]を選択



▼[現況追尾(プレビュー)]を選択



■[現況追尾(プレビュー)]の形状指定モードの共通操作

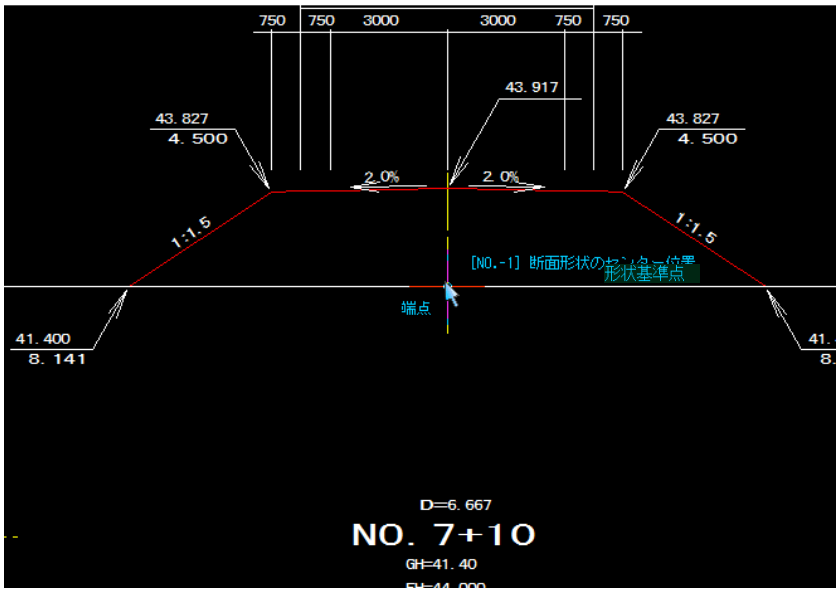
計画・現況データを表示

「計画・現況データを表示」チェックマークをオンにすると、プレビューウィンドウに計画・現況データがグレーで表示されます。

以降、[現況追尾(参照図面)]、[現況追尾(プレビュー)]共通の形状指定モードメニューの各種操作手順を説明します。

● 現況追尾共通操作－形状基準点指定

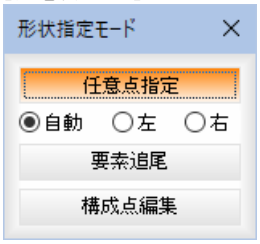
1 横断メニューで[半自動抽出]－[現況追尾(参照図面)または(プレビュー)]をクリックすると、形状指定モードメニューが表示され、断面形状の形状基準点指定モードとなります。参照図面またはベース図内の断面形状の形状基準点をクリックします。



2 形状基準点決定後、形状指定モードメニューの[任意点指定]、[要素追尾]、[構成点編集]いずれかの処理をクリックして操作を行います。

● 現況追尾－任意点指定

1 形状指定モードメニューで[任意点指定]をクリックします。



「自動」、「左」、「右」いずれかのラジオボタンをクリックして選択します。

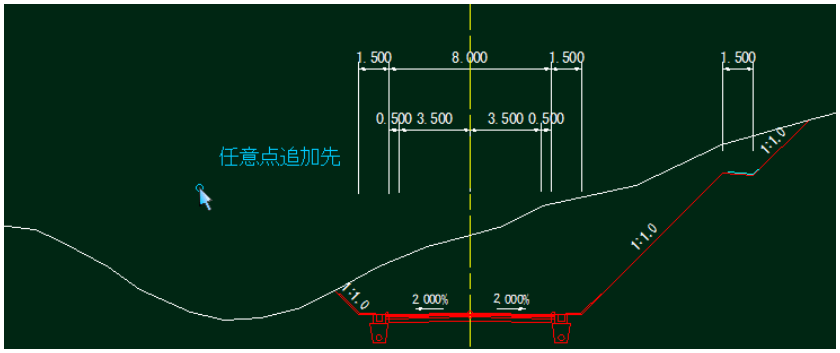
自動、左、右

形状基準点を指定すると、任意点追加先指定モードとなりますので、マウスでクリックして指定します。断面形状の要素をマウスでクリックして指定します。

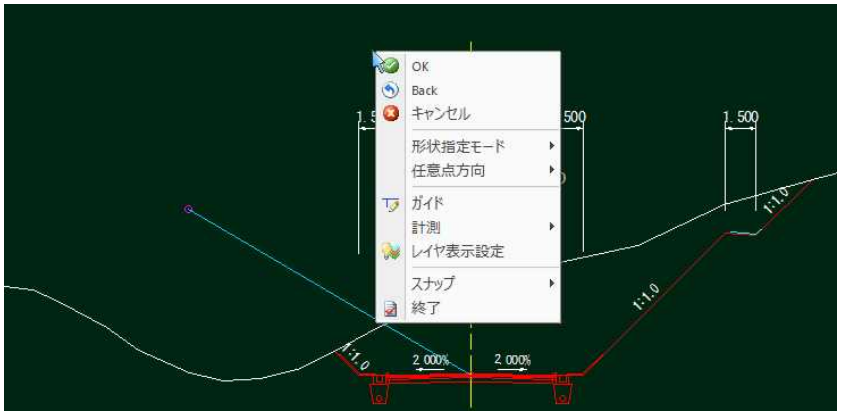
自動：指定した形状基準点から左右どちらかを自動で判定し横断の断面形状を追加します。

左：横断の左側として断面形状を追加します。

右：横断の右側として断面形状を追加します。

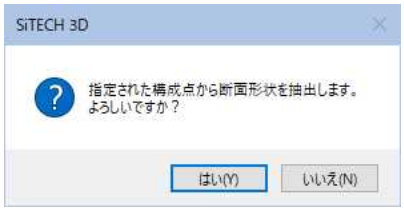


2 マウスを右クリックし、ポップアップメニューから[OK]をクリックするまで連続して断面形状の要素を指定することができます。



ポップメニューからは、各種のコマンドの他に、形状指定モードの変更や、任意点方向の選択を行うこともできます。

3 形状の指定が確定すると、以下のメッセージが表示されます。



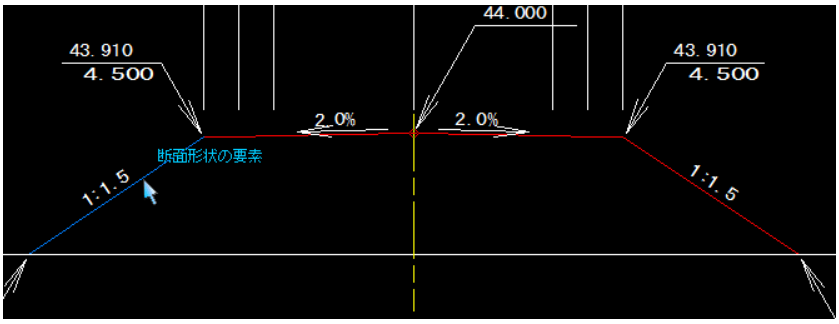
[はい]をクリックすると、データ抽出が行われます。

4 [はい]をクリックすると「現況高の設定」ダイアログが表示されますので、抽出した現況データに設定する現況高を入力します。

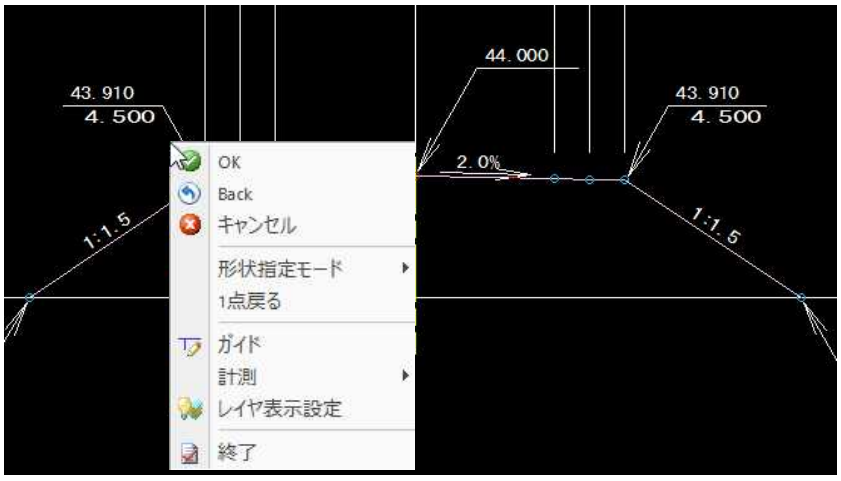
[参照図面より指定]をクリックし、参照図面中の文字要素を指定して現況高を設定する事も可能です。
[OK]をクリックすると、データ抽出が行われます。

● 現況追尾－要素追尾

1 形状指定モードメニューで[要素追尾]をクリックします。断面形状の要素をマウスでクリックして指定します。繋がっている要素を自動で追尾して現況形状の対象に設定します。

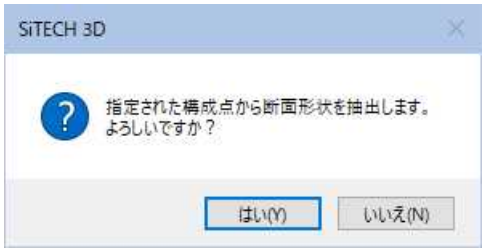


2 マウスを右クリックし、ポップアップメニューから[OK]をクリックするまで連続して断面形状の要素を指定することができます。
ポップアップメニュー内の「1 点戻る」をクリックすると自動認識された構成点中で 1 点前に戻ります。



ポップメニューからは、各種のコマンドの他に、形状指定モードの変更を行うこともできます。

3 要素の指定が確定すると、以下のメッセージが表示されます。

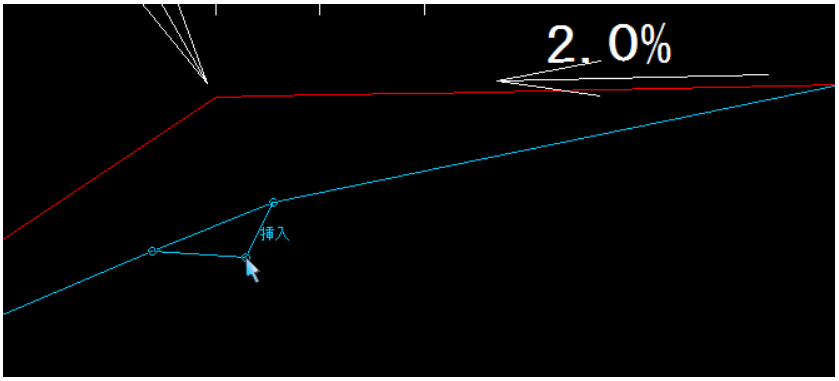


4 [はい]をクリックすると「現況高の設定」ダイアログが表示されますので、抽出した現況データに設定する現況高を入力します。

[参照図面より指定]をクリックし、参照図面中の文字要素を指定して現況高を設定する事も可能です。[OK]をクリックすると、データ抽出が行われます。

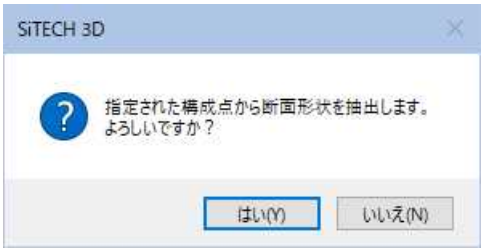
● 現況追尾－構成点編集

1 形状指定モードメニューで[構成点編集]をクリックします。
現在設定されている現況形状の構成点を編集するモードです。
移動：構成点を示す○をクリック後、移動したい箇所をクリックで移動します。
挿入：構成点と構成点の間に、新たに構成点を追加します。
削除：構成点を示す○をクリックして削除します。



2 マウスを右クリックし、ポップアップメニューから[OK]をクリックするまで連続して各種の編集処理を行うことができます。

3 形状の指定が確定すると、以下のメッセージが表示されます。



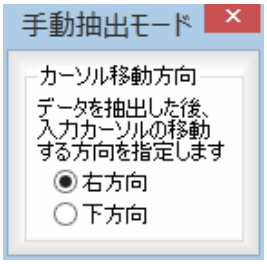
4 [はい]をクリックすると「現況高の設定」ダイアログが表示されますので、抽出した現況データに設定する現況高を入力します。

[参照図面より指定]をクリックし、参照図面中の文字要素を指定して現況高を設定する事も可能です。
[OK]をクリックすると、データ抽出が行われます。

横断－[手動抽出]－[文字]

参照図面上の文字を取得する

参照図面上の文字列を取得します。
抽出した文字列は、入力グリッドのカーソルがある箇所に入力されます。



＜共通操作＞ カーソル移動方向の設定

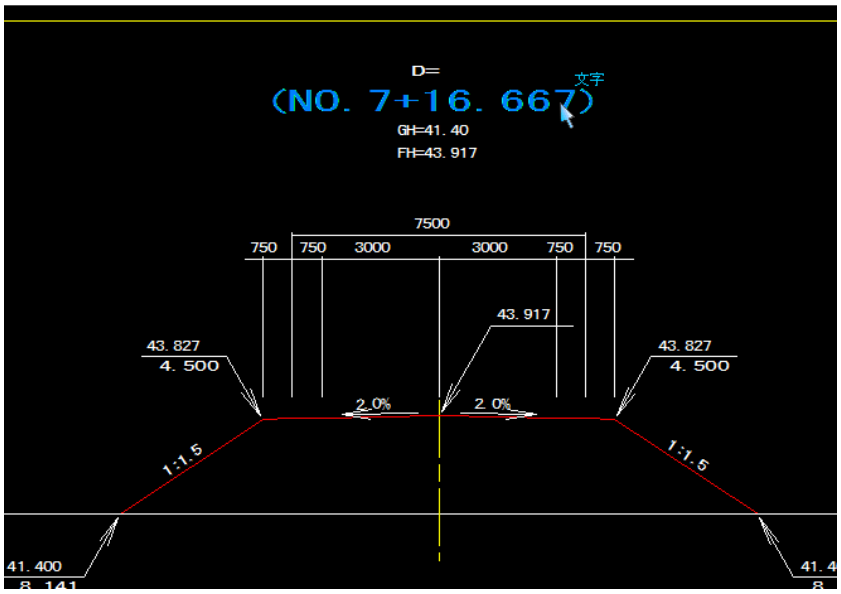
「手動抽出モード」ダイアログボックス内で、データ抽出後の入力カーソルの移動する方向を、「右方向」、「下方向」いずれかのラジオボタンをクリックして選択します。

「右方向」を選択すると、データ抽出後、データウィンドウ内の入力グリッドのカーソルが右方向に移動します。

「下方向」を選択すると、データ抽出後、データウィンドウ内の入力グリッドのカーソルが下方向に移動します。

● 手動抽出モード－文字の操作方法

1 手動抽出モードメニューで[文字]をクリックします。
文字指定モードとなりますので、参照図面内の文字をクリックします。



2 抽出した文字がカーソルのある入力グリッドに入力されます。

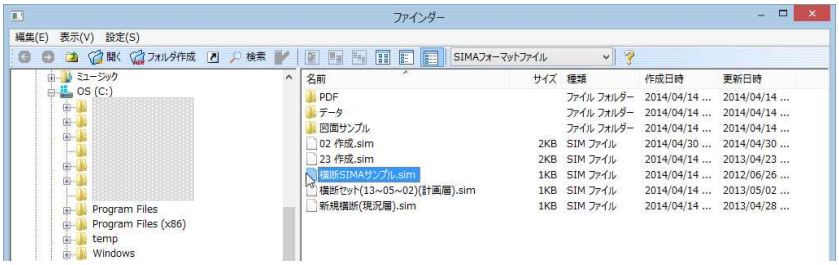
横断－[入出力]－[SIMA 入力]

SIMA 形式の横断データを読み込む

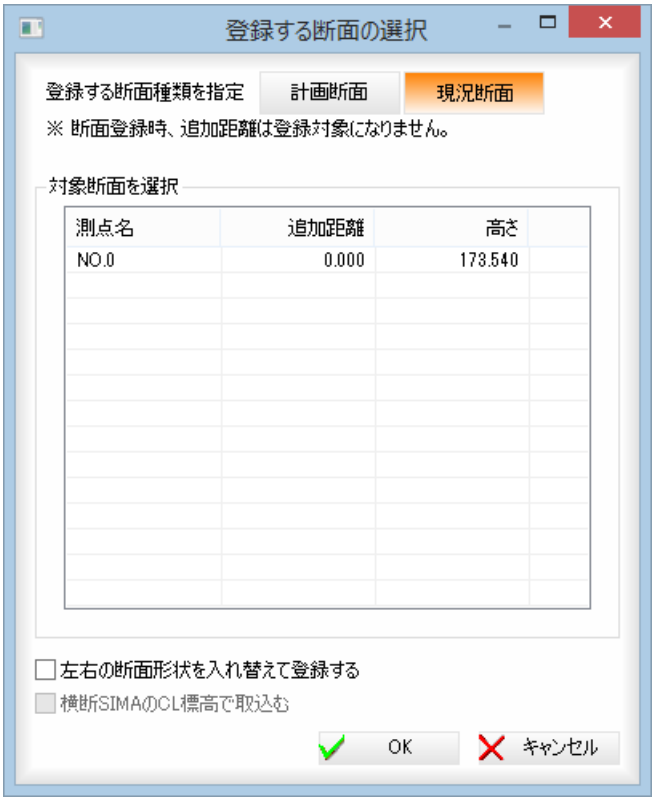
SIMA 形式の横断データから、計画または現況断面を読み込みます。個別と一括入力があります。ドロップダウンよりいずれかを選択します。

● SIMA 入力(個別)の操作

1 横断メニューで[入出力]－[SIMA 入力]－[SIMA 入力(個別)]をクリックすると、「ファインダー」ダイアログボックスが表示されます。



2 SIMA 形式ファイルを選択し、[開く]をクリックすると、「登録する断面の選択」ダイアログボックスが表示されます。



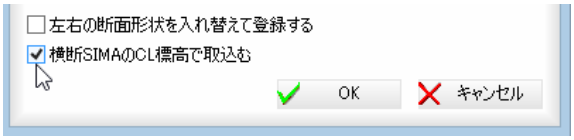
登録する断面種類の指定

[計画断面]、[現況断面]のいずれかをクリックして、読み込んだデータを登録する断面種類を選択します。

対象断面の選択
対象断面の一覧内をクリックして、読み込んだデータ内から登録するいずれかの断面を選択します。

左右の断面形状を入れ替えて登録する
「左右の断面形状を入れ替えて登録する」チェックマークをオンにすると、左右の断面形状を入れ替えて読み込みます。初期状態はオフです。

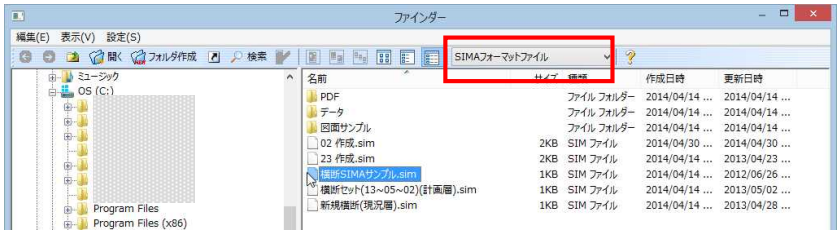
横断 SIMA の CL 標高で取込む
登録する断面種類を[計画断面]に指定した場合、「横断 SIMA の CL 標高で取込む」チェックマークをオンにすることができます。オンにすると、横断 SIMA の CL 標高で読み込みます。初期状態はオフです。



3 「登録する断面の選択」ダイアログボックス[OK]をクリックすると、SIMA 形式の横断データから、計画または現況断面を読み込みます。

● SIMA 入力(一括)の操作

1 横断メニューで[入出力]－[SIMA 入力]－[SIMA 入力(一括)]をクリックすると、「ファインダー」ダイアログボックスが表示されます。



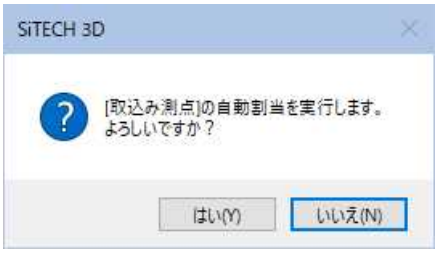
2 SIMA 形式ファイルを選択し、[開く]をクリックすると、「取込み測点の設定」ダイアログボックスが表示されます。

登録する断面種類の指定
[計画断面]、[現況断面]のいずれかをクリックして、読み込んだデータを登録する断面種類を選択します。

取込み測点の選択
一覧には横断セットに登録されている測点名・追加距離が表示されます。
取込み測点項目をクリックすると、SIMA ファイルから読込んだ測点が選択肢として表示されますので、既存測点に対して、SIMA ファイルのどの測点データを登録するのかを設定してください。
※コマンド起動時には、SIMA ファイル内のデータに、既存データの追加距離と同じ追加距離のデータが存在した場合には、自動で取込み測点を設定します。

一致しない測点を追加
「一致しない測点を追加」チェックボックスをオンにすると、SIMA ファイルが保持している追加距離を基準に、SiTECH 側でその横断測点が無ければ横断測点を追加作成します。(追加距離より横断測点名を自動的に作成します)。
オフの場合には、取込み測点が設定されていないデータは読み込みを行いません。

測点の自動割り当て
[自動割り当て]をクリックすると確認メッセージが表示されます。



[はい]をクリックすると、SIMA ファイル内のデータに、既存データの追加距離と同じ追加距離のデータが存在した場合には、自動で取込み測点を設定します。

全解除
[全解除]をクリックすると、一覧内に表示された取込み測点の設定をすべて解除します。

左右の断面形状を入れ替えて登録する
「左右の断面形状を入れ替えて登録する」チェックマークをオンにすると、左右の断面形状を入れ替えて読み込みます。初期状態はオフです。

横断 SIMA の CL 標高で取込む
登録する断面種類を[計画断面]に指定した場合、「横断 SIMA の CL 標高で取込む」チェックマークをオンにすることができます。オンにすると、横断 SIMA の CL 標高で読み込みます。初期状態はオフです。

3 [OK]をクリックすると、SIMA 形式の横断データから、計画または現況断面の測点を一括して読み込みます。

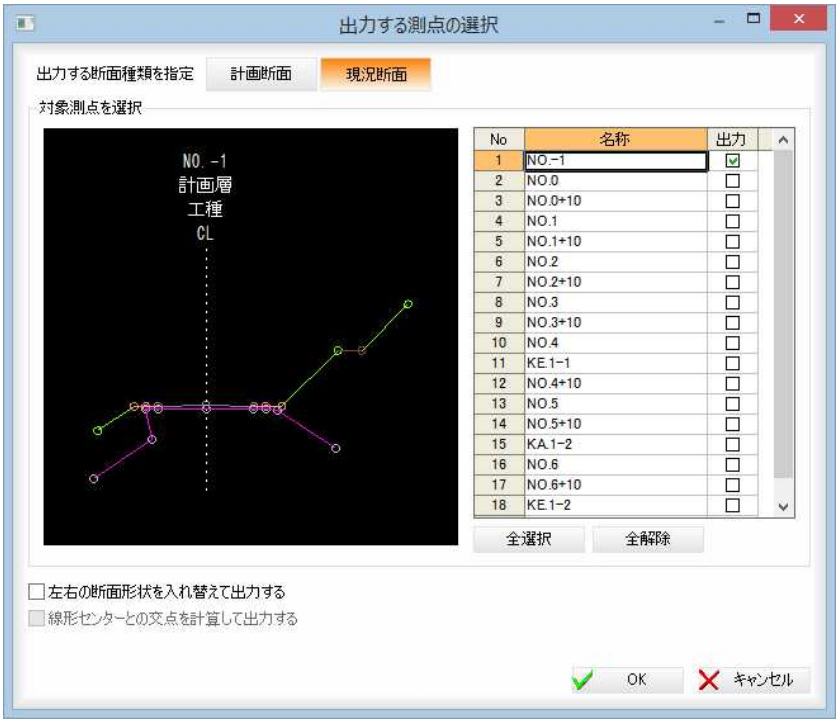
横断 －[入出力]－[SIMA 出力]

計画／現況断面を横断 SIMA ファイルに保存する

計画または現況断面を横断 SIMA ファイルに保存します。

● SIMA 形式ファイルの書き込み

1 横断メニューで[入出力]－[SIMA 出力]をクリックすると、「出力する測点の選択」ダイアログボックスが表示されます。



出力する断面種類の指定

[計画断面]、[現況断面]のいずれかをクリックして、出力する断面種類を選択します。

対象測点を選択

測点のプレビューと名称が一覧表示されます。チェックマークをクリックして出力する断面を選択します。

[全選択]／[全解除]

すべての「出力」チェックマークをオン、またはオフにします。

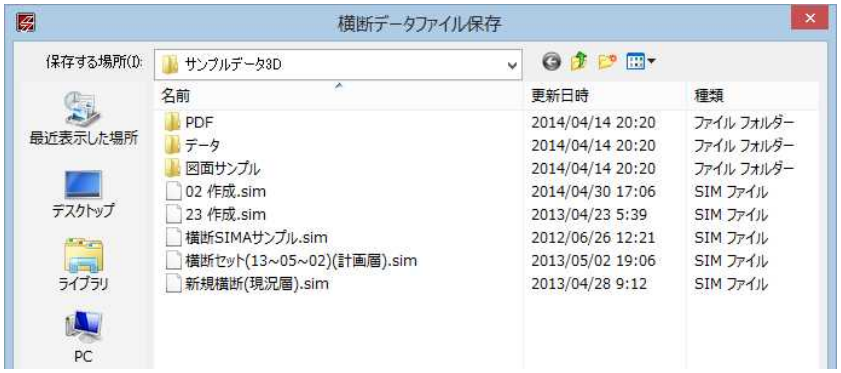
左右の断面形状を入れ替えて出力する

「左右の断面形状を入れ替えて出力する」チェックマークをオンにすると、左右の断面形状を入れ替えて出力します。初期状態はオフです。

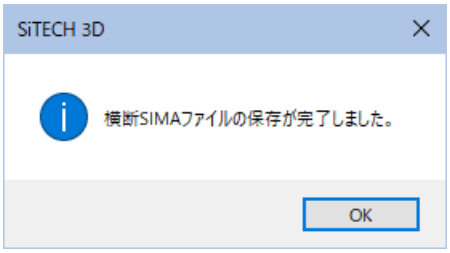
線形センターとの交点を計算して出力する

出力する断面種類を[計画断面]に指定した場合、「線形センターとの交点を計算して出力する」チェックマークをオンにすることができます。オンにすると、線形センターとの交点を計算して出力します。初期状態はオフです。

2 「出力する測点の選択」ダイアログボックスで[OK]をクリックすると、「横断データファイル保存」ダイアログボックスが表示されます。



3 ファイル名を入力し、[保存]をクリックすると、ファイルへの書き込みが実行され、以下のメッセージが表示されます。



4 [OK]をクリックすると処理を終了します。

4 コマンド

ベース図の配置・解除、形状編集や各種の形状複写処理、横断構成点確認、横断照査の処理を行います。
また、TS 出来形設定処理への移行を行います。

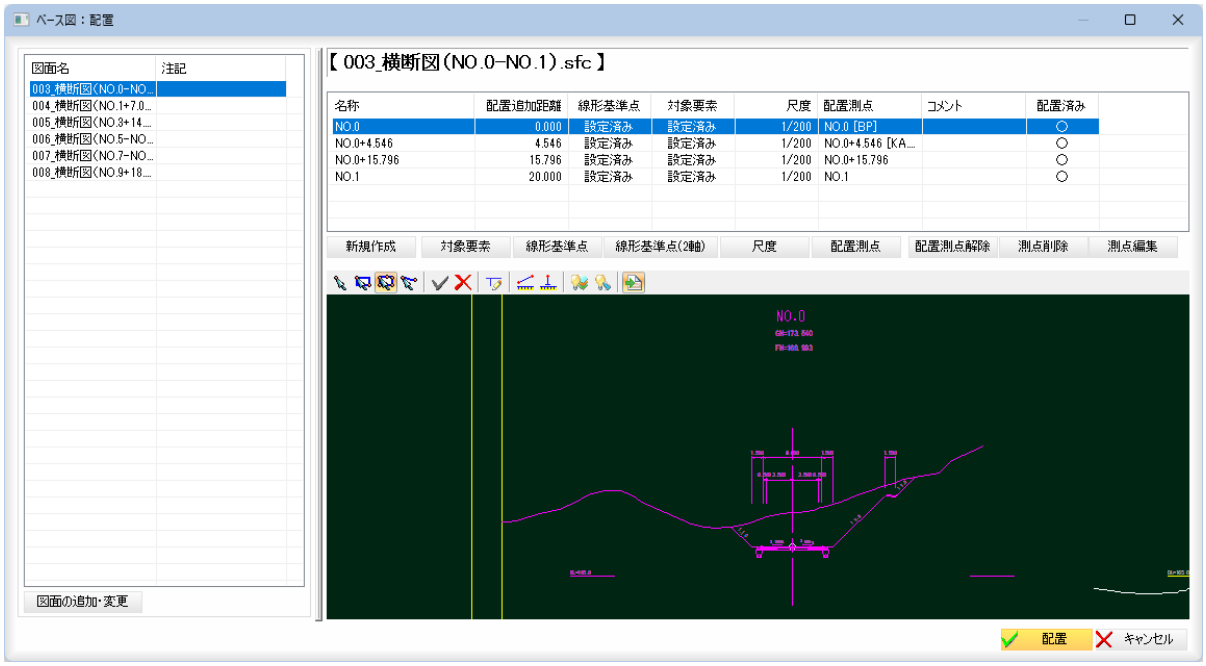
横断－[コマンド]－[ベース図]

ベース図を配置・解除する

横断プレビュー上に参照図面の一部を背景のように表示します。自動で抽出（対象図形、基準点）します。

● ベース図の配置

1 横断メニューで[コマンド]－[ベース図]－[配置]をクリックすると、「ベース図：配置」ダイアログボックスが表示されます。



左側に図面ファイル名が一覧表示されますので、チェックマークをオンにしてベース図に使用する図面を選択します。
左側に現在選択されている図面ファイルの一覧が表示され、右側には図面ファイルごとの測点が一覧表示されます。
下部のプレビュー画面には、現在選択中の測点の対象要素として設定されている図形が点滅表示します。

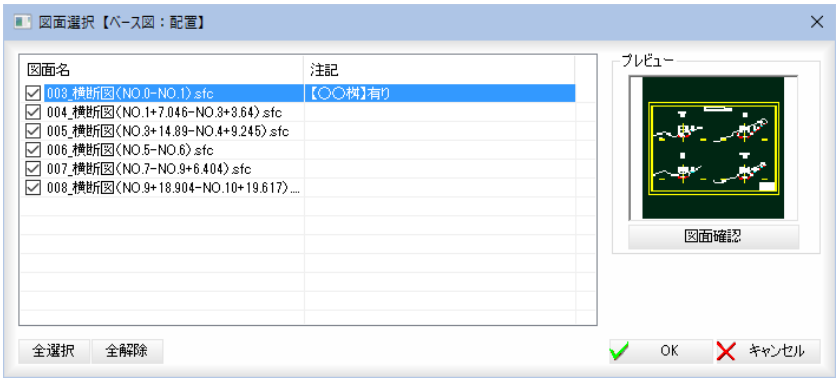
2 図面の選択

図面名一覧表示

一覧表示内に、図面名と注記が表示されます。

図面の追加・変更

[図面の追加・変更]をクリックすると、「図面選択【ベース図：配置】」ダイアログボックスが表示されます。



図面の選択

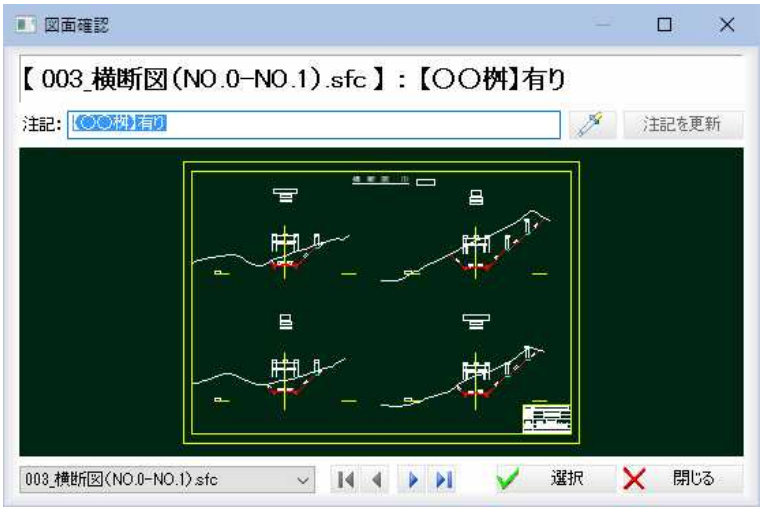
図面名のチェックマークをオンにして、図面を選択します。

[全選択]／[全解除]

表示中の項目すべてのチェックマークをオン、またはオフにします。

図面確認

プレビュー画面の[図面確認]をクリックすると、「図面確認」ダイアログボックスが表示されます。



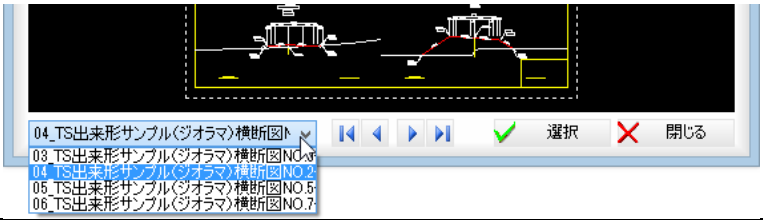
注記

「注記」入力欄内に文字列を入力・変更します。

(スポイトボタン)をクリックすると、図面内の文字抽出モードとなりますので、いずれかの文字列をクリックします。入力欄内に文字列が追加されます。[注記を更新]をクリックすると、[注記を更新]をクリックすると、確認メッセージが表示されますので、[OK]をクリックすると、注記文字列が更新されます。

参照図面の切り替え

図面名のドロップダウンリストまたは をクリックして図面ファイルの切り替えを行います。



[選択]をクリックすると、現在表示中の図面が選択され、「図面選択【ベース図：配置】」ダイアログボックスに戻ります。

3 各種測点一覧の処理

「ベース図：配置」ダイアログボックスの右側の一覧表示には、図面ファイルごとの各種データが表示されます。

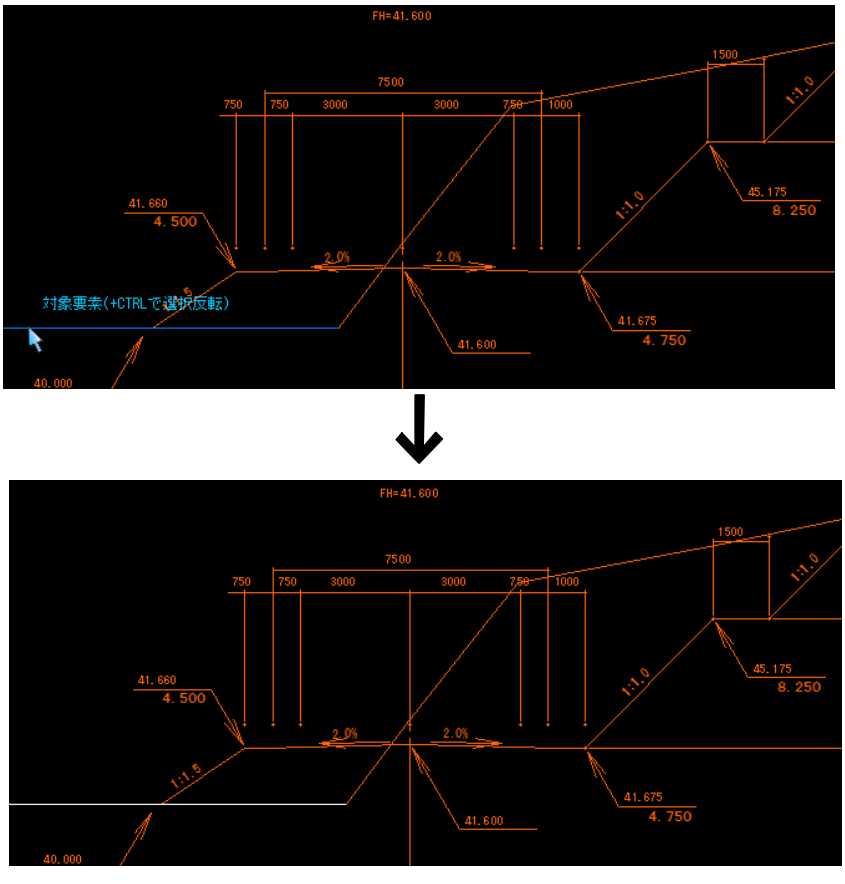
■ 新規作成

[新規作成]をクリックすると、「新規作成」ダイアログボックスが表示されます。

測点名を入力します。スポイト機能を使用すると、ＣＡＤ図面中の測点名の文字列を取得することができます。
[OK]をクリックすると、一覧表示の一番下に測点が追加されます。

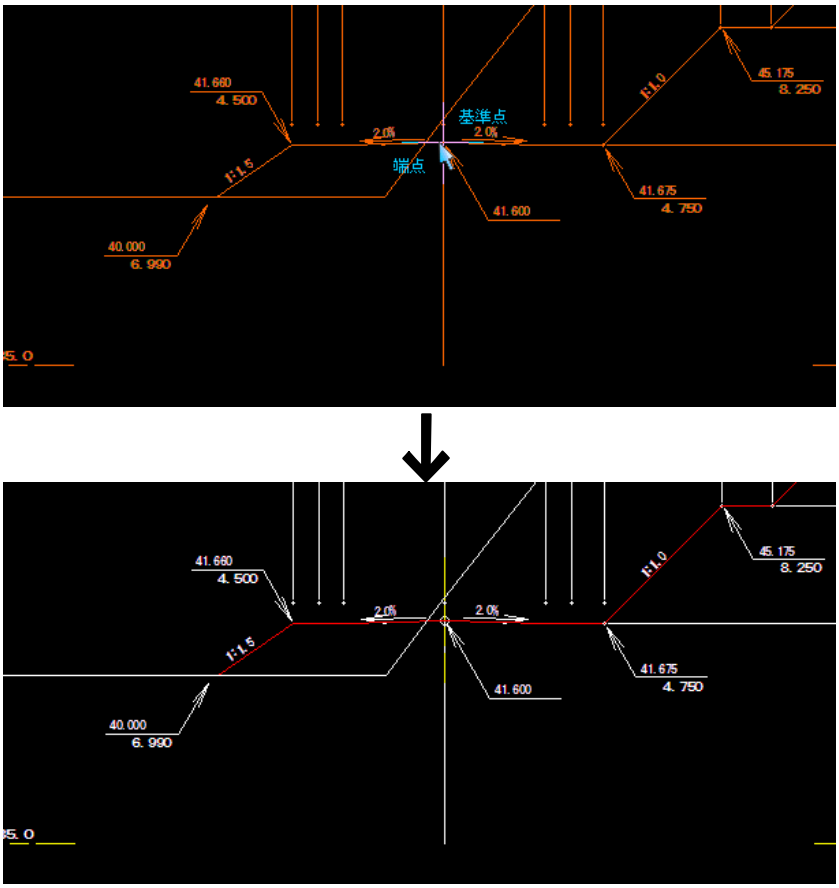
■ 対象要素の選択／選択解除

[対象要素]をクリックすると要素選択モードとなりますので、いずれかの方法で要素を選択します。既に選択済みの場合、CTRL キーを押しながらマウスをクリックすると、選択状態を反転します。



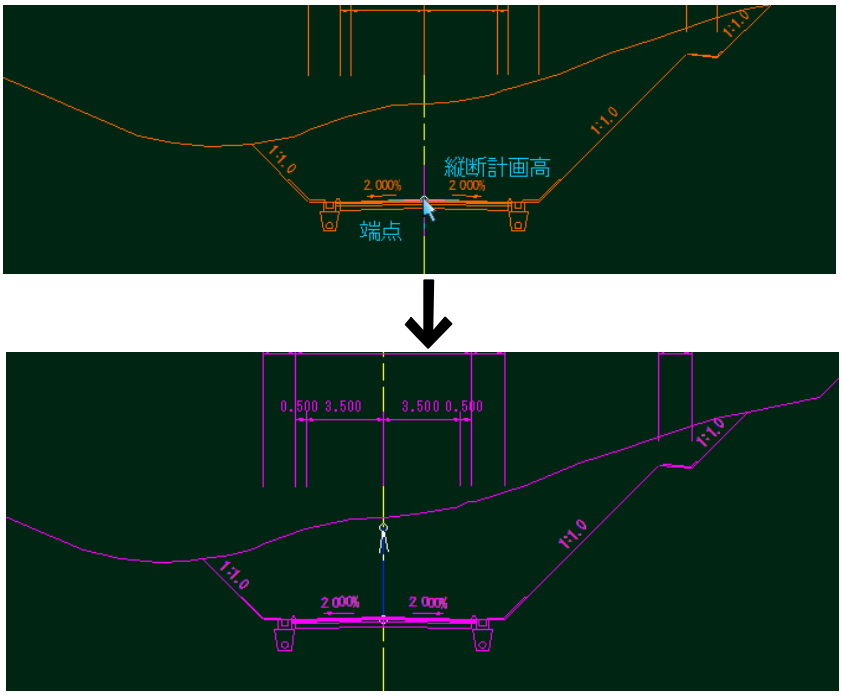
■ **線形基準点**

[線形基準点]をクリックすると、線形基準点指定モードとなりますので、マウスにて指定します。基準点として指定した点が、横断プレビューに描画する時に、形状基準点に合わせられる位置になります。



■ **線形基準点(2 軸)**

[線形基準点 2 軸]をクリックすると、線形基準点指定モードとなりますので、マウスにて指定します。マウスの移動とともに仮想線が表示されます。
縦断計画高の指定モードになりますので、指定位置でマウスクリックします。
２点目配置基準点を設定すると、選択した測点の線形基準点(2 軸)が設定されます。



■ 尺度の設定

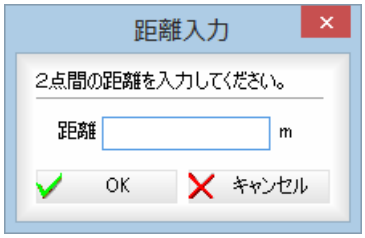
[尺度]をクリックすると、「尺度」ダイアログボックスが表示されます。
対象要素として選択した図形が作図されている尺度を指定します。

シートより／数値よりの選択

「シートより」、「数値より」いずれかのラジオボタンをクリックして選択します。
「シートより」を選択した場合は、ドロップダウンリストよりいずれかを選択します。
「数値より」を選択した場合は、入力欄内に数値を入力します。
「尺度」ダイアログボックスで[OK]をクリックすると、「ベース図：配置」ダイアログボックスに戻ります。

CAD より

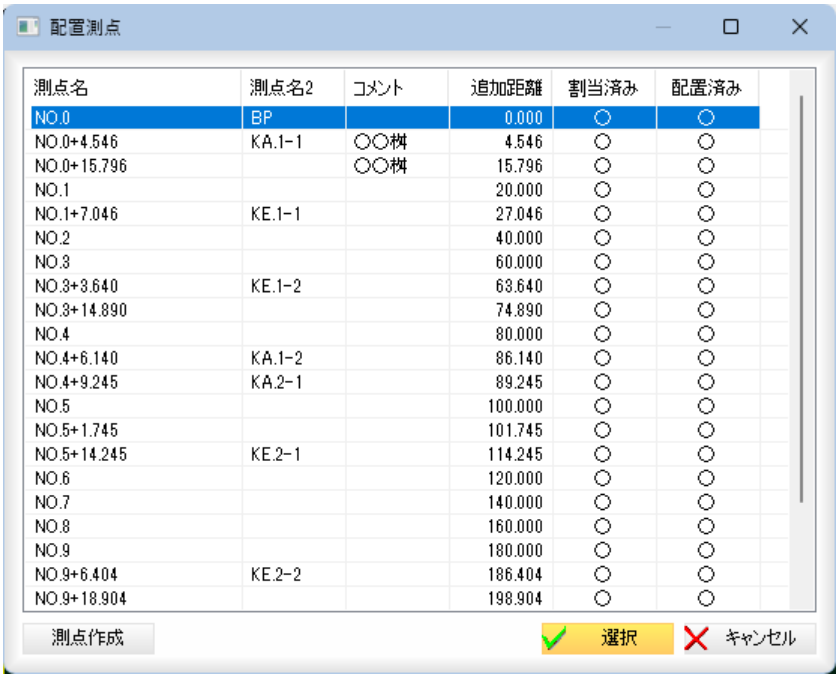
[CAD より]をクリックすると、２点指定モードとなりますので、距離の基準となる１点目、２点目をマウスにてクリックします。「距離入力」ダイアログボックスが表示されます。



距離を入力し、[OK]をクリックすると、尺度が計算され、配置測点がまだ未設定の場合は、「配置測点」ダイアログボックスが表示されます。
[選択]をクリックすると、「ベース図：配置」ダイアログボックスに戻ります。

■ 配置測点の選択

[配置測点]をクリックすると、「配置測点」ダイアログボックスが表示されます。
カレント横断セットの測点の一覧が表示されます。



いずれかの測点をクリックし、[選択]をクリックすると、「ベース図：配置」ダイアログボックス内に選択した測点が表示されます。

測点作成

[測点作成]をクリックすると、「測点作成」ダイアログボックスが表示されます。

現在選択している平面線形路線名が表示されます。センター点のみの測点を作成します。

「作成する測点名」の各種処理を行います。

測点名

測点名を入力欄内に入力します。

追加距離、計算高(FH)

追加距離を入力欄内に入力します。

計画高は、縦断の計算結果から自動算出された値が表示されます。

コメント

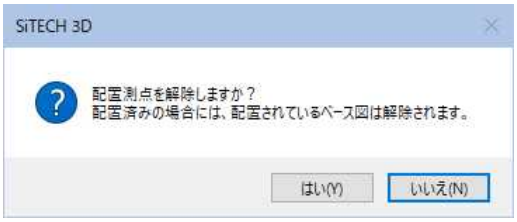
コメントを「コメント」入力欄内に入力します。

「測点作成」ダイアログボックスで[OK]をクリックすると、「配置測点」ダイアログボックスに戻ります。測点名のみ一覧表示に追加されます。

「配置測点」ダイアログボックスで[選択]をクリックすると、「ベース図：配置」ダイアログボックスに戻ります。

■ 配置測点の解除

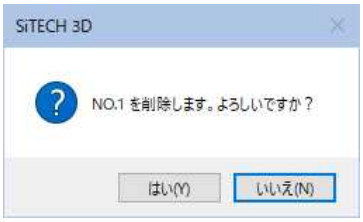
「ベース図：配置」ダイアログボックスで[配置測点解除]をクリックすると、確認メッセージが表示されます。



[はい]をクリックすると、既に設定されている配置測点を解除します。

■ **測点削除**

[測点削除]をクリックすると、削除確認のメッセージが表示されます。



[はい]をクリックすると、測点一覧表示内の反転表示されている測点が削除されます。

■ **測点編集**

[測点編集]をクリックすると、「測点編集」ダイアログボックスが表示されます。
スポイト機能を使用すると、ＣＡＤ図面中の測点名の文字列を取得することができます。
[ＯＫ]をクリックすると、一覧表示内の測点名が編集され、「ベース図：配置」ダイアログボックスに戻ります。

4 プレビュー画面の各種操作

「ベース図：配置」ダイアログボックス下部のプレビュー画面では以下の各種操作を行います。

選択モードの切り替え

のいずれかをクリックして、選択モードを切り替えます。

ポイントモード（マウスでクリックした位置の要素を選択）
ボックスモード（矩形内の要素を選択）
多角形モード（多角形内の要素を選択）
 ラインモード（ラインと交差する要素を選択）

コマンド確定／コマンド中止

コマンド確定
コマンド中止

ガイドを表示する

をクリックすると、「ガイド」ダイアログボックスが表示されます。
各種の「線」、「点」の各ボタンをクリックして、ガイド線またはガイド点の表示を行います。
「線」、「点」の各ボタンをクリックしてガイド線またはガイド点の表示を行います。

ガイドの各操作は、参照図面ウィンドウの「ガイド」処理と同様です。
⇒参照ページへ

計測

のいずれかをクリックして各種の計測処理を行います。

計測コマンドの共通操作：数値のコピー・単位の選択

数値のコピー

各種の数値表示欄の横の をクリックすると、クリップボードに各数値がコピーされます。

単位

いずれかのラジオボタンをクリックして単位を選択します。

計測：２点間

マウスにて１点目、２点目をクリックすると「計測：２点間距離」ダイアログボックス内に距離が表示されます。

計測：標高

「計測：標高(DL)」ダイアログボックスが表示されますので、DL 値を入力し、計測点をクリックすると標高が入力されます。

レイヤ表示設定

図形選択モードとなりますので、マウスにて参照図面上で図形を選択してレイヤの表示・非表示を切り替えます。

なお、レイヤ表示／非表示の状態は参照図面と連動しています。

要素表示切替

「要素表示切替」ダイアログボックスが表示されますので、要素ごとの表示モードの有効・無効を切り替えます。

ベース図連動

測点一覧でフォーカスした測点に連動している横断図を拡大表示します。初期値はオンです。

ポップアップメニュー

プレビュー画面内で右ボタンをクリックし、表示されるポップアップメニューより各種の処理を行います。

ポップアップメニュー内の各コマンドは、「ベース図：配置」ダイアログボックス内の各種のコマンドと同様です。

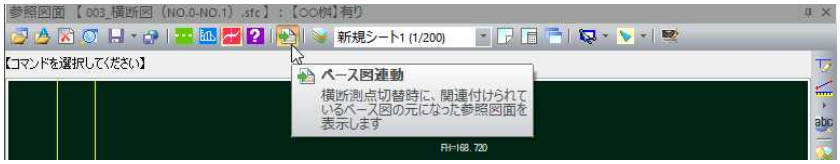
・配置測点が設定されているデータで対象要素／基準点／尺度が未設定の場合には、警告とともに、配置処理を続行して良いかを確認するエラーメッセージが表示され、配置することができません。

5 ベース図の配置

「ベース図：配置」ダイアログボックスで[配置]をクリックすると、完了のメッセージが表示され、ベース図が配置されます。

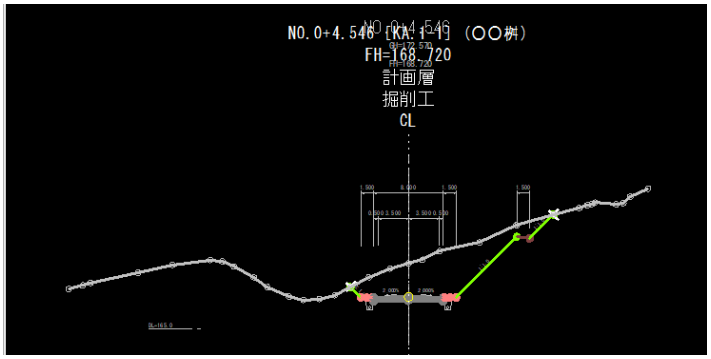
参照図面内

ベース図連動のオン・オフの切り替えが行えます。
オンの場合、横断測点切替時に、関連付けられているベース図の元になった参照図面を表示します。

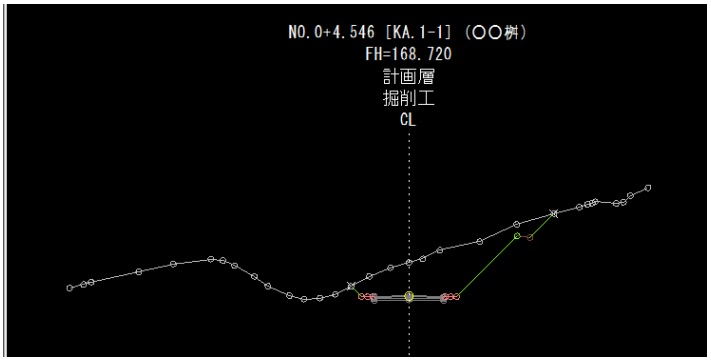


横断プレビュー内

横断プレビュー内にベース図が配置されます。
ベース図表示のオン・オフの切り替えが行えます。
オンの場合、背景は細くグレー、横断プレビューは太く表示されます。
▼ベース図表示：オン

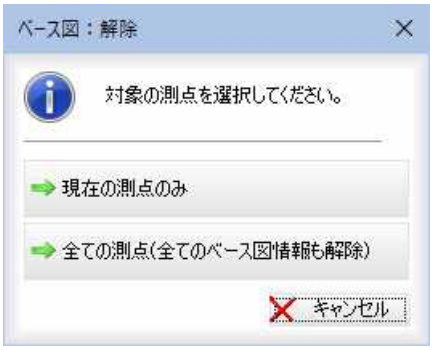


▼ベース図表示：オフ

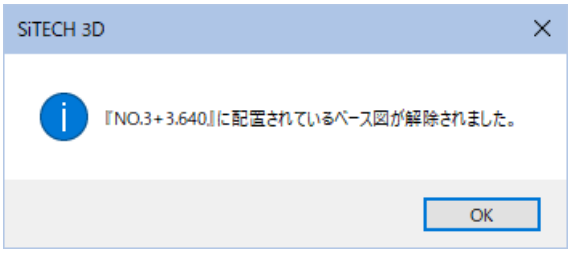


● ベース図の解除

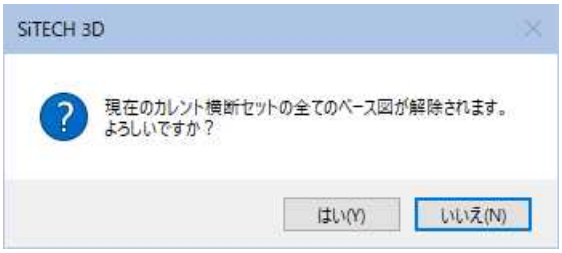
1 横断メニューで[コマンド]－[ベース図]－[解除]をクリックすると、以下の「ベース図：解除」ダイアログボックスが表示されます。いずれかのボタンをクリックして、解除の範囲を選択します。



2 [現在の測点のみ]をクリックすると以下のメッセージが表示されます。



[全ての測点]をクリックすると、以下の確認メッセージが表示されます。



[はい]をクリックすると、すべてのベース図を解除します。

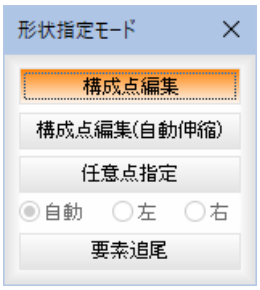
横断 －[コマンド]－[形状編集]－[形状編集(参照図面)または(プレビュー)]

計画断面の形状を参照図面やベース図上に重ね、編集する

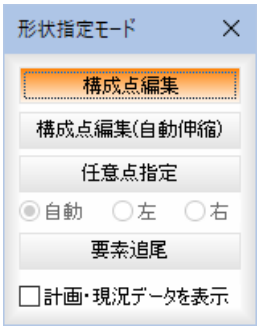
計画断面の形状を参照図面の横断図または横断プレビューに配置されているベース図上に重ね、形状を編集します。
横断メニューで[コマンド]-[形状編集(参照図面)または(プレビュー)]をクリックすると、形状指定モードメニューが表示されます。
形状基準点指定後、形状指定モードの各メニューを用途に応じて切り替えて、形状編集処理を行います。

・既存の断面形状が入力されている場合には、起動時に形状のデータが参照図面上に表示された状態になります。

▼[形状編集(参照図面)]を選択



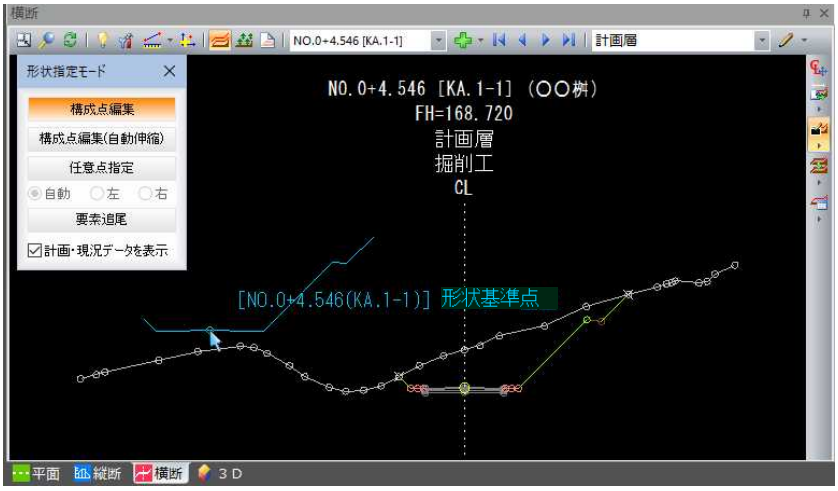
▼[形状編集(プレビュー)]を選択



■[形状編集(プレビュー)]の形状指定モードの共通操作

計画・現況データを表示

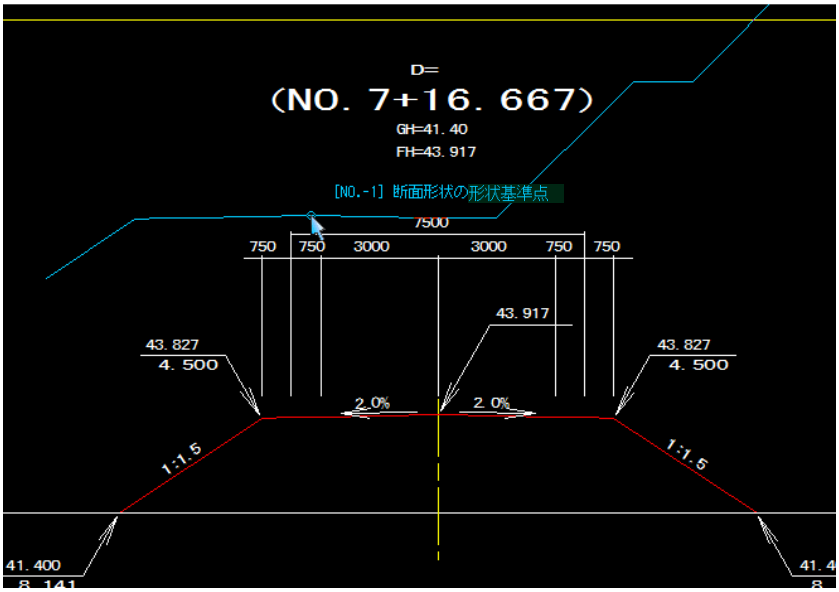
「計画・現況データを表示」チェックマークをオンにすると、プレビューウィンドウに計画・現況データがグレーで表示されます。



以降、[形状編集(参照図面)]、 [形状編集(プレビュー)]共通の形状指定モードメニューの各種操作手順を説明します。

● 形状編集共通操作－形状基準点指定

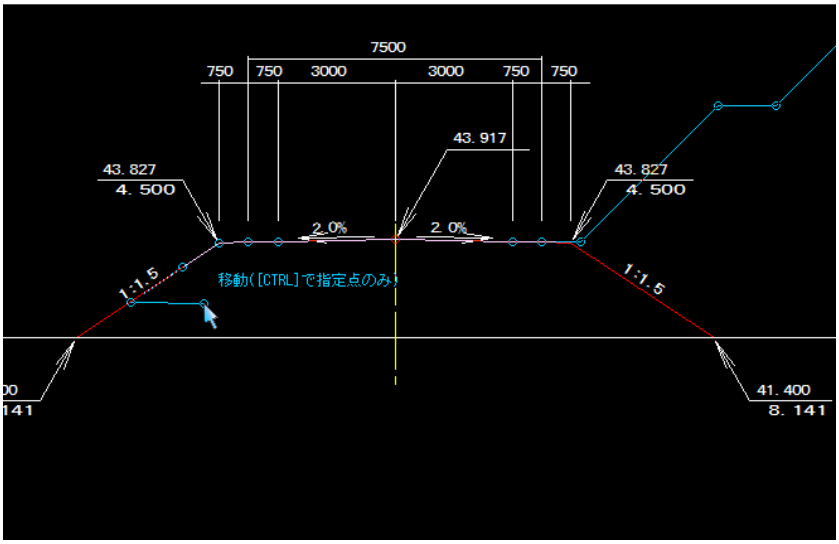
1 横断メニューで[コマンド]－[形状編集(参照図面)または(プレビュー)]をクリックすると、形状指定モードメニューが表示され、断面形状の形状基準点指定モードとなります。
参照図面またはベース図内の断面形状の形状基準点をクリックします。



2 形状基準点決定後、形状指定モードメニューの[要素追尾]、[任意点指定]、[構成点編集]いずれかの処理をクリックして操作を行います。

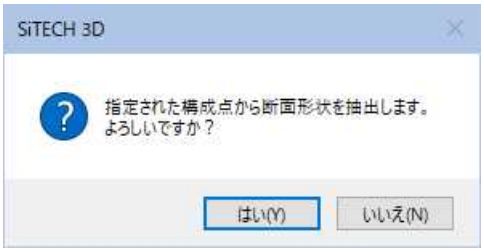
● 形状編集モード－構成点編集

1 形状指定モードメニューで[構成点編集]をクリックします。
現在設定されている計画形状の構成点を編集するモードです。
移動：構成点を示す○をクリック後、移動したい箇所をクリックで移動します。
Ctrl キーを押しながらクリックすると、指定点のみ移動します。
挿入：構成点と構成点の間に、新たに構成点を追加します。
削除：構成点を示す○を Shift キーを押しながらクリックして削除します。



2 マウスを右クリックし、ポップアップメニューから[OK]をクリックするまで連続して各種の編集処理を行うことができます。

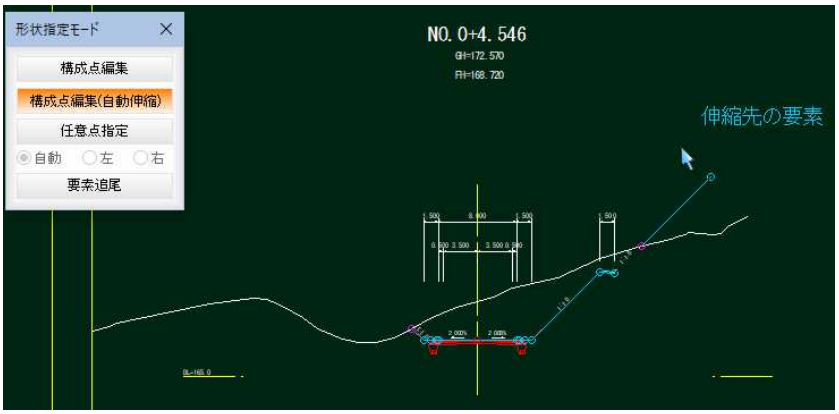
3 形状の指定が確定すると、以下のメッセージが表示されます。



[はい]をクリックすると、データ抽出が行われます。

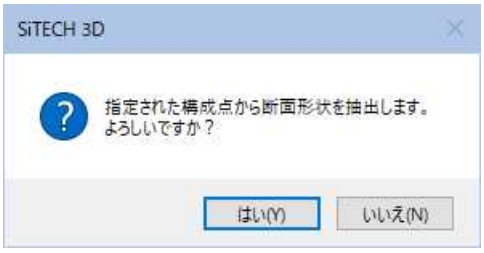
● 形状編集－構成点編集(自動伸縮)

1 形状指定モードメニューで[構成点編集(自動伸縮)]をクリックします。
形状基準点をマウスにてクリックすると、伸縮対象の端点指定モードになりますので、端点をマウスにてクリックします。
伸縮先の要素指定モードとなりますので、マウスにてクリックします。



2 マウスを右クリックし、ポップアップメニューから[OK]をクリックするまで連続して各種の編集処理を行うことができます。

3 形状の指定が確定すると、以下のメッセージが表示されます。



[はい]をクリックすると、データ抽出が行われます。

● 形状編集モード－任意点指定

1 形状指定モードメニューで[任意点指定]をクリックします。

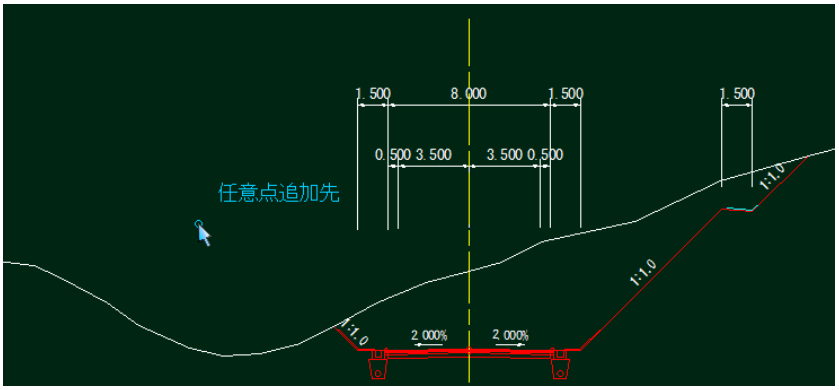
自動、左、右

「自動」、「左」、「右」いずれかのラジオボタンをクリックして選択します。
形状基準点を指定すると、任意点追加先指定モードとなりますので、マウスでクリックして指定します。断面形状の要素をマウスでクリックして指定します。繋がっている要素を自動で追尾して計画形状の対象に設定します。

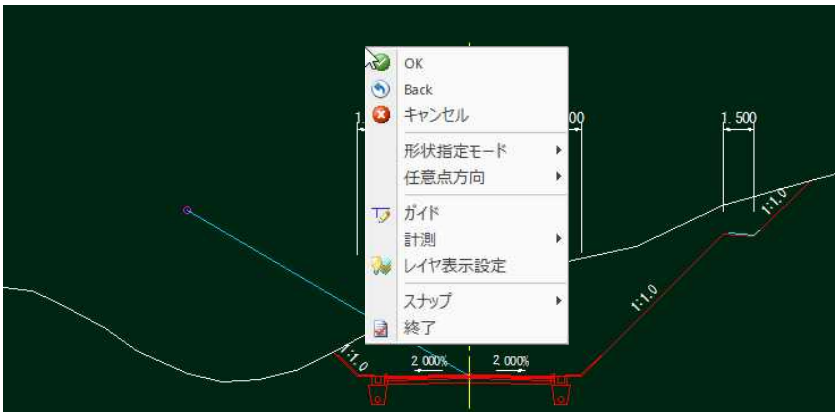
自動：指定した形状基準点から左右どちらかを自動で判定し横断の断面形状を追加します。

左：横断の左側として断面形状を追加します。

右：横断の右側として断面形状を追加します。

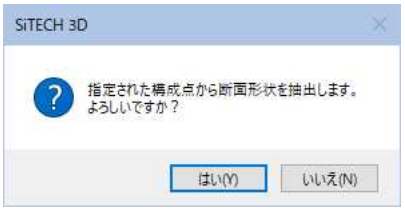


2 マウスを右クリックし、ポップアップメニューから[OK]をクリックするまで連続して断面形状の要素を指定することができます。



ポップアップメニューからは、各種のコマンドの他に、形状指定モードの変更や、任意点方向の選択を行うこともできます。

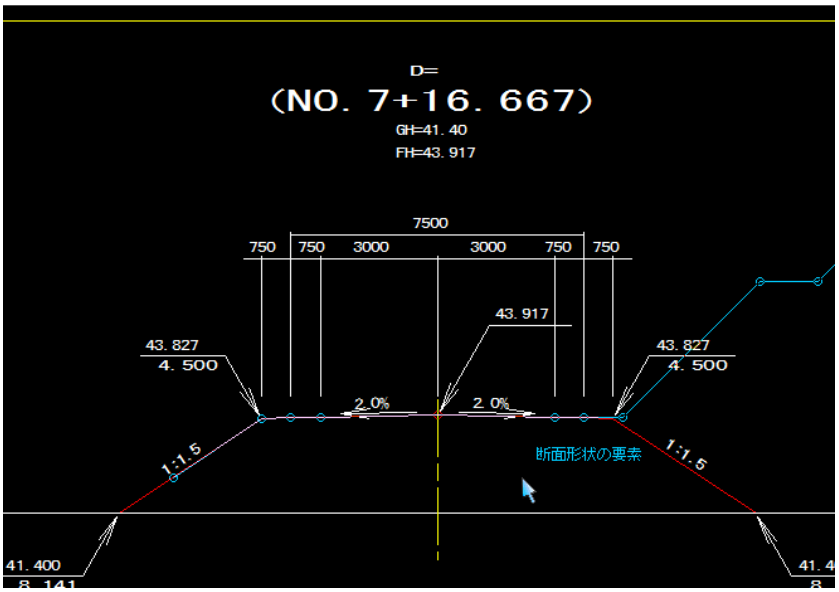
3 形状の指定が確定すると、以下のメッセージが表示されます。



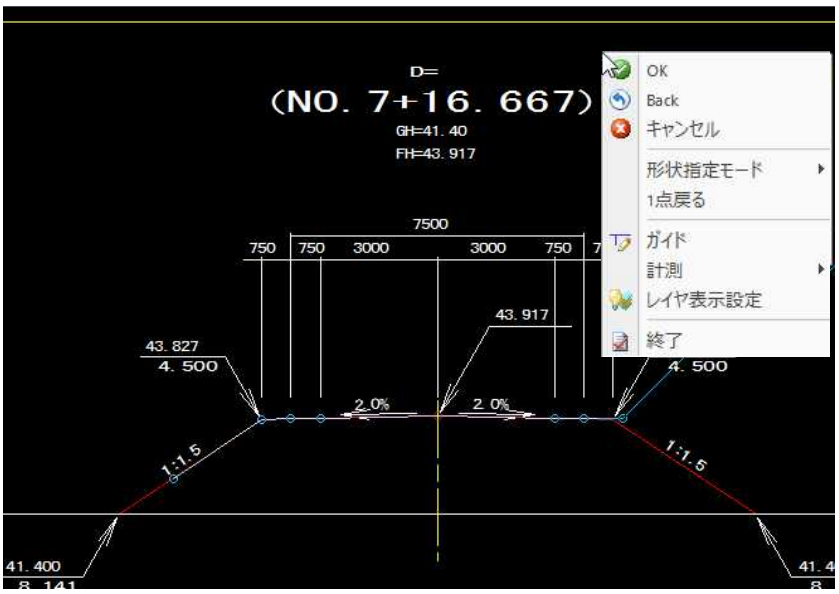
[はい]をクリックすると、データ抽出が行われます。

● 形状編集モード－要素追尾

1 形状指定モードメニューで[要素追尾]をクリックします。断面形状の要素をマウスでクリックして指定します。繋がっている要素を自動で追尾して計画形状の対象に設定します。

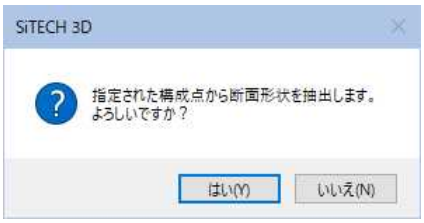


2 マウスを右クリックし、ポップアップメニューから[OK]をクリックするまで連続して断面形状の要素を指定することができます。
ポップアップメニュー内の「1 点戻る」をクリックすると自動認識された構成点中で 1 点前に戻ります。



ポップアップメニューからは、各種のコマンドの他に、形状指定モードの変更を行うこともできます。

3 要素の指定が確定すると、以下のメッセージが表示されます。



[はい]をクリックすると、要素追尾モードでデータ抽出が行われます。

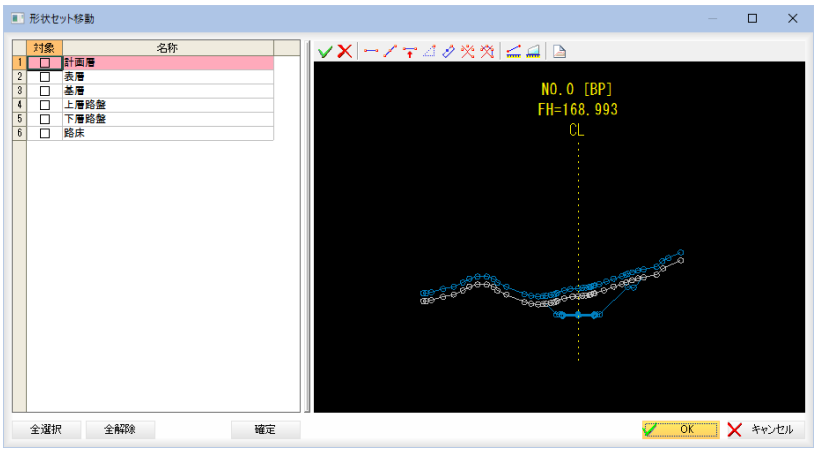
横断－[コマンド]－[形状編集]－[形状セット移動]

形状セットを一括移動する

計画形状の形状セットを一括移動します。
横断メニューで[コマンド]－[形状編集]－[形状セット移動]をクリックして処理を行います。

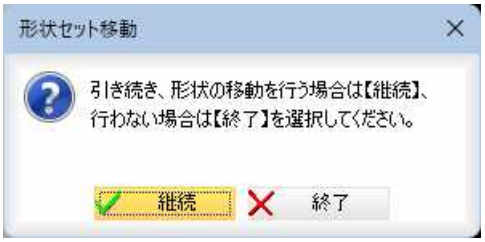
● 形状編集：形状セット移動

1 横断メニューで[コマンド]－[形状編集]をクリックし、[形状セット移動]をクリックします。「形状セット移動」ダイアログボックスが表示されます。



形状セットの選択
「対象」のチェックマークをオンにして移動する形状セットを選択します。
[全選択]／[全解除]
表示中の項目すべてのチェックマークをオン、またはオフにします。

プレビュー画面
プレビュー画面では各種のコマンドをツールバーまたはマウス右クリックによるポップアップメニューから実行することができます。
①移動させたい形状セットを選択します。（右クリック OK で確定）
※ダイアログ左の一覧にチェックをいれることで選択することもできます。
②移動の基準点を指定します。
③オフセット位置を指定します。
④コマンドを継続するかの確認メッセージが表示されます。



継続　　：引き続き、形状セットの移動処理を行います。
終了　　：処理を確定して終了します。

2 「形状セット移動」ダイアログボックスで[OK]をクリックすると、処理を終了してシステム画面に戻ります。

横断－[コマンド]－[形状編集]－[離れ・比高一括設定]

離れ・比高を指定した測点に一括設定する

指定した測点に離れ・比高を一括複写します。
横断メニューで[コマンド]－[形状編集]－[離れ・比高一括設定]をクリックして処理を行います。

● 形状編集：離れ・比高一括設定

1 横断メニューで[コマンド]－[形状編集]－[離れ・比高一括設定]をクリックします。「離れ・比高一括設定」ダイアログボックスが表示されます。

離れ・比高の設定
「離れ(CL±)」、「比高(FH±)」入力欄にそれぞれ数値を入力します。
以下のボタンをクリックすると参照図面から離れと比高を取得できます。

離れを取得します。

離れと比高を取得します。

比高を取得します。

設定方法
設定方法を「離れ(CL±)」・比高(FH±)を設定する」、「離れ(CL±)」・比高(FH±)を現在の設定値に加算する」のいずれかのラジオボタンをクリックして選択します。

測点の離れ・比高一覧
測点の離れ・比高一覧が表示され、右側にプレビュー画面が表示されます。
[設定]欄のチェックマークがオンの測点が離れ・比高一括設定の対象になります。

[全選択]／[全解除]
一覧表示内のすべてのチェックマークをオン、またはオフにします。

設定対象の計画層
[設定対象の計画層]をクリックすると、「設定対象の計画層」ダイアログボックスが表示されます。

チェックマークがオンの計画層が処理の対象になります。

[全選択]／[全解除]

一覧表示内のすべてのチェックマークをオン、またはオフにします。

「設定対象の計画層」ダイアログボックスで[OK]をクリックすると「離れ・比高一括設定」ダイアログボックスに戻ります。

2 プレビュー画面の各種操作

「離れ・比高一括設定」ダイアログボックス右側のプレビュー画面では以下の各種操作を行います。

コマンド確定／コマンド中止

コマンド確定

コマンド中止

計測

のいずれかをクリックして各種の計測処理を行います。

共通操作

数値のコピー

各種の数値表示欄の横の をクリックすると、クリップボードに各数値がコピーされます。

単位

いずれかのラジオボタンをクリックして単位を選択します。

クリア／終了

[クリア]をクリックすると、数値をクリアします。

[終了 クリックすると、「離れ・比高一括設定」ダイアログボックスに戻ります。

計測：２点間

プレビュー画面内で、１点目、２点目をマウスにてクリックすると「計測：２点間距離」ダイアログボックス内に距離が表示されます。

計測：面積

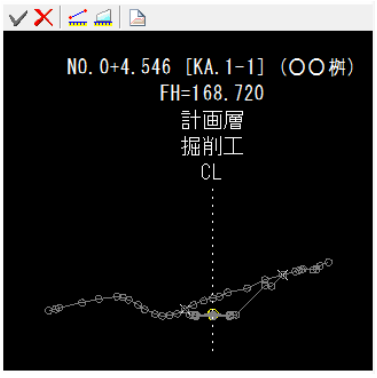
プレビュー画面内で、始点、通過点、端点をマウスにてクリックすると「計測：面積」ダイアログボックス内に面積が表示されます。

ベース図連動のオン・オフ

オンの場合、横断測点切替時に、横断測点に関連付けられているベース図を表示します。初期値はオンです。

▼ベース図オン

▼ベース図オフ



ポップアップメニュー

プレビューウィンドウ内で右ボタンをクリックし表示されるポップアップメニューより各種の処理を行います。

スナップメニュー

マウスクリックにて指定を行うモード時には、ポップアップメニューよりスナップ処理を実行することができます。

3 「離れ・比高一括設定」ダイアログボックスで[OK]をクリックすると、離れ・比高一括設定処理を実行し、システム画面に戻ります。

横断－[コマンド]－[形状複写]

計画形状(現況形状)を複写する

計画形状（現況形状）の形状を各種の方法で複写します。
横断メニューで［コマンド］－［形状複写］をクリックし、いずれかのコマンドをクリックして処理を行います。

・データウィンドウ内で［計画断面］タブをクリックした場合には計画形状が、［現況断面］タブをクリックした場合には現況形状が複写されます。

形状複写：他測点から複写
指定した測点の計画形状（現況形状）を複写します。

形状複写：前測点から全複写
ひとつ前の測点の計画形状（現況形状）を複写します。

形状複写：指定測点から断面補間
指定した測点から断面補間します。

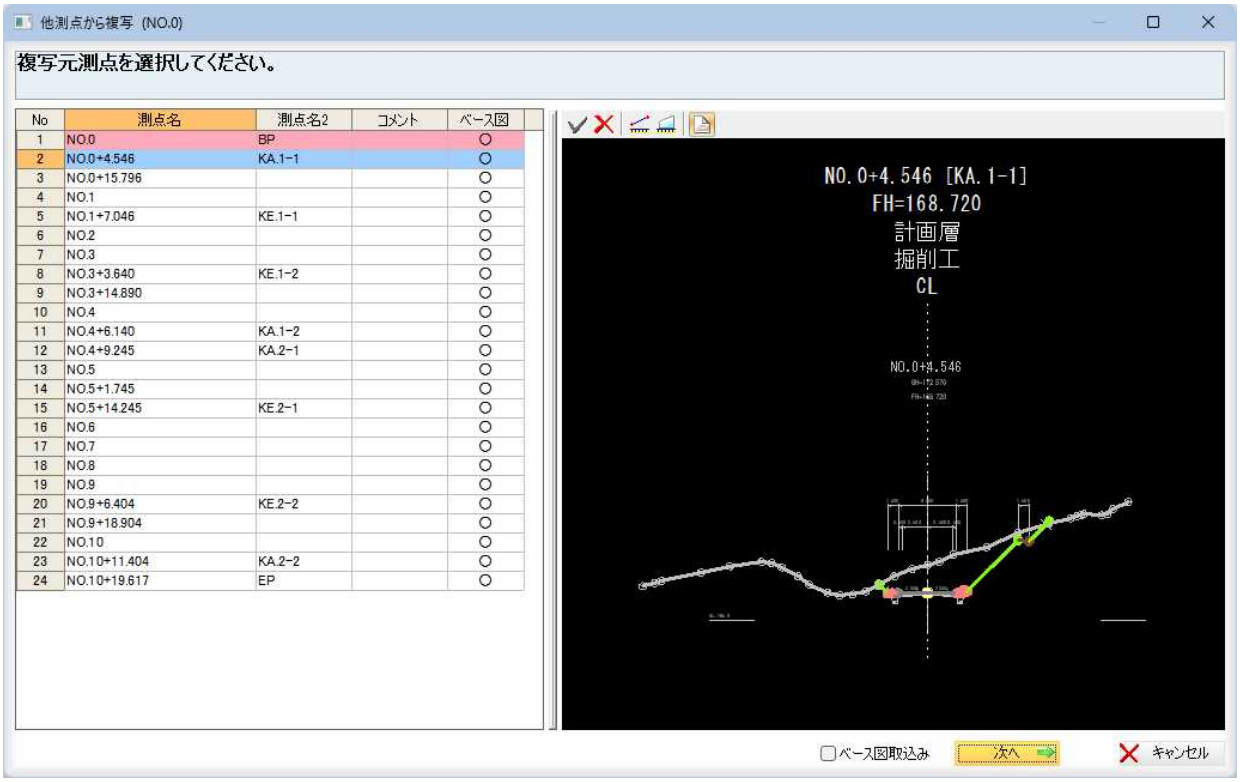
形状複写：左→右
左断面の計画形状（現況形状）を右断面に複写します。

形状複写：右→左
右断面の計画形状（現況形状）を左断面に複写します。

形状複写：一括複写
カレントの構築形状を指定した測点に一括複写します。

● 形状複写：他測点から複写

1 横断メニューで[コマンド]－[形状複写]をクリックし、[他測点から複写]をクリックします。「他測点から複写」ダイアログボックスが表示されます。



・「縦断の計算結果（勾配/拡幅）を連動する計画層の選択」の画面にて「舗装属性が設定されていない計画層を「対象」に選択している場合」に確認メッセージが表示されます。

複写元測点一覧
複写元測点一覧内には、測点の一覧が表示されます。ベース図が存在する場合には「○」表示します。右側のプレビュー画面に形状が表示されます。

プレビュー画面
プレビュー上に表示されている層をクリックまたは範囲選択することにより一覧の「対象」チェックボックスを ON にすることが可能です。また、CTRL キーを押しながら層を選択することで「対象」のチェック状態を反転します。
プレビュー画面では、確定（OK）、中止（キャンセル）、計測：２点間距離、計測：面積、ベース図表示のオン・オフ、の各機能を実行することができます。

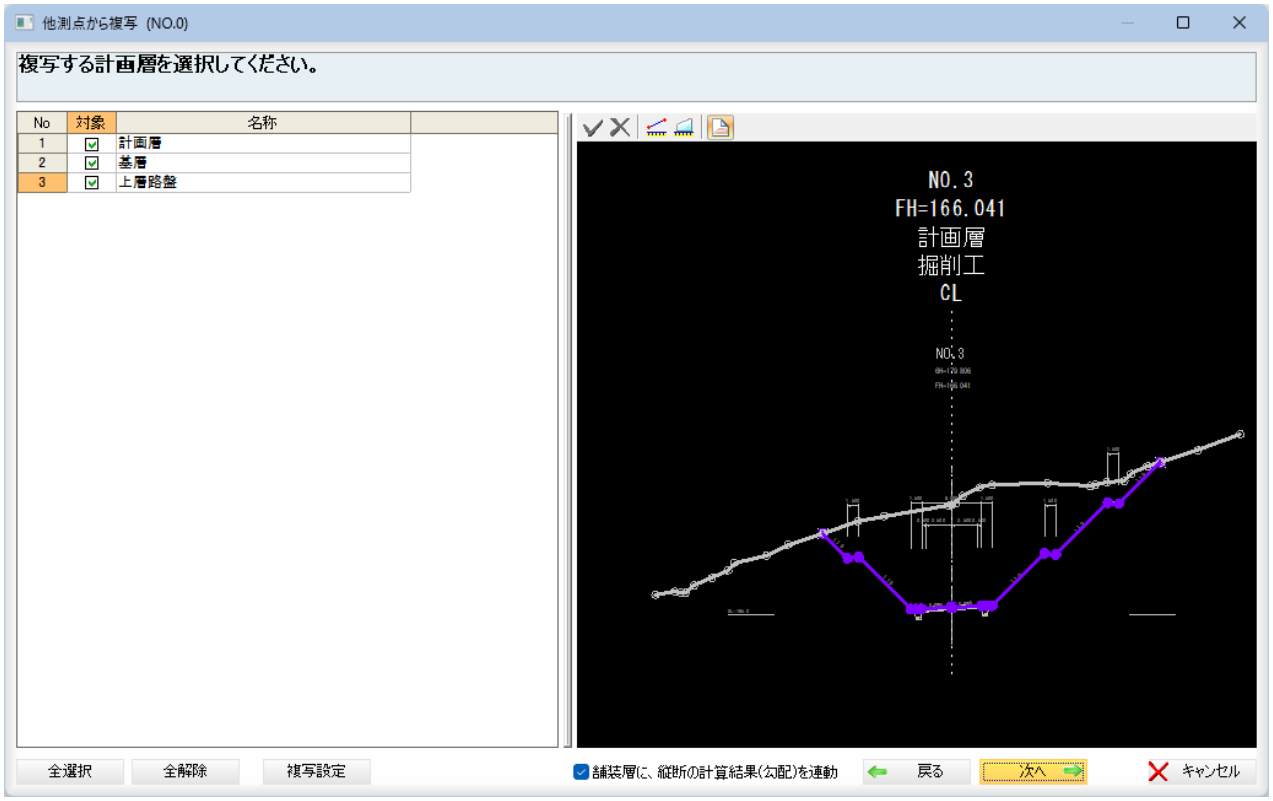
各機能の操作は横断プレビュー画面と同様です。⇒参照ページへ

ベース図取込み
「ベース図取込み」チェックマークをオンにすると、複写元測点のベース図を取り込むことができます。初期値はオフです。

2 **複写元の測点選択**
複写元測点一覧から測点を選択し、次へ をクリックします。

3 複写する計画層の選択

「他測点から複写」ダイアログボックスが複写する計画層を選択する複写するモードになりますので、計画層を「対象」チェックマークをオンにして選択します。



・現況形状の複写時には「縦断の計算結果（勾配/拡幅）を連動する計画層の選択」は表示されません。

[全選択]／[全解除]

表示中の項目すべてのチェックマークをオン、またはオフにします。

複写設定

[複写設定]をクリックすると、「複写設定」ダイアログボックスが表示されます。

構成点の複写対象

[両方]ボタンをクリックすると、左側、右側両方の断面を複写します。
[左側]ボタンをクリックすると、左側の断面を複写します。
[右側]ボタンをクリックすると、右側の断面を複写します。

離れ・比高

[複写する]をクリックすると、離れ・比高も複写します。
[複写しない]をクリックすると、離れ・比高は複写しません。

「複写設定」ダイアログボックスで[OK]クリックすると、「他測点から複写」ダイアログボックスに戻ります。

舗装層に、縦断の計算結果(勾配)を連動

「舗装層に、縦断の計算結果(勾配)を連動」チェックマークをクリックすると、路線ごとに設定を保持し、TSX ファイルにも保存します。初期値はオンです。

「他測点から複写」ダイアログボックスで 次へ をクリックします。

4 縦断の計算結果（勾配/拡幅）を連動する計画層の選択

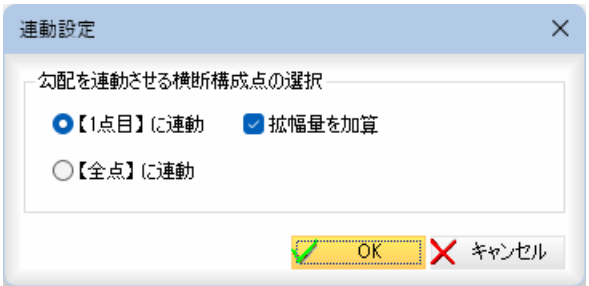
計算結果と連動する計画層を「対象」チェックマークをオンにして選択します。
なお、操作３で「舗装層に、縦断の計算結果(勾配)を連動」チェックマークをオンにしてある場合は、舗装層を選択するモードになりますので、いずれかの計画層を選択します。

[全選択]／[全解除]

表示中の項目すべてのチェックマークをオン、またはオフにします。

連動設定

[連動設定]をクリックすると「連動設定」ダイアログボックスが表示されます。



勾配を連動させる横断構成点の選択

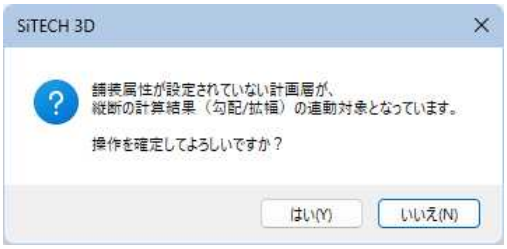
「【１点目】に連動」、「【全点】に連動」いずれかのラジオボタンをクリックして選択します。

「【１点目】に連動」を選択した場合は、「拡幅量を加算」チェックマークのオン・オフができます。初期状態はオンで、１点目に連動させた場合、拡幅量も加算します。

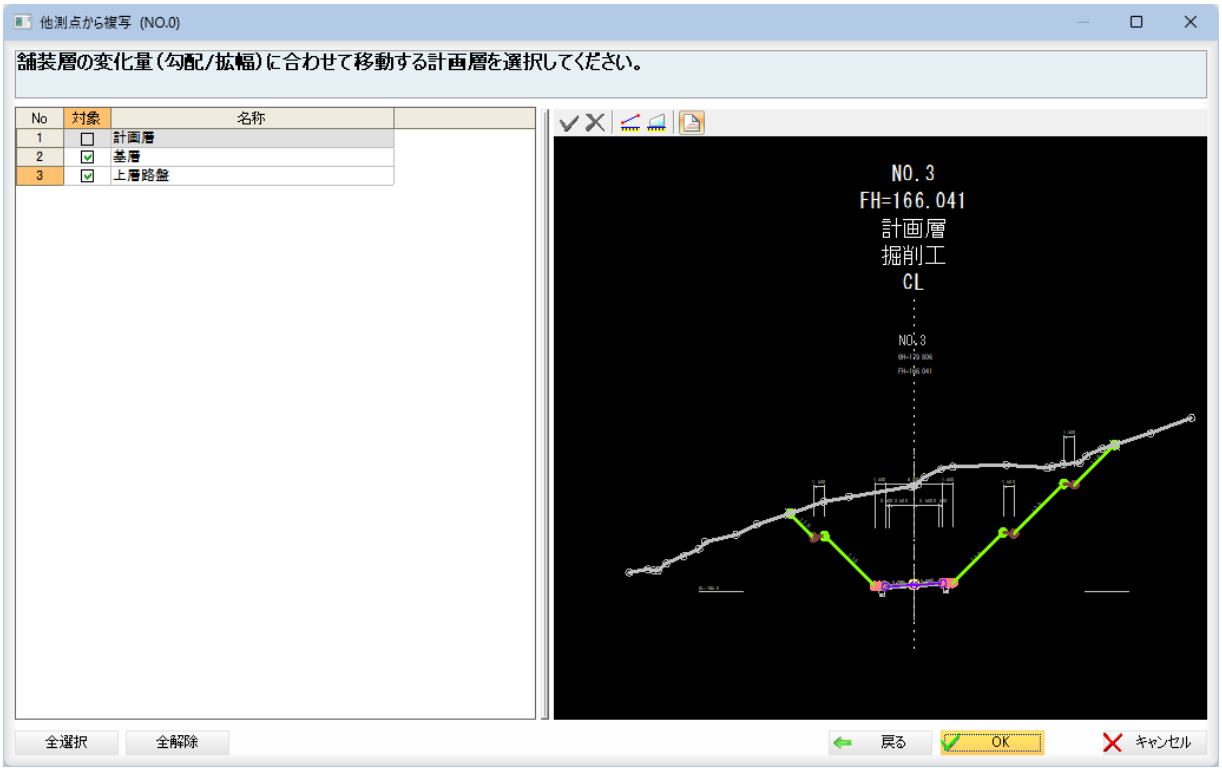
「連動設定」ダイアログボックスで[OK]をクリックすると、「他点から複写」ダイアログボックスに戻ります。

5 「他点から複写」ダイアログボックスで[OK]をクリックすると、指定した測点の計画形状(現況形状)を複写します。

なお、舗装属性が設定されていない計画層が縦断の計算結果(勾配／拡幅)の連動対象となっている場合は、以下のメッセージが表示されます。



[はい]をクリックすると、舗装層の変化量(勾配／拡幅)に合わせて移動する計画層の選択モードになりますので、いずれかを選択します。

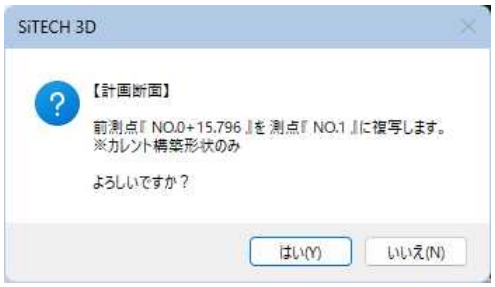


[OK]をクリックすると、指定した測点の計画形状(現況形状)を複写します。

● 形状複写：前測点から全複写

・本コマンドは、先頭断面では操作できません。２番目以降の断面で実行してください。

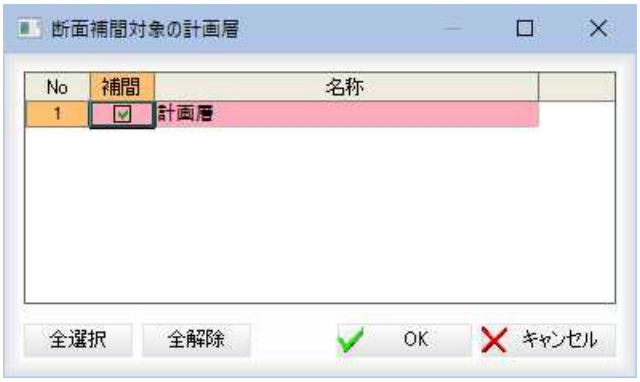
1 横断メニューで[コマンド]－[形状複写]をクリックし、[前測点から全複写]をクリックします。以下のメッセージが表示されます。



2 [はい]をクリックすると、ひとつ前の測点の計画形状（現況形状）をすべて複写します。

● 形状複写：指定測点から断面補間

1 横断メニューで[コマンド]－[形状複写]をクリックし、[指定測点から断面補間]をクリックします。「断面補間対象の計画層」ダイアログボックスが表示されます。



「補間」チェックマークをクリックして、補間対象を選択します。
以降の操作は、[横断情報]－[断面変化点を作成する]で[指定測点から断面補間]を選択した場合と同様です。⇒参照ページへ

2 「指定測点から断面補間」ダイアログボックスで[OK]をクリックすると、指定した構築形状で断面を補間します。

● 形状複写：左→右

1 横断メニューで[コマンド]－[形状複写]をクリックし、[左→右]をクリックします。以下のメッセージが表示されます。

2 [はい]をクリックすると、左断面の計画形状（現況形状）を右断面に複写します。

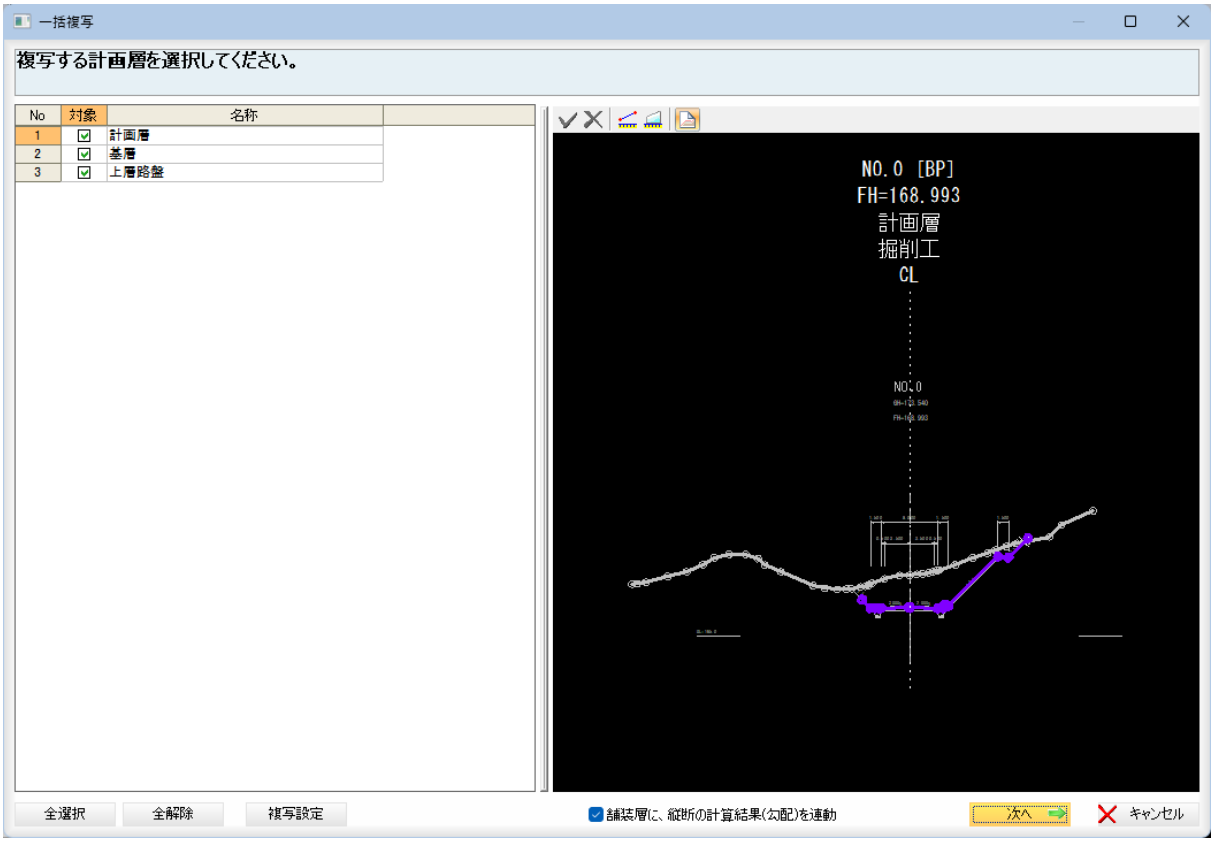
● 形状複写：右→左

1 横断メニューで[コマンド]－[形状複写]をクリックし、[右→左]をクリックします。以下のメッセージが表示されます。

2 [はい]をクリックすると、右断面の計画形状（現況形状）を左断面に複写します。

● 形状複写：一括複写

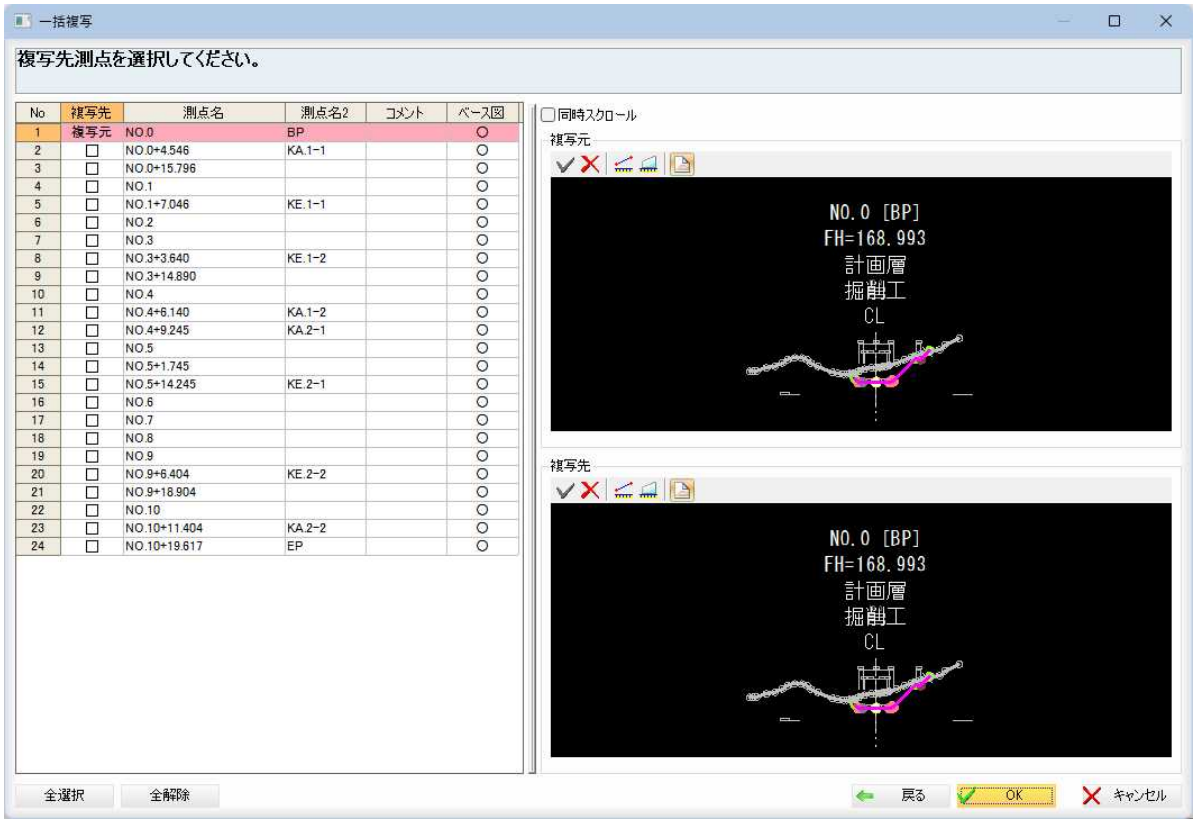
1 横断メニューで[コマンド]－[形状複写]をクリックし、[一括複写]をクリックします。「一括複写」ダイアログボックスが表示されます。
複写する計画層を選択します。



2 計画層を選択し、次へ をクリックすると、計算結果と連動する計画層を選択するモードになりますので、「対象」チェックマークをオンにして選択します。
なお、操作１で「舗装層に、縦断の計算結果(勾配)を連動」チェックマークをオンにしてある場合は、舗装層を選択するモードになりますので、いずれかの計画層を選択します。

操作１および２の「一括複写」ダイアログボックスの各種の操作は「他測点から複写」ダイアログボックスと同様です。⇒参照ページへ

3 計画層を選択し、次へ をクリックすると、「一括複写」ダイアログボックスの複写先測点指定モードになります。



測点一覧

測点の一覧が表示されます。ベース図が存在する場合には「○」表示します。右側のプレビュー画面に形状が表示されます。

「複写先」チェックマークをオンにした測点に複写元の形状が複写されます。

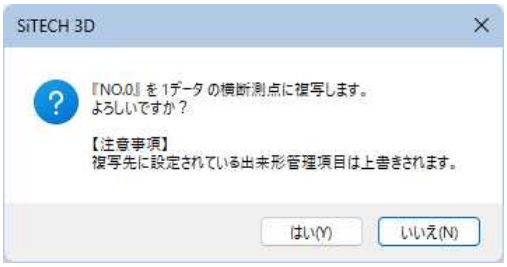
同時スクロール

「同時スクロール」チェックマークをオンにすると、複写元と複写先のプレビュー画面が同時にスクロールします。

[全選択]／[全解除]

複写先の項目すべてのチェックマークをオン、またはオフにします。

4 「一括複写」ダイアログボックスで[OK]をクリックすると、確認のメッセージが表示されます。



[はい]をクリックすると、指定した測点に一括複写します。

横断 －[コマンド]－[折れ点前後断面作成]

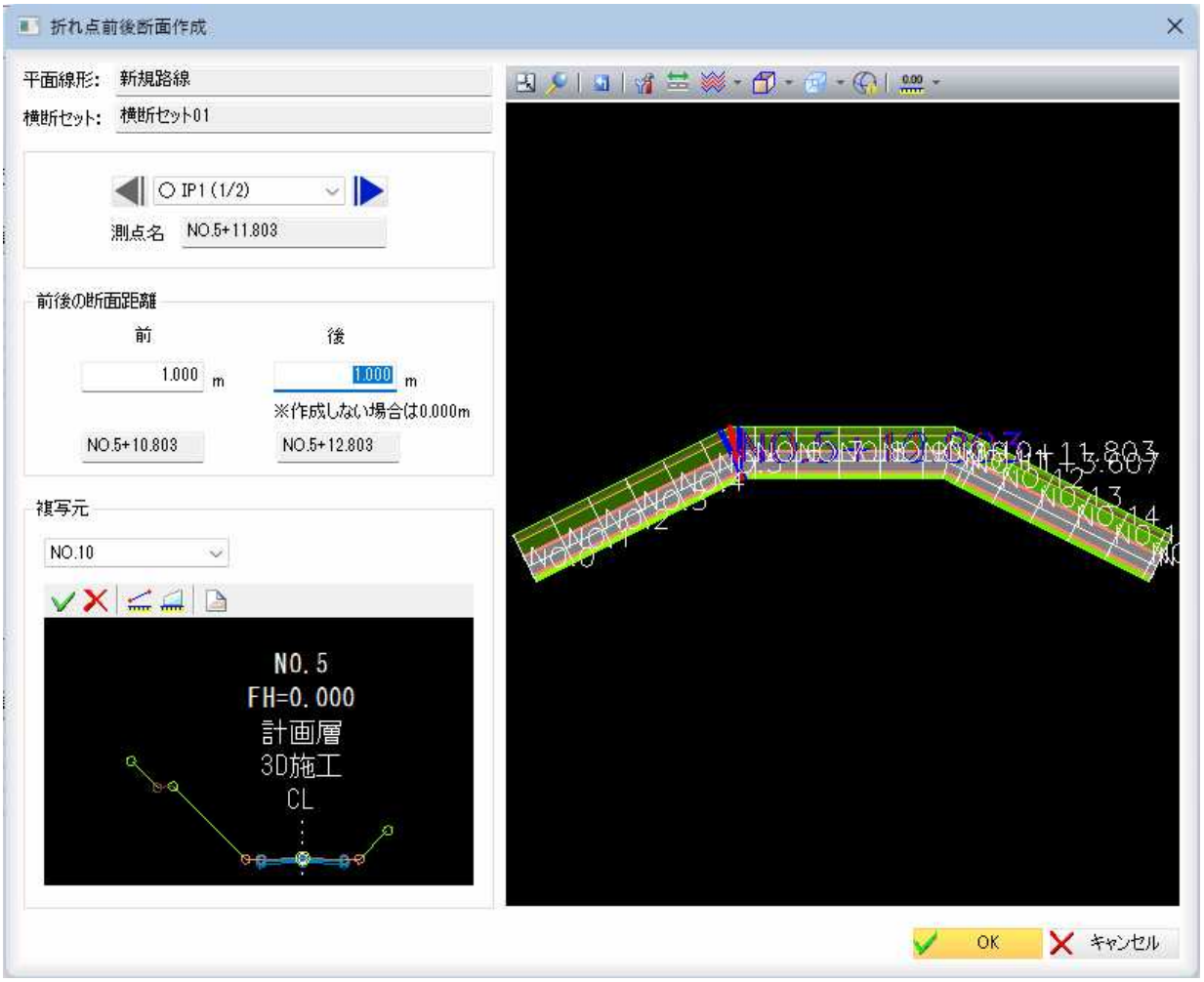
折れ点の前後に断面を作成する

折れ点の前後に断面を作成します。
横断メニューで[コマンド]－[折れ点前後断面作成]をクリックし、いずれかのコマンドをクリックして処理を行います。

折れ点前後断面作成
折れ点の前後に断面を作成します。
折れ点前後断面作成チェック
折れ点の前後に作成した断面をチェックします。

● 折れ点前後断面作成

1 横断メニューで[コマンド]－[形状複写]をクリックし、[折れ点前後断面作成]をクリックします。「折れ点前後断面作成」ダイアログボックスが表示されます。
カレントの平面線形、横断セットの情報が表示されます。



折れ点の表示切替、前後の断面切替え

折れ点の表示切替

◀、▶をクリックして折れ点の表示切替を行います。プレビュー内の表示も切り替わります。

前後の断面距離

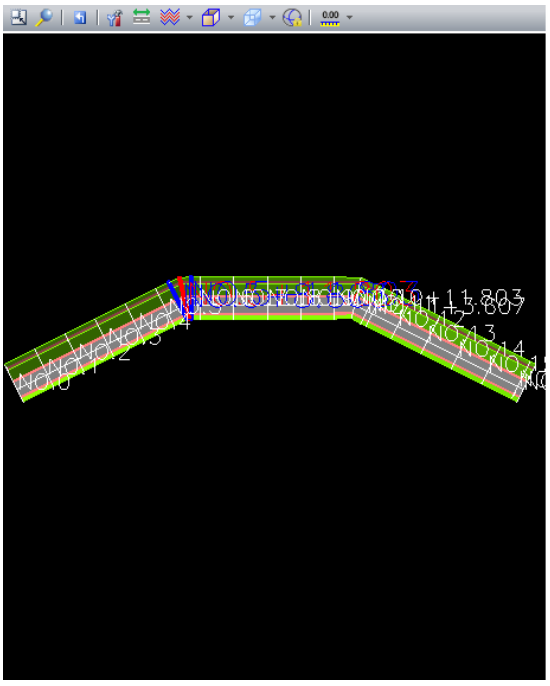
折れ点前後の断面距離を入力します。

複写元の選択

「複写元」ドロップダウンリストより複写元を選択します。
横断プレビューの表示も切り替わります。

３Dビュー

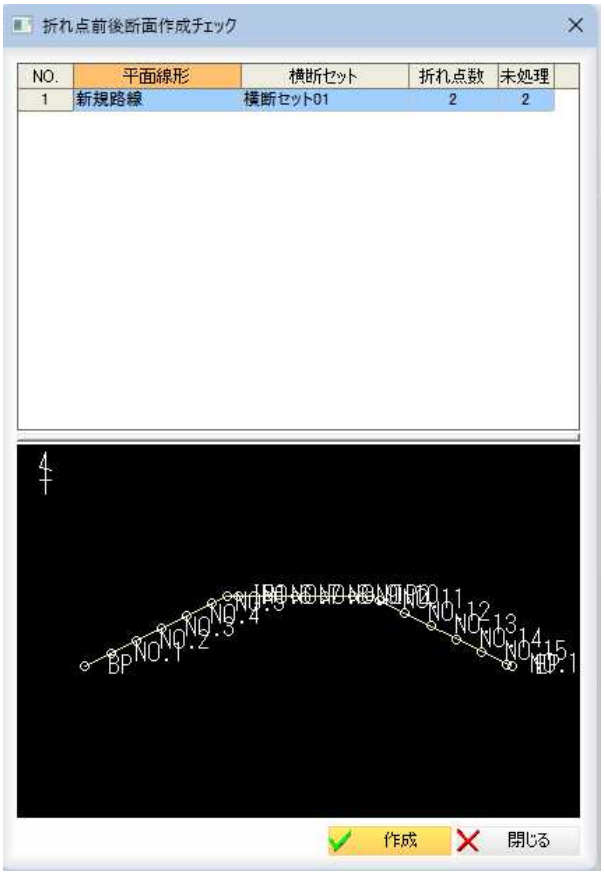
操作方法はプレビュー画面の３Ｄビューと同様です。**⇒参照ページへ**



2 「折れ点前後断面作成」ダイアログボックスで[OK]をクリックすると、折れ点の前後に断面が作成されます。

● 折れ点前後断面作成チェック

1 横断メニューで[コマンド]ー[形状複写]をクリックし、[折れ点前後断面作成チェック]をクリックします。「折れ点前後断面作成チェック」ダイアログボックスが表示されます。



現在の折れ点数などが一覧で表示されます。

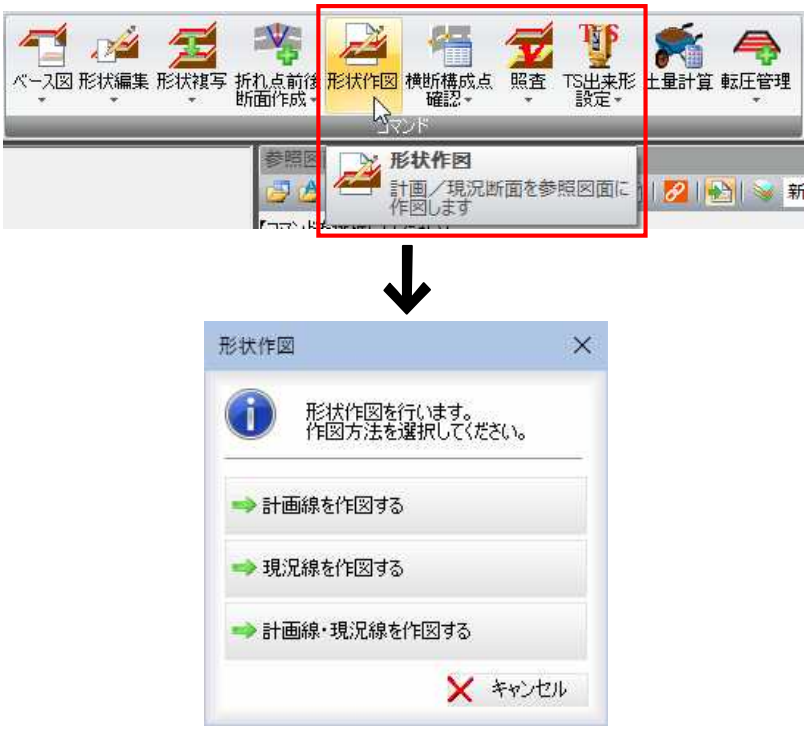
[作成]をクリックすると、「折れ点前後断面作成」ダイアログボックスが表示されますので、各種の作成処理を行います。

2 「折れ点前後断面作成チェック」ダイアログボックスで[閉じる]をクリックすると、「折れ点前後断面作成チェック」ダイアログボックスの表示を終了します。

横断 －[コマンド]－[形状作図]

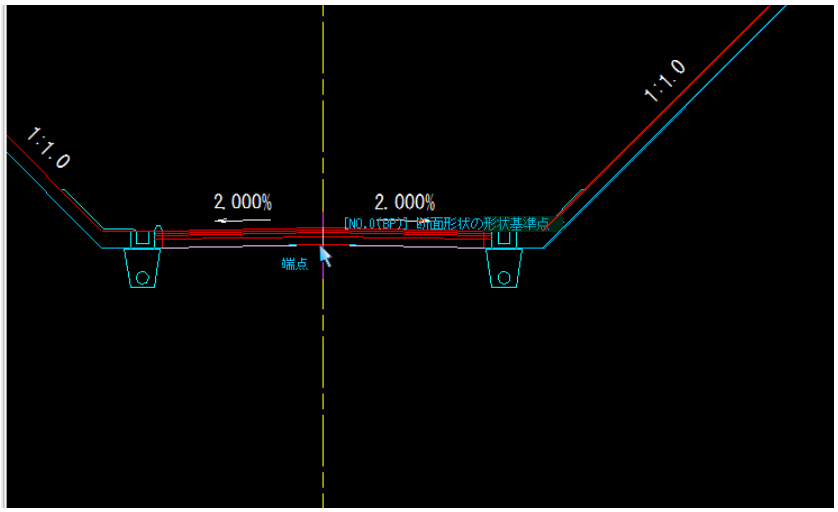
プレビューの計画線／現況線を参照図面に作図する

プレビューに表示されている計画線、現況線または両方を参照図面の対象横断図に作図します。さらにベース図を登録しておけば、その情報から参照図面上の横断測点の位置が取得できます。
横断メニューで[形状作図]をクリックすると、形状作図メニューが表示されますので、いずれかをクリックして処理を行います。



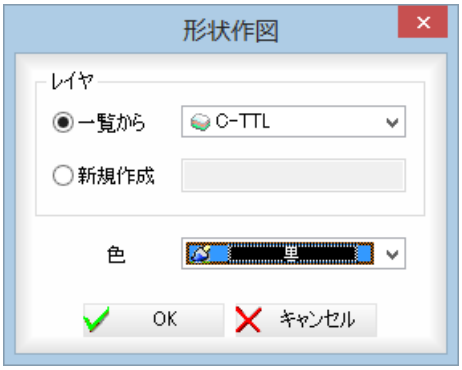
● 形状作図：計画線を作図する

1 横断メニューで[コマンド]－[形状作図]をクリックし、形状作図メニューから[計画線を作図する]をクリックすると、計画線の形状基準点指定のモードになりますので、マウスにて指示します。



また、ベース図が登録してある場合は以下の確認メッセージが表示されます。

2 形状基準点でマウスクリックまたは、ベース図情報からの自動配置確認メッセージで[はい]をクリックすると、「形状作図」ダイアログボックスが表示されます。



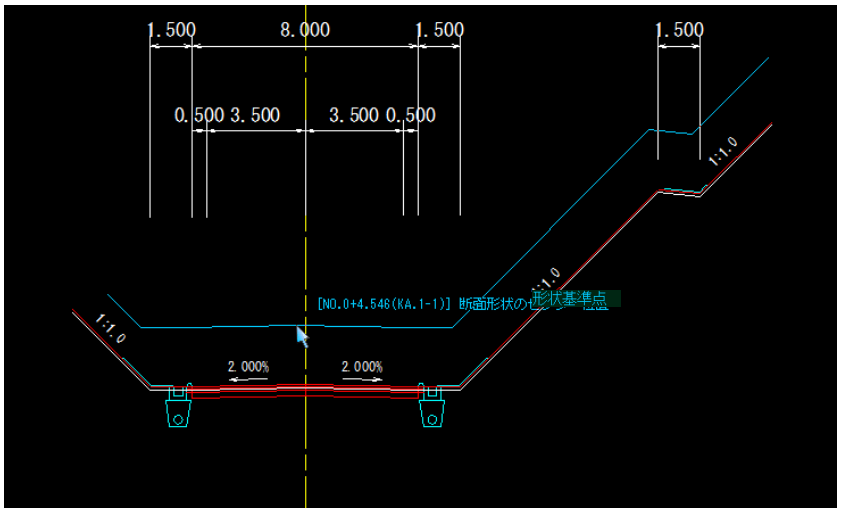
レイヤ

「一覧から」、「新規作成」いずれかのラジオボタンをクリックして選択します。
「一覧から」を選択した場合は、ドロップダウンリストより選択します。
「新規作成」を選択した場合は、入力欄内にレイヤ名を入力します。

色

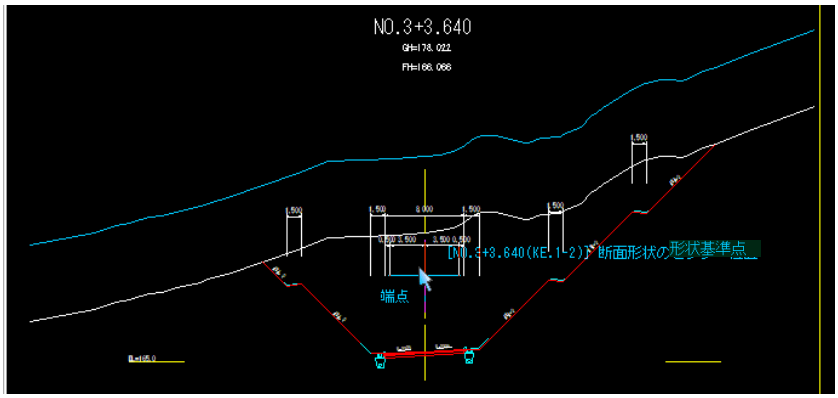
「色」ドロップダウンリストよりいずれかの色を選択します。

3 [OK]をクリックすると、続けて次の測点の自動配置の確認メッセージが表示されます。
ポップアップメニューから[終了]をクリックするまで、連続して処理を実行することができます。

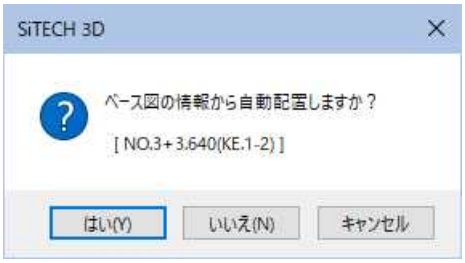


● 形状作図：現況線を作図する

1 横断メニューで[コマンド]－[形状作図]をクリックし、形状作図メニューから[現況線を作図する]をクリックすると、現況線の形状基準点指定のモードになりますので、マウスにて指示します。



また、ベース図が登録してある場合は以下の確認メッセージが表示されます。

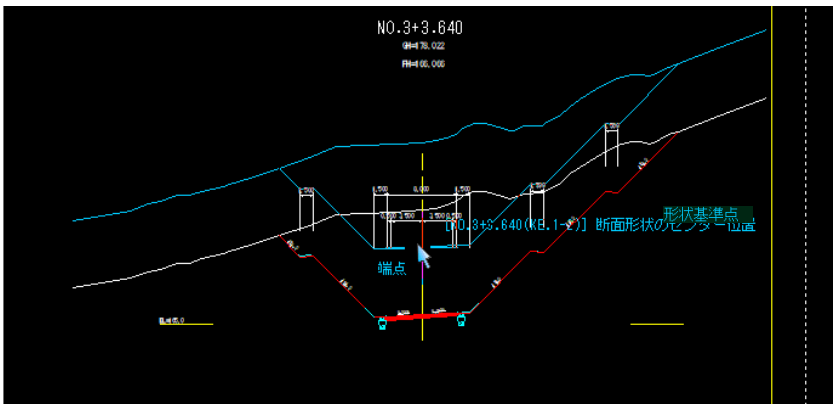


2 形状基準点でマウスクリックまたは、ベース図情報からの自動配置確認メッセージで[はい]をクリックすると、「形状作図」ダイアログボックスが表示されます。

以降の操作は、「形状作図：計画線を作図する」と同様です。**⇒参照ページへ**

● 形状作図：計画線・現況線を作図する

1 横断メニューで[コマンド]－[形状作図]をクリックし、形状作図メニューから[計画線・現況線を作図する]をクリックすると、計画線・現況線の形状基準点指定のモードになりますので、マウスにて指示します。



また、ベース図が登録してある場合は以下の確認メッセージが表示されます。

2 形状基準点でマウスクリックまたは、ベース図情報からの自動配置確認メッセージで[はい]をクリックすると、「形状作図」ダイアログボックスが表示されます。

以降の操作は、「形状作図：計画線を作図する」と同様です。⇒参照ページへ

横断－[コマンド]－[計画形状 確認](または[横断構成点 確認])

計画形状および横断構成点を確認する

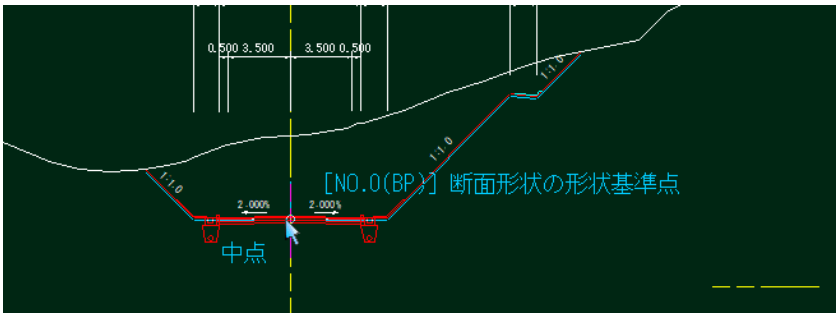
各種の確認処理を行います。
横断メニューで[コマンド]－[計画形状 確認](または[横断構成点 確認])をクリックし、処理を行います。

計画形状 確認
参照図面(横断図)に計画断面の入力データを重ね合わせて表示します。

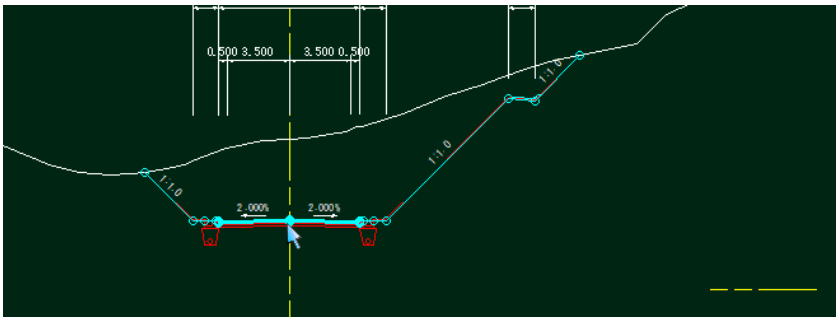
横断構成点 確認
参照図面(平面図)に入力データの平面線形・横断線・横断構成点を重ね合わせて表示します。コマンドを終了しても参照図面データとしてレイヤ上に作図されます。

● 計画形状 確認

1 横断メニューで[コマンド]－[計画形状 確認]をクリックします。
断面形状の形状基準点指示モードとなりますので、マウスにて形状基準点をクリックします。



2 断面形状が重ね合わされ、点滅表示します。



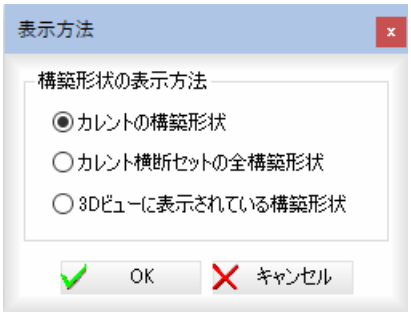
3 参照図面上で右ボタンをクリックし、ポップアップメニューより[終了]をクリックすると、形状確認処理を終了します。

● 横断構成点 確認

1 横断メニューで[コマンド]ー[横断構成点 確認]をクリックします。

表示方法の選択

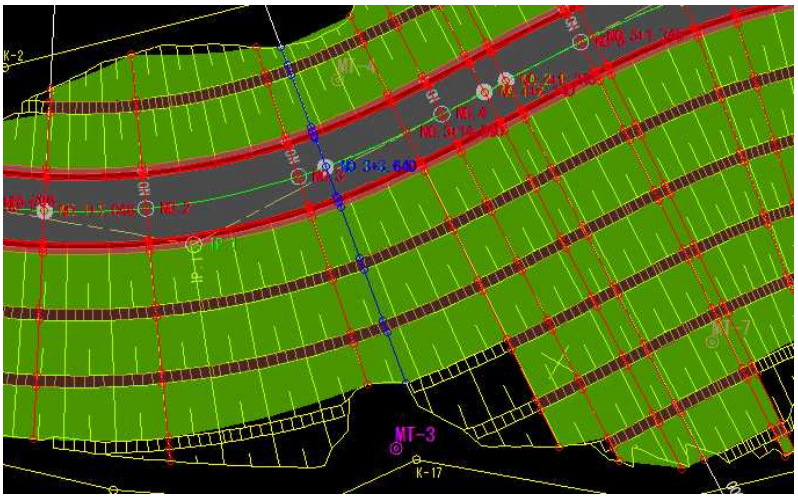
「表示方法」ダイアログボックスが表示されますので、いずれかのラジオボタンをクリックして表示方法を選択します。



2 「表示方法」ダイアログボックスで[OK]をクリックすると、参照図面上で確認表示が行われます。

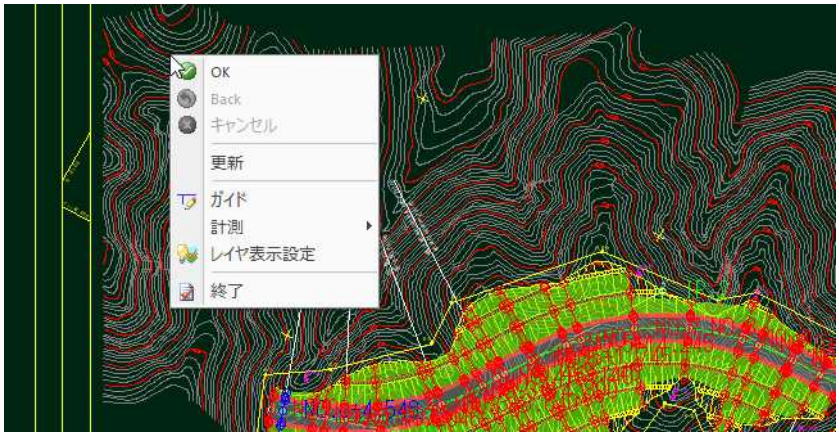
平面に入力データの平面線形、横断線、横断構成点がブリンク表示され、カレント横断測点を示す横断構成点／形状線／測点名は、青色で表示されます。

また、線形を上部から見たデータが透過された状態で表示されます。



3 ポップアップメニュー

参照図面上で右ボタンをクリックし、ポップアップメニューより各種の処理を行います。



更新

ポップアップメニュー内の[更新]をクリックすると、3D ビューの測点名表示を変更した場合に、描画データを更新します。

4 ポップアップメニューより[OK]をクリックすると、横断構成点確認用に表示されているデータを参照図面上に作図します。

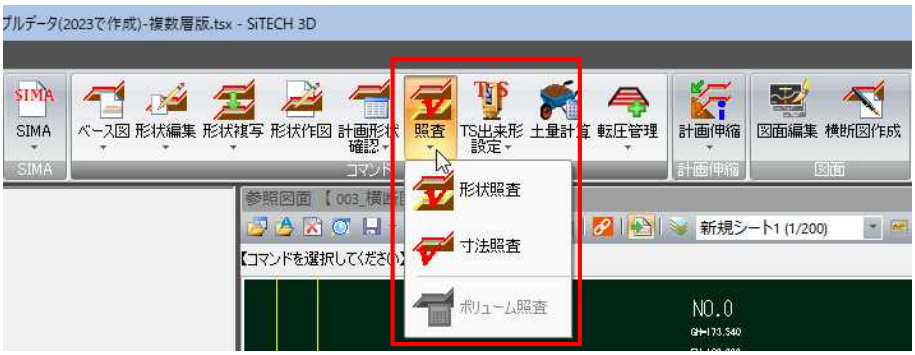
ポップアップメニューより[終了]をクリックすると、横断構成点確認処理を終了します。

横断 ー[コマンド]ー[照査]

形状や寸法およびボリュームを照査する

各種の確認処理を行います。

横断メニューで[コマンド]ー[照査]をクリックし、いずれかのコマンドをクリックして処理を行います。



形状照査

横断図の構成点位置が、計画断面の入力データと合っているかチェックします。

寸法照査

横断図の寸法線、勾配線の数値が正しいかチェックします。

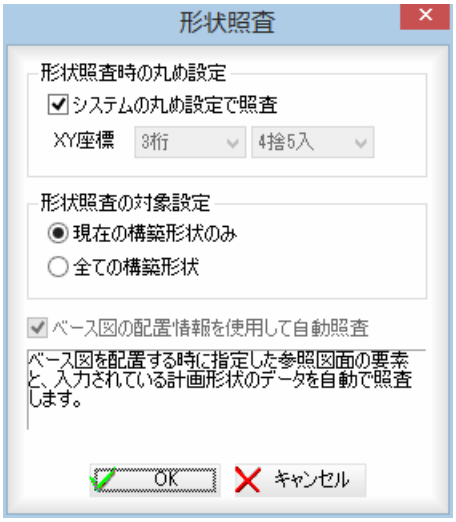
ボリューム照査

横断図のボリュームが正しいかチェックします。

※断面積情報を持った LandXML データを読み込むことで、断面積の照査が行えます。

● 照査：形状照査

1 横断メニューで[コマンド]－[照査]をクリックし、[形状照査]をクリック「形状照査」ダイアログボックスが表示されます。



形状照査時の丸め設定

「システムの丸め設定で照査」チェックマークをオンにすると、[ツール]－[丸め設定]で設定された丸め設定で照査が行われます。
オフの場合は、XY 座標の桁数および丸め設定を、それぞれドロップダウンリストより選択することができます。

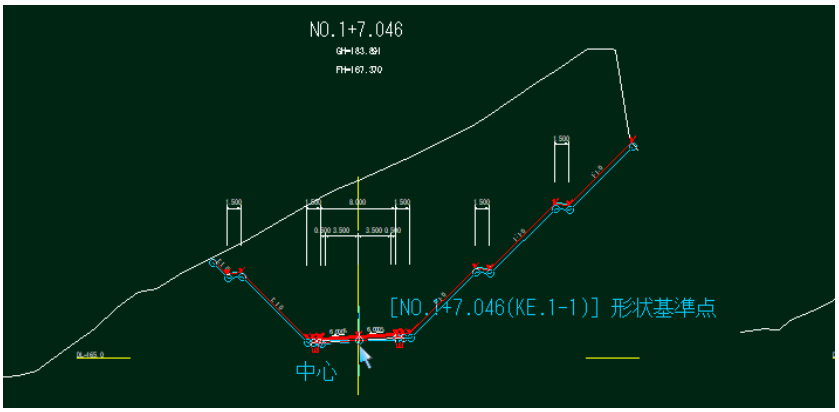
形状照査の対象項目の選択

「現在の構築形状のみ」、「全ての構築形状」いずれかのラジオボタンをクリックして選択します。

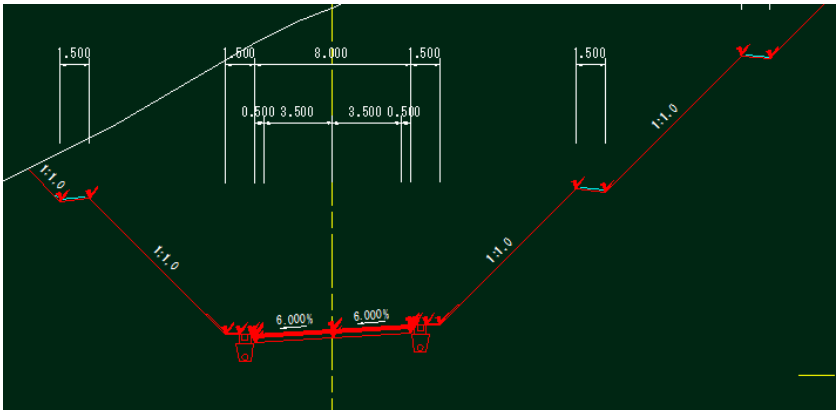
ベース図の配置情報を使用して自動照査

ベース図を配置する時に指定した参照図面の要素と、入力されている計画形状のデータを自動で照査します。

2 [OK]をクリックすると、断面形状の形状基準点指定モードとなりますので、形状基準点をマウスでクリックします。



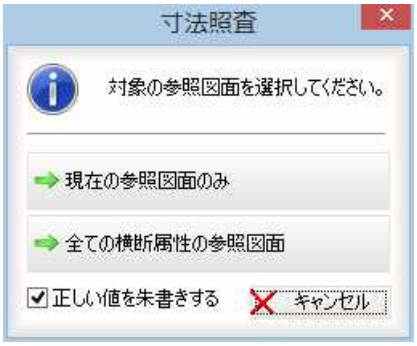
3 横断図と入力データの計画形状を比較し、一致する構成点にチェックマーク(レ点)を作図します。



4 参照図面上で右ボタンをクリックし、ポップアップメニューより[終了]をクリックすると、形状照査処理を終了します。

● 照査：寸法照査

1 横断メニューで[コマンド]ー[照査]をクリックし、[寸法照査]をクリックすると、「寸法照査」ダイアログボックスが表示されます。



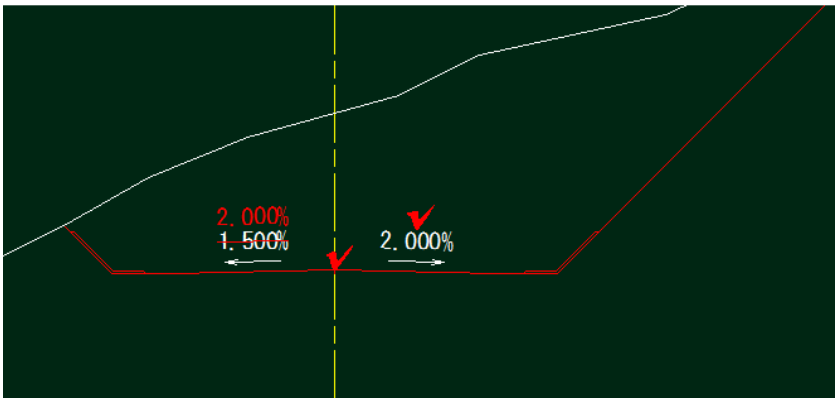
2 **対象図面の選択**

「現在の参照図面のみ」、「全ての横断属性の参照図面」をクリックすると、いずれかの方法で寸法照査処理を行います。

正しい値を朱書きする

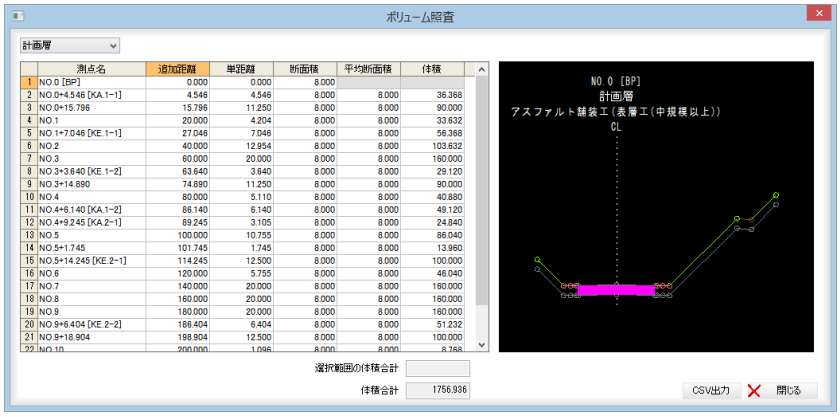
「正しい値を朱書きする」チェックマークをクリックすると、間違った寸法値や勾配数値がある場合、図面上に正しい数値が朱書きされます。

3 参照図面の寸法をチェックし、正しい寸法値や勾配数値にチェックマーク（✔点）を配置し、間違った寸法値や勾配数値上に正しい数値を追加します。



● 照査：ボリューム照査

1 横断メニューで[コマンド]－[照査]をクリックし、[ボリューム照査]をクリックすると、「ボリューム照査」ダイアログボックスが表示されますので、各種の処理を行います。右側のプレビュー画面には一覧内の選択中の測点のプレビューが表示されます。



2 **計画層の選択**

左上のドロップダウンリストより計画層を選択することができます。

各測点の断面積から体積を計算する

測点一覧内を Shift キーや Ctrl キーを押しながらクリックして範囲を選択すると、「選択範囲の体積合計」欄内に合計体積が表示されます。

3 **リストの内容を CSV 出力する**

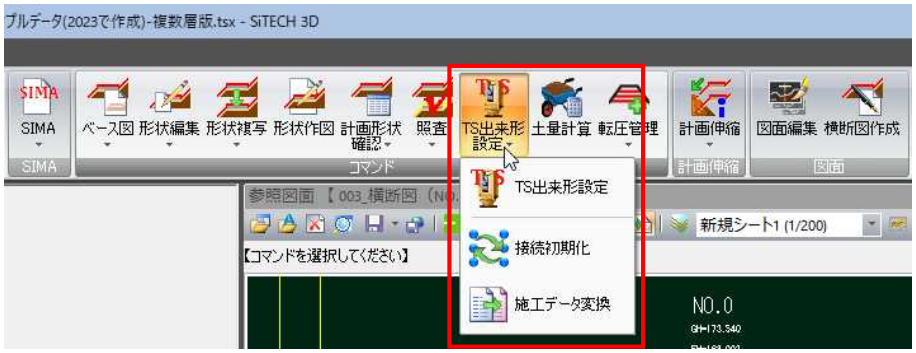
[CSV 出力]をクリックすると、「名前を付けて保存」ダイアログボックスが表示されますので、ファイル名を入力し、[保存]をクリックすると、リストの内容が CSV ファイルに出力されます。

4 「ボリューム照査」ダイアログボックスで[閉じる]をクリックすると、処理を終了します。

横断－[コマンド]－[TS 出来形設定]

TS 出来形に関する各種設定を行う

TS 出来形に関する設定を行います。
横断メニューで[コマンド]－[TS 出来形設定]をクリックし、いずれかのコマンドをクリックして処理を行います。



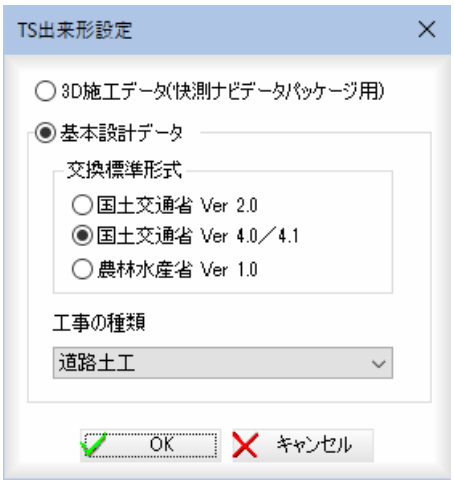
TS 出来形設定
基本設計データのバージョンを選択後、「TS 出来形設定」ウィンドウにて各種の処理を行います。

接続初期化
構成点の接続を初期化します。

施工データ変換
施工データの設定を変換します。

● TS 出来形設定：対象データを選択する

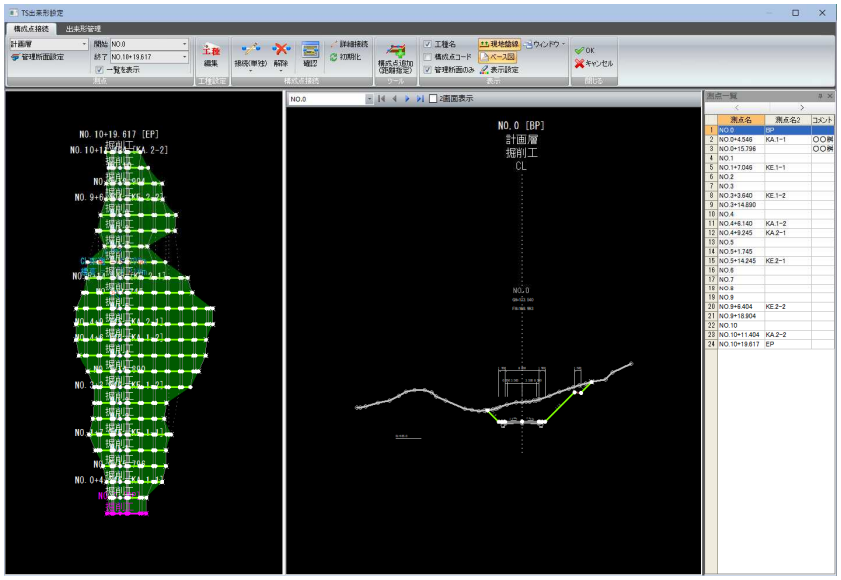
1 横断メニューで[コマンド]－[TS 出来形設定]－[TS 出来形設定]をクリックすると「TS 出来形設定」ダイアログボックスが表示されます。



対象データの選択
「3D 施工データ(快測ナビデータパッケージ用)」、「基本設計データ」いずれかのラジオボタンをクリックして選択します。

基本設計データの選択
「国土交通省 Ver2.0」、「国土交通省 Ver4.0/4.1」、「農林水産省 Ver1.0」いずれかのラジオボタンをクリックして選択します。
「国土交通省 Ver4.0/4.1」を選択した場合は、工事の種類をドロップダウンリストより選択します。

2 「TS 出来形設定」ダイアログボックスで［OK］をクリックすると、「TS 出来形設定」ウィンドウが表示されます。
各種の設定を行います。



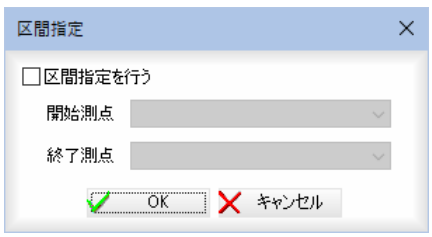
詳しい操作方法については「Part7 TS 出来形設定」で説明しています。⇒参照ページへ

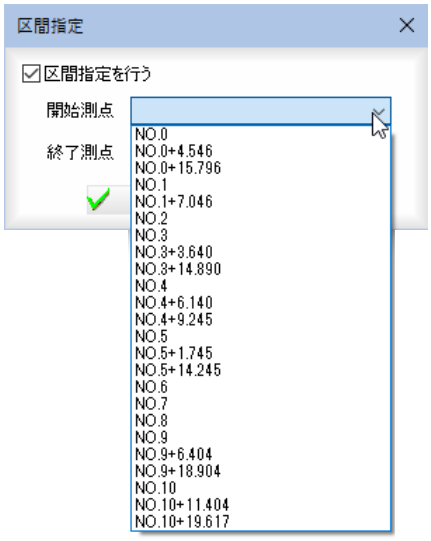
● TS 出来形設定：接続初期化

1 横断メニューで［コマンド］－［TS 出来形設定］－［接続初期化］をクリックすると「接続初期化」ダイアログボックスが表示されます。

接続初期化の対象の選択
「カレント構築形状」、「カレント横断セット」、「路線を選択」いずれかをクリックして選択します。

2 **カレント構築形状**
「カレント構築形状」をクリックすると、「区間指定」ダイアログボックスが表示されます。





「区間指定を行う」チェックマークをオンにして「開始測点」、「終了測点」ドロップダウンリストより開始測点、終了測点を選択します。
「区間指定を行う」チェックマークがオフの場合は、全測点が対象となります。

「区間指定」ダイアログボックスで[OK]をクリックすると、カレント構築形状の初期化が実行されます。

3 カレント横断セット

構築形状の選択

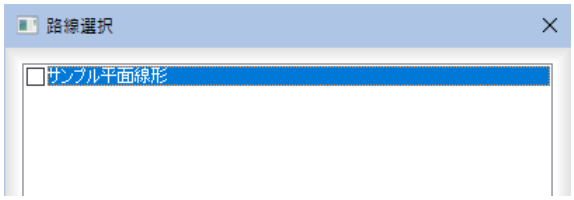
「カレント横断セット」をクリックすると、「構築形状の選択」ダイアログボックスが表示されます。「対象」チェックマークをオンにして、対象を選択します。

区間指定

「構築形状の選択」ダイアログボックスで[OK]をクリックすると、「区間指定」ダイアログボックスが表示されます。操作方法は、「カレント構築形状」と同様です。
「区間指定」ダイアログボックスで[OK]をクリックすると、カレント横断セットの初期化が実行されます。

4 路線を選択

「路線を選択」をクリックすると、「路線選択」ダイアログボックスが表示されます。

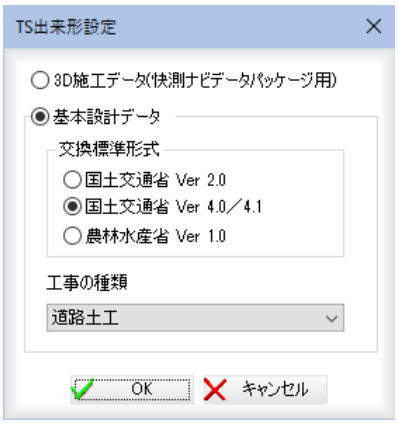


いずれかの路線を選択し、[OK]をクリックすると、選択した路線の初期化が実行されます。

● TS 出来形設定：施工データ変換

1 横断メニューで[コマンド]－[TS 出来形設定]－[施工データ変換]をクリックすると「路線選択」ダイアログボックスが表示されます。

いずれかの路線を選択し、[OK]をクリックすると、「TS 出来形設定」ダイアログボックスが表示されます。



対象データの選択

「3D 施工データ(快測ナビデータパッケージ用)」、「基本設計データ」いずれかのラジオボタンをクリックして選択します。

基本設計データの選択

「国土交通省 Ver2.0」、「国土交通省 Ver4.0/4.1」、「農林水産省 Ver1.0」いずれかのラジオボタンをクリックして選択します。
「国土交通省 Ver4.0/4.1」を選択した場合は、工事の種類をドロップダウンリストより選択します。

2 「TS 出来形設定」ダイアログボックスで[OK]をクリックすると、施工データの設定を変換します。

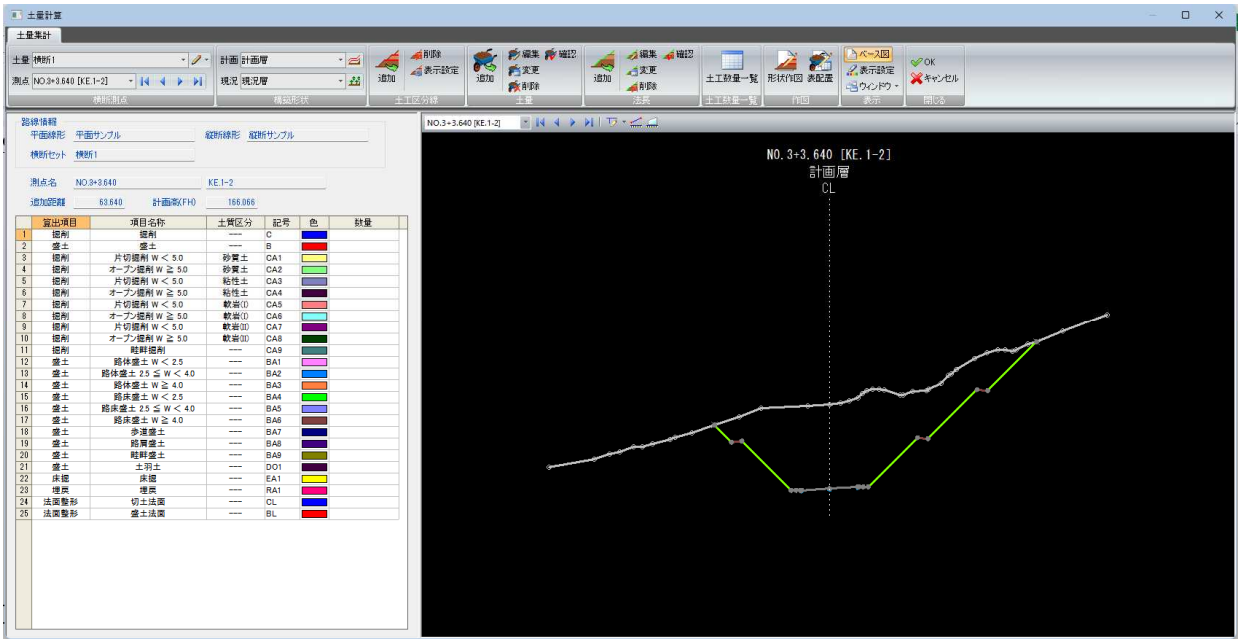
横断 －[コマンド]－[土量計算]

土量計算の各種設定を行う

各種の土量計算処理を行います。

● 土量データを作成する

1 横断メニューで[コマンド]－[土量計算]をクリックすると「土量データを作成」ダイアログボックスが表示されますので、各種の設定を行い[OK]をクリックすると「土量計算」ウィンドウが表示されます。
各種の処理を行います。



詳しい操作方法については「Part8 土量計算」で説明しています。⇒参照ページへ

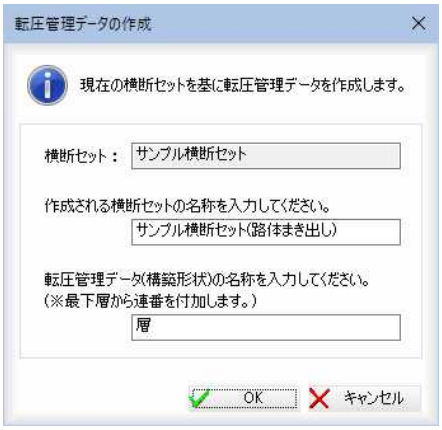
横断 －[コマンド]－[転圧管理]

転圧管理データの作成・編集を行う

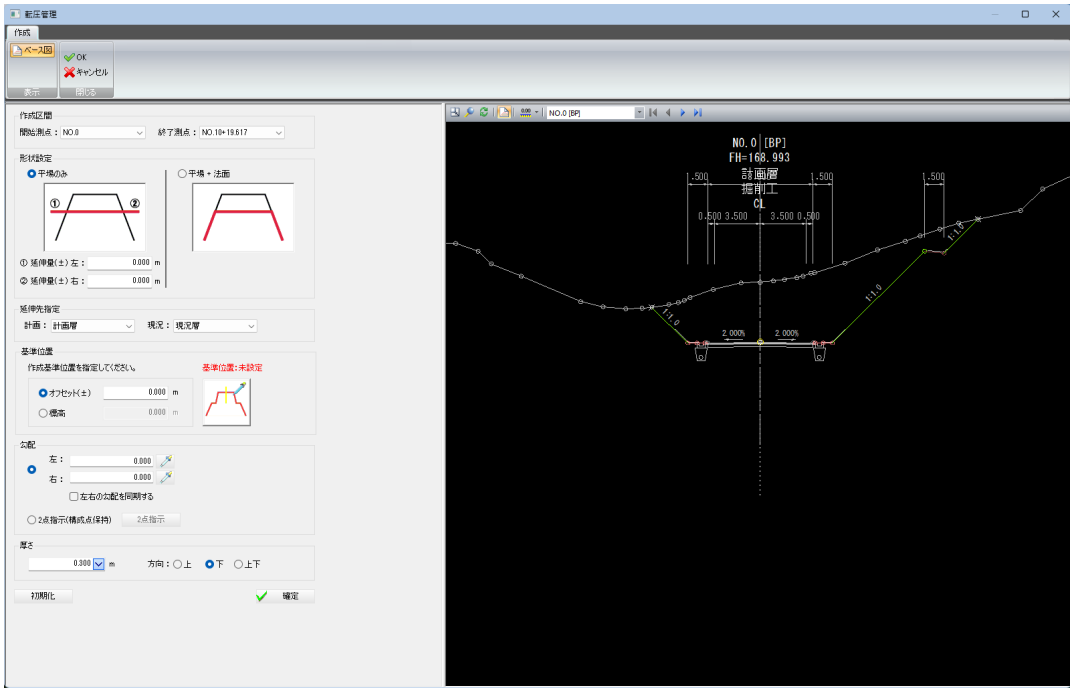
各種の転圧管理データの作成・編集処理を行います。
横断メニューで[コマンド]－[転圧管理]をクリックし、いずれかのコマンドをクリックして処理を行います。

● 転圧管理データを作成する

1 横断メニューで[コマンド]－[転圧管理]－[作成]をクリックすると「転圧管理データの作成」ダイアログボックスが表示されますので、各名称入力欄に入力します。



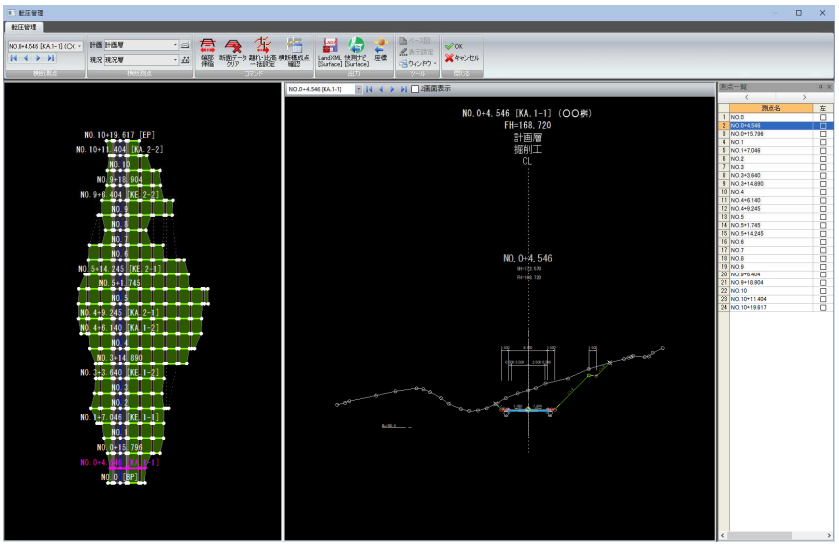
2 「転圧管理データの作成」ダイアログボックスで[OK]をクリックすると、「転圧管理」ウィンドウが表示されます。各種の処理を行います。



[閉じる]メニューの[OK]または[キャンセル]をクリックすると、処理を終了してシステム画面に戻ります。

● 転圧管理データを編集する

1 横断メニューで[コマンド]－[転圧管理]－[編集]をクリックすると「転圧管理」ウィンドウが表示されます。
各種の処理を行います。



[閉じる]メニューの[OK]または[キャンセル]をクリックすると、処理を終了してシステム画面に戻ります。

詳しい操作方法については「Part9 転圧管理」で説明しています。⇒参照ページへ

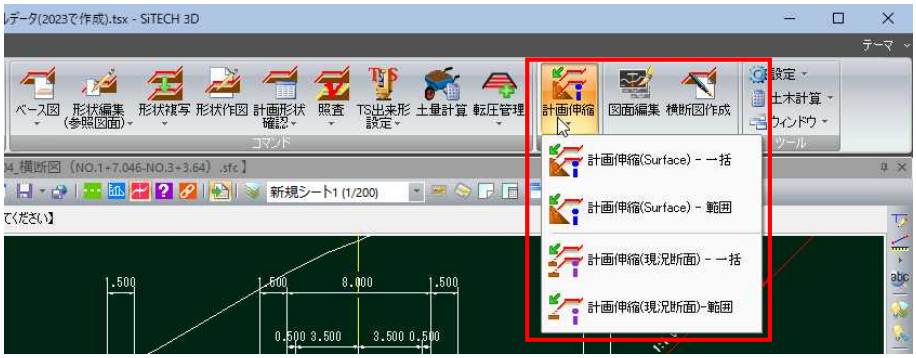
5 計画伸縮

Surface との交点、または現況断面との交点で計画を伸縮します。
それぞれ一括と任意の範囲指定があります。

横断 －[計画伸縮]－[計画伸縮(Surface)]

Surface との交点で計画を伸縮する

Surface との交点で計画を伸縮します。

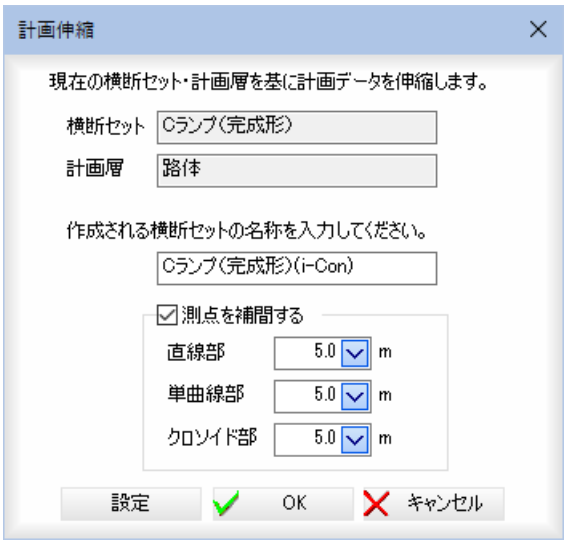


計画伸縮(Surface)　一括
横断セットを複写し、計画伸縮を一括で行います。

計画伸縮(Surface)　範囲
計画伸縮を範囲を指定して実行します。

● 計画伸縮(Surface)一括

1 横断メニューで[計画伸縮]－[計画伸縮]－[計画伸縮(Surface) 一括]をクリックすると、「計画伸縮」ダイアログボックスが表示されます。



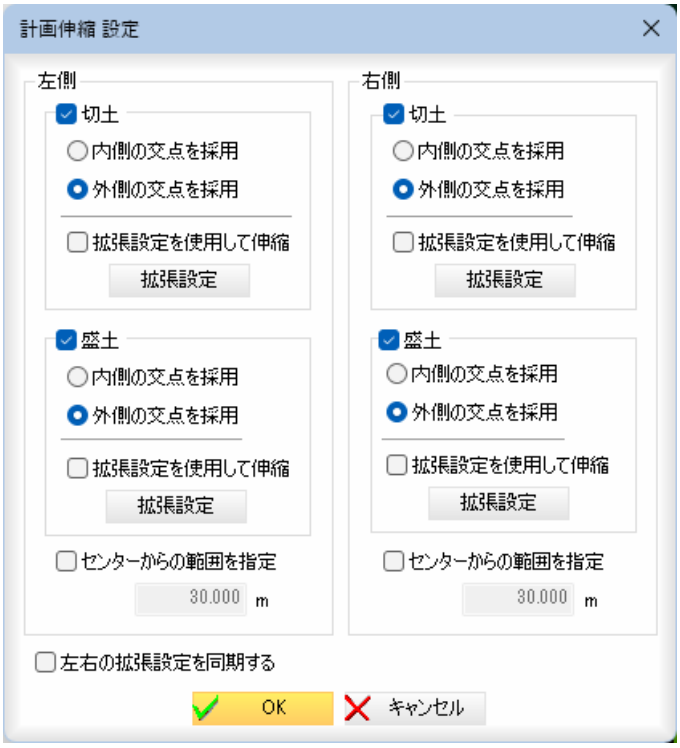
現在の横断セットおよび計画層が表示されます。

名称の入力
入力欄内に、作成される横断セットの名称を入力します。
測点を補間する
「測点を補間する」チェックマークをオンにすると、設定した距離で測点を補間します。

直線部・単曲線部・クロソイド部
ドロップダウンリストから選択するか、直接数値を入力します。

2 設定

[設定]をクリックすると、「計画伸縮 設定」ダイアログボックスが表示されます。

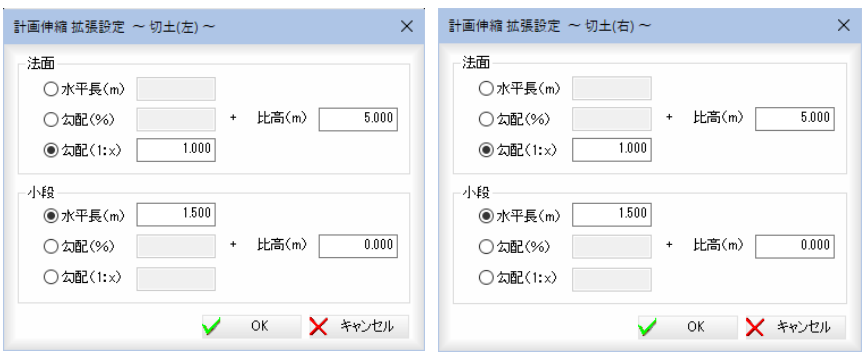


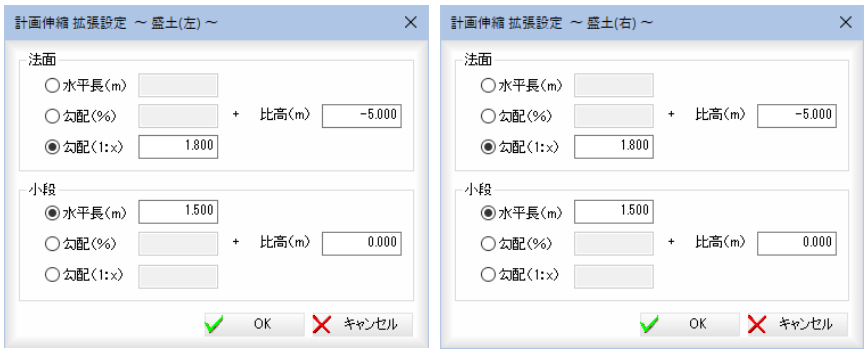
切土(左)・切土(右)・盛土(左)・盛土(右)
それぞれチェックマークをオンにすると設定を有効とします。
以下、各項目について説明します。

交点
「内側の交点を採用」、「外側の交点を採用」いずれかのラジオボタンをクリックして選択します。

拡張設定
「拡張機能を使用して伸縮」チェックマークをオンにすると、「拡張設定」ダイアログボックスで設定した内容で伸縮を行います。初期値はオフです。

計画伸縮拡張設定
[拡張設定]をクリックすると、切土(左)・切土(右)・盛土(左)・盛土(右)ごとの「計画伸縮 拡張設定」ダイアログボックスが表示されます。





各入力欄に数値を入力し、[OK]をクリックすると、「計画伸縮 設定」ダイアログボックスに戻ります。

センターからの範囲を指定

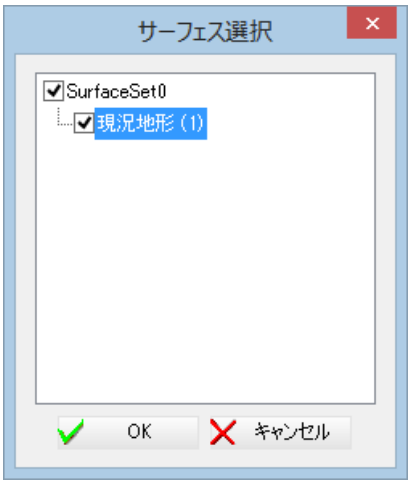
「計画伸縮 設定」ダイアログボックスで、「センターからの範囲を指定」チェックマークをオンにして入力欄に範囲を入力すると、範囲を指定します。

左右の拡張設定を同期する

「計画伸縮 設定」ダイアログボックスで、「左右の拡張設定を同期する」チェックマークをオンにすると、左右の拡張設定を同期します。

「計画伸縮 設定」ダイアログボックスで[OK]をクリックすると、「計画伸縮」ダイアログボックスに戻ります。

3 「計画伸縮」ダイアログボックスで[OK]をクリックすると、「サーフェス選択」ダイアログボックスが表示されます。

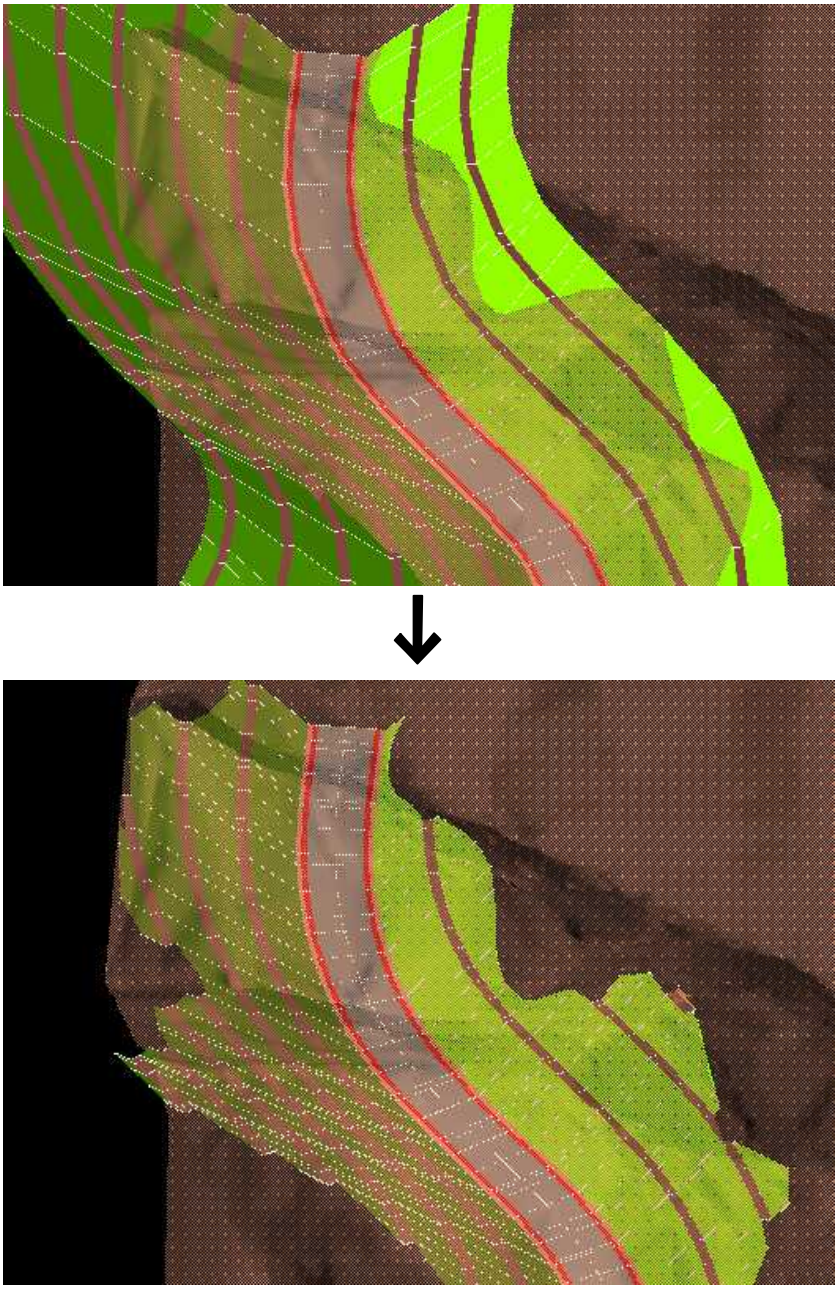


4 「サーフェス選択」ダイアログボックスでいずれかの Surface を選択し、[OK]をクリックすると、プレビューウィンドウに計画伸縮結果が表示され、「計画伸縮 結果表示」ダイアログボックスが表示されます。

保存

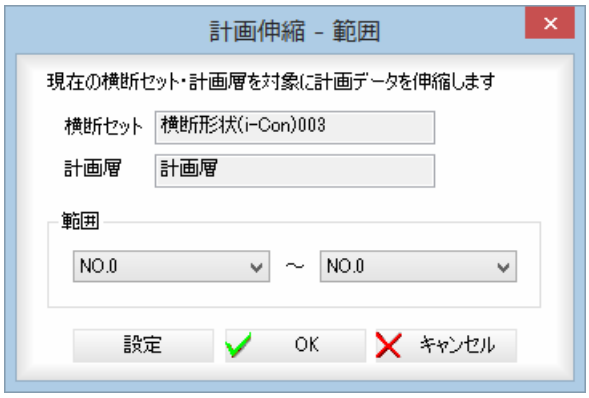
[保存]をクリックすると、「名前を付けて保存」ダイアログボックスが表示されます。ファイル名を入力し、[保存]をクリックすると、「計画伸縮 結果表示」ダイアログボックスに戻ります。

5 「計画伸縮 結果表示」ダイアログボックスで[閉じる]をクリックすると、処理を終了します。



● 計画伸縮(Surface)範囲

1 横断メニューで[計画伸縮]－[計画伸縮]－[計画伸縮(Surface) 範囲]をクリックすると、「計画伸縮－範囲」ダイアログボックスが表示されます。



横断セットと計画層が表示されています。

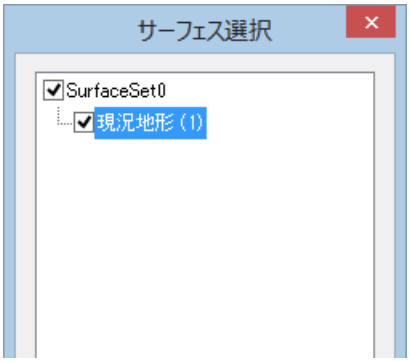
範囲

範囲を開始点、終了点それぞれドロップダウンリストから選択します。

2 **設定**

[設定]をクリックすると、「計画伸縮 設定」ダイアログボックスが表示されます。各種の設定内容は、[計画伸縮]－[計画伸縮(Surface)]－[計画伸縮(Surface) 一括]と同様です。

3 「計画伸縮－範囲」ダイアログボックスで[OK]をクリックすると、「サーフェス選択」ダイアログボックスが表示されます。



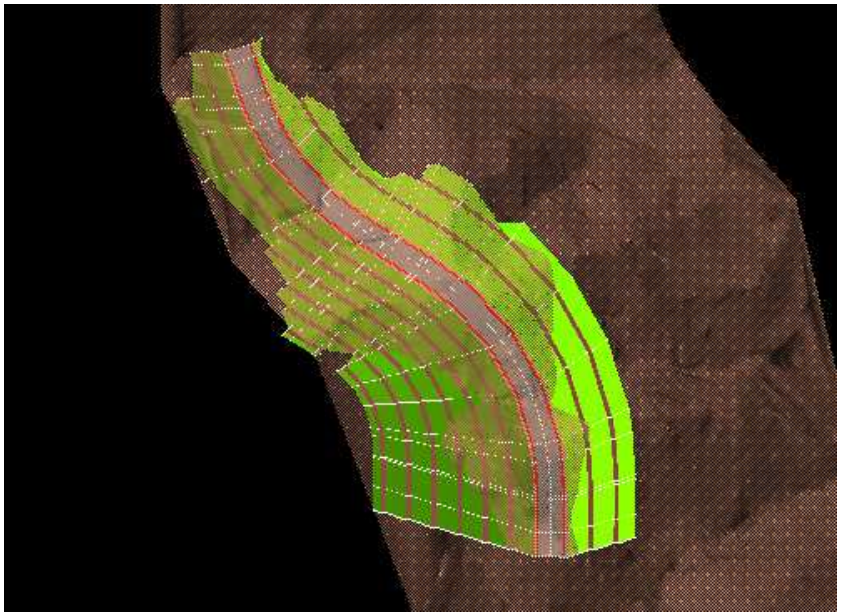
4 「サーフェス選択」ダイアログボックスでいずれかの Surface を選択し、[OK]をクリックすると、プレビューウィンドウに計画伸縮結果が表示され、「計画伸縮 結果表示」ダイアログボックスが表示されます。

	測点	結果(左)	X(左)	Y(左)	Z(左)	結果(右)	X(右)	Y(右)	Z(右)
1	NO.0	短縮	-3205.449	-42418.415	171.649	短縮	-3213.952	-42441.713	178.328
2	NO.0+4.546	短縮	-3210.251	-42418.313	169.825	短縮	-3218.287	-42440.332	178.244
3	NO.0+15.796	短縮	-3219.911	-42412.745	170.956	短縮	-3233.034	-42445.487	186.108
4	NO.1	短縮	-3222.622	-42409.021	173.041	短縮	-3238.536	-42445.745	188.269
5	NO.1+7.046	短縮	-3226.168	-42402.092	175.632	短縮	-3246.701	-42442.025	188.061
6	NO.2	短縮	-3232.904	-42393.168	178.986	短縮	-3263.225	-42435.739	188.869
7	NO.3	短縮	-3246.324	-42384.407	175.997	短縮	-3280.186	-42414.692	185.565
8	NO.3+3.640	短縮	-3248.962	-42382.774	175.083	短縮	-3286.619	-42413.805	188.244
9	NO.3+14.890	短縮	-3254.643	-42374.907	175.670	短縮	-3305.367	-42409.273	199.123
10	NO.4	短縮	-3253.928	-42368.793	179.902	短縮	-3313.041	-42406.979	202.808
11	NO.4+6.140	短縮	-3252.230	-42360.677	184.468	失敗			
12	NO.4+9.245	短縮	-3252.440	-42357.136	186.439	失敗			
13	NO.5	短縮	-3258.512	-42347.483	187.799	短縮	-3331.062	-42395.782	212.000
14	NO.5+1.745	短縮	-3259.840	-42345.999	187.747	短縮	-3331.601	-42394.619	212.000
15	NO.5+14.245	短縮	-3272.156	-42336.602	185.043	短縮	-3327.599	-42382.289	204.390

各結果表示の内容
拡張：交点まで計画を拡張
短縮：交点で計画を短縮
一致：交点と一致しており変更なし
失敗：交点がないなどで変更なし

保存
[保存]をクリックすると、「名前を付けて保存」ダイアログボックスが表示されます。ファイル名を入力し、[保存]をクリックすると、「計画伸縮 結果表示」ダイアログボックスに戻ります。

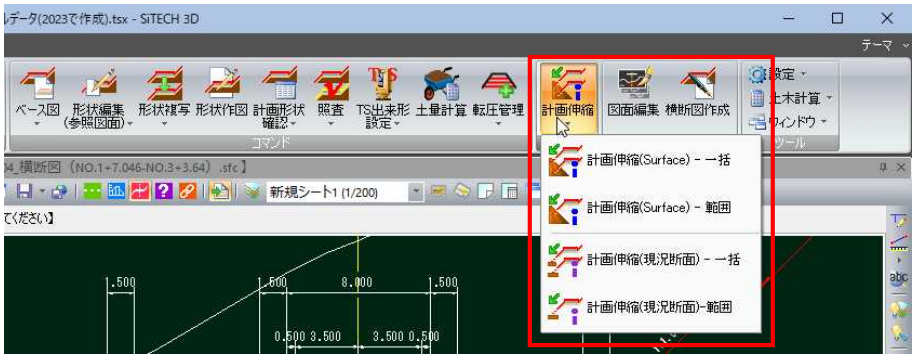
5 「計画伸縮 結果表示」ダイアログボックスで[閉じる]をクリックすると、処理を終了します。
▼指定範囲のみ計画伸縮



横断 －[計画伸縮]－[計画伸縮(現況断面)]

現況断面との交点で計画を伸縮する

現況断面との交点で計画を伸縮します。

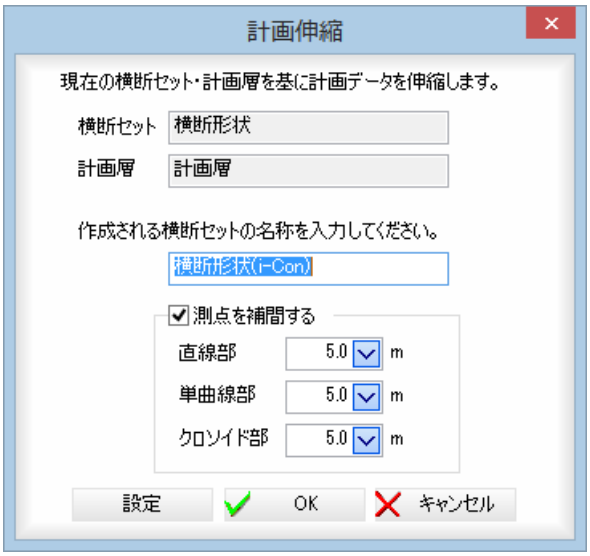


計画伸縮(現況断面)　一括
横断セットを複写し、計画伸縮を一括で行います。

計画伸縮(現況断面)　範囲
計画伸縮を範囲を指定して実行します。

● 計画伸縮(現況断面)一括

1 横断メニューで[計画伸縮]－[計画伸縮]－[計画伸縮(現況断面) 一括]をクリックすると、「計画伸縮」ダイアログボックスが表示されます。



現在の横断セットおよび計画層が表示されます。

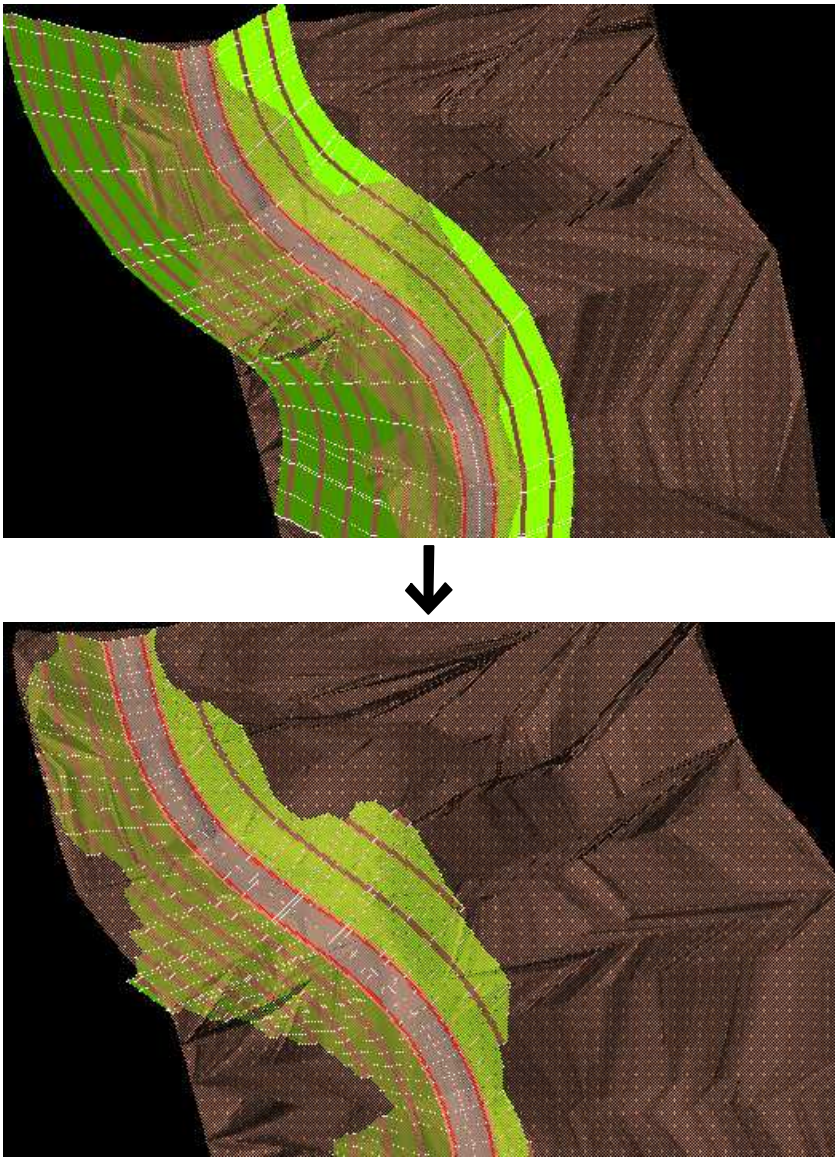
以降の操作は、[計画伸縮]－[計画伸縮]－[計画伸縮(Surface)一括]と同様です。
⇒参照ページへ

2 「計画伸縮」ダイアログボックスで[OK]をクリックすると、プレビューウィンドウに計画伸縮結果が表示され、「計画伸縮 結果表示」ダイアログボックスが表示されます。

保存

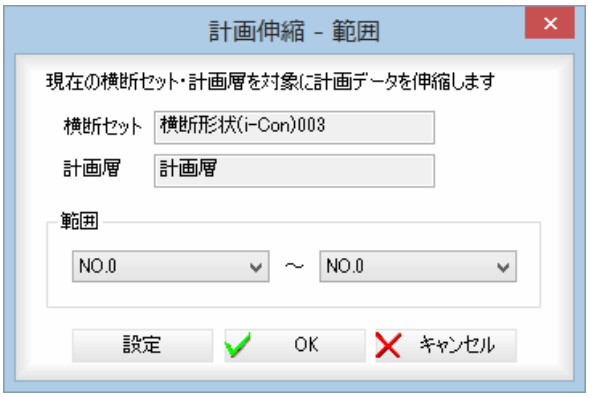
[保存]をクリックすると、「名前を付けて保存」ダイアログボックスが表示されます。ファイル名を入力し、[保存]をクリックすると、「計画伸縮 結果表示」ダイアログボックスに戻ります。

3 「計画伸縮 結果表示」ダイアログボックスで[閉じる]をクリックすると、処理を終了します。



● 計画伸縮(現況断面)範囲

1 横断メニューで[計画伸縮]－[計画伸縮]－[計画伸縮(現況断面) 範囲]をクリックすると、「計画伸縮－範囲」ダイアログボックスが表示されます。



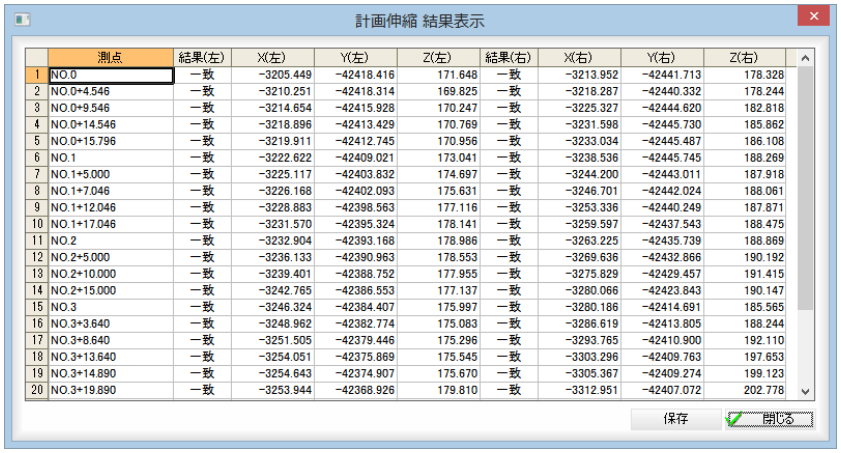
横断セットと計画層が表示されています。

範囲

範囲を開始点、終了点それぞれドロップダウンリストから選択します。

以降の操作は、[計画伸縮]－[計画伸縮]－[計画伸縮(Surface) 範囲]と同様です。**⇒参照ページへ**

2 [OK]をクリックすると、計画伸縮が実行され、「計画伸縮 結果表示」ダイアログボックスが表示されます。



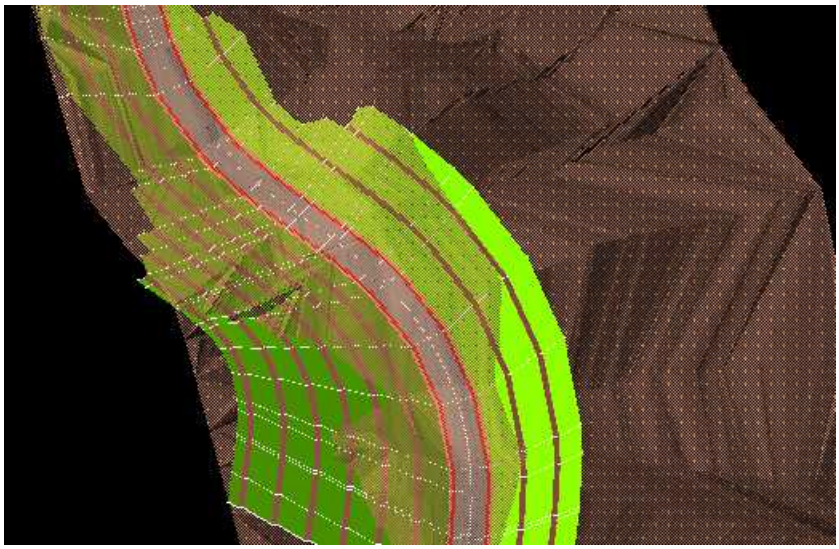
	測点	結果(左)	X(左)	Y(左)	Z(左)	結果(右)	X(右)	Y(右)	Z(右)
1	NO.0	一致	-3205.449	-42418.416	171.648	一致	-3213.952	-42441.713	178.328
2	NO.0+4.546	一致	-3210.251	-42418.314	169.825	一致	-3218.287	-42440.332	178.244
3	NO.0+9.546	一致	-3214.654	-42415.928	170.247	一致	-3225.327	-42444.620	182.818
4	NO.0+14.546	一致	-3218.896	-42413.429	170.769	一致	-3231.598	-42445.730	185.862
5	NO.0+15.796	一致	-3219.911	-42412.745	170.956	一致	-3233.034	-42445.487	186.108
6	NO.1	一致	-3222.622	-42409.021	173.041	一致	-3238.536	-42445.745	188.269
7	NO.1+5.000	一致	-3225.117	-42403.832	174.697	一致	-3244.200	-42443.011	187.918
8	NO.1+7.046	一致	-3226.168	-42402.093	175.631	一致	-3246.701	-42442.024	188.061
9	NO.1+12.046	一致	-3228.883	-42398.563	177.116	一致	-3253.336	-42440.249	187.871
10	NO.1+17.046	一致	-3231.570	-42395.324	178.141	一致	-3259.597	-42437.543	188.475
11	NO.2	一致	-3232.904	-42393.168	178.986	一致	-3263.225	-42435.739	188.869
12	NO.2+5.000	一致	-3236.133	-42390.963	178.553	一致	-3269.636	-42432.866	190.192
13	NO.2+10.000	一致	-3239.401	-42388.752	177.955	一致	-3275.829	-42429.457	191.415
14	NO.2+15.000	一致	-3242.765	-42386.553	177.137	一致	-3280.066	-42423.843	190.147
15	NO.3	一致	-3246.324	-42384.407	175.997	一致	-3280.186	-42414.691	185.565
16	NO.3+3.640	一致	-3248.962	-42382.774	175.083	一致	-3286.619	-42413.805	188.244
17	NO.3+8.640	一致	-3251.505	-42379.446	175.296	一致	-3293.765	-42410.900	192.110
18	NO.3+13.640	一致	-3254.051	-42375.869	175.545	一致	-3303.296	-42409.763	197.653
19	NO.3+14.890	一致	-3254.643	-42374.907	175.670	一致	-3305.367	-42409.274	199.123
20	NO.3+19.890	一致	-3253.944	-42368.926	179.810	一致	-3312.951	-42407.072	202.778

保存

[保存]をクリックすると、「名前を付けて保存」ダイアログボックスが表示されます。ファイル名を入力し、[保存]をクリックすると、「計画伸縮 結果表示」ダイアログボックスに戻ります。

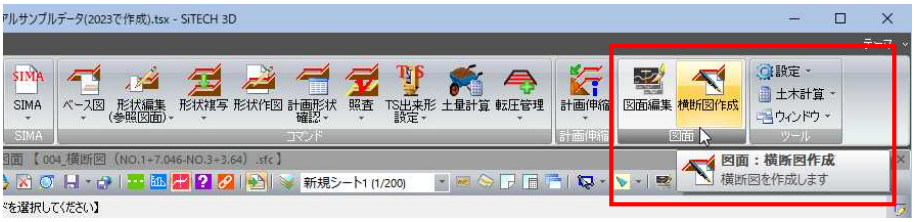
3 「計画伸縮 結果表示」ダイアログボックスで[閉じる]をクリックすると、処理を終了します。

▼指定範囲のみ計画伸縮



6 図面作成

横断図作成処理を行う「横断図作成」ウィンドウへの移行を行います。



横断 －[図面作成]－[横断図作成]

横断図の作成を行う

横断図ウィンドウへ移行し、横断図の図面作成を行います。

●「横断図作成」ダイアログボックスの各種設定

1 横断メニューで[図面作成]－[横断図作成]をクリックすると「横断図作成」ダイアログボックスが表示されます。

	対象	測点名	測点名2	コメント	追加距離	測点種類
1	☑	NO.0	BP		0.000	主要点
2	☑	NO.0+4.546	KA.1-1	○○橋	4.546	主要点
3	☑	NO.0+15.796		○○橋	15.796	任意点
4	☑	NO.1			20.000	ナンバー杭
5	☑	NO.1+7.046	KE.1-1		27.046	主要点
6	☑	NO.2			40.000	ナンバー杭
7	☑	NO.3			60.000	ナンバー杭
8	☑	NO.3+3.640	KE.1-2		63.640	主要点
9	☑	NO.3+14.890			74.890	任意点
10	☑	NO.4			80.000	ナンバー杭
11	☑	NO.4+6.140	KA.1-2		86.140	主要点
12	☑	NO.4+9.245	KA.2-1		89.245	主要点
13	☑	NO.5			100.000	ナンバー杭
14	☑	NO.5+1.745			101.745	任意点
15	☑	NO.5+14.245	KE.2-1		114.245	主要点
16	☑	NO.6			120.000	ナンバー杭
17	☑	NO.7			140.000	ナンバー杭
18	☑	NO.8			160.000	ナンバー杭
19	☑	NO.9			180.000	ナンバー杭
20	☑	NO.9+6.404	KE.2-2		186.404	主要点

各種の設定を行います。

横断図名称

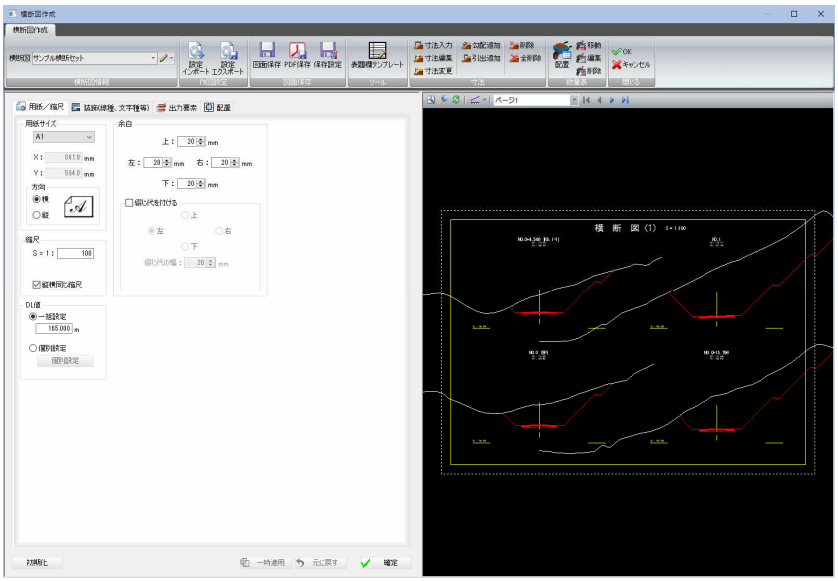
「横断図名称」入力欄内に縦断図の名称を入力します。

対象範囲
開始測点、終了測点それぞれドロップダウンリストより選択します。

対象範囲
いずれかのチェックマークをオンにすると、対象種類の測点が一覧に表示されます。

対象測点
測点の一覧表示から「対象」欄内のチェックマークをクリックして対象の測点を選択します。
[全選択]／[全解除]
一覧表示内のすべてのチェックマークをオン、またはオフにします。

2 「横断図作成」ダイアログボックスで[OK]をクリックすると、「横断図作成」ウィンドウが表示されます。
各種の設定を行います。



詳しい操作方法については「Part6 横断図作成」で説明しています。⇒参照ページへ

Part 6

横断図作成

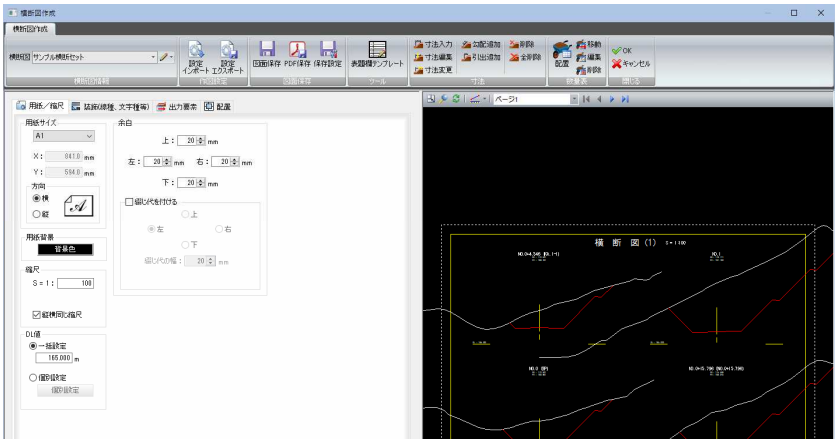
1 「横断図作成」の基本操作

「横断図作成」の起動および終了方法、ウィンドウの構成について説明します。

起動と終了

1 横断メニューで[図面作成]－[横断図作成]をクリックすると、「横断図作成」ダイアログボックスが表示されます。

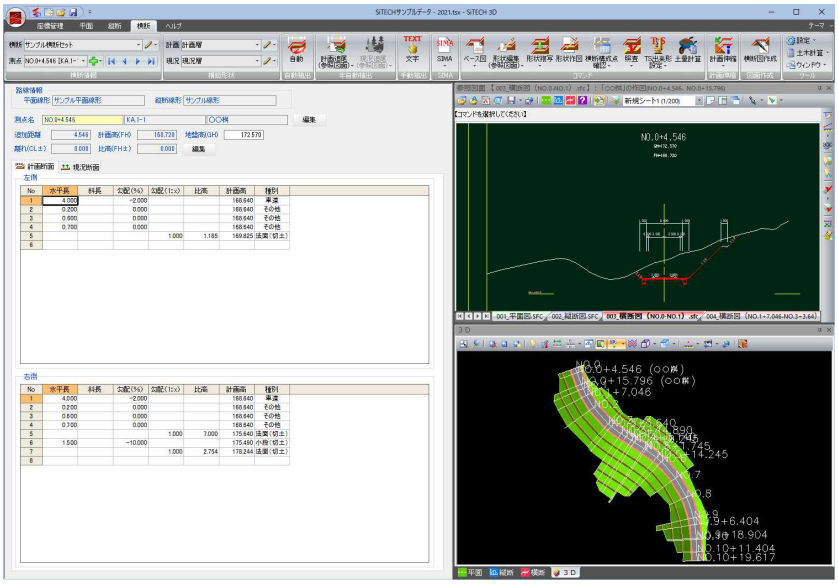
2 各種の設定を行い、[OK]をクリックすると、「横断図作成」ウィンドウが表示されます。各種の設定を行います。



3 閉じるメニューの[OK]または[キャンセル]をクリックすると、システム画面に戻ります。

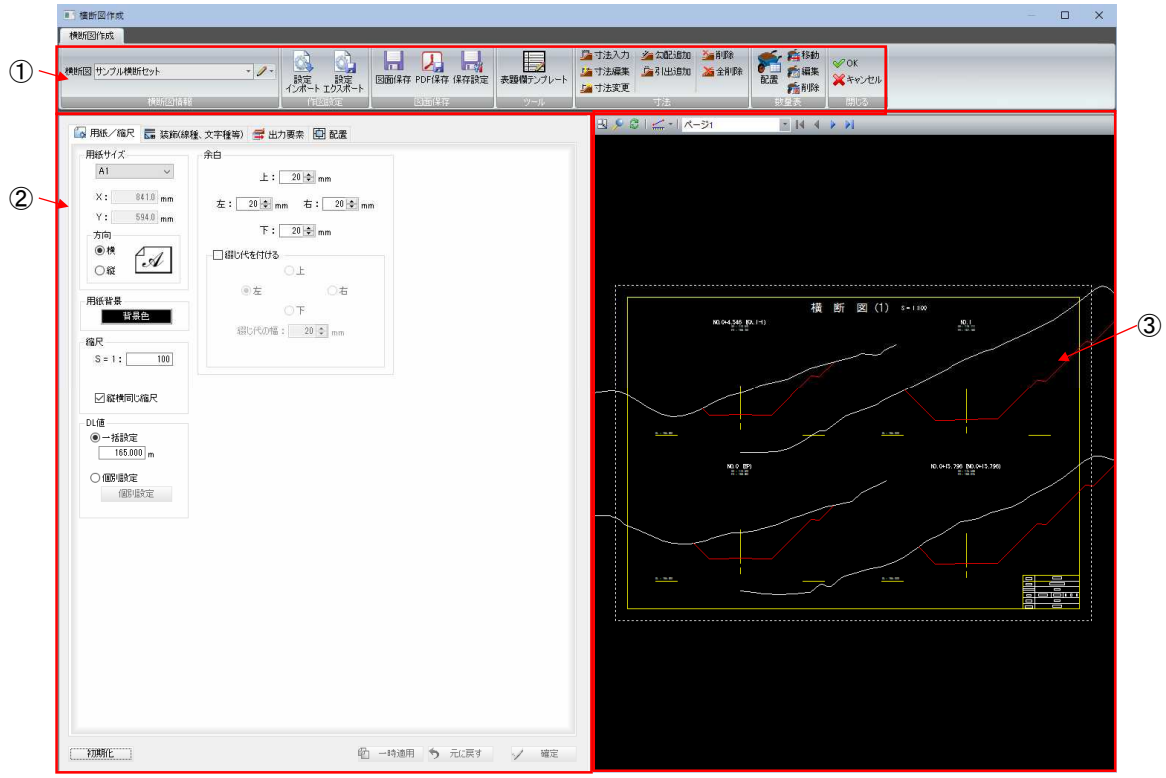
OK　　編集結果を保存して「横断図作成」ウィンドウを閉じます。

キャンセル　編集結果を破棄して「横断図作成」ウィンドウを閉じます。



「横断図作成」ウィンドウの画面構成

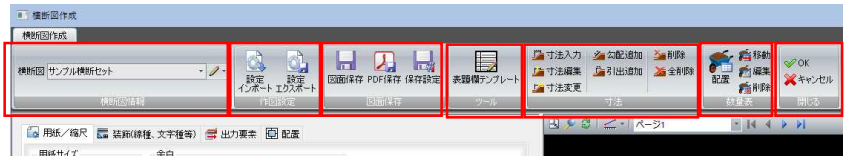
「横断図作成」ウィンドウの画面構成は以下の通りです。



① リボンメニュー
② 横断図設定ウィンドウ
③ 横断図ウィンドウ

● リボンメニュー

1 リボンメニュー内には横断図情報、作図設定、図面保存、ツール、寸法、数量表、閉じるの各メニューがあります。



● 横断図設定ウィンドウ

1 横断図設定ウィンドウ内では、各種の設定を行います。

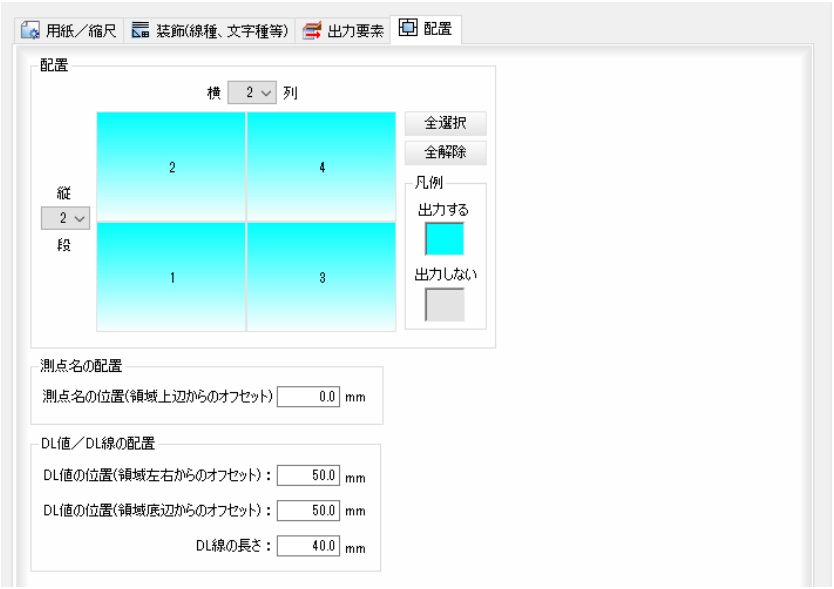
横断図設定ウィンドウの切り替え

「用紙／縮尺」、「装飾(線種、文字種等)」、「出力要素」、「配置」のタブをクリックすると、それぞれの設定ウィンドウに表示が切り替わります。

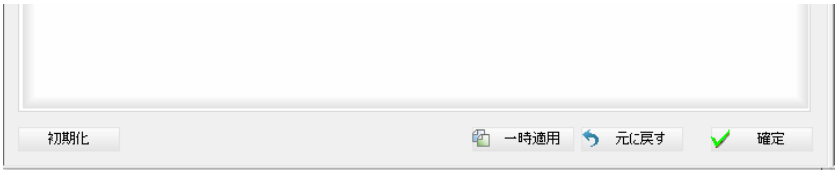
▼「装飾(線種、文字種等)」タブ

▼「出力要素」タブ

▼「配置」タブ



2 初期化・一時適用・元に戻す



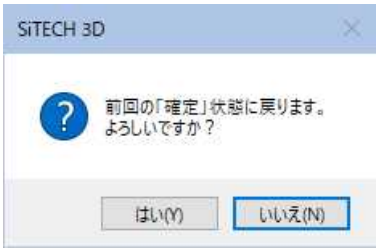
初期化

[初期化]をクリックすると、設定を初期状態に戻します。

一時適用

[一時適用]をクリックすると、設定内容を横断図ウィンドウ上で確認することができます。

元に戻す
[元に戻す]をクリックすると、以下の確認メッセージが表示されます。

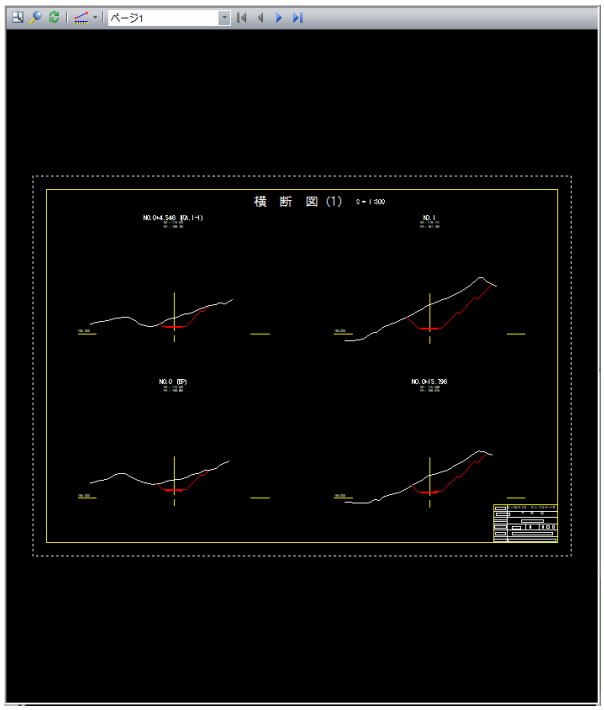


[はい]をクリックすると、設定内容を変更前（前回の確定状態）に戻します。

3 [確定]をクリックすると、各種の設定が確定されます。

● 横断図ウィンドウ

1 横断図ウィンドウでは、各種の設定が反映された横断図がウィンドウ内に表示されます。



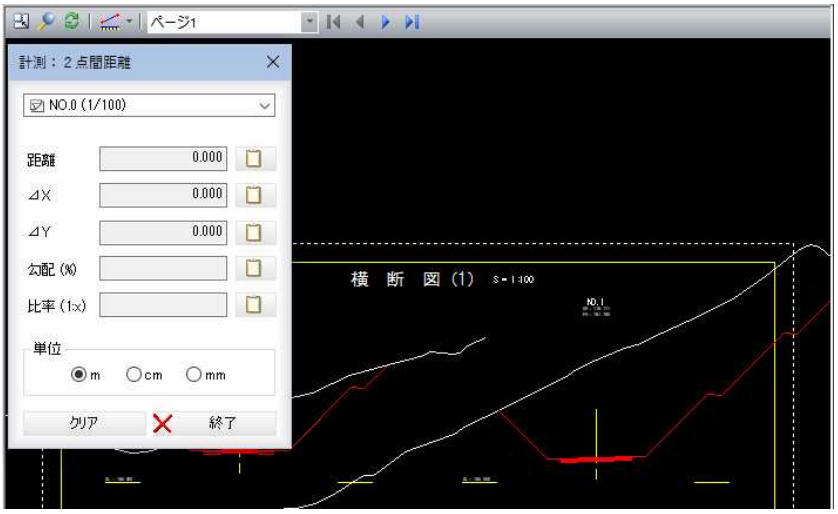
2 **各種の表示切り替え**
全体表示（ ）
横断図ウィンドウメニューから[全体表示]を選択すると全体表示となります。
ズーム（ ）
横断図ウィンドウメニューから[ズーム]を選択すると、ズームモードとなります。
ズーム始点をマウスでクリックすると、終点指定モードになります。
終点をクリックすると、範囲指定した部分が拡大表示されます。
再表示（ ）
横断図ウィンドウメニューから[再表示]を選択すると、再表示が行われます。

3 ２点間距離・標高(DL)

２点間距離（ ）

横断図ウィンドウメニューから[２点間距離]を選択すると、２点間距離モードとなり、「２点間距離」ダイアログボックスが表示されます。
始点をクリックし、続けて終点をクリックすると、２点間の距離が入力されます。

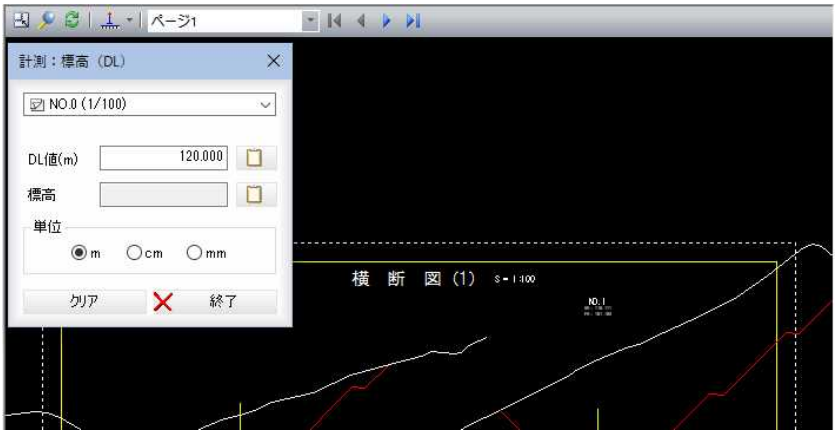
その他の操作は参照ウィンドウ上と同様です。⇒参照ページへ



標高(DL)（ ）

横断図ウィンドウメニューから[標高(DL)]を選択すると、標高(DL)モードとなり、「標高(DL)」ダイアログボックスが表示されます。
DL 基準線をクリックすると、DL 値入力モードとなります。「標高(DL)」ダイアログボックス内の「DL 値(m)」入力欄内に DL 値を入力します。
次に計測点指定モードとなりますので、マウスにて指定します。

その他の操作は参照ウィンドウ上と同様です。⇒参照ページへ



4 ポップアップメニュー

横断図ウィンドウ内で右クリックすると、ポップアップメニューが表示されます。各種の処理を行うことができます。

→ **OK**
作業を確定します。

→ **Back**
ひとつ前の作業に戻します。

→ **キャンセル**
処理実行前に戻します。

→ **設定／一時適用**
設定ウィンドウ内の設定を一時的に適用します。

→ **設定／元に戻す**
設定ウィンドウ内の設定を元に戻します。

→ **設定／確定**
設定ウィンドウ内の設定を確定します。

→ **計測**
２点間距離、標高ＤＬの各種計測処理を行います。

→ **ズーム**
ズームモードとなります。ズーム始点→終点をマウスでクリックすると、範囲指定した部分が拡大表示されます。

→ **全体表示**
ズーム表示から全体表示に戻ります。

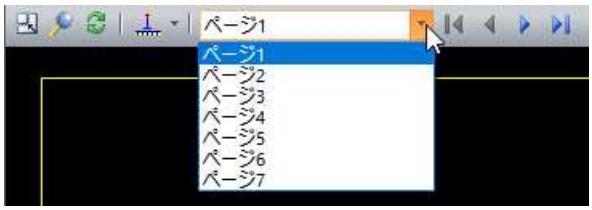
→ **ハンドスクロール**
ハンドスクロールモードとなります。マウスを動かした方向に表示がスクロールします。

→ **フリーズーム**
フリーズームモードとなります。マウスを動かした方向に表示が拡大／縮小します。
上へ移動：拡大
下へ移動：縮小

→ **終了**
作業を終了します。

5 **ページの切り替え**

ドロップダウンリストよりいずれかのページ番号を選択し、表示を切り替えます。
また、 のいずれかのボタンをクリックして測点を切り替えることもできます。



いずれかをクリックしてページの切り替えを行います。

閉じるメニュー

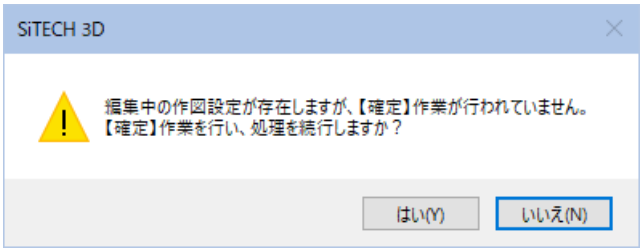
「横断図作成」ウィンドウを閉じる操作を行います。

● ＯＫ／キャンセルの操作方法

1 閉じるメニューの[OK]または[キャンセル]をクリックすると、システム画面に戻ります。

OK　　編集結果を保存して「横断図作成」ウィンドウを閉じます。
キャンセル　編集結果を破棄して「横断図作成」ウィンドウを閉じます。

2 設定を変更して[OK]をクリックした場合は、以下の確認メッセージが表示されます。



[はい]をクリックすると、確定作業が行われ「横断図作成」ウィンドウを終了します。

2 横断図設定ウィンドウ

「横断図作成」ウィンドウの横断図設定ウィンドウで、各種の設定処理を行います。
横断図設定ウィンドウのタブをクリックして、各種の設定画面に切り替えます。以下、タブごとに設定内容について説明します。

横断図作成 －[横断図設定ウィンドウ]－[用紙／縮尺]タブ

横断図の用紙／縮尺を設定する

● [用紙／縮尺]タブの設定

1 横断図設定ウィンドウの[用紙／縮尺]タブをクリックして各種の設定を行います。

2 **用紙サイズ**

用紙サイズの選択

ドロップダウンリストより、いずれかの用紙サイズを選択します。
用紙サイズを「フリー」に設定した場合のみ、「X:」、「Y:」入力欄内にサイズを入力します。

用紙方向の選択

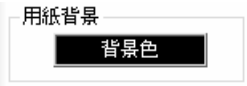
用紙方向を、「横」、「縦」いずれかのラジオボタンをクリックして選択します。

3 用紙背景・縮尺の設定

用紙背景の設定

縦断図作成、横断図作成のプレビューの背景色を設定します。

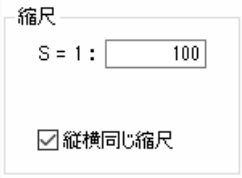
[背景色]をクリックすると、「色の設定」ダイアログボックスが表示されますので、いずれかの色を選択し、[OK]をクリックすると背景色が変更されます。



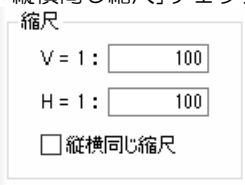
縮尺の設定

縦横同じ縮尺

「縦横同じ縮尺」チェックマークがオンの場合は、「S=1」入力欄内に縮尺を入力しま



「縦横同じ縮尺」チェックマークがオフの場合は、「V = 1:」、「H = 1:」入力欄内に



4 DL 値の設定

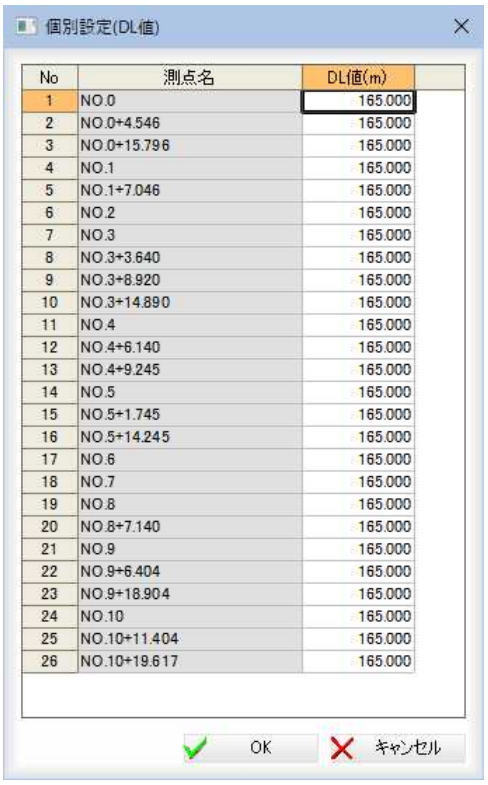
DL 値設定の方法を「一括設定」、「個別設定」いずれかのラジオボタンをクリックして選択します。

一括設定

入力欄内に入力した値で横断図内の DL 値を一括で設定します。

個別設定

「個別設定」ラジオボタンをオンにして、[個別設定]をクリックすると「個別設定(DL 値)」ダイアログボックスが表示されます。



DL 値(m)の入力

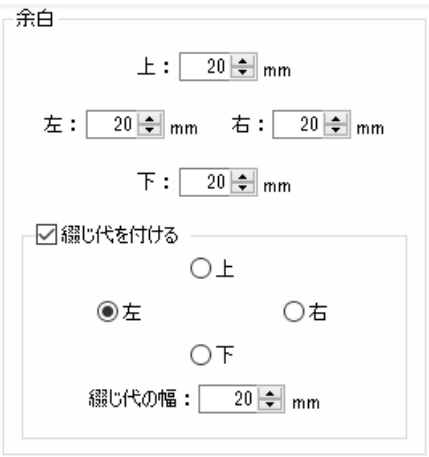
「DL 値(m)」入力欄内をクリックすると文字編集モードになりますので、任意の DL 値を入力します。

個別設定の中の値を変更した場合、選択した値以降の値を変更するかどうかを選択するメッセージボックスが表示されます。

[はい]をクリックすると、以降の測点を同じ値で変更します。

個別設定(DL 値)」ダイアログボックスで[OK]をクリックすると、横断図設定ウィンドウに戻ります。

5 余白の設定



枠線外の余白寸法をmm単位で、各入力欄に数値を入力します。

綴じ代を付ける

「綴じ代を付ける」チェックマークをオンにすると、余白の外側に綴じ代を設定します。綴じ代の方向はいずれかのラジオボタンをクリックして選択します。
綴じ代の幅を「綴じ代の幅」入力欄内に入力します。

6 **初期化**

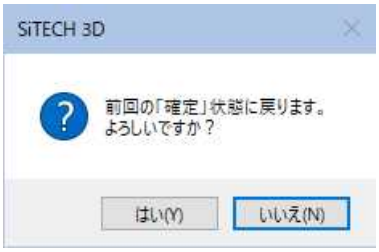
[初期化]をクリックすると、設定を初期状態に戻します。

一時適用

[一時適用]をクリックすると、設定内容を横断図ウィンドウ上で確認することができます。

元に戻す

[元に戻す]をクリックすると、以下の確認メッセージが表示されます。



[はい]をクリックすると、設定内容を変更前（前回の確定状態）に戻します。

7 [確定]をクリックすると、各種の設定が確定されます。

● [装飾(線種、文字種等)]タブの設定

1 横断図設定ウィンドウの[装飾(線種、文字種等)]タブをクリックして各種の設定を行います。

2 **線種設定**

横断図設定ウィンドウの[装飾(線種、文字種等)]タブで[線種設定]をクリックすると、「線種設定」ダイアログボックスが表示されます。

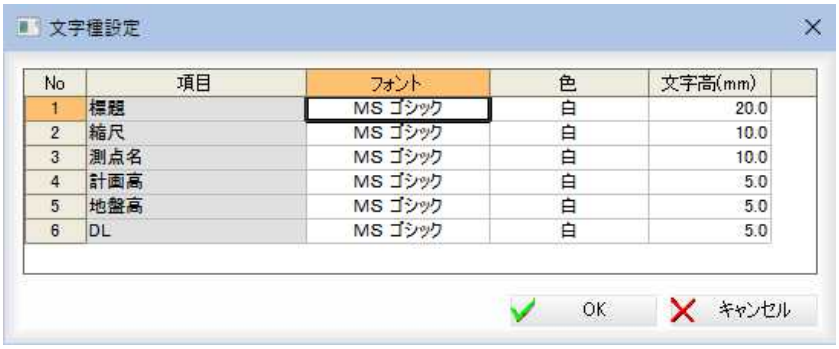
線種・線色・線幅

それぞれドロップダウンリストより選択します。

[OK]をクリックすると、横断図設定ウィンドウに戻ります。

3 **文字種設定**

横断図設定ウィンドウの[装飾(線種、文字種等)]タブで[文字種設定]をクリックすると、「文字種設定」ダイアログボックスが表示されます。



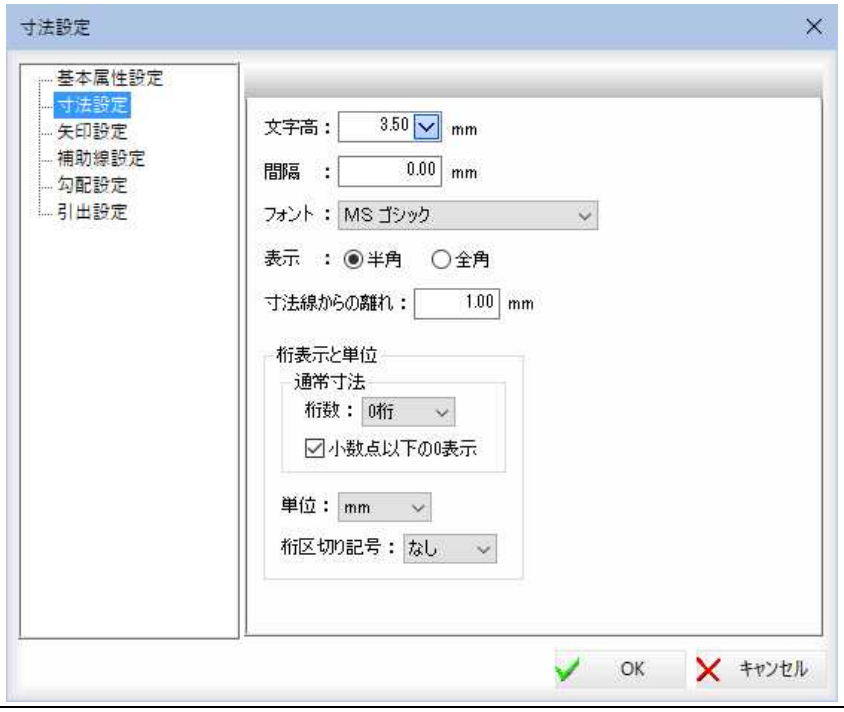
フォント・色
それぞれドロップダウンリストより選択します。
文字高(mm)
「文字高(mm)」入力欄内に文字高を入力します。
[OK]をクリックすると、横断図設定ウィンドウに戻ります。

4 寸法設定

横断図設定ウィンドウの[装飾(線種、文字種等)]タブで[寸法設定]をクリックすると「寸法設定」ダイアログボックスが表示されます。
ダイアログボックス内左側の分類をクリックすると、設定内容が切り替わります。
各種設定を行います。

■基本属性設定
線種・線色・線幅それぞれドロップダウンリストより選択します。

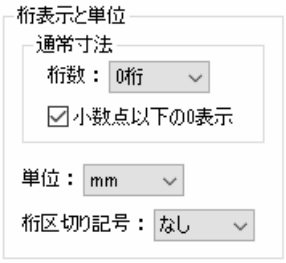
■寸法設定
「寸法設定」ダイアログボックス内左側の「寸法設定」をクリックします。設定内容が切り替わりますので、各種設定を行います。



文字高
ドロップダウンリストより文字高を選択します。
間隔
「間隔」入力欄内に間隔を入力します。
フォント
「フォント」ドロップダウンリストよりいずれかのフォントを選択します。
表示
「半角」、「全角」いずれかのラジオボタンをクリックして選択します。

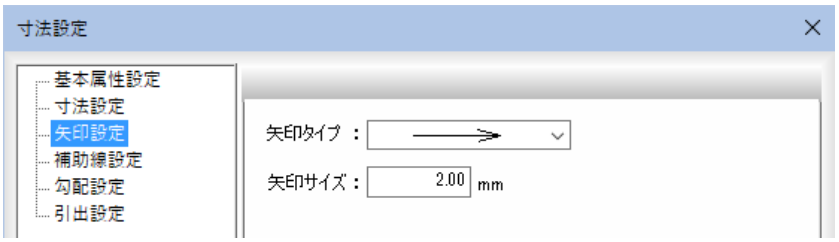
寸法線からの離れ
入力欄内に寸法線からの距離を入力します。

桁表示と単位



通常寸法
「桁数」ドロップダウンリストからいずれかを選択します。
「小数点以下の 0 表示」チェックマークをオンにすると、小数点以下の 0 が表示されます。
単位・桁区切り記号
「単位」、「桁区切り記号」ドロップダウンリストからいずれかを選択します。

■矢印設定

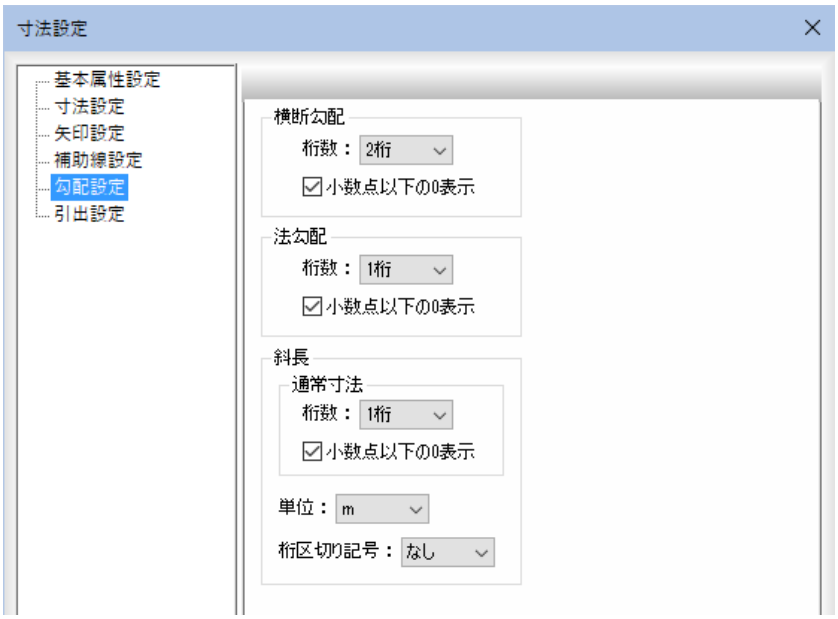


矢印タイプ
ドロップダウンリストよりいずれかの矢印タイプを選択します。
矢印サイズ
「矢印サイズ」入力欄内にサイズを入力します。

■補助線設定

離れ・突出長
それぞれ入力欄内にサイズを入力します。

■勾配設定



横断勾配／法勾配

「桁数」ドロップダウンリストからいずれかを選択します。

「小数点以下の 0 表示」チェックマークをオンにすると、小数点以下の 0 が表示されます。

斜長

通常寸法

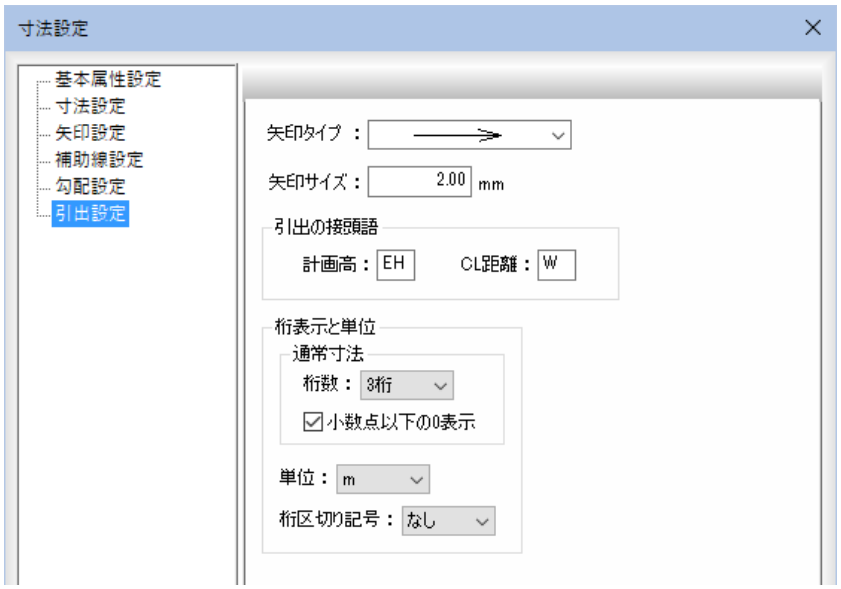
「桁数」ドロップダウンリストからいずれかを選択します。

「小数点以下の 0 表示」チェックマークをオンにすると、小数点以下の 0 が表示されます。

単位・桁区切り記号

「単位」、「桁区切り記号」ドロップダウンリストからいずれかを選択します。

■引出設定



矢印タイプ

ドロップダウンリストよりいずれかの矢印タイプを選択します。

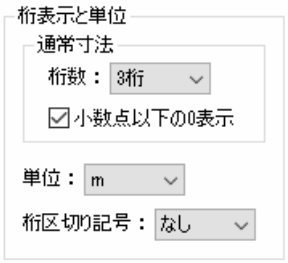
矢印サイズ

「矢印サイズ」入力欄内にサイズを入力します。

引出の接頭語

「計画高」、「CL 距離」入力欄内に文字列を入力します。

桁表示と単位



通常寸法

「桁数」ドロップダウンリストからいずれかを選択します。

「小数点以下の 0 表示」チェックマークをオンにすると、小数点以下の 0 が表示されます。

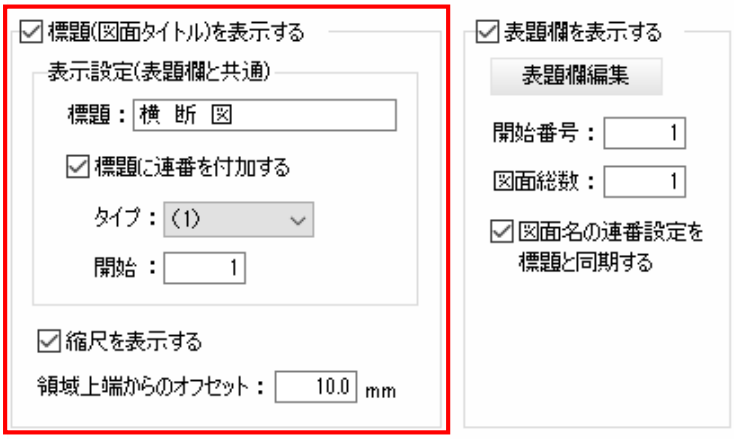
単位・桁区切り記号

「単位」、「桁区切り記号」ドロップダウンリストからいずれかを選択します。

「寸法設定」ダイアログボックスで[OK]をクリックすると、横断図設定ウィンドウに戻ります。

5 標題（図面タイトル）を表示する

「標題（図面タイトル）を表示する」チェックマークをオンにすると、標題の表示が行われます。初期値はオンです。



標題（図面タイトル）を表示する

表示設定（表題欄と共通）

「標題」入力欄内に文字列を入力します。

標題に連番を付加する

「標題に連番を付加する」チェックマークをオンにすると、「タイプ」ドロップダウンリストから選択した形式、「開始」入力欄内に入力した開始番号で連番を付加します。初期値はオンです。

・「標題に連番を付加する」チェックマークをオンにすると、表題欄の図面名にも連番表示が行われます。

縮尺を表示する

「縮尺を表示する」チェックマークをオンにすると、標題に縮尺を表示します。初期値はオンです。

領域上端からのオフセット

「領域上端からのオフセット」入力欄内にオフセット値を入力します。

6 表題欄を表示する

「表題欄を表示する」チェックマークをオンにすると、標題に表題欄を表示します。初期値はオンです。

表題欄編集

表題欄の情報（要素）が設定されていない場合は、「表題欄テンプレート選択」ダイアログボックスが表示され、[✓選択]をクリックすると「表題欄編集」ダイアログボックスが表示されます。

または、既に表題欄の情報が設定されている場合も「表題欄編集」ダイアログが表示されます。

[テンプレート選択]をクリックすると、「表題欄テンプレート選択」ダイアログボックスが表示されます。
[表題欄編集]ダイアログボックスで[OK]をクリックすると、一時適用の確認メッセージが表示されます。[はい]をクリックすると、編集した表題欄テンプレートが一時適用されます。

[表題欄テンプレート]、[表題欄編集]の詳しい操作は、縦断図作成ウィンドウの[ツール]－[表題欄テンプレート]で説明しています。**⇒参照ページへ**

開始番号・図面総数
「開始番号」、「図面総数」入力欄内に、開始番号および図面総数をそれぞれ入力します。

図面名の連番設定を標題と同期する
「図面名の連番設定を標題と同期する」チェックマークをオンにすると、図面名の連番設定を標題と同期します。

7 測点標高の接頭語

横断図設定ウィンドウの[装飾(線種、文字種等)]タブで測点標高の接頭語の設定を行います。

測点標高の接頭語
「計画高」、「地盤高」入力欄内に文字列を入力します。

● [出力要素]タブの設定

1 横断図設定ウィンドウの[出力要素]タブをクリックして各種の設定を行います。

2 **計画層・現況層**

計画層・現況層の一覧表示内で、「表示」チェックマークをオンにした構築形状が出力されます。

測点名の表示方法

いずれかのラジオボタンをクリックして測点名の表示方法を選択します。
「測点名 1 と測点名 2」を選択した場合は、「測点名 2 に"任意点"を表示」チェックマークをオンにすることができます。
下部には、測点名のサンプルが表示されます。

● [配置]タブの設定

1 横断図設定ウィンドウの[配置]タブをクリックして各種の設定を行います。

配置

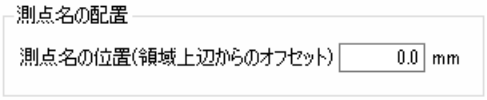
出力横断図の指定

出力する横断図は、青く表示されます。マウスにてクリックすると、出力する／出力しないが切替わります。

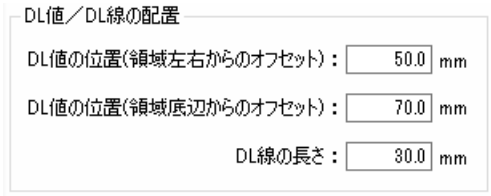
[全選択]／[全解除]
一覧表示内のすべてのチェックマークをオン、またはオフにします。

縦・横の指定
配置したい横断図の段数と列数を「縦段」「横列」のドロップダウンリストより選択します。
▼縦 2 段、横 1 列で指定

測点名の配置
「測点名の位置（領域上辺からのオフセット）」入力欄内に数値を入力します。



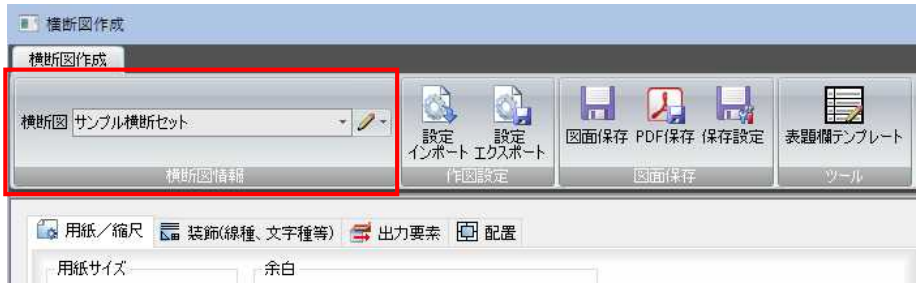
DL 値／DL 線の配置



それぞれ入力欄内にオフセット位置・長さを入力します。

3 横断図情報

横断図の選択・新規作成・編集処理を行います。



横断図作成 ー[横断図情報]ー選択・新規作成・編集

横断図を選択・新規作成・編集する

現在表示中の横断図を選択・編集します。

● 横断図を選択する

1 「横断図作成」ウィンドウの[横断図情報]で[横断図]のドロップダウンリストより、いずれかの横断図を選択します。

2 横断図が切り替わります。

● 横断図を新規作成する

1 編集中のデータに横断図が存在しない場合や、[横断図]のドロップダウンリストより〈新規作成〉を選択、または をクリックしドロップダウンリストより[作成]をクリックすると、「横断図作成」ダイアログボックスが表示されます。

横断図名称
「横断図名称」入力欄内に名称を入力します。

対象範囲
「開始測点」、「終了測点」のドロップダウンリストからそれぞれ選択します。

対象種類

対象種類をチェックマークをクリックして選択します。

対象測点

	対象	測点名	測点名2	コメント	追加距離	測点種類
1	☑	NO.0	BP		0.000	主要点
2	☑	NO.0+4.546	KA.1-1	○○橋	4.546	主要点
3	☑	NO.0+15.796		○○橋	15.796	任意点
4	☑	NO.1			20.000	ナンバー杭
5	☑	NO.1+7.046	KE.1-1		27.046	主要点
6	☑	NO.2			40.000	ナンバー杭
7	☑	NO.3			60.000	ナンバー杭
8	☑	NO.3+3.640	KE.1-2		63.640	主要点
9	☑	NO.3+8.920			68.920	縦断変化点
10	☑	NO.3+14.890			74.890	任意点
11	☑	NO.4			80.000	ナンバー杭
12	☑	NO.4+6.140	KA.1-2		86.140	主要点
13	☑	NO.4+9.245	KA.2-1		89.245	主要点
14	☑	NO.5			100.000	ナンバー杭
15	☑	NO.5+1.745			101.745	任意点
16	☑	NO.5+14.245	KE.2-1		114.245	主要点
17	☑	NO.6			120.000	ナンバー杭
18	☑	NO.7			140.000	ナンバー杭
19	☑	NO.8			160.000	ナンバー杭
20	☑	NO.8+7.140			167.140	縦断変化点

対象測点を対象欄内のチェックマークをオンにして選択します。
[全選択]／[全解除]
一覧表示内のすべてのチェックマークをオン、またはオフにします。

2 「横断図作成」ダイアログボックスで[OK]をクリックすると、横断図作成ウィンドウに戻ります。

● 横断線形を編集する

1 「横断図作成」ウィンドウの[横断図情報]で をクリックしドロップダウンリストより[編集]をクリックします。

「横断図編集」ダイアログボックスが表示されます。

「横断図作成」ダイアログボックスと同様です。**⇒参照ページへ**

2 [OK]をクリックすると、横断図作成ウィンドウに戻ります。

● 横断図を複写する

1 「横断図作成」ウィンドウの[横断図情報]で をクリックしドロップダウンリストより[複写]をクリックします。

「横断図複写」ダイアログボックスが表示されます。

横断図名称の入力

「横断図名称」入力欄内にコピー元になった表題欄テンプレートの名称に「－コピー」をプラスした文字列が表示されます。入力欄内に文字列を入力します。

その他の各機能は「横断図作成」ダイアログボックスと同様です。⇒参照ページへ

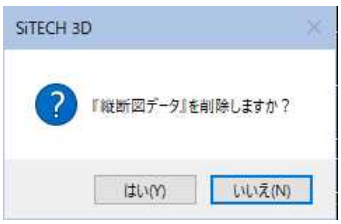
2 [OK]をクリックすると、横断図作成ウィンドウに戻ります。

● 横断図を削除する

1 「横断図作成」ウィンドウの[横断図情報]で をクリックしドロップダウンリストより[削除]をクリックします。

・横断図が１つだけの場合には、「横断図作成」ウィンドウが終了します。

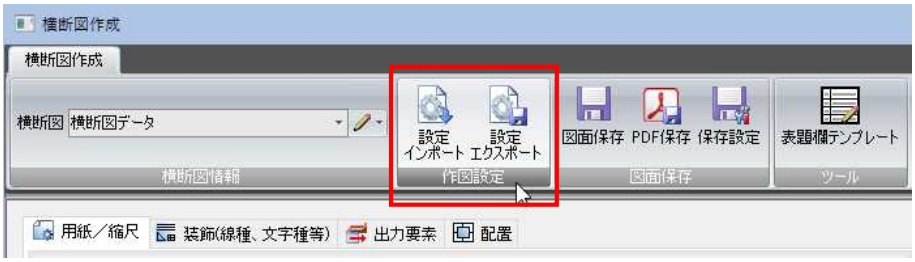
確認メッセージが表示されます。



2 [はい]をクリックすると、現在選択中の横断図が削除されます。

4 作図設定

「横断図作成」ウィンドウの作図設定メニューで、横断図設定ファイルのインポートとエクスポートを行います。

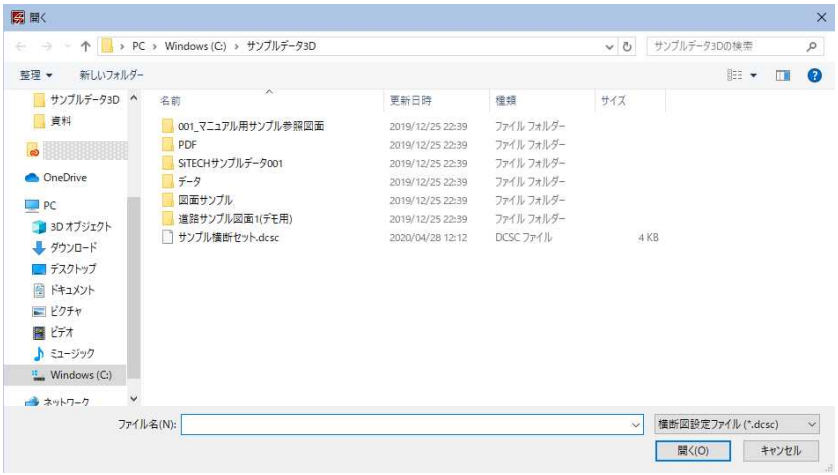


横断図作成 －[作図設定]－[設定インポート]

設定ファイルをインポートする

● 横断図設定ファイルのインポート

1 横断図設定ウィンドウの[作図設定]メニュー－[設定インポート]をクリックすると、「開く」ダイアログボックスが表示されます。



いずれかの横断図設定ファイル(*. dcsc)を選択します。

2 [開く]をクリックすると、横断図設定ファイルが開き、取込完了のメッセージが表示されます。

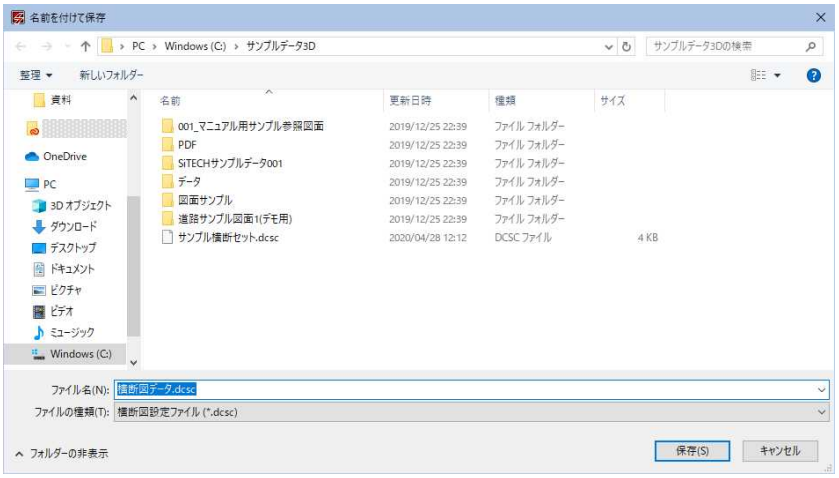
3 [OK]をクリックすると、処理を終了します。

横断図作成 －[作図設定]－[設定エクスポート]

設定ファイルをエクスポートする

● 横断図設定ファイルのエクスポート

1 横断図設定ウィンドウの[作図設定]メニューー[設定エクスポート]をクリックすると、「名前を付けて保存」ダイアログボックスが表示されます。

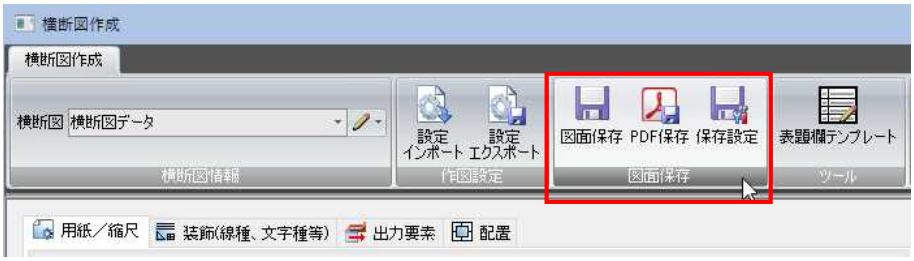


横断図設定ファイル(*. dcsc)名を入力します。

2 [保存]をクリックすると、横断図設定ファイルに現在の設定が保存されます。

5 図面保存

「横断図作成」ウィンドウの図面保存メニューで、図面保存・PDF 保存・保存設定の各種処理を行います。



横断図作成 －[図面保存]－[図面保存]

図面ファイルに保存する

● 図面ファイルに保存する

1 横断図設定ウィンドウの[図面保存]メニュー－[図面保存]をクリックすると、「図面保存」ダイアログボックスが表示されます。

以降の操作は、「縦断図作成」ウィンドウの図面保存メニュー内の、[図面保存]処理と同様です。⇒参照ページへ

横断図作成 －[図面保存]－[PDF 保存]

PDF ファイルに保存する

● PDF ファイルに保存する

1 横断図設定ウィンドウの[図面保存]メニュー－[PDF 保存]をクリックすると、「PDF保存」ダイアログボックスが表示されます。

以降の操作は、「縦断図作成」ウィンドウの図面保存メニュー内の、[PDF 保存]処理と同様です。⇒参照ページへ

横断図作成 －[図面保存]－[保存設定]

各種の保存設定を行う

● ファイルの保存設定を行う

1 横断図設定ウィンドウの[作図設定]メニュー－[保存設定]をクリックすると、「図面保存設定」ダイアログボックスが表示されます。

以降の操作は、「縦断図作成」ウィンドウの図面保存メニュー内の、[保存設定]処理と同様です。⇒参照ページへ

6 ツール

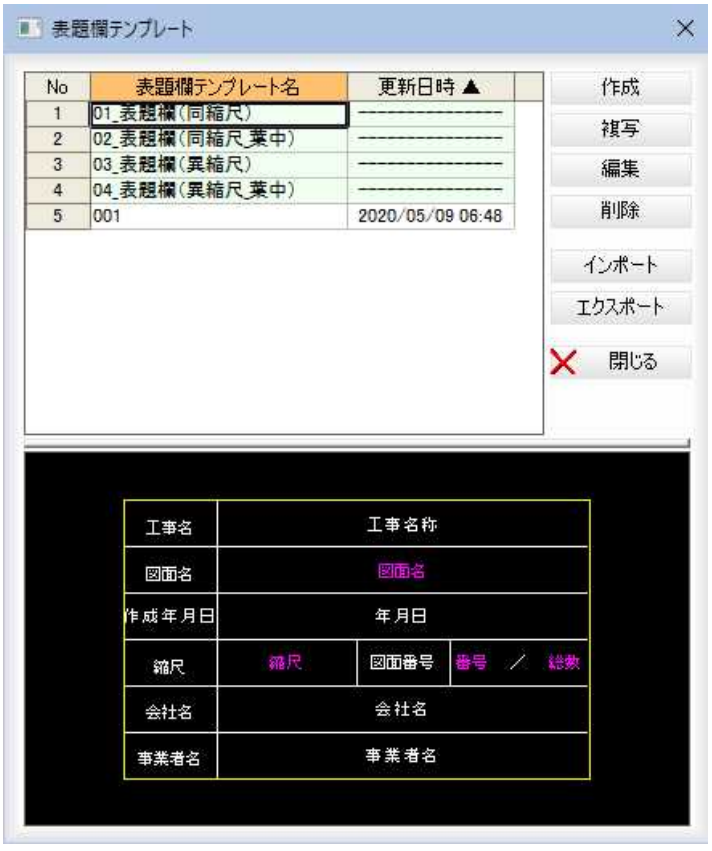
「横断図作成」ウィンドウの[ツール]－[表題欄テンプレート]で、表題欄テンプレートの各種の処理を行います。

横断図作成 －[ツール]－[表題欄テンプレート]

表題欄テンプレートを選択する

●「表題欄テンプレート」ダイアログボックス

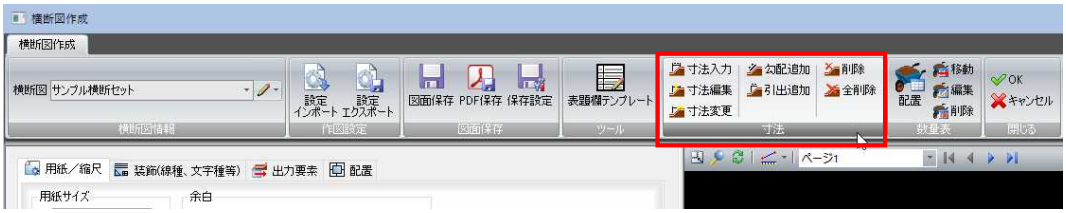
1 横断図設定ウィンドウの[ツール]メニュー－[表題欄テンプレート]をクリックすると、「表題欄テンプレート選択」ダイアログボックスが表示されます。



以降の操作は、「縦断図作成」ウィンドウのツールメニュー内の、[テンプレート編集]処理と同様です。 **⇒参照ページへ**

7 寸法

「横断図作成」ウィンドウの[寸法]メニューで、横断図の各種の寸法処理を行います。



横断図作成 －[寸法]－[寸法入力]

横断図に寸法を入力する

● 寸法を入力する

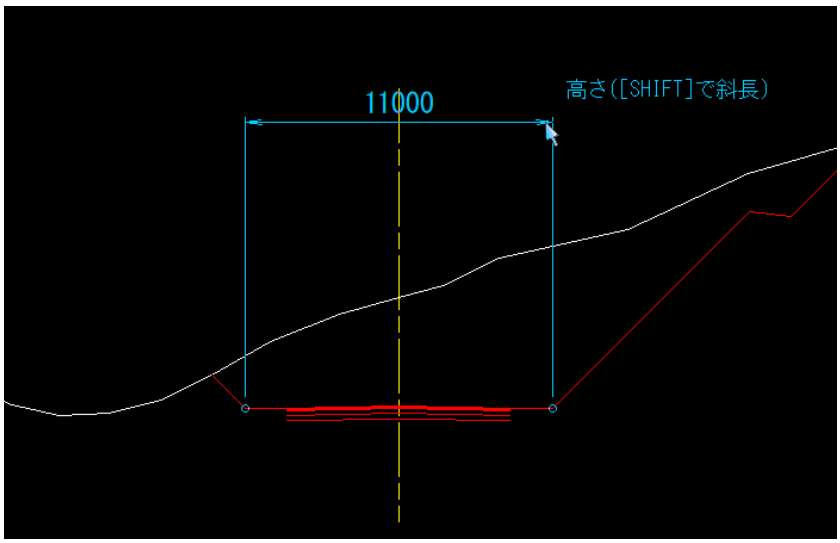
1 横断図設定ウィンドウの[寸法]メニュー－[寸法入力]をクリックすると、寸法入力モードとなります。

構成点の指示

構成点の１点目をマウスにてクリックします。続けて２点目をクリックします。

2 **高さを指示**

仮想線が表示されますので、マウスを移動して高さを設定します。



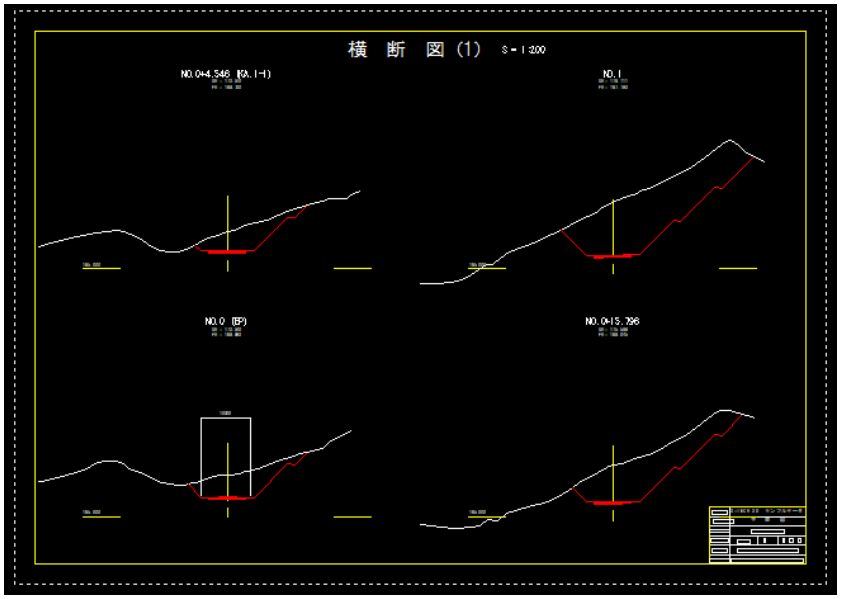
この時、Shift キーを押しながらマウスを移動すると、斜長寸法に切り替わります。

3 **適用する範囲**

高さをクリックすると寸法が確定し、「寸法入力」ダイアログボックスが表示されます。

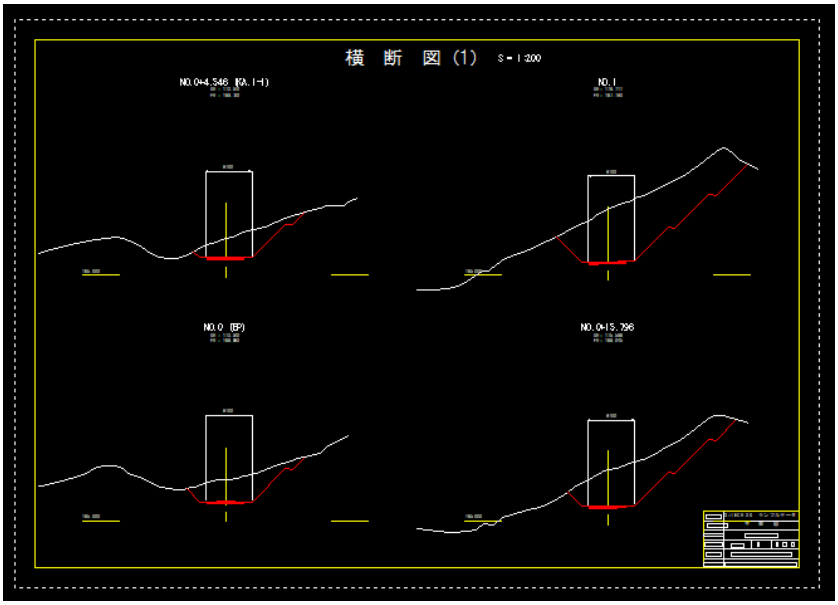
いずれかの適用範囲を選択すると、寸法入力が行われます。

▼この測点のみ



▼この測点以降の同一箇所

入力したページ以降の同一箇所に寸法が入力されます。



▼全測点の同一箇所

全ページの同一箇所に寸法が入力されます。

● 寸法の高さを変更する

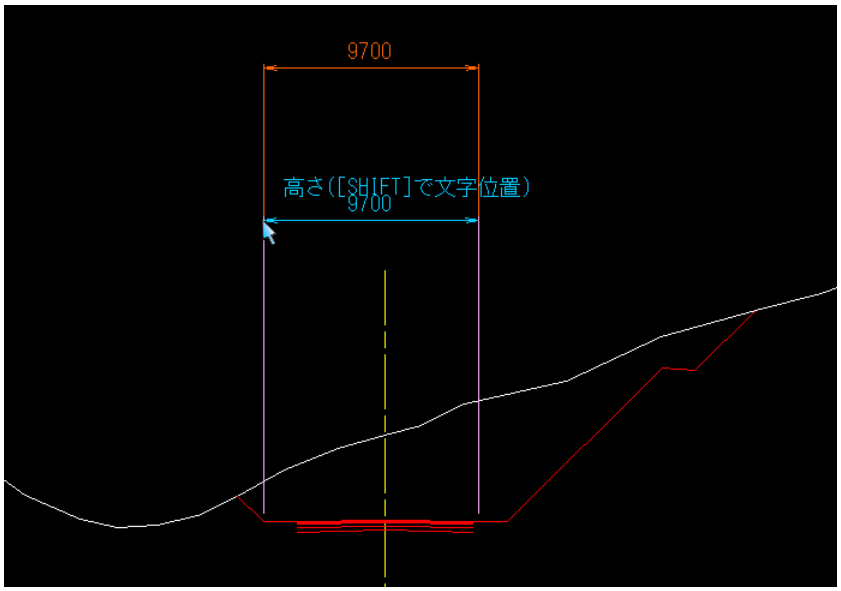
1 横断図設定ウィンドウの[寸法]メニュー－[寸法編集]をクリックすると、寸法編集モードとなります。

編集する寸法の指示

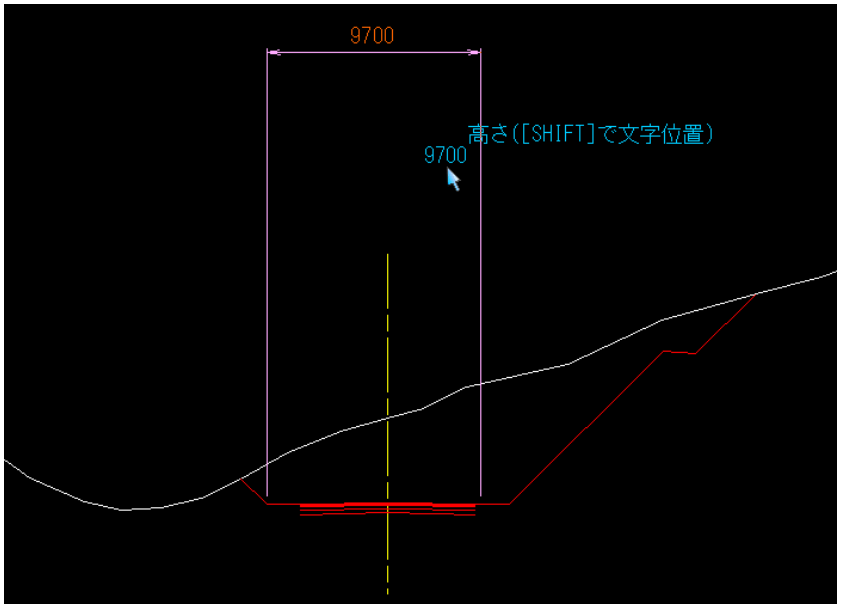
編集対象の寸法をマウスにてクリックします。対象寸法が選択表示されます。

2 **高さを指示**

仮想線が表示されますので、マウスを移動して高さを設定します。



この時、Shift キーを押しながらマウスを移動すると、文字位置の変更に切り替わります。



3 マウスをクリックすると、適用する範囲を選択する「寸法編集」ダイアログボックスが表示されます。

いずれかの適用範囲を選択すると、寸法編集処理が行われます。

横断図作成 －[寸法]－[寸法変更]

寸法の基準点を変更する

● 寸法の基準点を変更する

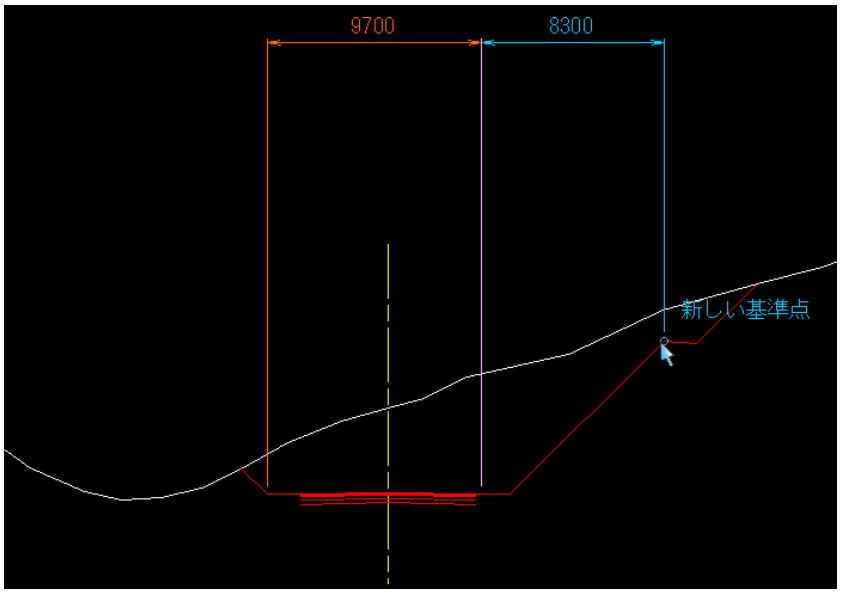
1 横断図設定ウィンドウの[寸法]メニュー－[寸法変更]をクリックすると、寸法変更モードとなります。

変更する寸法の指示

対象の寸法をマウスにてクリックします。対象寸法が選択表示されます。

2 **基準点を指示**

仮想線が表示されますので、マウスを移動して基準点を設定します。



3 マウスをクリックすると、寸法が確定し、「寸法変更」ダイアログボックスが表示されます。

いずれかの適用範囲を選択すると、寸法変更処理が行われます。

横断図作成 －[寸法]－[勾配追加]

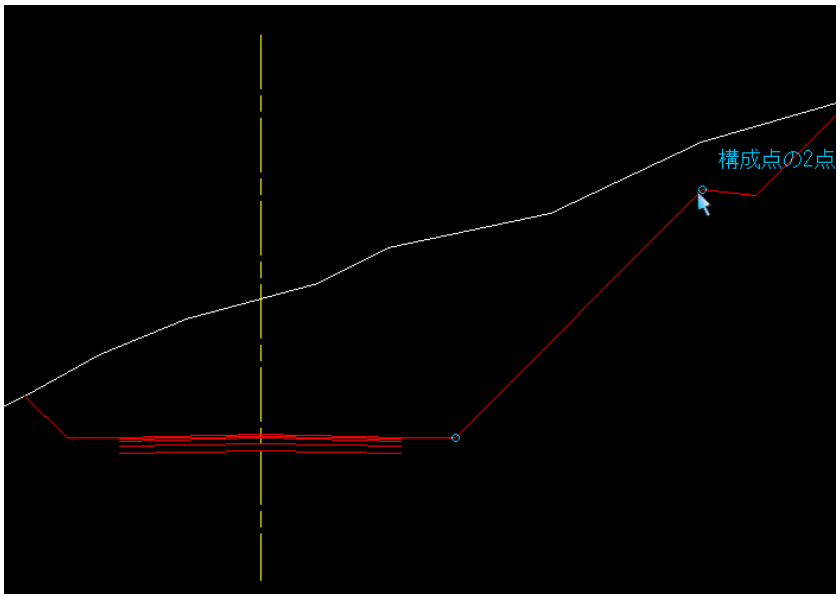
横断図に勾配を入力する

● 勾配を入力する

1 横断図設定ウィンドウの[寸法]メニュー－[勾配追加]をクリックすると、勾配入力モードとなります。

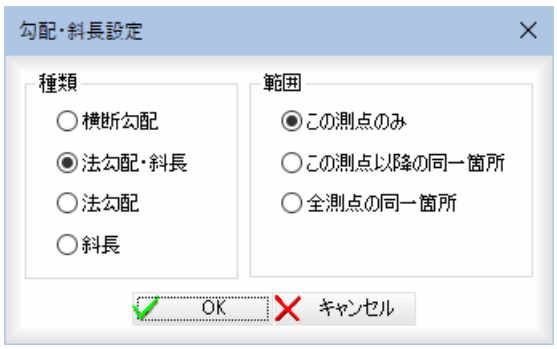
構成点の指示

構成点の１点目をマウスにてクリックします。続けて２点目をクリックします。



2 **勾配・斜長設定**

「勾配・斜長設定」ダイアログボックスが表示されますので、各種の設定を行います。



種類

「横断勾配」、「法勾配・斜長」、「法勾配」、「斜長」いずれかのラジオボタンをクリックして選択します。

範囲
適用範囲をいずれかのラジオボタンをクリックして選択します。

3 「勾配・斜長設定」ダイアログボックスで[OK]をクリックすると、勾配を追加します。
横断勾配を選択した場合のみ、矢印が表示されます。

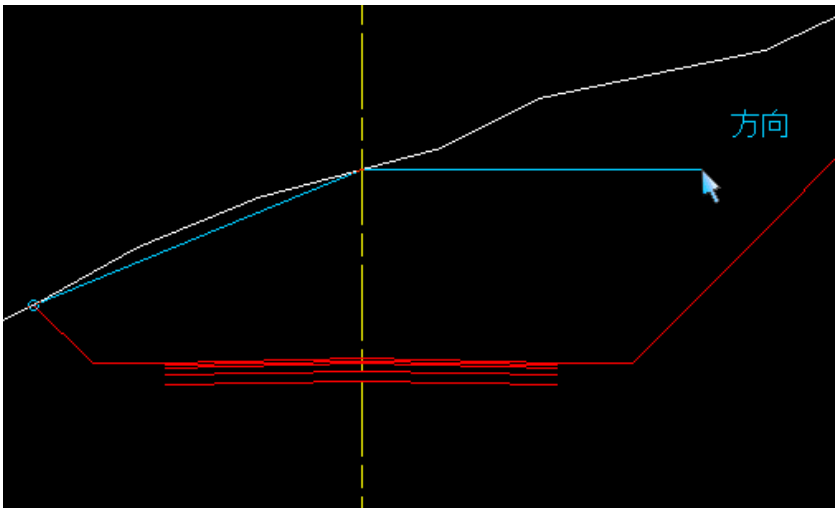
横断図作成 －[寸法]－[引出追加]

横断図に引出を入力する

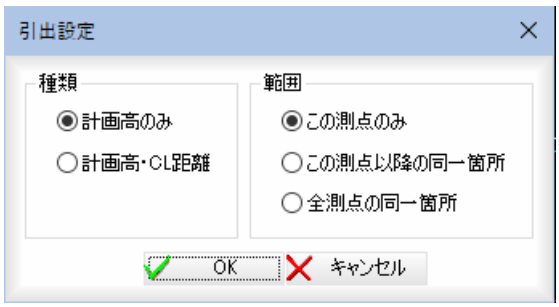
● 引出を入力する

1 横断図設定ウィンドウの[寸法]メニュー－[引出追加]をクリックすると、引出入力モードとなります。

構成点の指示
構成点の１点目をマウスにてクリックします。続けて位置をクリックします。
さらに、方向をクリックします。



2 **引出設定**
「引出設定」ダイアログボックスが表示されますので、各種の設定を行います。

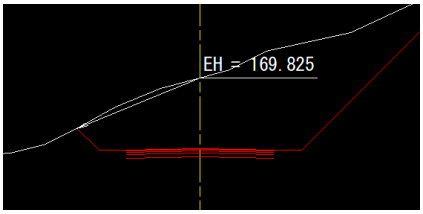


種類
「計画高のみ」、「計画高・CL 距離」いずれかのラジオボタンをクリックして選択します。

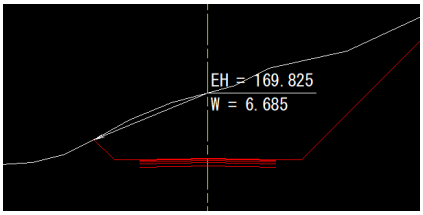
範囲
適用範囲をいずれかのラジオボタンをクリックして選択します。

3 「引出」ダイアログボックスで[OK]をクリックすると、引出を追加します。

▼計画高のみ



▼計画高・CL 距離



横断図作成 －[寸法]－[削除]／[全削除]

寸法を削除する

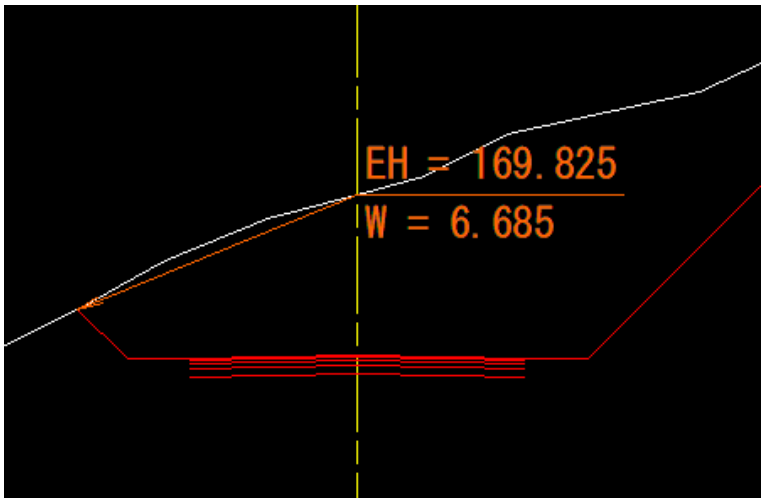
● 指定した寸法を削除する

1 横断図設定ウィンドウの[寸法]メニュー－[削除]をクリックすると、寸法削除モードとなります。

削除する寸法の指示

削除する寸法をマウスにてクリックします。

範囲指定により、複数の寸法を選択することもできます。対象寸法が選択表示されます。



2 寸法が確定すると「寸法削除」ダイアログボックスが表示されます。

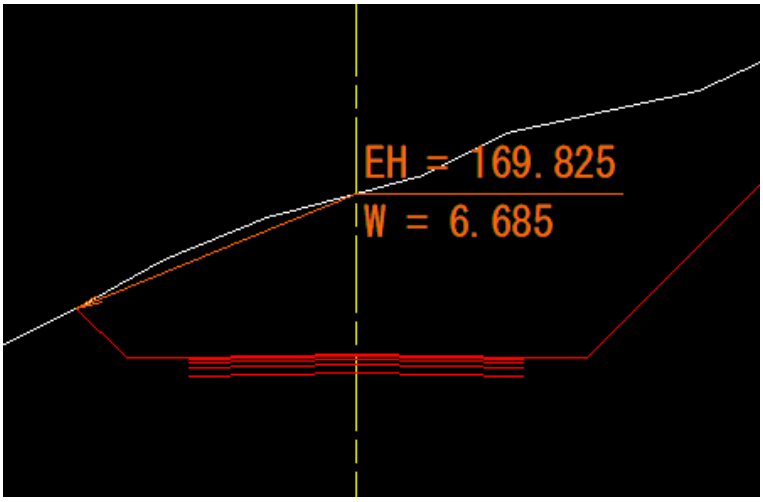
いずれかの適用範囲を選択すると、寸法削除処理が行われます。

● 全ての寸法を削除する

1 横断図設定ウィンドウの[寸法]メニュー[全削除]をクリックすると、寸法全削除モードとなります。

削除する測点の指示

削除する測点をマウスにてクリックします。対象寸法が選択表示されます。



2 「寸法全削除」ダイアログボックスが表示されます。

いずれかの適用範囲を選択すると、寸法全削除処理が行われます。

8 数量表

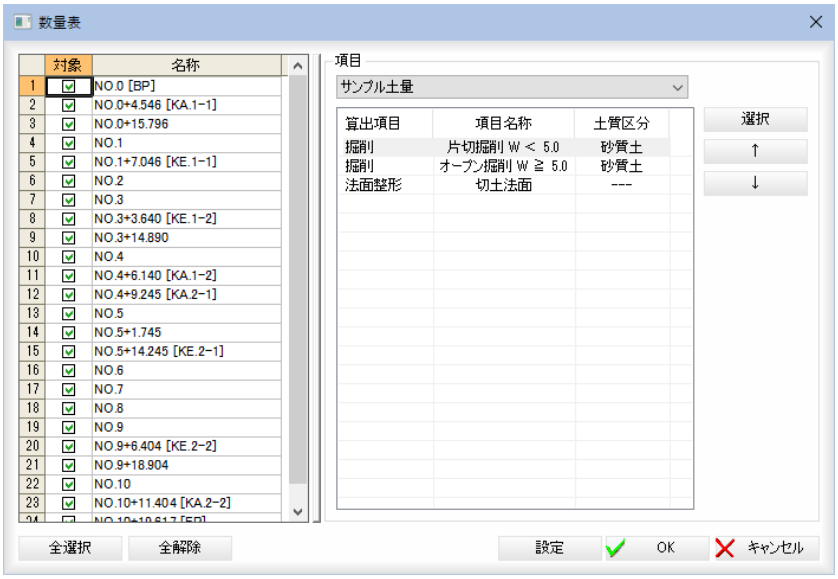
「横断図作成」ウィンドウの[数量表]メニューで、数量表の配置・各種の編集処理を行います。

横断図作成 －[数量表]－[配置]

横断図に数量表を配置する

● 数量表を配置する

1 横断図設定ウィンドウの[数量表]メニュー－[配置]をクリックすると、「数量表」ダイアログボックスが表示されます。各種の設定を行います。



測点一覧の表示

一覧内の「対象」チェックマークのオン・オフで設定します。

[全選択]／[全解除]

一覧表示内のすべてのチェックマークをオン、またはオフにします。

項目の表示

ドロップダウンリストより項目を選択します。

[↑]／[↓]

選択中の項目を一覧表示内で上へ移動、または下へ移動します。

2 **項目の選択**

項目一覧表示の[選択]をクリックすると、「選択」ダイアログボックスが表示されます。

絞り込み

「算出項目」、「項目名称」、「土質区分」のドロップダウンリストより選択します。

一覧表示内

「対象」チェックマークのオン・オフにより設定を行います。

[全選択]／[全解除]

一覧表示内のすべてのチェックマークをオン、またはオフにします。

「選択」ダイアログボックスで[OK]をクリックすると、「数量表」ダイアログボックスに戻ります。

3 数量表の設定

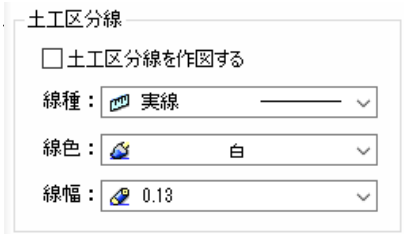
「数量表」ダイアログボックスで[設定]をクリックすると、「数量表設定」ダイアログボックスが表示されます。各種の設定を行います。

出力位置
「測点名の横」、「右側の DL の横」いずれかのラジオボタンをクリックして選択します。
位置調整
「縦」、「横」入力欄内にそれぞれ入力します。

列幅
各項目について「有効」、「列幅」を入力します。
「▲上へ移動」、「▼下へ移動」で順序を変更することができます。

枠線・罫線
「線種」、「線色」、「線幅」のドロップダウンリストより選択します。

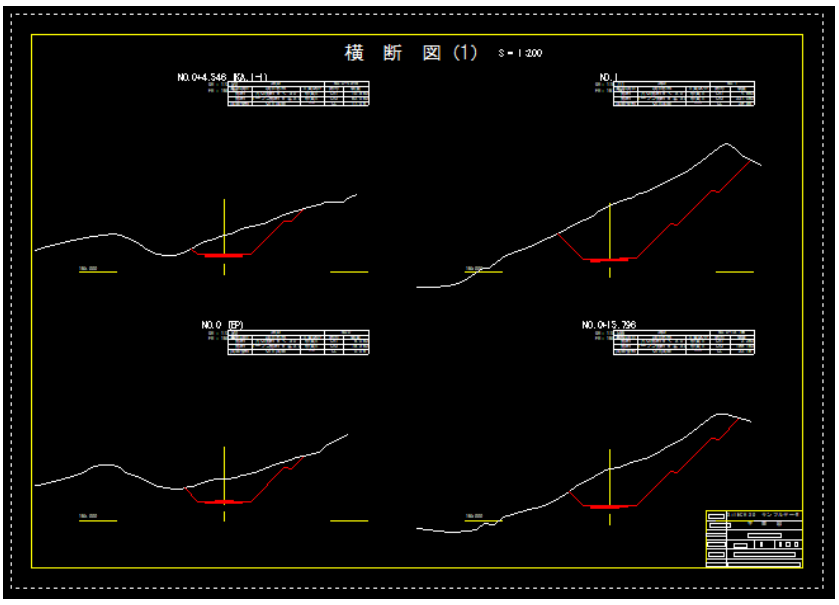
文字
「サイズ」、「色」、「フォント」のドロップダウンリストより選択します。



「土工区分線を作図する」チェックマークをオンにすると、土工区分線を作図します。
「線種」、「線色」、「線幅」のドロップダウンリストより選択します。

「数量表設定」ダイアログボックスで[OK]をクリックすると、「数量表」ダイアログボックスに戻ります。

4 「数量表」ダイアログボックスで[OK]をクリックすると、数量表の配置が実行されます。



● 数量表を移動する

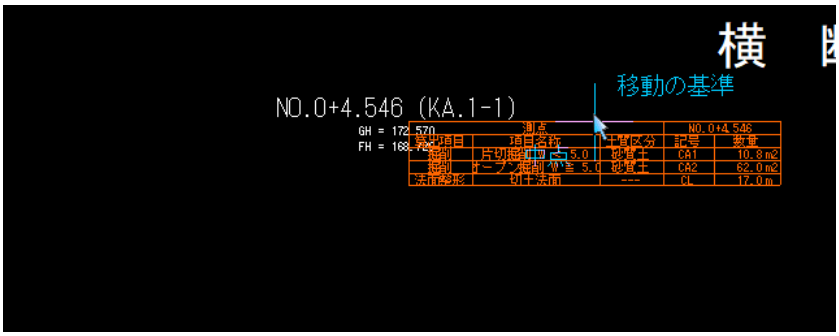
1 横断図設定ウィンドウの[数量表]メニュー－[移動]をクリックすると、数量表移動モードとなります。

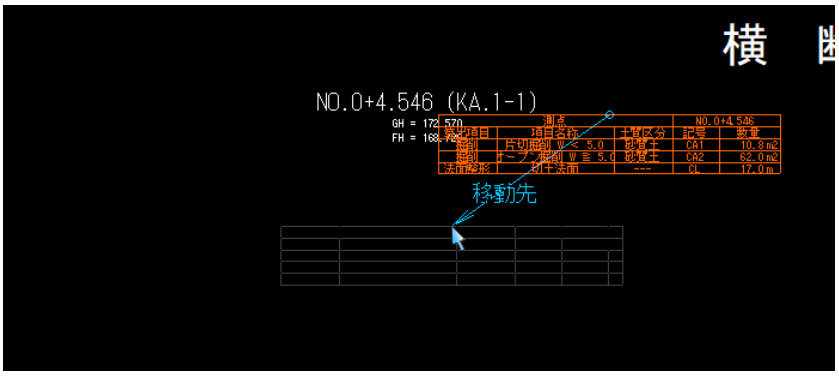
移動する数量表の指示

対象の数量表をマウスにてクリックします。対象の数量表が選択表示されます。

2 **基準点を指示**

マウスにて基準点を設定します。続いて移動先をマウスにて指示します。





3 **適用する範囲**

移動先をクリックすると移動位置が確定し、「数量表移動」ダイアログボックスが表示されます。

いずれかの適用範囲を選択すると、数量表の移動処理が行われます。

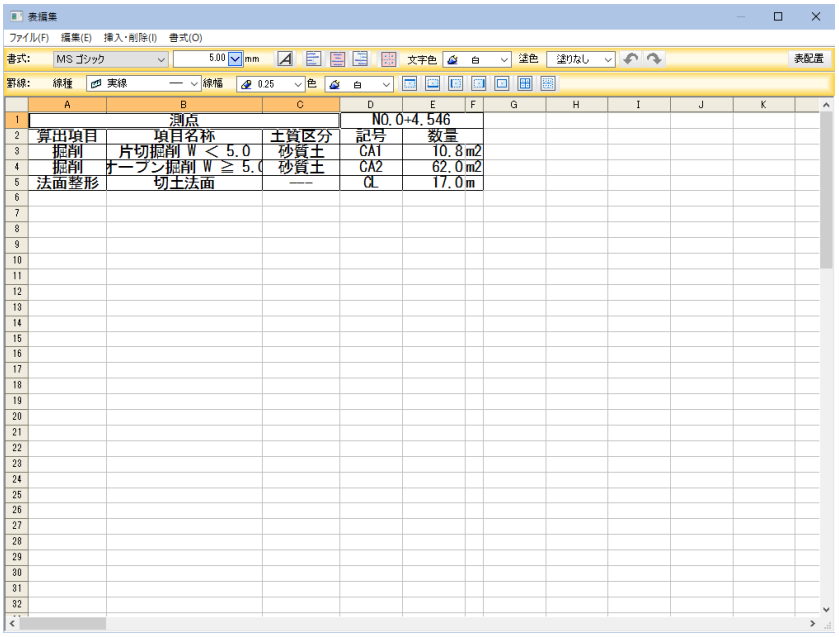
● 数量表を編集する

1 横断図設定ウィンドウの[数量表]メニューー[編集]をクリックすると、数量表編集モードとなります。

編集する数量表の指示

対象の数量表をマウスにてクリックします。

2 「表編集」ダイアログボックスが表示されます。各種の設定を行います。



	A	B	C	D	E
1	測点			NO.0+4.546	
2	算出項目	項目名称	土質区分	記号	数量
3	掘削	片切掘削 W ＜ 5.0	砂質土	CA1	10.8 m2
4	掘削	オープン掘削 W ≧ 5.0	砂質土	CA2	62.0 m2
5	法面整形	切土法面	ーー	CL	17.0 m

以降の操作は、「土量計算」ウィンドウ[作図]メニュー内の、[表配置]ー「表編集」ダイアログボックスの各処理と同様です。⇒参照ページへ

3 [ファイル]ー[表配置]または「表編集」ダイアログボックス右上の[表配置]をクリックすると、横断図面内に編集を行った表が配置されます。

● 数量表を削除する

1 横断図設定ウィンドウの[数量表]メニュー－[削除]をクリックすると、数量表削除モードとなります。

削除する数量表の指示

対象の数量表をマウスにてクリックします。対象の数量表が選択表示されます。
土工区分線を指示した場合、指示した土工区分線を削除することができます。
適用する範囲の設定は表示されません。

2 **適用する範囲**

「数量表削除」ダイアログボックスが表示されます。

いずれかの適用範囲を選択すると、数量表の削除処理が行われます。

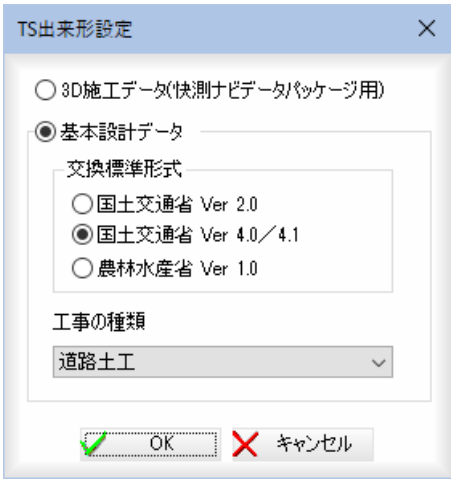
Part 7 ＴＳ出来形設定

1 「TS 出来形設定」の基本操作

「TS 出来形設定」の起動および終了方法、ウィンドウの構成について説明します。

起動と終了

1 横断メニューで[コマンド]－[TS出来形設定]－[TS出来形設定]をクリックすると「TS 出来形設定」ダイアログボックスが表示されます。



対象データの選択

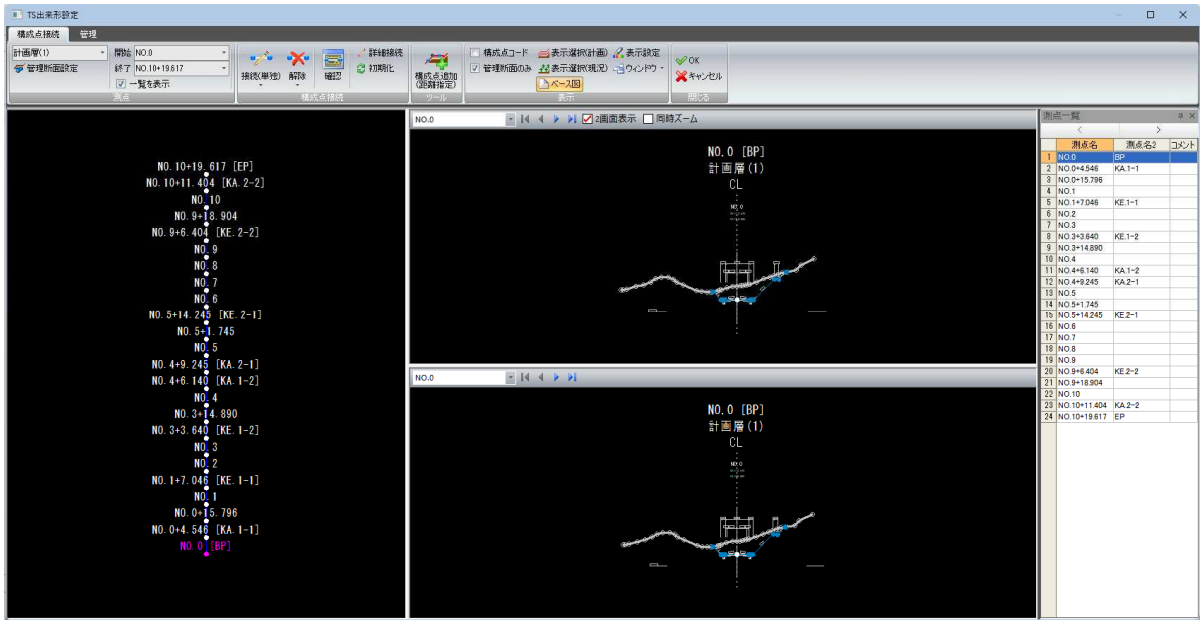
「3D 施工データ(快測ナビデータパッケージ用)」、「基本設計データ」いずれかのラジオボタンをクリックして選択します。

基本設計データの選択

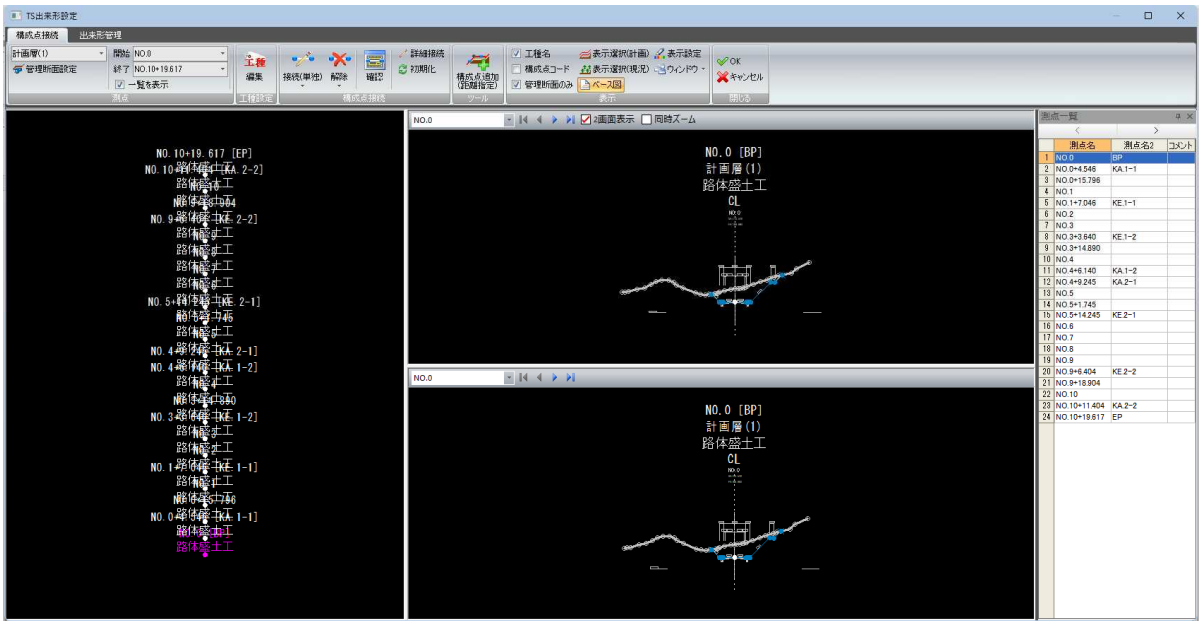
「国土交通省 Ver2.0」、「国土交通省 Ver4.0/4.1」、「農林水産省 Ver1.0」いずれかのラジオボタンをクリックして選択します。
「国土交通省 Ver4.0/4.1」を選択した場合は、工事の種類をドロップダウンリストより選択します。

2 「TS 出来形設定」ダイアログボックスで[OK]をクリックすると、「TS 出来形設定」ウィンドウが表示されます。
各種の設定を行います。

▼「3D 施工データ(快測ナビデータパッケージ用)」を選択した場合



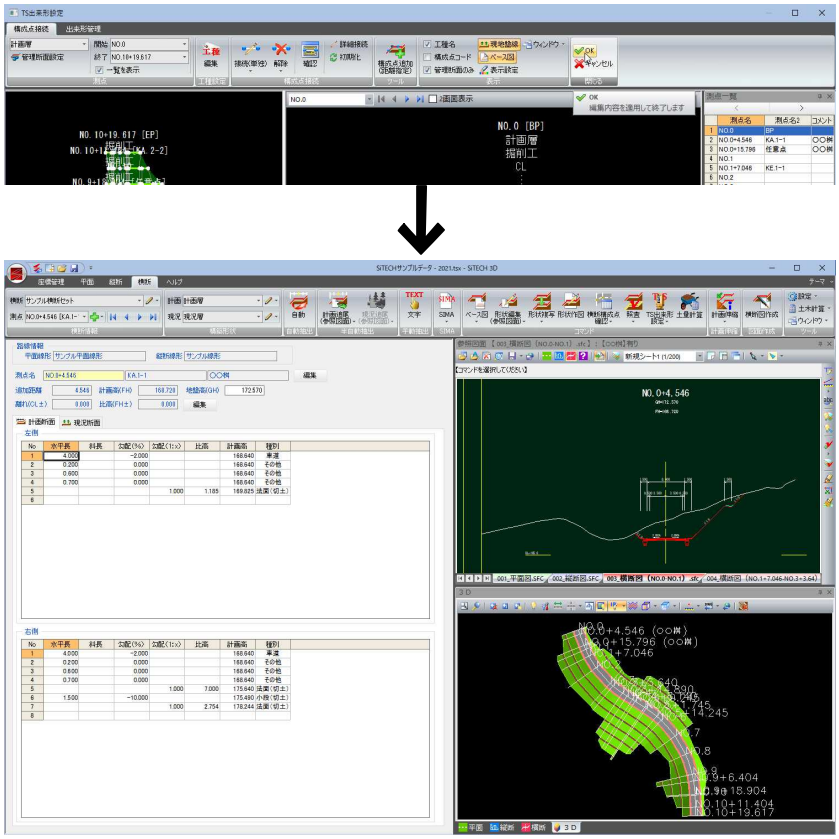
▼「基本設計データ」を選択した場合



3 閉じるメニューの[OK]または[キャンセル]をクリックすると、システム画面に戻ります。

OK　　編集結果を保存して TS 出来形設定ウィンドウを閉じます。

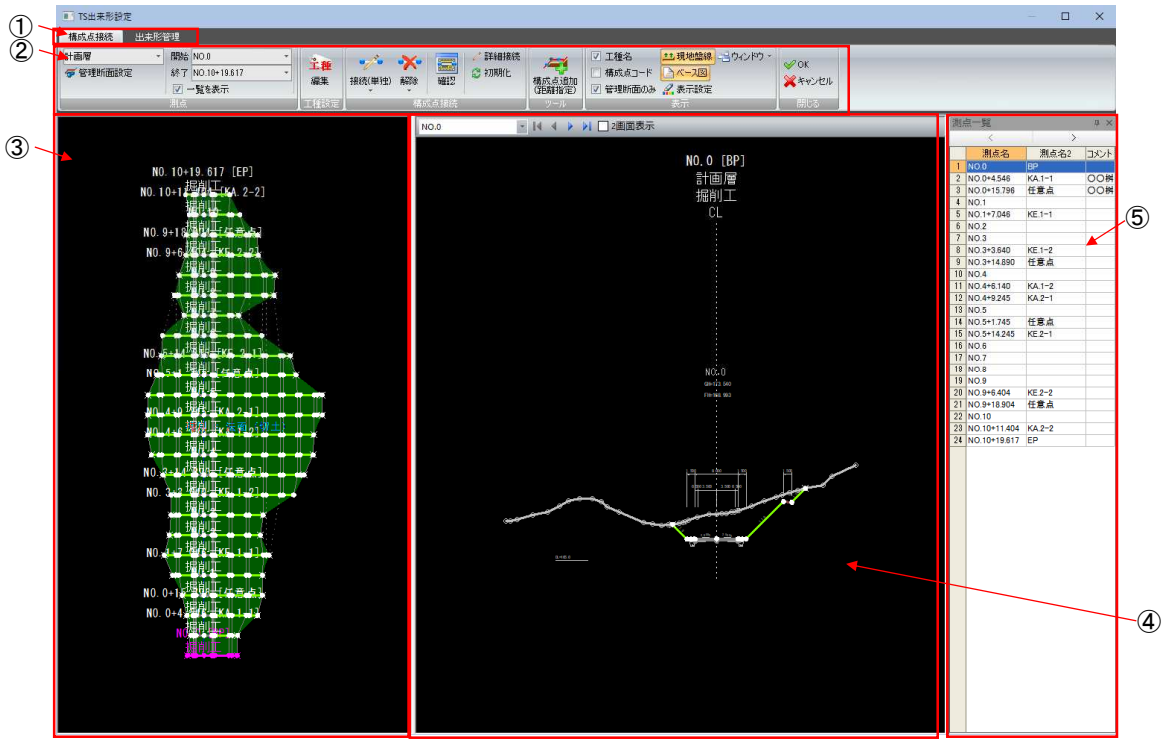
キャンセル　編集結果を破棄して TS 出来形設定ウィンドウを閉じます。



以降、「TS 出来形設定」ダイアログボックスで「基本設計データ」を選択した場合を中心に説明します。

「TS 出来形設定」ウィンドウの画面構成

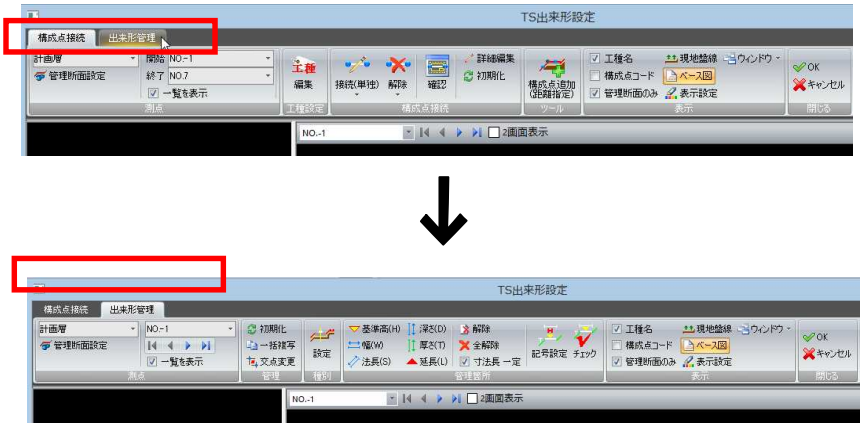
「TS 出来形設定」ウィンドウの画面構成は以下の通りです。



① 切り替えタブ、② リボンメニュー、③ 縦断展開図ウィンドウ、④ 横断面ウィンドウ、⑤ 測点一覧

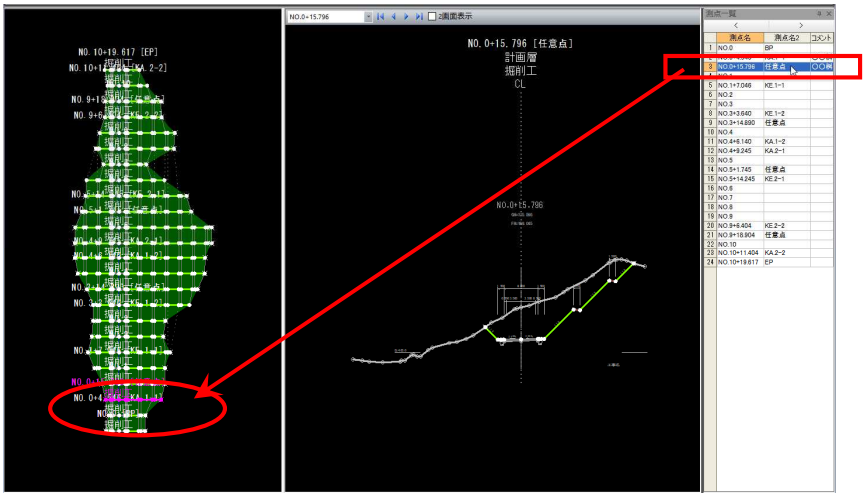
● 切り替えタブ・リボンメニュー

1 リボンメニュー上部の「構成点接続」または「出来形管理」タブ（3D 施工データの場合は、「構成点接続」または「管理」）をクリックするとそれぞれのメニューに切り替わります。

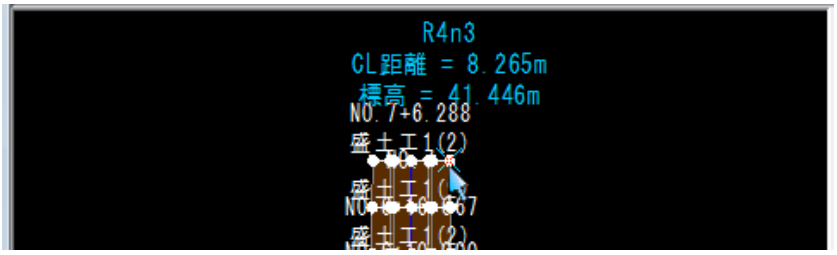


● 縦断展開図ウィンドウ

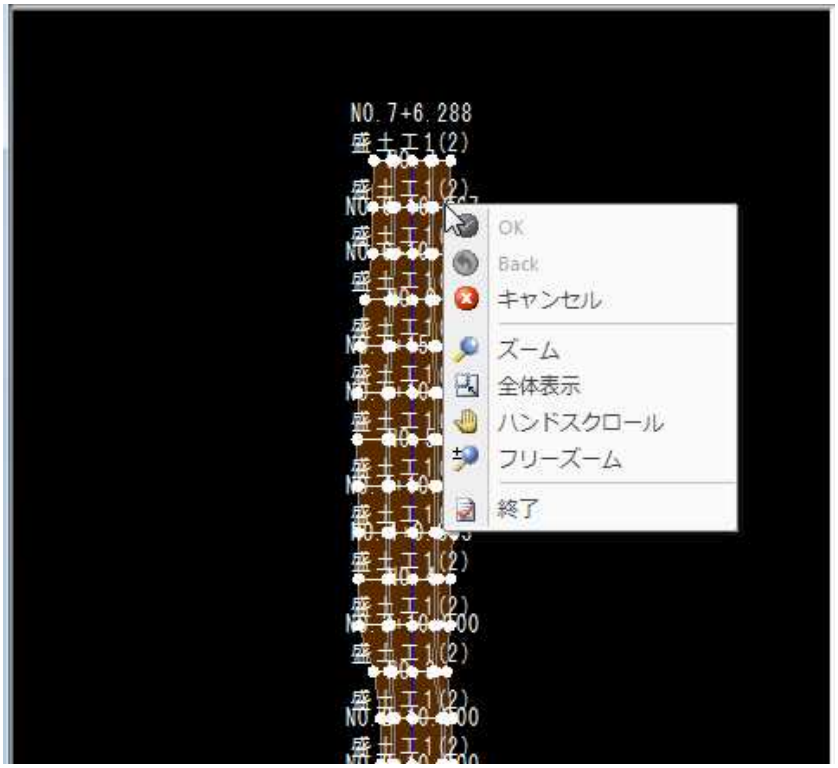
1 縦断展開図ウィンドウでは、測点一覧内で現在選択されている測点がブリンク表示されます。



2 測点位置にマウスカーソルが移動すると、各種の情報が表示されます。



3 縦断展開図ウィンドウ内で右クリックすると、ポップアップメニューが表示されます。各種の処理を行うことができます。



→ OK
作業を確定します。

→ **Back**
ひとつ前の作業に戻します。

→ **キャンセル**
処理実行前に戻します。

→ **ズーム**
ズームモードとなります。ズーム始点→終点をマウスでクリックすると、範囲指定した部分が拡大表示されます。

→ **全体表示**
ズーム表示から全体表示に戻ります。

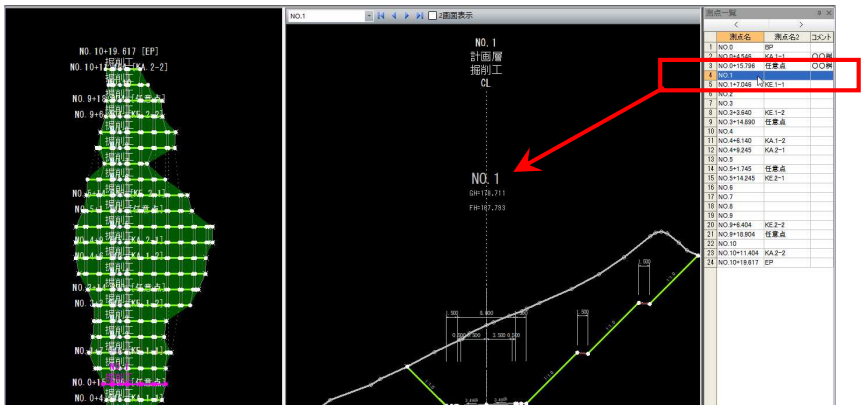
→ **ハンドスクロール**
ハンドスクロールモードとなります。マウスを動かした方向に表示がスクロールします。

→ **フリーズーム**
フリーズームモードとなります。マウスを動かした方向に表示が拡大／縮小します。
上へ移動：拡大
下へ移動：縮小

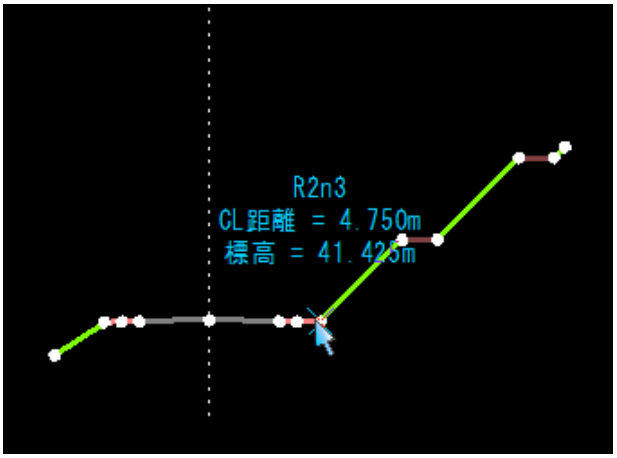
→ **終了**
ズームモード、ハンドスクロールモード、フリーズームモードを終了します。

● 横断面ウィンドウ

1 横断図ウィンドウでは、測点一覧内で現在選択されている測点がウィンドウ内に表示されます。



2 **各種情報の表示**
測点位置にマウスカーソルが移動すると、各種の情報が表示されます。



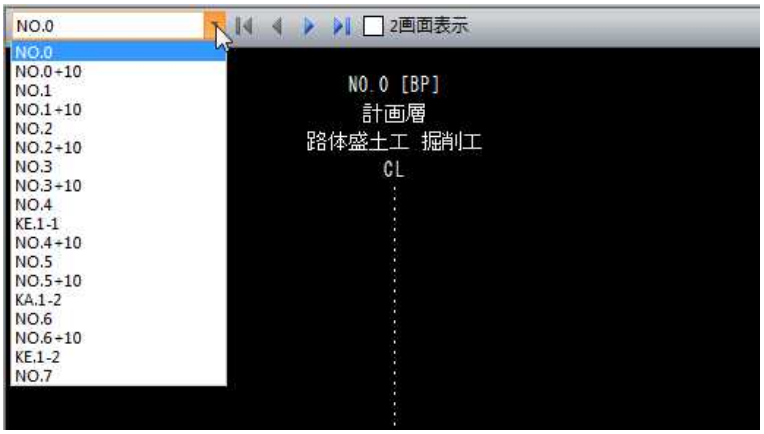
3 ポップアップメニュー

横断面ウィンドウ内で右クリックすると、ポップアップメニューが表示されます。
各種の処理を行うことができます。
操作方法は縦断展開図ウィンドウ内と同様です。

4 測点の切り替え

測点のドロップダウンリストよりいずれかの測点を選択し、表示を切り替えます。
また、 のいずれかのボタンをクリックして測点を切り替えることもできます。

いずれかをクリックして測点の移動を行います。

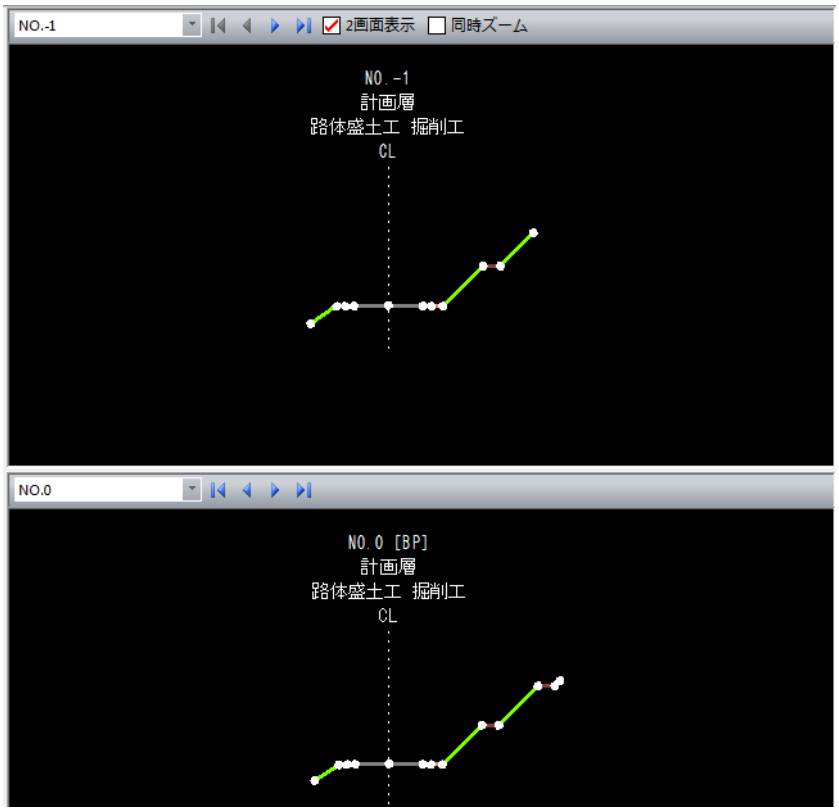


5 2画面表示

「2画面表示」チェックマークをクリックすると、横断図を2画面で表示されます。
それぞれ測点の切り替え操作が行えます。

同時ズーム

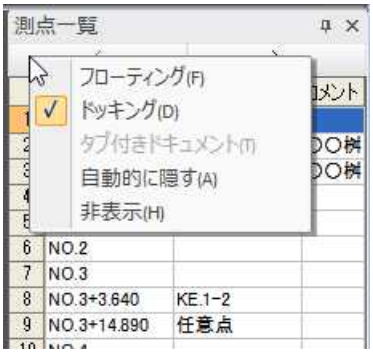
2画面表示中に「同時ズーム」チェックマークをオンにすると、拡大・縮小時に2つの横断図が同じ位置を表示します。



● 測点一覧ウィンドウ

1 測点一覧ウィンドウでは、[＞]、[＜]をクリックすると、一覧表示の次断面、前断面に切り替わります。
測点一覧内で測点を選択すると、縦断展開図ウィンドウ内の測点位置がブリンク表示され、横断面ウィンドウ内にその測点の横断面が表示されます。

2 **ポップアップメニュー**
「測点一覧」ウィンドウ内のタイトルバーで右ボタンをクリックすると、各種のコマンドがポップアップメニュー内に表示されます。



フローティング／ドッキングの切り替え
「測点一覧」ウィンドウの表示をフローティング/ドッキングと切り替えます。
自動的に隠す（または をクリック）
「測点一覧」ウィンドウの表示が自動的に隠されます。
非表示（または をクリック）
「測点一覧」ウィンドウを非表示にします。
いずれの処理も、システム画面内の「参照図面」ウィンドウおよび「プレビュー」ウィンドウ内の各種処理と同様です。

表示メニュー

「TS 出来形設定」ウィンドウの各ウィンドウ内の表示をコントロールします。

●「工種名」、「構成点コード」、「管理断面のみ」の表示オン・オフ

1 「工種名」、「構成点コード」、「管理断面のみ」チェックマークのオン・オフにすると、それぞれの表示がオン・オフされます。

▼ 例）構成点コードを表示

● 表示選択(計画)の設定

1 表示メニューの[表示選択(計画)]をクリックすると、「表示選択(計画)」ダイアログボックスが表示されます。

[全選択]／[全解除]
表示中の計画すべてのチェックマークをオン、またはオフにします。

2 [OK]をクリックすると、「TS 出来形管理」ウィンドウに戻ります。

● 表示選択(現況)の設定

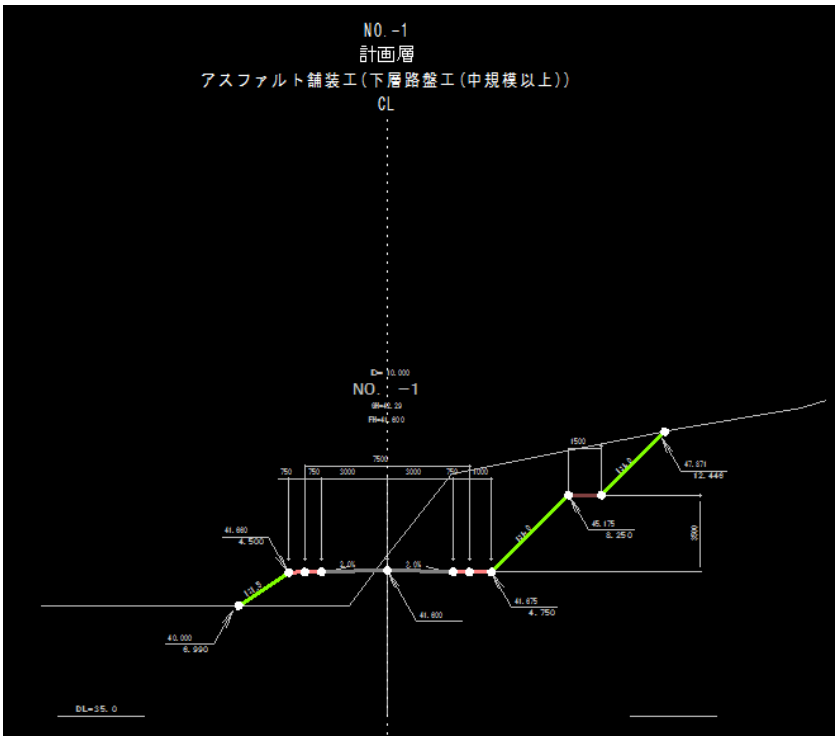
1 表示メニューの[表示選択(計画)]をクリックすると、「表示選択(現況)」ダイアログボックスが表示されます。

[全選択]／[全解除]
表示中の現況すべてのチェックマークをオン、またはオフにします。

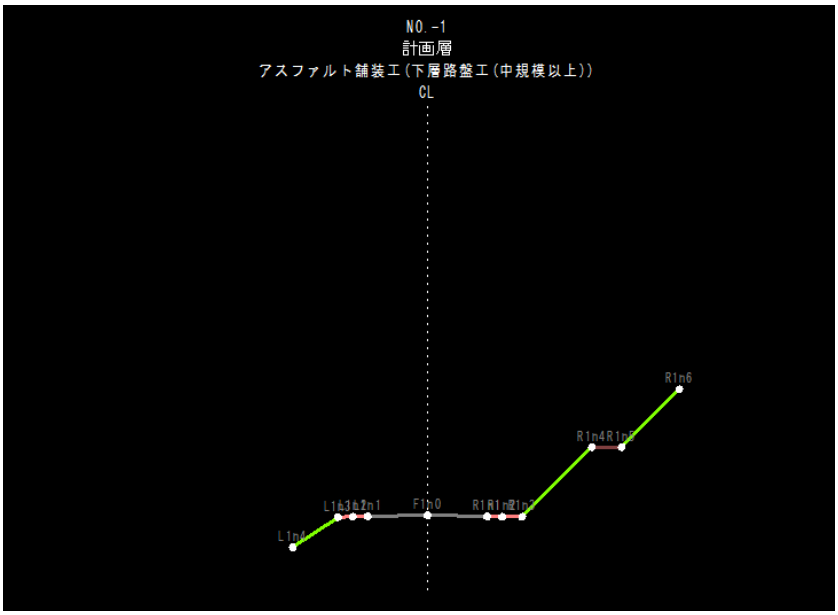
2 [OK]をクリックすると、「TS 出来形管理」ウィンドウに戻ります。

● ベース図のオン・オフを切り替える

1 表示メニューの[ベース図]をクリックすると、ベース図表示のオン・オフの切り替えが行えます。
オンの場合、背景は細くグレー、横断プレビューは太く表示されます。
▼ベース図表示：オン



▼ベース図表示：オフ



● 表示設定

1 表示メニューの[表示設定]をクリックすると、「横断表示設定」ダイアログボックスが表示されます。

3D表示設定に色を設定する

「3D表示設定に色を設定する」チェックマークをオンにすると、3Dビューに、ここで設定した色が適用されます。

センター点の描画位置を固定する

「センター点の描画位置を固定する」チェックマークをオンにすると、表示測点の変更時、センター点の描画位置を固定します。

初期化

[初期化]をクリックすると、設定を初期状態に戻します。

2 「色」欄内の各色をダブルクリック、または「背景色」ボタンをクリックすると、「色の設定」ダイアログボックスが表示されます。

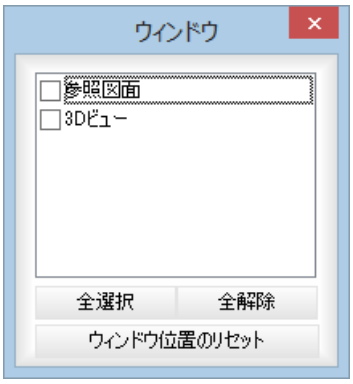
いずれかの色を選択し、[OK]をクリックすると、「横断表示設定」ダイアログボックスに戻ります。

3 「横断表示設定」ダイアログボックスで[OK]をクリックすると、「TS 出来形管理」ウィンドウに戻ります。

● ウィンドウの表示／非表示を切り替える

1 **「ウィンドウ」ダイアログボックスで切り替える**

表示メニューの[ウィンドウ]をクリックすると、「ウィンドウ」ダイアログボックスが表示されます。



各種ウィンドウの表示/非表示をチェックマークのオン／オフにより選択します。

[全選択]／[全解除]

表示中の画面すべてのチェックマークをオン、またはオフにします。

[ウィンドウ位置のリセット]

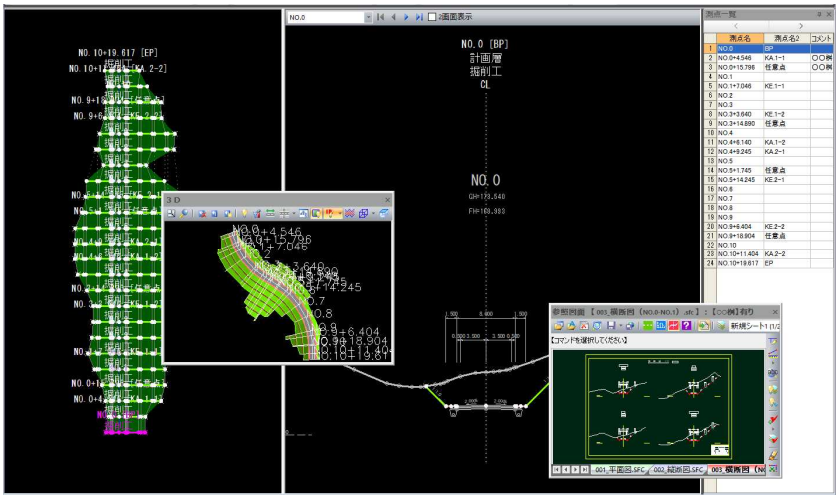
[ウィンドウ位置のリセット]をクリックすると、確認メッセージが表示されます。

[はい]をクリックすると、次回起動時に各種ウィンドウの位置をリセットします。

2 ドロップダウンリストで切り替える

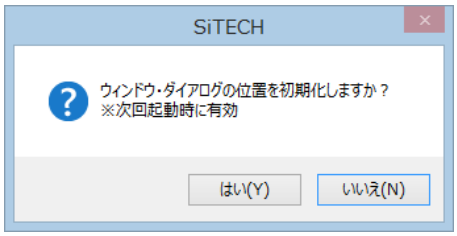
表示メニューの[ウィンドウ]のドロップダウンリストよりチェックマークのオン／オフにより表示を切り替えます。

チェックマークがオンになっている画面が表示されます。



3 ウィンドウ位置のリセット

表示メニューの[ウィンドウ位置のリセット]をクリックすると、確認メッセージが表示されます。



[はい]をクリックすると、次回起動時に各種ウィンドウの位置をリセットします。

閉じるメニュー

「TS 出来形設定」ウィンドウを閉じる操作を行います。

● ＯＫ／キャンセルの操作方法

1 閉じるメニューの[OK]または[キャンセル]をクリックすると、システム画面に戻ります。

OK　　編集結果を保存して TS 出来形設定ウィンドウを閉じます。
キャンセル　編集結果を破棄して TS 出来形設定ウィンドウを閉じます。

2 測点（構成点接続タブ）

「TS 出来形設定」ウィンドウの構成点接続モードで、管理断面設定や開始測点および終了測点の選択、測点の一覧ウィンドウの表示など、各種の測点処理を行います。

構成点接続 －[測点]－[管理断面設定]

管理断面を設定する

● 管理断面設定の操作方法

1 [測点]－[管理断面設定]をクリックすると、「管理断面設定」ダイアログボックスが表示されます。

管理断面に設定する測点を管理欄のチェックマークをオン／オフして選択します。

[全選択]／[全解除]

すべてのチェックマークをオン、またはオフにします。

2 [OK]をクリックすると、「TS 出来形設定」ウィンドウの構成点接続モードに戻ります。

構成点接続 －[測点]－開始測点、終了測点の選択

開始測点、終了測点を選択する

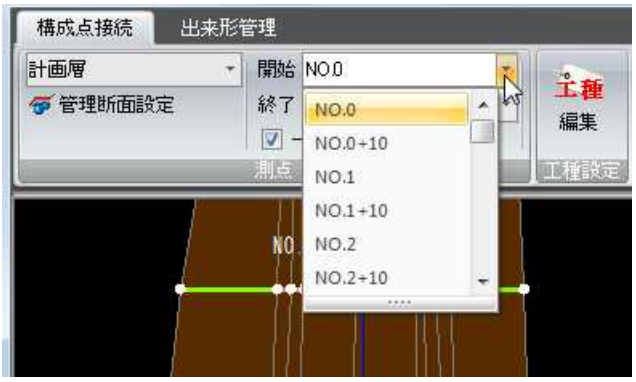
● 開始測点、終了測点の指定方法

1 構築形状の選択

ドロップダウンリストより、構築形状をクリックして選択します。

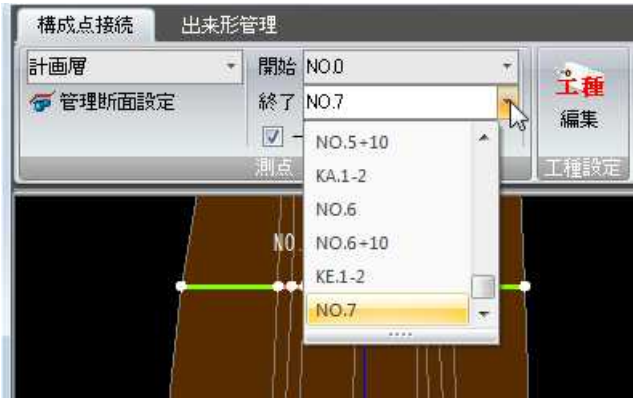
2 開始測点の指定

[測点]－[開始]のドロップダウンリストより、開始測点をクリックして選択します。



3 終了測点の指定

[測点]－[終了]のドロップダウンリストより、終了測点をクリックして選択します。



4 測点一覧表示のオン・オフ

「一覧を表示」チェックマークをクリックすると、一覧表示のオン・オフが行われます。初期状態はオンです。

3 工種設定（構成点接続タブ）

「TS 出来形設定」ウィンドウの構成点接続モードで、指定した測点の工種を編集します。「国土交通省 Ver2.0」と「国土交通省 Ver4.0/4.1」および「農林水産省 Ver1.0」ではウィンドウ内の動作が変わります。

「国土交通省 Ver2.0」　→測点指定後の「工種設定」ダイアログボックス内で[工種一覧]処理を選択可能です。

「国土交通省 Ver4.0/4.1」および「農林水産省 Ver1.0」

→測点指定後の「工種設定」ダイアログボックス内では選択のみです。

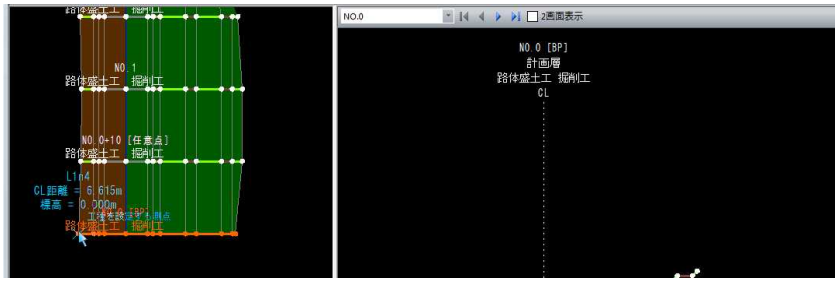
構成点接続 －[工種設定]－[編集]

工種

指定した測点の工種を編集する

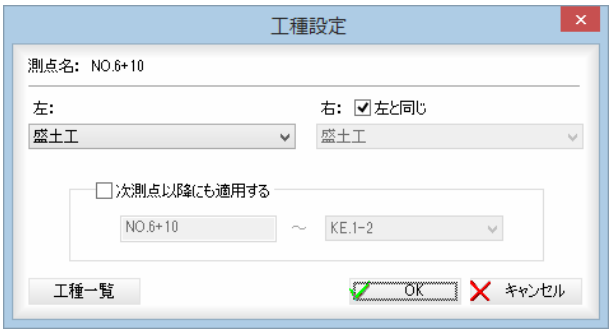
● 工種設定の操作方法

1 [工種設定]－[編集]をクリックすると、測点指定モードとなりますので、いずれかの測点をクリックします。

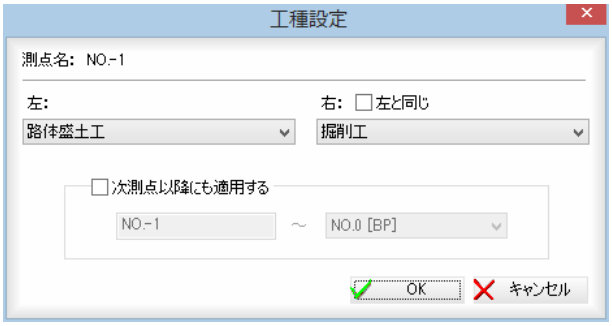


2 「工種設定」ダイアログボックスが表示されます。

▼「国土交通省 Ver2.0」の場合



▼「国土交通省 Ver4.0/4.1」および「農林水産省 Ver1.0」の場合

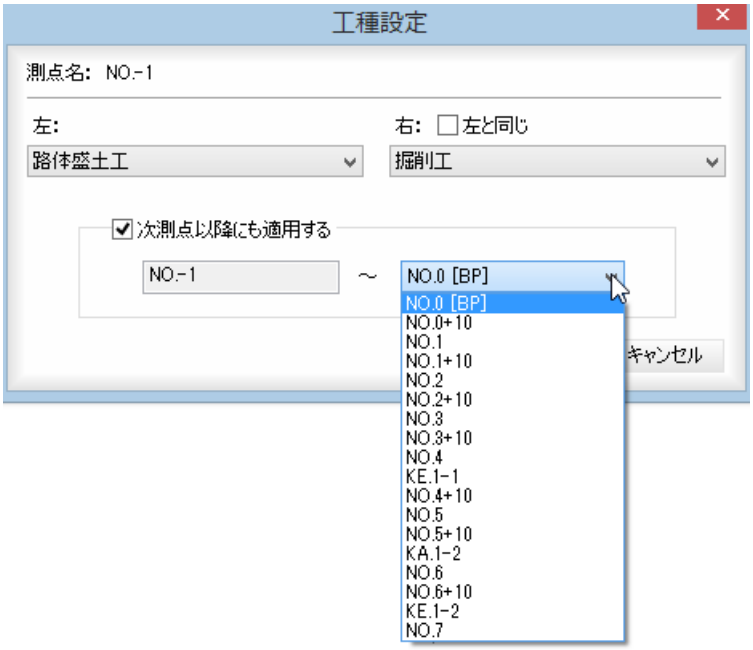


工種の選択

「左」および「右」のドロップダウンリストより、いずれかの工種を選択します。
「右」の場合、「左と同じ」チェックマークをオンにすると、左側で選択した工種と同じものになります。

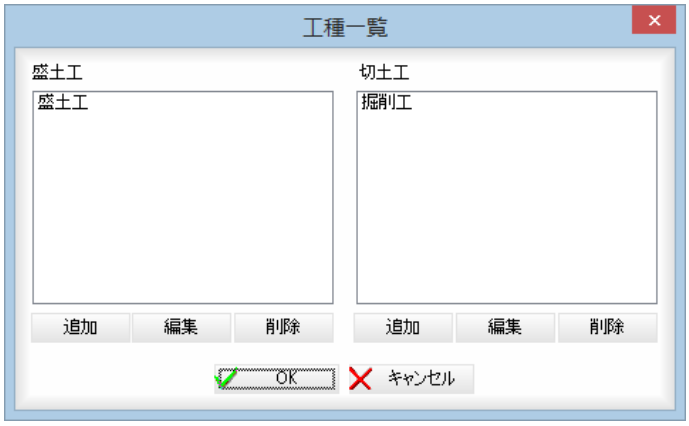
次測点以降にも適用する

「次測点以降にも適用する」チェックマークをオンにすると、ドロップダウンリストより適用範囲を選択することができます。



工種一覧（「国土交通省 Ver2.0」のみ）

[工種一覧]をクリックすると、「工種一覧」ダイアログボックスが表示されます。



盛土工、切土工それぞれ一覧表示されます。

追加／編集／削除

[追加]をクリックすると、工種の名称入力ウィンドウが表示されますので、名称を入力し、[OK]をクリックすると、一覧内に追加されます。
[編集]をクリックすると、現在選択中の工種の名称入力ウィンドウが表示されますので、名称を入力し、[OK]をクリックすると、編集されます。
[削除]をクリックすると、現在選択中の工種が削除されます。ただし、システムの既定の工種名は削除することができません。

「工種一覧」ダイアログボックスで[OK]をクリックすると、「工種設定」ダイアログボックスに戻ります。

3 「工種設定」ダイアログボックスで[OK]をクリックすると、「TS 出来形設定」ウィンドウに戻ります。

4 構成点接続（構成点接続タブ）

「TS 出来形設定」ウィンドウの構成点接続モードで、構成点接続の各種編集を行います。

構成点接続 －[構成点接続]－[接続]

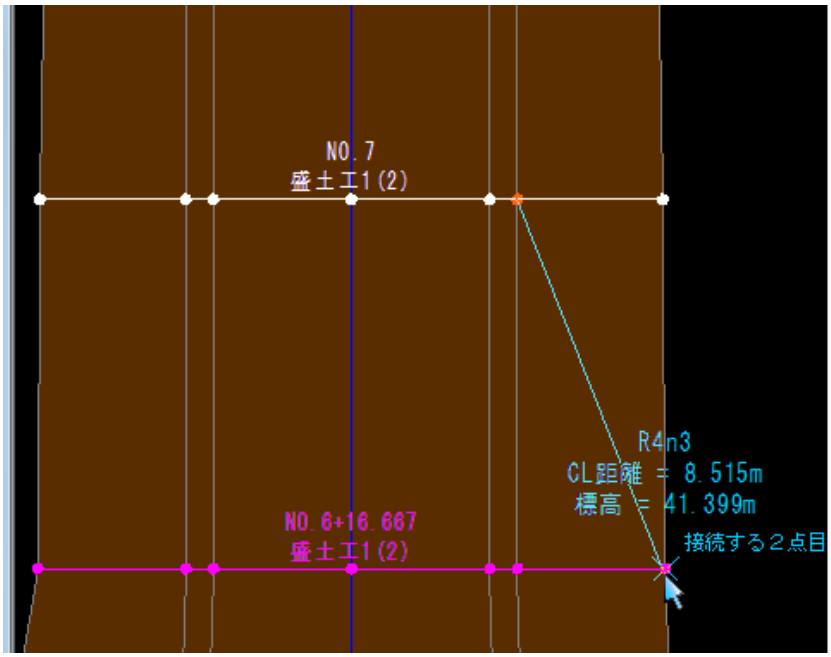
構成点を接続する

接続方法には、接続（単独）と接続（連続）の２つのモードがあります。

● 接続(単独)の操作方法

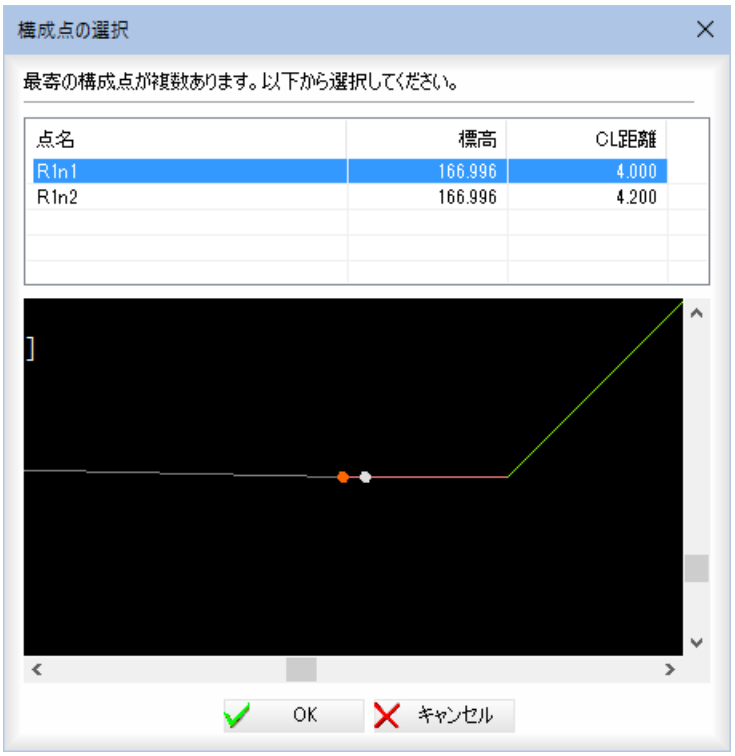
・横断プレビュー画面からも測点を指定することができます。

1 [構成点接続]－[接続（単独）]をクリックすると、接続点１点目指定モードとなりますので、いずれかの測点をクリックします。

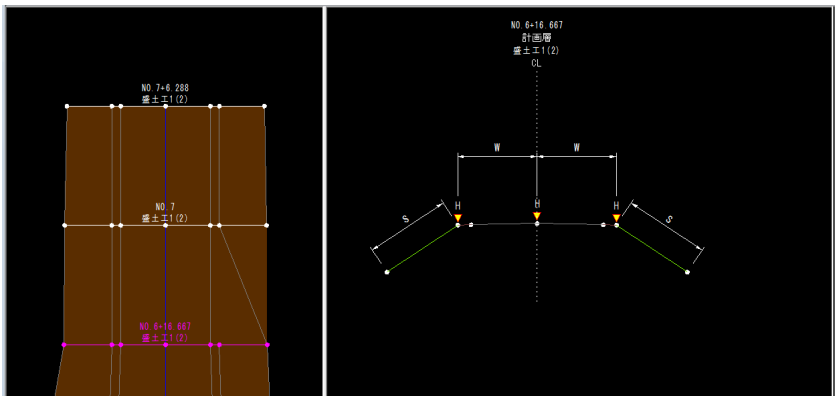


構成点の選択

測点選択後に構成点が複数ある場合、「構成点の選択」ダイアログボックスが表示されます。いずれかを選択し、[OK]をクリックします。

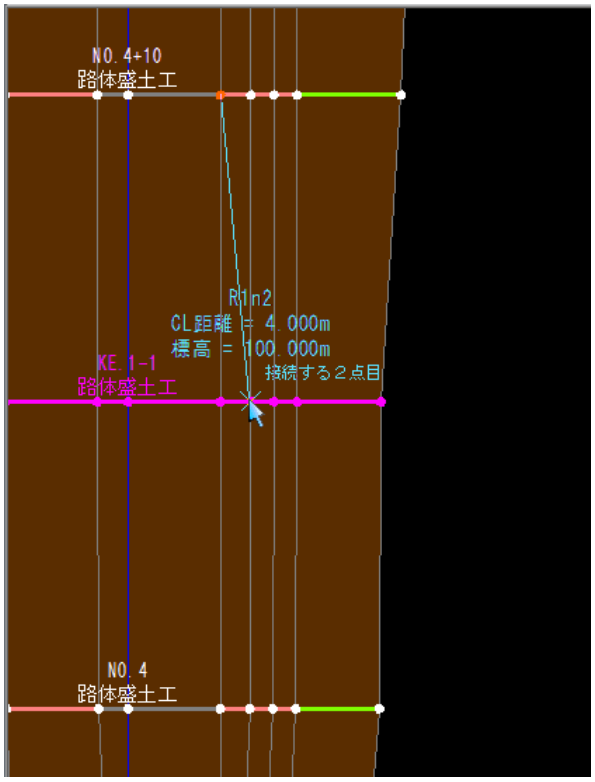


2 2点目をクリックまたは、決定すると、構成点が接続されます。

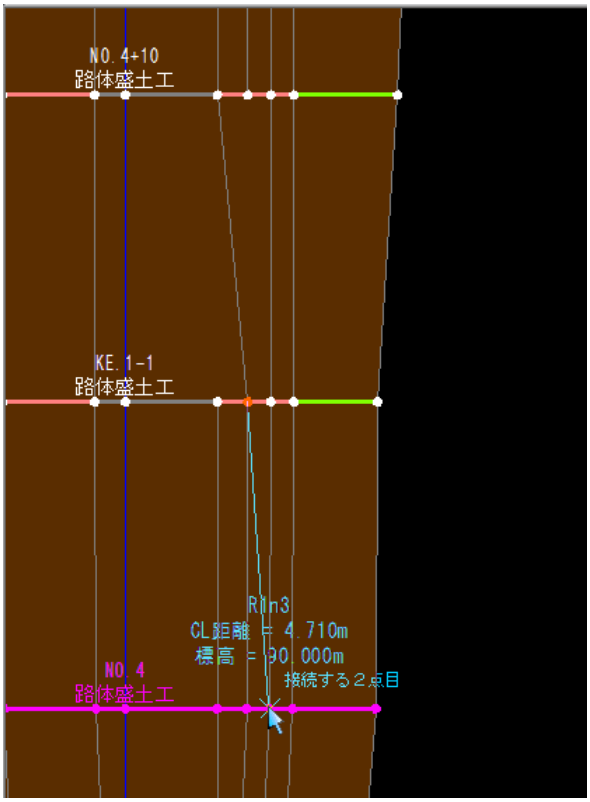


● 接続(連続)の操作方法

1 [構成点接続]－[接続(連続)]をクリックすると、接続点１点目指定モードとなりますので、いずれかの測点をクリックします。



2 ２点目をクリックすると、続いて次の点を指定することができます。



3 右ボタンをクリックしポップアップメニューから[OK]をクリックすると、構成点が接続されます。

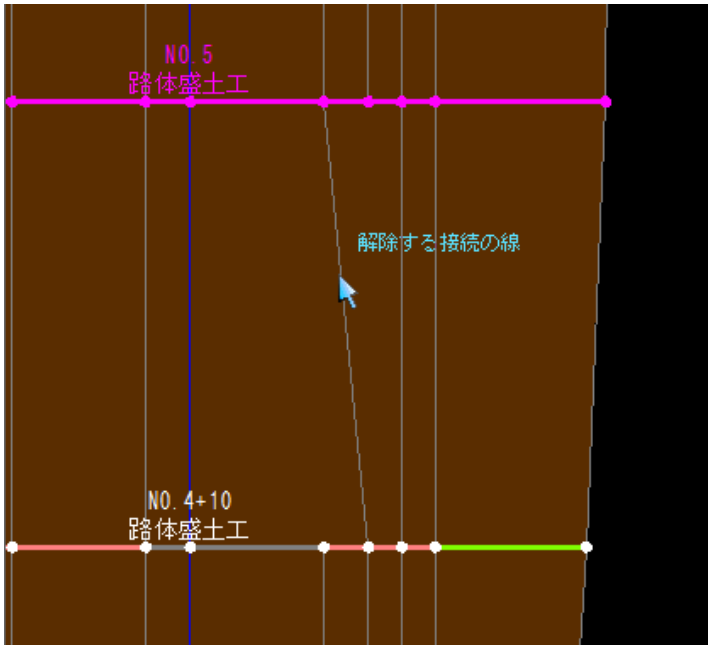
構成点接続 －[構成点接続]－[解除]

構成点接続を解除する

構成点接続を解除します。解除方法には、任意の箇所の解除と全解除の２つのモードがあります。

● 任意解除の操作方法

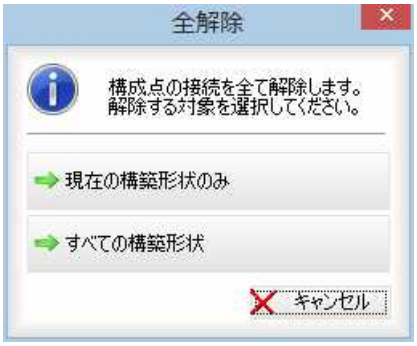
1 [構成点接続]－[解除]をクリックすると、解除する接続の線指定モードとなりますので、いずれかの接続の線をクリックします。



2 構成点接続の解除が行われます。

● 全解除の操作方法

1 [構成点接続]－[解除]－[全解除]をクリックすると、「全解除」ダイアログボックスが表示されます。



2 [現在の構築形状のみ]または[すべての構築形状]をクリックすると、選択した対象範囲で全ての構成点接続の解除が行われます。

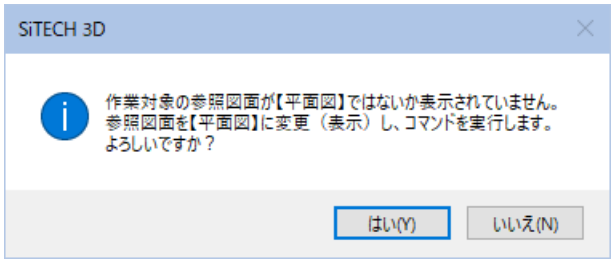
構成点接続 －[構成点接続]－[確認]

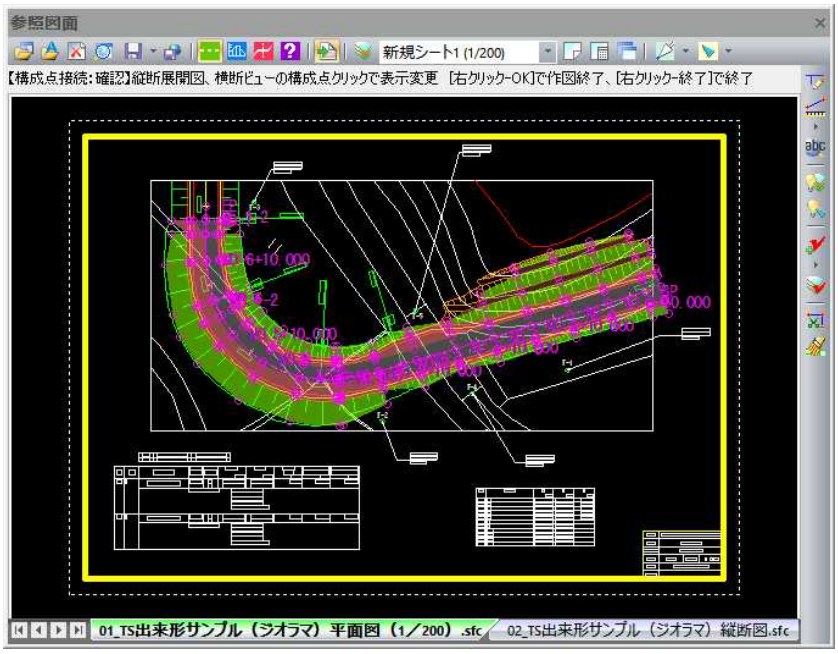
構成点接続を確認する

構成点接続で繋いだ線分を参照図面（平面図）上に表示させ、確認します。

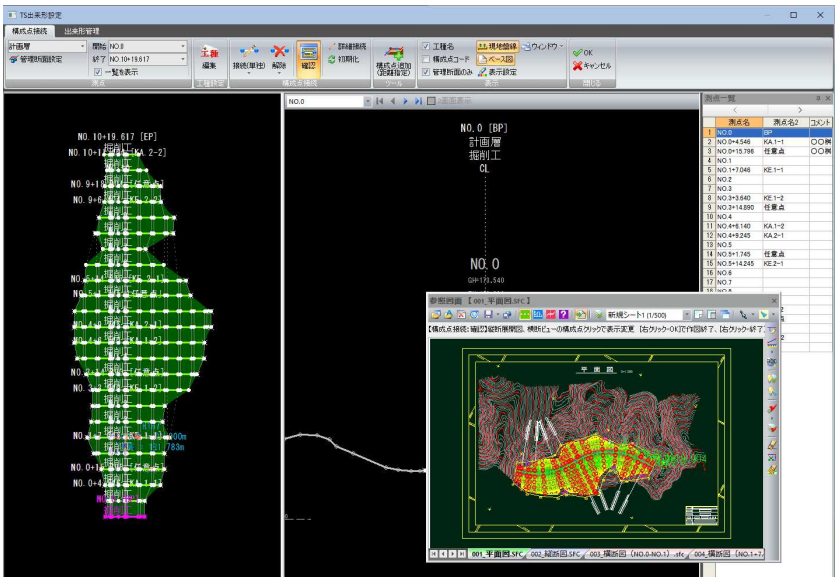
● 確認の操作方法

1 [構成点接続]－[確認]をクリックすると、参照図面を表示していない場合のみ、確認メッセージが表示されますので、[はい]をクリックします。参照図面が表示されます。

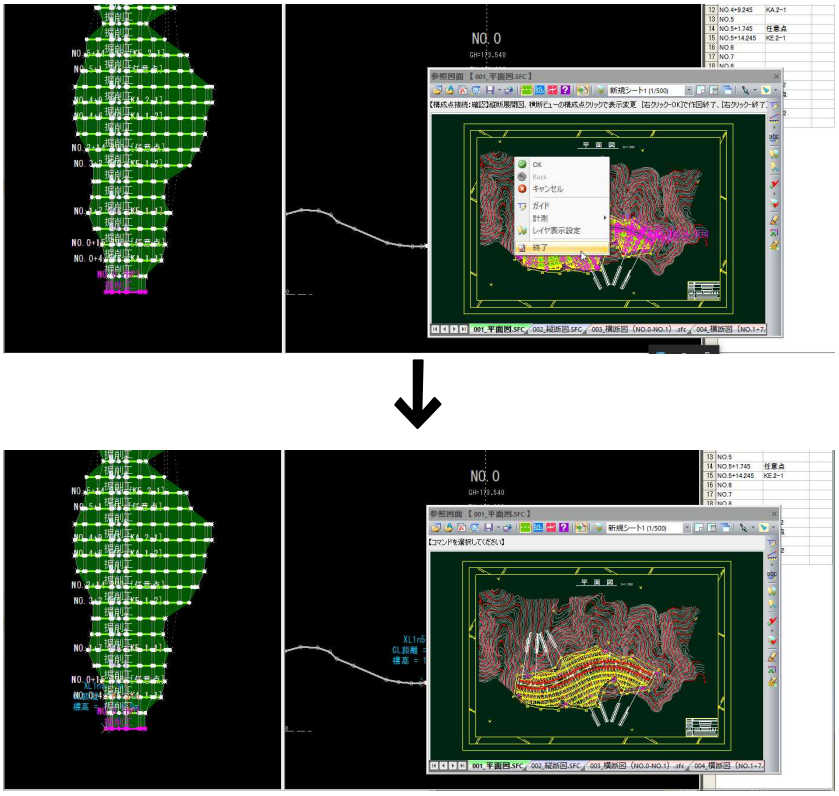




縦断展開図、横断ビューの構成点をクリックすると、表示が変更されます。
参照図面表示中は、測点メニューの管理断面設定と側点の開始・終了、および表示メニューの構成点コード、管理断面のみのチェックオンオフ処理を行うことができます。



2 参照図面内で右クリックしポップアップメニューから[終了]をクリックすると、参照図面内の確認表示を終了します。
[構成点接続]－[確認]をクリックすると、確認表示モードに戻ります。

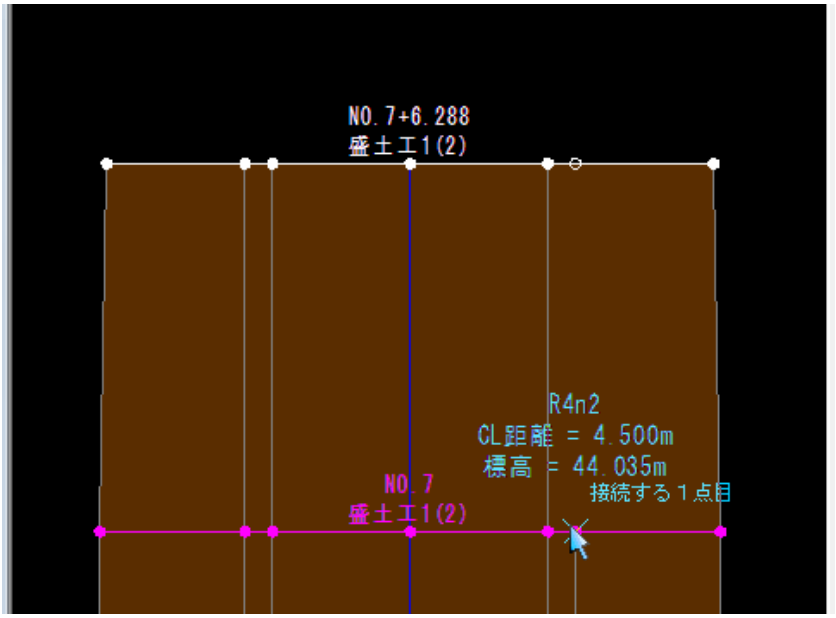


構成点接続 －[構成点接続]－[詳細編集]

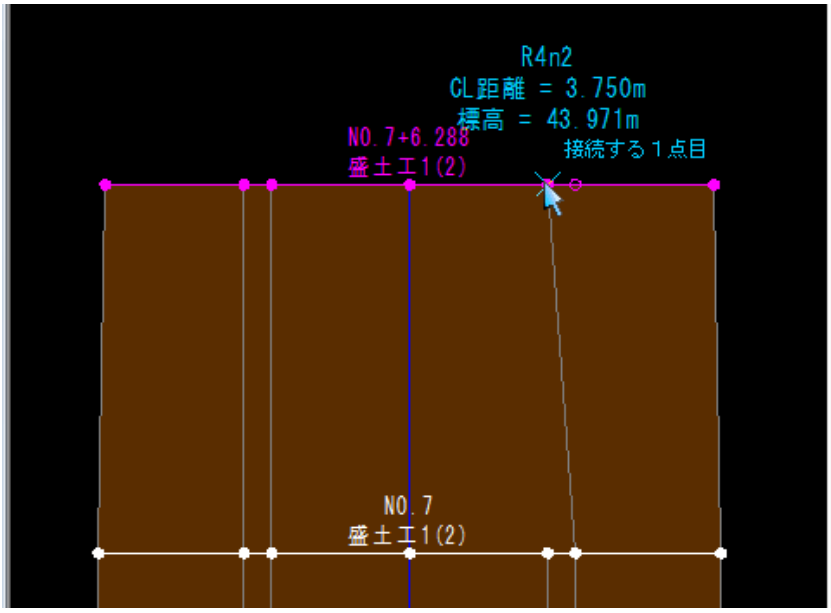
構成点接続を詳細に編集する

● 詳細編集の操作方法

1 [構成点接続]－[詳細編集]をクリックすると、接続点１点目指定モードとなりますので、いずれかの測点をクリックします。
※すでに接続が存在する場合、編集対象とする接続線をクリックします。
（ポップアップメニューから[OK]をクリックすると新しい接続を作成します。）



2 ２点目をクリックすると、その構成点に接続することができます。
※すでに接続が存在する場合、接続対象とする接続線をクリックします。
（ポップアップメニューから[OK]をクリックすると新しい接続を作成します。）



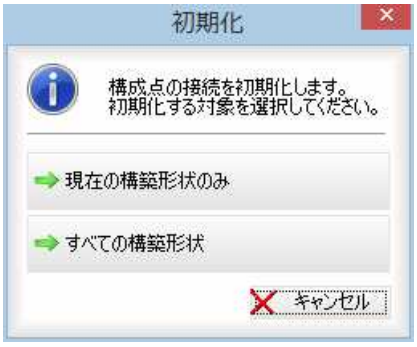
3 ポップアップメニューから[OK]をクリックすると、構成点接続処理が行われます。

構成点接続 －[構成点接続]－[初期化]

構成点接続を初期化する

● 初期化の操作方法

1 [構成点接続]－[初期化]をクリックすると、「初期化」ダイアログボックスが表示されます。



2 [現在の構築形状のみ]または[すべての構築形状]をクリックすると、「構築形状の選択」ダイアログボックスが表示されます。「対象」チェックマークをオンにして、対象を選択します。

[OK]をクリックすると、選択した対象範囲で構成点接続の状態が初期化されます。

5 ツール（構成点接続タブ）

「TS 出来形設定」ウィンドウのツールモードで、法肩、法尻から指定した水平距離を省いた横断点を作成します。

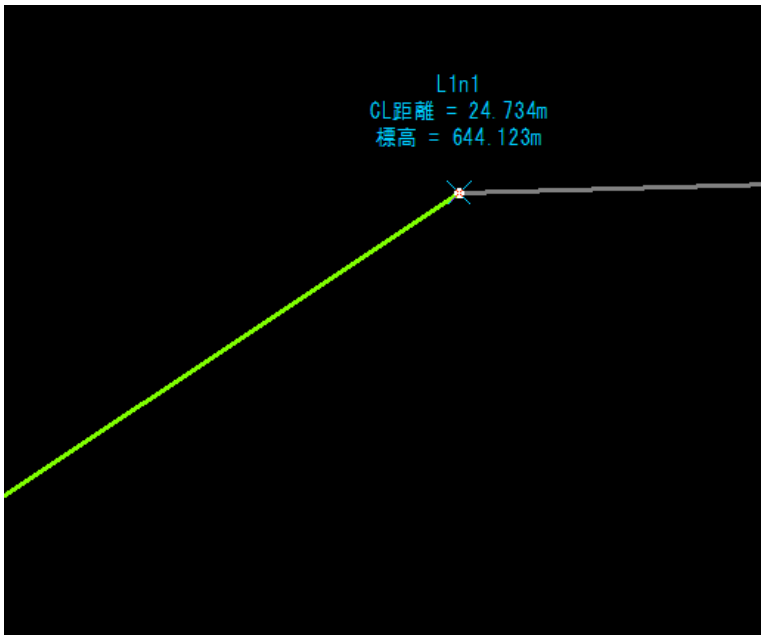
構成点接続 －[ツール]－[構成点追加(距離指定)]

構成点を追加する

● 構成点追加(距離指定)

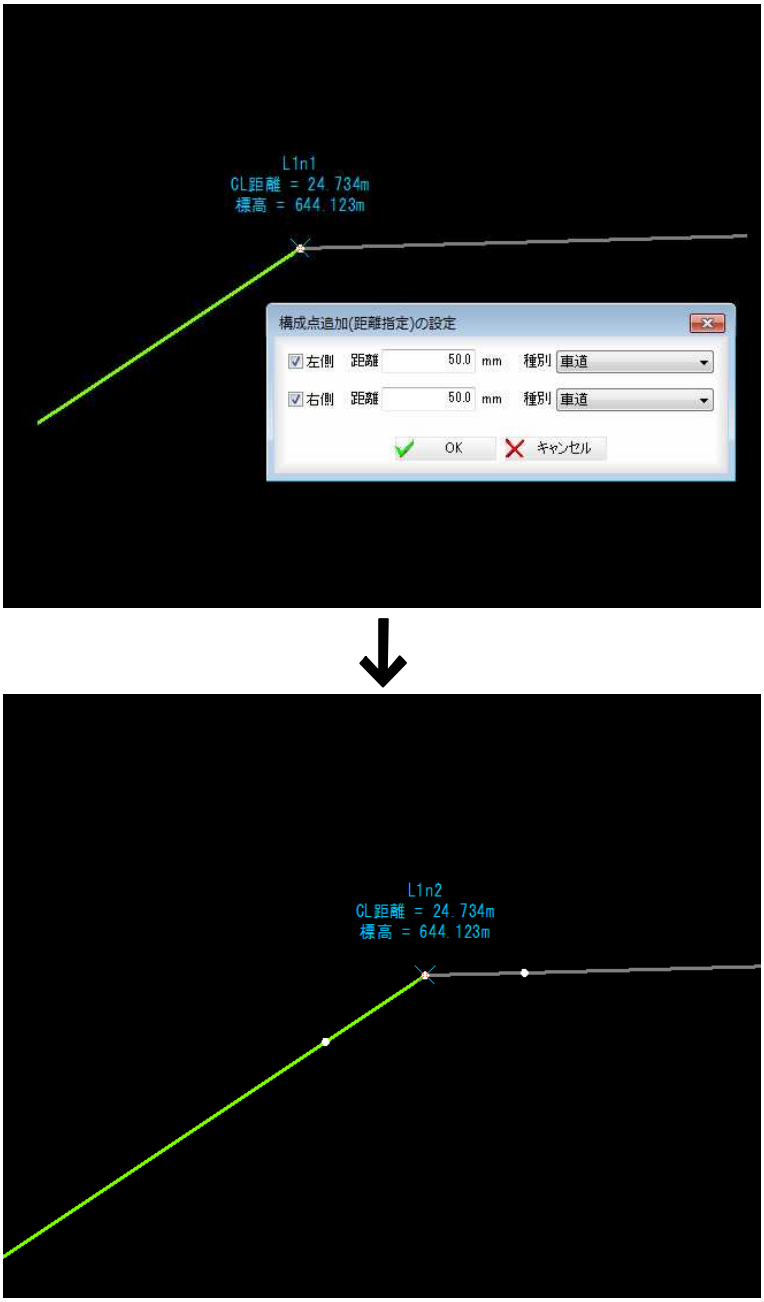
1 [ツール]－[構成点追加(距離指定)]をクリックすると、対象構成点指定モードとなりますので、いずれかの端点をクリックします。
「構成点追加(距離指定)の設定」ダイアログボックスが表示されます。

・縦断展開図・横断プレビューウィンドウのどちらでも対象構成点を指定することができます。



左側・右側
「左側」、「右側」チェックマークをオンにすると、それぞれの設定を有効とします。
距離
「距離」入力欄内に法肩、法尻からの水平距離の指定を入力します。
種別
ドロップダウンリストより、いずれかの種別を選択します。

2 [OK]をクリックすると、構成点が追加されます。



6 測点（出来形管理タブ）

「TS 出来形設定」ウィンドウの出来形管理モードで、管理断面設定や編集する測点の選択、測点の一覧ウィンドウの表示など、各種の測点処理を行います。

出来形管理 －[測点]－[管理断面設定]

管理断面を設定する

● 管理断面設定の操作方法

1 [測点]－[管理断面設定]をクリックすると、「管理断面設定」ダイアログボックスが表示されます。

管理断面に設定する測点を管理欄のチェックマークをオン／オフして選択します。

[全選択]／[全解除]

すべてのチェックマークをオン、またはオフにします。

2 [OK]をクリックすると、「TS 出来形設定」ウィンドウの出来形管理モードに戻ります。

● 測点の選択

1 構築形状の選択

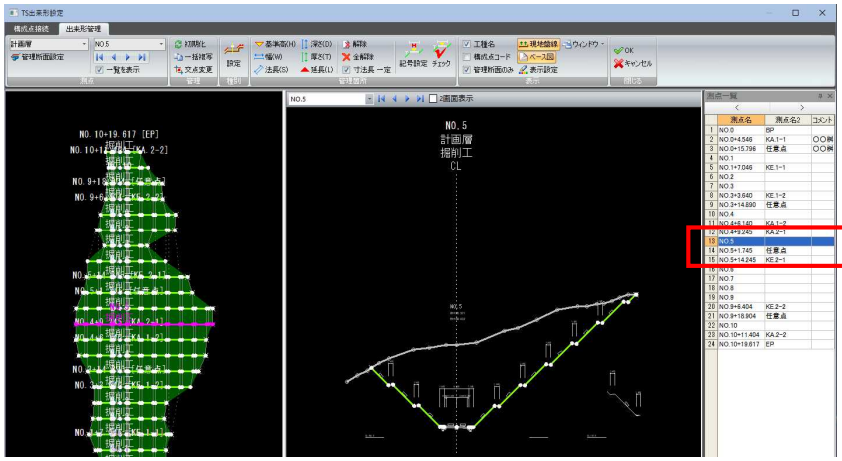
ドロップダウンリストより、構築形状をクリックして選択します。

2 測点の指定

ドロップダウンリストより、測点をクリックして選択します。

3 測点一覧表示を切り替える

のいずれかをクリックして測点を切り替えます。



測点の切り替えには以下の種類があります。

4 測点一覧表示のオン・オフ

「一覧を表示」チェックマークをクリックすると、一覧表示のオン・オフが行われます。初期状態はオンです。

7 管理（出来形管理タブ）

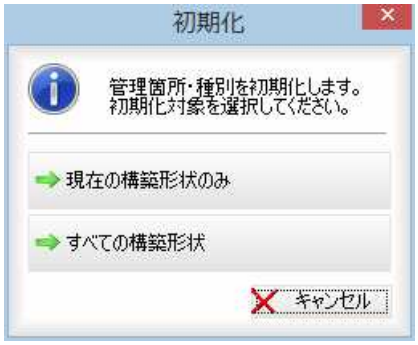
「TS 出来形設定」ウィンドウの出来形管理モードで、管理箇所・種別の初期化や一括複写、計画線と現況線の交点の変更を行います。

出来形管理 －[管理]－[初期化]

管理箇所・種別設定を初期化する

● 初期化の操作方法

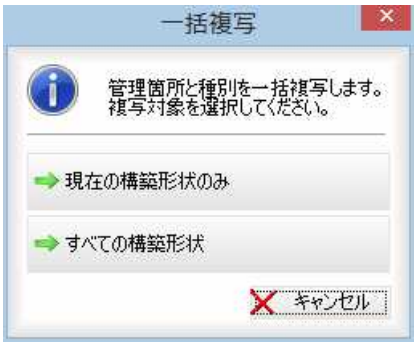
1 [管理]－[初期化]をクリックすると、「初期化」ダイアログボックスが表示されます。



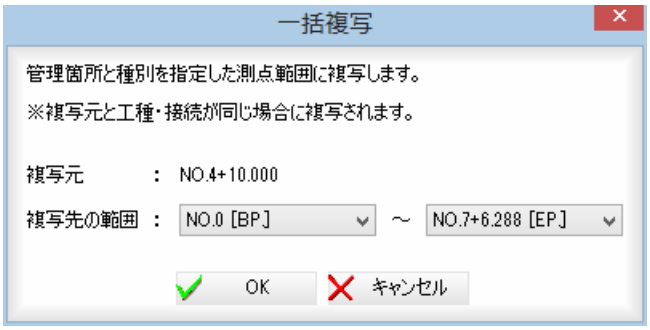
2 [現在の構築形状のみ]または[すべての構築形状]をクリックすると、選択した対象範囲で管理箇所・種別が初期化されます。

● 一括複写の操作方法

1 [管理]－[一括複写]をクリックすると、「一括複写」ダイアログボックスが表示されますので、いずれかの複写対象範囲を選択します。



2 複写対象を選択すると、次に「一括複写」ダイアログボックスが表示されます。



複写先の範囲をドロップダウンリストより選択します。

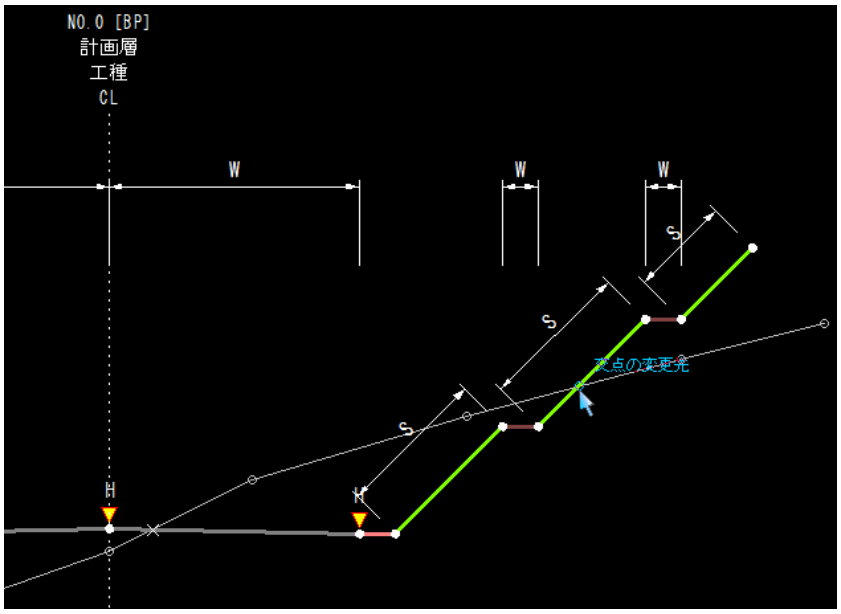
3 [OK]をクリックすると、管理箇所および種別設定が一括複写されます。
ただし、一括複写できるのは、複写元と工種・接続が同じものに限ります。

出来形管理 －[管理]－[交点変更]

計画線と現況線の交点を変更する

● 交点変更の操作方法

1 [管理]－[交点変更]をクリックすると、計画線と現地盤線の交点箇所の選択となりますので、交点位置をマウスにてクリックします。



2 交点位置が変更されます。

8 種別（出来形管理タブ）

「TS 出来形設定」ウィンドウの出来形管理モードで、断面に種別を設定します。

出来形管理 －[種別]－[設定]

断面に種別を設定する

● 設定の操作方法

1 [種別]－[設定]をクリックすると、「種別設定」ダイアログボックスが表示されます。

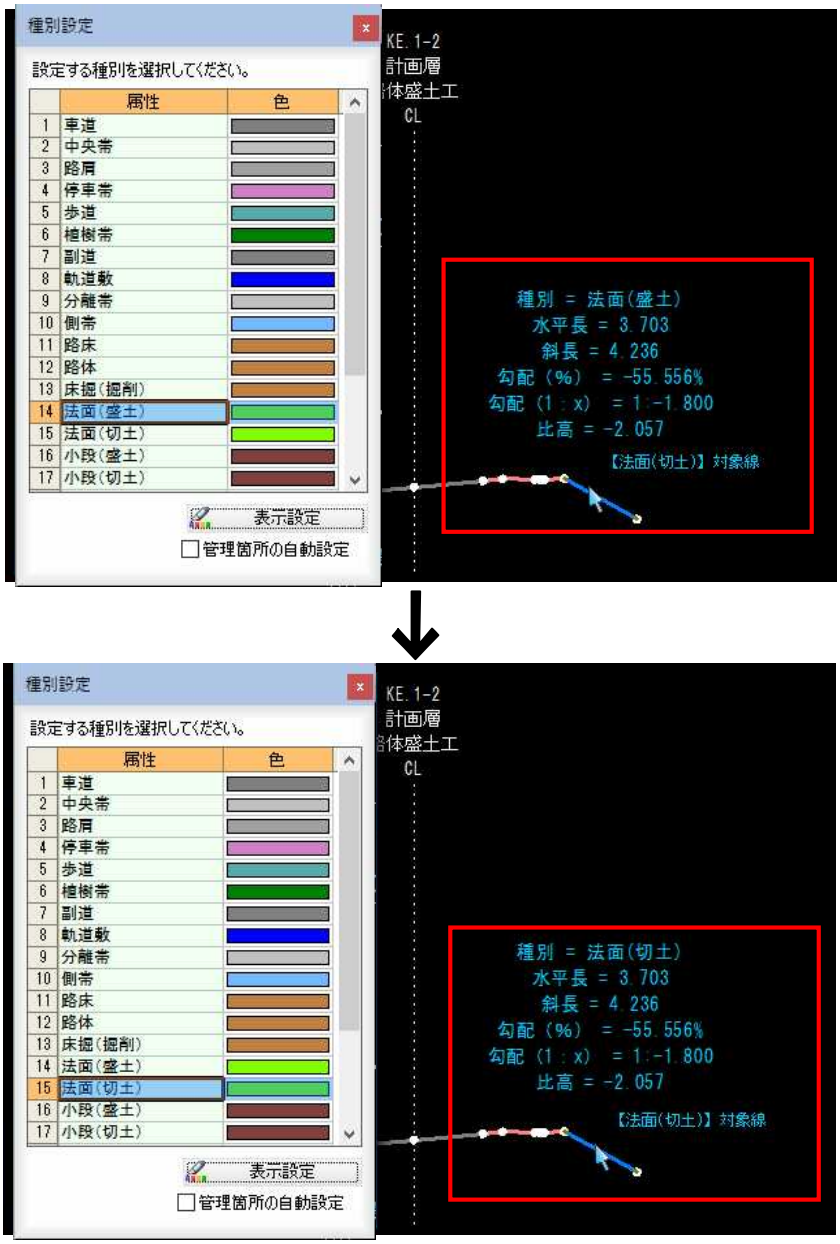
属性の右側に現在設定中の色が表示されます。
横断面ウィンドウ内の要素をクリックすると、選択中の種別に変更されます。

[表示設定]
[表示設定]ボタンをクリックすると、「横断表示設定」ダイアログボックスが表示されます。操作方法は、[表示]－[表示設定]を選択した場合と同様です。

管理箇所の自動設定
「管理箇所の自動設定」チェックマークをクリックすると、変更された種別の管理箇所も自動的に設定します。初期状態はオフです。

・管理箇所が自動で設定されるのは、種別が「道路面」「中央帯」「法面（盛土）」「法面（切土）」「小段（盛土）」「小段（切土）」の場合です。

例）法面（切土）に変更



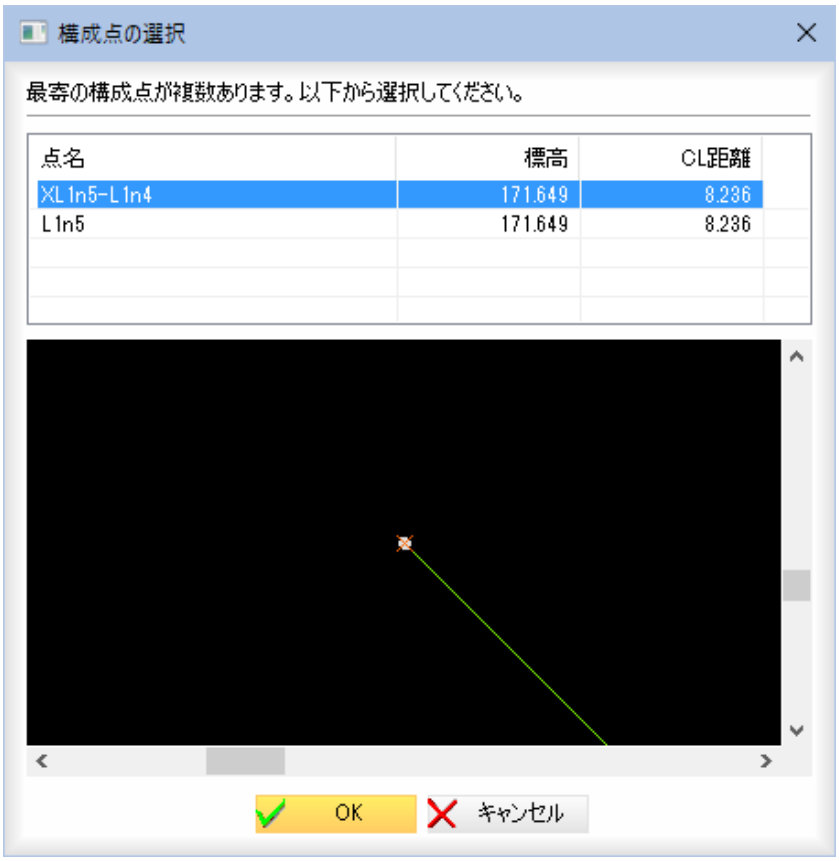
2 横断面ウィンドウでマウスの右ボタンをクリックし、ポップアップメニューから[終了]または[キャンセル]をクリックすると、処理を終了します。

9 管理箇所（出来形管理タブ）

「TS 出来形設定」ウィンドウの出来形管理モードで、各種の管理箇所の指定を行います。

＜共通操作＞ 複数の構成点が同位置に存在する場合

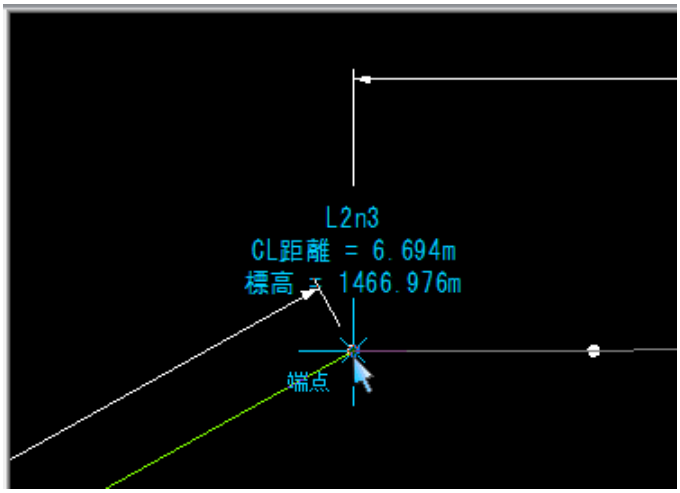
同位置に構成点が存在する場合は、「構成点の選択」ダイアログボックスが表示されます。

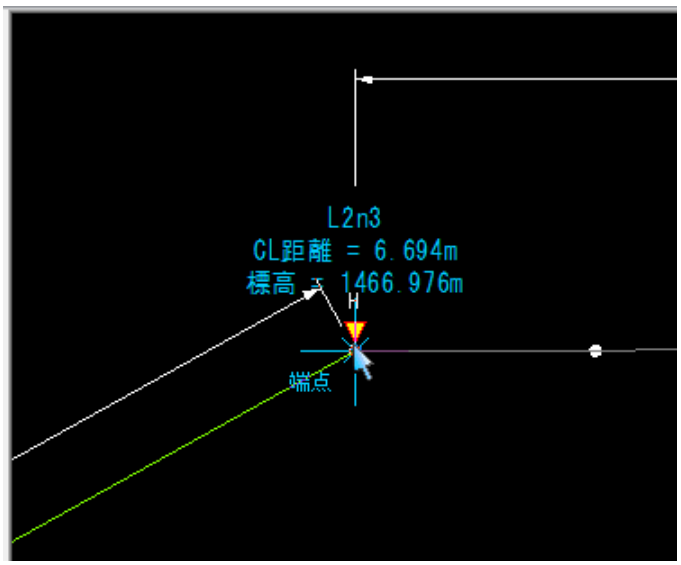


いずれかの構成点を選択し[OK]をクリックすると、処理中のコマンドに戻ります。

● 基準高の操作方法

1 [管理箇所]－[基準高]をクリックすると、基準高指定モードになりますので、マウスにて基準高を管理する箇所をクリックします。

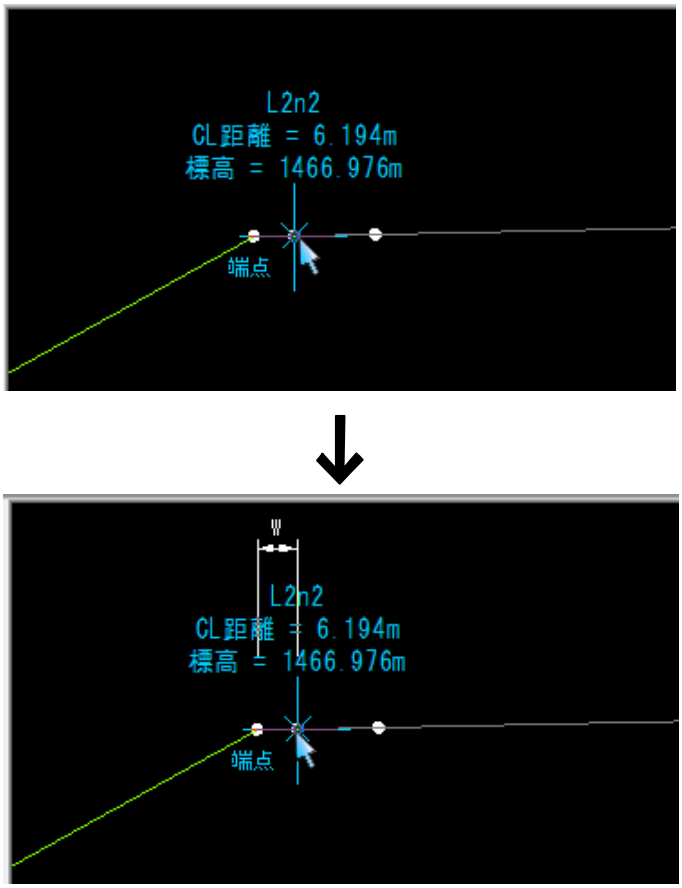




2 基準高が表示されます。同じ場所をクリックすると管理箇所が解除されて、表示が消えます。

● 幅の操作方法

1 [管理箇所]－[幅]をクリックすると、幅指定モードになりますので、マウスにて幅を管理する始点位置をクリックします。
続けて、終点位置をクリックします。



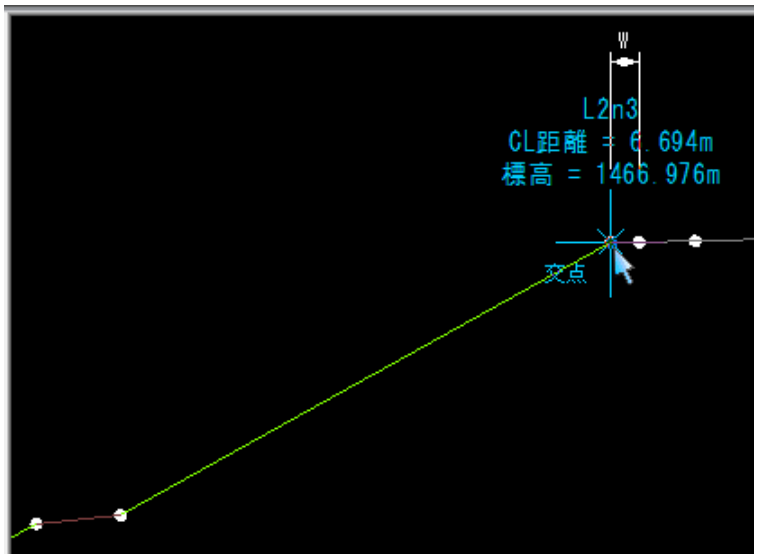
2 終点をクリックすると、幅が表示されます。同じ始点－終点をクリックすると管理箇所が解除されて、表示が消えます。

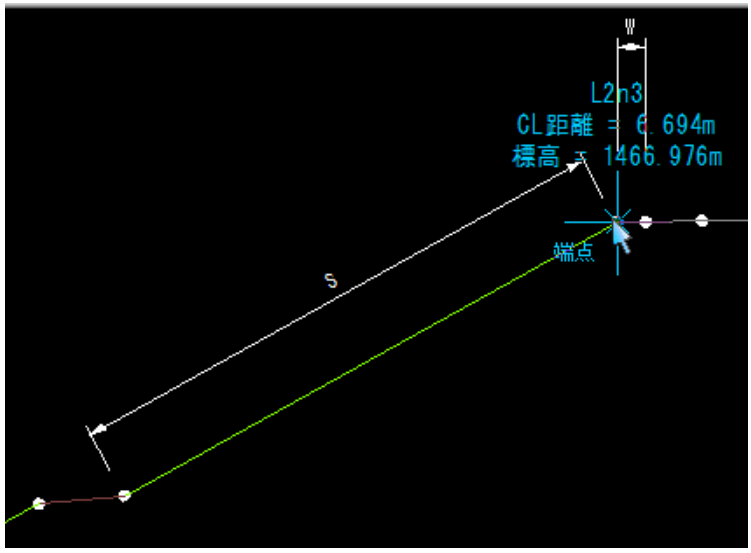
出来形管理 －[管理箇所]－[法長]

法長を管理する箇所を指定する

● 法長の操作方法

1 [管理箇所]－[法長]をクリックすると、法長指定モードになりますので、マウスにて法長を管理する始点位置をクリックします。
続けて、終点位置をクリックします。





2 終点をクリックすると、法長が表示されます。同じ始点－終点をクリックすると管理箇所が解除されて、表示が消えます。

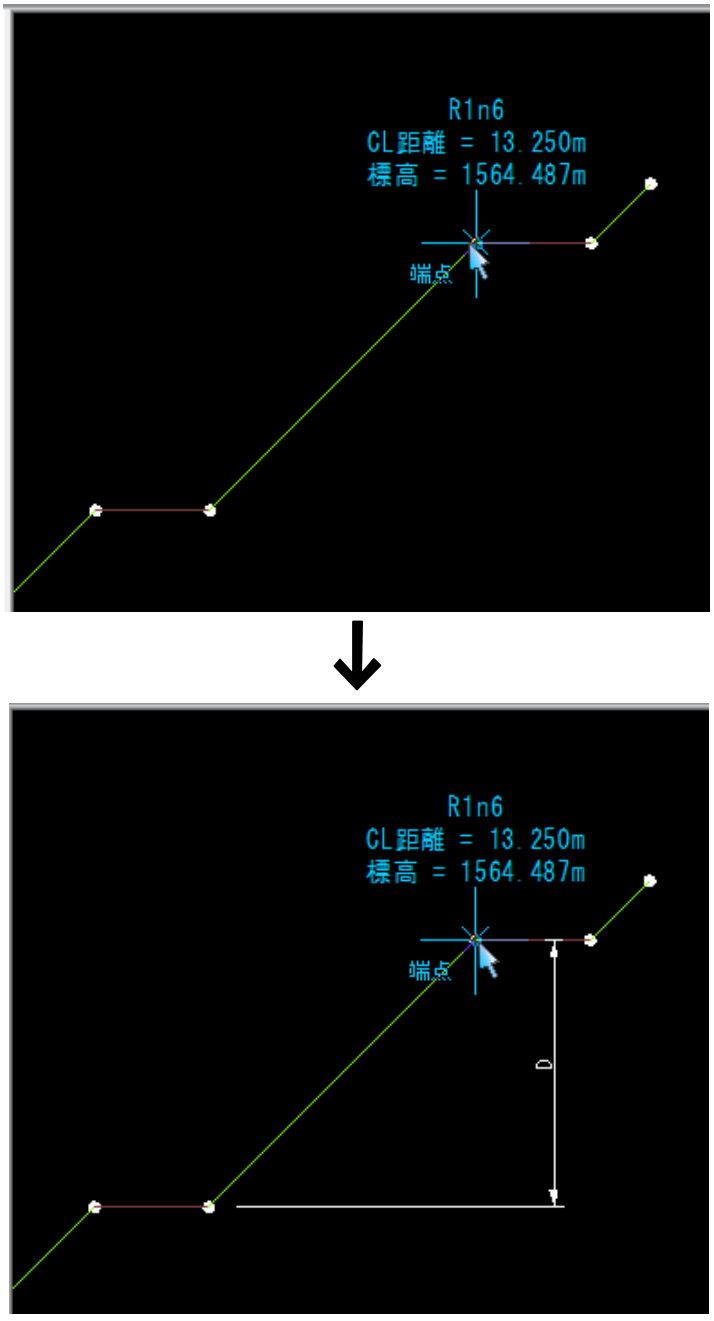
出来形管理 －[管理箇所]－[深さ]（「国土交通省 Ver4.0/4.1」、「農林水産省 Ver 1.0」のみ）

深さを管理する箇所を指定する

本機能は、システム画面の横断メニューで[コマンド]－[TS 出来形設定]をクリックした際に表示される「TS 出来形設定」ダイアログボックスで「国土交通省 Ver4.0/4.1」、「農林水産省 Ver 1.0」を選択した場合にのみ表示されます。

● 深さの操作方法

1 [管理箇所]－[深さ]をクリックすると、深さ指定モードになりますので、マウスにて深さを管理する始点位置をクリックします。
続けて、終点位置をクリックします。



2 終点をクリックすると、深さが表示されます。同じ始点ー終点をクリックすると管理箇所が解除されて、表示が消えます。

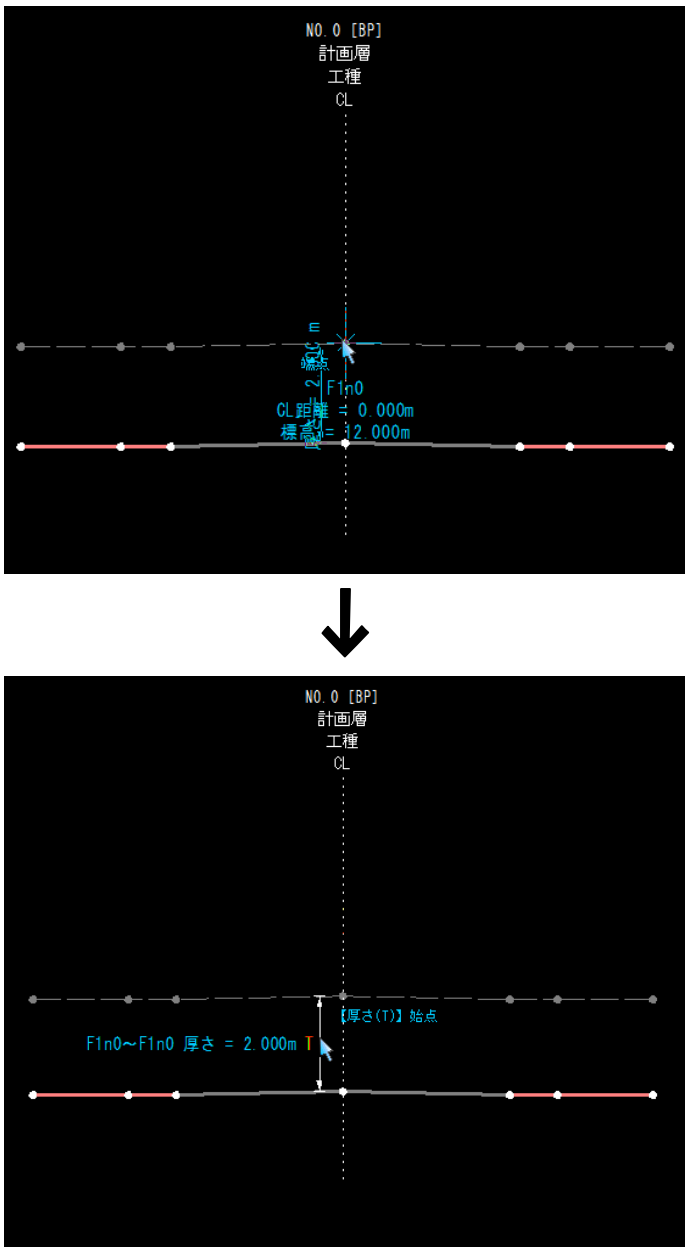
出来形管理－[管理箇所]－[厚さ]（「国土交通省 Ver4.0/4.1」、「農林水産省 Ver 1.0」のみ）

厚さを管理する箇所を指定する

本機能は、システム画面の横断メニューで[コマンド]－[TS 出来形設定]をクリックした際に表示される「TS 出来形設定」ダイアログボックスで「国土交通省 Ver4.0/4.1」、「農林水産省 Ver 1.0」を選択した場合にのみ表示されます。

● 厚さの操作方法

1 [管理箇所]－[厚さ]をクリックすると、厚さ指定モードになりますので、マウスにて厚さを管理する始点位置をクリックします。
続けて、終点位置をクリックします。



2 終点をクリックすると、厚さが表示されます。同じ始点－終点をクリックすると管理箇所が解除されて、表示が消えます。

出来形管理－[管理箇所]－[延長]（「国土交通省 Ver4.0/4.1」、「農林水産省 Ver 1.0」のみ）

延長を管理する箇所を指定する

本機能は、システム画面の横断メニューで[コマンド]－[TS 出来形設定]をクリックした際に表示される「TS 出来形設定」ダイアログボックスで「国土交通省 Ver4.0/4.1」、「農林水産省 Ver 1.0」を選択した場合にのみ表示されます。
延長は、構成点を何個でも設定できます。

● 延長の操作方法

1 [管理箇所]－[延長]をクリックすると、最初に「延長設定」ダイアログボックスが表示されます。

■総延長

追加

総延長を追加します。
リスト上の名称をダブルクリックすることで、名称を変更することができます。

削除

選択している総延長を削除します。
その総延長に属する延長・構成点も全て削除されます。

■延長

選択している総延長に属する延長を追加します。リスト上の名称をダブルクリックすることで、名称を変更することができます。

削除

選択している延長を削除します。
その延長に属する構成点も全て削除されます。

■構成点

追加

追加したい構成点をクリックします。リストの末尾に追加されます。

挿入

挿入したい構成点をクリックします。リストの選択位置に挿入されます。

変更

変更したい構成点をクリックします。リストの選択位置の構成点が変更されます。

削除

選択している構成点を削除します。

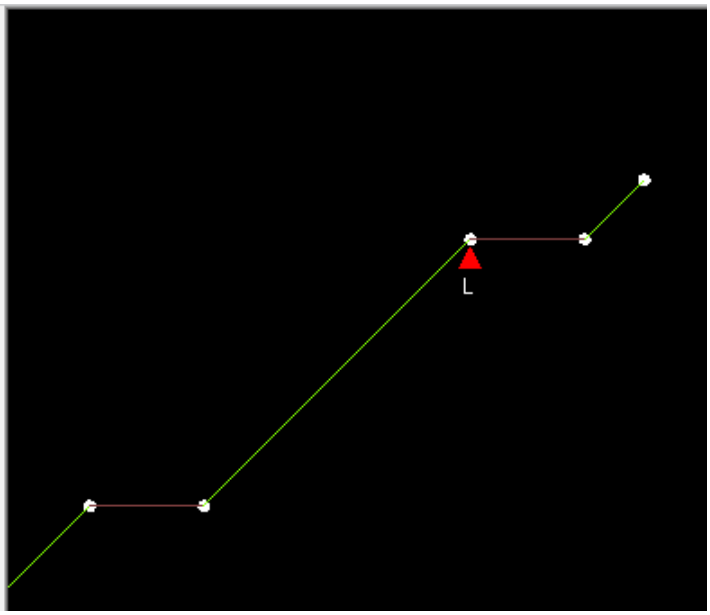
▲上へ移動

選択している構成点を上へ移動して、並び替えます。

▼下へ移動

選択している構成点を下へ移動して、並び替えます。

2 ダイアログボックスを閉じると、設定した測点間で延長の設定が行われます。



出来形管理 －[管理箇所]－[解除]

選択した管理箇所を解除する

● 解除の操作方法

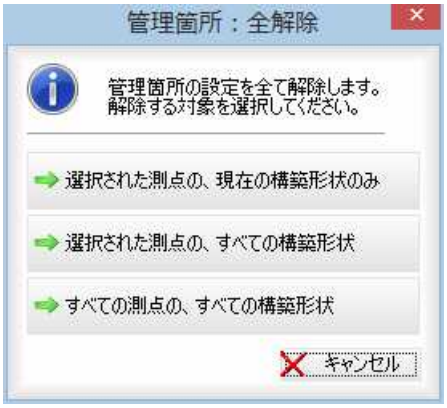
1 設定済みの管理箇所の文字部分をクリックすると、設定が解除されます。

出来形管理 －[管理箇所]－[全解除]

全ての管理箇所を解除する

● 全解除の操作方法

1 [管理箇所]－[全解除]をクリックすると、「管理箇所：全解除」ダイアログボックスが表示されます。



解除対象の測点

いずれかのボタンをクリックして選択します。全ての管理箇所の設定を解除します。[キャンセル]をクリックすると、全解除は行ないません。

出来形管理 －[管理箇所]－寸法長 一定

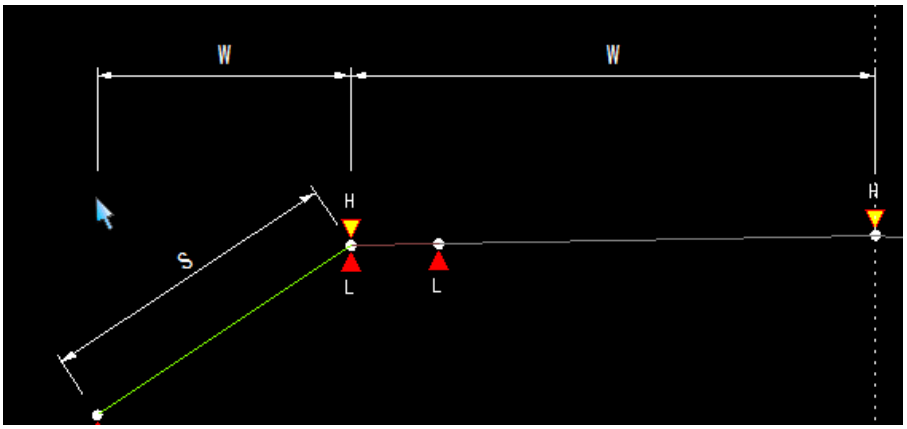
寸法の補助線の長さの表示方法を選択する

● 寸法長 一定の操作方法

1 [管理箇所]の「寸法長 一定」チェックマークのオン、オフにより以下の表示方法を切り替えます。

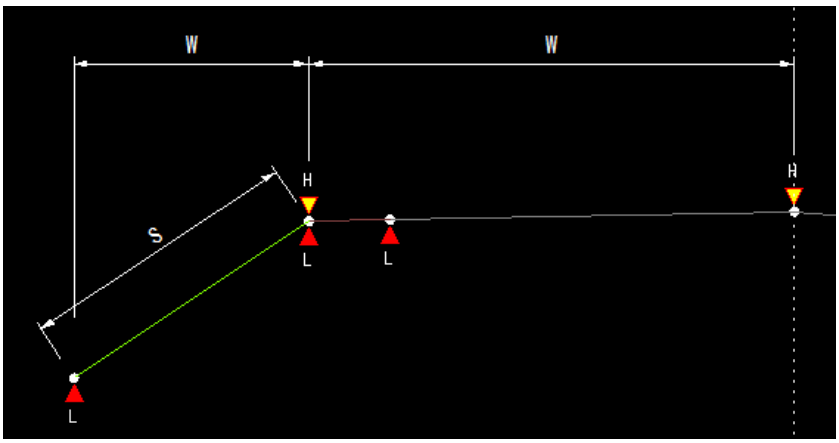
「寸法長 一定」チェックマークがオンの場合

幅を表す寸法の補助線の長さを、全て一定に揃えて表示します。



「寸法長 一定」チェックマークがオフの場合

幅を表す寸法の補助線を指示した点から表示します。



出来形管理 －[管理箇所]－[記号設定]（「国土交通省 Ver4.0/4.1」、「農林水産省 Ver 1.0」のみ）

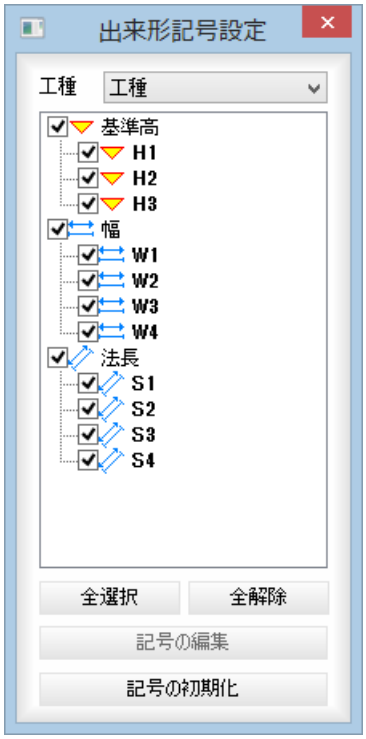
出来形管理項目の記号を設定する

本機能は、システム画面の横断メニューで[コマンド]－[TS 出来形設定]をクリックした際に表示される「TS 出来形設定」ダイアログボックスで「国土交通省 Ver4.0/4.1」、「農林水産省 Ver 1.0」を選択した場合にのみ表示されます。

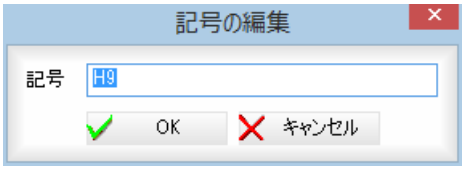
● 記号設定の操作方法

・「未設定」の記号が残っている場合、コマンド終了時に確認メッセージが表示されます。

1 [管理箇所]－[記号設定]をクリックすると、「出来形記号設定」ダイアログボックスが表示されます。



工種の選択
ドロップダウンリストより、工種を選択します。
記号の選択
チェックマークをオンにして記号を選択します。
[全選択]／[全解除]
すべてのチェックマークをオン、またはオフにします。
記号の編集
[記号の編集]をクリックすると、「記号の編集」ダイアログボックスが表示されます。



[OK]をクリックすると記号を編集し、「出来形記号設定」ダイアログボックスに戻ります。

記号の初期化
[記号の初期化]をクリックすると、確認のメッセージが表示されます。[はい]をクリックすると、選択した記号が初期化されます。

2 TS 出来形設定終了時に管理記号が設定されていない場合には、確認メッセージが表示されます。

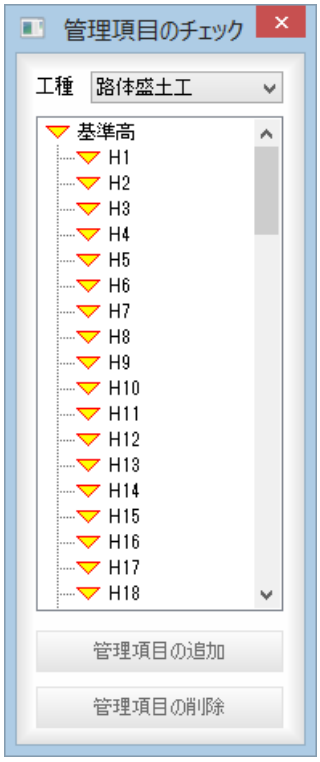
全ての管理記号を初期化
全ての管理記号を初期化して、TS 出来形設定を終了します。
記号設定コマンドを起動
記号設定コマンドを起動します。

出来形管理 －[管理箇所]－[チェック]

出来形管理項目のまとまりをチェックする

● チェックの操作方法

1 [管理箇所]－[チェック]をクリックすると、「管理項目のチェック」ダイアログボックスが表示されます。



工種の選択
ドロップダウンリストより、工種を選択します。

管理箇所の選択
「管理項目のチェック」ダイアログボックスで選択した管理項目が、縦断展開図・横断面に表示されます。

管理項目の追加
「管理項目のチェック」ダイアログボックスで選択した管理項目を、現在表示中の測点に追加します。
選択した管理項目が、現在表示中の測点にない場合のみ有効です。

管理項目の削除
「管理項目のチェック」ダイアログボックスで選択した管理項目を、現在表示中の測点から削除します。
選択した管理項目が、現在表示中の測点にある場合のみ有効です。

10 種別（3D 施工データー管理タブ）

「3D 施工データ」の「TS 出来形設定」ウィンドウの管理モードで、断面に種別を設定します。

管理 －[種別]－[設定]

断面に種別を設定する

● 設定の操作方法

1 [種別]－[設定]をクリックすると、「種別設定」ダイアログボックスが表示されます。

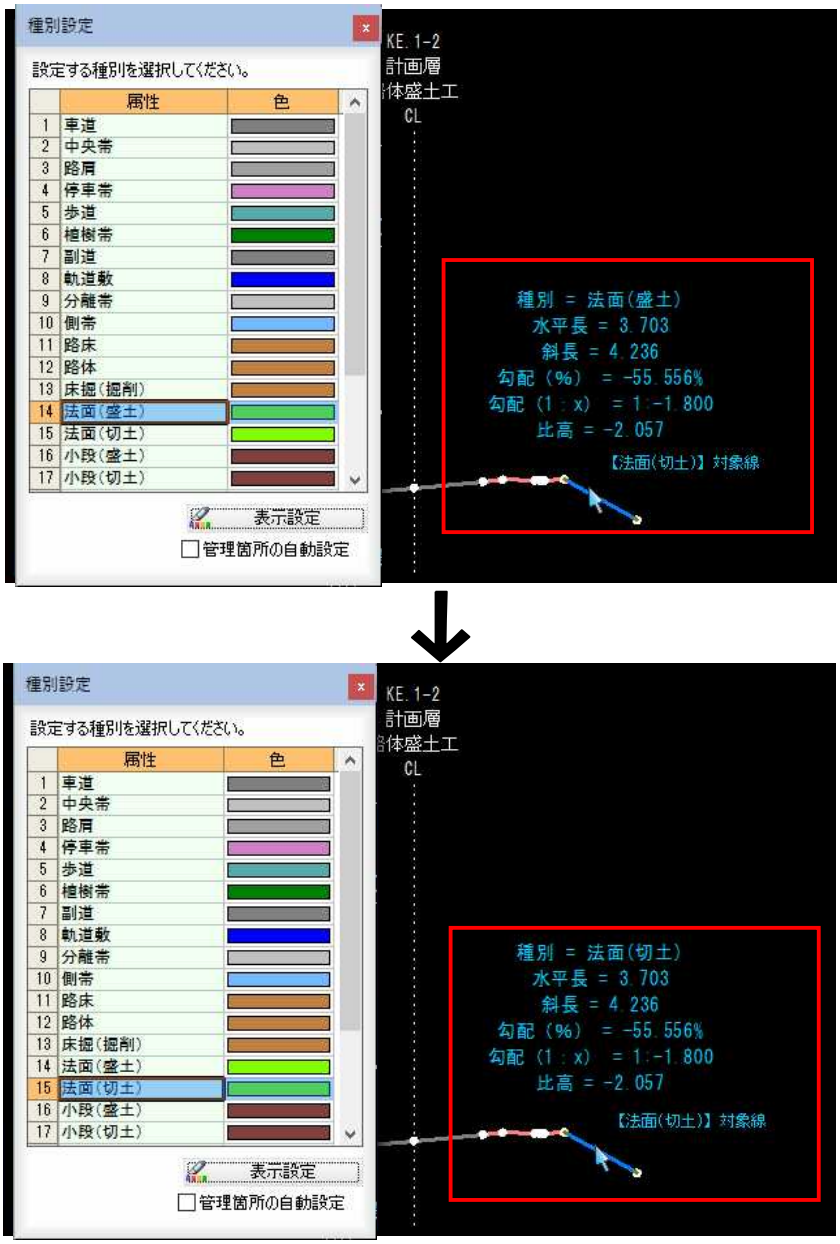
属性の右側に現在設定中の色が表示されます。
横断面ウィンドウ内の要素をクリックすると、選択中の種別に変更されます。

[表示設定]
[表示設定]ボタンをクリックすると、「横断表示設定」ダイアログボックスが表示されます。操作方法は、[表示]－[表示設定]を選択した場合と同様です。

管理箇所の自動設定
「管理箇所の自動設定」チェックマークをクリックすると、変更された種別の管理箇所も自動的に設定します。初期状態はオフです。

・管理箇所が自動で設定されるのは、種別が「道路面」「中央帯」「法面（盛土）」「法面（切土）」「小段（盛土）」「小段（切土）」の場合です。

例）法面（切土）に変更



2 横断面ウィンドウでマウスの右ボタンをクリックし、ポップアップメニューから[終了]または[キャンセル]をクリックすると、処理を終了します。

11 管理（3D 施工データー管理タブ）

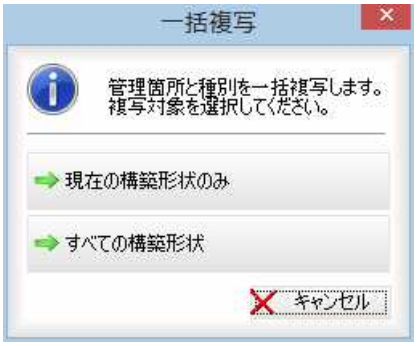
「3D 施工データ」の「TS 出来形設定」ウィンドウの管理モードで、一括複写を行います。

出来形管理 －[管理]－[一括複写]

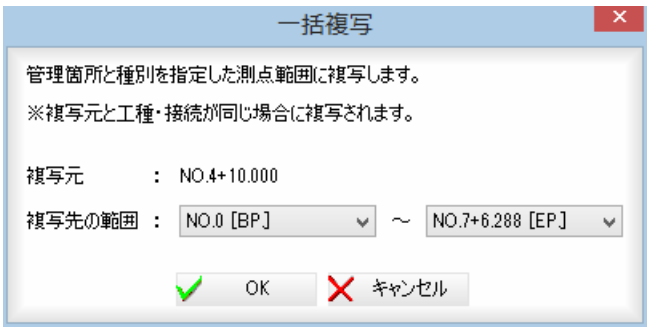
管理箇所・種別設定を一括複写する

● 一括複写の操作方法

1 [管理]－[一括複写]をクリックすると、「一括複写」ダイアログボックスが表示されますので、いずれかの複写対象範囲を選択します。



2 複写対象を選択すると、次に「一括複写」ダイアログボックスが表示されます。



複写先の範囲をドロップダウンリストより選択します。

3 [OK]をクリックすると、管理箇所および種別設定が一括複写されます。
ただし、一括複写できるのは、複写元と工種・接続が同じものに限ります。

Part 8

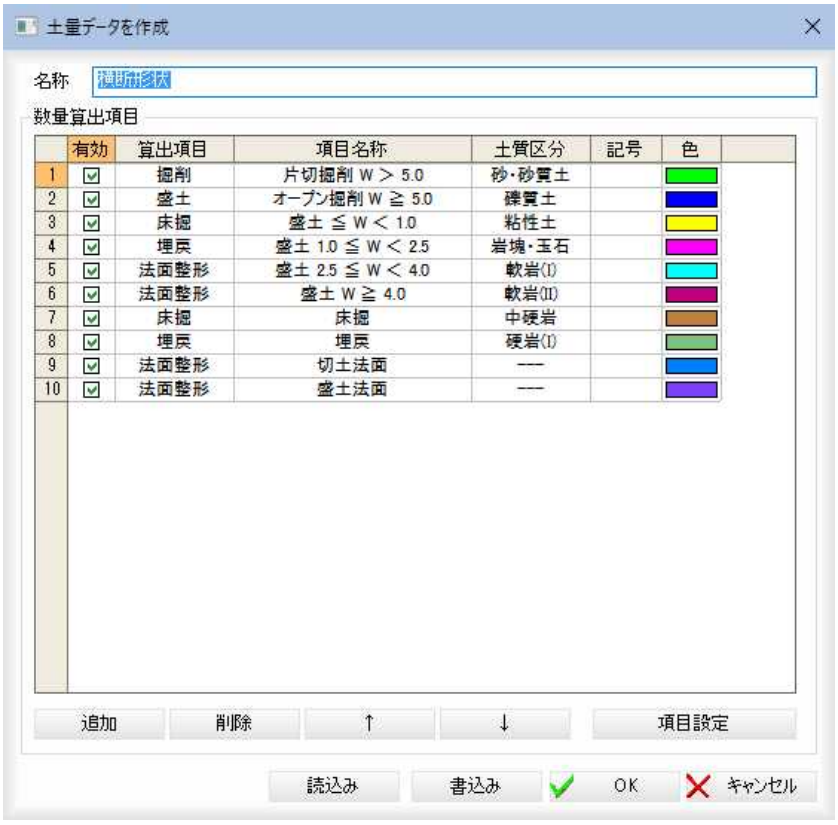
土量計算

1 「土量計算」の基本操作

土量データの新規作成および「土量計算」の起動および終了方法、ウィンドウの構成について説明します。

土量データの新規作成

1 横断メニューで[コマンド]ー[土量計算]をクリックし、編集中のデータに土量データが存在しない場合、「土量データを作成」ダイアログボックスが表示されます。



名称

「名称」入力欄内に名称を入力します。

数量算出項目の一覧表示

有効のオン・オフ

使用する数量算出項目の有効欄をオンにします。

各項目の編集

算出項目、項目名称、土質区分の欄内をクリックすると、ドロップダウンリストが表示されますので、いずれかを選択します。

「記号」のみ、欄内をクリックして文字を入力します。

色の設定

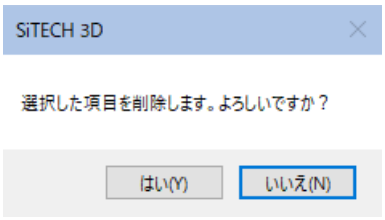
「色」の欄内でクリックすると、「色の設定」ダイアログボックスが表示されます。いずれかの色を選択し、[OK]をクリックすると、「土量データを作成」ダイアログボックスに戻ります。

追加

[追加]をクリックすると、最下行に新しい行が追加されます。

削除

[削除]をクリックすると、確認メッセージが表示されます。



[はい]をクリックすると、現在選択中の行が削除されます。

順序の変更（[↑]／[↓]）

選択中の項目を一覧表示内で上へ移動、または下へ移動します。

2 項目設定

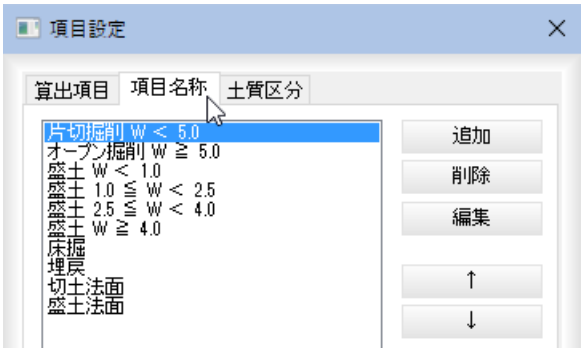
「土量データ作成」ダイアログボックスで[項目設定]をクリックすると、「項目設定」ダイアログボックスが表示されます。

タブによる切り替え

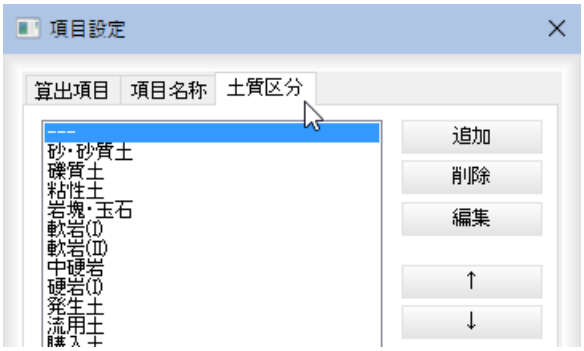
算出項目、項目名称、土質区分のタブをクリックし、それぞれ設定を行います。

▼算出項目

▼項目名称



▼土質区分



いずれのタブでも、追加、削除、編集、順序変更（[　↑　]／[　↓　]）を行うことができます。

算出項目の[追加]、[編集]の場合、取得タイプを法長に設定すると、[m]が自動的に文字列の最後につきます。

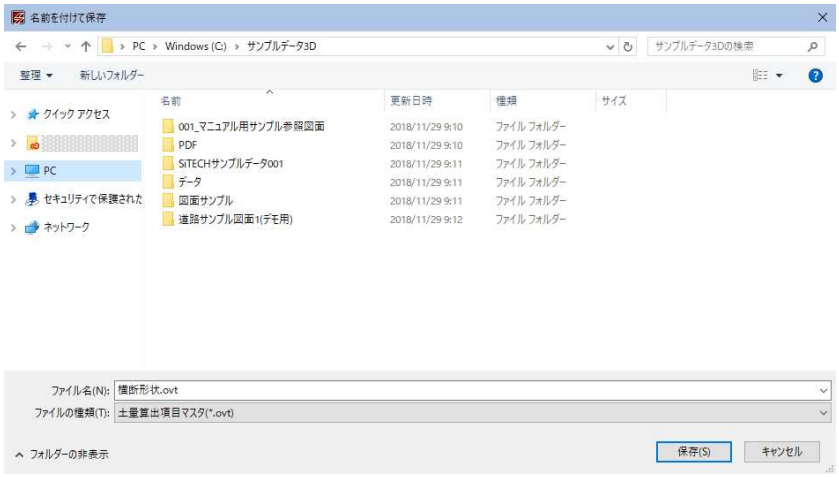
3 土量算出項目ファイルの読込み

[読込み]をクリックすると、「開く」ダイアログボックスが表示されます。

いずれかの*. ovt を選択し、[開く]をクリックすると、算出項目が読み込まれます。

4 **土量算出項目ファイルの書込み**

[書込み]をクリックすると、「名前をつけて保存」ダイアログボックスが表示されます。

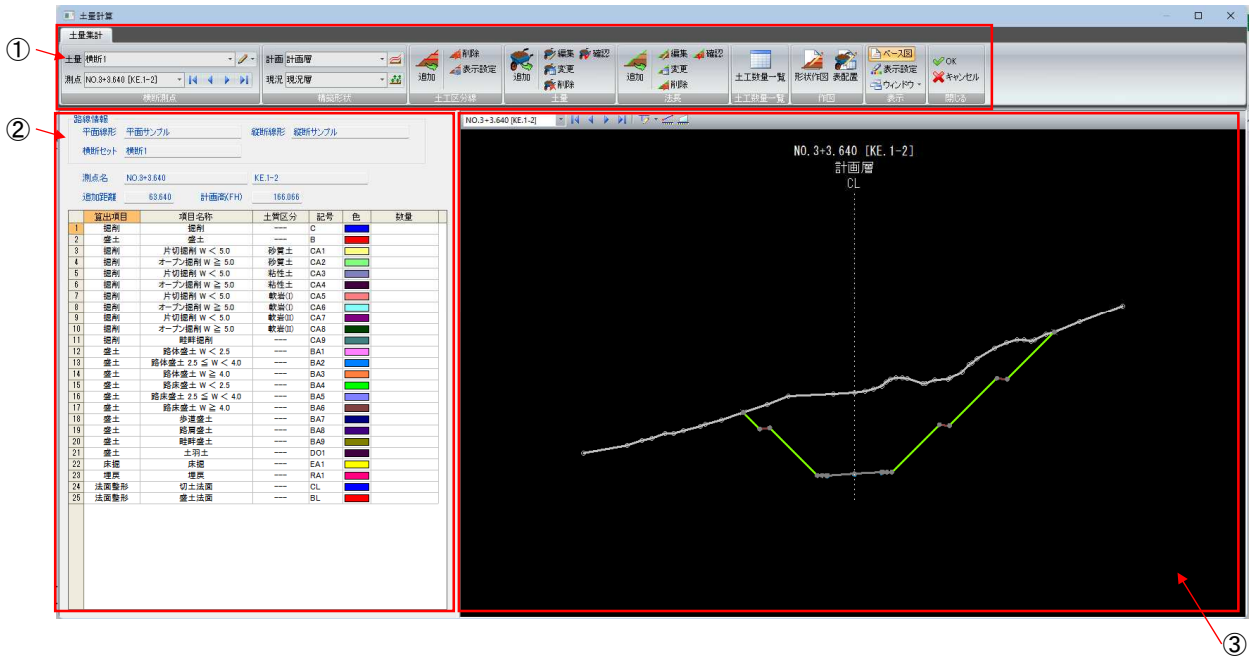


ファイル名を入力し、[保存]をクリックすると、算出項目が書き込まれます。

5 「土量データの作成」ダイアログボックスで[OK]をクリックすると、「土量計算」ウィンドウが表示されます。各種の設定を行います。

「土量計算」ウィンドウの画面構成

「土量計算」ウィンドウの画面構成は以下の通りです。

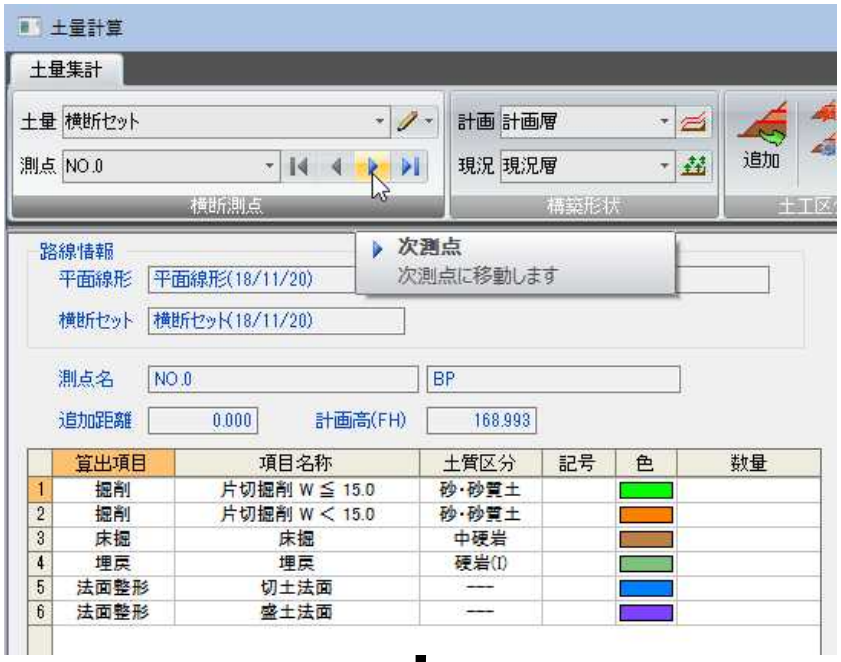


① リボンメニュー（各種のコマンドを実行します）
② データウィンドウ
③ 横断図プレビューウィンドウ

データウィンドウ、横断図プレビューウィンドウについては次ページ以降で説明しています。

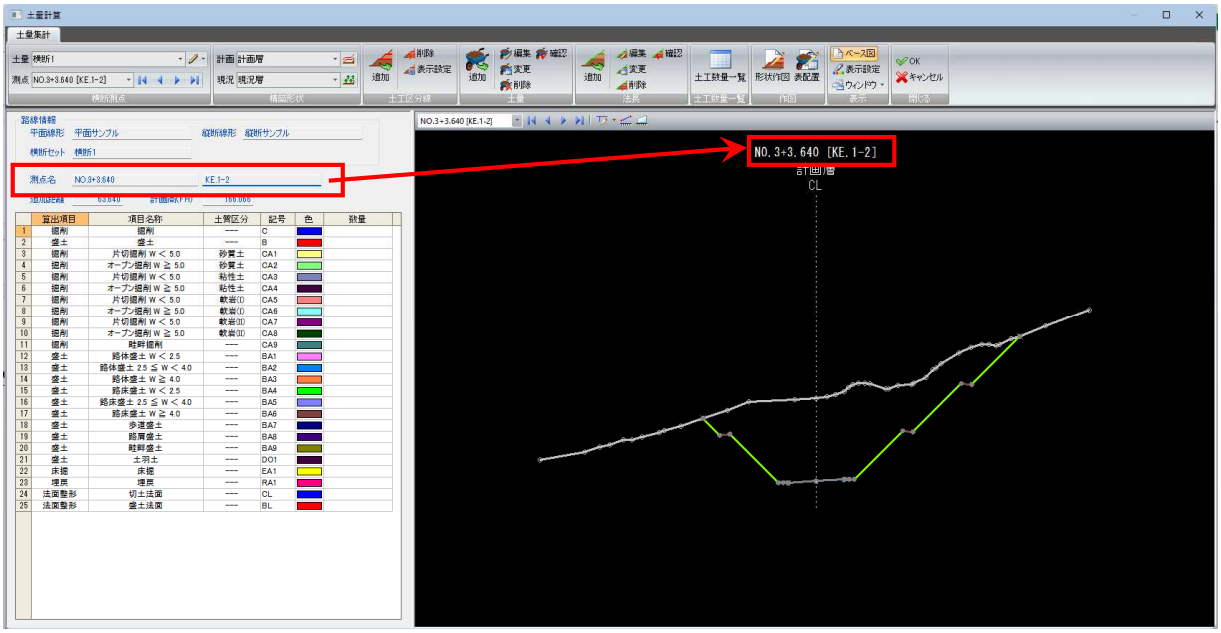
● データウィンドウ

1 データウィンドウでは、カレントの横断セット、測点名他が表示されます。
測点が切り替わると表示も切り替わります。



● 横断図プレビューウィンドウ

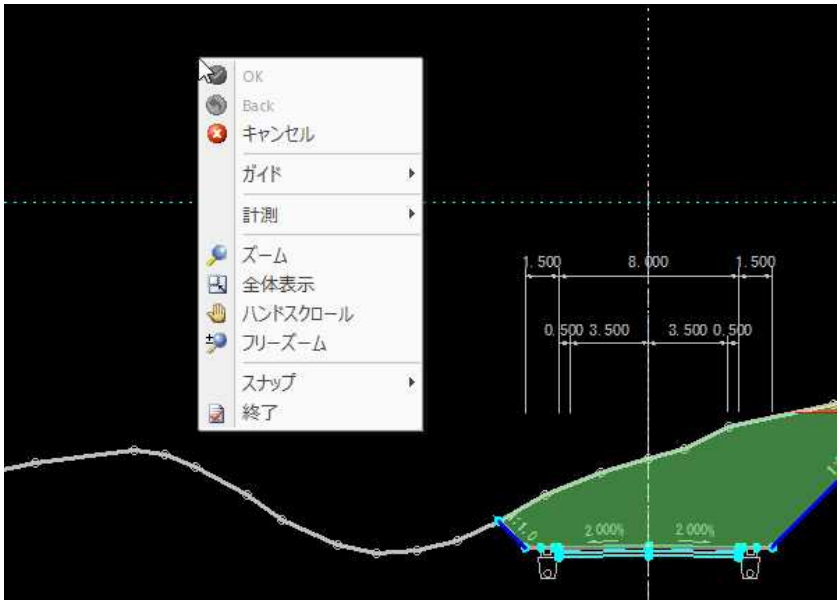
1 横断図プレビューウィンドウでは、測点一覧内で現在選択されている測点が表示されます。



・SiTECH 本体の横断図プレビューで作成されたガイドは土量計算の横断プレビューにも表示されます。

2 **ポップアップメニュー**

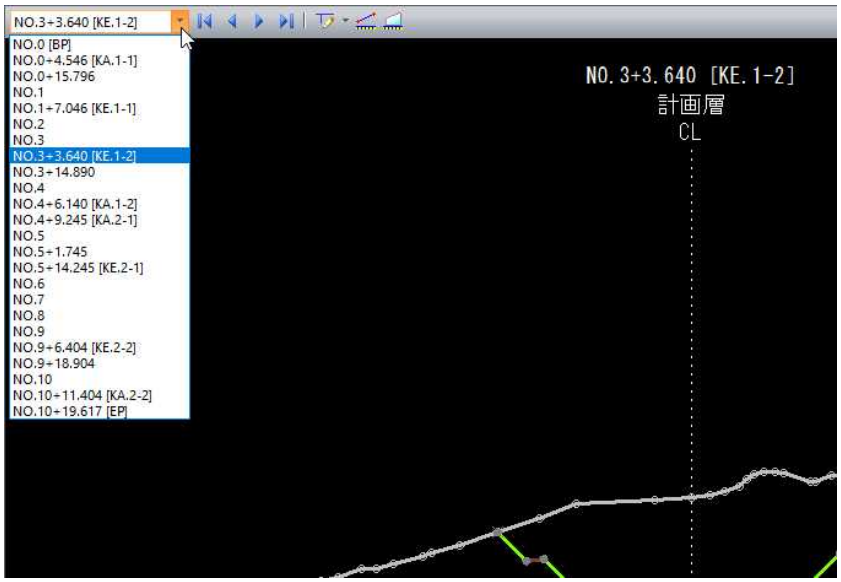
横断図プレビューウィンドウ内で右クリックすると、ポップアップメニューが表示されます。各種の処理を行うことができます。



3 **測点の切り替え**

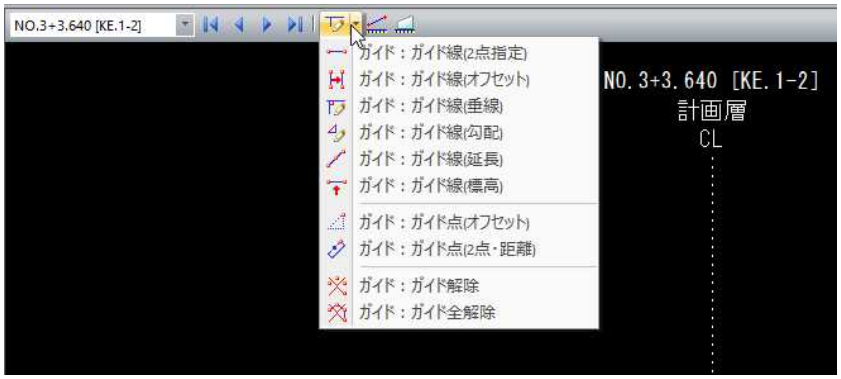
測点のドロップダウンリストよりいずれかの測点を選択し、表示を切り替えます。また、 のいずれかのボタンをクリックして測点を切り替えることもできます。

いずれかをクリックして測点の移動を行います。



4 ガイドの各種機能

[ガイド]メニューからいずれかのガイドコマンドを選択すると、それぞれの設定モードとなります。

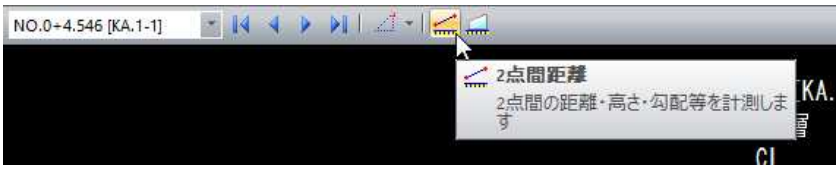


各種ガイドの操作は、SiTECH3D 本体の横断プレビューウィンドウ上の「ガイド」コマンドと同様です。**⇒参照ページへ**

なお、ガイドコマンドにて作成したガイドは SiTECH 本体の横断プレビューにも反映されます。

5 計測：２点間距離（ ）

２点間の距離・高さ・勾配を計測します。
横断プレビューのメニューより「計測：２点間距離」を選択すると、「計測：２点間距離」ダイアログボックスが表示されます。

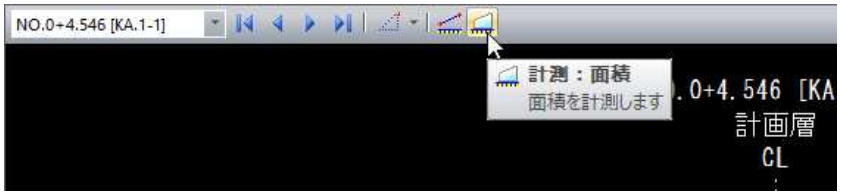


２点の指定
図面内で計測する２点をマウスにて指定すると、距離・斜長・勾配・比率が「計測：２点間距離」ダイアログボックス内に表示されます。
数値のコピー
各種の数値表示欄の横の をクリックすると、クリップボードに各数値がコピーされます。
単位
m、cm、mm のいずれかの単位をラジオボタンをクリックして選択します。

[クリア]をクリックすると、欄内の数値を消去します。
[終了]をクリックすると「計測：２点間距離」ダイアログボックスの表示を終了します。

6 計測：面積（ ）

面積を計測します。
横断プレビューのメニューより「計測：面積」を選択すると、「計測：面積」ダイアログボックスが表示されます。



面積／累計面積
マウスにて始点ー通過点の指定により、領域を指定します。右クリックによるポップアップメニューで[OK]を選択して領域を決定すると、「面積」欄内に面積が表示されます。
「累計」チェックマークをオンにして続けて領域を指定すると、「累計面積」欄内に累計面積が表示されます。
数値のコピー
各種の数値表示欄の横の をクリックすると、クリップボードに各数値がコピーされます。
単位
㎡、㎠、㎟ のいずれかの単位をラジオボタンをクリックして選択します。

[クリア]をクリックすると、欄内の数値を消去します。
[終了]をクリックすると「計測：面積」ダイアログボックスの表示を終了します。

閉じるメニュー

「土量計算」ウィンドウを閉じる操作を行います。

● ＯＫ／キャンセルの操作方法

1 閉じるメニューの[OK]または[キャンセル]をクリックすると、システム画面に戻ります。

OK　　編集結果を保存して土量計算ウィンドウを閉じます。
キャンセル　編集結果を破棄して土量計算ウィンドウを閉じます。

2 横断測点

現在表示中の土量を選択・編集します。

土量集計 －[横断測点]

土量データを選択・編集する

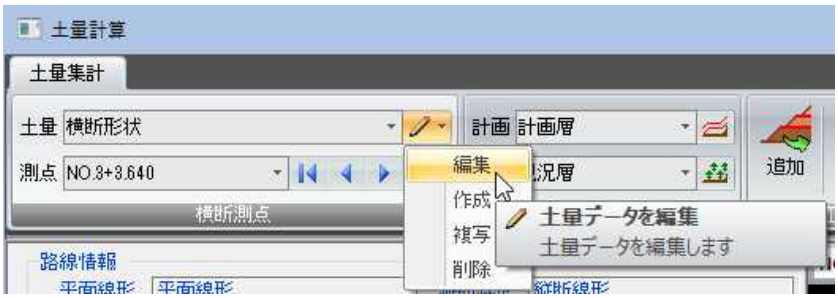
● 土量データを選択する

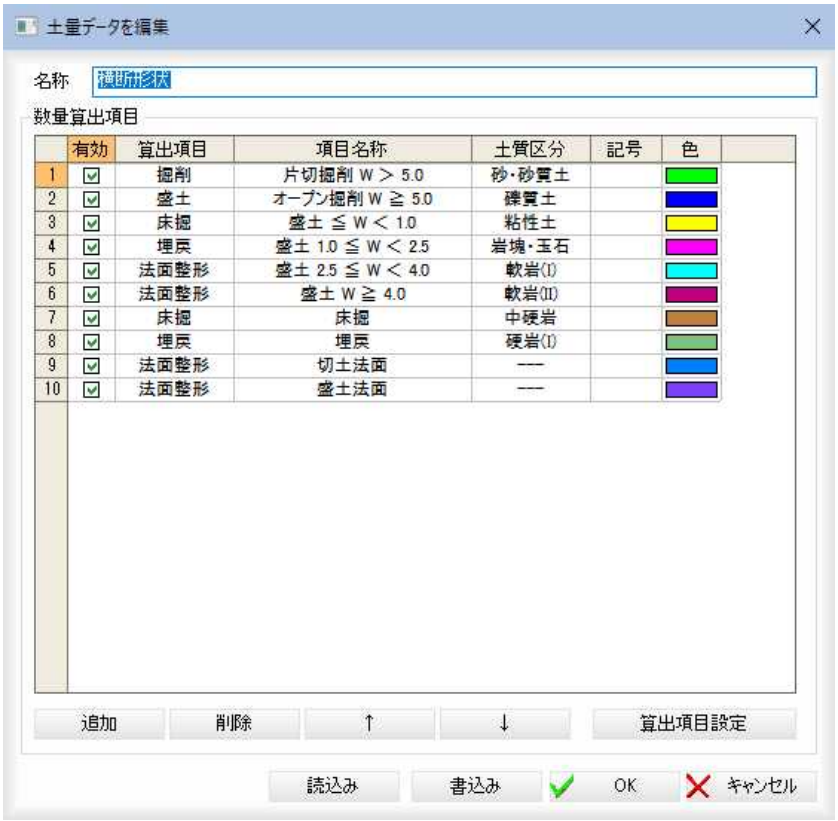
1 土量集計メニューの[横断測点]で[土量]のドロップダウンリストより、いずれかの土量データを選択します。

2 土量データの表示が切り替わりますので、各種処理を行います。

● 土量データを編集する

1 土量集計メニューの[横断測点]で をクリック、またはドロップダウンリストより[編集]をクリックします。





「土量の編集」ダイアログボックスが表示されます。操作方法は、「土量データを作成」ダイアログボックスと同様です。⇒参照ページへ

2 [OK]をクリックすると土木集計ウィンドウに戻ります。

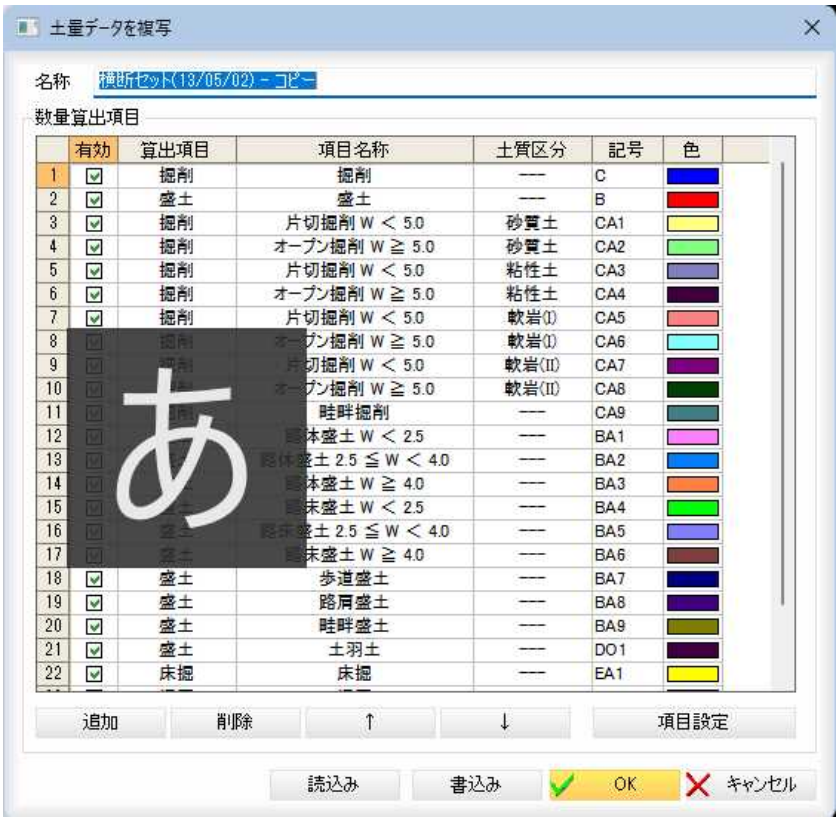
● 土量データを作成する

1 土量集計メニューの[横断測点]でドロップダウンリストより[作成]をクリックします。「土量データを作成」ダイアログボックスが表示されますので、各種の処理を行います。

2 [OK]をクリックすると、土木集計ウィンドウに戻ります。

● 土量データを複写する

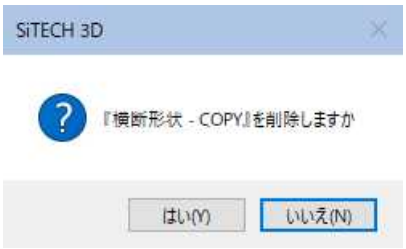
1 土量集計メニューの[横断測点]でドロップダウンリストより[複写]をクリックします。カレントの土量データをコピーしたデータが「土量データを複写」ダイアログボックス内に表示されます。



2 [OK]をクリックすると、横断が複写され、土木集計ウィンドウに戻ります。

● 土量データを削除する

1 土量集計メニューの[横断測点]でドロップダウンリストより[削除]をクリックします。削除確認のメッセージが表示されます。



2 現在選択中の土量データが削除されます。

横断 －[横断情報]（測点切り替え）

測点を切り替える

対象となる測点を切り替えます。

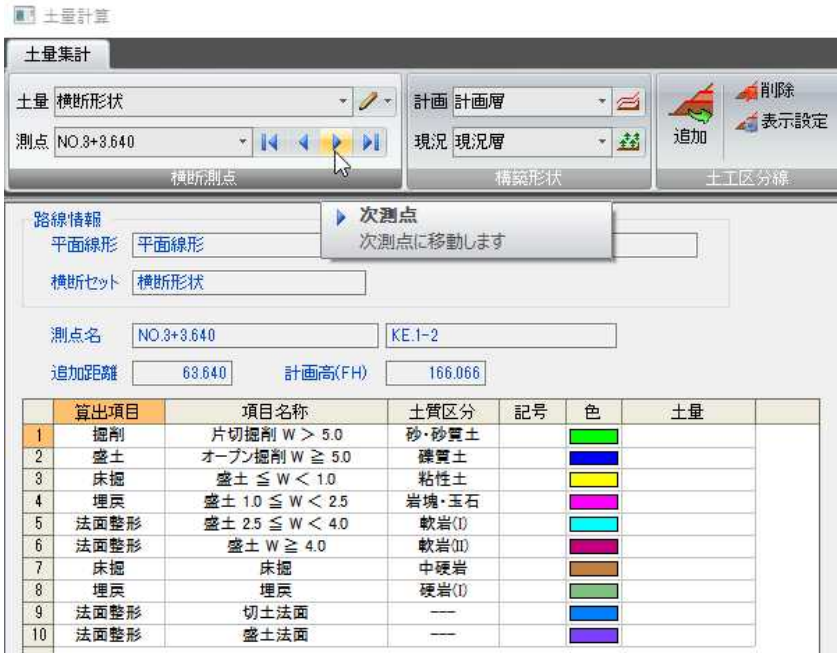
● 測点のドロップダウンリストから切り替える

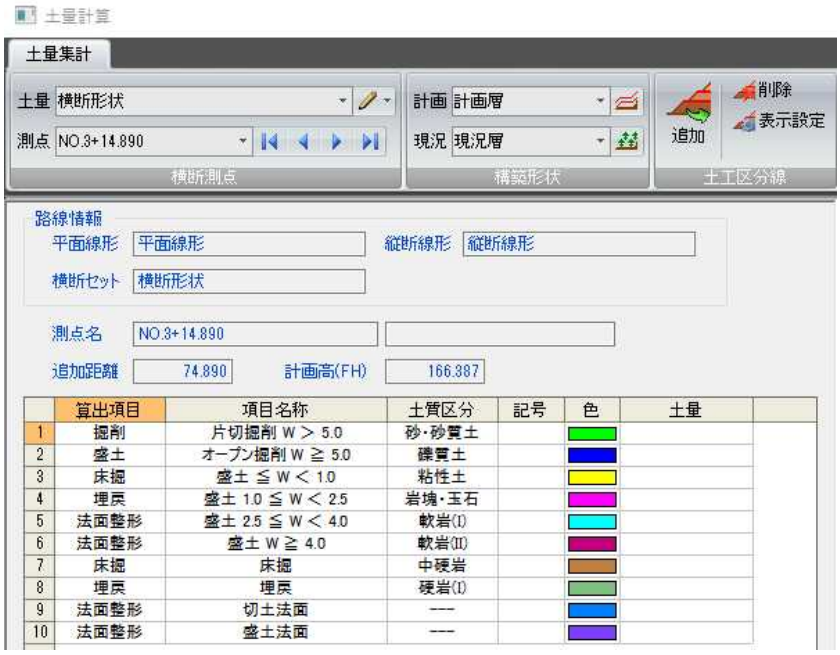
1 土量集計メニューの[横断測点]で[測点]のドロップダウンリストより、いずれかの測点を選択します。

2 測点が切り替わります。

● 測点切り替えボタン

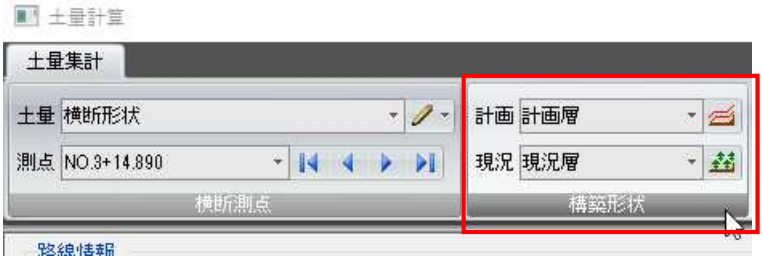
1 土量集計メニューの[横断測点]で測点切り替えボタンをクリックします。
例）次測点に移動




土量計算
土量集計
土量 横断形状
測点 NO.3+14.890
横断測点
計画 計画層
現況 現況層
構築形状
追加
削除
表示設定
土工区分線
路線情報
平面線形 平面線形
縦断線形 縦断線形
横断セット 横断形状
測点名 NO.3+14.890
追加距離 74.890
計画高(FH) 166.387
算出項目 項目名称 土質区分 記号 色 土量
1 掘削 片切掘削 W > 5.0 砂・砂質土
2 盛土 オープン掘削 W ≧ 5.0 礫質土
3 床掘 盛土 ≦ W < 1.0 粘性土
4 埋戻 盛土 1.0 ≦ W < 2.5 岩塊・玉石
5 法面整形 盛土 2.5 ≦ W < 4.0 軟岩(I)
6 法面整形 盛土 W ≧ 4.0 軟岩(II)
7 床掘 床掘 中硬岩
8 埋戻 埋戻 硬岩(I)
9 法面整形 切土法面 ---
10 法面整形 盛土法面 ---

3 構築形状

計画層および現況層の選択・表示設定、現況層の選択・表示設定を行います。



土量集計 －[構築形状]

計画層を選択・表示設定する

計画層を選択・表示設定します。

● 計画層を選択する

1 土量集計メニューの[構築形状]で[計画]のドロップダウンリストより、いずれかの計画層を選択します。

2 計画層が切り替わります。

● 計画層の表示を設定する

1 土量集計メニューの[構築形状]で[計画]の をクリックします。

2 「計画層表示」ダイアログボックスが表示されます。

計画層が一覧表示され、「対象」のチェックマークをオンにしたものが表示されます。

[全選択]／[全解除]

一覧表示内のすべてのチェックマークをオン、またはオフにします。

3 [OK]をクリックすると、土木集計メニューに戻ります。

土量集計 －[構築形状]

現況層を選択・表示設定する

現況層を選択・表示設定します。

● 現況層を選択する

1 土量集計メニューの[構築形状]で[現況]のドロップダウンリストより、いずれかの現況層を選択します。

2 現況層が切り替わります。

● 現況層の表示を設定する

1 土量集計メニューの[構築形状]で[現況]の をクリックします。

2 「現地盤線表示」ダイアログボックスが表示されます。

現況層が一覧表示され、「対象」のチェックマークをオンにしたものが表示されます。

[全選択]／[全解除]

一覧表示内のすべてのチェックマークをオン、またはオフにします。

3 [OK]をクリックすると、土木集計メニューに戻ります。

4 土工区分線

土工区分線の追加・削除・表示設定処理を行います。

土量集計－[土工区分線]－[追加]

土工区分線を追加する

領域内に指定した幅の線分（土工区分線）を一括または手動で作図します。

● 作図方法を選択する

1 土量集計メニューの[土工区分線]で[追加]をクリックすると、「土工区分線」ダイアログボックスが表示されます。

2 いずれかの作図方法をクリックすると、それぞれの操作に移行します。

● 土工区分線を一括作図する

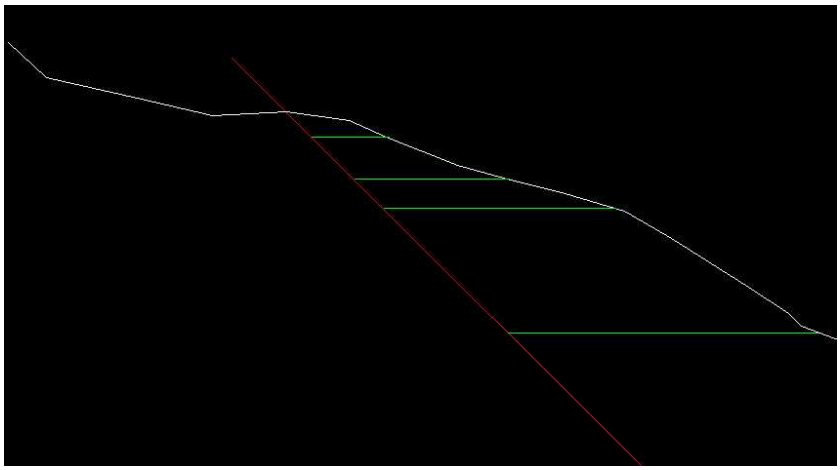
1 土量集計メニューの[土工区分線]で[追加]をクリックすると、「土工区分線」ダイアログボックスが表示されますので、[一括作成]をクリックします。
「土工区分線」ダイアログボックスが表示されますので、各種の設定を行います。

測点の選択
測点一覧表示内のチェックマークのオン・オフにより、選択を行います。

[全選択]／[全解除]
一覧表示内のすべてのチェックマークをオン、またはオフにします。

切土、盛土の設定
区分線の設定
区分線入力欄内をクリックして入力します。一度に作図できる区分線の本数は最大５本になります。チェックマークをオンにした区分線が作図されます。
作図基準(標高)の選択
土工区分線の作図方向を高い方から、または低い方からのいずれかから選択することができます。
「高」、「低」のいずれかのラジオボタンをクリックして選択します。

2 「土工区分線」ダイアログボックスで[実行]をクリックすると、土工区分線の作図が行われます。



● 土工区分線を手動作成する

1 土量集計メニューの[土工区分線]で[追加]をクリックすると、「土工区分線」ダイアログボックスが表示されます。

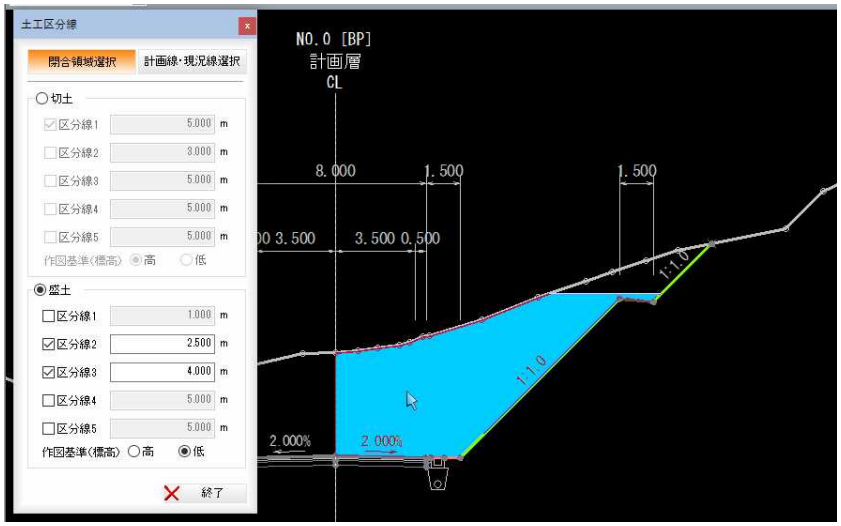
2 [手動作成]をクリックすると、「土工区分線」ダイアログボックスが表示され、土工区分線作図モードとなります。

選択方法の指定
「閉合領域選択」、「計画線・現況線選択」のいずれかをクリックして選択します。

盛土・切土の選択
「切土」、「盛土」のいずれかのラジオボタンをクリックして選択します。

閉合領域選択の場合

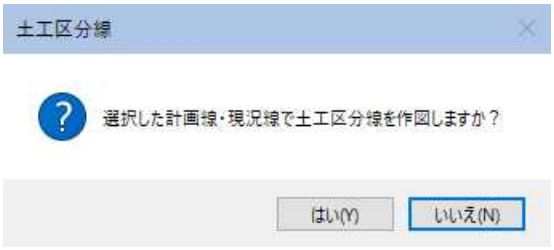
[閉合領域選択]を選択した場合は、閉合領域の指定モードとなります。プレビュー画面内で閉合領域をマウスにて指定すると、土工区分線の作図が行われます。



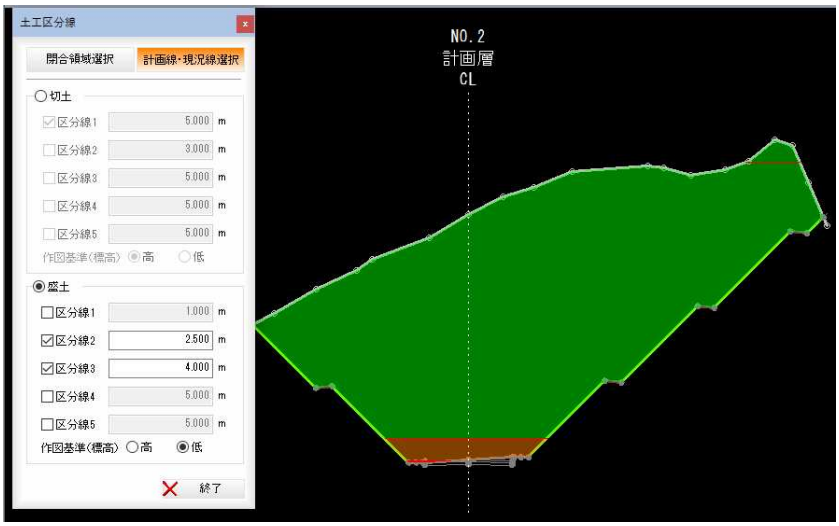
計画線・現況線選択の場合

「土工区分線」ダイアログボックスで[計画線・現況線選択]をクリックすると、計画線選択モードとなりますので、プレビュー画面内で計画線をマウスにて指定します。

続けて現況線指定モードとなりますので、現況線をマウスにて指定すると、確認メッセージが表示されます。



[はい]をクリックすると、土工区分線が作図されます。



3 [終了]をクリックすると、土工区分線の作図モードを終了します。

土量集計－[土工区分線]－[削除]

土工区分線を削除する

領域内に作図した土工区分線を各種の方法で削除します。

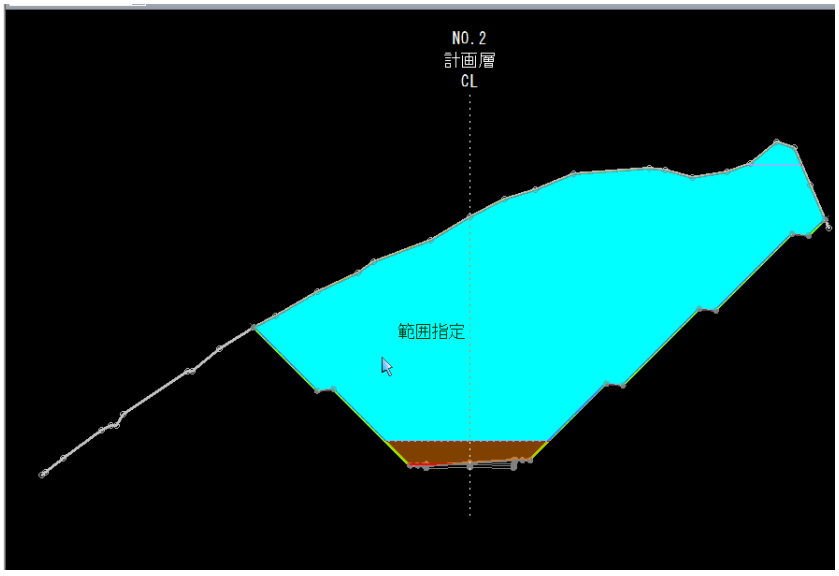
● 削除方法を選択する

1 土量集計メニューの[土工区分線]で[追加]をクリックすると、「土工区分線の削除」ダイアログボックスが表示されます。

2 いずれかの削除方法をクリックすると、それぞれの操作に移行します。

● 区分線選択により削除する

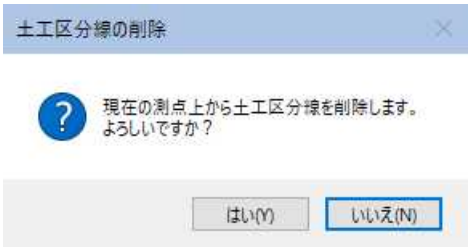
1 「土工区分線の削除」ダイアログボックスで[区分線選択]をクリックすると、指定モードとなりますので、マウスにて始点－終点を指定して削除する範囲を指定します。



2 範囲が確定されると同時に削除が実行されます。

● 現在の測点の土工区分線を削除する

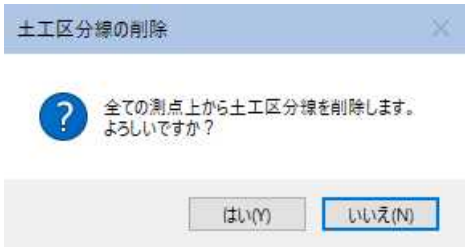
1 「土工区分線の削除」ダイアログボックスで[現在の測点のみ]をクリックすると、確認メッセージが表示されます。



2 [はい]をクリックすると、削除が実行されます。

● 全ての測点の土工区分線を削除する

1 「土工区分線の削除」ダイアログボックスで[全ての測点]をクリックすると、確認メッセージが表示されます。



2 [はい]をクリックすると、削除が実行されます。

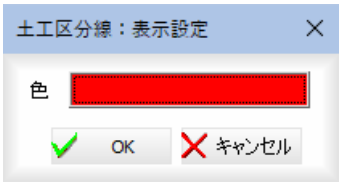
土量集計 －[土工区分線]－[表示設定]

土工区分線の表示設定を行う

土工区分線の表示設定を行います。

● 表示設定を行う

1 土量集計メニューの[土工区分線]で[追加]をクリックすると、「土工区分線：表示設定」ダイアログボックスが表示されます。
現在の土工区分線の色が表示されます。



「色」欄内をクリックすると、「色の設定」ダイアログボックスが表示されます。

色を選択し、[OK]をクリックすると、「土工区分線：表示設定」ダイアログボックスに戻ります。

2 「土工区分線：表示設定」ダイアログボックスで[OK]をクリックすると、処理が実行されます。

5 土量

土量の追加・編集・変更・削除・確認の各種の処理を行います。

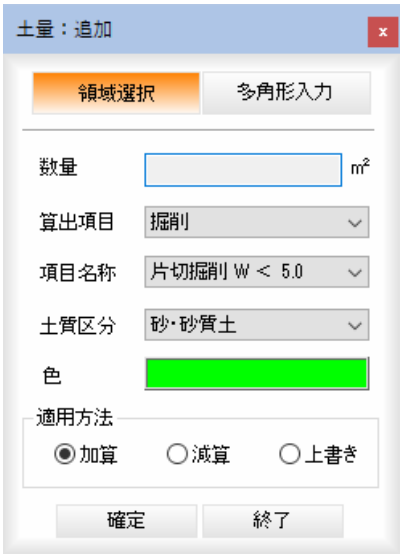
土量集計 −[土量]−[追加]

土量を追加する

土量を領域選択または多角形入力で追加します。

● 土量を追加する

1 土量集計メニューの[土量]で[追加]をクリックすると、「土量：追加」ダイアログボックスが表示されます。



指定方法の選択

[領域選択]または[多角形入力]をクリックすると、それぞれの方法で土量の追加を行います。

数量 ：数量が㎡単位で表示されます。

算出項目・項目名称・土質区分の選択

それぞれドロップダウンリストよりいずれかを選択します。

適用方法の選択

「加算」、「減算」、「更新」のいずれかのラジオボタンをクリックして選択します。

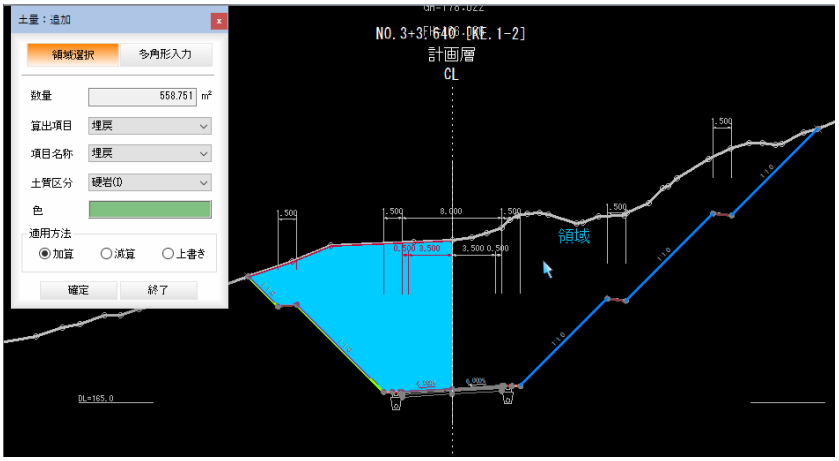
「加算」は指定した領域の数量を加算し、「減算」は指定した領域で数量を減算します。「上書き」は既に入力された数量をクリアして上書きします。

また、土量計算ウィンドウ左側のデーター覧内をクリックしても、対象の各項目を変更することもできます。

2 「領域選択」で土量を追加

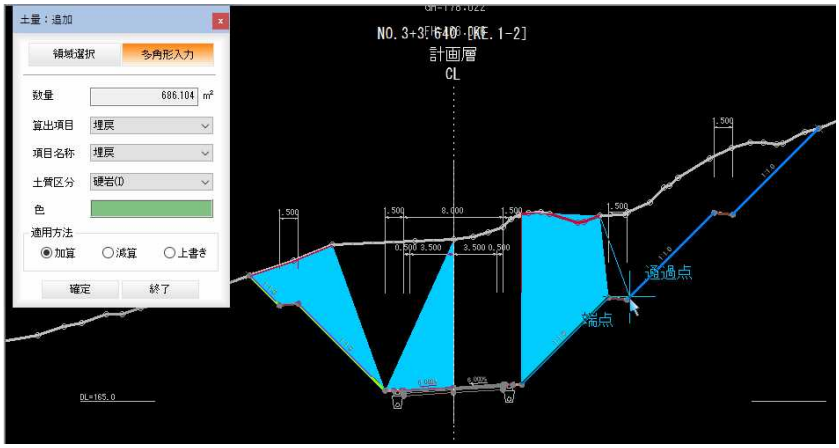
「領域選択」を選択した状態で、プレビュー内の領域をクリックすると、「土量：追加」ダイアログボックス内の「数量」欄内に数量が入力されます。

複数の領域を指定することができます。



3 「多角形入力」で土量を追加

「多角形入力」を選択した状態で、プレビュー内の領域で始点をクリックすると、通過点指定モードとなりますので、通過点をクリックして多角形を作成します。
多角形が確定すると、「土量：追加」ダイアログボックス内の「数量」欄内に数量が入力されます。
続けて、複数の多角形を入力することができます。



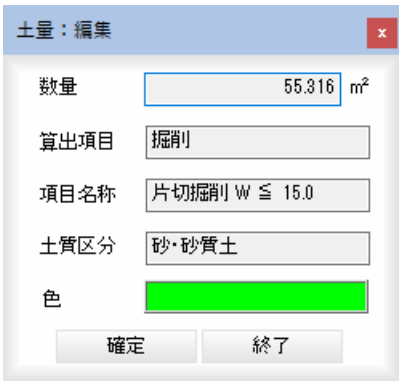
4 計算結果を入力する

「土量：追加」ダイアログボックス内で[確定]をクリックすると、現在選択中の算出項目の数量欄に数量が入力されます。

土量集計 −[土量]−[編集]

土量を編集する

1 土量集計メニューの[土量]で[編集]をクリックすると、「土量：編集」ダイアログボックスが表示されます。
編集を行う領域をマウスにてクリックすると、「土量：編集」ダイアログボックス内に表示されます。

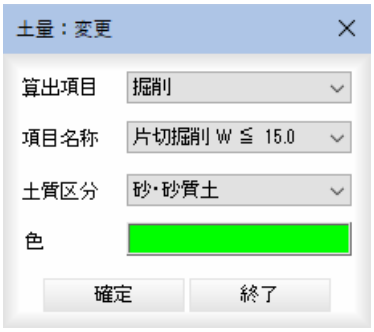


2 [確定]をクリックすると、現在選択中の算出項目の数量欄に数量が入力されます。

土量集計 −[土量]−[変更]

土量の各項目を変更する

1 土量集計メニューの[土量]で[変更]をクリックすると、「土量：変更」ダイアログボックスが表示されます。



算出項目・項目名称・土質区分の変更
それぞれドロップダウンリストよりいずれかを選択します。
また、土量計算ウィンドウ左側のデーター覧内をクリックしても、対象の各項目を変更することもできます。

2 [確定]をクリックすると、設定した項目に土量が変更されます。

土量集計 －[土量]－[削除]

土量を削除する

1 土量集計メニューの[土量]で[削除]をクリックすると、領域指定モードとなりますので、マウスにてクリックします。
「土量：削除」ダイアログボックスが表示されます。

いずれかをクリックすると、それぞれの操作に移行します。

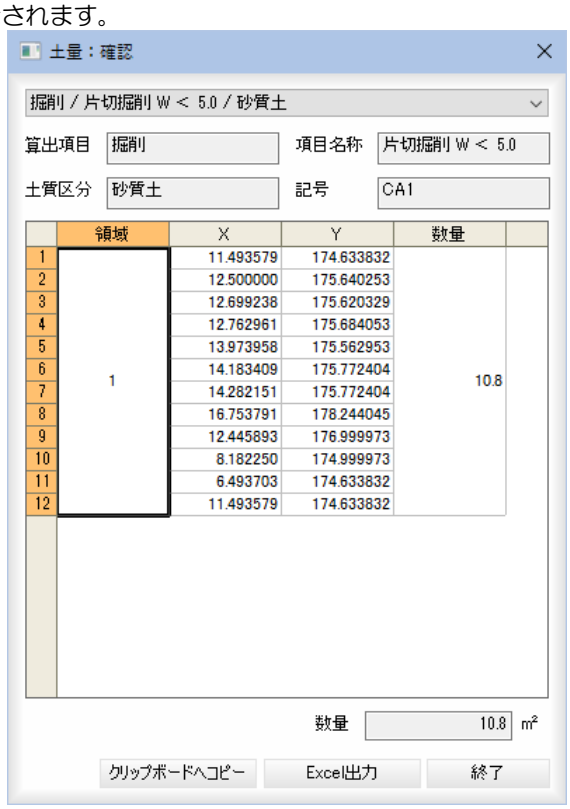
2 **削除する**
選択した領域が削除されます。

次の候補
現在選択中の領域は削除せず、次の領域に移動します。

土量集計 －[土量]－[確認]

土量の領域を確認する

1 土量集計メニューの[土量]で[確認]をクリックすると、「土量：確認」ダイアログボックスが表示されます。



算出項目・項目名称・土質区分・記号の表示
各種の項目が表示されます。

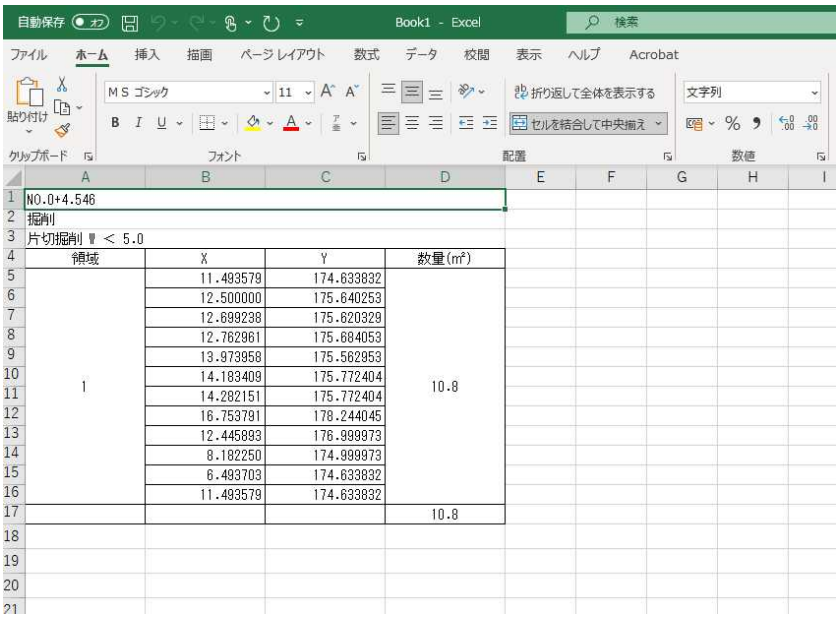
領域の表示
領域番号をクリックすると、それぞれの領域が斜線表示されます。

数量の表示
「数量」欄内に面積が表示されます。

クリップボードへコピー
[クリップボードへコピー]をクリックすると、クリップボードに選択した領域の情報がコピーされます。
▼コピーされた内容例

"-7.740000"	"168.594817"
"7.260000"	"168.594817"
"12.500000"	"173.834817"
"3.180628"	"190.725148"
"0.000000"	"189.064000"
"-3.626888"	"187.000000"
"-8.816130"	"185.000000"
"-10.313408"	"184.000000"
"-13.948553"	"182.258572"
"-12.500000"	"173.354817"
"-7.740000"	"168.594817"

Excel 出力
[Excel 出力]をクリックすると、選択した領域の情報が Excel データとして出力され、Excel 上に表示されます。



	A	B	C	D	E	F	G	H	I
1	NO.0+4.546								
2	掘削								
3	片切掘削 ▼ < 5.0								
4	領域	X	Y	数量(m²)					
5		11.493579	174.633832						
6		12.500000	175.640253						
7		12.699238	175.620329						
8		12.762961	175.684053						
9		13.973958	175.562953						
10		14.183409	175.772404						
11	1	14.282151	175.772404	10.8					
12		16.753791	178.244045						
13		12.445893	176.999973						
14		8.182250	174.999973						
15		6.493703	174.633832						
16		11.493579	174.633832						
17				10.8					
18									
19									
20									
21									

2 [終了]をクリックすると、「土量：確認」ダイアログボックスの表示を終了します。

6 法長

法長の追加・編集・変更・削除の各種の処理を行います。

土量集計 −[法長]−[追加]

法長を追加する

法長を要素選択または連続線入力で追加します。

● 法長を追加する

1 土量集計メニューの[法長]で[追加]をクリックすると、「法長：追加」ダイアログボックスが表示されます。

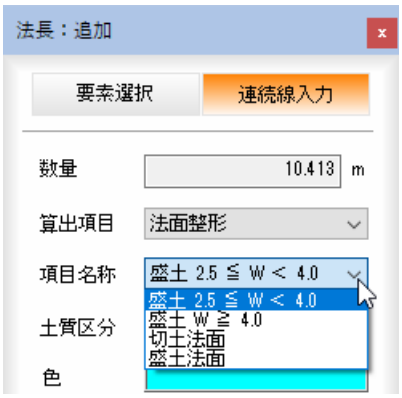
指定方法の選択

[領域選択]または[多角形入力]をクリックすると、それぞれの方法で法長の追加を行います。

数量 ：数量がm単位で表示されます。

算出項目・項目名称・土質区分の選択

それぞれドロップダウンリストよりいずれかを選択します。



適用方法の選択

「加算」、「上書き」のいずれかのラジオボタンをクリックして選択します。

「加算」は、続けて選択した領域の数量を加算し、「上書き」は、最後に選択した領域の数量で上書きします。

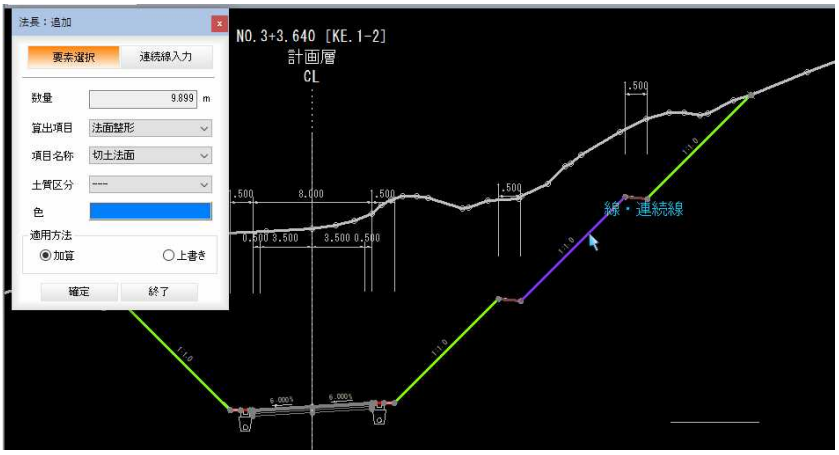
また、土量計算ウィンドウ左側のデーター覧内をクリックしても、対象の各項目を変更することもできます。

2 「要素選択」で法長を追加

「要素選択」を選択した状態で、プレビュー内の要素をクリックすると、「法長：追加」ダイアログボックス内の「数量」欄内に数量が入力されます。

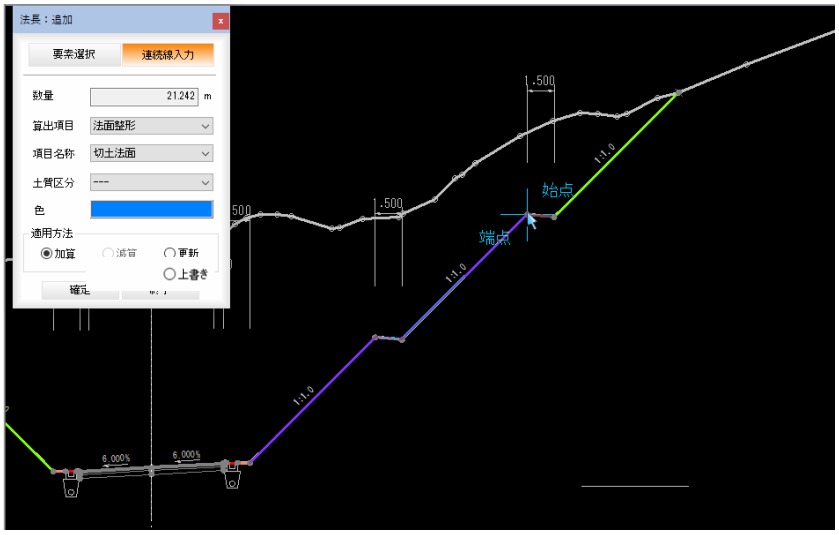
複数の要素を指定することができます。

複数の要素をクリックした場合、選択した適用方法で計算処理が行われます。



3 「連続線入力」で法長を追加

「連続線入力」を選択した状態で、プレビュー内の領域で始点をクリックすると、通過点指定モードとなりますので、通過点をクリックして連続線を作成します。
連続線が確定すると、「法長：追加」ダイアログボックス内の「数量」欄内に数量が入力されます。
続けて、複数の連続線を入力することができます。
複数の連続線を入力した場合、選択した適用方法で計算処理が行われます。



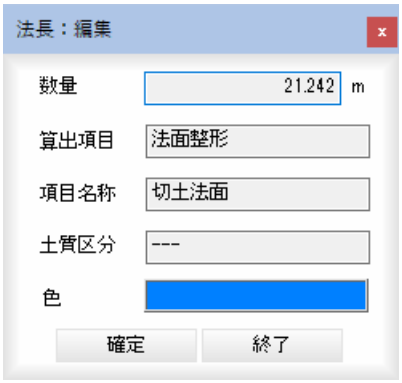
4 計算結果を入力する

「法長：追加」ダイアログボックス内で[確定]をクリックすると、現在選択中の算出項目の数量欄に数量が入力されます。

土量集計 －[法長]－[編集]

法長を編集する

1 土量集計メニューの[法長]で[編集]をクリックすると、「法長：編集」ダイアログボックスが表示されます。
編集を行う法長をマウスにてクリックすると、「法長：編集」ダイアログボックス内に表示されます。

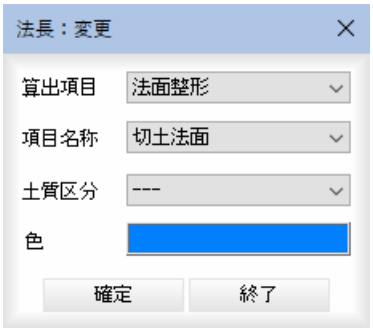


2 [確定]をクリックすると、現在選択中の算出項目の数量欄に数量が入力されます。

土量集計 －[法長]－[変更]

法長の各項目を変更する

1 土量集計メニューの[法長]で[変更]をクリックすると、「法長：変更」ダイアログボックスが表示されます。



算出項目・項目名称・土質区分の変更
それぞれドロップダウンリストよりいずれかを選択します。
また、土量計算ウィンドウ左側のデーター覧内をクリックしても、対象の各項目を変更することもできます。

2 [確定]をクリックすると、設定した項目に法長が変更されます。

土量集計 －[法長]－[削除]

法長を削除する

1 土量集計メニューの[法長]で[削除]をクリックすると、要素指定モードとなりますので、マウスにてクリックします。
「法長：削除」ダイアログボックスが表示されます。

いずれかをクリックすると、それぞれの操作に移行します。

2 **削除する**
選択した法長が削除されます。
次の候補
現在選択中の法長は削除せず、次の法長に移動します。

土量集計 －[法長]－[確認]

法長を確認する

1 土量集計メニューの[法長]で[確認]をクリックすると、「法長：確認」ダイアログボックスが表示されます。

算出項目・項目名称・土質区分・記号の表示
各種の項目が表示されます。

数量の表示
「数量」欄内に数量が表示されます。

2 [終了]をクリックすると、「法長：確認」ダイアログボックスの表示を終了します。

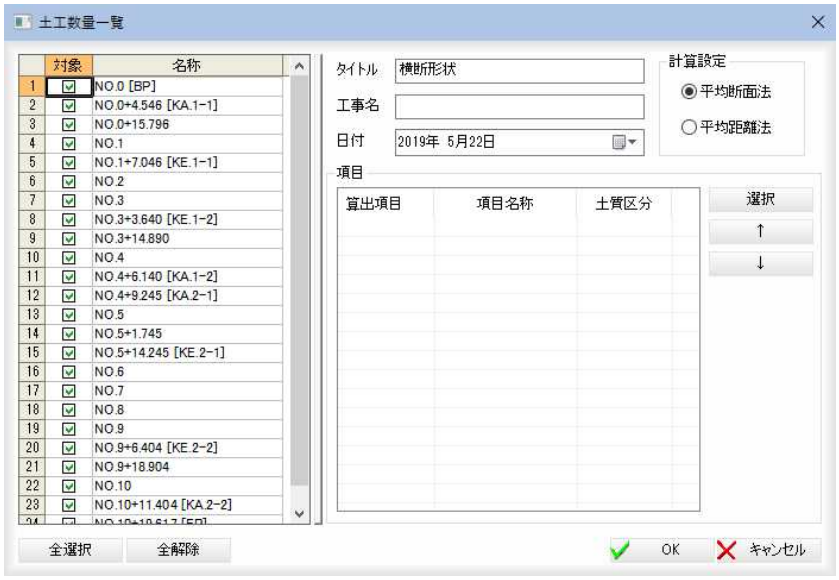
7 土工数量一覧

指定した計算方法で、土工数量一覧表を作成します。

土量集計 −[土工数量一覧]

土工数量一覧表を作成する

1 土量集計メニューの[土量]で[土工数量一覧]をクリックすると、「土工数量一覧」ダイアログボックスが表示されます。



測点一覧の表示

一覧内の「対象」チェックマークのオン・オフで設定します。

[全選択]／[全解除]

一覧表示内のすべてのチェックマークをオン、またはオフにします。

タイトル・工事名・日付名の入力

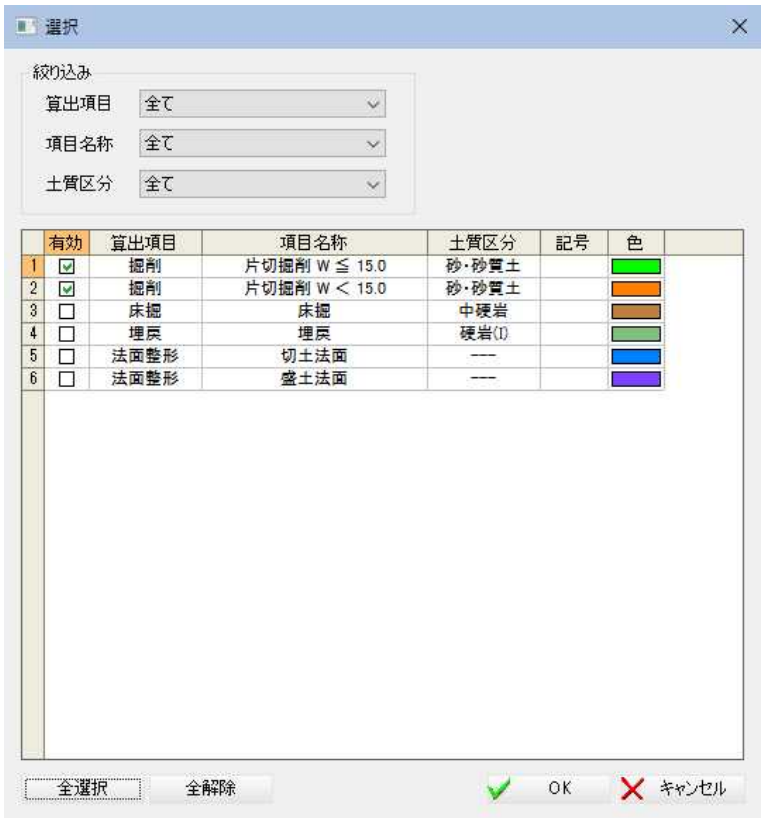
それぞれ入力欄内をクリックして入力します。「日付」のみカレンダーを表示させて入力することもできます。

計算設定

「平均断面法」、「平均距離法」のいずれかのラジオボタンをクリックして選択します。

2 項目の選択

項目一覧表示の[選択]をクリックすると、「選択」ダイアログボックスが表示されます。



絞り込み

「算出項目」、「項目名称」、「土質区分」のドロップダウンリストより選択します。

一覧表示内

「有効」チェックマークのオン・オフにより設定を行います。

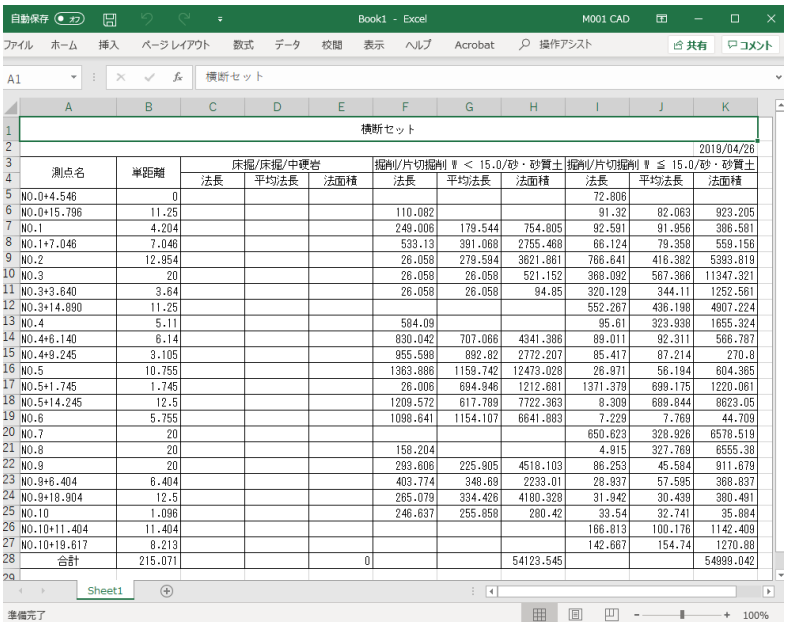
[OK]をクリックすると、「土工数量一覧」ダイアログボックスに戻ります。

3 [↑]／[↓]

選択中の項目を一覧表示内で上へ移動、または下へ移動します。

4

「土工数量一覧」ダイアログボックスで[OK]をクリックすると、選択した計算方法で土工数量が計算され、Excel 上に表示されます。



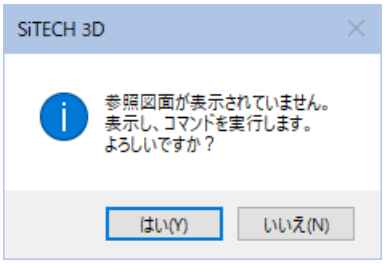
8 作図

プレビューに表示されている計画線、現況線または両方を参照図面の対象横断図に作図します。
また、測点ごとの土量情報を配置します。

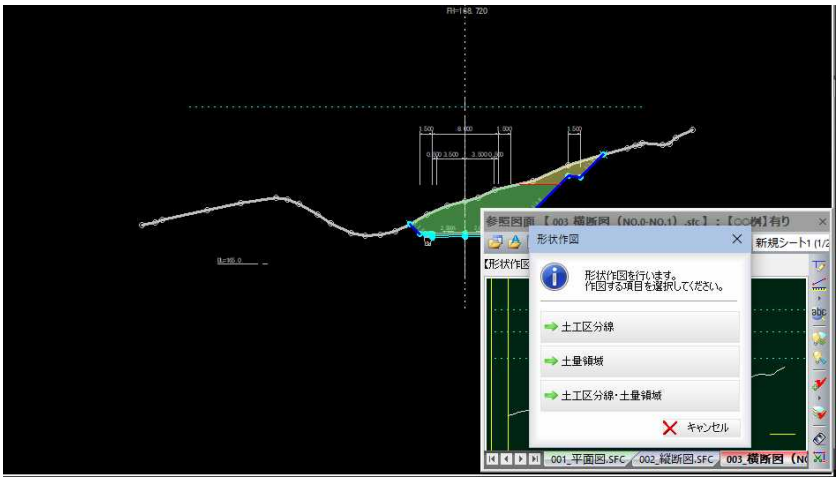
土量集計 －[作図]－[形状作図]

計画線／現況線を参照図面に作図する

1 土量集計メニューの[作図]で[形状作図]をクリックすると、参照図面が表示されていない場合、確認メッセージが表示されます。



[はい]をクリックすると、参照図面が表示され、「形状作図」ダイアログボックスが表示されます。



2 いずれかの作図方法をクリックすると、それぞれの操作に移行します。

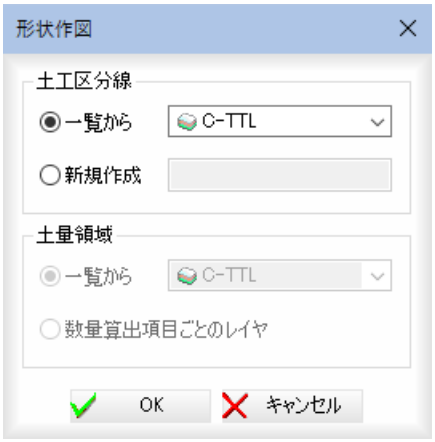
● 土工区分線を作図する

1 「形状作図」ダイアログボックスから[土工区分線]をクリックすると、カレント測点にベース図情報がある場合は、確認メッセージが表示されます。

[はい]をクリックすると、「形状作図」ダイアログボックスが表示されます。

カレント測点にベース図情報がない場合は、断面形状のセンター位置指定のモードになりますので、マウスにて指示します。

2 「形状作図」ダイアログボックスで各種の設定を行います。



土工区分線
「一覧から」、「新規作成」いずれかのラジオボタンをクリックして選択します。
「一覧から」を選択した場合は、ドロップダウンリストより選択します。
「新規作成」を選択した場合は、入力欄内にレイヤ名を入力します。

3 [OK]をクリックし、指定したレイヤがすでに存在するものの場合、確認のメッセージが表示されます。[はい]をクリックすると、処理が実行されます。

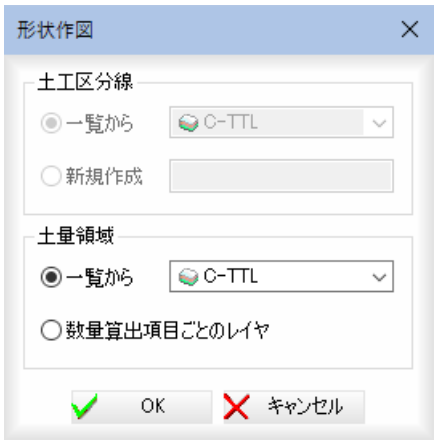
● 土量の領域を作図する

1 「形状作図」ダイアログボックスから[土量領域]をクリックすると、カレント測点にベース図情報がある場合は、確認メッセージが表示されます。

[はい]をクリックすると、「形状作図」ダイアログボックスが表示されます。

カレント測点にベース図情報がない場合は、計画線のセンター位置指定のモードになりますので、マウスにて指示します。

2 「形状作図」ダイアログボックスで各種の設定を行います。



土量領域
「一覧から」、「数量算出項目ごとのレイヤ」いずれかのラジオボタンをクリックして選択します。
「一覧から」を選択した場合は、ドロップダウンリストより選択します。
「数量算出項目ごとのレイヤ」を選択した場合は、作図される領域の「算出項目」がレイヤ名称に使用されます。

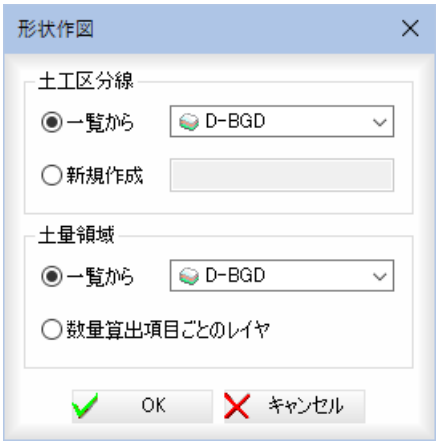
3 [OK]をクリックし、指定したレイヤがすでに存在するものの場合、確認のメッセージが表示されます。[はい]をクリックすると、処理が実行されます。

● 土量の領域・土工区分線を作図する

1 「形状作図」ダイアログボックスから[土工区分線・土量領域]をクリックすると、カレント測点にベース図情報がある場合は、確認メッセージが表示されます。[はい]をクリックすると、「形状作図」ダイアログボックスが表示されます。

カレント測点にベース図情報がない場合は、断面形状のセンター位置指定のモードになりますので、マウスにて指示します。

2 センター位置でクリックすると、「形状作図」ダイアログボックスが表示されます。



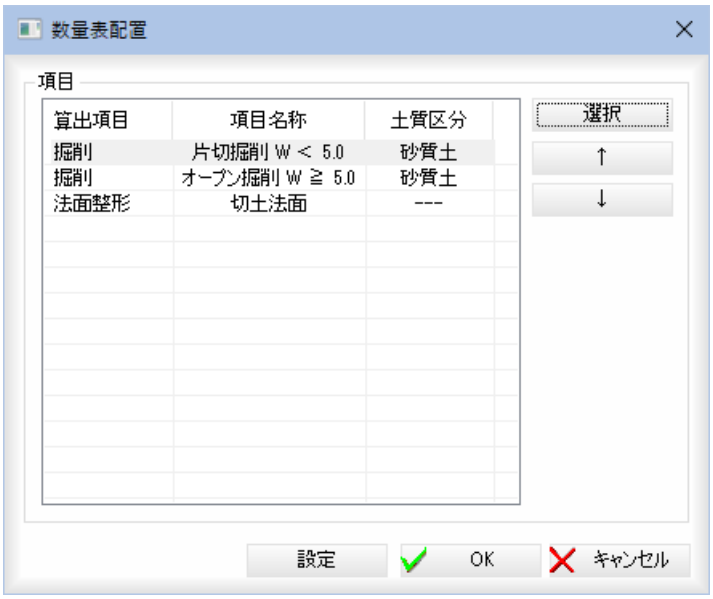
土工区分線
「一覧から」、「新規作成」いずれかのラジオボタンをクリックして選択します。
「一覧から」を選択した場合は、ドロップダウンリストより選択します。
「新規作成」を選択した場合は、入力欄内にレイヤ名を入力します。

土量領域
「一覧から」、「数量算出項目ごとのレイヤ」いずれかのラジオボタンをクリックして選択します。
「一覧から」を選択した場合は、ドロップダウンリストより選択します。
「数量算出項目ごとのレイヤ」を選択した場合は、作図される領域の「算出項目」がレイヤ名称に使用されます。

3 [OK]をクリックし、指定したレイヤがすでに存在するものの場合、確認のメッセージが表示されます。[はい]をクリックすると、処理が実行されます。

● 表配置処理の流れ

1 土量集計メニューの[作図]で[表配置]をクリックすると、「数量表配置」ダイアログボックスが表示されます。各種の設定を行います。



項目の選択

項目一覧表示の[選択]をクリックすると、「選択」ダイアログボックスが表示されます。

絞り込み

「算出項目」、「項目名称」、「土質区分」のドロップダウンリストより選択します。

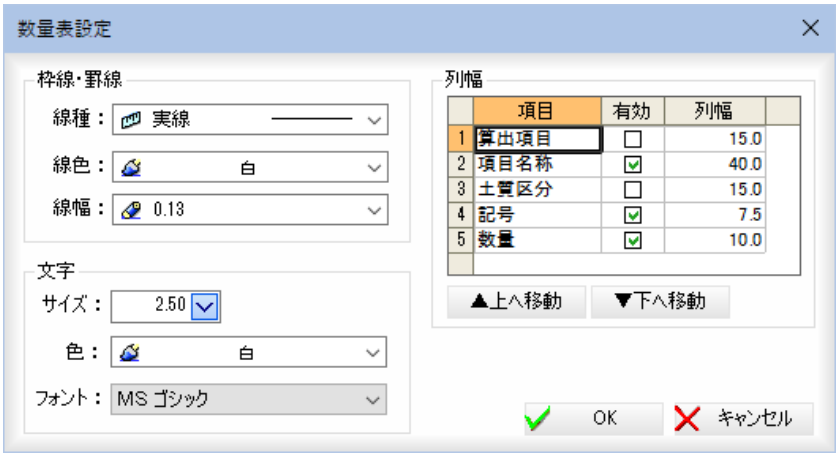
一覧表示内

「対象」チェックマークのオン・オフにより設定を行います。

[全選択]／[全解除]
一覧表示内のすべてのチェックマークをオン、またはオフにします。

「選択」ダイアログボックスで[OK]をクリックすると、「数量表配置」ダイアログボックスに戻ります。

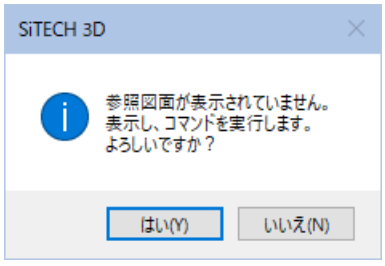
数量表の設定
「数量表配置」ダイアログボックスで[設定]をクリックすると、「数量表設定」ダイアログボックスが表示されます。各種の設定を行います。



枠線・罫線
「線種」、「線色」、「線幅」のドロップダウンリストより選択します。
文字
「サイズ」、「色」、「フォント」のドロップダウンリストより選択します。
列幅
各項目について「有効」、「列幅」を入力します。
「▲上へ移動」、「▼下へ移動」で順序を変更することができます。

「数量表設定」ダイアログボックスで[OK]をクリックすると、「数量表配置」ダイアログボックスに戻ります。

2 「数量表配置」ダイアログボックスで[OK]をクリックすると、参照図面が表示されていない場合、確認メッセージが表示されます。



[はい]をクリックすると、参照図面が表示され、「表編集」ダイアログボックスが表示されます。

3 各種の編集作業を行います。

各種メニューで処理を実行

メニューバーとツールバーから各種の処理を行います。

列の幅・行の高さ

表プレビュー画面のヘッダ部でマウスドラッグすることで幅・高さを変更できるほか、行全体・列全体を選択した状態で数値による変更もできます。またダブルクリックにより、最適な列幅・行高さを設定します。

文字の編集

F2 キーもしくは、文字入力を開始すると、自動的に文字編集状態になり、Enter キーまたは Tab キーで確定し、次のセルに移動します。
DEL キーで選択範囲の文字を削除できます。

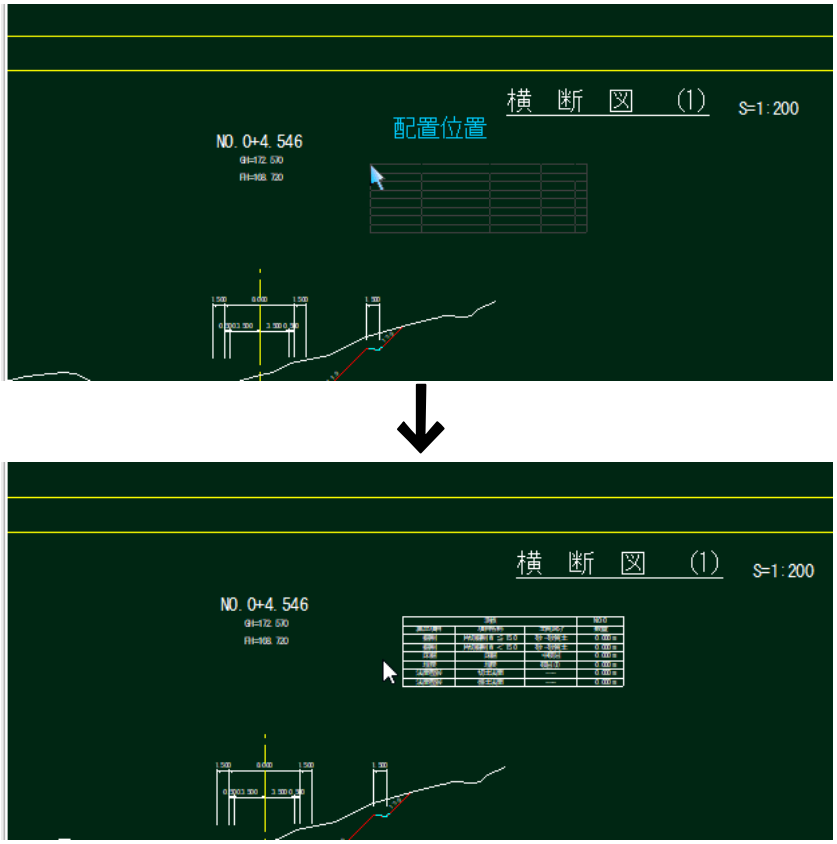
元に戻す・やり直しアイコン（ ）

元に戻す、やり直しは 10 回までの処理について行うことができます。

[×]ボタン

表を編集した後[×]をクリックした場合、確認のメッセージが表示されます。
「はい」→表を図面内に配置した後、表処理を終了します。
「いいえ」→変更を破棄して表処理を終了します。
「キャンセル」→編集モードに戻ります。

4 [ファイル]－[表配置]をクリックし、参照図面内に表を配置します。



配置後、再び「表編集」ダイアログボックスが表示されますので、続けて表の編集・配置を行うことができます。

●「表編集」ダイアログボックスのツールバーメニュー

「表編集」ダイアログボックス内には以下のツールバーメニューがあります。

書式メニュー

罫線メニュー

以下、各メニューについて説明します。

「書式」メニュー

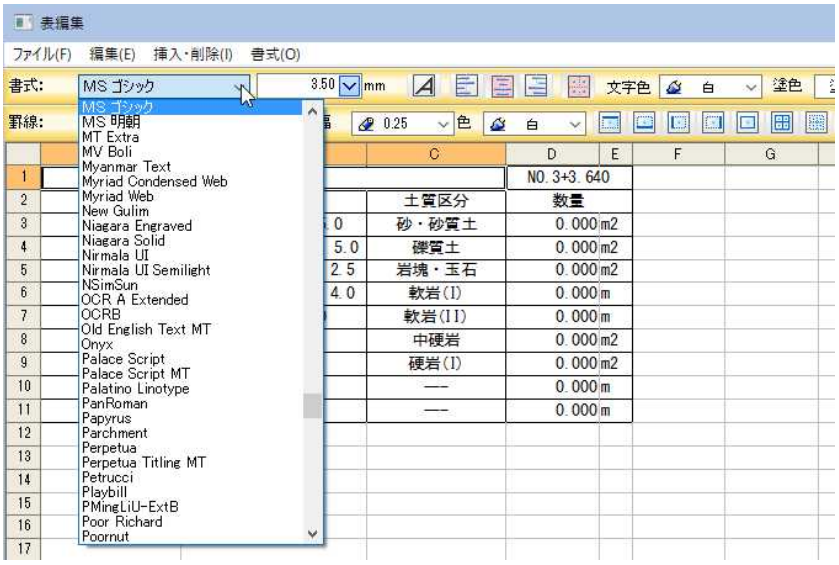
以下、書式メニュー内の各機能について説明します。

・プルダウンメニューの[書式]各処理からも各種の書式を設定できます。

■ フォント・文字サイズの選択

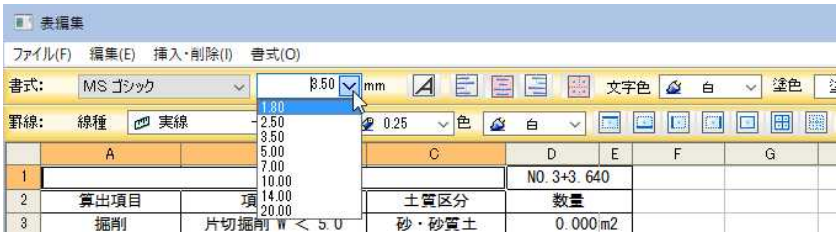
1 フォントの選択

「表編集」ダイアログボックスのツールバー[書式：]内のフォントのドロップダウンリストよりいずれかのフォントを選択します。



2 文字サイズの選択

「表編集」ダイアログボックスのツールバー[書式：]内の文字サイズの入力欄内に数値を入力またはドロップダウンリストよりいずれかの文字サイズを選択します。



■ 斜体、文字の揃え(左寄せ、中寄せ、右寄せ)の選択、セルの結合

1 斜体

「表編集」ダイアログボックスのツールバー[書式：]内の斜体アイコン をクリックすると、選択したセルの文字列が斜体になります。

2 左寄せ、中寄せ、右寄せの選択

「表編集」ダイアログボックスのツールバー[書式：]内の各種揃えのアイコン をクリックすると、選択したセルの文字列の位置が変更されます。

3 セルの結合

複数のセルを選択し、「表編集」ダイアログボックスのツールバー[書式：]内のセル結合アイコン をクリックすると、選択したセルが結合されます。

■ 文字色、内部塗り

1 文字色の選択

「表編集」ダイアログボックスのツールバー[書式：]内の文字色のドロップダウンリストよりいずれかの色をクリックすると、選択したセル内の文字列の色が選択した色になります。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I
1	測点			NO.3+3.640					
2	算出項目	項目名称	土質区分	数量					
3	掘削	片切掘削 W ＜ 5.0	砂・砂質土	0.000	m2				
4	盛土	オープン掘削 W ≧ 5.0	礫質土	0.000	m2				
5	埋戻	盛土 1.0 ≦ W ＜ 2.5	岩塊・玉石	0.000	m2				
6	法面整形	盛土 2.5 ≦ W ＜ 4.0	軟岩(I)	0.000	m				
7	法面整形	盛土 W ≧ 4.0	軟岩(II)	0.000	m				
8	床掘	床掘	中硬岩	0.000	m2				

2 内部塗り処理

「表編集」ダイアログボックスのツールバー[書式：]内の塗色のドロップリストダウンリストよりいずれかの色をクリックすると、選択したセル内が選択した色で塗られます。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I
1	測点			NO.3+3.640					
2	算出項目	項目名称	土質区分	数量					
3	掘削	片切掘削 W ＜ 5.0	砂・砂質土	0.000	m2				
4	盛土	オープン掘削 W ≧ 5.0	礫質土	0.000	m2				
5	埋戻	盛土 1.0 ≦ W ＜ 2.5	岩塊・玉石	0.000	m2				
6	法面整形	盛土 2.5 ≦ W ＜ 4.0	軟岩(I)	0.000	m				
7	法面整形	盛土 W ≧ 4.0	軟岩(II)	0.000	m				
8	床掘	床掘	中硬岩	0.000	m2				

「罫線」メニュー

以下、罫線メニュー内の各機能について説明します。

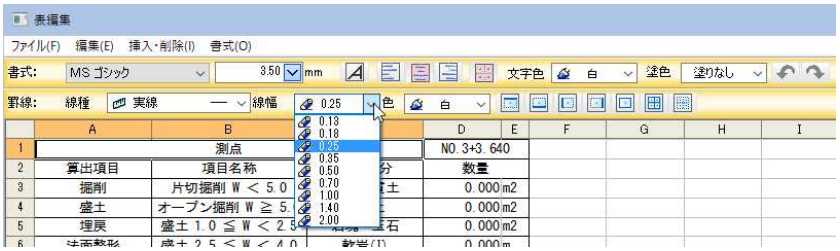
■ 罫線の線種・線幅・色の選択

1 線種の選択

「表編集」ダイアログボックスのツールバー[罫線：]内の「線種」のドロップダウンリストよりいずれかの線種を選択します。

2 線幅の選択

「表編集」ダイアログボックスのツールバー[罫線：]内の「線幅」のドロップダウンリストよりいずれかの線幅を選択します。



3 色の選択

「表編集」ダイアログボックスのツールバー[罫線：]内の「色」のドロップダウンリストよりいずれかの色を選択します。

■ 罫線の選択

1 上、下、左、右に罫線を引く

「表編集」ダイアログボックスのツールバー[罫線：]内の罫線を引く方向のアイコン をクリックすると、選択したセルに選択罫線が引かれます。

2 選択したセルの外側に罫線を引く

「表編集」ダイアログボックスのツールバー[罫線：]内の外側罫線アイコン をクリックすると、選択したセルの外側に選択罫線が引かれます。

3 選択したセルのすべてのグリッド線に罫線を引く

「表編集」ダイアログボックスのツールバー[罫線：]内の全て罫線アイコン をクリックすると、選択したセルのすべてのグリッドに選択罫線が引かれます。

4 選択したセルのすべての罫線を消す

「表編集」ダイアログボックスのツールバー[罫線：]内の全て罫線消去アイコン をクリックすると、選択したセルのすべての罫線が消去されます。

●「表作成」ダイアログボックスのプルダウンメニュー

「表編集」ダイアログボックス内には以下のプルダウンメニューがあります。

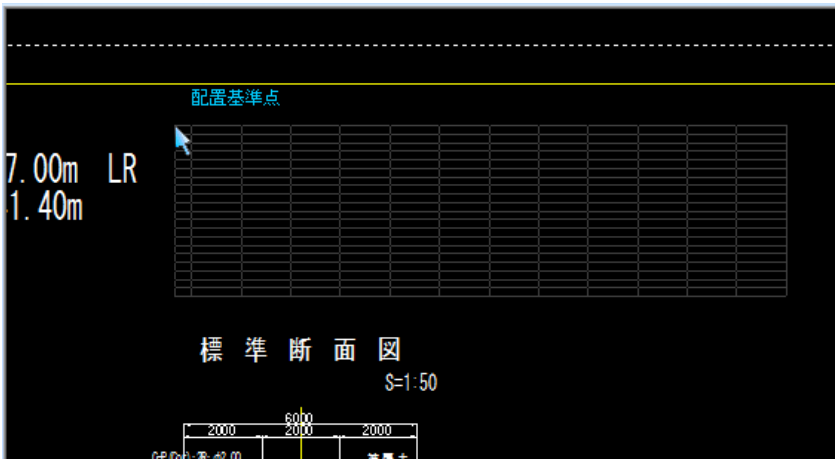
ファイル
編集
挿入・削除
書式

以下、各メニューについて説明します。

「ファイル」メニュー

■ 表配置

1 「表編集」ダイアログボックスで[ファイル]－[表配置]を選択すると、製図画面内に表の仮想線がマウスの動きに合わせて表示されます。



2 マウスにて配置位置をクリックすると、参照図面内に表が貼り付けられ、「表編集」ダイアログボックスが再び表示されます。

■ 中止

1 「表編集」ダイアログボックスで[ファイル]－[中止]を選択すると、入力内容を破棄して終了します。

「編集」メニュー

■ 元に戻す

1 「表編集」ダイアログボックスで[編集]－[元に戻す]を選択すると、直前の操作を取り消します。
ツールバーメニューの アイコンをクリックしても同様の処理が行えます。

・編集メニューでは、クリップボード内のExcel データを読み込むことができます。CSV データなどを読み込んだ場合、読み込まれる情報は、インポート時と同様のものですが、幅・高さは現在の設定となります。

■ やり直し

1 「表編集」ダイアログボックスで[編集]－[やり直し]を選択すると、取り消した操作を、もう一度やり直します。
ツールバーメニューの アイコンをクリックしても同様の処理が行えます。

■ 切り取り

1 マウスでクリップボードへ切り取るセルをクリックし、「表編集」ダイアログボックスで[編集]－[切り取り]をクリックします。

2 セルの内容の切り取りが行われます。

■ コピー

1 マウスでクリップボードへコピーするセルをクリックし、「表編集」ダイアログボックスで[編集]－[コピー]をクリックします。

2 セルの内容がコピーされます。

■ 貼り付け

1 コピー先のセルをクリックします。
「表編集」ダイアログボックスで[編集]－[貼り付け]をクリックします。

2 選択したセルの内容が貼り付けされます。

■ クリア

1 「表編集」ダイアログボックスで[編集]－[クリア]をクリックすると、内容の削除が行われます。

「挿入・削除」メニュー

■ 行挿入

1 行を挿入する位置を選択し、「表編集」ダイアログボックスで[挿入・削除]－[行挿入]をクリックします。

2 選択した行数分行が挿入されます。

・行、または列を削除すると、シフトされたセルの参照は新しい位置に合わせて自動的に調整されます。

■ 行削除

1 削除する行を選択し、「表編集」ダイアログボックスで[挿入・削除]－[行削除]をクリックします。

2 選択した行が削除されます。

■ 列挿入

1 列を挿入する位置を選択し、「表編集」ダイアログボックスで[挿入・削除]－[列挿入]をクリックします。

2 選択した列数分の列が挿入されます。

■ 列削除

1 削除する列を選択し、「表編集」ダイアログボックスで[挿入・削除]－[列削除]をクリックします。

2 選択した列が削除されます。

「書式」メニュー

■ セル（セルの書式設定）

・ツールバーの書式メニューからも各種の書式を設定することができます。

1 書式の設定を行うセルを選択し、「表編集」ダイアログボックスで[書式]－[セル]をクリックします。
「セルの書式設定」ダイアログボックスが表示されます。各種の設定を行います。

配置
「横位置」、「縦位置」それぞれドロップダウンリストより「左詰め」、「中央揃え」、「右詰め」、「均等割り付け」のいずれかを選択します。
「折り返して全体を表示する」チェックマークをオンにすると、セルのデータが列の幅に合わせて折り返して表示されます。

フォント
「フォント名」をドロップダウンリストから選択します。
「高さ」をmm単位で入力欄内に入力します。
「斜体」チェックマークをオンにすると文字列が斜体になります。

2 [OK]をクリックすると、設定を有効にして表作成モードに戻ります。

■ 行（高さの設定）

1 高さの設定を行う行を選択し、「表編集」ダイアログボックスで[書式]－[行]－[高さ]をクリックします。
「行高さ」ダイアログボックスが表示されます。

「行高さ」入力欄内に高さをmm単位で入力します。

2 [OK]をクリックすると、設定を有効にして表作成モードに戻ります。

■ 行（自動調整）

1 高さの自動調整を行う行を選択し、「表編集」ダイアログボックスで[書式]－[行]－[自動調整]をクリックします。

2 折り返した文字列がすべて表示されるように、行の高さが自動的に調整されます。

■ 列（幅の設定）

1 幅の設定を行う行を選択し、「表編集」ダイアログボックスで[書式]－[列]－[幅]をクリックします。
「列幅」ダイアログボックスが表示されます。

「列幅」入力欄内に幅をmm単位で入力します。

2 [OK]をクリックすると、設定を有効にして表作成モードに戻ります。

■ 列（自動調整）

1 幅の自動調整を行う列を選択し、「表編集」ダイアログボックスで[書式]－[列]－[自動調整]をクリックします。

2 折り返した文字列がすべて表示されるように、列の幅が自動的に調整されます。

9 表示

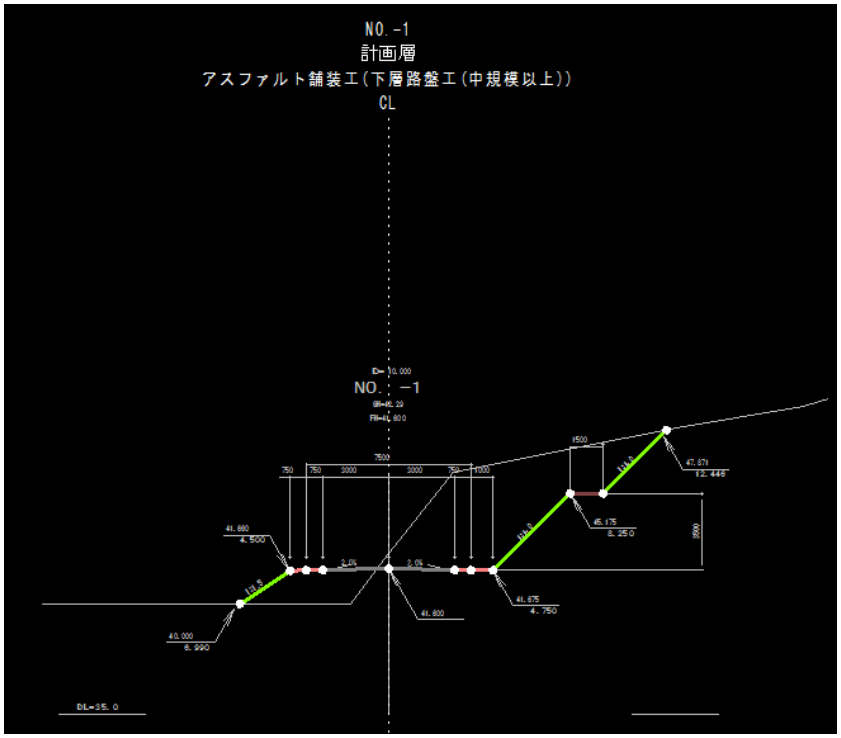
ベース図のオン・オフ、土量集計の表示設定、ウィンドウの切り替えを行います。

土量集計 −[表示]−[ベース図]

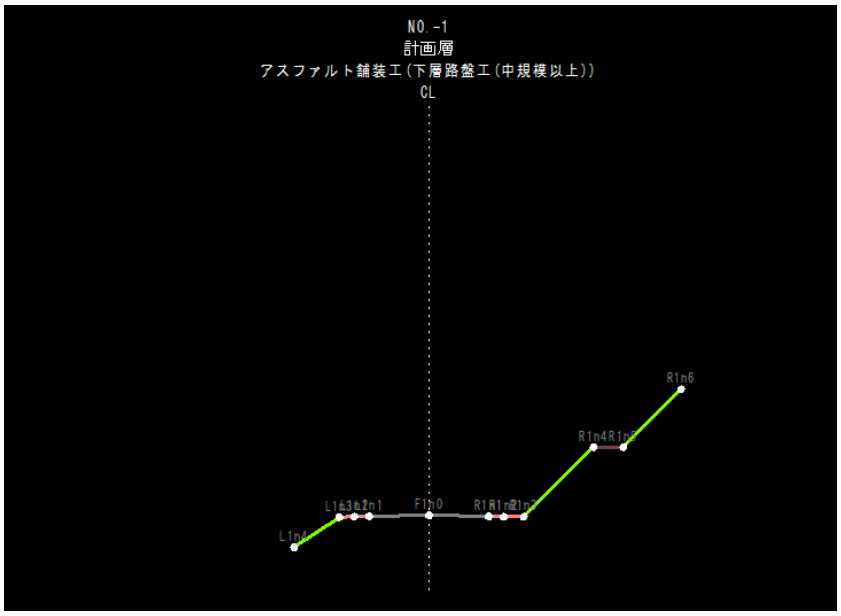
ベース図のオン・オフを切り替える

1 表示メニューの[ベース図]をクリックすると、ベース図表示のオン・オフの切り替えが行えます。
オンの場合、背景は細くグレー、横断プレビューは太く表示されます。

▼ベース図表示：オン



▼ベース図表示：オフ



土量集計 －[表示]－[表示設定]

横断表示を設定する

1 表示メニューの[表示設定]をクリックすると、「横断表示設定」ダイアログボックスが表示されます。

3D表示設定に色を設定する

「3D表示設定に色を設定する」チェックマークをオンにすると、3Dビューに、ここで設定した色が適用されます。

センター点の描画位置を固定する

「センター点の描画位置を固定する」チェックマークをオンにすると、表示測点の変更時、センター点の描画位置を固定します。

規定値として設定
[規定値として設定]をクリックすると、現在の設定内容を規定値に設定します。
初期化
[初期化]をクリックすると、設定を初期状態に戻します。

2 「色」欄内の各色をダブルクリック、または「背景色」ボタンをクリックすると、「色の設定」ダイアログボックスが表示されます。

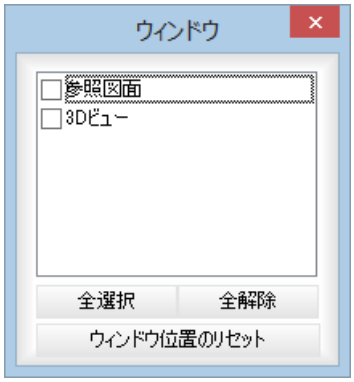
いずれかの色を選択し、[OK]をクリックすると、「横断表示設定」ダイアログボックスに戻ります。

3 「横断表示設定」ダイアログボックスで[OK]をクリックすると、土木集計メニューに戻ります。

土量集計 ー[ツール]ー[ウィンドウ]

ウィンドウの表示／非表示を切り替える

1 ツールメニューの[ウィンドウ]をクリックすると、「ウィンドウ」ダイアログボックスが表示されます。



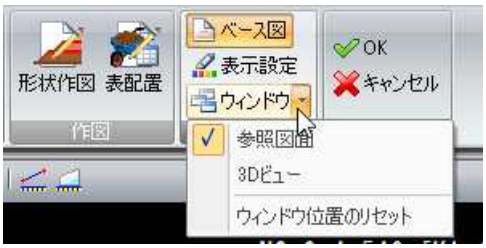
各種ウィンドウの表示/非表示をチェックマークのオン／オフにより選択します。
[全選択]／[全解除]
表示中の画面すべてのチェックマークをオン、またはオフにします。

[ウィンドウ位置のリセット]
[ウィンドウ位置のリセット]をクリックすると、確認メッセージが表示されます。

[はい]をクリックすると、次回起動時に各種ウィンドウの位置をリセットします。

2 ドロップダウンリストで切り替える

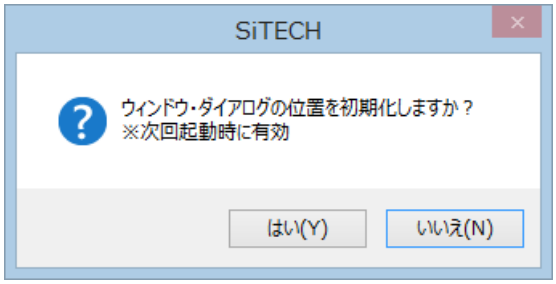
ツールメニューの[ウィンドウ]のドロップダウンリストよりチェックマークのオン／オフにより表示を切り替えます。



チェックマークがオンになっている画面が表示されます。

3 ウィンドウ位置のリセット

表示メニューの[ウィンドウ位置のリセット]をクリックすると、確認メッセージが表示されます。



[はい]をクリックすると、次回起動時に各種ウィンドウの位置をリセットします。

Part 9

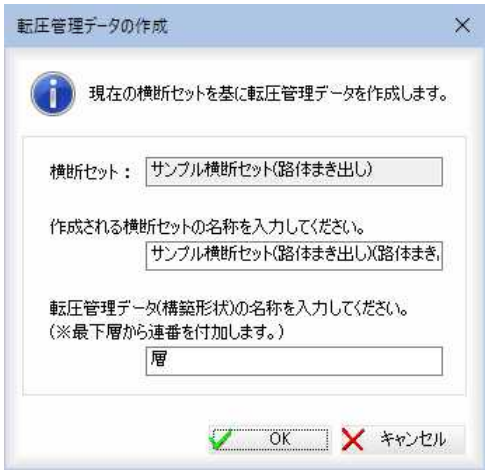
転圧管理

1 「転圧管理」の基本操作

転圧管理データの新規作成および転圧管理データ編集の起動と終了方法、および各ウィンドウの構成について説明します。

転圧管理(作成)の起動

1 横断メニューで[コマンド]－[転圧管理]－[作成]をクリックすると、「転圧管理データの作成」ダイアログボックスが表示されます。



横断セット
横断セット名が表示されます。
横断セットの名称入力
入力欄内に、作成される横断セットの名称を入力します。
転圧管理データの名称入力
入力欄内に、転圧管理データの名称を入力します。

2 「転圧管理データの作成」ダイアログボックスで[OK]をクリックすると、「転圧管理(作成)」ウィンドウが表示されます。各種の設定を行います。

「転圧管理(作成)」ウィンドウの画面構成

「転圧管理(作成)」ウィンドウの画面構成は以下の通りです。

① リボンメニュー（各種のコマンドを実行します）
② 転圧管理設定ウィンドウ
③ 横断図プレビューウィンドウ

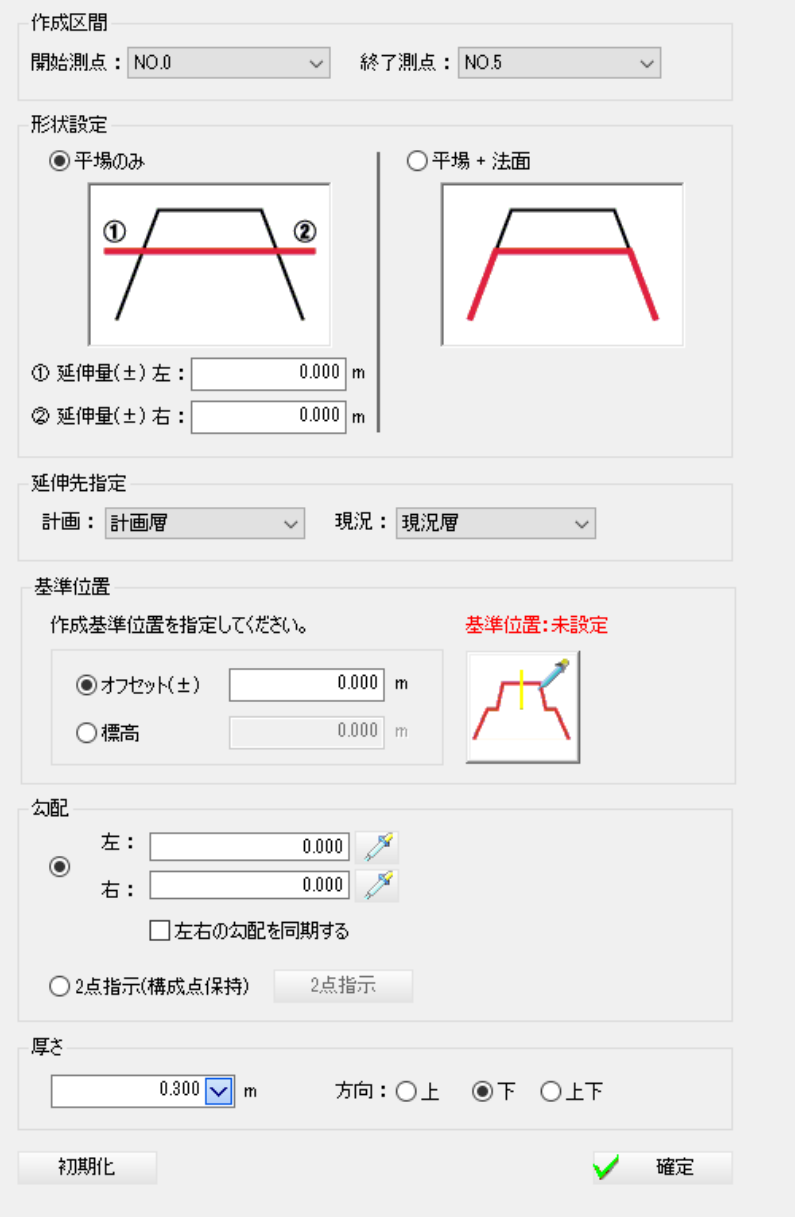
● リボンメニュー

1 リボンメニュー内には表示、閉じるの各メニューがあります。

表示メニュー ⇒参照ページへ
閉じるメニュー ⇒参照ページへ

● 転圧管理設定ウィンドウ

1 転圧管理設定ウィンドウ内には、各種の設定項目があります。



■作成区間

「開始測点」、「終了測点」のドロップダウンリストよりそれぞれ測点を選択します。

■形状設定

形状を「平場のみ」、「平場＋法面」いずれかのラジオボタンをクリックして選択します。

左側の形状を選択した場合は、左右の延伸量をそれぞれ入力欄に入力します。

■延伸先指定

「計画」、「現況」のドロップダウンリストよりそれぞれ延伸先を選択します。

■基準位置

作成基準位置を設定します。アイコンをクリックすると、基準位置指定モードになりますので、横断プレビュー内でマウスにより横断構成点をクリックして指定します。

「オフセット」、「標高」いずれかのラジオボタンをクリックして選択します。

それぞれ入力欄にオフセット値または標高を入力します。

■勾配

勾配の左右を指定するのか、2 点指示（構成点保持）で指示するのかを、いずれかのラジオボタンをクリックして選択します。

左右を指定

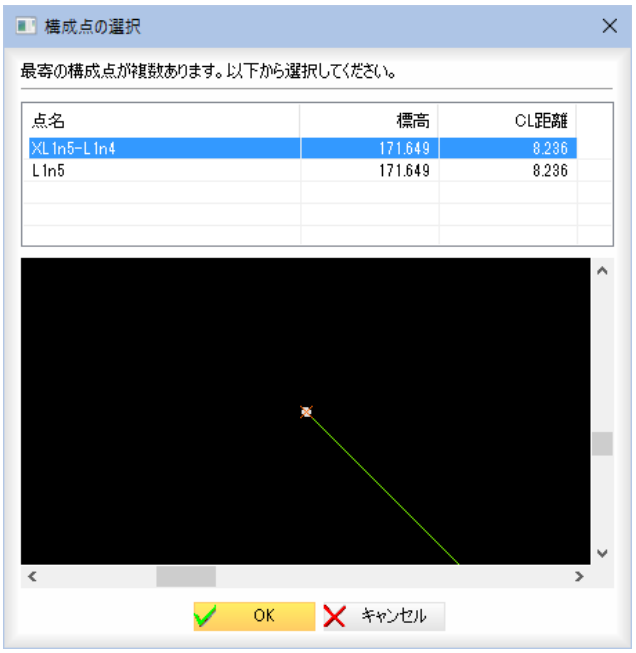
（スポイトボタン）をクリックすると、図面内の 2 点指示モードとなりますので、対象となる勾配の 2 点を指示します。入力欄内に数値が反映されます。[左右の勾配を同期]をクリックすると、左右の勾配入力値が同期されます。

2 点指示（構成点保持）

「2 点指示（構成点保持）」を選択した場合、2 点の指示によりその区間の形状を維持した層を作成します。この時、構成点は保持されます。

[2 点指示]をクリックすると指示モードになりますので、プレビュー画面内で 1 点目、２点目をマウスにて指示します。

同位置に構成点が存在する場合は、「構成点の選択」ダイアログボックスが表示されます。



いずれかの構成点を選択し、[OK]をクリックすると、処理を続行します。

■厚さ

「厚さ」ドロップダウンリストより、いずれかの厚さを選択します。

方向

「上」、「下」、「上下」いずれかのラジオボタンをクリックして選択します。

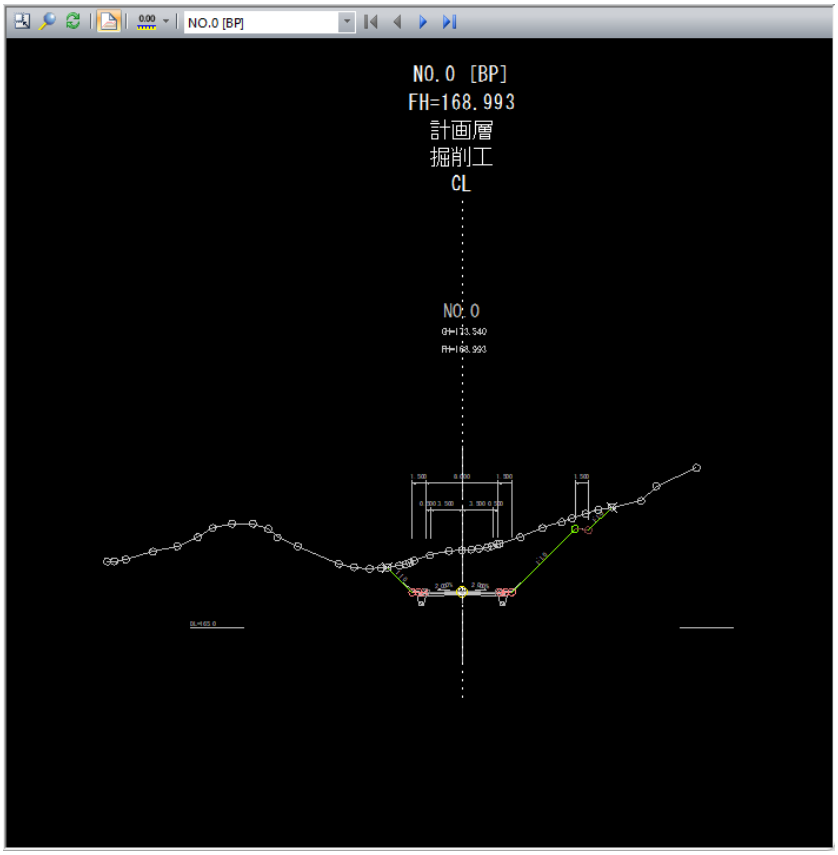
初期化

[初期化]をクリックすると、設定を初期状態に戻します。

2 [確定]をクリックすると、各種の設定が確定されます。

● 横断図プレビューウィンドウ

1 横断図プレビューウィンドウでは、転圧管理設定ウィンドウで選択している構築形状のみ表示されます。
（厚さや勾配、基準位置設定の離れなどを変更すると反映されます。）



2 **各種の表示切り替え**

全体表示（ ）

横断図プレビューウィンドウメニューから[全体表示]を選択すると全体表示となります。

ズーム（ ）

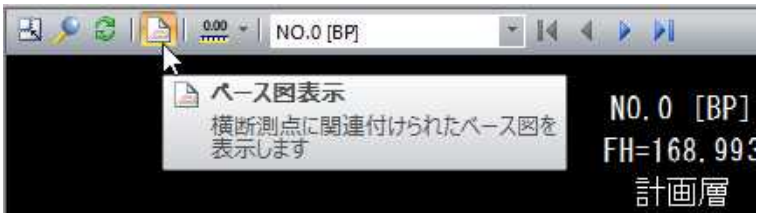
横断図プレビューウィンドウメニューから[ズーム]を選択すると、ズームモードとなります。
ズーム始点をマウスでクリックすると、終点指定モードになります。
終点をクリックすると、範囲指定した部分が拡大表示されます。

再表示（ ）

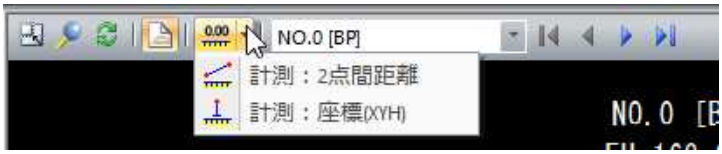
横断図プレビューウィンドウメニューから[再表示]を選択すると、再表示が行われます。

3 **表示：ベース図表示（ ）**

横断図プレビューウィンドウメニューから[ベース図表示]を選択すると、カレント測点にベース図が配置されていた場合に、そのベース図を表示するかを切り替えます。



4 ２点間距離・座標(XYH)



２点間距離（ ）

横断図ウィンドウメニューから[計測：２点間距離]を選択すると、２点間距離モードとなり、「２点間距離」ダイアログボックスが表示されます。

以降の操作は参照ウィンドウ上と同様です。**⇒参照ページへ**

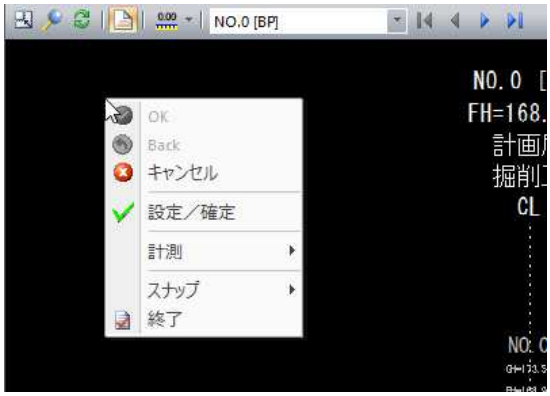
座標(XYH)（ ）

横断図ウィンドウメニューから[計測：座標(XYH)]を選択すると、座標(XYH)モードとなり、「座標(XYH)」ダイアログボックスが表示されます。

以降の操作は横断プレビュー上と同様です。**⇒参照ページへ**

5 ポップアップメニュー

横断図プレビューウィンドウ内で右クリックすると、ポップアップメニューが表示されます。各種の処理を行うことができます。



→ **OK**
作業を確定します。

→ **Back**
ひとつ前の作業に戻します。

→ **キャンセル**
処理実行前に戻します。

→ **設定／確定**
設定ウィンドウ内の設定を確定します。

→ **計測**
２点間距離、標高ＤＬの各種計測処理を行います。

→ **スナップ**
スナップの各種処理を行います。

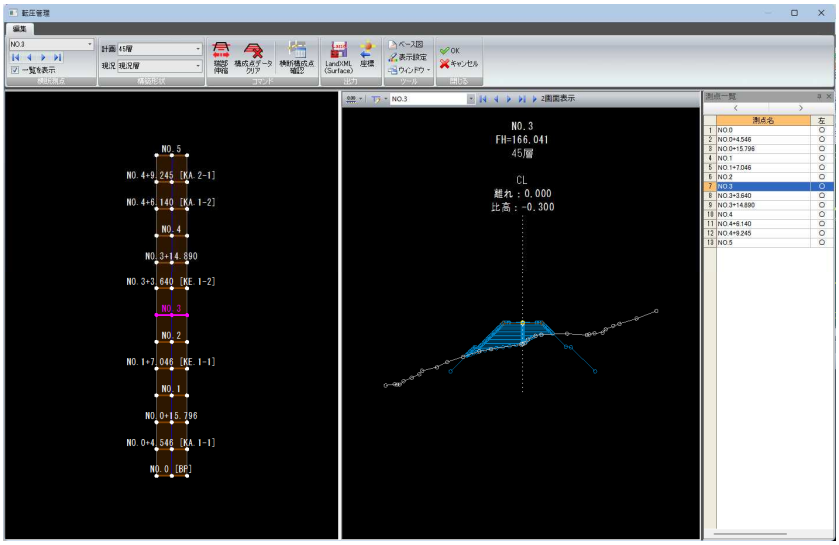
→ **終了**
作業を終了します。

6 ページの切り替え

ドロップダウンリストよりいずれかの測点を選択し、表示を切り替えます。
また、 のいずれかのボタンをクリックして測点を切り替えます。

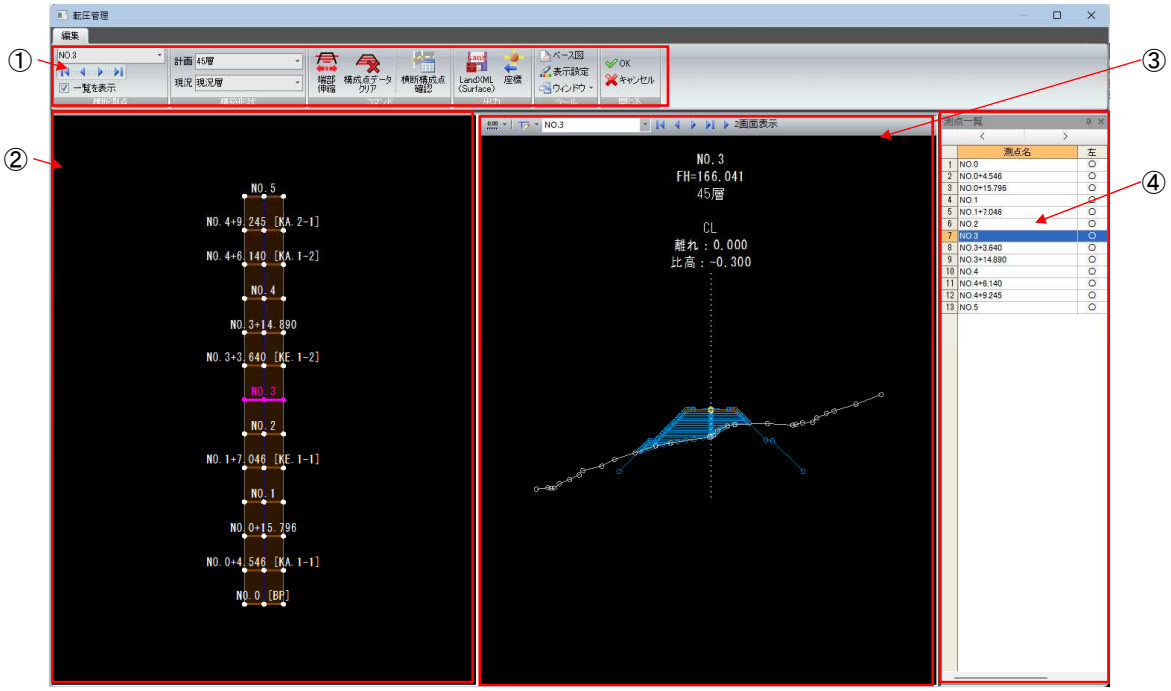
転圧管理(編集)の起動

1 横断メニューで[コマンド]－[転圧管理]－[編集]をクリックすると、「転圧管理(編集)」ダイアログボックスが表示されます。各種の設定を行います。



「転圧管理(編集)」ウィンドウの画面構成

「転圧管理(編集)」ウィンドウの画面構成は以下の通りです。



① リボンメニュー（各種のコマンドを実行します）
② 縦断展開図ウィンドウ
③ 横断面ウィンドウ
④ 測点一覧

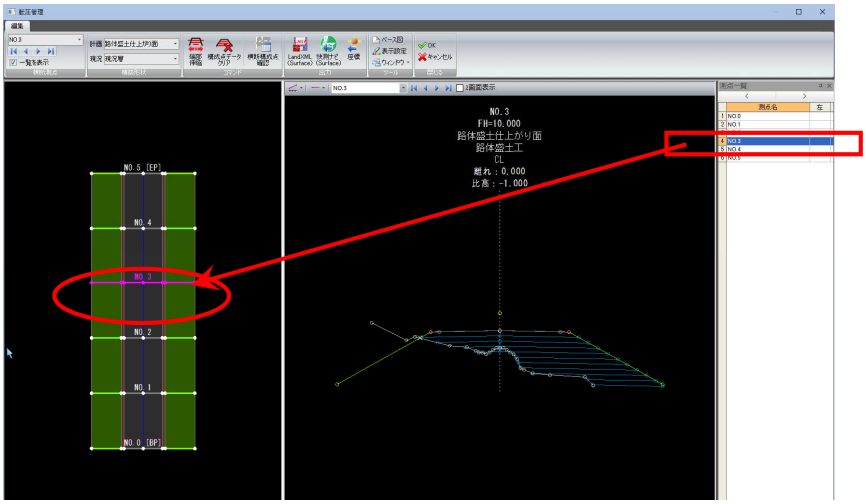
● リボンメニュー

1 リボンメニュー内には横断測点、構築形状、コマンド、ファイル出力、ツール、閉じるの各メニューがあります。

横断測点メニュー ⇒参照ページへ
構築形状メニュー ⇒参照ページへ
コマンドメニュー ⇒参照ページへ
ファイル出力メニュー ⇒参照ページへ
ツールメニュー ⇒参照ページへ
閉じるメニュー ⇒参照ページへ

● 縦断展開図ウィンドウ

1 縦断展開図ウィンドウでは、測点一覧内で現在選択されている測点がハイライト表示されます。



2 縦断展開図ウィンドウ内で右クリックすると、ポップアップメニューが表示されます。各種の処理を行うことができます。

→ **OK**
作業を確定します。

→ **Back**
ひとつ前の作業に戻します。

→ **キャンセル**
処理実行前に戻します。

→ **ズーム**
ズームモードとなります。ズーム始点→終点をマウスでクリックすると、範囲指定した部分が拡大表示されます。

→ **全体表示**
ズーム表示から全体表示に戻ります。

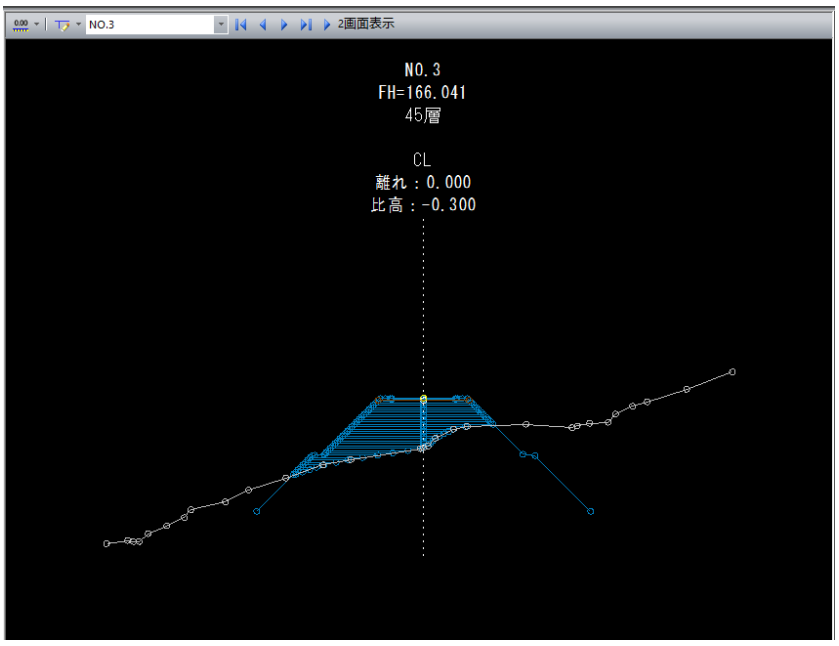
→ **ハンドスクロール**
ハンドスクロールモードとなります。マウスを動かした方向に表示がスクロールします。

→ **フリーズーム**
フリーズームモードとなります。マウスを動かした方向に表示が拡大／縮小します。
上へ移動：拡大
下へ移動：縮小

→ **終了**
ズームモード、ハンドスクロールモード、フリーズームモードを終了します。

● 横断図プレビューウィンドウ

1 横断図プレビューウィンドウでは、現在選択されている横断測点の横断形状が表示されます。現在選択されている計画層がカラー表示されます。



2 **計測：２点間距離、計測：座標(XYH)**

２点間距離（ ）

横断図ウィンドウメニューから[計測：２点間距離]を選択すると、２点間距離モードとなり、「２点間距離」ダイアログボックスが表示されます。

以降の操作は参照ウィンドウ上と同様です。⇒参照ページへ

座標(XYH)（ ）

横断図ウィンドウメニューから[計測：座標(XYH)]を選択すると、座標(XYH)モードとなり、「座標(XYH)」ダイアログボックスが表示されます。

以降の操作は横断プレビュー上と同様です。⇒参照ページへ

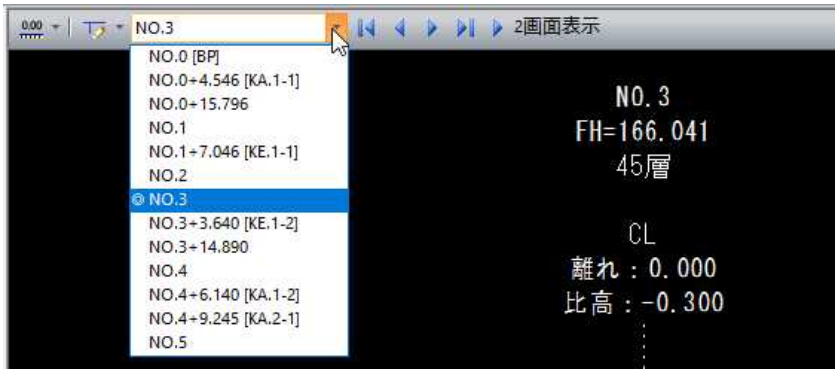
3 **ガイド**

プレビューメニューからいずれかのガイドコマンドをクリックすると、それぞれのガイドモードに移行します。

各ガイドコマンドの操作は、土量計算の横断プレビューに搭載されたガイドコマンドと同様です。⇒参照ページへ

4 横断測点の切り替え

ドロップダウンリストよりいずれかの測点を選択し、表示を切り替えます。
また、 のいずれかのボタンをクリックして測点を切り替えます。

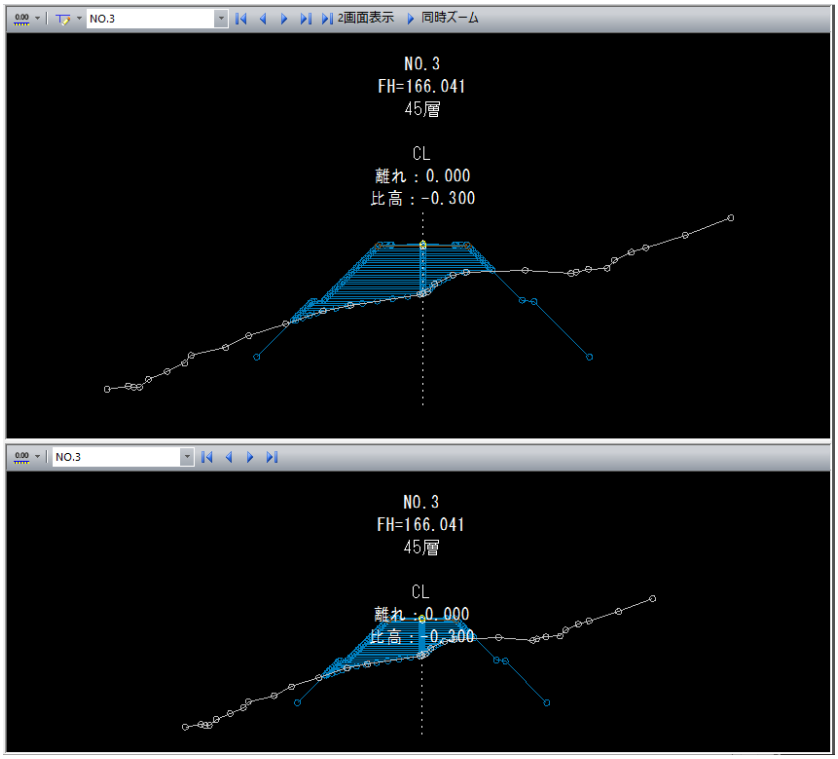


5 2画面表示

「2画面表示」チェックマークをクリックすると、横断図を2画面で表示されます。
それぞれ測点の切り替え操作が行えます。

同時ズーム

2画面表示中に「同時ズーム」チェックマークをオンにすると、拡大・縮小時に
2つの横断図が同じ位置を表示します。



6 ポップアップメニュー

横断図プレビューウィンドウ内で右クリックすると、ポップアップメニューが表示されます。各種の処理を行うことができます。

→ OK
作業を確定します。

→ Back
ひとつ前の作業に戻します。

→ キャンセル
処理実行前に戻します。

→ 終了
作業を終了します。

ガイド、計測、スナップの各コマンドの操作は、SiTECH3D 本体システムの横断プレビュー画面上と同じです。⇒参照ページへ

閉じるメニュー

「転圧管理(作成)」または「転圧管理(編集)」ウィンドウを閉じる操作を行います。

● ＯＫ／キャンセルの操作方法

1 閉じるメニューの[OK]または[キャンセル]をクリックすると、システム画面に戻ります。

OK
編集結果を保存して「転圧管理(作成)」または「転圧管理(編集)」ウィンドウを閉じます。

キャンセル
編集結果を破棄して「転圧管理(作成)」または「転圧管理(編集)」ウィンドウを閉じます。

2 表示[転圧管理(作成)]

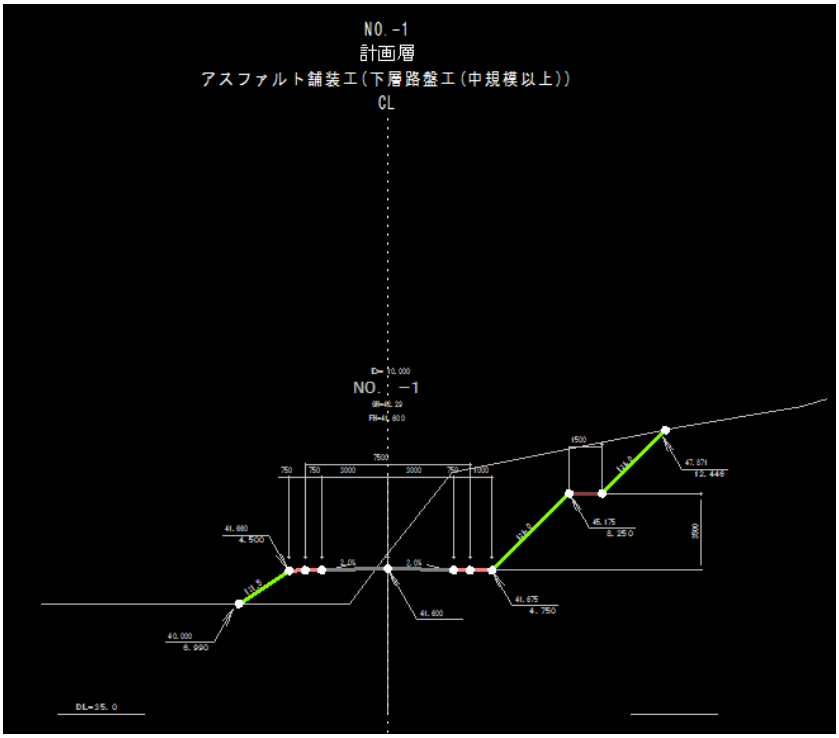
「転圧管理(作成)」ウィンドウのベース図のオン・オフの切り替えを行います。

転圧管理 −[表示]−[ベース図]

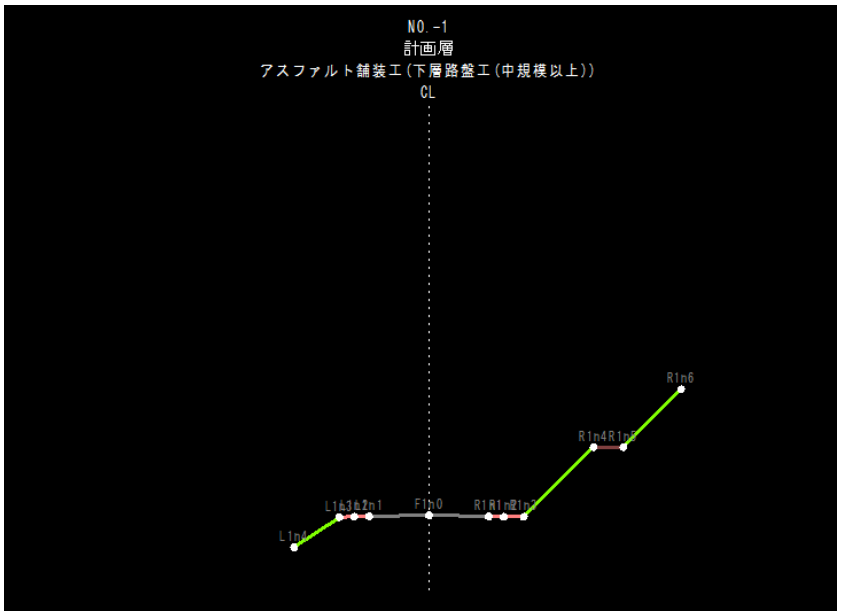
ベース図のオン・オフを切り替える

1 転圧管理(作成)ウィンドウー表示メニューの[ベース図]をクリックすると、ベース図表示のオン・オフの切り替えが行えます。
オンの場合、背景は細くグレー、横断プレビューは太く表示されます。

▼ベース図表示：オン



▼ベース図表示：オフ



3 横断測点・構築形状[転圧管理(編集)]

対象となる測点を切り替えます。また、計画層および現況層の選択・表示設定、現況層の選択・表示設定を行います。

転圧管理 ー[横断測点]

対象となる測点を切り替える

1 **測点の指定**

転圧管理(編集)ウィンドウー[横断測点]メニューでドロップダウンリストより、測点をクリックして選択します。

2 **測点切り替えボタン**

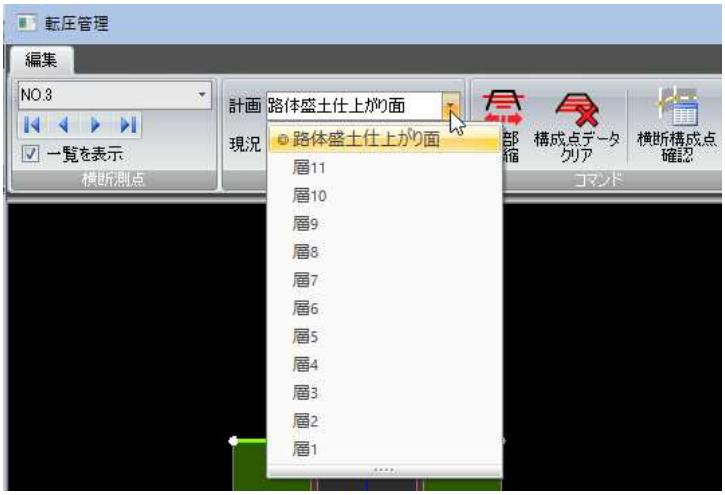
のいずれかをクリックして測点を切り替えます。

「一覧を表示」チェックマークのオン・オフにより、測点一覧の表示オン・オフを行います。

転圧管理 －[構築形状]

計画層を選択する

1 転圧管理(編集)ウィンドウー[構築形状]メニューで[計画]ドロップダウンリストより、いずれかの計画層を選択します。



2 計画層が切り替わります。

転圧管理 －[構築形状]

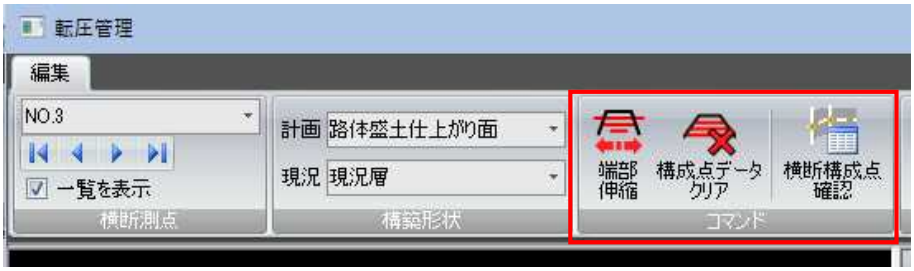
現況を選択する

1 転圧管理(編集)ウィンドウー[構築形状]メニューで[現況]ドロップダウンリストより、いずれかの現況層を選択します。

2 現況層が切り替わります。

4 コマンド[転圧管理(編集)]

端部伸縮、断面データクリア、横断構成点確認などの各種コマンドを実行します。



転圧管理 −[コマンド]−[端部伸縮]

構築形状の端部の構成点の位置を編集する

1 転圧管理(編集)ウィンドウ−[コマンド]メニューで[端部伸縮]をクリックします。
「端部伸縮」ダイアログボックスが表示されます。

伸縮量の入力
「伸縮量：左」、「伸縮量：右」入力欄内に、それぞれ伸縮量を入力します。

対象の計画層
転圧管理によって作成された計画層が一覧に表示されます。
対象の計画層の一覧内の「対象」チェックマークをクリックして対象の選択・解除を行います。
[全選択]／[全解除]
一覧表示内のすべてのチェックマークをオン、またはオフにします。

プレビュー内の各種操作
コマンド確定
コマンド中止

計測：２点間
プレビュー画面内で、１点目、２点目をマウスにてクリックして計測処理を行います。

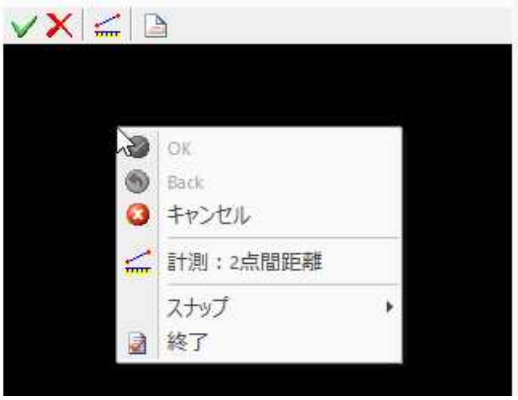
計測：２点間 ⇒参照ページへ

ベース図連動のオン・オフ
オンの場合、横断測点切替時に、横断測点に関連付けられているベース図を表示します。初期値はオンです。

ポップアップメニュー
プレビューウィンドウ内で右ボタンをクリックし表示されるポップアップメニューより各種の処理を行います。

スナップ
マウスクリックにて指定を行うモード時には、ポップアップメニューよりスナップ処理を実行することができます。

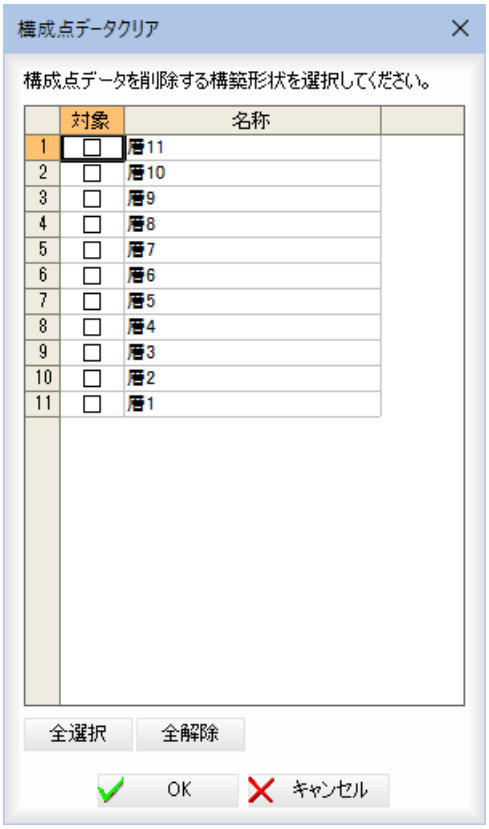
スナップ処理 ⇒参照ページへ



転圧管理 −[コマンド]−[構成点データクリア]

指定した構築形状の構成点データを削除する

1 転圧管理(編集)ウィンドウ−[コマンド]メニューで[構成点データクリア]をクリックします。「構成点データクリア」ダイアログボックスが表示されます。



対象構築形状の選択
一覧表示内の「対象」欄内のチェックマークをオンにして、削除したい構築形状を選択します。

[全選択]／[全解除]
一覧表示内のすべてのチェックマークをオン、またはオフにします。

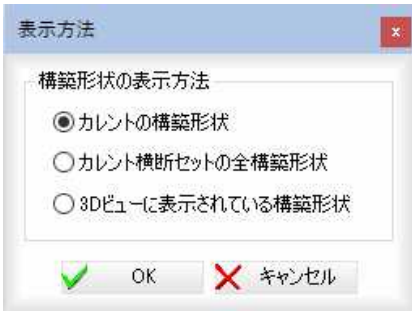
2 「構成点データクリア」ダイアログボックスで[OK]をクリックします。選択した構築形状の構成点データが削除されます。

転圧管理 －[コマンド]－[横断構成点確認]

横断構成点を確認する

1 転圧管理(編集)ウィンドウ－[コマンド]メニューで[横断構成点確認]をクリックします。

表示方法の選択
「表示方法」ダイアログボックスが表示されますので、いずれかのラジオボタンをクリックして表示方法を選択します。



2 「表示方法」ダイアログボックスで[OK]をクリックすると、参照図面上で確認表示が行われます。

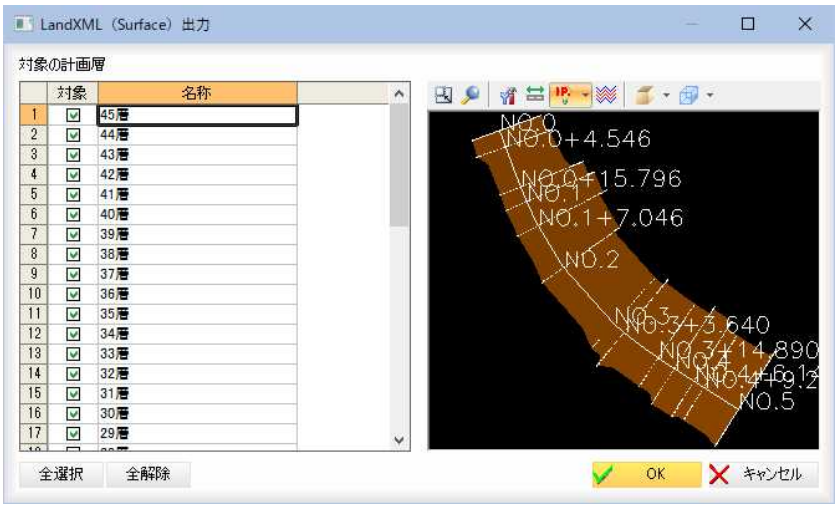
5 出力[転圧管理(編集)]

各種ファイル形式（LandXML、座標）へファイル出力します。

転圧管理 －[出力]－[LandXML(Surface)]

LandXML(Surface)形式でファイル出力する

1 転圧管理(編集)ウィンドウー[出力]メニューで[LandXML(Surface)]をクリックします。「LandXML(Surface)出力」ダイアログボックスが表示されます。



対象の計画層

転圧管理によって作成された計画層が一覧に表示されます。

対象の計画層の一覧内の「対象」チェックマークをクリックして対象の選択・解除を行います。

[全選択]／[全解除]

一覧表示内のすべてのチェックマークをオン、またはオフにします。

プレビュー内の各種操作

全体表示（ ）

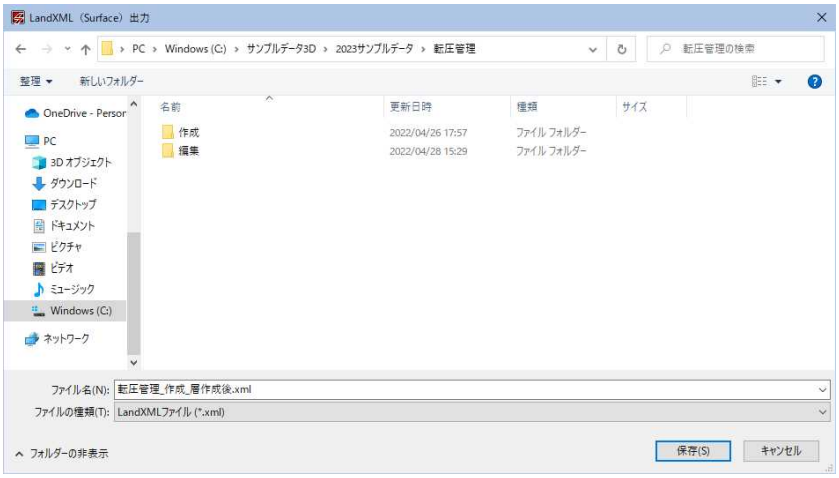
プレビューメニューから[全体表示]を選択すると、全体表示となります。

ズーム（ ）

プレビューメニューから[ズーム]を選択すると、ズームモードとなります。 ズーム始点をマウスでクリックすると、終点指定モードになります。 終点をクリックすると、範囲指定した部分が拡大表示されます。

各種の操作はプレビューウィンドウ上の各コマンドと同様です。⇒参照ページへ

2 「LandXML(Surface)出力」ダイアログボックスで[OK]をクリックすると、「LandXML(Surface)出力」ダイアログボックスが表示されます。

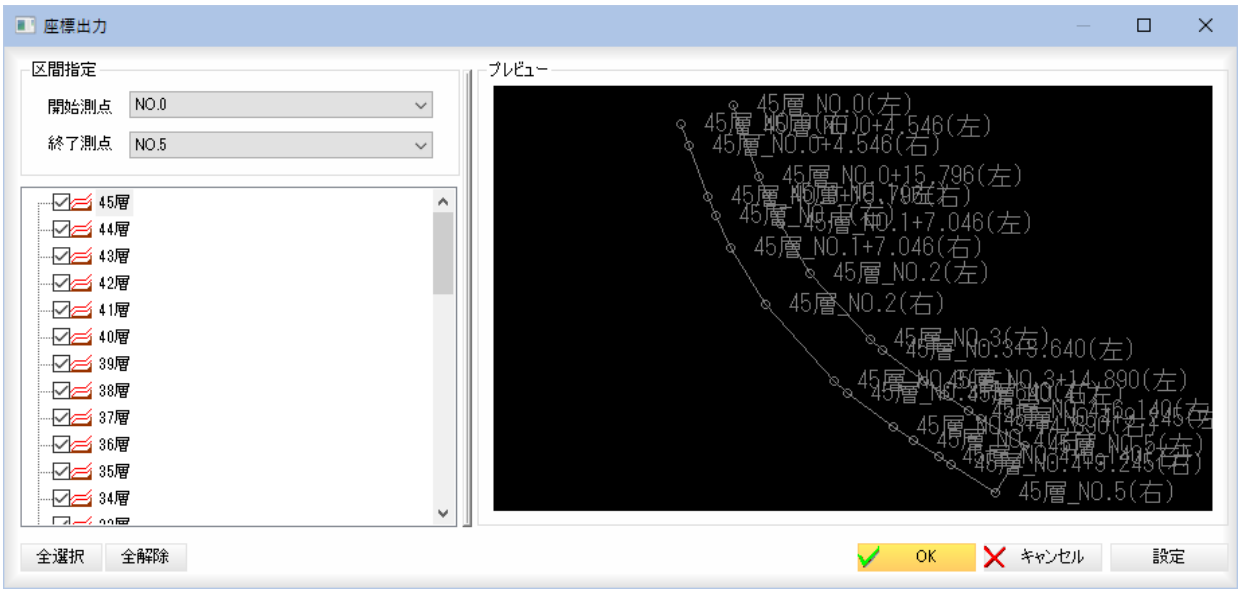


ファイル名を入力し、[保存]をクリックすると、LandXML ファイル形式で出力されます。

転圧管理 －[出力]－[座標]

座標データをファイル出力する

1 転圧管理(編集)ウィンドウー[出力]メニューで[座標]をクリックします。「座標出力」ダイアログボックスが表示されます。



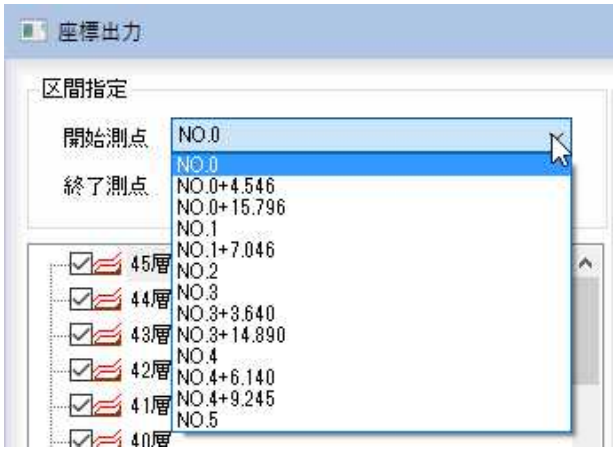
■層の選択

ツリー表示内のチェックマークをクリックして層を選択します。

[全選択]／[全解除]

ツリー表示内のすべてのチェックマークをオン、またはオフにします。

区間指定



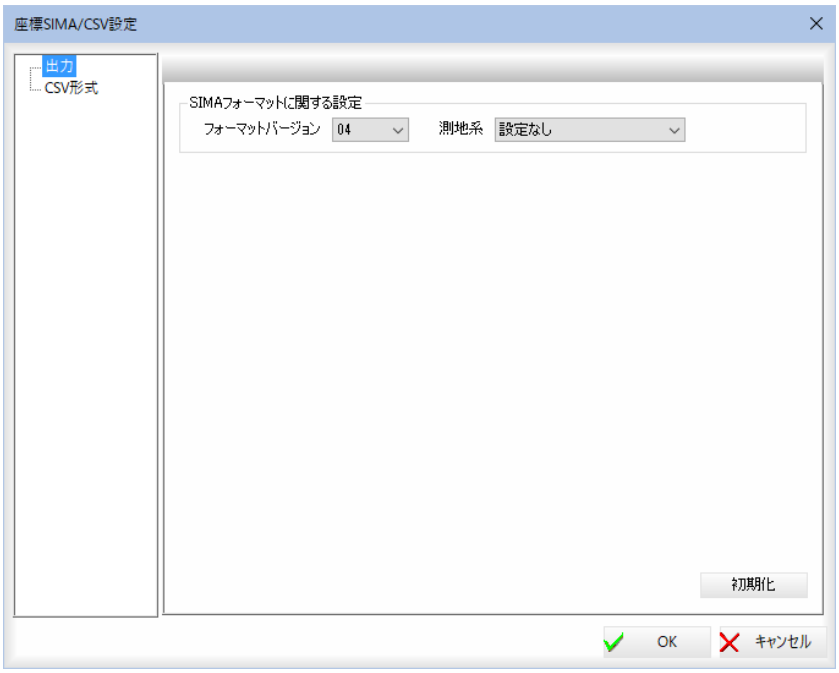
「開始測点」、「終了測点」それぞれドロップダウンリストから選択します。

■プレビュー画面

ツリーで選択している対象層と区間指定の条件により出力内容が表示されます。

2 座標 SIMA/CSV の設定

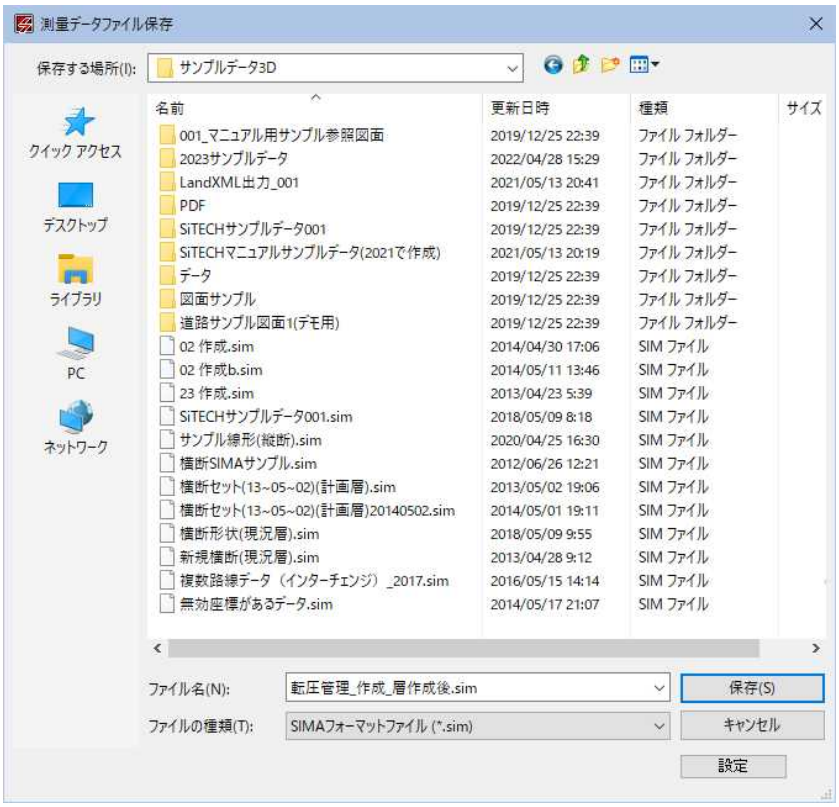
[設定]をクリックすると、「座標 SIMA/CSV 設定」ダイアログボックスが表示されます。



各種の設定は、座標入出力処理時と同様です。⇒参照ページへ

各種の設定を行い、[OK]をクリックすると、「座標出力」ダイアログボックスに戻ります。

3 「座標出力」ダイアログボックスで[OK]をクリックすると、「測量データファイル保存」ダイアログボックスが表示されます。



ファイルの種類の選択
[ファイルの種類]ドロップダウンリストから SIMA フォーマットファイルまたは CSV 形式ファイルのいずれかを選択します。

[設定]をクリックすると、「座標 SIMA/CSV 設定」ダイアログボックスが表示されます。⇒参照ページへ

4 「測量データファイル保存」ダイアログボックスでファイル名を入力し、[保存]をクリックすると、ファイルへの出力が実行され、処理を終了します。

6 ツール[転圧管理(編集)]

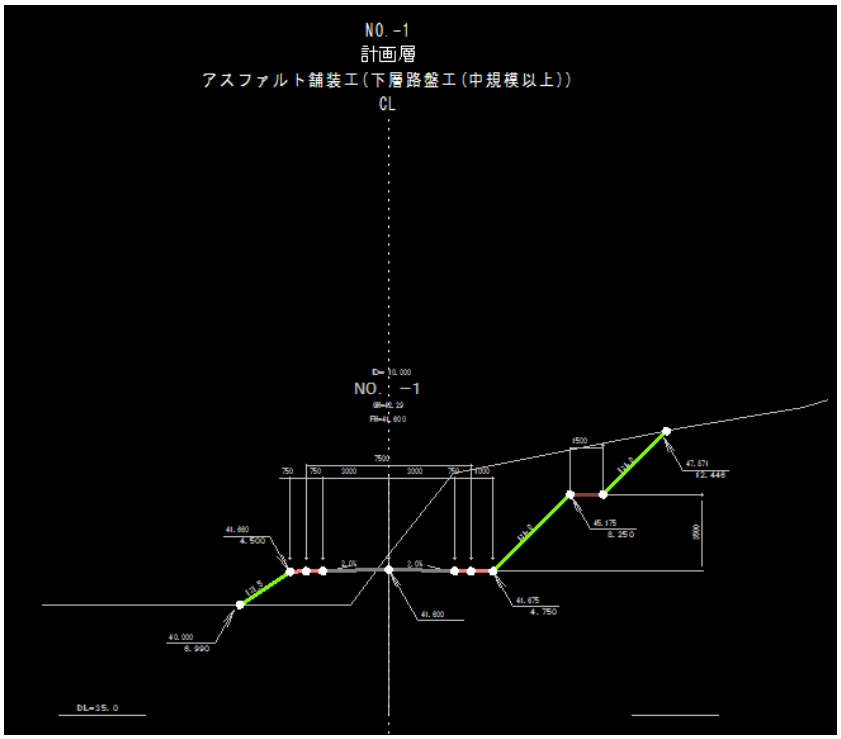
ベース図のオン・オフ、土量集計の表示設定、ウィンドウの切り替えを行います。

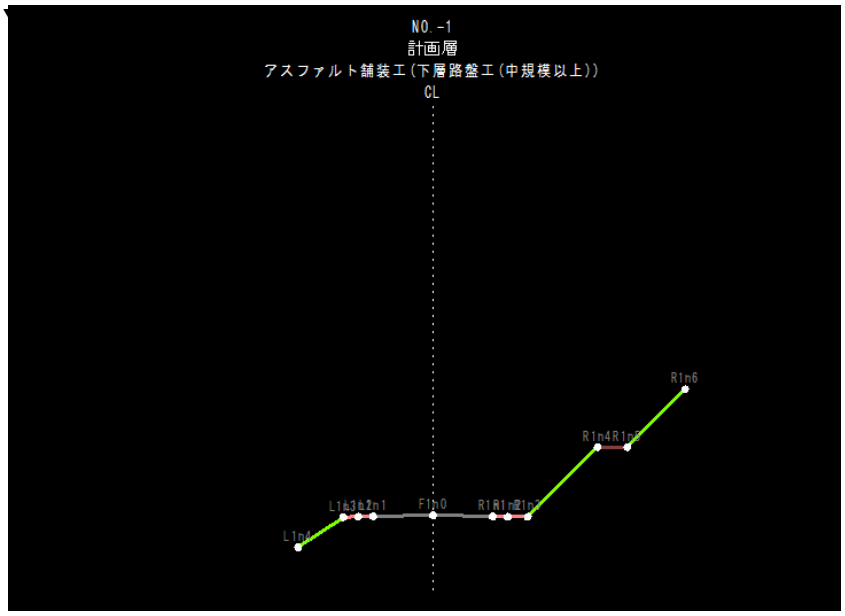
転圧管理 −[ツール]−[ベース図]

ベース図のオン・オフを切り替える

1 転圧(編集)ウィンドウ−[横断測点]メニューで[ツール]メニューの[ベース図]をクリックすると、ベース図表示のオン・オフの切り替えが行えます。
オンの場合、背景は細くグレー、横断プレビューは太く表示されます。

▼ベース図表示：オン





転圧管理 －[ツール]－[表示設定]

横断表示を設定する

1 転圧(編集)ウィンドウ－[横断測点]メニューで[ツール]メニューの[表示設定]をクリックすると、「横断表示設定」ダイアログボックスが表示されます。

３D表示設定に色を設定する

「３D表示設定に色を設定する」チェックマークをオンにすると、３Dビューに、ここで設定した色が適用されます。

センター点の描画位置を固定する

「センター点の描画位置を固定する」チェックマークをオンにすると、表示測点の

変更時、センター点の描画位置を固定します。

規定値として設定

[規定値として設定]をクリックすると、現在の設定内容を規定値に設定します。

初期化

[初期化]をクリックすると、設定を初期状態に戻します。

2 「色」欄内の各色をダブルクリック、または「背景色」ボタンをクリックすると、「色の設定」ダイアログボックスが表示されます。

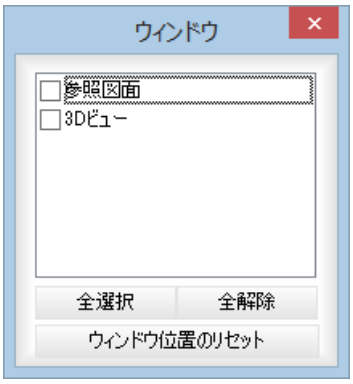
いずれかの色を選択し、[OK]をクリックすると、「横断表示設定」ダイアログボックスに戻ります。

3 「横断表示設定」ダイアログボックスで[OK]をクリックすると、各プレビュー画面に反映されます。

転圧管理 ー[ツール]ー[ウィンドウ]

ウィンドウの表示／非表示を切り替える

1 転圧(編集)ウィンドウー[横断測点]メニューで[ツール]メニューの[ウィンドウ]をクリックすると、「ウィンドウ」ダイアログボックスが表示されます。



各種ウィンドウの表示/非表示をチェックマークのオン／オフにより選択します。

[全選択]／[全解除]

表示中の画面すべてのチェックマークをオン、またはオフにします。

[ウィンドウ位置のリセット]
[ウィンドウ位置のリセット]をクリックすると、確認メッセージが表示されます。

[はい]をクリックすると、次回起動時に各種ウィンドウの位置をリセットします。

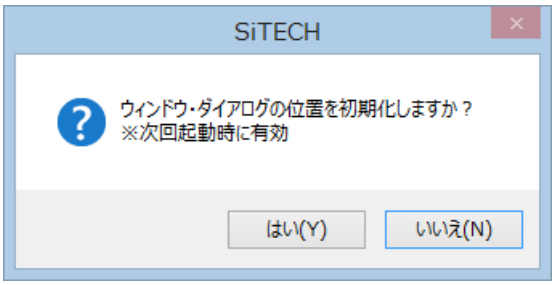
2 ドロップダウンリストで切り替える

ツールメニューの[ウィンドウ]のドロップダウンリストよりチェックマークのオン／オフにより表示を切り替えます。

チェックマークがオンになっている画面が表示されます。

3 ウィンドウ位置のリセット

表示メニューの[ウィンドウ位置のリセット]をクリックすると、確認メッセージが表示されます。



[はい]をクリックすると、次回起動時に各種ウィンドウの位置をリセットします。

資料編

丸め適用仕様

● 平面線形丸め適用仕様

線形計算【IP 法】	
項目	丸め
種別	―
IP	―
X 座標	XY 座標
Y 座標	XY 座標
A1	パラメータ
R1	半径
AE	パラメータ
R2	半径
A2	パラメータ
TL	距離

線形計算【要素法】	
項目	丸め
主要点名称	―
X 座標	XY 座標
Y 座標	XY 座標
R1	半径
A	パラメータ
R2	半径
方向	―
要素長さ	距離
線形種別	―

線形計算【横断が中心線形に直交しない】	
項目	丸め
測点名	―
追加距離	追加距離(測点名)
単距離	追加距離(測点名)
中心 X 座標	XY 座標
中心 Y 座標	XY 座標
中心標高	標高
端部 X 座標	XY 座標
端部 Y 座標	XY 座標
端部種類	―
追加距離(元)	追加距離(測点名)
移動量	距離

線形計算結果	
項目	丸め
測点名	追加距離(測点名)
追加距離	追加距離(測点名)
単距離	追加距離(測点名)
X	XY 座標
Y	XY 座標
接線方向角	―

● 縦断線形丸め適用仕様

縦断変化点	
項目	丸め
測点名	—
追加距離	追加距離(測点名)
折れ点高	標高
VCL	距離
計画高	標高
勾配	勾配(%)
VCR	半径

標準勾配／標準幅員	
項目	丸め
測点名	—
追加距離	追加距離(測点名)
勾配(左)	勾配(%)
拡幅量(左)	距離
勾配(右)	勾配(%)
拡幅量(右)	距離

計算結果(中間点)	
項目	丸め
測点名	—
追加距離	追加距離(測点名)
計画高	標高
勾配	勾配(%)
Y	距離

計算結果(勾配／幅員)	
項目	丸め
測点名	—
追加距離	追加距離(測点名)
勾配(左)	勾配(%)
幅員(左)	距離
計画高(左)	標高
勾配(右)	勾配(%)
幅員(右)	距離
計画高(右)	標高

● 横断線形丸め適用仕様

計画断面	
項目	丸め
水平長	距離
斜長	距離
勾配(%)	勾配(%)
勾配(1:x)	勾配(1:x)
比高	距離
計画高	標高
種別	—

現況断面	
項目	丸め
CL 距離	距離
地盤高	標高
水平長	距離
比高	距離

メニュー・インデックス

アプリケーションメニュー

新規作成		新規に現場を作成する
開く		保存したデータを開く
追加読込み		施工管理データの XML、LandXML データを追加読込みする
上書き保存		現在開いているデータを上書き保存する
名前を付けて保存		現在開いているデータを名前を付けて保存する
基本設計 XML	ローカル出力	基本設計 XML 形式でローカルフォルダに出力する
	KS データバンク出力	基本設計 XML 形式で KS データバンクに出力する
	KENTEM-CONNECT 出力	基本設計 XML 形式で KENTEM-CONNECT に出力する
LandXML 出力		LandXML 形式でファイルを出力する
快測ﾅﾋﾞﾃﾞｰﾀﾊﾟｯｹｰｼﾞ出力	ローカル出力	快測ナビに必要なデータをパッケージでローカルフォルダに出力する
	KS データバンク出力	快測ナビに必要なデータをパッケージで KS データバンクに出力する
	KENTEM-CONNECT 出力	快測ナビに必要なデータをパッケージで KENTEM－CONNECT に出力する
快測 AR 出力	ローカル出力	快測 AR に必要なデータをローカルフォルダに出力する
	KS データバンク出力	快測 AR に必要なデータを KS データバンクに出力する
INNOSiTE ファイル出力	SiTE-Scope（平面路線）	SiTE-Scope 形式で平面路線データをファイル出力する
	SiTE-Scope（LandXML）	LandXML 形式で 3D ビューデータを Surface としてファイル出力する
	SiTE-NEXSUS データパッケージ出力	SiTE-NEXSUS に必要なデータをパッケージで出力する
TOPCON TP3 出力	杭ナビショベル・TS 用	TOPCON 社の杭ナビショベル・TS 用に設計データや基準点データを出力する
	GNSS 用	TOPCON 社の GNSS 用に設計データや基準点データを出力する
その他ファイル出力	GTR	GTR ファイル形式でファイルを出力する
	道路中心線形 XML	道路中心線形 XML 形式でファイルを出力する
3D ビューファイル出力	DWG 出力	3D モデルを DWG に出力する
	三角網出力（一括）	3D モデルの三角網情報をファイルに出力する
	三角網出力（分割）	3D モデルの三角網情報を各ファイルに出力する
	座標 CSV 出力（一括）	3D モデルの座標情報を CSV に出力する
	座標 CSV 出力（分割）	3D モデルの座標情報を各 CSV に出力する
	画像出力	3D モデルのイメージを画像に出力する
	3DPDF 出力	3D モデルのイメージを PDF に出力する
	快測ナビサーフェス出力	3D モデルを快測ナビサーフェスファイルに出力する
	GoogleEarth 出力	3D モデルを GoogleEarth に出力する
全自動抽出		座標、平面線形、縦断線形、横断線形を自動作成する
SiTECH 3D Studio		SiTECH 3D Studio を起動する
ファイルビューア出力		ビューア形式のデータファイルを出力する

ツールメニュー

設定	丸め設定	丸め設定を行う
	システム設定	システム設定を行う
	測点名形式	測点名の入力形式を設定する
土木計算		各種の土木計算を行う
ウィンドウ		ウィンドウの表示／非表示を切り替える

座標管理タブ

自動抽出	自動	参照図面の平面図から座標を自動抽出する
半自動抽出	線形座標	参照図面の平面図から座標を半自動抽出する
	座標一覧	参照図面の座標一覧表から座標を半自動抽出する
手動抽出	手動	参照図面上の文字や座標値を取得する
SIMA/CSV	SIMA/CSV 入力	SIMA 形式や CSV 形式のデータを読み込む
	SIMA/CSV 出力	SIMA 形式や CSV 形式にデータを書き込む
コマンド	属性自動設定	各座標の属性を名称から自動設定する
	座標確認	参照図面(平面図)に座標管理データを重ね合わせて表示する
	座標照査	平面図の測点位置が座標管理データと合っているかチェックする
	寸法照査	横断図の寸法線、勾配線の数値が正しいかチェックする
並べ替え	並べ替え	各座標を並べ替える
属性表示	属性表示	属性単位で座標表示のオン・オフを切り替える
図面	図面編集	SiTECH Daw-Edit を起動する
(データ入力ウィンドウ)	座標	キーボードから座標入力する

平面タブ

路線情報	平面線形	各種の路線設定を行う
	平面線形選択	平面線形を選択する
	平面線形編集	平面線形を編集する
	平面線形作成	平面線形を作成する
	平面線形削除	平面線形を削除する
	路線複写	路線を複写する
自動抽出	自動	縦断図から平面線形を自動抽出する
半自動抽出	平面線形	縦断図の帯を指定して平面線形を自動抽出する
	線形パラメータ	縦断図の範囲を指定して線形パラメータを半自動抽出する
手動抽出	平面プレビュー	平面プレビューから座標データを手動抽出する
	文字	文字のパラメータを取得する
	座標	座標値を取得する
コマンド	計算実行	線形計算を実行する
	座標登録	計算結果の測点を座標管理に登録する
	要素表示	平面線形・横断線・横断変化点カーブのパラメータを表示する
	任意点追加	線形上に任意の測点を追加する
	ブレーキ設定	ブレーキを設定する
	線形確認	平面の参照図面上に平面線形・横断線・横断変化点を重ねてチェックする
	平面照査	平面図の主要点、IP 点が正しいかチェックする
	寸法照査	横断図の寸法線、勾配線の数値が正しいかをチェックする

図面	図面編集	SiTECH Draw-Edit を起動する
（データ入力ウィンドウ）	線形計算【IP 法】	IP 法により線形を入力する
	線形計算【要素法】	要素法により線形を入力する
	平面線形【横断が中心線形に直交しない】	横断が中心線形に直交しない線形を入力する
	線形計算結果	各種の方法による計算結果を表示する

縦断タブ

路線情報	平面線形	平面線形を確認する
	縦断線形	縦断線形を新規作成する
	縦断線形	縦断線形を選択する
	縦断線形編集	縦断線形を編集する
	縦断線形作成	縦断線形を作成する
	縦断線形削除	縦断線形を削除する
自動抽出	自動	縦断図から縦断線形パラメータを自動抽出する
半自動抽出	縦断線形	縦断図の縦断表の帯を指定して縦断線形を抽出する
	勾配・拡幅	縦断図の縦断表の帯を指定して片勾配・拡幅を抽出する
	測点	縦断図から測点データを抽出する
手動抽出	文字	参照図面から文字を取得する
SIMA	SIMA 入力	SIMA 形式のデータを読み込む
	SIMA 出力	SIMA 形式にデータを書き込む
コマンド	標高登録	座標管理に測点の標高値を登録する
	計画高確認	計画高の計算結果をチェックする
	片勾配・拡幅確認	縦断計算結果から片勾配・拡幅の内容を確認する
	縦断照査	縦断図の計画高等が正しいかチェックする
	寸法照査	横断図の寸法線、勾配線の数値が正しいかをチェックする
	横断現況取込	横断現況高から縦断現況を作成する
	測点取込	計算結果から測点名・追加距離を読み込む
図面	図面編集	SiTECH Draw-Edit を起動する
	縦断図作成	「縦断図作成」ウィンドウを起動する
（データ入力ウィンドウ）	縦断変化点	縦断変化点にキーボードからデータを入力する
	計算結果（中間点）	中間点の計算結果を表示する
	計算結果（勾配/幅員）	勾配／幅員の計算結果を表示する
	縦断現況	縦断現況を表示する

「縦断図作成」ウィンドウ

縦断図情報	縦断図	縦断図を選択する
	縦断図編集	縦断図を編集する
	縦断図作成	縦断図を作成する
	縦断図複写	縦断図を複写する
	縦断図削除	縦断図を削除する
作図設定	設定インポート	エクスポートされた作図設定ファイルを読み込む
	設定エクスポート	作図設定ファイルをエクスポートする
図面保存	図面保存	縦断図を図面ファイルに保存する
	PDF 保存	縦断図を PDF ファイルに保存する
	保存設定	図面保存に関する設定を行う
ツール	表題欄テンプレート	表題欄テンプレートを表示する

閉じる	OK	編集内容を適用して終了する
	キャンセル	編集内容を破棄して終了する
（縦断図設定ウィンドウ）	用紙／縮尺	縦断図の用紙／縮尺を設定する
	装飾(線種、文字種等)	縦断図の装飾(線種、文字種等)を設定する
	帯	縦断図の帯を設定する
	配置	縦断図の配置条件を設定する

横断タブ

横断情報	横断	横断セットを選択する
	横断セット編集	横断セットを編集する
	横断セット作成	横断セットを作成する
	横断セット複写	横断セットを複写する
	横断セット削除	横断セットを削除する
	測点	測点を選択する
	測点作成	測点を作成する
	測点編集	測点を編集する
	W断面作成	W断面を作成する
	断面変化点作成	断面変化点を作成する
	測点削除	測点を削除する
	測点	測点を切り替える
構築形状	計画	計画層を選択する
	計画層作成	計画層を作成する
	計画層複写	計画層を複写する
	複数層作成	計画層を複数作成する
	計画層削除	計画層を削除する
	並べ替え	計画層を並べ替える
	計画層登録	計画層の構築形状を外部ファイルに登録する
	計画層配置	外部ファイルを読込み、計画層の構築形状を配置する
	現況	現況層を選択する
	現況層編集	現況層を編集する
	現況層作成	現況層を作成する
	現況層削除	現況層を削除する
自動抽出	自動	横断図から計画形状と現況形状を自動抽出する
半自動抽出	計画追尾	横断図の計画線を指定して、計画形状を抽出する
	現況追尾	横断図の現況線を指定して、現況形状を抽出する
手動抽出	文字	参照図面上の文字を取得する
SIMA	SIMA 入力(個別)	横断 SIMA ファイルを個別に読み込む
	SIMA 入力(一括)	横断 SIMA ファイルを一括に読み込む
	SIMA 出力	計画／現況断面を横断 SIMA ファイルに保存する
コマンド	ベース図:配置	ベース図を配置する
	ベース図:解除	ベース図を解除する
	形状編集	計画断面の形状を横断図に重ね、編集する
	形状複写(かんたんモード)	形状複写の簡易版
	形状複写:前測点から全複写	計画断面の形状を複写する:前測点から全複写
	形状複写:他測点から複写	計画断面の形状を複写する:他測点から複写
	前後の測点から断面補間	ひとつ前と後ろの測点から断面補間する
	形状複写:左→右	計画断面の形状を複写する:左→右

コマンド	形状複写:右→左	計画断面の形状を複写する:右→左
	形状複写:一括複写	横断形状を複数断面に一括して複写する
	形状複写:離れ・比高一括設定	指定した測点に離れ・比高を一括複写する
	形状作図	プレビューの計画断面／現況断面を参照図面に作図する
	計画形状 確認	参照図面(横断図)に計画断面の入力データを重ね合わせてチェックする
	横断構成点 確認	平面線形・横断線・横断変化点を重ねてチェックする
	形状照査	横断図の構成位置が合ってるかチェック
	寸法照査	横断図の寸法線、勾配線の数値が正しいかをチェックする
	ボリューム照査	各測点の断面積から体積を計算する
	TS 出来形設定	TS 出来形設定を起動する
	接続初期化	構成点接続を初期化する
	施工データ変換	施工データの設定を変換する
	土量計算	「土量計算」ウィンドウを起動する
	転圧管理	「転圧管理(作成または(編集)」ウィンドウを起動する
計画伸縮	計画伸縮(Surface)	Surface との交点で計画を伸縮する
	計画伸縮(現況断面)	現況断面との交点で計画を伸縮する
図面	図面編集	SiTECH Draw-Edit を起動する
	横断図作成	「横断図作成」ウィンドウを起動する
(データ入力ウィンドウ)	計画断面	計画断面を入力する
	現況断面	現況断面を入力する

「横断図作成」ウィンドウ

横断図情報	横断図	横断図を選択する
	横断図編集	横断図を編集する
	横断図作成	横断図を作成する
	横断図複写	横断図を複写する
	横断図削除	横断図を削除する
作図設定	設定インポート	エクスポートされた作図設定ファイルを読み込む
	設定エクスポート	作図設定ファイルをエクスポートする
図面保存	図面保存	横断図を図面ファイルに保存する
	PDF 保存	横断図を PDF ファイルに保存する
	保存設定	図面保存に関する設定を行う
ツール	表題欄テンプレート	表題欄テンプレートを表示する
寸法	寸法入力	横断図に寸法を入力する
	寸法編集	横断図の寸法を編集する
	寸法変更	横断図の寸法の高さを変更する
	勾配追加	横断図に勾配を追加する
	引出追加	横断図に引出を追加する
	削除	横断図の指定した寸法を削除する
	全削除	横断図のすべての寸法を削除する
数量表	配置	数量表を横断図に配置する
	移動	数量表を移動する
	編集	数量表を編集する
	削除	数量表を削除する
閉じる	OK	編集内容を適用して終了する
	キャンセル	編集内容を破棄して終了する

（横断図設定ウィンドウ）	用紙／縮尺	横断図の用紙／縮尺を設定する
	装飾(線種、文字種等)	横断図の装飾(線種、文字種等)を設定する
	出力要素	横断図の出力要素を設定する
	配置	横断図の配置条件を設定する

TS 出来形設定－構成点接続タブ

測点	管理断面設定	管理画面を設定する
	開始測点	開始測点を指定する
	終了測点	終了測点を指定する
	一覧を表示	測点一覧表示のオン・オフを切り替える
工種設定	工種設定：編集	指定した測点の工種を編集する
構成点接続	接続	構成点を単独または連続して接続する
	解除	構成点接続を解除する
	全解除	構成点接続を全解除する
	確認	構成点接続を確認する
	詳細編集	構成点接続を詳細に編集する
	初期化	構成点接続を初期化する
ツール	構成点追加（距離指定）	構成点を追加する
表示	工種名、構成点コード、管理断面のみ	工種名、構成点コード、管理断面のみの表示オン・オフを切り替える
	現地盤線	現地盤線の表示設定を行う
	ベース図	ベース図の表示オン・オフを切り替える
	表示設定	横断表示の色の設定を行う
	ウィンドウ	参照図面ウィンドウ、3D ビューウィンドウのオン・オフを切り替える
閉じる	OK	編集結果を保存して「TS 出来形設定」ウィンドウを閉じる
	キャンセル	編集結果を破棄して「TS 出来形設定」ウィンドウを閉じる

TS 出来形設定－出来形管理タブ

測点	管理断面設定	管理断面を設定する
	測点	編集する測点を選択する
	一覧を表示	測点一覧ウィンドウの表示を切り替える
管理	初期化	管理個所・属性設定を初期化する
	一括複写	管理個所・属性設定を一括複写する
	交点変更	計画線と現況線の交点を変更する
種別	設定	断面に種別を設定する
管理箇所	基準高	基準高を管理する箇所を指定する
	幅	幅を管理する箇所を指定する
	法長	法長を管理する箇所を指定する
	深さ	深さを管理する箇所を指定する
	厚さ	厚さを管理する箇所を指定する
	延長	延長を管理する箇所を指定する
	解除	指定した管理箇所を解除する
	全解除	全ての管理箇所を解除する
	寸法長 一定	寸法の補助線の長さの表示方法を選択する
	記号設定	出来形管理項目の記号を設定する
	チェック	出来形管理項目のまとまりをチェックする

表示	工種名、構成点コード、管理断面のみ	工種名、構成点コード、管理断面のみの表示オン・オフを切り替える
	現地盤線	現地盤線の表示設定を行う
	ベース図	ベース図の表示オン・オフを切り替える
	表示設定	横断表示の色の設定を行う
	ウィンドウ	参照図面ウィンドウ、3D ビューウィンドウのオン・オフを切り替える
閉じる	OK	編集結果を保存して「TS 出来形設定」ウィンドウを閉じる
	キャンセル	編集結果を破棄して「TS 出来形設定」ウィンドウを閉じる

土量計算－土量集計タブ

横断測点	土量	土量データを選択する
	土量データ編集	土量データを編集する
	土量データ作成	土量データを作成する
	土量データ複写	土量データを複写する
	土量データ削除	土量データを削除する
	測点	測点を切り替える
構築形状	計画	計画層を選択する
	現況	現況層を選択する
土工区分線	追加	土工区分線を追加する
	削除	土工区分線を削除する
	表示設定	土工区分線の表示を設定する
土量	追加	土量を追加する
	編集	土量を編集する
	変更	土量を変更する
	削除	土量を削除する
	確認	土量を確認する
法長	追加	法長を追加する
	編集	法長を編集する
	変更	法長を変更する
	削除	法長を削除する
	確認	法長を確認する
土工数量一覧	土工数量一覧	土工数量一覧を設定する
作図	形状作図	形状作図を行う
	表配置	表を配置する
ツール	ベース図	ベース図を設定する
	表示設定	表示設定を行う
	ウィンドウの切り替え	表示するウィンドウを切り替える
閉じる	OK	編集結果を保存して「TS 出来形設定」ウィンドウを閉じる
	キャンセル	編集結果を破棄して「TS 出来形設定」ウィンドウを閉じる

転圧管理－作成

表示	ベース図	ベース図の表示オン・オフを切り替える
閉じる	OK	編集結果を保存して「転圧管理」ウィンドウを閉じる
	キャンセル	編集結果を破棄して「転圧管理」ウィンドウを閉じる

転圧管理ー編集

横断測点	測点	測点を選択する
構築形状	計画	計画層を選択する
	現況	現況層を選択する
コマンド	端部伸縮	端部を伸縮する
	構成点データクリア	構成点データを削除する
	断面構成点確認	平面線形・横断線・横断変化点を重ねてチェックする
出力	LandXML	LandXML 形式でファイルを出力する
	快測ﾅﾋﾞ出力	快測ﾅﾋﾞ形式でファイルを出力する
	座標	座標データを出力する
ツール	ベース図	ベース図の表示オン・オフを切り替える
	表示設定	表示色の設定を行う
	ウィンドウ	ウィンドウ表示のオン・オフを切り替える
閉じる	OK	編集結果を保存して「転圧管理」ウィンドウを閉じる
	キャンセル	編集結果を破棄して「転圧管理」ウィンドウを閉じる

メニューバー

テーマ	ブルー	いずれかのカラースタイルに変更する
	ブラック	
	シルバー	
	アクア	

参照図面ウィンドウ

図面：開く	参照図面を開く
図面：A 納図	A 納図を開く
図面：閉じる	図面を閉じる
図面：閲覧ウィンドウ	図面を閲覧ウィンドウで開く
図面：保存	図面を保存する
図面：保存設定	図面保存の各種設定を行う
図面：PDF 保存	図面を PDF 保存する
図面：PDF 一括保存	一括して図面を PDF 保存する
図面：GoogleEarth 出力	図面を GoogleEarth ファイルに保存する
表示：平面図	平面図を表示する
表示：縦断図	縦断図を表示する
表示：横断図	横断図を表示する
表示：未分類	未分類の図面を表示する
表示：路線リンク図面	路線関連付けられた参照図面を表示する
ベース図連動	ベース図の元になった参照図面を表示する
レイヤ分割表示	レイヤを分割表示する
シート	シートを切り替える
カレントシートサーチ	カレントシートのみを要素選択の対象にする
自動回転	カレントシートの回転角度を基準に図面全体を回転
シート設定	シート設定を行う
縮尺自動設定	縮尺自動設定処理を行う
背景色設定	背景色を設定する

選択モード	ポイント	選択モードを切り替える
	ボックス	
	多角形	
	ライン	
スナップモード	スナップ有効	スナップモードを切り替える
	端点	
	交点	
	点	
	中点	
	中心線	
	線上点	
	任意点	
	2 点中点	
	4 点中点	
	2 線交点	
図面:図面編集		SiTECH Draw-Edit を起動する
ガイド	線:横線	ガイドを表示する
	線:縦線	
	線:オフセット	
	線:2点	
	線:垂線	
	線:勾配	
	線:延長	
	線:解除	
	線:全解除	
	点:フリー	
	点:端点	
	点:オフセット	
	点:距離	
	点:2点・距離	
	点:分割	
	点:等分割	
	点:延長	
	点:解除	
	点:全解除	
計測	計測:2 点間距離	計測する
	計測:座標	
	計測:2 点間距離(延長)	
	計測:標高(DL)	
	計測:道のり	
	計測:3 点内角	
	計測:面積	
文字検索	文字検索	文字列を検索する
レイヤ表示設定		レイヤの表示・非表示を切り替える
要素表示切替		要素表示を切り替える
照査完了記号	照査完了記号:配置	照査完了記号を配置する
	照査完了記号:解除	
	照査完了記号:全解除	
	照査完了記号:設定	

照査完了記号	照査完了記号:表示	照査完了記号の表示・非表示を切り替える
要素削除		指定した要素を削除する
折線分断		指定した点で折線を分断する
図面クリーナー		不要な要素を削除する
簡易引出線		簡易引出線を作成する

プレビューウィンドウ

平面プレビュー	ズーム:全体表示	全体表示に切り替える
	ズーム:範囲	指定範囲内を拡大表示する
	ズーム:再表示	再表示する
	表示:属性表示設定	表示する属性を設定する
	表示:設定	表示色と方位マークを設定する
	計測:2 点間距離	2 点間の水平距離・比高・勾配等を計測する
	回転	回転表示する
縦断プレビュー	ズーム:全体	全体表示に切り替える
	ズーム:範囲	指定範囲内を拡大表示する
	ズーム:再描画	再表示する
	表示:属性表示設定	表示する属性を設定する
	表示:設定	表示色と表示比率を設定する
	計測:2 点間距離	2 点間の距離・勾配等を計測する
横断プレビュー	ズーム:全体	全体表示に切り替える
	ズーム:範囲	指定範囲内を拡大表示する
	ズーム:再描画	再表示する
	表示:属性表示設定	表示する属性を設定する
	表示:設定	表示色と3D 表示を設定する
	計測:2 点間距離	2 点間の距離・勾配等を計測する
	計測:2 点間距離(延長)	2 点を延長した点間の距離・高さ・勾配等を計測する
	計測:標高(H)	標高を計測する
	計測:面積	面積を計測する
	横断座標登録	座標管理へ XY 座標を登録する
	表示:複数層表示(計画)	計画の複数層表示を設定する
	表示:複数層表示(現況)	現況の複数層表示を設定する
	表示:ベース図表示	ベース図の表示を切り替える
	測点の切り替え	測点を切り替える
	測点作成	新規測点を作成する
	計画層の編集	計画層の各種編集を行う
	離れ・比高編集	横断測点の離れと比高を編集する
	計画追尾	参照図面の横断図から計画断面を半自動抽出する
	形状編集	参照図面の横断図に断面形状を重ねて形状編集する
	形状複写	横断形状の複写コマンドを選択する
	横断構成点確認	参照図面(平面図)に入力データの平面線形・横断線・横断構成点を重ね合わせて表示する
3Dビュー	ズーム:全体	全体表示に切り替える
	ズーム:範囲	指定範囲内を拡大表示する
	更新抑制	再描画のタイミングを最低限にする

3Dビュー	再構築	再表示する
	表示:属性表示設定	表示する属性を設定する
	表示:設定	表示色と各種設定する
	表示:区間表示	指定区間の表示を設定する
	表示:複数表示	複数路線表示のオン・オフを切り替える
	表示:表示選択	表示する横断セットを選択する
	表示:面表示	面表示のオン・オフを切り替える
	表示:測点名	測点表示のオン・オフを切り替える
	表示:断面補間	断面補間のオン・オフを切り替える
	表示:断面補間設定	断面補間の各種設定を行う
	描画:ワイヤーフレーム	ワイヤーフレームで描画する
	描画:陰線処理	陰線処理で描画する
	描画:シェード	フラットシェードで描画する
	描画:シェード+ワイヤーフレーム	シェード＋ワイヤーフレームで描画する
	3D／ビュー:平面図	平面図を表示する
	3D／ビュー:下面図	下面図を表示する
	3D／ビュー:左側面図	左側面図を表示する
	3D／ビュー:右側面図	右側面図を表示する
	3D／ビュー:正面図	正面図を表示する
	3D／ビュー:背面図	背面図を表示する
	計測:座標	座標を計測する
	計測:2 点間距離	2 点間の距離・勾配等を計測する
	DWG 出力	3D モデルを DWG に出力する
	三角網出力(一括／分割)	3D モデルの三角網情報をファイルに出力する
	座標CSV出力(一括／分割)	3D モデルの座標情報を CSV に出力する
	画像出力	3D モデルのイメージを画像に出力する
	3DPDF 出力	3D モデルのイメージを PDF に出力する
	快測ナビサーフェス出力	3D モデルを快測ナビサーフェスファイルに出力する
	GoogleEarth 出力	3D モデルを GoogleEarth に出力する
	Surface 編集	Surface を編集する

ヘルプタブ

ヘルプ	ヘルプ画面を表示する
よくあるご質問	「よくあるご質問」ページを表示する
リモートサポート	リモートサポートを起動する
バージョン情報	バージョン情報を表示する
マイページ	「マイページ」ページを表示する
認証管理	認証管理を行う
自動アップデート	自動アップデートを設定する

Microsoft、Windows は米国 Microsoft corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
Windows10、11 は米国 Microsoft Corporation の商標です。

その他、商品名は一般に各社の商標および登録商標です。

AUG-JP フォントは一般社団法人 AUGI Japan の著作物です。
AUG-JP フォントに対するお問い合わせ先 Office@augi-japan.or.jp